

Fig.118 SD388-2~4区・土層ベルト出土土器 (1/4)

**SD471** (Fig.94、PL.58) 高所部O-24区で検出した小溝。長さ7m、最大幅1.5m、深さ0.2mを測る。埋土は黒色粘土で地山ブロックを含む。

**出土遺物** (Fig.120・131・133) 弥生時代前期前半の土器や黒曜石剥片・石庖丁片などが出土。

349は突帯文の深鉢で、外面貝殻条痕、内面は工具ナデかケズリ調整。夜臼II b期のもの。350は上げ底の底部で中期前半の城ノ越期もの。ナデ調整で外面指押え痕が残る。

451は管状土錘片。残存長2.6cm、径1.9cm、孔径0.6cmを測る。ナデ調整で、孔は植物の茎などで開けたものか、孔がやや曲がる。

S16は石庖丁未製品片。粗割加工段階の厚み7mmの薄板で、直径約1cmの未開通の孔が残る。泥岩か砂岩系の変成岩か。

**SD481** O-23区で検出した東西方向の小溝。長さ10m、幅1m、深さは最大20cmを測る。埋土は黒色粘土である。

出土遺物(Fig.120・134、PL.106) 弥生土器や古墳時代土師器、黒曜石剥片などが出土している。351は古墳時代前期の上師器鉢。外面ハケ目後ナデ、内面はナデ調整。

S30は凹基の石鏃。鏃身長2.9cm、幅1.9cm、厚み0.2cmを測る。両側に細かい二次調整が入る。石材はサヌカイト。

**SD482**(PL.58) SD481の北側で東西方向に平行する溝。長さ9m、幅0.8～1.8m、深さ0.35mを測る。埋土は黒色粘土である。SD471・481と平行しており第3面と同じように重機のキャタピラ痕の可能性がる。前期の土坑SK517と重複する。

出土遺物(Fig.121、PL.92) 弥生時代前期から中期の上器や黒曜石の剥片が出土している。前期の遺物はSK517からの可能性がある。

352～354は前期板付I式期の壺。352は小型壺。口縁部は肥厚する。内外面ヘラミガキ調整。353・354は中型の壺で、別々の破片であるが、同形態と思われる。頸部と胴部に段を持つ。外面ヘラミガキ、内面はナデ又は板ナデ調整。355は壺か甕の円盤貼り付けの底部。外面には木の葉圧痕が残る。356・357は甕。356は板付I式期の小型甕。口端部にはヘラによる刻目が付く。内外面の調整はナデ。357は板付II式期の甕。口端部は平坦で、下端に刻目が付く。358～361は突帯文土器の夜白IIb期の甕。358は口縁部に刻目突帯が付く。外面貝殻条痕、内面はナデ調整。359は口縁部と胴部に1条ずつ刻目突帯を巡らす。胴部外面はハケ目、内面はナデ調整。いずれも刻目はハケ目工具による。360は内傾する口縁部で刻目突帯が付く。外面貝殻条痕、内面はナデ調整。361は内側に屈曲する胴部で復元胴径は19.5cmを測る。屈曲部には刻目突帯が1条巡る。外面は貝殻条痕、内面はナデ調整。刻目はハケ目工具によるものが358・359、ヘラによるものが360・361である。362は口縁部が肥厚する小型の浅鉢。外面はヘラミガキと板ナデ、内面はナデとミガキ調整。363は高坏。口縁部が底部から段をつけて外反して開く。内外面ヘラミガキ。364は裾端部が外反する脚部。外面ハケ目、内面ナデ調整。

**SD493**(PL.58) 調査区P-24区で検出した小溝。全長6m、最大幅1m、最大深さ0.2mを測る。埋土は黒色シルトで、下層に灰オリーブ粘土を混入する。

出土遺物(Fig.121) 弥生時代前期から古墳時代前期迄の土器が出土するが、前期のものが多い。

365は土師器の高坏脚部。やや摩滅するが内外面はヘラミガキ調整。366は突帯文土器の夜白IIb式の深鉢。口縁の突帯はハケ目工具による刻み。内外面ハケ目調整。367は甕の底部。外面ハケ目、内面はナデ調整。368は甕の胴部片。屈曲部にヘラによる刻目が付く。外面ハケ目でススが付着し、内面ハケ後ナデ調整。

**SD497** P・Q-24区で検出した小溝。SD444の延長上にあるので、同一の遺構の可能性がる。SK496に切られる。規模は幅12m、幅0.4～1.2mを測り、深さは浅く最大で5cmである。埋土は黒褐色粘土である。

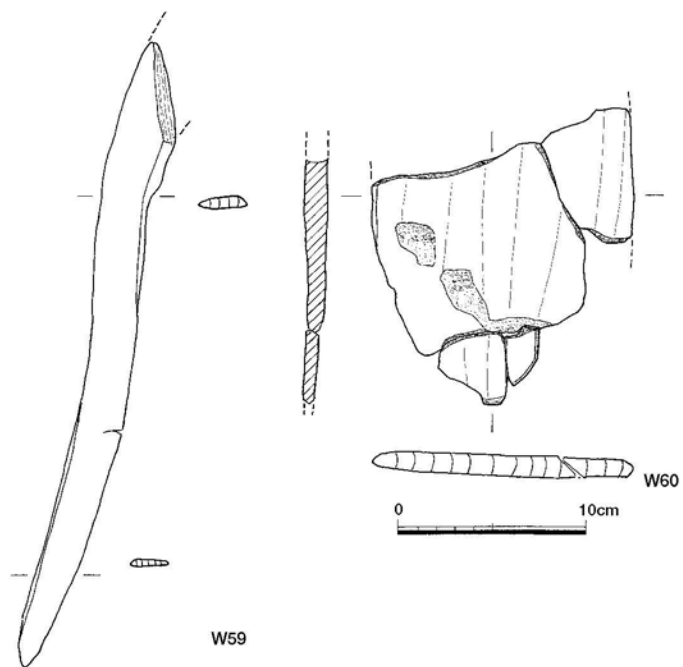


Fig.119 SD388出土木製品 (1/4)

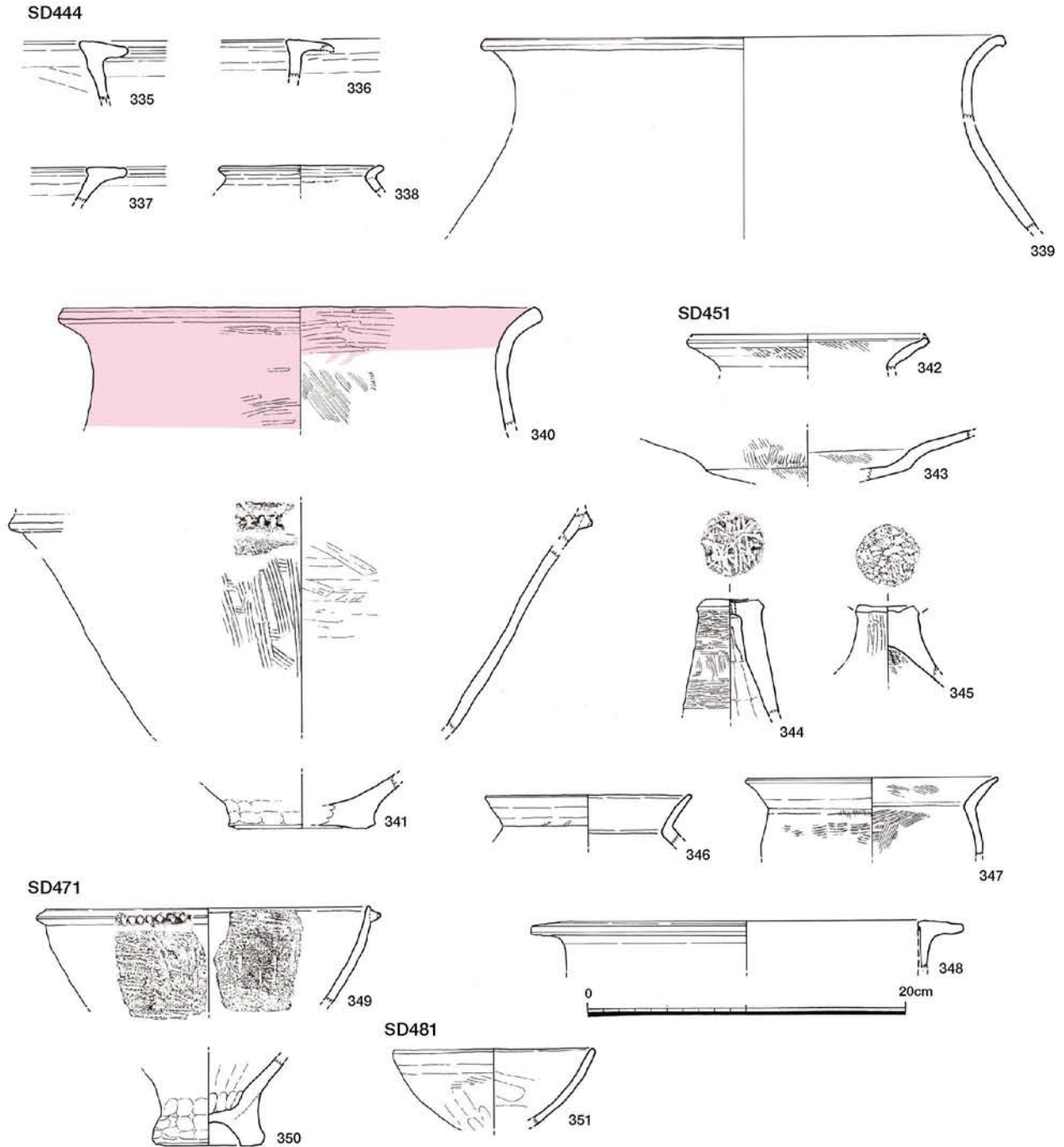


Fig.120 SD444・451・471・481出土土器 (1/4)

出土遺物(Fig.121、PL.92) 弥生時代前期から中期にかけての土器が出土。出土量は少ない。

369・370は甕の底部。369は底部が厚手で平底。369はやや上げ底。調整は外面ハケ目、内面はナデ。370の外面にはヘラ刻みで文様が入る。

**SD506** Q-23～R-23区で検出した略北方向に延びる小溝。高所部周辺を巡る溝で、西側はSD369に切られ、また柱穴と切り合う。確認長は12.5m以上、幅は0.3～0.5m、深さは最大で5cm位である。埋土は黒褐色粘土である。SD507と合流するが、切り合い関係はわからなかった。SD506がSD510につながる可能性が強いことや、遺物がSD507より新しい時期のものを含むことから、SD507より新しいと考える。

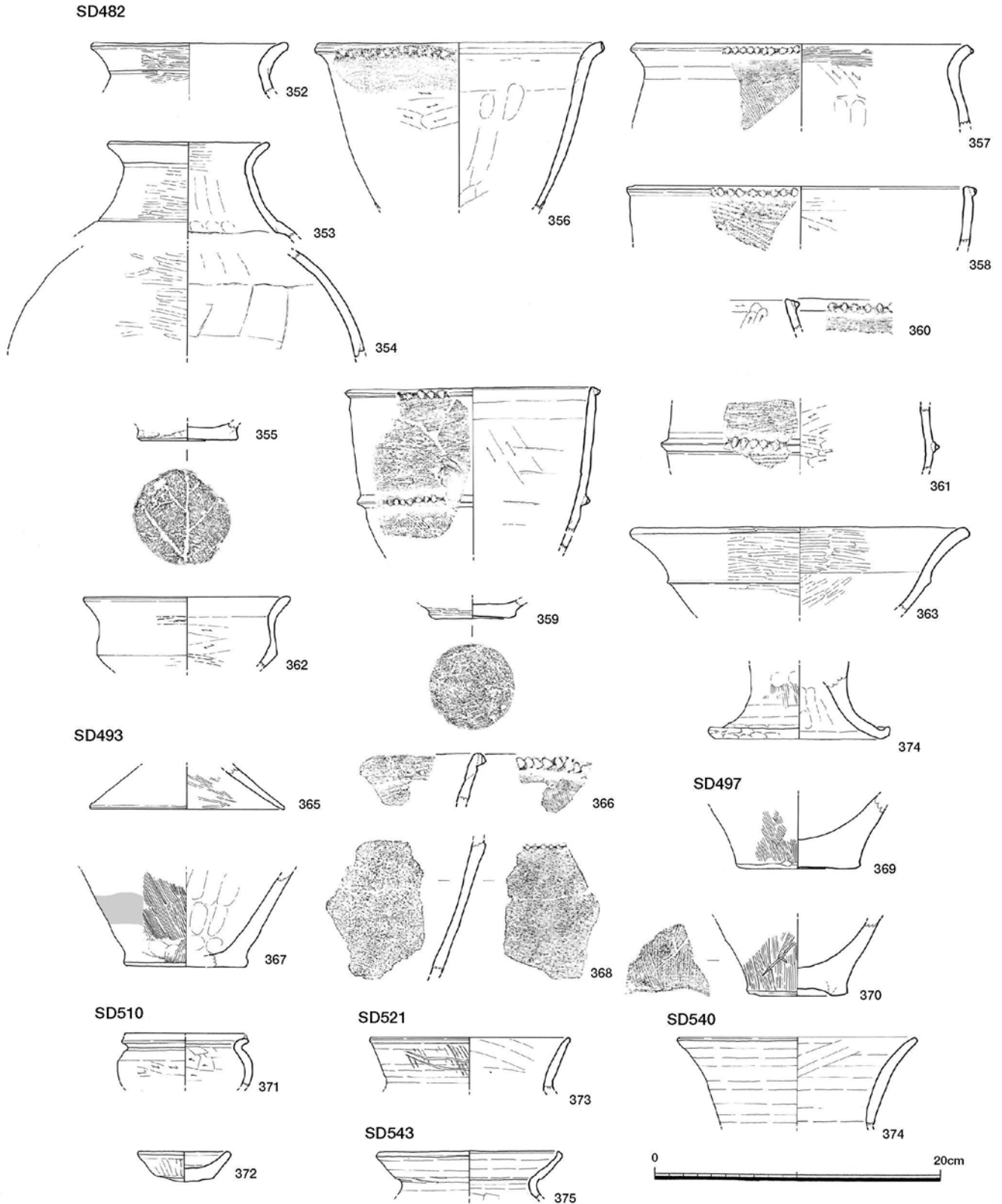


Fig.121 SD482・493・497・510・521・540・543出土土器 (1/4)

出土遺物(Fig.122・133・134, PL.92・107) 弥生時代前期から後期、古墳時代前期の土器や、石庖丁、黒曜石剥片や図示していないが袋状鉄斧と思われる鉄片が出土している。

376~379は、刻目突帯文土器の夜白IIb式の甕。いずれも口縁部に棒状工具による刻目突帯が付

く。口縁部は375が直立、377・379がやや内傾する。378は胴部片で、屈曲部には刻目突帯が付く。外面調整は376・378はハケ目で、377・379は貝殻条痕。内面調整はナデ。380・381は板付Ⅰ式の甕口縁部。如意形の口縁端部には刻目が付く。内外面ハケ目後ナデ調整。外面下半は摩滅する。382～385は前期の高坏。382は口縁部で、口縁部外面は細かなハケ目、体外面と口縁内面はヘラミガキ、体内面はナデ調整。383・384は大型の脚部で、外面ヘラミガキ、内面はハケ目後ナデとナデ調整。いずれも外面に黒斑がある。385は坏と脚の接合部。三角突帯が巡る。ヘラミガキとナデ調整。386は古墳時代前期の二重口縁壺。口縁部内外面はヘラミガキ調整。387は弥生時代後期中頃の複合口縁壺口縁部。口縁部はヨコナデ、頸部外面は粗いハケ目、内面はハケ目後ナデ調整。388は土師器の小型の鉢。内外面摩滅が進むがヘラミガキ調整。

S24は扁平な隅丸長方形形状の磨石である。縦長12.7cm、横長8.2cm、最大厚4.5cmを測る。全面使用などで摩滅し、上面は使用擦痕、底面と下小口部には敲打痕が残る。S25は石鎌片。残存長8.2cm、幅4.4cm、厚み0.4cmを測る。表面の剥落はひどい。石材は砂岩。S32は半円形を呈す小型の不明石器。縦長1.2cm、横長2.0cm、厚み0.3cmを測る。全面丁寧な調整を加える。黒曜石で、何かの組み合わせ石器か。突帯文期以前のもの。

**SD507** (Fig.123, PL.56) 調査区中央部SD505の南西側で、SD506に北側で接する北西から南東方向に主軸を取る、長方形プランの溝状遺構である。規模は長さ6.84m(SD506との合流部迄では約9m)、幅は1.17m、深さ最大0.21mを測る。遺構は3ヶ所柱穴で切られる。埋土は西側壁際に粘性を持つ褐色土が流れ込んだ後、下層の黒褐色土、上層のややしまりが弱い黒色土の順に堆積している。

**出土遺物** (Fig.124・125・131・133, PL.92・93・95) 底面付近からまとめて刻目突帯文甕を中心に多くの遺物が出土した。主な遺物の出土位置は遺構図上に示した。

389～403は刻目突帯文土器の甕。389～395・398・402は屈曲型二条突帯文甕、397・399・400は小型の1条突帯文甕、396は1条突帯文甕、403は突帯文甕底部である。二条突帯文甕は器形が屈曲部からやや内湾気味に垂直方向に立ち上がるもの(389～391)、ほとんど屈曲せず口縁部に至るもの(391・392・394)、屈曲部から口縁部までほぼ垂直に立ち上がるもの(393・394・402)など若干違いがある。しかし、口縁端部に接するように突帯を貼り付け、突帯やや深めから中程の深さに棒状工具を押し付けて刻目をつける点で共通性が高い。また、基本的に外面横方向の貝殻条痕調整を施し、軽く上からナデを加え、内面は横方向の貝殻条痕調整後、丁寧にナデを加える。屈曲部内面には粘土紐接合の痕跡が残り、屈曲部まで一旦成形・調整をした後、それより上部が成形されたことが分かる。突帯の貼り付け位置と調整の特徴は他の突帯文甕にも共通する。このように共通の特徴を持つものが多いが、中には393・397・399のように調整・胎土等で他と異なるものも少量存在する。393は他の突帯文土器が貝殻条痕によって調整されるのと同じ手法で横方向にハケ目調整を連続的につける。397は外面縦方向のハケ目調整、内面横方向のハケ目調整調整を施し、突帯の刻目突帯貝殻腹縁を押し当ててつける。色調も他より黄色み少し強く、弥生土器的な色調を呈す。399は胎土が緻密で、白っぽく堅緻に焼き上げられ他と比べ異質な土器である。底部から口縁部まで直線的に開き、口縁端部外面に非常に薄く突帯を貼り付け、内側を強くヨコナデして外反口縁のような形状を作る。内外面貝殻条痕調整後、胴下部以外丁寧なヨコナデにより条痕がきれいに消される。外面口縁部下は上から下に板状工具によるナデが加えられ、工具の当たり痕が残る。唐津市の菜畑遺跡でこれに近い土器が一定量出土しており、その方面からの搬入品の可能性がある。404は完形の如意形口縁の甕。面取りしない薄い口縁部に端部全面に刻目を付け、胴があまり張らず板付Ⅰ式甕の範疇でとらえられよう。外面は右下から左上へのハケ目調整を連続的につけ、内面は斜め方向

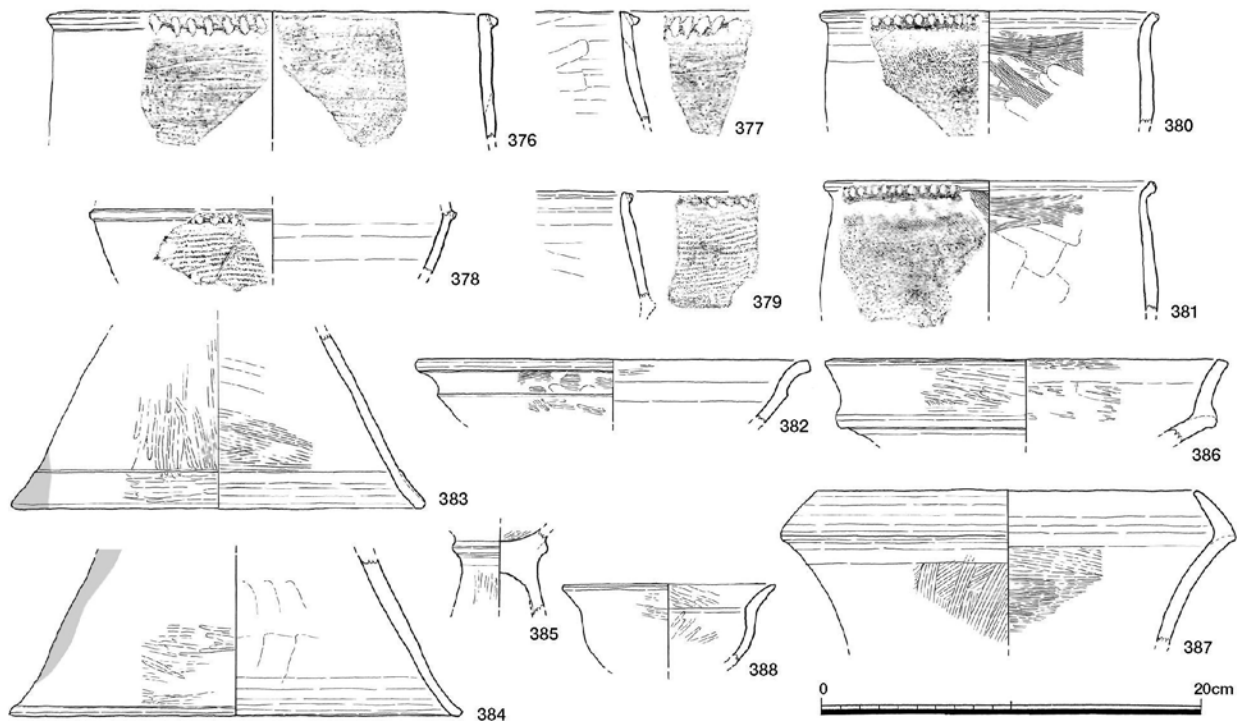


Fig.122 SD506 出土土器 (1/4)

のハケ目調整後ナデを加える。口縁部内面はヨコナデによって調整される。器面が薄く、色調も黄橙色で、胎土に石粒を多く含み、同じ遺構から出土した突帯文土器とはかなり異なる。405は如意形口縁甕の口縁部の破片であり、摩滅が激しい。口縁端部全面にヘラにより丁寧に深く刻目を施す。406は大型の精製深鉢で、胴上部で屈曲させ、外反しながら口縁部に至る。口縁部外側に粘土を薄く貼り付け肥厚させ、下に段を付ける。口縁部外面はヨコハケ、それ以下はナデ後粗くヘラミガキ、内面は丁寧な横方向のヘラミガキを施す。407は完形の丹塗り大型壺。口縁部は外反させて、端部を丸く取めて肥厚させない。頸・胴部間には薄く段が付けられ、胴部は大きく外面に張り出す。外面はハケ目調整後ヘラミガキを施され、底部付近は縦方向のハケ目調整が残る。外面全面及び内面口縁部3cm程に丹塗りが施される。408は大型壺の底部で、円盤貼付形に成形する。409は精製小型壺の口縁部で、口縁・頸部間に横方向の沈線を施す。内外面横方向のヘラミガキを施す。410は精製小型壺の底部から胴下部で、底部は円盤貼付形に成形する。411は高坏。坏部上部で屈曲し、口縁部にかけて外反する。坏部と脚部の間に三角突帯を貼り付ける。外面ハケ目後ナデ消し、上から横方向のヘラミガキを施す。坏部内面はナデ後ヘラミガキ。脚部内面は指でナデ上げる。412は高坏の脚部で外面は縦方向のナデ、内面は横方向のナデ。脚部先端部は内外強いヨコナデが加えられる。脚部と坏部間は指押え痕が残り、411のような突帯は付けられない。413は丹塗りの大型壺の胴部で、頸・胴部間に薄く段があり、胴部は丸みを持って外側に張る。外面は横方向のハケ目後ナデ消し、粗く横方向のミガキを加える。内面は頸部が横方向のハケ目、胴部が横から斜め方向のハケ目で、部分的にナデ消される。内外面共に頸・胴部間で調整の方向が変わっており、胴部まで成形・調整後に頸部の成形を行ったことが分かる。(所)

452は土製紡錘車で。直径5.5cm、厚さ1.5cm、孔径は0.45cmを測る。丁寧なミガキ仕上げである。

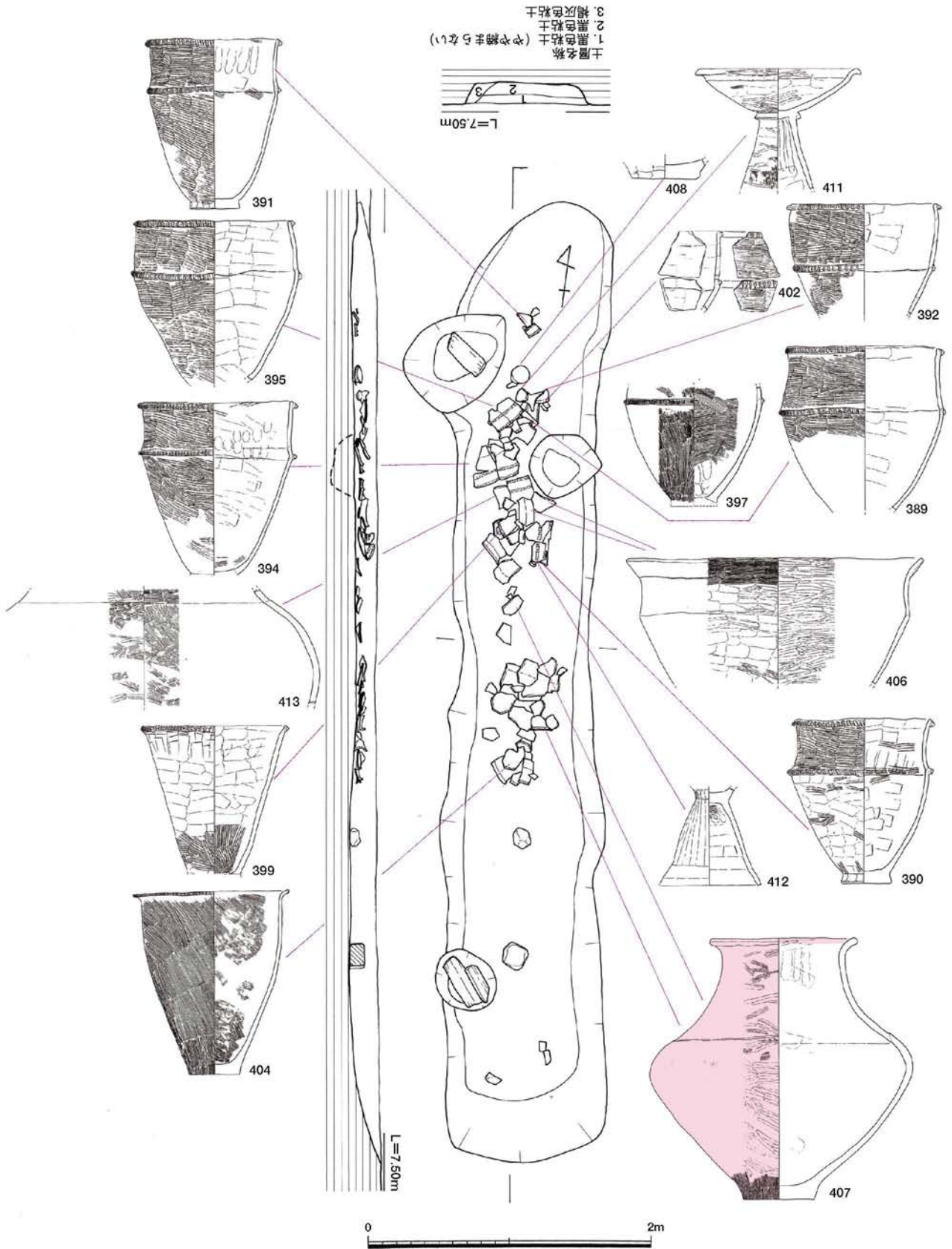


Fig.123 SD507 (1/40)

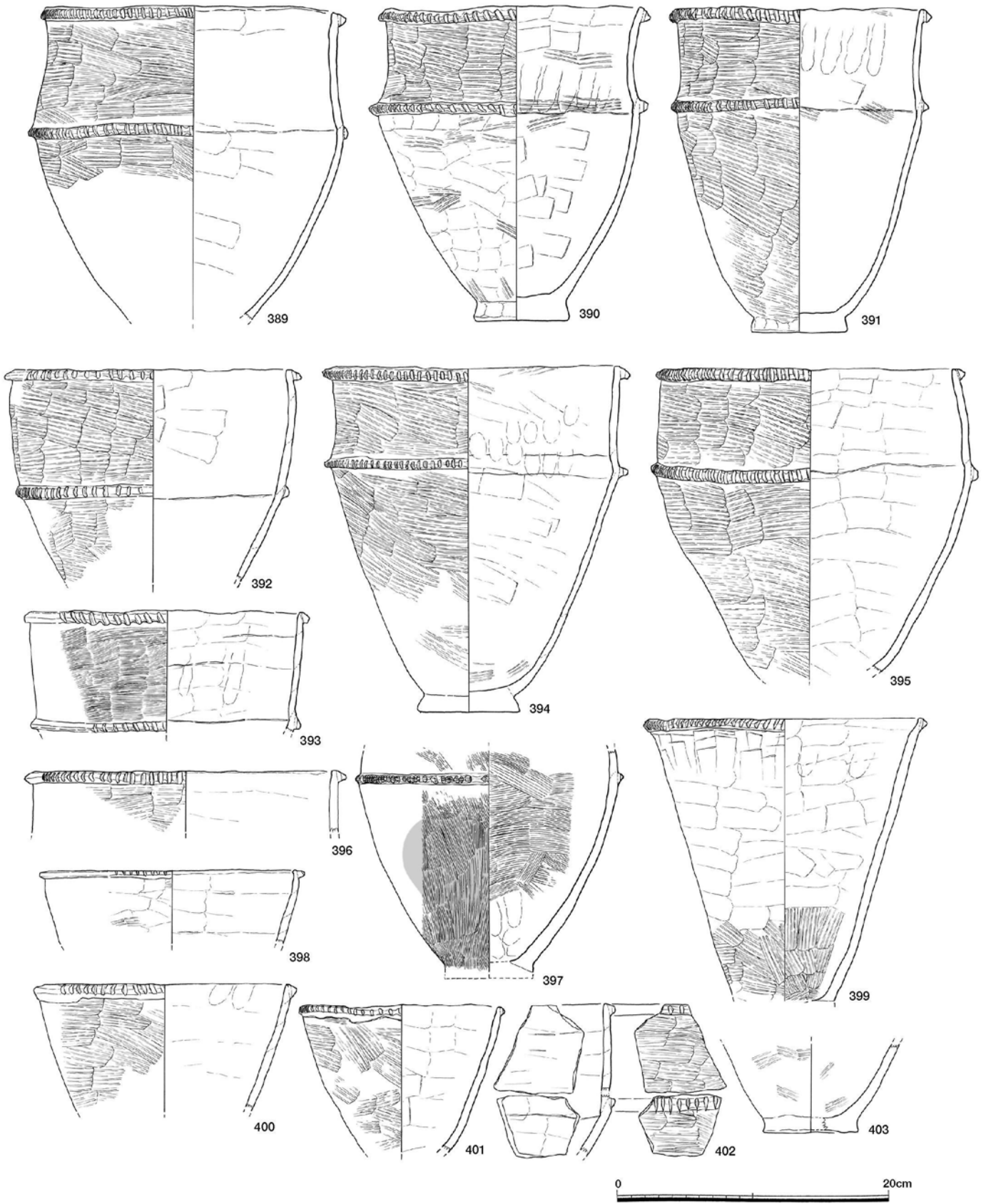


Fig.124 SD507出土土器 ① (1/4)



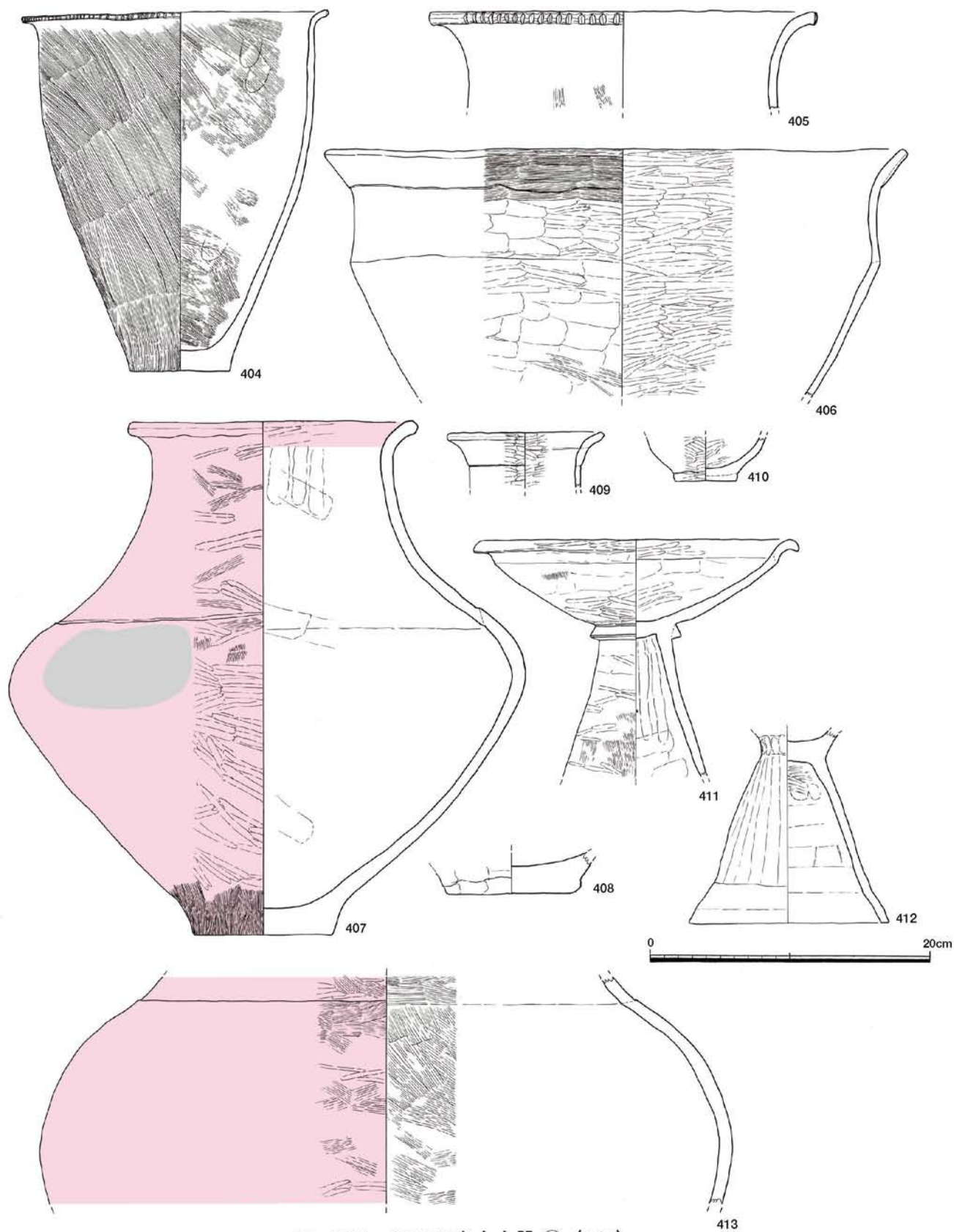


Fig.125 SD507出土土器 ② (1/4)

S33は上部が丸く、下部が尖る剥片。断面三角を呈す。全長3.9cm、幅2.9cm、厚さ1.1cmを測る。剥離面はかなり風化が進んでおり、時期的には古いか。

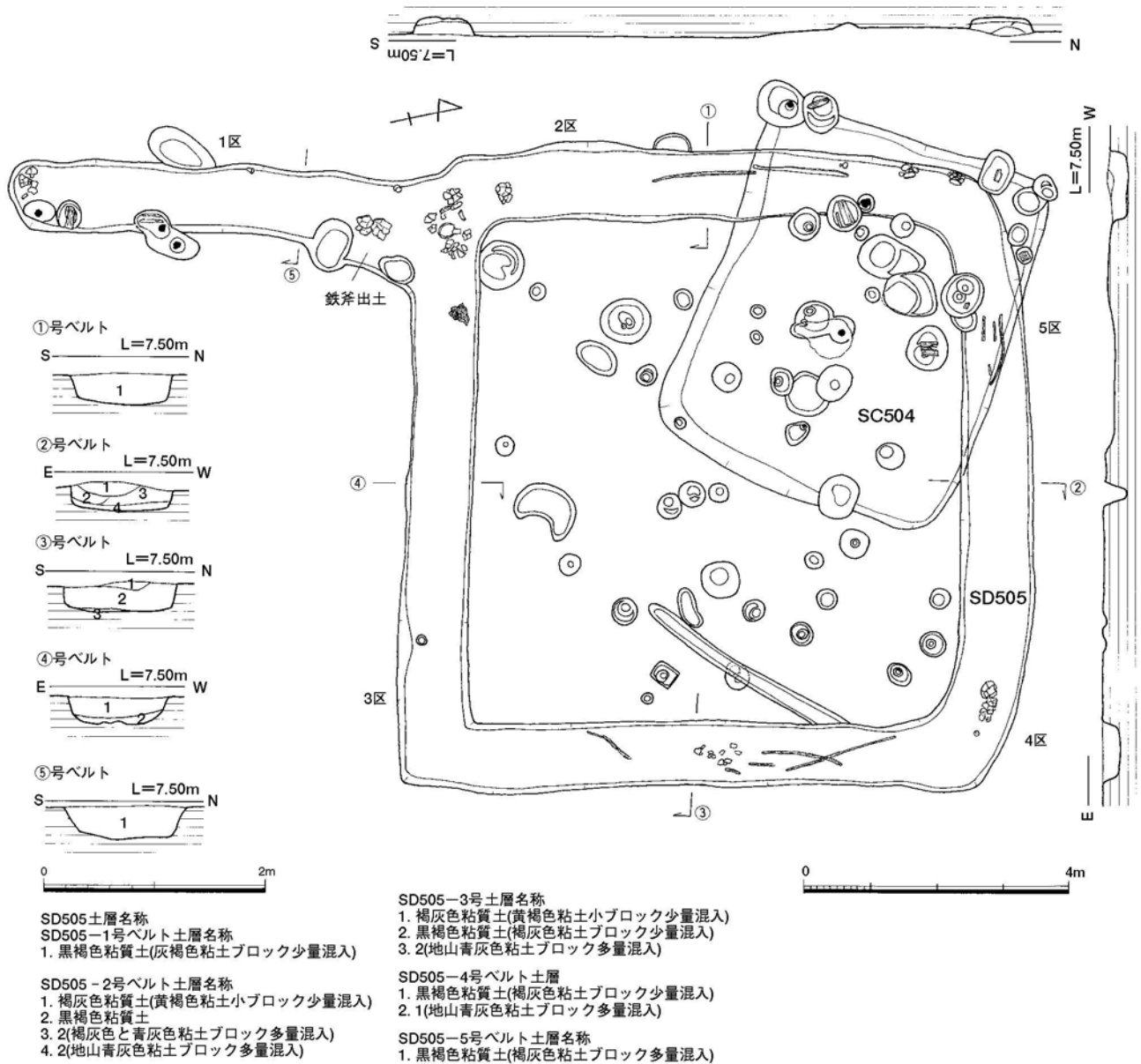


Fig.126 SD505 (1/100・1/60)

**SD510**(PL.58) S-21区~R-19区上で検出した蛇行する南北方向の小溝。北はSD369に切られる。規模は幅0.4m前後、深さは浅く7cm前後である。埋土は黒色粘土である。

**出土遺物**(Fig.121) 弥生時代中期から古墳時代前期の土器が出土した。

371は古墳時代前期の土師器壺。瀬戸内系と思われ、口端部は屈折して上方に立ち上がる形態。外面から口縁部内面はヨコナデ、内面はヘラケズリ調整。372は弥生時代後期と思われるの小型鉢。口縁部外面はヘラミガキ、内面はナデ調整。

**SD521** SD369南西端から南西方向に延びる小溝。確認規模は9m、幅は0.3~0.8m、深さは浅く2~7cmを測る。埋土は黒灰色粘土で下部に砂を含む。

**出土遺物**(Fig.121) 弥生時代中期から後期の土器が出土している。

373は後期の甕口縁部。外面ハケ目後ヨコナデ、内面ヨコナデ調整。

**SD540出土遺物**(Fig.121) 弥生時代後期から古墳時代初めの土器が出土。

374は弥生時代後期の壺。調整はヨコナデ。

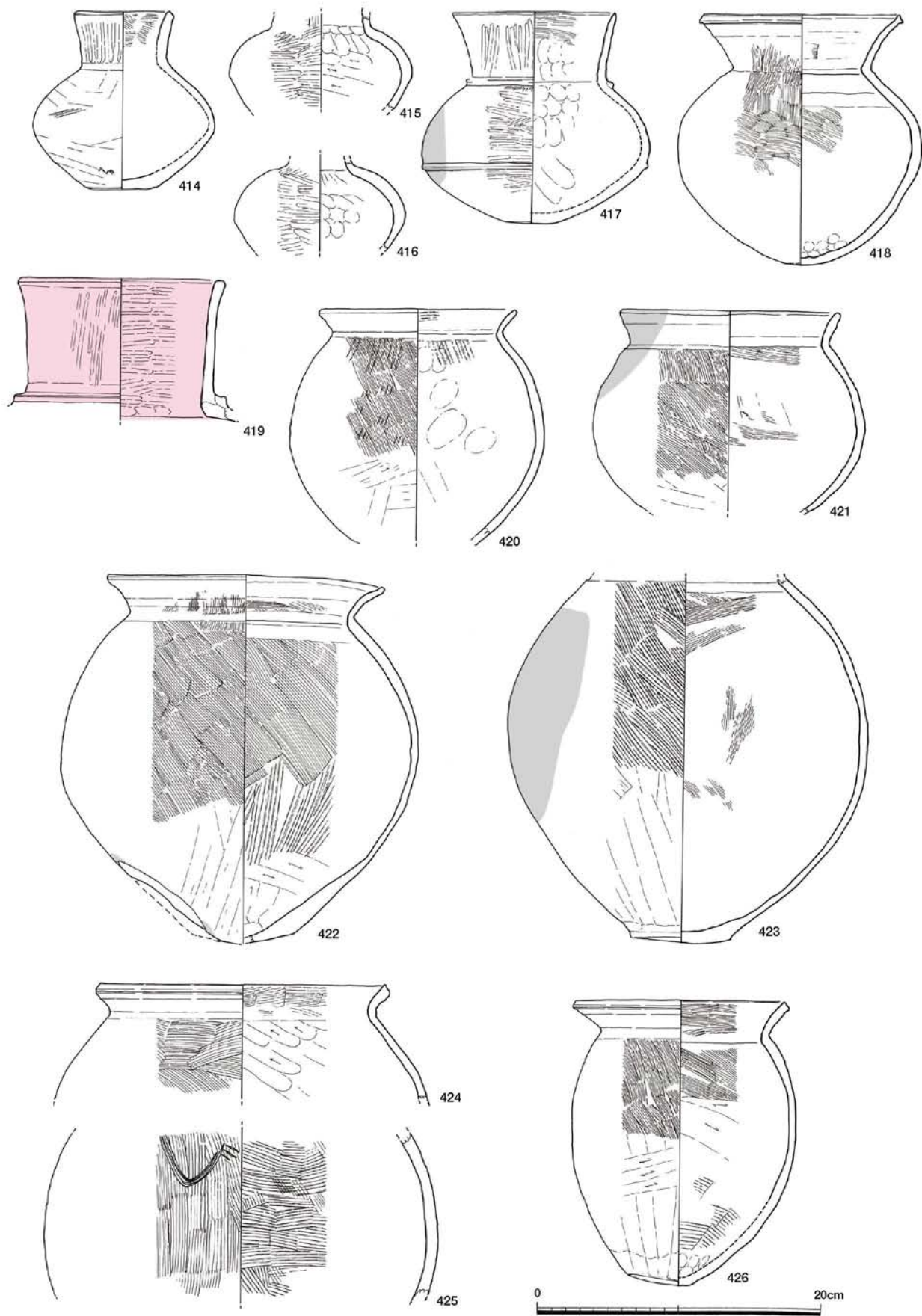


Fig.127 SD505出土土器 ① (1/4)

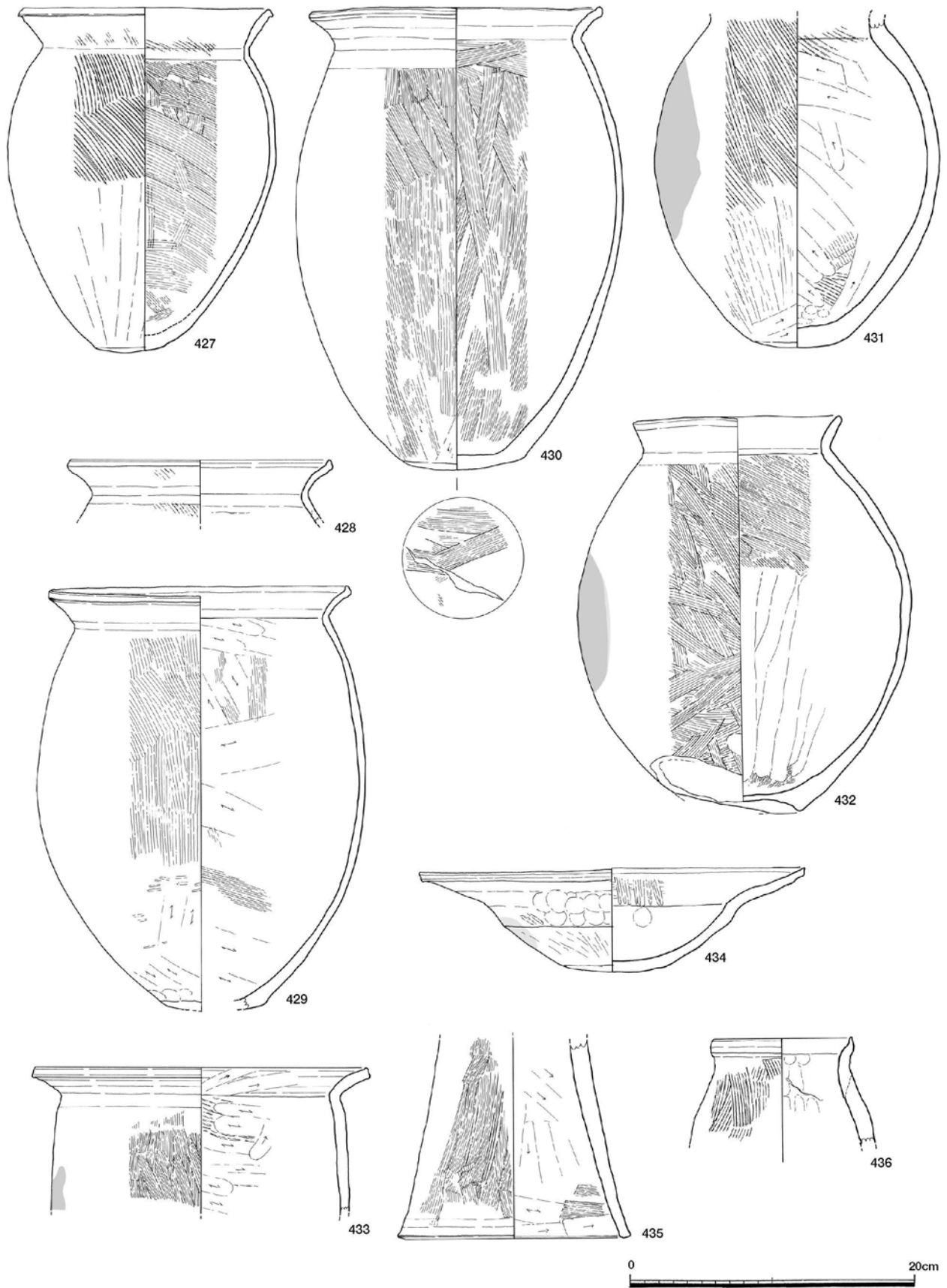


Fig.128 SD505出土土器 ② (1/4)

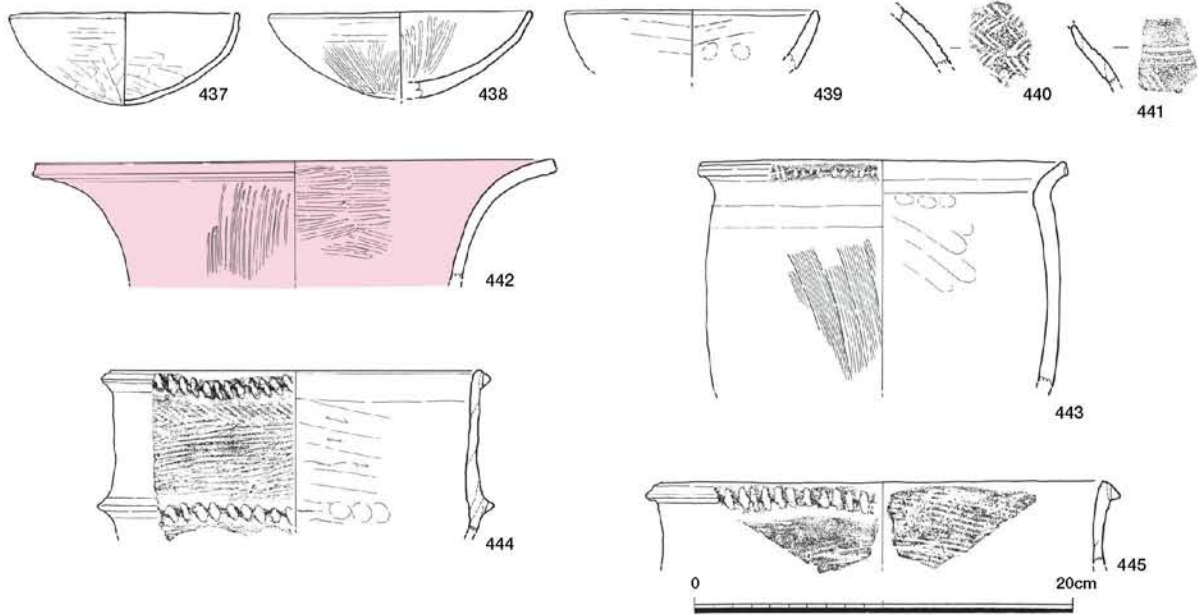


Fig.129 SD505出土土器 ③ (1/4)

SD543出土遺物 (Fig.121) 弥生時代後期から古墳時代前期の土器が出土。

375は前期の布留式土器の小型甕。調整はヨコナデ。

SD602出土遺物 (Fig.133) S26は叩き石で長方形を呈する。縦長13.8cm、横長8.6cm、最大厚4.0cmを測る。上底面と上下小口面に使用による敲打痕が残る。石材は砂岩。

方形周溝状遺構

SD505 (Fig.126、PL.57・58) 高所部のP-23・Q-23区で検出した遺構で、一辺が8.5~9.5mを測る方形に囲む溝とその西隅から6m程延びる溝で構成される。溝幅と深さは方形部で0.85~1mと0.2~0.25m、張り出し溝で1.1mと0.4mを測る。溝の断面形は箱型もしくは逆台形で、底面はほぼ平坦である。北東隅でSC504に切られる。方形溝内には明確にそれに伴う遺構などは確認出来なかったが、柱穴などが検出された。埋土は黒褐色粘質土が主体で、下層部分は地山粘土ブロックを混入する。特に南東側溝底には小枝や藁などを含む植物層が薄く堆積していた。

出土遺物 (Fig.127~130・133・134、PL.94・95・106・107) 弥生時代後期の完形品を含む土器や鉄製品・石製品などが、四隅を中心にまとまって出土した。遺物から遺構の時期は弥生時代後期後半か。

414~419は壺である。419以外は小型壺。414はほぼ完形で、算盤形の胴部から直立気味に開く形態。調整は口縁部外面はヘラミガキ、胴部上半はハケ後ナデ、下半から底部はナデで、口縁部内面はハケ目後ナデ。415・

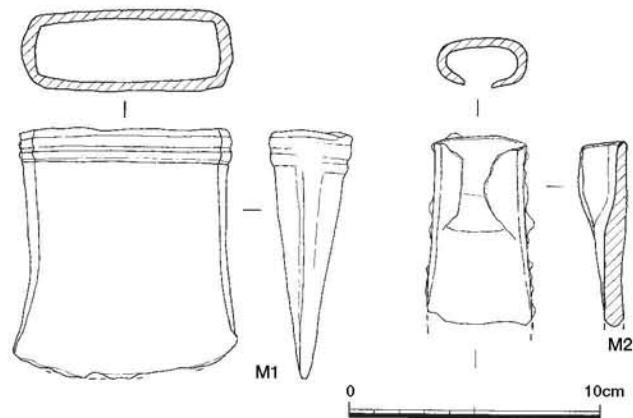


Fig.130 SD505出土鉄製品 (1/3)

416は414と同形態の胴部片。外面ヘラミガキ、内面はナデ調整である。417も413とほぼ同形態であるが、頸部と胴部中央下部に1条ずつヘラによる貼付の刻目突帯が巡る。調整は、外面は口縁部から胴部下半上部まではヘラミガキ、下半から底部はナデ、内面は口縁部ハケ目後ヨコナデ、胴部はナデ。胎土に金雲母粒をわずかに含む。418はやや長胴の胴部から「く」字状に外反する口縁、底部は丸底気味。調整は外面は口縁部ヨコナデで、下半から頸胴部上半は細かいタテハケ目、胴部中央はヨコハケ、胴部下半は丁寧なナデ。内面は口縁部から胴上半はヨコハケ後ナデ、胴部下半はナデ。外底部黒斑がある。419は頸部に三角突帯が付く直口壺の口縁部。内外面丁寧なヘラミガキ。胴部内面はナデ調整。赤色顔料が内外塗布されていたが、口縁内面に残る。420~433は甕。420・421は胴部が丸い小型甕。外面の調整は420が口縁部ヨコナデ、胴部上半タタキ後ナナメハケ目、下半がナデ。内面は口縁部ヨコハケ後ナデ、頸部内面タテハケ目後ナデ、胴部内面は丁寧なナデで当て具痕の窪みが残る。421は口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面はタテ・ナナメハケ目、胴部内面はハケ目後ナデ。420の外面はススが付着し、421には黒斑がある。422・423は中型で胴部が張る形態。422は口縁部が外反するが、歪みが有る。調整は口縁部内外面ハケ目後ヨコナデ、胴部上半はハケ目、下半はハケ目後板ナデ、底部はナデ。胴部内面はハケ目で、下半部のハケ目は粗い、内底部はナデ。423の調整は外面上半ハケ目、下半は板ナデ、内面はハケ目かハケ目後ナデ。黒斑がある。424は口縁部で口端部は平坦。調整は口縁部外面はヨコナデ、胴部はハケ目。口縁部内面はハケ目後ヨコナデ、内面はナ

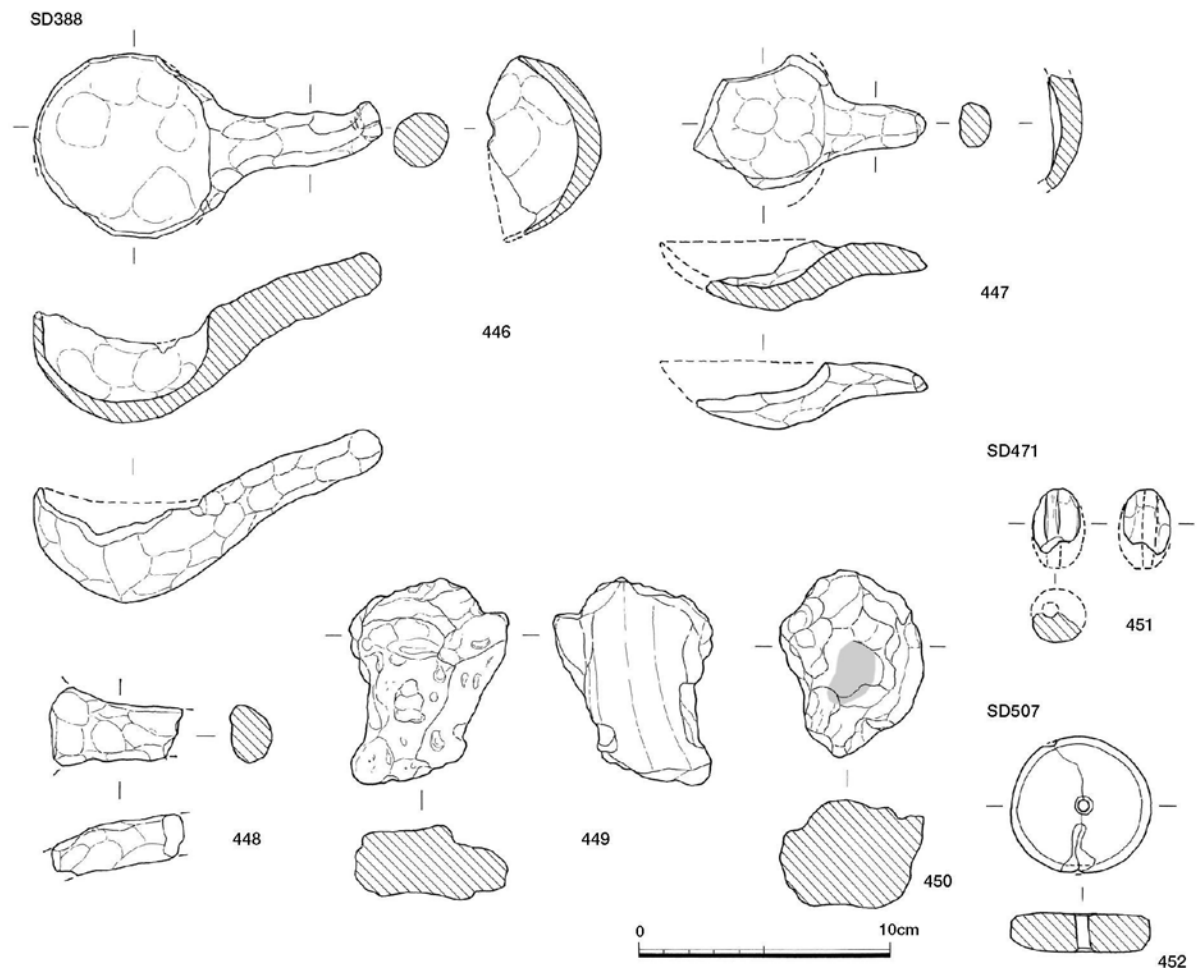


Fig.131 SD388・471・507出土土製品 (1/3)

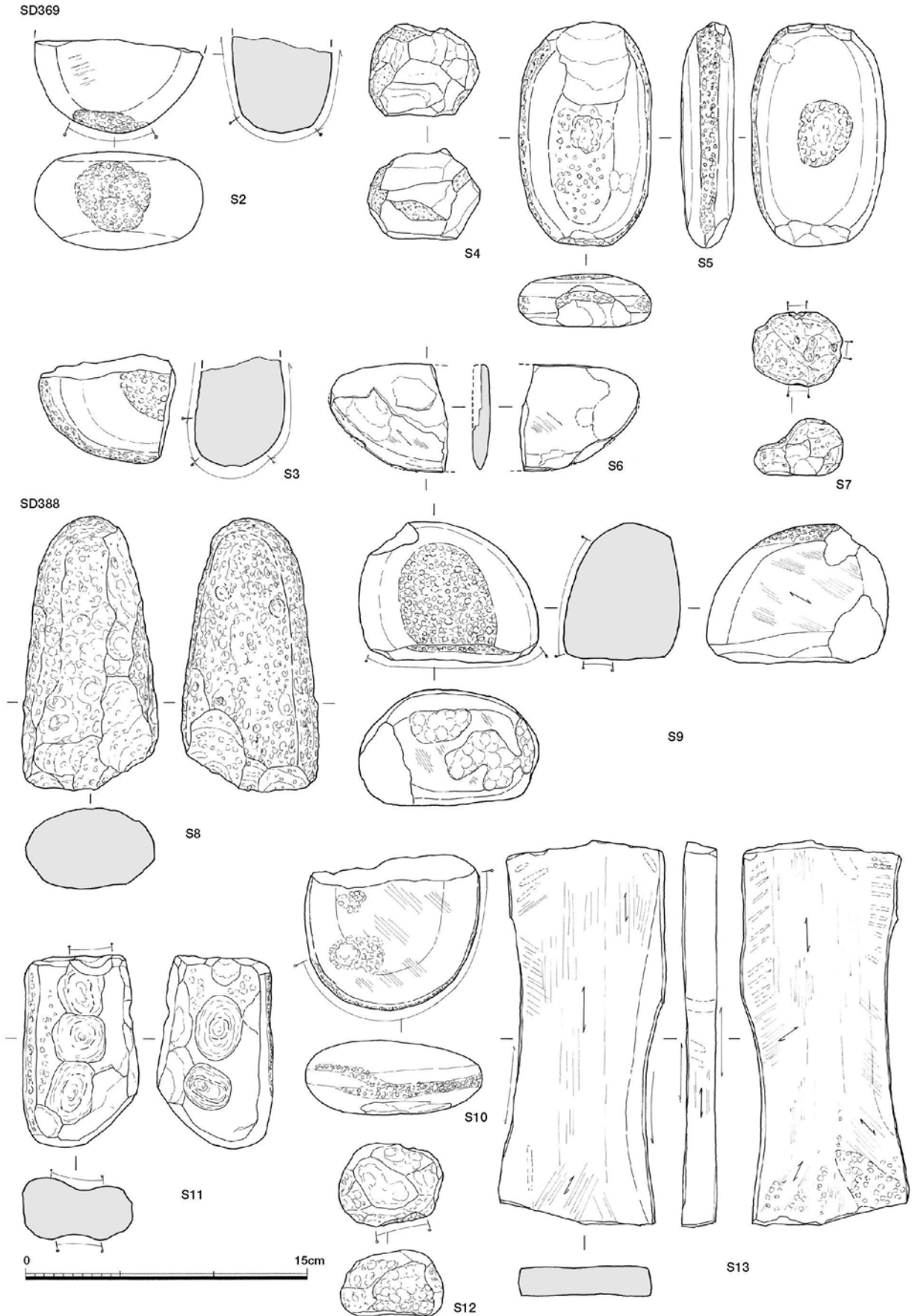
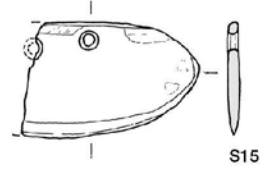
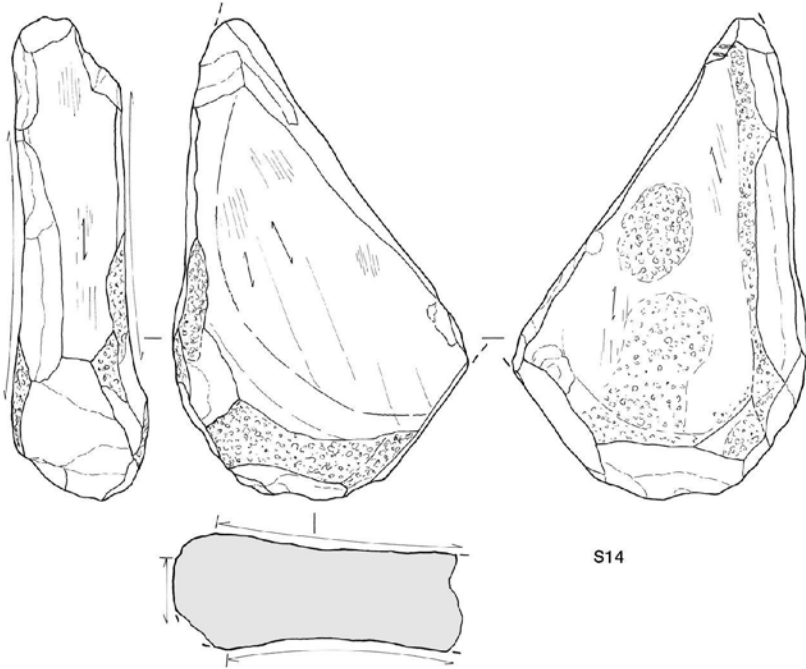
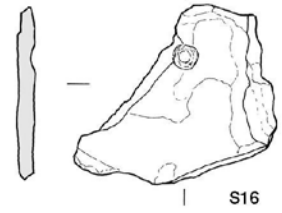


Fig.132 SD369・388出土石器・石製品 (1/3)

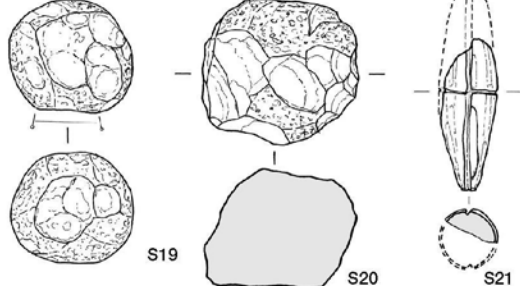
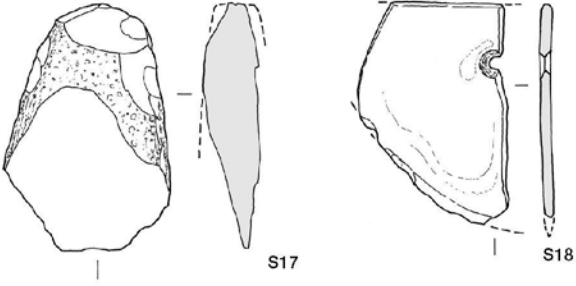
SD388



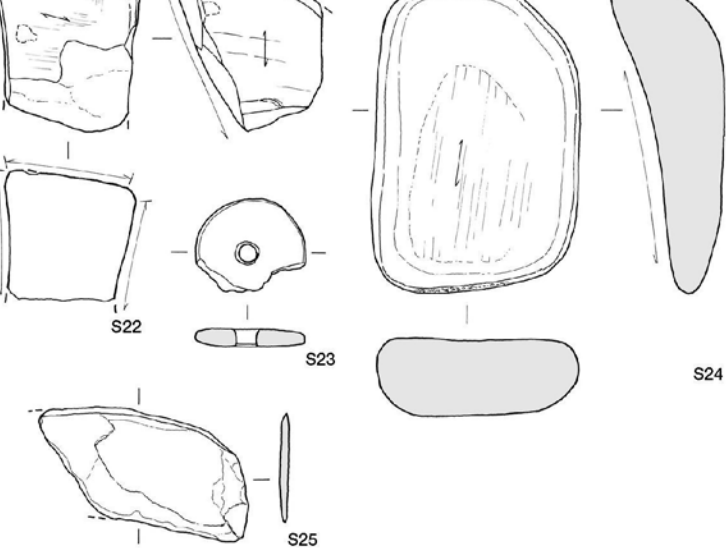
SD471



SD505



SD506



SD602

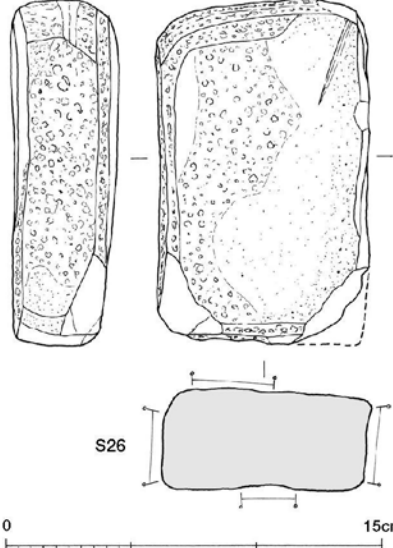


Fig.133 SD388・471・505・506・602出土石器 (1/3)



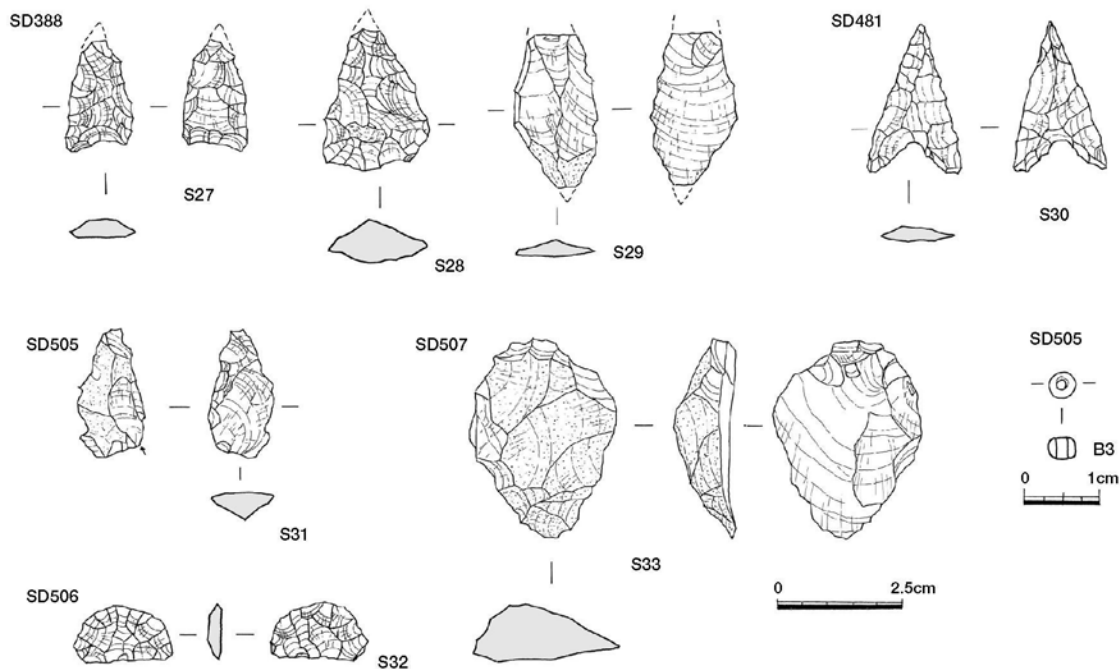


Fig.134 SD388・481・505～507出土石器（2/3）・出土玉（1/1）

デ。425は胴部片。内外面ハケ目調整で、外面には鉤状の平行沈線と3本並行する線刻がある。426～434は長胴甕で凸レンズ状の底部を持つ。426～428は小型甕。426・427はほぼ完形。いずれも調整は外面は口縁部ハケ目後ナデ、胴部上半はハケ目、下半はハケ目後板ナデ、内面は口縁部ハケ目後ナデ、胴部は426の上半がハケ目、下半がハケ目後ナデ、427がハケ目で軽くナデる。外面上半にはススが付着する。428は口縁部で、口縁端部が上方に内屈する。外面ハケ目後ナデ。内面はナデ調整。429・430は中型で長胴甕である。429の口縁は428と同形態。調整は外面口縁部はヨコナデ、頸部から胴部中頃まではハケ目後ナデ、下半はタタキ後ナデ、底部はナデ、内面は口縁から頸部までがヨコナデ、胴部下半迄がハケ目後丁寧なナデ、下半から内底がナデである。430はやや歪むがほぼ完形。調整は口縁部内外面はヨコナデ、胴部から底部内外面はハケ目後ナデ。外面ススが付着する。431は口縁を欠くが器壁が厚手である。外面は胴部中央迄粗いハケ目後ナデ、下半迄は粗いハケ目後板ナデ、外底はナデ、内面頸部は粗いハケ目、胴部内面はナデ、下半はハケ目後ナデ。432は底部を欠く。調整は口縁内外面ヨコナデ、胴部外面はハケ目、下半はハケ目後板ナデ、タタキ痕が残る。胴部内面上半はハケ目、中央から下半はハケ目後板ナデ。底にはハケ目が残る。431・432共外面に黒斑がある。433は口縁部。調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ハケ目後ナデ、胴部内面上半はハケ目後ナデ、その下はナデ。外面黒斑がある。434は鉢。丸味を持った底部から屈曲して口縁部が開く形態。調整は外面は口縁から底部迄ナデ、内面はナデで、口縁部はヨコナデ後ヘラミガキ。外面黒斑とタタキ痕が残るか。435・436は器台。435は胴脚部で、外面はハケ目、内面はナデ調整で、脚裾にはハケ目が残る。436は口縁部。口縁部内外面はヨコナデ、外面はハケ目、内面はナデでシボリ痕が残る。437～439は同形態の椀形の鉢。437の口縁部内外面はヨコナデ調整。438・439の内外面はナデ調整。440・441は前期の壺の胴肩部細片。440はナデ調整で無軸の羽状文を施す。441は3条の平行沈線と山形文が入る。外面ヘラミガキ、内面はナデ調整。442は須玖Ⅱ式の丹塗りの広口壺口縁部。外面丁

寧なナデ、内面はヘラミガキ。外面の赤色顔料はほとんど剥落する。443は前期板付Ⅱ式の甕で、口縁部内外面はナデ、胴部外面はハケ目後ナデ、内面はナデ調整。444・445は夜臼Ⅱb式期の刻目凸帯文土器の甕口縁部。444は口縁部と胴屈曲部に2条、445は口縁部に1条の貼付刻目突帯が巡る。444の外面は貝殻条痕で、内面はナデ調整。445は内外面貝殻条痕で、外面は条痕後ナデを加える。

S17は磨製石斧の欠損品。残存長9.75cm、最大幅6.5cmを測る。表面の欠損は著しい。S18は三角形を呈する大型の石庖丁片。厚みは0.4cmを測る。研磨仕上げであるが欠損風化が著しい。石材は泥岩か。S19は敲石又は石弾。直径5cm弱の石材を叩き使用し、敲打痕が残る。石材は緑泥片岩。S20は石弾か。打裂面と使用による敲打痕が残る。石材は頁岩である。S21は有溝石錘片。残存長6cm、残存径2.1cmを測る。表面は丁寧な削り。S22は砥石片。上・底面、左右両側面と上小口面が砥面。S23は1/3が欠けた紡錘車である。直径4.3cm、孔径0.9cmを測る。表面は平滑に仕上げる。S31は二次調整が加えられた剥片。全長2.5cm、幅1.4cm、厚み0.6cmを測る。片面は風化の古い剥離面である。腰岳産と思われる黒曜石である。

M1・2は袋状鉄斧。M1は鑄造鉄斧で、刃部がやや欠損するがまさかり形を呈す。全長10cm、刃幅8.8cmを測る。基部には二条の突帯が巡り、断面は両端が稜を持つ長方形を呈す。M2は錆がひどく刃部は欠損する。袋部は折り曲げて作り出す。全長7.5cm、刃幅は4.1cm、袋部の幅は3.6cm、高さ1.9cmを測る。

B3は上層から出土したガラス小玉。直径3.5mm、高さ3mm、孔形1.5mmを測る。色調はスカイブルーを呈す。

#### ④ 土坑(SK)

**SK384**(PL.59) M・N-22・23区で調査区東壁にかかる土坑。東から西方向に主軸を取る不整楕円形プランの土坑で、規模は長軸長6.4m以上、短軸長3.6m、深さは最大で約1.6mを測る。湧水が激しく底面は軟弱である。南隅をSD388に切られる。遺構は第Ⅲ面で検出した。上面は黄褐色粗砂礫に暗灰色粘土ブロックを含み、下層は湧水でグライ化した灰色粘土で、壁の崩落土を混入していた。

**出土遺物**(Fig.136・155・156、PL.97・107・108) 上層から最下層まで弥生時代前期から古墳時代前期にかけての遺物を含み、古墳時代前期のものが中心である。土器の他に黒曜石剥片2点が出土した。

453・457は高坏の脚部。454・455は器台の脚部で、いずれも脚部中程に焼成前穿孔が施される。古墳時代前期に位置づけられる。456は弥生時代前期の高坏脚部。458は古墳時代前期の鉢。459は古墳時代前期の壺口縁部で、内外横ナデ調整。460・461は古墳時代前期の椀。460は外面丁寧な横ナデ、内面細かいハケメ調整。461は外面ナデ、内面丁寧なナデ。462は手捏ねの小型の鉢完形品、外面は指で押さえられた後、工具によりナデられる。463は古墳時代前期の鉢で、外面胴部上半は斜め方向のハケメ調整、胴部下半は下から上へのヘラケズリ。内面胴部は細かい斜め方向のハケメ。頸部がすぼまり、口縁部外面横ナデ調整、内面横方向ハケメ調整により、口縁部が外反するように成形される。464は古墳時代前期の壺で、外面胴部下半はナデ、胴部上半は斜め方向のハケメ、頸部は上から下へのハケメ調整を施す。内面胴部はハケメ後ナデ調整。頸部ですぼまり、「く」の字形に屈曲して口縁部は外反する。口縁部外面は横ナデ調整、内面は横方向ハケメ後ナデ調整。465は古墳時代前期の甕の口縁部で、頸部がすぼまり、「く」の字形に屈曲し口縁部が外反する。内外横ナデ調整。

S34は砥石。一部欠損するが撥形を呈す形態。縦長23.25cm、最大幅は14.4cm、厚みは1.9～3cmを測る。上・底面と左右側面は砥面として使用。上下両小口面は粗割調整面。使用擦痕が明瞭に残

る。石材は目の細かい砂岩である。仕上げ砥石か。

B4はガラス小玉片。直径4mm、高さ0.4mm、孔径は1mmである。

**SK448**(Fig.135、PL.59) N-25区で検出した土坑。南北長1.16m、東西長1.08mを測る隅丸方形プランで、深さは最大0.32mを測る。埋土は上層が明緑灰色地山粘土ブロックを混入した黒色粘土、中層が黒色粘土と明緑灰色地山粘土の混合、下層が明緑灰色地山粘土に黒褐色粘土ブロックが混じる。北側一部は上層まで堆積後、掘削され黒褐色粘土層と黒色粘土と黒褐色粘土の混合層が入る。貯蔵穴と考えられる。

**出土遺物**(Fig.136) 弥生時代前期から中期までの上器小片が少量出土した。

466は円盤貼付形の小型壺の底部。外面底に木葉圧痕がつく。弥生時代前期のものである。

**SK459** M-25区調査区東壁で検出され、東側の調査区外に続く。主軸は北東から南西方向に取り、楕円形状プランを呈する。規模は長軸長1.12m、短軸長0.46mを、深さは最大で0.39mを測る。埋土は黒色腐植粘土である。

**出土遺物**(Fig.136) 弥生前期の土器小片が少量出土。

467は弥生前期の壺の破片。二本の横走る沈線の下に三本の沈線からなる山形文を施す。摩滅するが丹塗磨研を施したようである。

**SK460**(Fig.137、PL.59) M・N-25・26区で検出した土坑。主軸をほぼ北から南に取り、平面形は長軸方向に長い、不整楕円形を呈す。規模は長軸長7.48m、短軸長1.54mを測る。深さは最大0.24mを測る。南北がテラス状にやや高くなる。埋土は上層が黒色粘土、下層が炭化物を含む黒色粘土、最下層が暗オリーブ灰色粘土。土器は大部分上層の中程からまとまって出土した。出土地点がはっきりしているものについては、図面上で示した。

**出土遺物**(Fig.138・139・154・155・156、PL.97・108) 刻目突帯文期・弥生前期前半～中葉の土器が多量に出土し、刻目突帯文甕と如意型口縁甕が共に出土している。他に黒曜石剥片なども出土した。

468～470は屈曲型二条突帯文甕で、全て屈曲部内面に粘土紐の接合痕が残り、疑口縁を呈す。468は屈曲部でほとんど屈曲せず、わずかに外側に開きながら口縁部に至る。外面は横方向の貝殻条痕調整、内面は貝殻条痕調整後、横方向にナデる。刻目は棒状工具を押しつけ深く刻む。469・470は屈曲部からやや内湾しながら口縁部に至る。469は外面貝殻条痕調整、屈曲部以下は強い横方向のナデにより条痕が消される。内面はナデ調整。刻目は棒状工具を押しつけ深く刻む。470は内外面横方向のナデ調整。刻目は棒状工具を突帯中程まで押しつける。471は突帯文甕口縁部破片。外面貝殻条痕調整、内面ナデ調整。刻目ハケメ工具を押し付ける。472・473は如意型口縁の板付式甕。472は外面縦方向のハケメ調整後、横方向の丁寧なナデによってハケメを消す。内面は横方向の丁寧なナデ調整。刻目はヘラ状工具により密に口唇部全面に付けられる。473は外面縦から斜め方向のハケメ調整後、ナデにより大部分消される。内面は縦ハケメ後、丁寧なナデ消し。口縁外反部の内面には横方向の細かいハケメがはっきり残り、口縁先端部内面には強い横ナデが加えられる。横方向の強いハケメを一周させて口縁を外反させ、その後横ナデによって、口縁先端部の形を整えたと考えられる。471・472共に口唇部全面に刻目をつけ、口縁部の器面も比較的薄いのが、胴部が少し張るなど古式の板付I式甕よりは若干新しい特徴を持つ。474は胴上部に段を持つ如意型口縁甕で、段は粘土帯を外傾に接合した接合面を用いて作り、直下に縦方向のハケメを上から下に付けることで、段を強調する。外面はハケメ調整後、ナデ。内面はナデ調整。内外面の口縁先端部は強い横ナデにより整形される。刻目は口唇部全面にハケメ工具により密につけられる。475は板付式甕の底部～胴下部。外面ハケメ

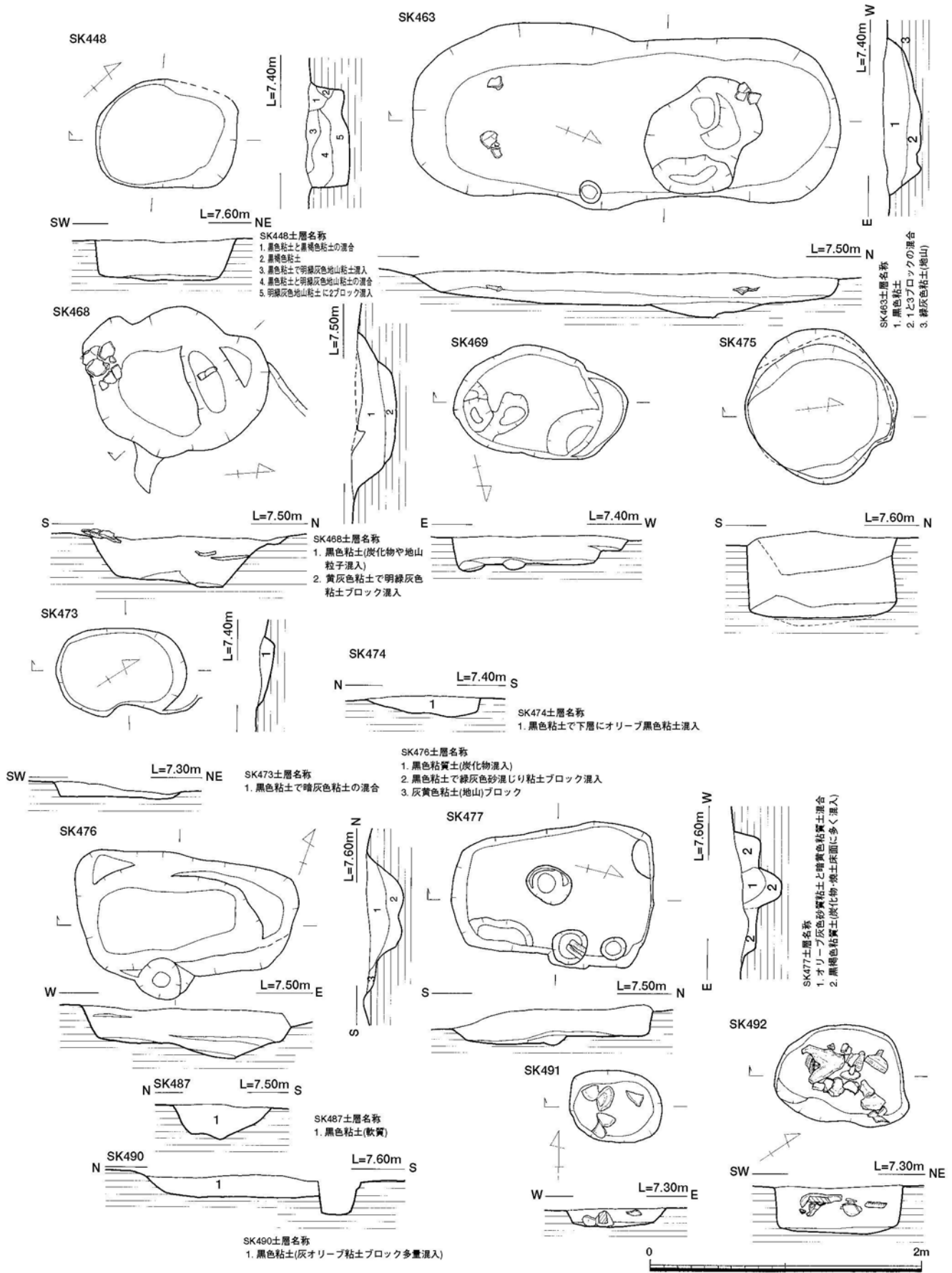


Fig.135 SK448・463・468・469・473~477・487・490~492 (1/40)

後ナデ、内面ナデ調整。476は大型の深鉢。外面は貝殻条痕調整を、ミガキに近い粗めのナデ調整。内面は粗くナデた後、横方向のミガキ調整。内外面口縁先端部3cm程横ナデにより整形。477は同一個体を考えられる弥生前期の高坏の坏部と脚部。坏部上部で屈曲し、外反しながら口縁先端に至る。外面ハケメ調整後、ミガキ調整。内面は坏部はミガキ、脚部はナデ。478は丹塗磨研の精製深鉢。口縁は外反し、胴部に屈曲部を設け、そこに細くて浅い刻目を密に施す。479は浅鉢あるいは高坏の口縁部。胴上部で屈曲させ、口縁部まで外反する。口唇部には横方向の一条の凹線が入る。内外面ミガキ調整。480は深鉢、胴上部に粘土帯を外側にかぶせることで段を成形。内外面ミガキ調整。481は深鉢口縁部。内外面ミガキ調整。482は精製小型壺の口縁部破片。口縁・頸部間に粘土帯の外傾接合面を用いて薄く段をつける。483は小型の精製の鉢。口縁部下の外面に上から下にハケメ工具で調整することで、口縁先端部をわずかに屈曲、外反させる。内外面ナデ後ミガキ調整。484は精製のミニチュア土器。内外面横方向のミガキ調整。内面底付近が赤っぽくなり、赤色顔料が付着した痕跡と考えられる。485は精製の小型壺口縁部破片。口縁・頸部間わずかに段状になる。内外面ヘラミガキ。486は中型壺の頸胴部間の破片。外面に4本の沈線が横走する。内面には粘土帯を内傾に接合した段が残る。487は黒色磨研の精製中型壺の胴上部。頸・胴部間に4本、胴部最大径部付近に2本の沈線を横走させ、その間に4本の平行沈線による複線弧状文をつける。頸・胴部間の内面には粘土帯接合の段が残る。外面は丁寧な横方向のミガキ調整。内面は横方向のナデ、頸部は横方向のミガキが入る。488・489は弥生前期の中～大型の壺の底部。488は外面ハケメ後ミガキ、内面横方向のハケメ後ナデ調整。489は内外面粗いミガキ調整。

670は紡錘車片。丁寧な仕上げである。

S35は敲石又は石核。径6.5×7.9cm程の大きさの礫に打撃による剥離面がある。石材は火成岩系。S48・49は石鏃。S48は鏃身長2.7cm、幅2.2cm、厚み0.5cmを測る。全体に雑な調整。S49は鏃身長3.45cm、幅2cm、厚み0.4cmを測る。基部はやや凹基気味である。いずれも石材は黒曜石である。

**SK462** O-24・25区にかかり、SK463の東側で検出した。柱穴SP95とSP151に切られる。主軸をほぼ北から南方向に取り、北側が狭くなる楕円形状を呈す。規模は長軸長1.48m、短軸長0.70mを測る。深さは最大9cm程である。埋土は黒色粘土である。

**出土遺物**(Fig.140) 弥生時代前期から後期の土器が出土した。

490は弥生後期の鉢。外面縦方向ハケメ後ナデ調整。内面縦方向ハケメ後ナデ調整。頸部で屈曲させ、内外面を丁寧に横ナデすることで口縁部を外に開く。

**SK463**(Fig.135、PL.60) O-25・26区にかかって検出した。主軸はほぼ北西から南東方向に取り、楕円形プランを呈する。規模は長軸長3.16m、短軸長1.34mを測る。北よりに直径0.85m程の不整円形の凹みがあり、深さ0.32mを測り、他は深さ0.23m程である。埋土は上層が黒色粘土、前述の凹みを含む下層は黒色粘土と緑灰色地山粘土ブロックの混合層である。

**出土遺物**(Fig.140・154、PL.97) 弥生時代前期の土器が多く出土し、黒曜石片も少量出土した。491は刻目突帯文甕口縁部破片。内外面横方向にナデ、刻目は棒状工具を突帯中程の深さまで押しつける。492は小型の刻目突帯文の鉢で、内外ナデ調整、刻目はヘラにより突帯中程の深さまで刻む。493は如意型口縁甕で、外面縦方向ハケメ後ナデ、内面は横方向のナデ調整で、内外面口縁先端付近は横ナデにより整形される。刻目はハケメ工具を口唇全体に押し当てて連続的に押し引きしてつける。494は弥生前期の甕の底部。495は口縁を粘土帯の継目により肥厚させる鉢の口縁部破片。496は高坏の脚先端部で、先端部外面2.5cm程を粘土を貼り付けて肥厚させる。

671は棒状の土製品片。残存長3.0cm、断面は円形で径は0.9cm×0.85cmを測る。表面は傷みが

進むがナデか。把手などの一部か。

**SK468**(Fig.135) O-24区、SK463の南東側で検出した。南北方向にやや長い楕円形のプランで、長軸長1.38m、短軸長1.12m、深さ最大0.37mを測る。埋土は上層が炭化物や地山粒子を少量含む黒色粘土、下層が明緑灰色粘土ブロックを含む黄灰色粘土である。500は上層直上から、497は上層下部から出土した。

**出土遺物**(Fig.140・155、PL.107) 弥生時代前期を主体として前期から中期の土器片が多量に出土し、サヌカイト剥片や黒曜石剥片も出土した。

497は弥生時代前期の甕の口縁部破片。口縁外側に粘土の下部を指で押しえつけて貼り付け、肥厚させる。口唇全面に細い棒状工具を押しつけて刻目をつける。内外面横方向の細かいハケメ調整を施す。498は精製の浅鉢の口縁部で、内外丁寧に横方向のナデ調整を行う。499は大型の壺の口縁部で、口唇部に横方向の凹線を施す。内外ヘラミガキ調整。500は丹塗の大型壺の口縁部破片で、口唇部に横方向の凹線を施す。503と同一個体と考えられる。501は弥生時代前期の丹塗の大型壺の底部で、外面ヘラミガキ調整、内面ナデ調整。502は円盤貼付形の弥生時代前期の精製小型壺の底部である。外面横方向のヘラミガキ、内面ナデ調整。503は丹塗りの大型壺の胴上部で、頸・胴部間の内外面に薄く稜がつく。外面は横方向のヘラミガキ、内面胴部は粗いハケメ後粗くナデ、頸・胴部間は丁寧なナデ、頸部が横方向の細かいハケメが施される。

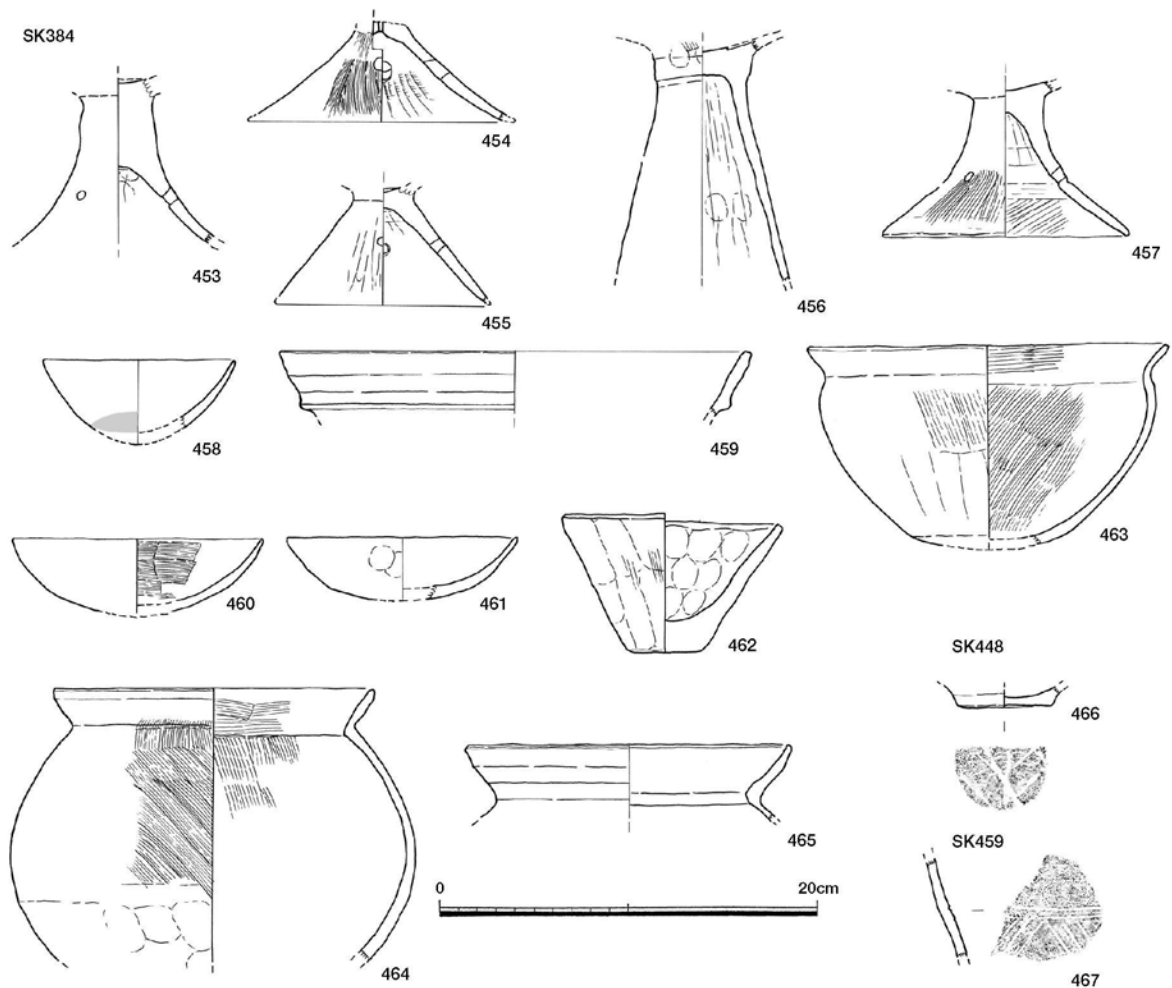


Fig.136 SK384・448・459出土土器 (1/4)

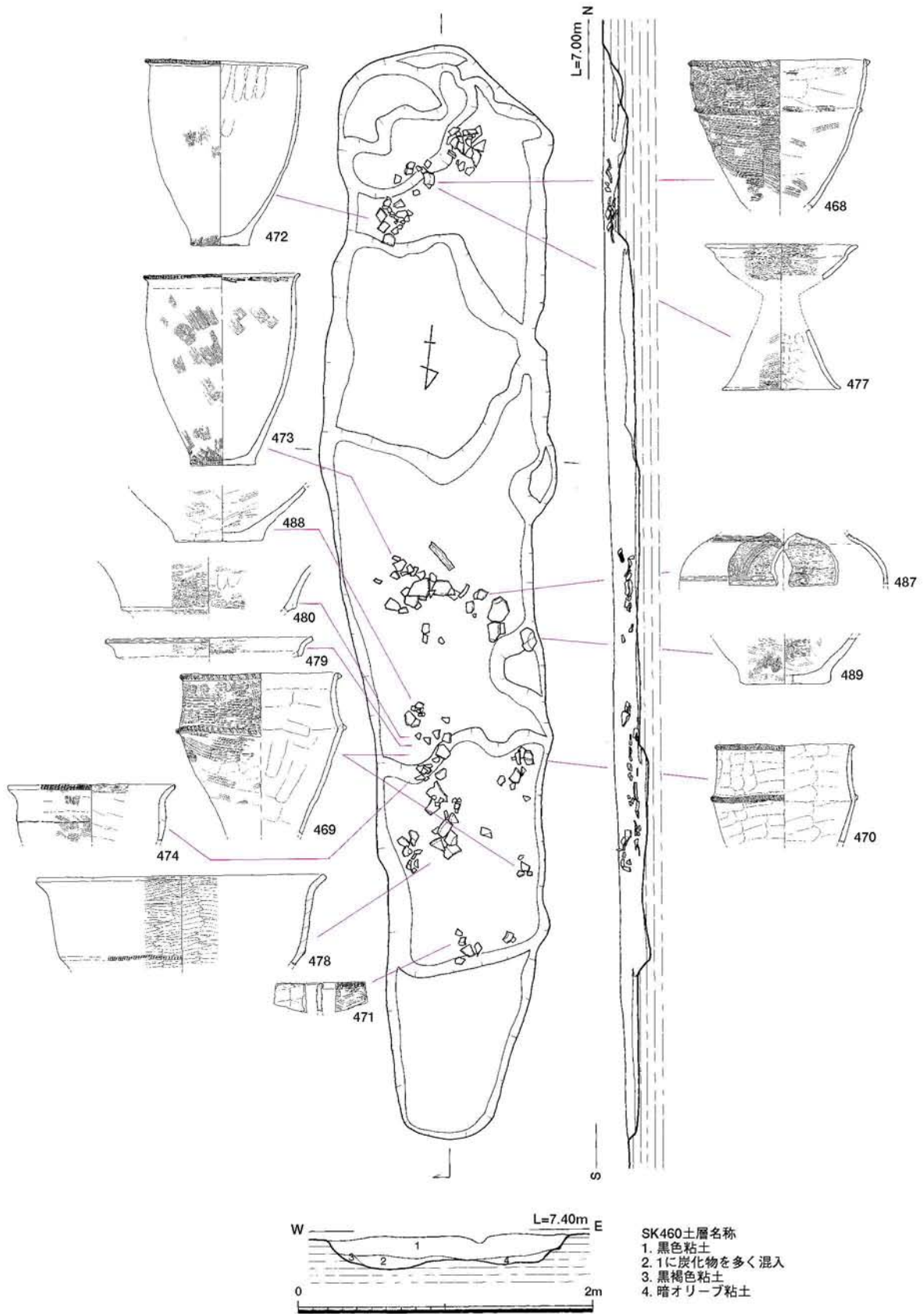


Fig.137 SK460 (1/40)

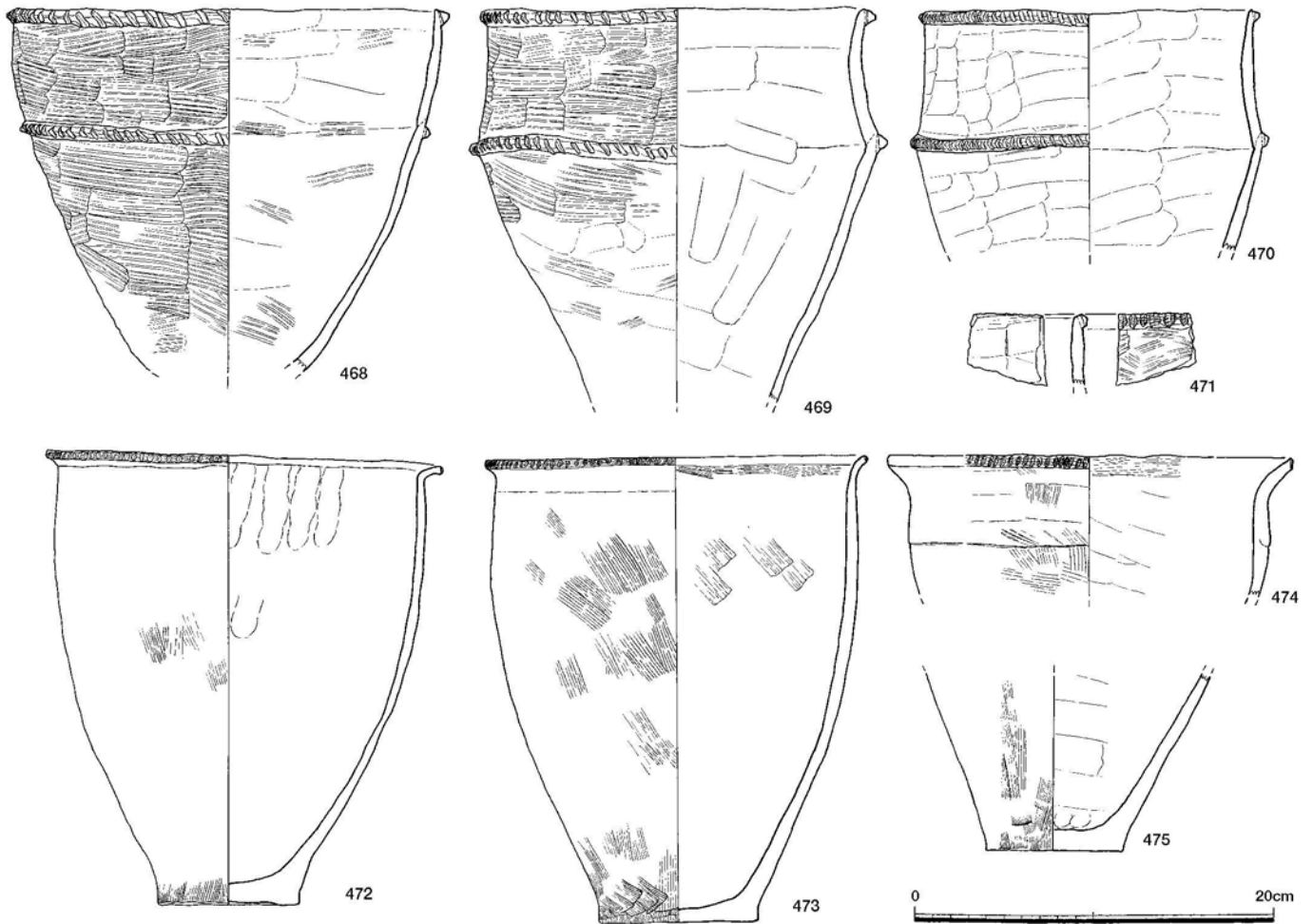


Fig.138 SK460出土土器 ① (1/4)

S36は抉入柱状片刃石斧片。欠損が著しい。成形の敲打痕が残るが、研磨仕上げ。石材は頁岩。

**SK469**(Fig.135、PL.60) O・P-25区にかかって、SK463の西側で検出した。主軸を北西から南東方向に取り、楕円形プランを呈し、規模は長軸長1.30m、短軸長0.83mを測る。北西側がテラス状に高くなり、南東側に三ヶ所程凹む部分がある。深さは最大0.25mを測る。埋土は上層が灰黄褐色地山粘土ブロックが少量混入した黒色粘土、下層が上層と暗オリーブ灰色粘土の混合層である。

**出土遺物** 突帯文甕口縁部破片、弥生時代前期の高坏、弥生前期の精製小型壺の口縁先端部破片など、弥生時代前期の土器が少量、黒曜石剥片が1点出土した。

**SK473**(Fig.135) P-25区東側、SK463の北側で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、楕円形プランを呈し、規模は長軸長0.96m、短軸長0.65m、深さ最大0.11mを測る。埋土は黒色粘土と暗灰色粘土の混合である。

**出土遺物** 条痕調整の施された胴部破片が1点出土した。

**SK474**(Fig.135) N-25区、SK460によって切られる。主軸を東から西方向に取り、楕円形プランを呈す。規模は長軸長さ2.90m、短軸長0.84m、深さ最大0.14mを測る。埋土は黒色粘土で、最下層はオリーブ黒色粘土である。

**出土遺物** 条痕調整の胴部破片が7点、弥生土器細片が少量出土した

**SK475**(Fig.135、PL.60) N-23区、SK488の北側、SK517の東側で検出した。直径1.15m程



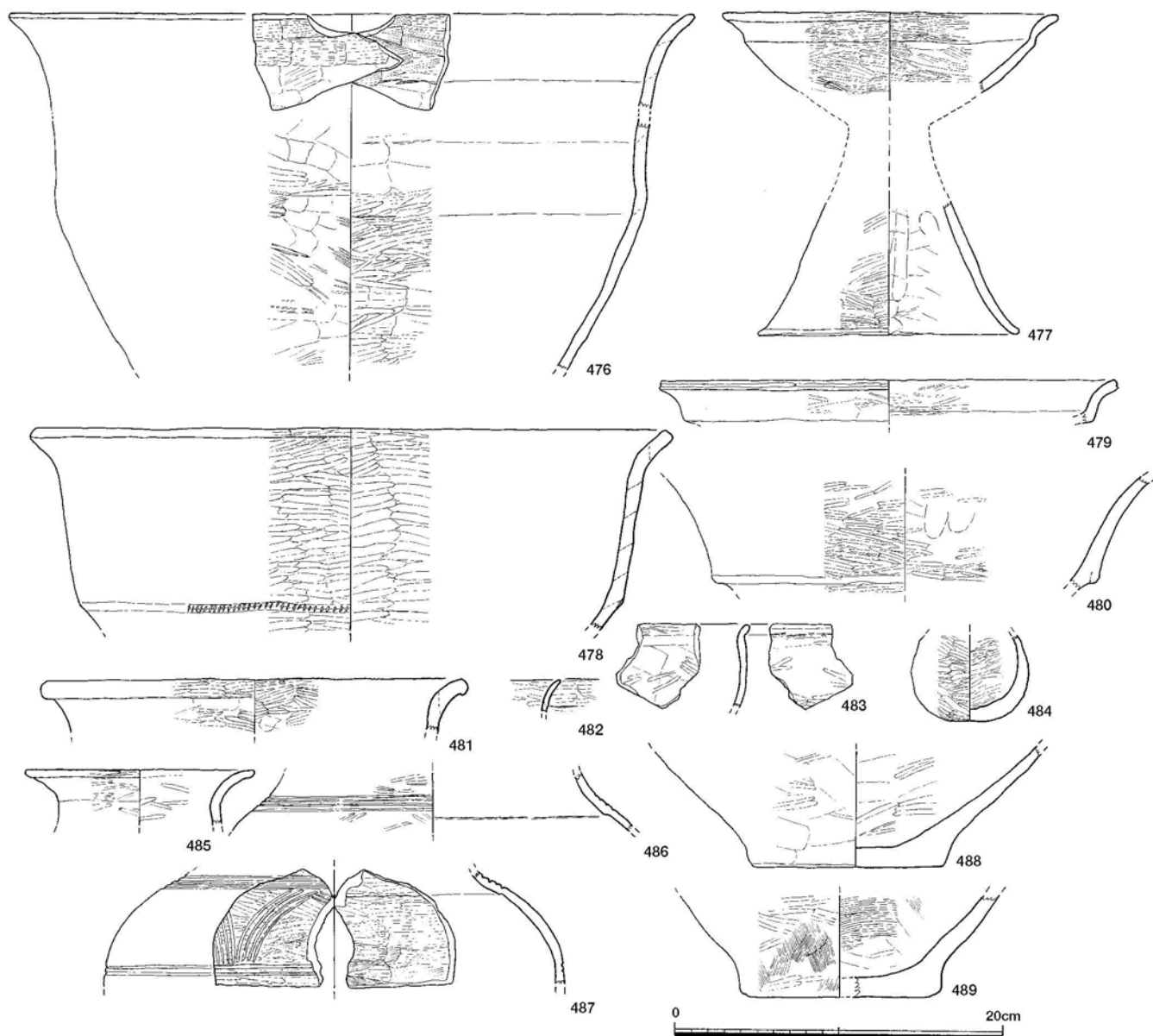


Fig.139 SK460出土土器 ② (1/4)

の円形プランを呈し、深さ最大0.63mを測る。埋土は黒色粘土ブロックと暗灰褐色粘土地山ブロックと緑灰色砂混じり粘土ブロックの混合で、一気に埋められたようである。壁は直または上が窄まり気味に立ち上がり、貯蔵穴と考えられる。

**出土遺物**(Fig.155) 弥生時代後期の甕、中期の甕の底部、突帯文土器口縁部小片、丹塗磨研壺破片など、弥生時代前期～後期の土器破片が少量出土で、時期を判断できる土器はない。

S37は叩石。拳大の大きさで、縦長11.5cm、横幅7.5cm、高さ5.1cmを測る。上下両小口部と底面に使用による敲打痕が明瞭に残る。石材は花崗岩であるが質は脆い。

**SK476**(Fig.135) N-22区で検出した。主軸を北から南方向に取り、長方形プランを呈す。規模は長軸長1.63m、短軸長0.93m、深さは最大0.36mを測る。東側は柱穴によって切られる。埋土は上層が炭化物を含む黒色粘土、下層は緑灰色砂混じり粘土を含む暗めの黒色粘土層である。

**出土遺物** 弥生時代中期後半の広口壺口縁部破片や刻目突帯文土器破片、弥生土器破片などが少

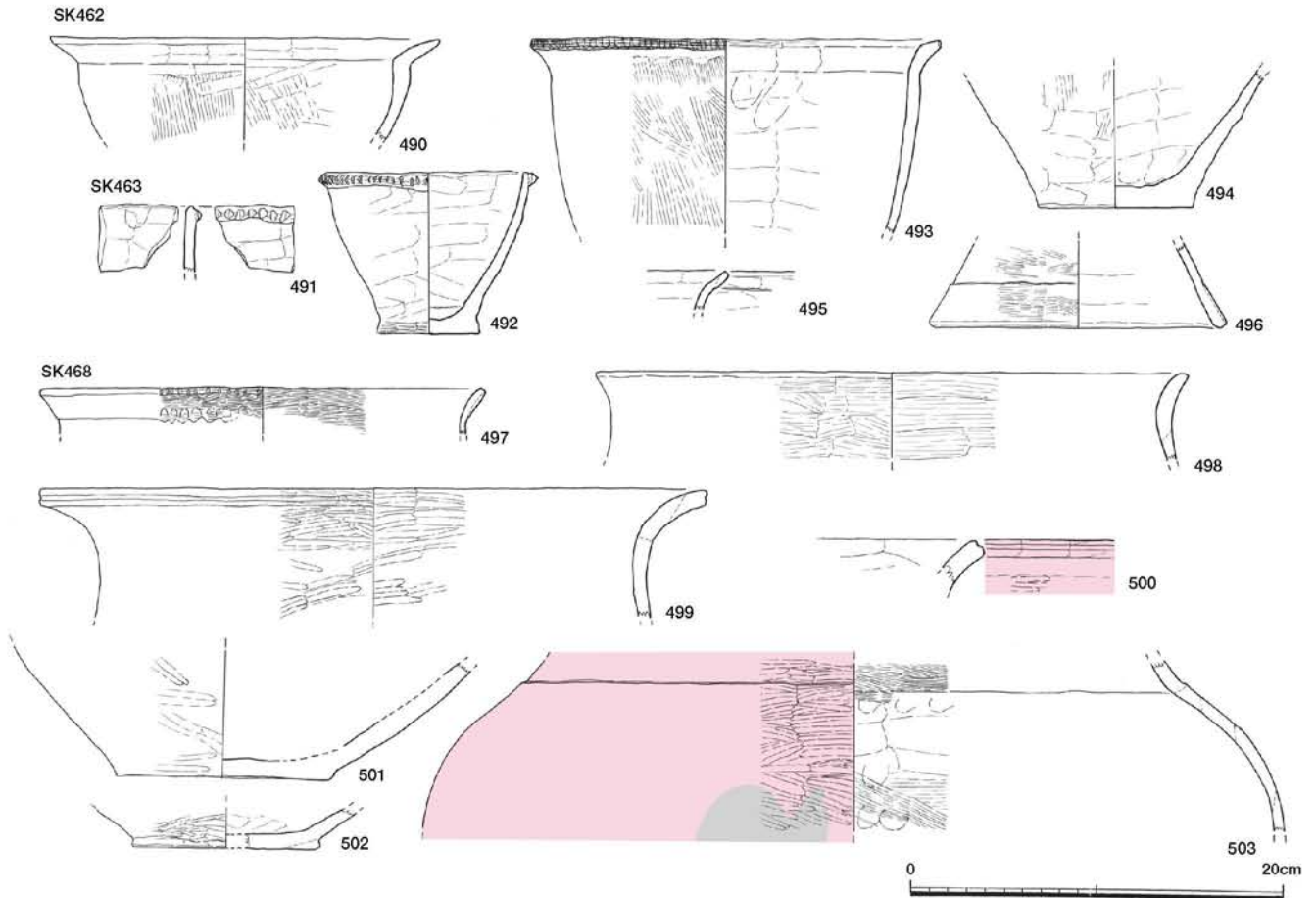


Fig.140 SK462・463・468出土土器 (1/4)

量出土した。他に砥石破片1点、黒曜石剥片1点が出土した。

**SK477**(Fig.136) O-20区、SK500の北東側で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、長方形プランを呈す。規模は長軸長1.50m、短軸長1.01mを測る。底面は複数の柱穴によって切られる。深さは0.21mを測る。埋土はオリブ灰色砂混り粘土ブロックが混入した黒褐色粘土で、一部オリブ灰色砂混り粘土と暗黄灰色粘土との混層が入る。床面近くに焦土、炭化物を多く含み、東側床面からは炭化米が出土している。

**出土遺物** 中期以降の弥生土器の小片が少量、黒曜石片1点が出土した。

**SK487**(Fig.135) N-27区で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、不整楕円形プランを呈す。規模は長軸長1.70m、短軸長0.62m、深さ最大0.25mを測る。埋土は黒色粘土で、遺物は出土しなかった。

**SK488**(Fig.141、PL.60) O-23区、SK495の東側で検出した。主軸を東から西方向に取り、不整楕円形プランを呈する。規模は長軸長4.02m、短軸長0.98m、深さは最大0.44mを測る。埋土は黒色粘土である。内部から前期の甕を中心とする土器が多量出土した。廃棄土坑か。

**出土遺物**(Fig.142～144・156、PL.98・99・108) 刻目突帯文甕を主体として前期にかけての土器が多く出土し、完形に復元できるものも多い。また黒曜石剥片が多量に出土し、炭化物も少量出土した。

504～528は刻目突帯文甕で、504～515は屈曲型二条突帯文甕、516～518は砲弾型一条突帯文甕、519～526は突帯文土器口縁部破片、527・528は突帯文甕の底部である。屈曲型二条突帯文甕

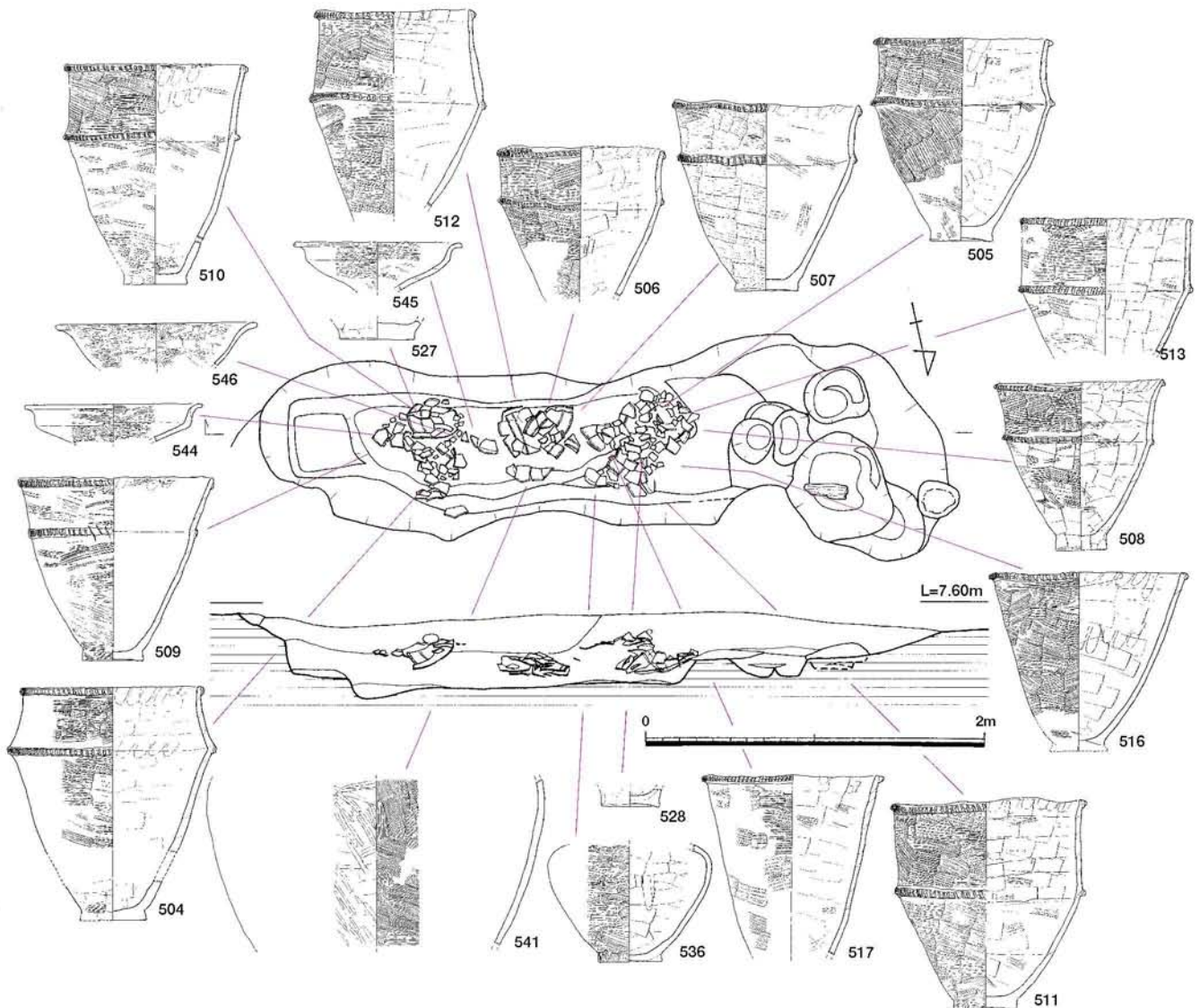


Fig.141 SK488 (1/40)

については、器形は屈曲部から内傾して口縁部に立ち上がるもの(520)、屈曲部からやや内湾気味に垂直方向に立ち上がるもの(505・506・507・514)、内湾しながら外に少し開くもの(508・509)、ほとんど屈曲せず口縁部に至るもの(510)、屈曲部から口縁部までほぼ垂直に立ち上がるもの(511・513・515)、屈曲部からやや内側に向けて口縁部まで立ち上がり、屈曲部から口縁部までの長さが長いもの(512)など、非常に器形がヴァリエーションに富む。突帯文深鉢の突帯は全て口縁端部に接するようにつけられ、棒状工具を押しつけて深くまたは突帯の中程の深さまで刻目をつけるものがほとんどである。517・522・524はヘラ状工具により鋭く浅い刻目をつける。基本的に外面は横方向の貝殻条痕調整を施し、胴下部には上からナデ調整が行われる。内面は貝殻条痕調整後丁寧にナデ消すか、横方向のナデ調整を施す。515の1点のみハケメ調整が施される突帯文土器があり、外面に縦方向のハケメ、内面に横方向のハケメ調整が行われる。2~3cm程の粘土紐を内傾に接合しながら積み上げた痕跡が内面や断面から確認できる。特に屈曲型二条突帯文深鉢の屈曲部内面にははっきりと粘土紐の継ぎ目の痕跡が残り、屈曲部で一度粘土紐の輪積みを止め、胴部の調整を行った後に

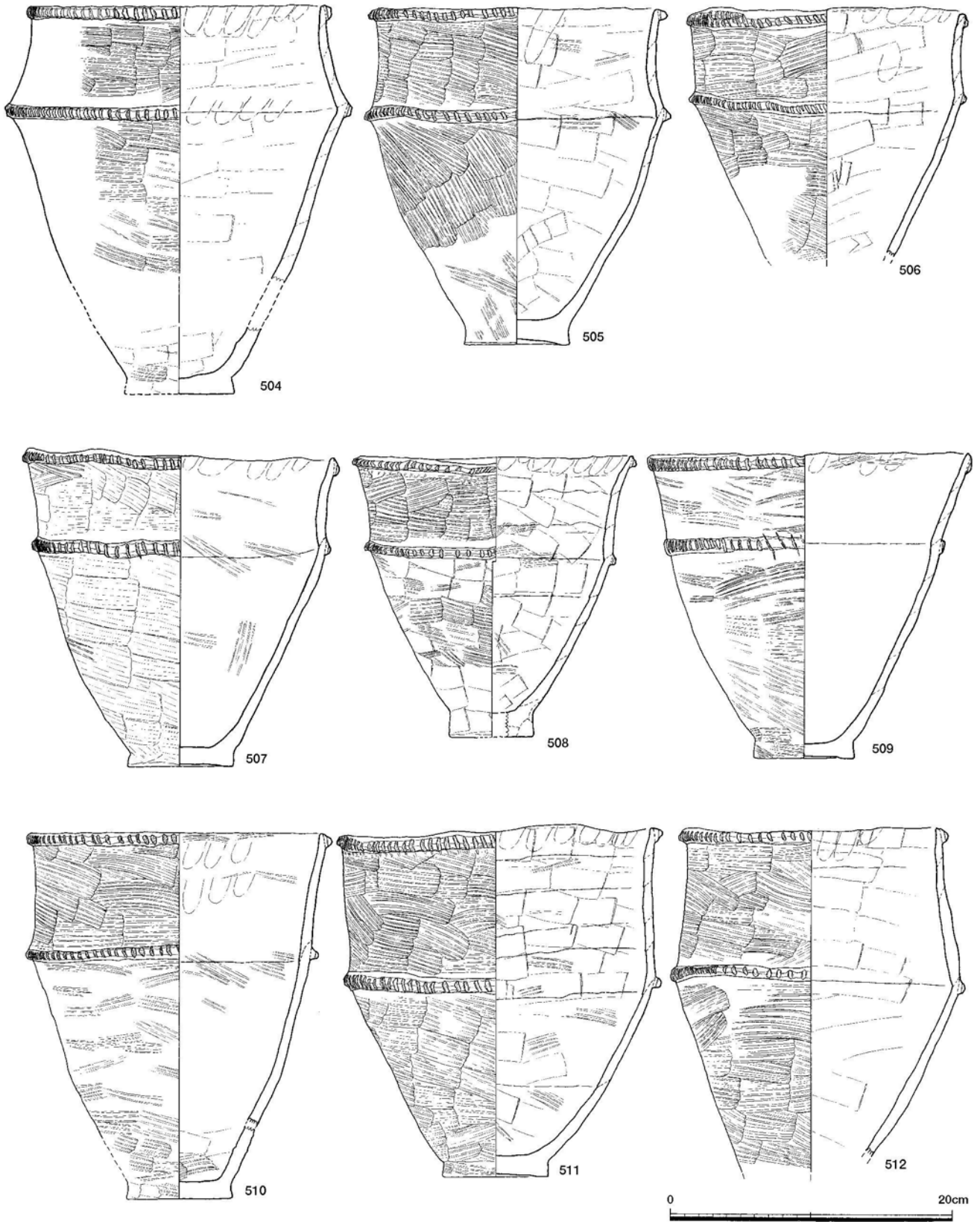


Fig.142 SK488出土土器 ① (1/4)

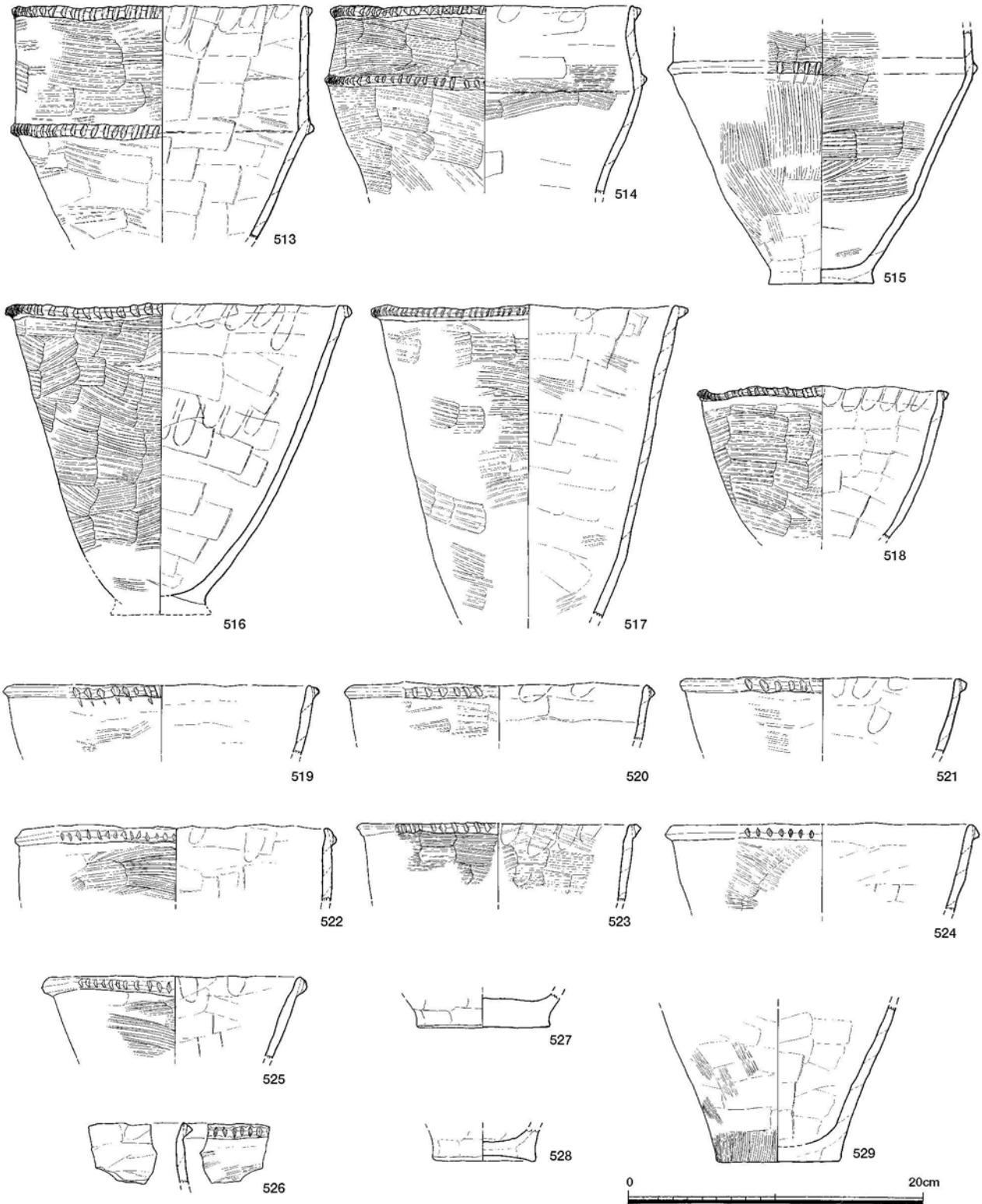


Fig.143 SK488出土土器 ② (1/4)

さらに上の粘土紐を積み上げたと考えられる。529は弥生土器の甕の底部～胴下部で、弥生時代前期のものか。530～541は弥生時代前期の壺で、基本的に外面はヘラミガキを施す。530・531は粘土を貼り付けることにより肥厚させられた口縁部破片。532は丹塗の大型壺の口縁部破片で、口唇部に

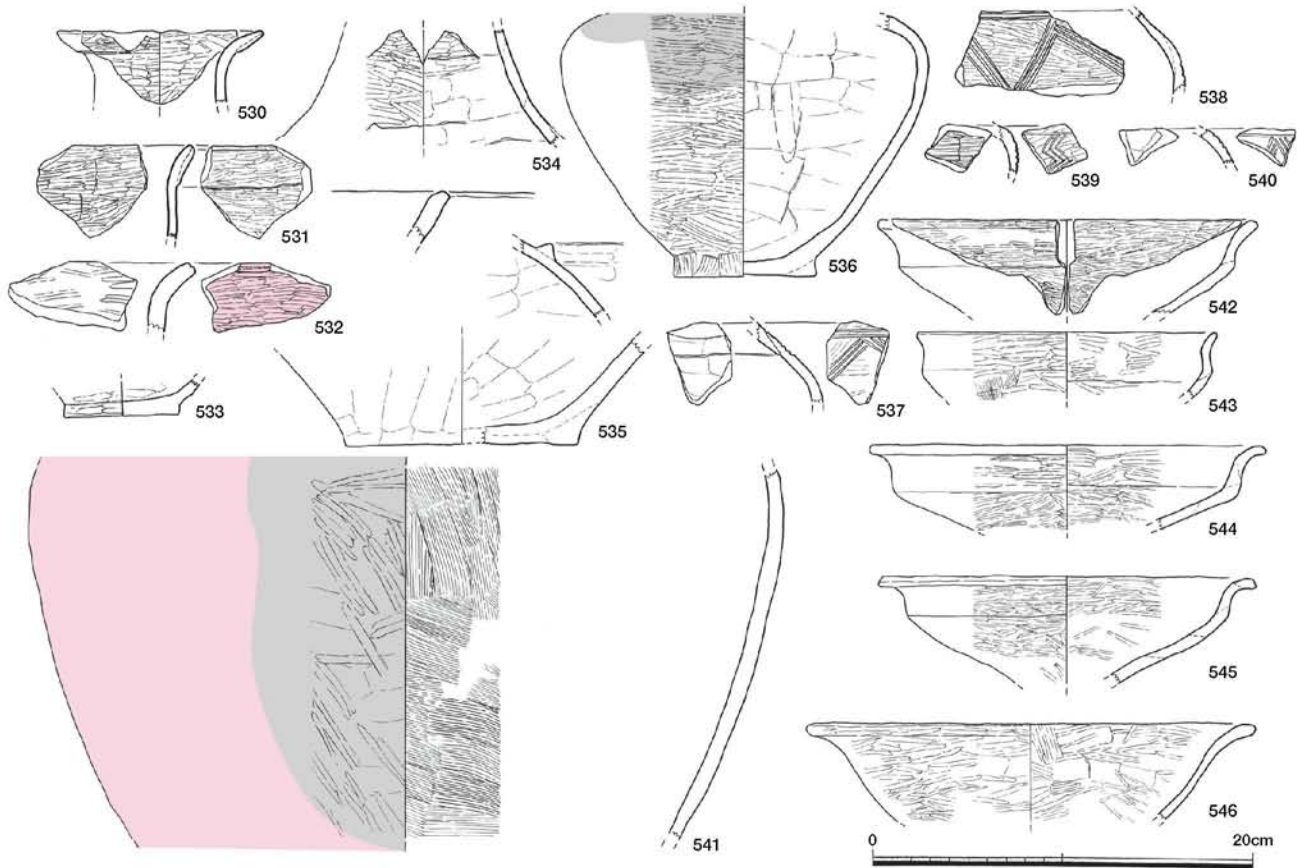


Fig.144 SK 488出土土器 ③ (1/4)

一条の凹線が入る。533は精製小型壺の底部で、円盤貼付形を呈する。534は精製の小型壺の頸部。535は同一個体と考えられる大型壺の口縁部破片、頸・胴部間破片、底部で、頸・胴部間に三角形の突帯を貼り付ける。時期は他の土器よりはやや新しい弥生時代前期後半である。536は小型壺の頸・胴部間から底部で、外面へラミガキ内面板状工具によるナデ調整。537～540は小型壺の胴上部破片で外面はへラミガキ調整後、沈線による文様をつけられる。537は頸・胴部間内面に粘土帯接合時の段が残る。538は黒色磨研される。541は丹塗の大型壺の胴部で、外面は斜め方向のへラミガキを施す。内面は下半は横方向のハケメ、上半は縦方向のハケメ調整で、大型壺がある程度の高さまで粘土帯を積み上げた後、器面調整を行い、さらに粘土帯を積み上げ器面調整を行うという工程を繰り返すことで製作されたことがわかる。542～546は弥生時代前期の浅鉢もしくは高坏の破片であるが、底部もしくは脚部まで残存するものはなく542・543はどちらの可能性もある。544～546は口縁部への立ち上がり方から高坏と判断される。542は精製の黒色磨研土器である。543は内外面へラミガキ調整が施される。544・545は胴上部で屈曲させ大きく外反しながら口縁部に立ち上がる弥生時代前期前半の高坏の特徴を持つ。両者とも内外面横方向のへラミガキを施す。546は胴上部に屈曲部を持たず、口縁が分厚くなりながら外反するという544・545よりやや新しいとされる特徴を持ち、内外面へラミガキ調整が施される。

S50～52は石鏃。いずれも基部は平基。鏃身長は2.6cm～2.8cm、幅1.45～1.85cm、厚みは0.35～0.4cmを測る。いずれも剥片を両側から丁寧に二次調整を加える。S50・51の基部は一部欠損する。石材は黒曜石である。

**SK490**(Fig.135) 0-21区で検出し、SK597により西側を切られる。主軸を北東から南西方向に取り、中央が少しくびれる不整楕円形プランを呈する。規模は長軸長4.4m以上、短軸長最大2.10m、深さ最大0.15mを測る。複数個の柱穴によって切られる。埋土は灰オリーブ粘土ブロックが混じった黒色粘土である。

**出土遺物** 弥生時代前期の甕口縁部、前期の壺口縁部及び胴部など、弥生時代前期中頃から後半の土器片が多く出土し、黒曜石やサヌカイト剥片が少量出土した。

**SK491**(Fig.135、PL.61) N-25区、SK468の東側で検出した。東西にわずかに長い楕円形プランで、長軸長0.69m、短軸長0.53m、深さ0.13mを測る。底にはこぶし大の礫石が2点出土。埋土は黒色粘土である。

**出土遺物** 弥生時代前期後半の甕や壺などの破片が少量出土した。

**SK492**(Fig.135、PL.61) 調査区やや北より、SD505の西側で検出した。主軸を東北から南西方向に取り、楕円形プランを呈す。長軸長0.95m、短軸長0.72m、深さ0.33mを測る。埋土は黒色粘土が主体で、オリーブ灰色砂質粘土を混入する。貯蔵穴と考えられる。

**出土遺物**(Fig.146) 弥生時代中期及び後期の甕の口縁部や布留式土器の口縁部片など弥生時代中期から古墳時代前期の土器片が多く、黒曜石剥片・石核が少量出土した。

547は弥生時代後期の甕の口縁部。548は鉢の口縁部で、内外面とも横方向のナデ調整後、縦方向のミガキを施す。

**SK494**(PL.61) O-23区のSD505の東側で検出した。不整円形プランを呈し、柱穴や遺構が重複するようである。規模は1.56m×1.38m、深さは最大で0.3mを測る。埋土は黒色粘土である。

**出土遺物**(Fig.146) 弥生時代前期～中期の土器片が多量に、又黒曜石石核が少量出土した。

549は弥生時代前期の中型壺の口縁部破片で、外側に粘土を貼り付け口縁を肥厚させる。550は弥生時代前期の中型壺の底部破片。551・552は刻目突帯文深鉢口縁部破片。553は突帯文深鉢底部破片。554・555は弥生時代の甕の底部破片。

**SK495**(Fig.145、PL.61) O-23区のSK494の北側で検出した。主軸を北から南方向に取り、隅丸長方形プランを呈する。底面は北側がテラス状で南側が一段深くなる。規模は長軸長3.16m、短軸長1.52m、深さ最大0.58mを測る。埋土は最上層が明緑灰色粘土ブロック地山、上層が黒色粘土、中層が暗い黒色粘土、下層は黒色粘土が砂っぽくなり灰を薄く含み、最下層は明緑灰色砂質粘土ブロックで黒色粘土と暗灰黄色地山粘土ブロックを混入する。さらにその下に東側から明緑灰色地山粘土を薄く編状に挟む黒色粘土が入り込む。

**出土遺物**(Fig.146・154・155、PL.99・108) 弥生時代前期から後期迄の土器が出土するが、時期は中期であろう。

556～565は刻目突帯文甕で、556は屈曲型二条突帯文甕口縁部破片、563・565は同じく胴部破片、557～562・564は突帯文甕口縁部破片である。突帯は口縁端部に接するように貼り付け、刻目は棒状工具を押しつけてつける。内外面、貝殻条痕またはナデ調整が基本である。558のみ内面に横方向のハケメ調整を施す。566～568は如意型口縁甕の口縁部である。566はハケメ状工具により口唇全面に刻目をつける。外面上から下へのハケメ、内面横方向のハケメ後口縁部は丁寧に横ナデを加える。外反も緩く、板付I古式甕の特徴を示す。567は口唇全面、568は口唇やや下気味にヘラによる刻目をつけ、口縁付近内外から横ナデを加える。569・570は弥生時代前期前半の壺である。569は黒色磨研の精製小型壺の胴部破片。頸・胴部間に三本、胴中部に一本以上の平行沈線を横走させ、その間に三本の沈線からなる複線弧状山形文を施す。頸・胴部間の内面には粘土帯接

合時にできた段が残される。570は丹塗の大型壺の頸部である。外面全面と内面の口縁部から頸部中程まで丹塗が施されたよう。外面は横方向のヘラミガキ調整。内面は頸部中程以下横方向のハケメ調整、その上部は横方向のハケメ後横方向のヘラミガキ調整である。571～574は弥生時代中期の甕であり、571は「く」字形口縁、572・574は逆L字形口縁で574は口縁先端が下に垂れ下がる。571・572は中期前半、574は中期後半に位置づけられる。573は中期の甕底部である。575は高坏の坏部と脚部の連結部、576は弥生時代後期の甕の底部である。

673は焼けた粘土塊。縦幅4.5cm、横長9.3cm、厚さ3.85cmを測る。指押え仕上げで、ヘラによる切込みや、焼けた黒化した部分がある。

S38は刃部が三角形を呈す石庖丁片。残存長9.5cm、最大幅5.1cm、厚さ0.4cmを測る。径0.7cmの孔が1ヶ所残る。S39は大型の剥片。縦長13.6cm、横最大幅6.05cmを測る。明瞭な使用痕や二次調整は認められない。石材はサヌカイトである。S40はスクレーパーか。縦長7.95cm、横幅3.6cmを測る。断面三角を呈する長方形の剥片の側面に二次調整を加え、刃部を作り出す。石材は珪岩。

**SK496**(Fig.145、PL.61) 調査区やや北より、SD505の西側で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、楕円形プランを呈する。規模は長軸長0.98m、短軸長0.64m、深さ0.34mを測る。埋土は黒色粘土と青灰色シルト粘土ブロックの混合である。貯蔵穴と考えられる。

**出土遺物**(Fig.146・155) 弥生時代中期の甕小片が少量出土した。

577は弥生時代中期前半の逆L字形の甕口縁部で、578は弥生時代中期初頭から前半の甕の底部である。

S41は敲石で、丸みを持つ円磔を利用したもの。径は6.6cm×4.9cm、高さは4.3cmを測る。叩き使用痕が明瞭に残る。石材は緑泥片岩か。

**SK500**(Fig.145、PL.62) P-21区のSC532の南東側で検出した。主軸を北から南方向に取り、長方形プランを呈する。規模は長軸長4.55m、短軸長1.17m、深さ最大0.22mを測る。埋土は上層が淡黄色粘質土、下層が黒色粘質土で、下層の直上から出土する土器が多い。中央部から北部は柱穴に切られる。

**出土遺物**(Fig.147・148・154・155、PL.99・100・108) 突帯文期・弥生時代前期前半の土器片が多量出土した他、黒曜石及びサヌカイトの剥片・石核が少量出土した。

579～592は刻目突帯文の甕で、全て屈曲形二条突帯文甕になる。器形は屈曲部からあまり内湾せずあるいはわずかに内湾しながら垂直方向に立ち上がるものがほとんどで、583のみ屈曲部から口縁部にかけて外側に開く。基本的に外面は横方向の貝殻調整を施した後、ナデを加え、内面は貝殻条痕後ナデるか、直接ナデ調整を加える。584のみ屈曲部以下に縦方向のハケメを施し、屈曲部上部及び内面には横方向の貝殻条痕調整を施す。口縁部突帯は全て口縁端部に接するように貼り付けられ、刻目は全て棒状工具により突帯中程の深さ又は深く刻まれる。内面に粘土紐の接合痕を残すものも多く、2～3cmの粘土紐を内傾接合で積み上げながら成形されたことがわかる。特に屈曲部内面にははっきりと粘土紐の接合痕が残り、屈曲部までの成形後器面調整を行い、さらに口縁部までの成形を行ったことがわかる。いずれも夜白IIb式以降に位置づけられる。593は口縁がわずかに外反する甕で、口唇全面にヘラ状工具により刻目が付けられる。外面は下から上のハケメで口唇直下に強い横ナデが加えられる。内面は右下から左上への粗いハケメ後口縁先端部付近は目の細かい横方向のハケメ調整が施される。口縁が外反気味の板付祖型甕か。594～598は突帯文甕の底部と考えられ、台形状に下部が外側に張り出す。599～604は弥生時代前期の壺である。599は小型壺の口縁部で外面に粘土を貼り付けて肥厚させる。600は小型壺の頸部から胴上部の破片で、頸部内面には1cm強の粘土紐を積み



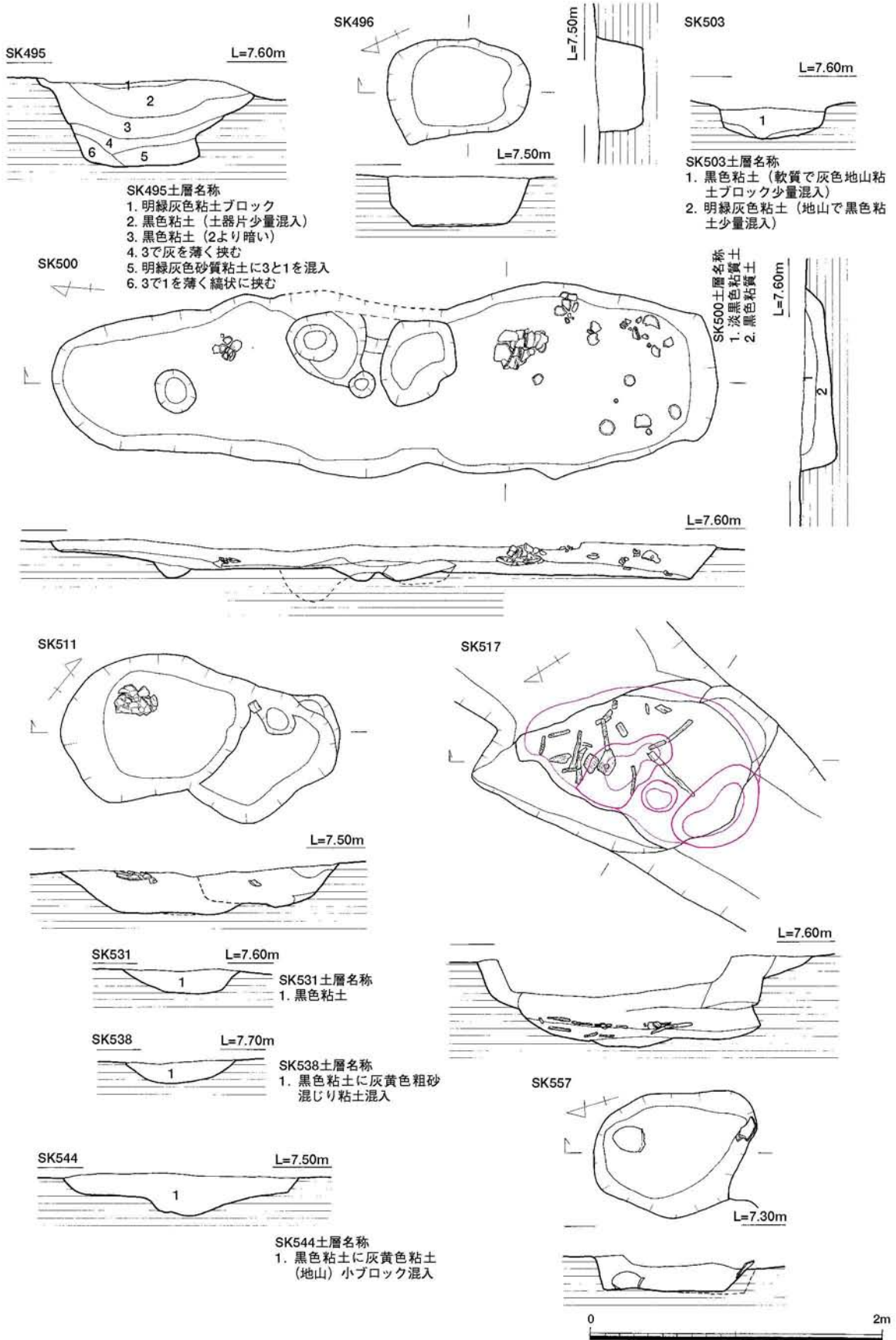


Fig.145 SK495・496・500・503・511・517・531・538・544・557 (1/40)

上げた痕跡が残り、特に頸・胴部間内面には粘土紐接合時の強い段が残る。601は小型壺の口縁部から頸部。602は小型壺の胴部で、前期に少量存在する算盤玉胴部の形態である。頸・胴部間内面に粘土紐接合の段が残る。頸部～胴上部には三本の平行沈線による複線山形文を施す。603は中型、604は小型壺の底部で、共に円盤貼付形である。605は精製深鉢の口縁部破片で、口縁先端部外側に薄く粘土を貼り付ける。内外面横方向のヘラミガキを施す。606は浅鉢の口縁部破片で、内外面に黒色磨研を施す。607は黒色磨研の精製高坏で、内外面ストロークの短いミガキ調整を丁寧に施して仕上げる。晩期の黒色磨研の浅鉢に脚部を付けた形態で、浅鉢から高坏への変化の過程を示す資料である。

672は2ヶ所孔のある前期の壺の胴部片利用した上製品。外面はヘラミガキ、内面はナデ。孔は両側からの穿孔である。

S42は石鎌を再利用した敲石か。横長7.45cm、縦幅4.9cm、厚み1cm以上を測る。左側面に叩の使用痕が残る。石材は泥岩か。

**SK501** O-24区、SK468を切る。直径約1.3m、深さは最大0.32mを測る円形プランの土坑である。埋上は黒色粘土である。

出土遺物(Fig.148) 608は弥生時代中期の中型壺の底部である。遺物の出土はこれのみである。

**SK502** P-21区、SK500の東側で検出された。主軸を北から南に取る楕円形プランの土坑であ

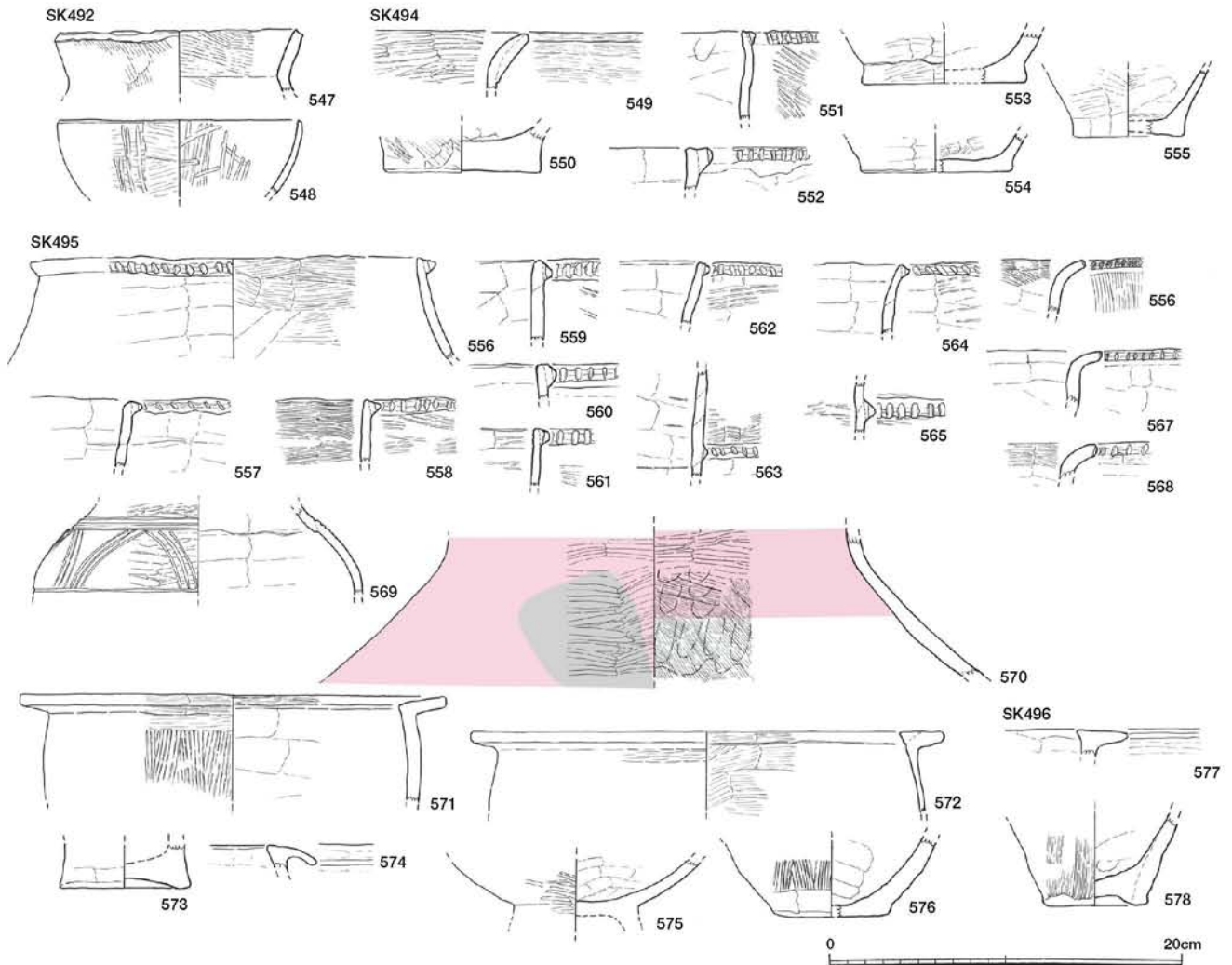


Fig.146 SK492・494~496出土土器 (1/4)

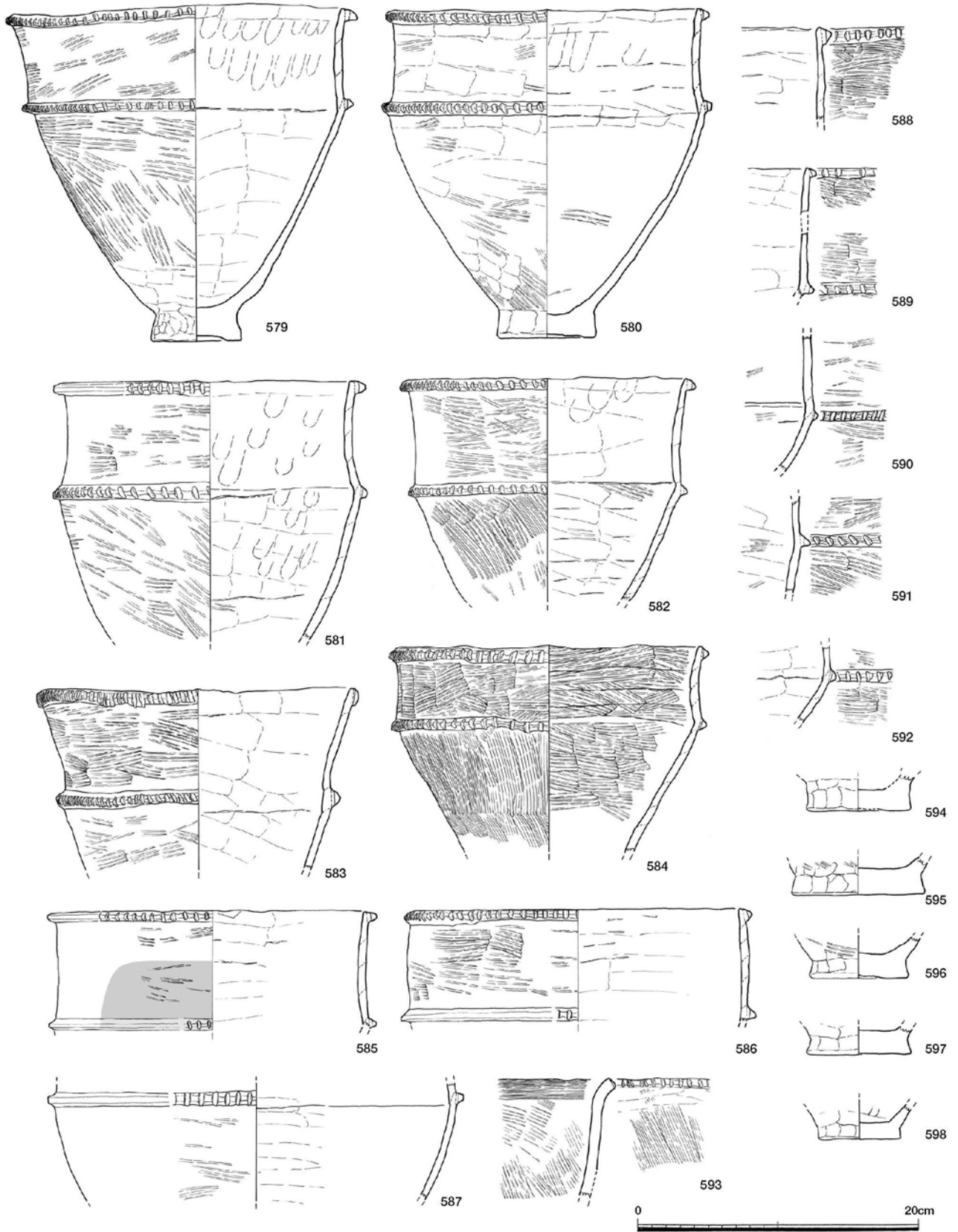


Fig.147 SK500出土土器 (1/4)

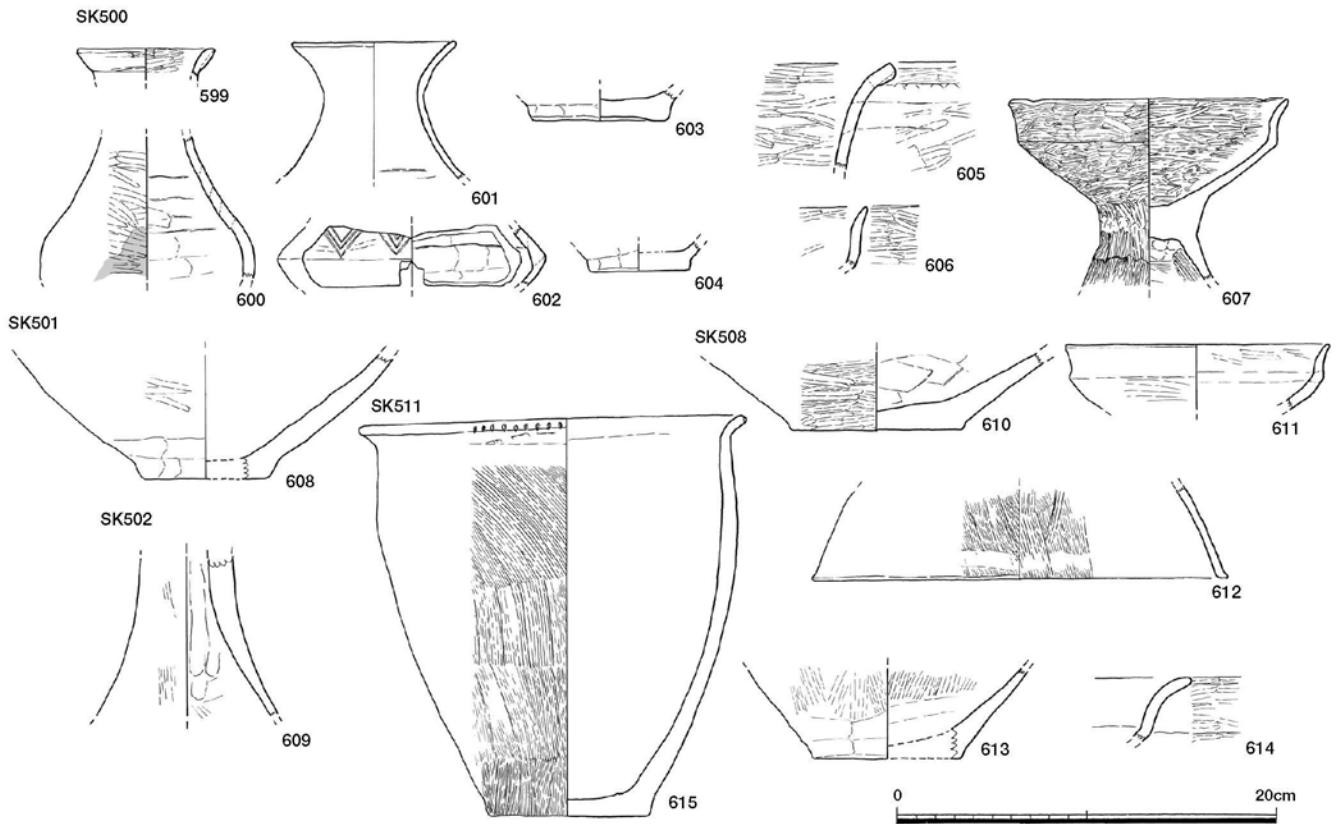


Fig.148 SK500～502・508・511出土土器 (1/4)

る。規模は長軸長1.66m、短軸長0.84mを測る。深さは浅く0.1m程である。埋土は黒褐色粘土である。

**出土遺物**(Fig.148) 弥生時代後期の甕の口縁部、胴部、底部の小片が出土した。

609は弥生時代後期の高杯の脚部である。

**SK503**(Fig.145) O-23区、SD505の南東側で検出し、SK494に切られる。主軸を北東から南東方向に取り、楕円形プランを呈する。規模は長軸長1.24m、短軸長0.8m、深さ最大0.21mを測る。埋土は軟質で灰黄色地山粘土ブロックを少量含む黒色粘土で、最下層に薄く黒色粘土が少量混じる明緑灰色地山粘土ブロック層が入る。

**出土遺物** 突帯文土器片、丹塗磨研土器片、甕胴部など弥生時代前期の土器小片が少量、黒曜石片が1点出土した。

**SK508** Q-22区、SD505の南西側で検出した。SX529を切る。主軸は北東から南西方向に取り、不整楕円形状プランを呈する。規模は長軸長2.86m、短軸長0.76mを測る。深さは最大で0.7mを測る。埋土は黒色粘土である。底面の形状などから見て風倒木痕か。

**出土遺物**(Fig.148) 弥生時代前期～後期の土器小片が多量に出土した。

610は弥生時代前期の中型壺の底部で、外面黒色磨研を施す。611は弥生時代前期の高杯の坏部である。612は高杯の脚部先端で、内外縦方向のハケメ調整。613は弥生時代後期の壺の底部。614は弥生時代後期の高杯の口縁部破片。

**SK511**(Fig.145、PL.62) M-25区、SK460の東側で検出され、SK596によって切られる。主軸は北東から南西方向に取り、楕円形プランを呈す。規模は長軸長1.25m以上、短軸長0.96m、深

さ最大0.28mを測る。埋土は暗灰黄色地山粘土ブロックが混じる黒色粘土で、土器は上面から出土するものが多い。

**出土遺物**(Fig.148、PL.100) 弥生時代前期の土器片及び黒曜石片が少量出土した。

615は如意形口縁の甕で、口唇下部から下端にヘラ状工具により浅く刻目をつける。外面は縦方向のハケメ、内面は横方向のナデ調整で、口縁部付近は内外横方向の強いナデを加え口縁を外反させる。時期は弥生時代前期後半である。

**SK517**(Fig.145、PL.62) O-24区、SD505の北東側で検出され、SD482と重複する土坑である。主軸を北東から南西方向に取り、北東側が細くなる楕円形プランを呈する。規模は長軸長2.05m、短軸長1.16m、深さは最大0.65mを測る。埋土は黒色粘土で青灰色の地山ブロックを多く含む。また埋土中には多くの自然木が埋まり、炭化米が出土している。

**出土遺物**(Fig.149) 刻目を持つ甕の口縁部・胴部破片、丹塗壺の口縁部片などが弥生時代前期の土器が多量に出土した。他には黒曜石片及び磨石が一点出土した。

616は弥生時代前期の壺の肩部で赤色顔料により有軸羽状文が描かれる。617は弥生時代前期の甕の底部である。

**SK519** P-20区で検出した土坑で、主軸を北から南方向に取り、楕円形プランを呈する。規模は長軸長1.8m、短軸長0.94mを測る。深さは最大で0.3mを測る。埋土は黒色粘土である。

**出土遺物**(Fig.149) 弥生土器の甕の胴部小片が少量出土した。

618は弥生時代中期の甕の底部である。

**SK530** P-22区、SD505の南側で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、楕円形プランを呈する。規模は長軸長1.76m、短軸長1.26mを測る。深さは浅く5～6cm程である。埋土は黒色粘土であるが、焼土ブロックが部分的に集中する。

**出土遺物**(Fig.149) 弥生時代後期～古墳時代前期の土器が出土した。甕・壺・鉢・高坏の破片など弥生時代終末から古墳時代初頭の土器が多い。他には蛇紋岩系の石片が少量出土している。

619は弥生時代後期の甕の口縁部。620は古墳時代前期の甕の頸部から胴上部。621は弥生土器の高坏の坏部と脚部の連結部。622は弥生土器の小型の鉢である。

**SK531**(Fig.145) 調査区中央付近、SK530のすぐ北東側で検出した。直径1.2mの円形に近い平面プランを呈し、深さ最大0.14mを測る。埋土は黒色粘土である。

**出土遺物** 逆L字口縁の甕の口縁部や、複合口縁壺片など、弥生時代中期から後期の土器片が少量、黒曜石薄片1点が出土した。

**SK538**(Fig.145) Q-21区、SC532の南西側で検出した。主軸を北から南方向に取り、楕円形プランを呈する。規模は長軸長2.16 m、短軸長0.82 m、深さ最大0.14mを測る。埋土は灰黄褐色粗砂混じり粘土が混入した黒色粘土である。遺物は出土しなかった。

**SK539** 調査区南側P-20区で検出した。主軸を西から東方向に取り、楕円形プランを呈する。規模は長軸長3.16m、短軸長1.16mを測る。深さは最大で12cm程である。埋土は黒褐色粘土で地山ブロックを混入する。

**出土遺物**(Fig.149) 古墳時代前期の壺や甕の口縁部、胴部小片が少量、粘土塊1点が出土した。

土器623は古墳時代前期の小型丸底壺である。

**SK544**(Fig.145、PL.62) P-22・23区ライン境界上、SD505の東側で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、長方形プランを呈する。規模は長軸長1.7m、短軸長1.2m、深さ最大0.28mを測る。埋土は灰黄褐色地山粘土小ブロックが混入した黒色粘土である。

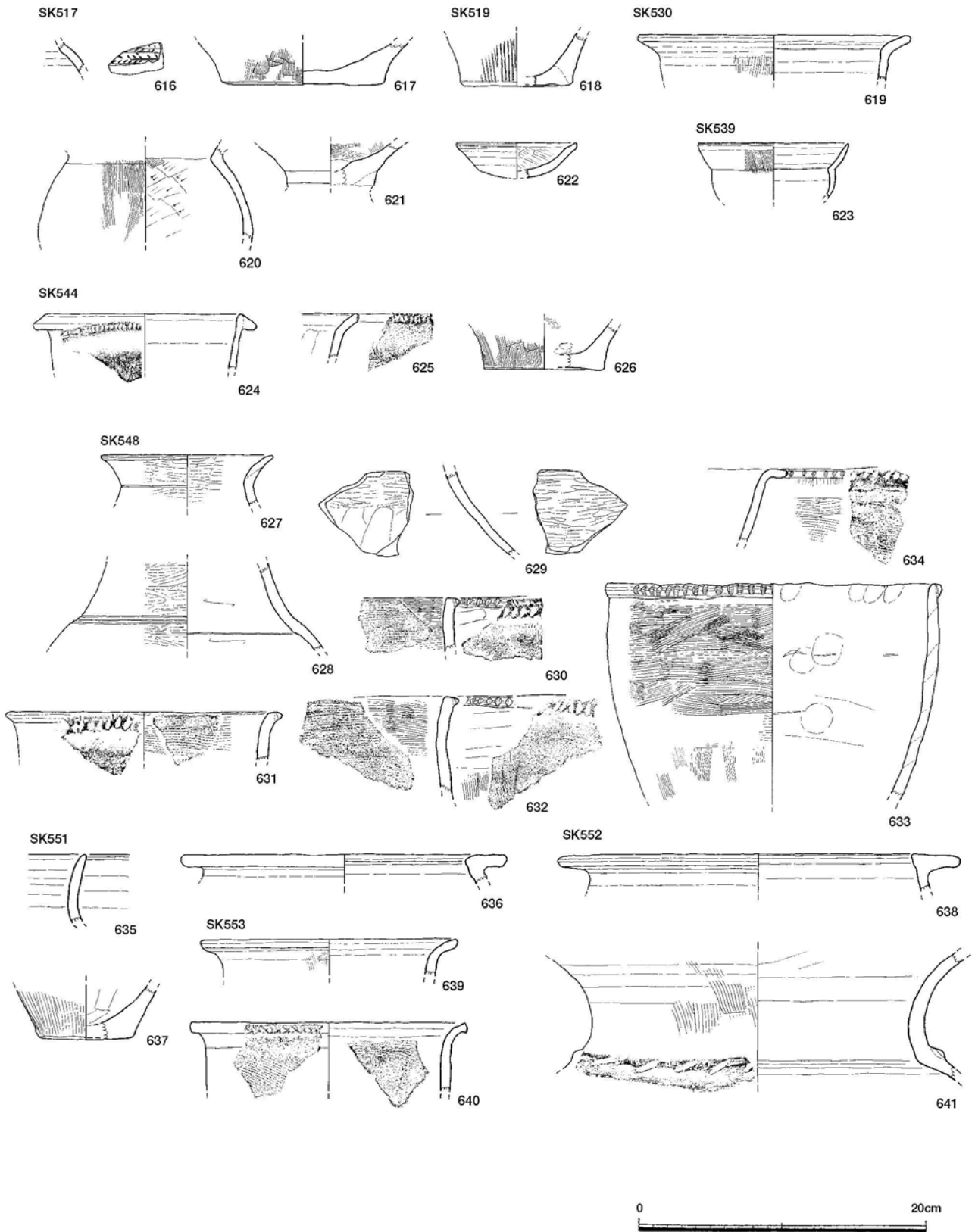


Fig.149 SK517・519・530・539・544・548・551・552・553出土土器 (1/4)

出土遺物(Fig.149) 弥生時代前期後半から中期前半の土器片が多量に出土し、黒曜石剥片・石核、粘土塊も少量出土した。

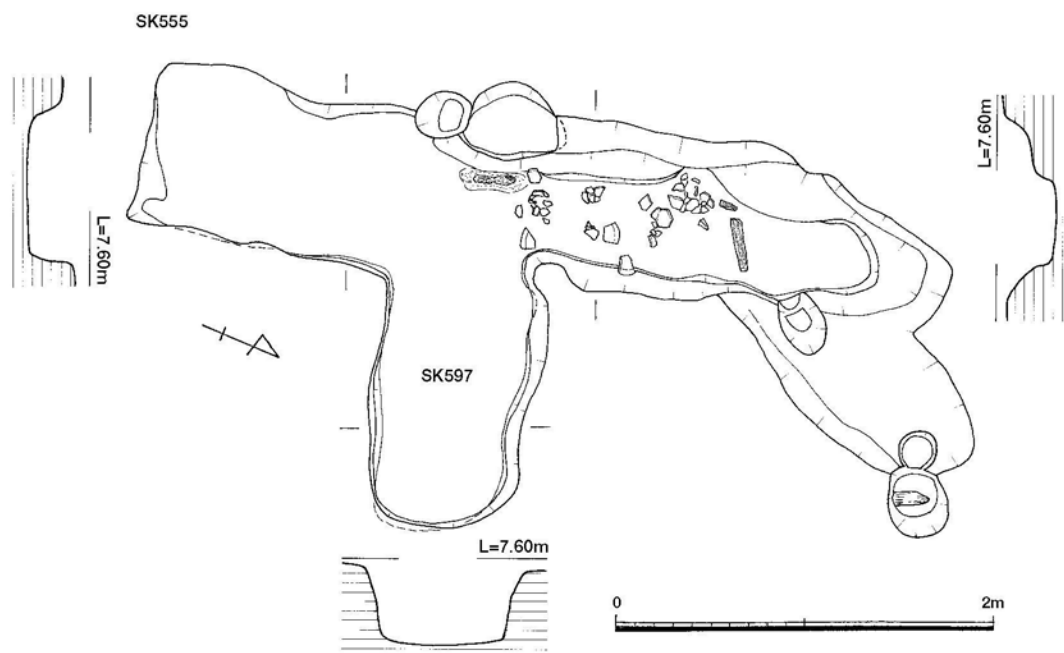


Fig.150 SK555・597 (1/40)

624は弥生時代中期初頭の甕で、口縁にやや垂れ下がり気味の突帯を付け先端に浅い刻目を入れる。625は弥生時代前期の如意形口縁甕で、口唇やや下気味にヘラにより浅めの刻目を密につける。口縁付近は内外横ナデを加える。626は弥生土器の甕の底部で、外面に縦方向のハケメを施す。

**SK548** P-23区、SD505のすぐ北側で検出した。主軸を北西から南東方向に取り、長方形プランを呈する。規模は長軸長1.66m、短軸長0.72mを測る。深さは最大で0.2m程である。

**出土遺物**(Fig.149) 突帯文期から弥生時代前期の土器が出土している。他に黒曜石剥片なども出土。

627・628・629は弥生時代前期の壺の破片である。627は精製の小型壺の口縁部で頸・胴部間に沈線を入れる。628は小型壺の肩部で、頸・胴部間愛面に三本の沈線を横走させ、内面には粘土紐接合の段が残る。629は中型壺の頸部破片で、外面ヘラミガキ調整、内面下部はナデ、内面上部はヘラミガキ調整が施される。630～633は刻目突帯文土器である。630・631は外面横ナデ、内面横方向のハケメ調整、632は外面口縁付近は横ナデ、胴上部以下縦方向のハケメ、内面横方向のハケメ調整である。633は砲弾型一条突帯文甕で、外面胴上部横方向のハケメ、胴下部縦方向のハケメ、内面ナデ調整である。以上のように4点の突帯文土器全てが条痕調整ではなくハケメ調整が用いられる。突帯及び口縁部の形態についても、口縁部に接するように突帯を貼り付けた後、口縁端部と突帯上面を一緒に横方向に丁寧になでることで、水平に近い面ができるという特徴を持つ。SK460やSK488の突帯文土器よりもやや新しく位置づけられようか。634は弥生時代前期の如意形口縁甕の口縁部破片で、口唇全面にヘラによる刻目を施す。外面は口縁直下に上から下へのハケメを施し、強い横ナデを加え、外反を強くする。それより下は横方向のハケメ調整を施す。内面はナデ調整である。

**SK551** O-22区、SD505の北東側で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、楕円形プランを

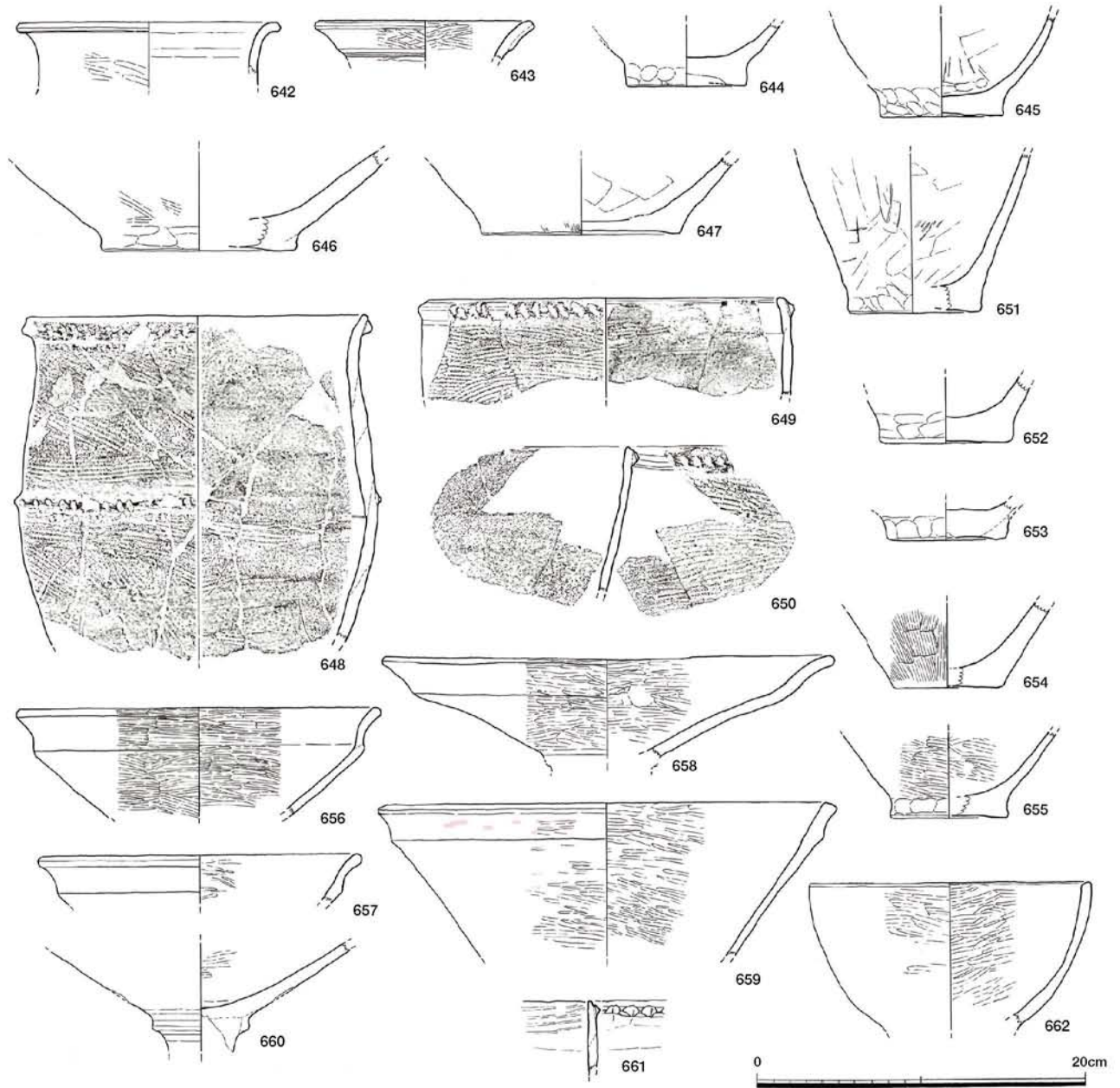


Fig.151 SK555出土土器 (1/4)

呈する。規模は長軸長2.16m、短軸長1.16m、深さは最大で0.14m程を測る。埋土は黒色粘土である。

出土遺物(Fig.149) 弥生時代中期後半頃から後期までの甕・壺の破片が多く出土した。

635は弥生中期の直口壺口縁部破片。636は弥生時代中期の甕口縁。637は弥生時代中期の甕の底部で、外面ハケメ調整を施す。

**SK552** O-22区、SD481の西側で検出した。SD481と重複するので正確な形状は不明であるが、不整形プランで、規模は1.6m×1.0m、深さは0.28mを測る。埋土は黒色粘土である。

出土遺物(Fig.149) 弥生時代中期中頃～後半の甕・器台などの小片が少量、砂岩片1点出土した。

638は弥生時代中期の甕口縁部。

**SK553** O-22区、SK597に西側を切られる。中央部が括れる楕円形を呈し、規模は長軸長4.4m、



短軸長最大2.2mを測る。深さは最大で0.15m程である。北壁沿いに焼土が集中する部分があった。埋土は黒色粘土である。

**出土遺物**(Fig.149) 弥生時代前期を中心に、後期までの甕、壺の破片が多量出土した。また、黒曜石剥片、石核、硅化木片などが少量出土した。

639は弥生時代前期後半の無刻目甕の如意形口縁。640は弥生時代前期後半の甕の如意形口縁で、口唇下端部にヘラによる刻目を施す。口縁内外に横ナデを施し、外面胴上部と内面口縁部のナデ直下に斜め方向のハケメを施す。641は弥生時代後期後半の甕の頸部で、頸・胴部間に突帯を貼り付け、上からハケメ工具による刻目を施す。

**SK555**(Fig.150、PL.62) P-22区、SD505の南東側で検出された。主軸を北西から南東方向に取り、長方形プランを呈する。規模は長軸長5.45m、短軸長1.08m、深さ最大0.3mを測る。東側と北側で他の土坑と切り合うが、そちらからの遺物も一緒に取り上げたので、SK555の遺物としてまとめて報告する。埋土は黒色粘土で、オリーブ灰色地山粘土ブロックを混入する。

**出土遺物**(Fig.151・152・154、PL.100) 突帯文土器・弥生時代前期の甕・壺・鉢などの破片が多く出土し、黒曜石剥片や焼成粘土塊、炭化物も出土した。

642～647は弥生時代前期の壺である。642は刻目突帯文期～弥生時代前期前半の壺の口縁部。643は黒色磨研の小型壺の口縁部で、口縁外面に粘土を貼り付けることにより肥厚させ段をつけ、その下に一条の沈線を施す。644・645は小～中型壺の底部、646・647は大型壺の底部である。648～650は刻目突帯文の甕である。648は二条突帯文甕で、屈曲部からわずかに内湾気味に立ち上がり、屈曲部から口縁部が非常に長い。口縁部と屈曲部に突帯を貼り付け、棒状工具による刻目を施す。屈曲部内面には粘土紐接合痕が明瞭に残る。いずれも外面は横方向の貝殻条痕調整、内面は貝殻条痕調整後ナデもしくは直接ナデを施す。649・650はいずれもヘラにより口縁部突帯に刻目をほどこす。661は口縁端部よりやや下がった位置に細い突帯を貼り付け、それをつぶすように指による刻目をつける古手の様相を示すものである。651～654は弥生時代前期の甕の底部で、654は外面縦方向のハケメ調整を施す。655～659は弥生時代前期の高坏もしくは浅鉢で、いずれも精良な胎土で黒色磨研される精製土器である。655は浅鉢の底部で、内外面横方向のヘラミガキを施す。656・657は精製の浅鉢もしくは高坏で、胴部に屈曲部を持つ。658は高坏で、胴上部で緩く屈曲し外反しながら口縁部に至る。659は浅鉢で、外面口縁付近には赤色顔料の痕跡がわずかに残る。

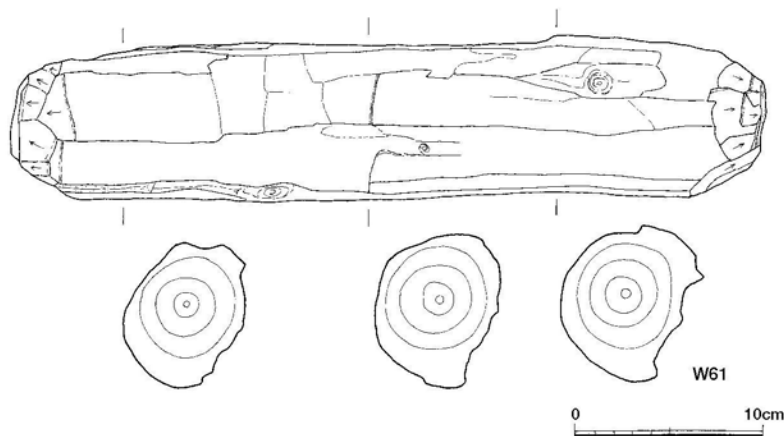


Fig.152 SK555出土木製品 (1/4)

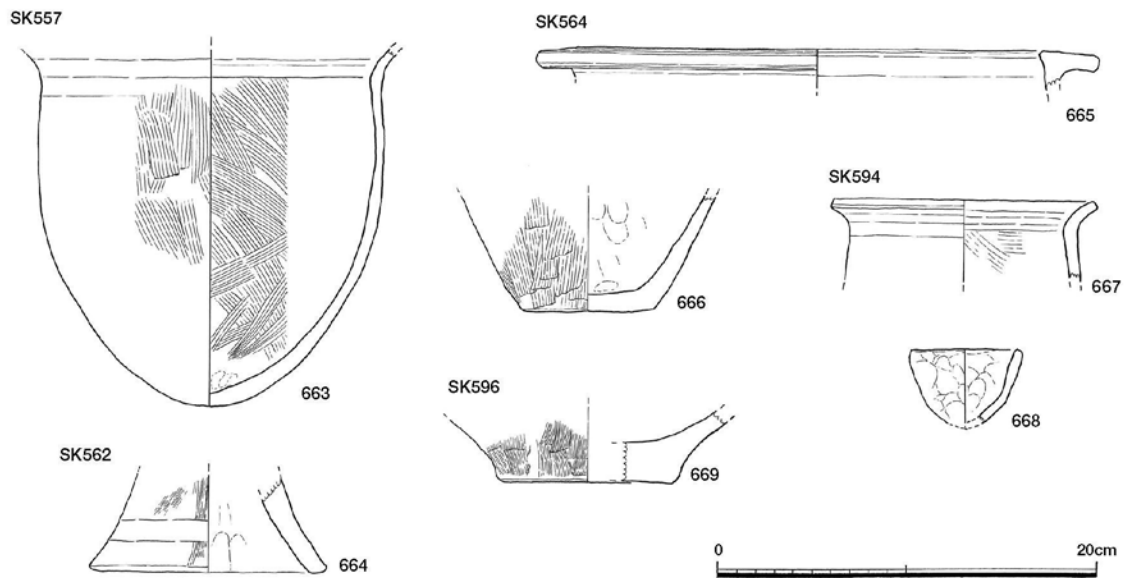


Fig.153 SK557・562・564・594・596出土土器 (1/4)

660は弥生時代前期の高杯の坏部と脚部の境で、境に突帯を貼り付ける。662は弥生時代前期の鉢で、内外ヘラミガキを施す。

674は紡錘形の土製投弾。全長4.6cm、最大径は2.3cm×2.4cmを測る。表面の欠損傷みがひどい。焼成はやや不良。

W61は両端と側面に削り加工を加えた丸太状の加工材。建物柱穴の礎板と思われる。

**SK557**(Fig.145、PL.63) S-22区、SX560の西側で検出した。南北方向にやや長い楕円形プランを呈し、規模は長軸長1.12m、短軸長0.87m、深さ0.23mを測る。底面は平坦で断面台形状を呈する。埋土は暗灰褐色粘土である。北壁沿いに完形の甕が横位で出土している。

**出土遺物**(Fig.153、PL.100) 弥生時代後期の土器が出土している。

663は底面直上から出土した弥生時代後期後半の甕で、内外ハケメ調整が施され、底部は丸底を呈す。他に、弥生時代後期の壺の胴部片が1点出土した。

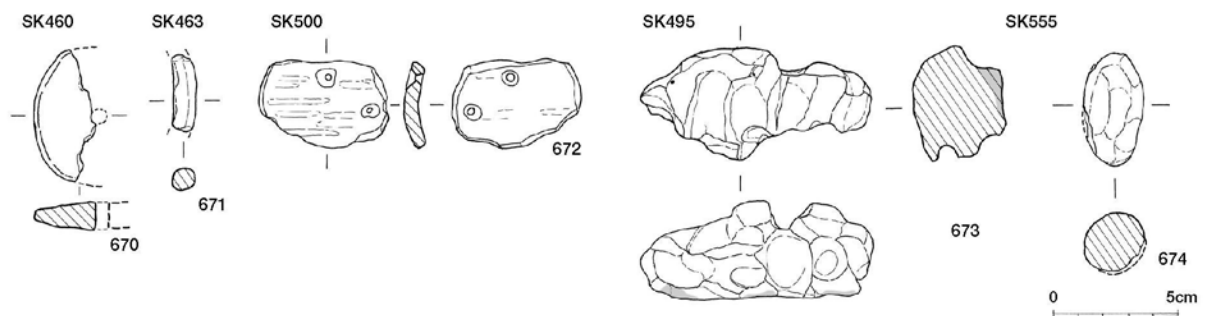


Fig.154 SK460・463・495・500・555出土土製品 (1/3)

**SK562** Q-21区、SK538の西側で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、長方形プランを呈する。規模は長軸長1.16m、短軸長0.68m、深さは10cmを測る。底面4隅で柱穴と考えられるピ

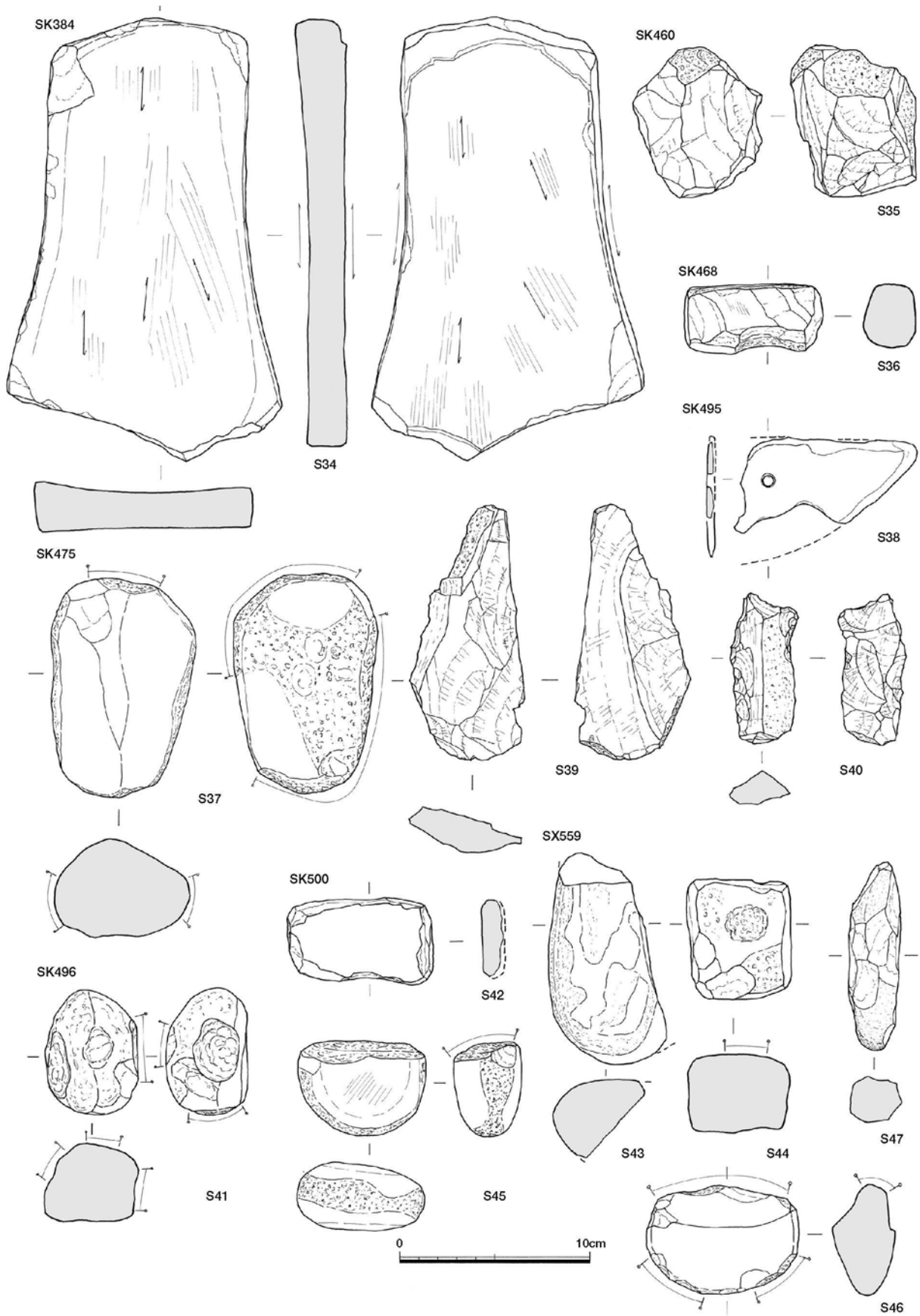


Fig.155 SK384・460・468・475・495・496・500 SX559出土石器 (1/3)

ットが検出された。埋土は黒色粘土である。

**出土遺物**(Fig.153) 弥生時代中期～後期の土器小片が少量、黒曜石剥片1点が出土した。664は弥生土器の器台脚部片。

**SK564** O-20区、SD388の北西側で検出した。平面楕円形プランを呈し、主軸は北西から南東方向に取る。規模は長軸長1.7m、短軸長1.1m、深さは0.3mを測る。埋土は黒色粘土で暗緑灰色地山粘土ブロックを含む。

**出土遺物**(Fig.153) 弥生時代中期から後期の土器片が少量出土。

665は弥生時代中期の甕の口縁部。666は弥生時代後期の甕の底部で、外面に縦方向のハケ目調整を行う。

**SK594**(PL.63) Q-23区、SD505の南西側で検出された不定形土坑である。主軸は南東から北西方向に取り、規模は長軸長5.8m、短軸長2.6m、深さは最大で約1mを測る。底面は狭く楕円状を呈す。建物柱穴を切っている。埋土は黒褐色粘土である。

**出土遺物**(Fig.153) 上層・下層両方から弥生時代後期を主体として前期後半から後期までの弥生土器片を多量に出土した。また下層からは黒曜石剥片が1点出土した。

667は上層から出土した「く」の字形を呈する弥生時代後期後半の甕の口縁部。668は下層から出土した小型の手捏ね土器で、内外に指頭圧痕が残る。

**SK596**(PL.62) M-25区、SK460の東側で検出され、SK511を切る。長方形プランを呈し、主軸を北から南方向に取る。規模は長軸長0.97m、短軸長0.79m、深さは最大0.27mを測る。埋土は黒色粘土である。

**出土遺物**(Fig.153) 669は弥生時代前期の丹塗り壺の底部。外面縦方向のハケ目後ナデを施す。他に遺物は出土しなかった。

## ⑥ その他の遺構(S X)

**SX434出土遺物**(Fig.157・166・168、PL.101・108) 遺構はN・O-20区にかけての浅い落込みで包含層の一部か。遺物としては弥生時代初めの突帯文土器から古墳時代前期迄の遺物が出土。

675～677は古墳時代前期の甕。675は小型甕口縁から胴部片。胴部外面は叩き後ヨコナデ、口縁部はヨコナデ、胴内面はヨコハケ調整。676は布留系の甕頸胴部。外面細かいハケ目後ヨコナデ、内面ヘラケズリ調整。677は庄内系の河内型とタタキ方向が似る。胴外面タタキ後ハケ目、口縁部内外はヨコナデ、内面はヘラケズリ調整。678は弥生時代後期中頃の甕。外面ハケ目、口縁部内外外面はナデでハケ目が残る。内面はヨコナデ調整。679は後期前半の小型壺。内外面粗いハケ目。外底部にもハケ目とナデ調整。外面下半に黒斑がある。

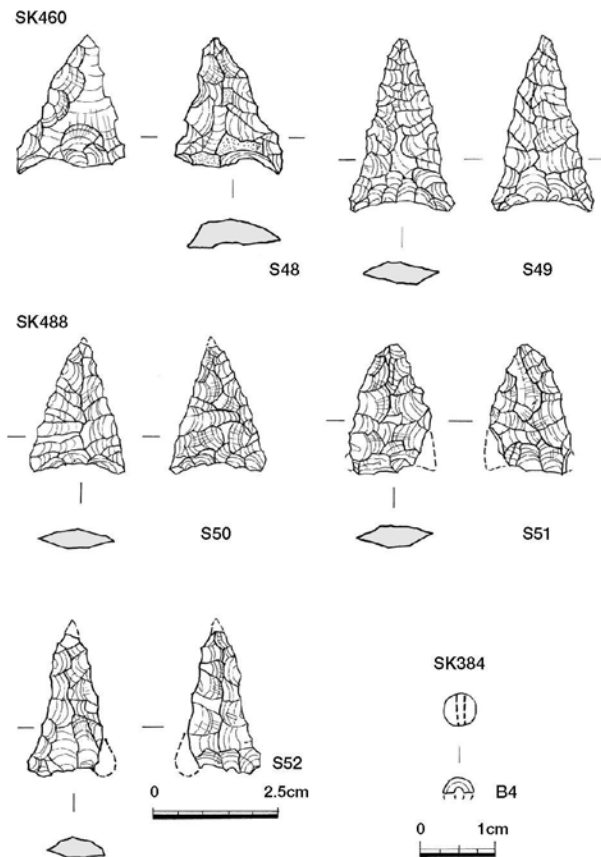


Fig.156 SK460・488出土石器 (2/3)  
SK384出土玉 (1/1)

810は土製投弾。一部欠損するが全長3.7cm、最大径は2.4cmを測る。断面は円形で、やや摩滅するが丁寧なナデ仕上げ。

S53は小型の扁平片刃石斧。刃部は欠損するが、残存長3.7cm、幅1.65cm、厚み0.9cmを測る。表面は研磨仕上げ。石材は砂岩か。

**SX435・436(PL.63)** 調査区南東隅で検出した大型の不定形土坑。東壁にかかり全形は不明であるが、南北二ヶ所の落込みがあり、北側をSX436、南側をSX435とする。両遺構全体の確認規模は長軸長20m、短軸長9mで、最大深さはSX435で約0.86m、SX436で0.9mを測る。埋土は黄白色粗砂が主体である。第3面SD190の基盤下であり、流路の一部の可能性はある。

**SX435出土遺物(Fig.157・158・167・168、PL.100・101・108)** 上層から下層迄、弥生時代前期から古墳時代前期迄の土器が出土している。時期的には後期のものが多く、遺構時期もその時期である。他に黒曜石剥片や紡錘車などが出土。古墳時代の遺物は上の遺構からの混入と考える。

680～689は上層出土。680は古墳時代前期の鉢口縁部細片。内外面ナデ調整。681～684は弥生土器の壺。681は後期前半の直口壺口縁部。頸部に三角突帯を貼り付ける。口縁部内外は指ナデ調整。682も後期前半の袋状口縁壺。頸部に貼り付けの三角突帯が巡る。外面ハケ目、口頸部内面上半にヨコハケ目調整。683・684は丹塗り壺。683は須玖Ⅱ式中期後半の広口壺上半部。口頸部外面はナデ後ヘラによる縦方向の暗文風のミガキ。胴部はヨコヘラミガキ調整。口頸部内面は指ナデ後ヨコヘラミガキ。胴内面はナデ調整。684は底部である。別個体であるが、同形態のものである。胴外面はヘラミガキ、内面はナデ調整。683は外面から口頸部迄丹塗り、684の外面は丹塗り。685は後期の小型甕。胴部外面はハケ目後ナデ消し、その他はヨコナデ調整である。686は後期前半の鉢。口端部はやや内傾し、凹凸がある。体部外面はタテハケ目、口縁部内外面はヨコナデ、体内面はナデ調整。687は弥生時代後期中頃の高坏坏部。内外面は丁寧なヘラミガキ調整で、内面には工具痕が残る。688・689は刻目突帯文土器甕の底部で木葉痕が残る。690は中期の広口壺頸部片。内外面はナデ調整。691は中期壺の底部。底部はやや上底で、外面ヘラミガキ、内面はナデ調整。

S54は砥石片。残存長7.55cm、最大幅3.8cm、最大厚1.4cmを測る。全面砥面として使用。石材は粘板岩。S55は外湾刃半月形の石庖丁片。残存長6.1cm、幅4.2cm、最大厚0.6cmを測る。やや欠損するが研磨仕上げである。円孔は径0.7cmを測る。石材は輝緑凝灰岩。S56は紡錘車の破片。復元直径は5.8cm、孔径は0.8cm、最大厚0.7cmか。表面研磨仕上げ。石材は滑石。S57は軽石の浮子。全長7.7cm、最大幅4.4cmを測る。左側面中央に紐掛けのノッチがある。S58は大型の石錘。石材は滑石である。長軸径13.5cm、最大厚5.9cmを測る。表面は粗い削り仕上げ。中央部にノミ状工具による穿孔がある。S59は各面剥離目面の石核。下小口面には二次調整痕がある。石材は頁岩か。

692～701は下層出土。692は弥生時代中期中頃の鉢。外面はナデでハケ目が僅かに残る。内面はナデ。693・694は弥生時代中期の須玖Ⅰ式の壺。693は鋤先状口縁壺口縁部。694は口が窄まる短頸壺。いずれも器表面の摩滅はひどいがヨコナデ調整か。695～697は逆L字形の口縁を持つ中型甕で、須玖Ⅰ式期のもの。697の頸部には三角突帯が1条貼り付く。胴部外面はハケ目とナデ、口縁部外面から内面はヨコナデ調整。698・699は中期の甕底部。いずれも外面はタテハケ目、内面はナデ調整で指押え痕が残る。外底部はナデ。700は後期前半の鉢。上層の破片と接合している。口端部は内傾し、凹凸がある。外面タテハケで、口縁部外面から内面はナデ調整。701は突帯文土器の壺口縁部か。外面は摩滅し調整は不明、内面は板ナデ調整。

W62・63は板材。縦長16.0cm・17.7cm、横幅6.0cm・5.7cm、厚み0.8cm・0.9cmを測る。表面は丁寧な削り仕上げで、両小口は使用によるのか磨滅が著しい。スギの柂目材である。W64は斜めに加工さ

れたヘラ状の薄い板材。全長17.9cm、最大幅2.2cm、厚み0.2cmを測る。W65は先端を四面から削り込んだ棒状の製品。断面楕円形の芯持材。残存長15.4cm、径は2.7cm×1.8cmを測る。頂部は欠損が著しいが斜めの削り。

**SX436出土遺物** (Fig.157~159・166~169、PL.101・109) 702~713は上層出土。702・703は須恵器。702は甕口縁部で下層と接合。口縁部内外面回転ヨコナデ、体外面はタテ平行タタキ、内面はナデ調整。5世紀のもの。703は甕胴頸部片。回転ヨコナデ調整で、外面灰カブリする。704~706は土師器。704は古墳時代初めの小型器台。内外面ヘラミガキ調整。705は高坏脚部。ナデ調整で外面ハケ目が残る。706は小型の甕。胴部内外面はハケ目。口縁部はヨコナデ調整。707は後期前半の甕口縁部。胴部外面はハケ目、口縁部内外面はハケ目後ナデ、胴部内面はナデ。708・709は中期の甕で口縁部は逆L形を呈す。胴部外面はハケ目、口縁部内外面はヨコナデ、胴部内面はナデ上げ。709は大型甕で、頸部に1条の三角突帯が付く。胴部外面はハケ目で、口縁部外面から胴部内面にかけてはヨコナデ調整で、内面ススが付着する。710は後期前半の高坏坏部。内外面の調整はヘラミガキ。内面屈曲部はハケ目後ミガキ調整。711・712は中期後半の鉢で、いずれも口端部は平坦を呈す。711の口縁部は内外ヨコナデ調整で、体部内外面はハケ目が残る。712は大型で復元口径は22.8cmを測る。内外面調整はヨコナデから板ナデやナデ。713は中期後半の丹塗りの蓋。直径0.5cmの円孔が両側2個1対で穿たれる。外面ヘラミガキ、口縁部外面から内面はナデ調整で、奥には指押え痕が残る。

714~725はSX436下層出土。714~716は壺。714は後期前半の袋状口縁壺。頸部には1条の三角突帯が付く。頸部外面はタテハケ目、口縁外面から内面にかけてはナデ調整。715は小型壺胴部片。下膨れで最大胴径は13.8cmを測る。外面剥落がひどいが粗いハケ目、内面もハケ目調整で、頸部に粘土帯接合面が残る。外面黒斑がある。716は無頸壺。胴部には二条の突帯が巡る。外面突帯下はタテハケ目、内面は強いハケ目調整。口縁部外面に黒斑がある。717・718は後期中~後半の中型甕。717は内外面ハケ目調整。718は口縁から胴部片。胴部外面はハケ目、口縁部外面はハケ目後ナデ、内面は板ナデ調整で、工具痕が残る。外面ススが付着する。719・720は後期前半の底部片。719は壺。内外面粗いハケ目。底部はナデ調整。720の胴部外面はタテハケ目、内面はナデ上げ。外底部はナデ調整。外面黒斑がある。721~723は鉢。721は丸みを持った体部で平底。外面の調整はナデ上げ、内面は粗いハケ目調整。外面には焼成前剥落がある。722・723は手捏のミニチュアの鉢。722はナデ調整で指押え痕が残る。723は外底に黒斑がある。724は後期前半の大型の甕で頸部に突帯が巡る。内外面ハケ目調整。725は支脚で、復元底径は8cmを測る。内外面指ナデ調整。

811は紡錘車。完形で、径5.2cm×5.3cm、厚み0.7cmを測る。中央に0.6cmの円孔が空く。812は土器片を打ち欠いて利用した土製円板。径は4.2cm×5.2cm、厚み0.8cmを測る。ナデ調整である。813・814は不明粘土塊。813はハケ目調整痕がある焼成粘土塊。814は手捏ねの焼成粘土塊。

S60は上層出土、他は下層出土である。S60は大型の石庖丁未製品片。両側に穿孔痕が残る。残存長は9.9cm、最大幅7.2cm、最大厚0.4cmを測る。石材は粘板岩か。S61は小型の扁平片刃石斧。全長7.1cm、幅2.6cm、最大厚0.9cmを測る。全面研磨仕上げ。刃部は使用で一部欠損する。S62は磨製石斧片。基部のみ欠損品で残存長6.85cmを測る。雑な研磨仕上げで、敲打痕が全面に残る。石材は安山岩。S63は外湾刃半月形の石庖丁片。残存長9.4cm、幅5.8cm、最大厚0.8cmを測る。円孔は2ヶ所で径は1.3cmを測る。丁寧な研磨仕上げ。石材は輝緑凝灰岩である。S64は石斧の基部片を再利用した敲石。全長5.6cm、幅6.65cm、最大厚3.7cmを測る。表面には敲打調整痕が残るが、下小口面は使用痕である。石材は砂岩。S65は紡錘車で、直径5.1cm、最大厚0.65cm、孔径0.7cmを測る。

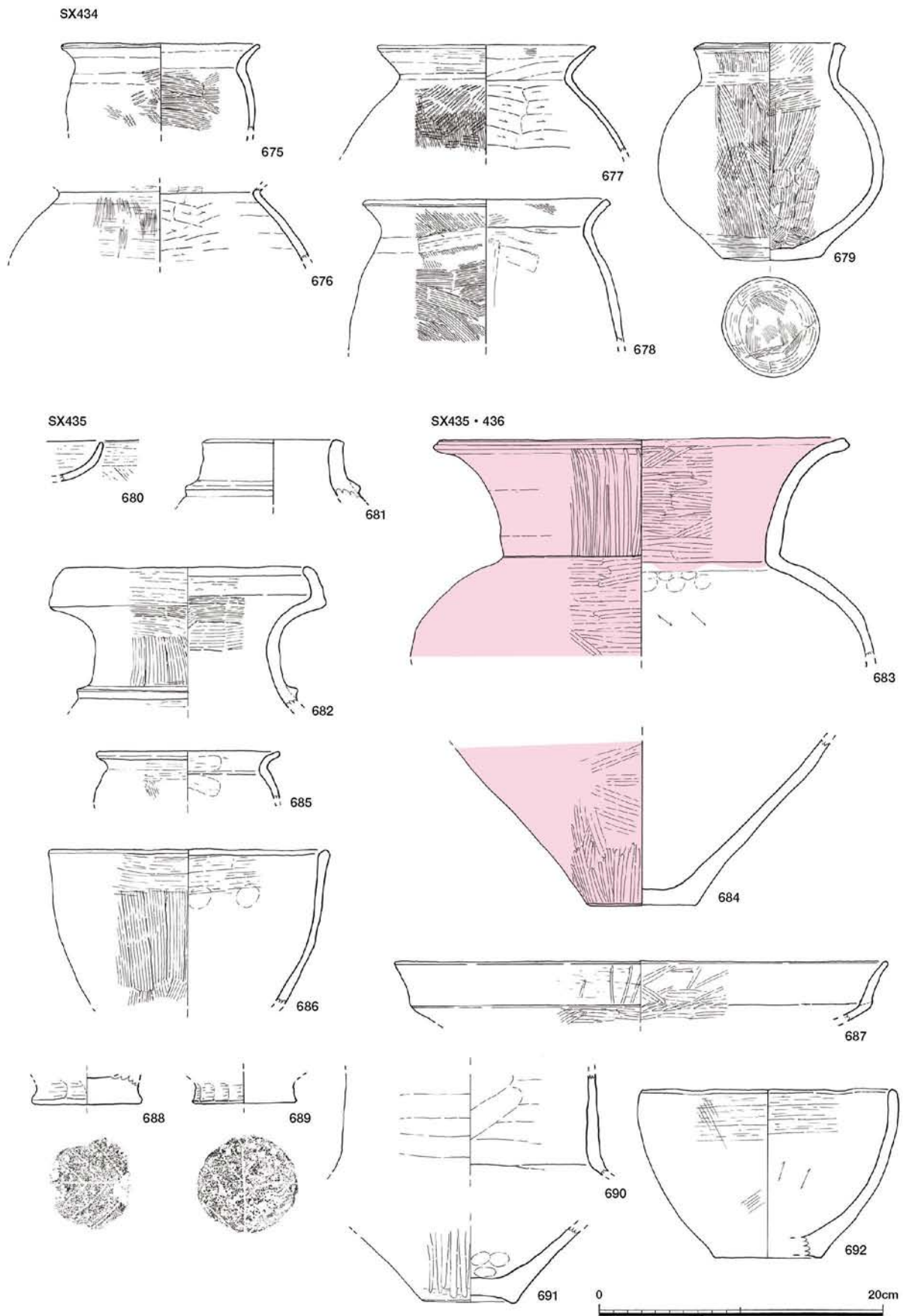


Fig.157 SX434~436出土土器 (1/4)

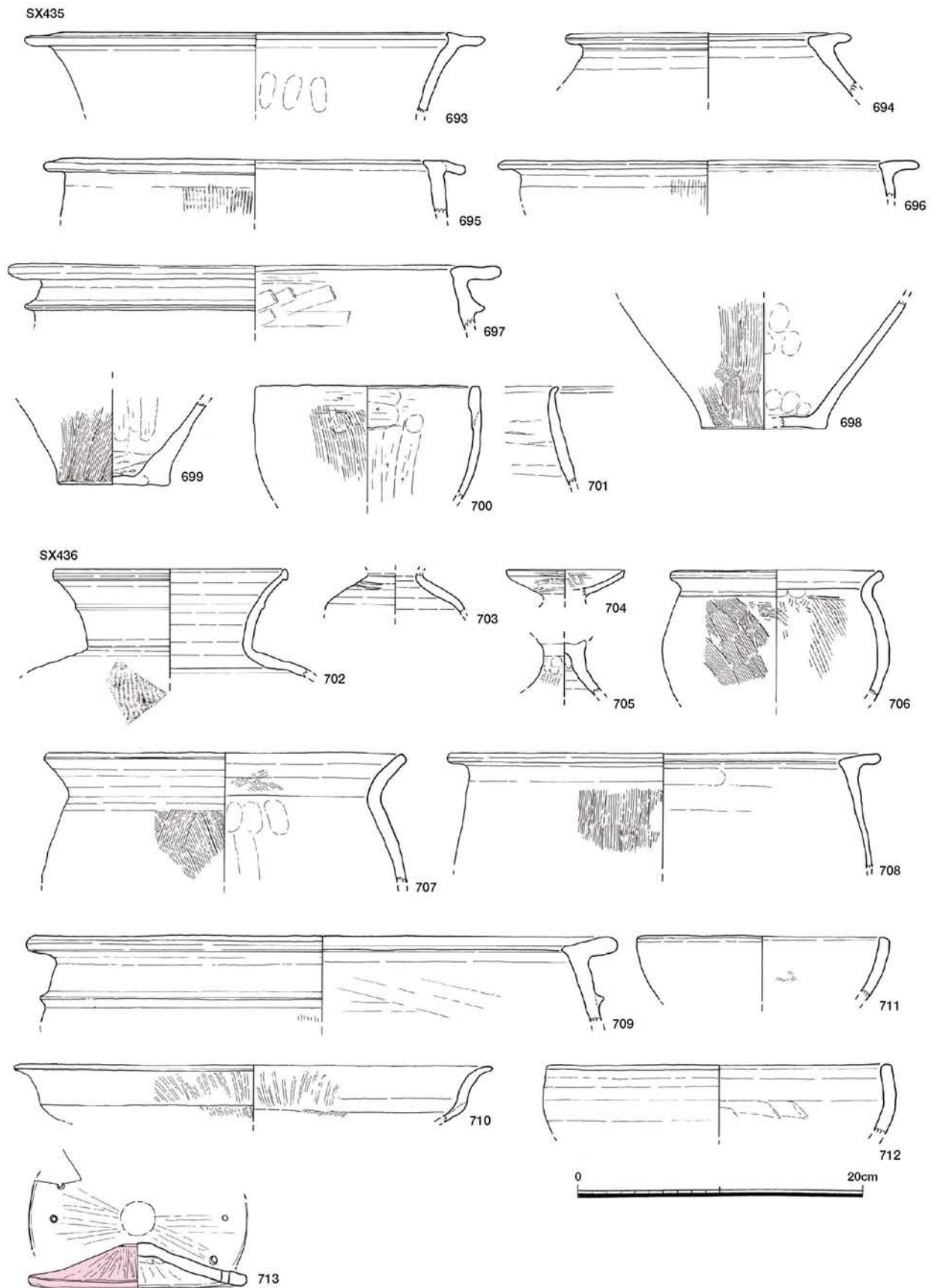


Fig.158 SX435・436出土土器 (1/4)



表面丁寧な研磨仕上。石材は蛇紋岩。S66は扁平な石錘片。左と下側面に挟りがある。石材は滑石か。S67は砥石で上端を欠損する。全長13.9cm、幅9.3cm、最大厚2.2cmを測る。上・底面、左右側面は使用面で擦痕が残る。表面には夾雑物が取れたのか窪みが多い。石材は粘板岩か。

W66は反りを持った板材で容器の一部か。残存長20.1cm、最大幅7.9cm、最大厚1.1cmを測る。樹種がムクロジの板目材である。

**SX443出土遺物**(Fig.159) 弥生時代前期後半の遺物が出土。

726は板付Ⅱ式の如字形口縁甕片。口端部にはハケ目工具による刻目が付く。外面ハケ目後ナデ、内面はナデ調整。

**SX445出土遺物**(Fig.159) 弥生時代前期の遺物が出土。

727は板付Ⅱ式の如字形口縁甕片。口端部にはへら状工具による刻目が付く。内外面はナデ調整。

**SX458出土遺物**(Fig.159) 弥生時代前期から中期前半までの土器が出土している。

728は板付Ⅰ式の甕口縁部細片。口端部にへら状工具による刻目が入る。内外面はハケ目後ナデ調整。729は突帯文土器夜白Ⅱb式の甕。口縁部に工具による刻目突帯が貼り付く。内外面貝殻条痕後ナデ消し。730・731は弥生時代前期の板付式土器底部片。730は円盤貼付気味の底部で、胴部外面タテハケ目、底部と内面はナデ調整。731は小型壺の底部。円盤貼付で、外面丁寧なミガキ、内面はナデ調整。外底接合痕が見える。

**SX472出土遺物**(Fig.159) 弥生時代前期の土器が出土している。

732は小型鉢の胴底部。外面へらミガキ、内面ナデ調整で丁寧な作り。内面に黒斑がある。

**SX484出土遺物**(Fig.159) 弥生時代前期から古墳時代前期の土器や片刃石斧片などが出土。

733は古墳時代前期の小型丸底壺片。外面丁寧なナデ、口縁内面は口縁ハケ目、内面はナデ調整。734・735は弥生土器。734は壺で、頸部に三角突帯が巡る。調整は丁寧なナデ。外面に黒斑がある。735は椀形の鉢。外面はハケ目をナデ消し、内面はナデ調整。

**SX523**(Fig.160、PL.64) R-20区包含層中で検出した土器群。本来何らかの遺構に伴うものと思われるが、掘り込みは確認出来なかったの。弥生時代後期中頃から終末の土器が多く、また完形の小型壺が多いことから祭祀遺構の可能性はある。

**出土遺物**(Fig.162・163、PL.102・103) 738～751は壺。738～740は小型壺でほぼ同形態。直口する口縁で、胴部はやや張り稜を持ち、底部は平底気味。738は完形。外面へらミガキ、内面と外底部はナデ調整。739は胴部から底部片。外面はやや摩滅するがナデで底部近くはハケ目が残る。内面はナデ調整。740は口縁から胴部片。口縁部は僅かに開き、胴部最大径は下に下がる。741・742は広口の壺で、口縁部は「く」字状で短く開く。741は完形で、底部に径2cmの孔が穿孔される。胴外部はへらミガキ、口縁部はヨコナデ、内面はハケ目、底部はナデ調整で、内面には指押え痕が残る。742の胴部外面はへらミガキ、口縁部内外面はヨコナデ、内面はナデで胴部下半はハケ目後ナデ調整。いずれも外面には黒斑がある。743は細頸壺の口縁部。頸部径は6cmを測る。外面タテハケ目後ナデ、内面はナデ調整でシボリ痕が残る。744・745は中期後半の広口壺。744は頸部に1条の三角突帯が付く。器表面は摩滅するがナデ調整で、内面には指押え痕とハケ目が残る。745は口縁部が外反し、口端部が跳ね上がる。頸部には2条の三角突帯が巡る。外面は口端部と突帯部がヨコナデでその他はタテ・ヨコ・ナナメのハケ目、内面もナデとナナメハケ目調整である。746～750は後期中頃の袋状口縁壺。746は復元完形。頸部と胴部中央に突帯が1条ずつ巡る。調整は外面頸部から胴部上半はハケ目、胴部下半は板ナデ、内面はハケ目後ナデ消し。外底部はハケ目後ナデ消しで、十字のへら記号が入る。747は口縁部。口縁内外面はナデで、外面には櫛目工具に

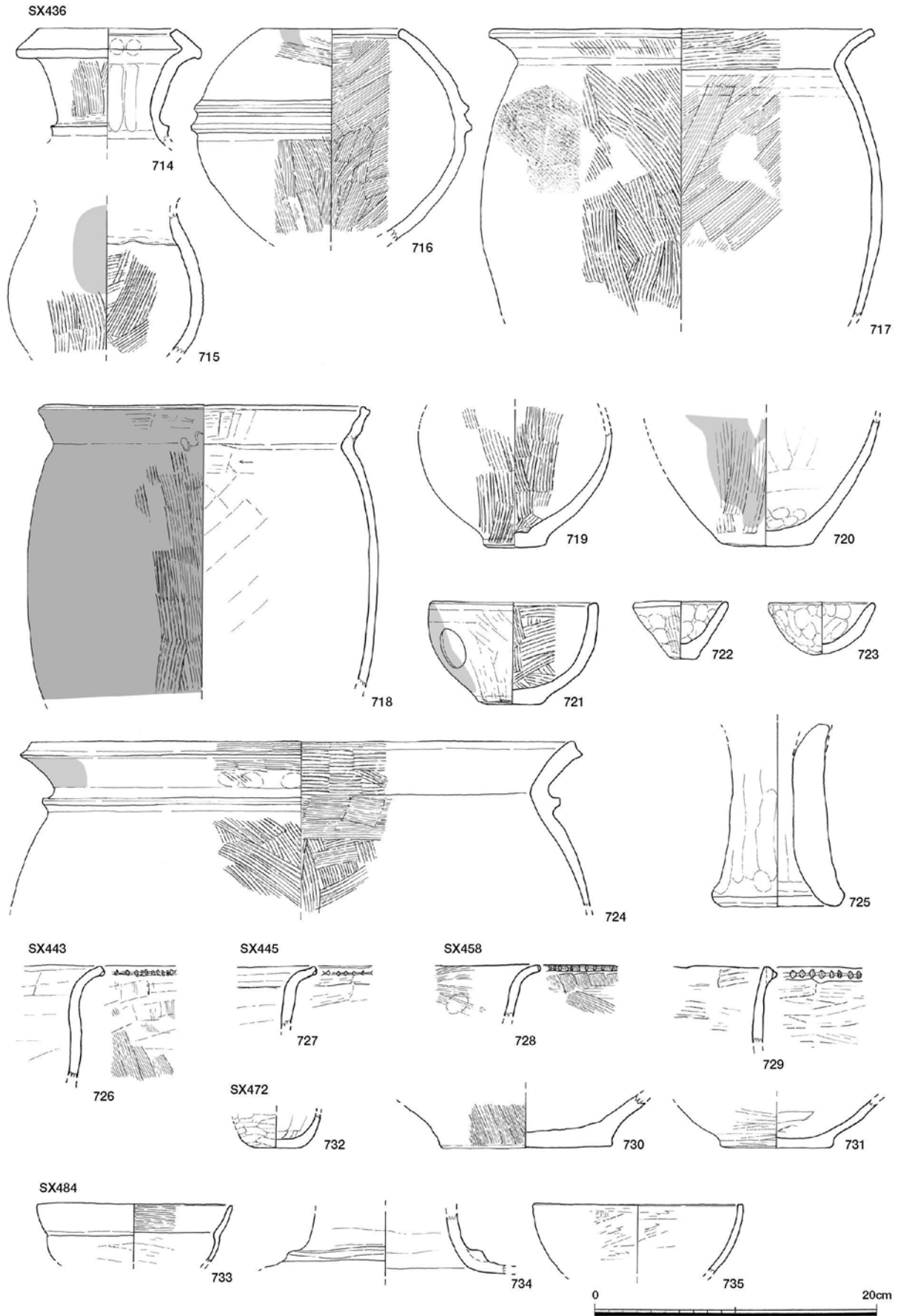


Fig.159 SX436・443・445・458・472・484出土土器 (1/4)

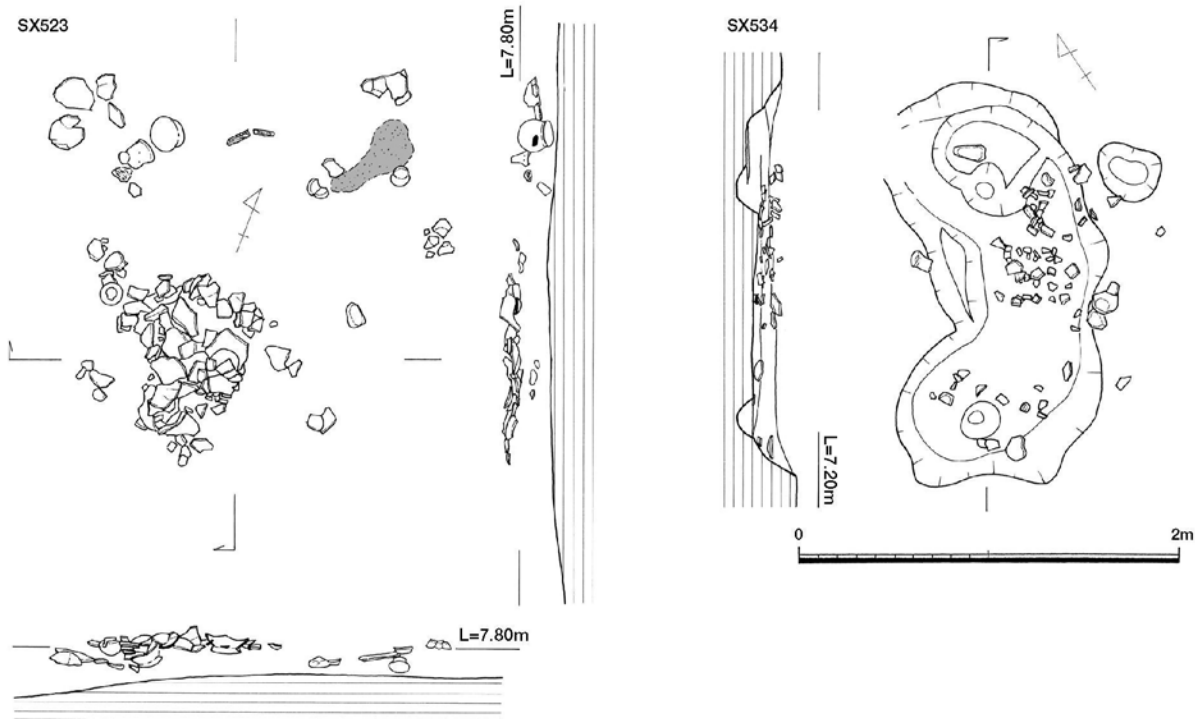


Fig.160 SX523・534 (1/40)

よる円弧状の連続文が入る。748は口頸部片。頸部に1条の三角突帯が巡る。摩滅がひどいが、ハケ目後ナデ調整か。749・750は頸胴部片で、頸部と胴部に突帯が1条ずつ巡る。胴部突帯は刻目が付く。749の調整は外面胴部突帯上半はハケ目、下半は板ナデ。内面上半はハケ目後ナデ、下半はナデ。底部も板ナデ。750は調整が胴部突帯下半ハケ目後ナデ、内面は粗いハケ目後ナデ、底部内外面はナデ。751は後期の大型壺又は甕の底部。調整は外面タタキ後ハケ目後ナデ、外底部にかけてナデと板ナデ、内面は板ナデで、内底には粗いハケ目が残る。752は後期後半から終末の甕。調整は外面は口縁部が粗いタテハケ目、胴部は目の細かいナメハケ目、内面は粗いハケ目。胴部外面には内容は不明だが細い線刻絵文様が入る。又黒斑がある。753は底部。外面はハケ目とナデ、

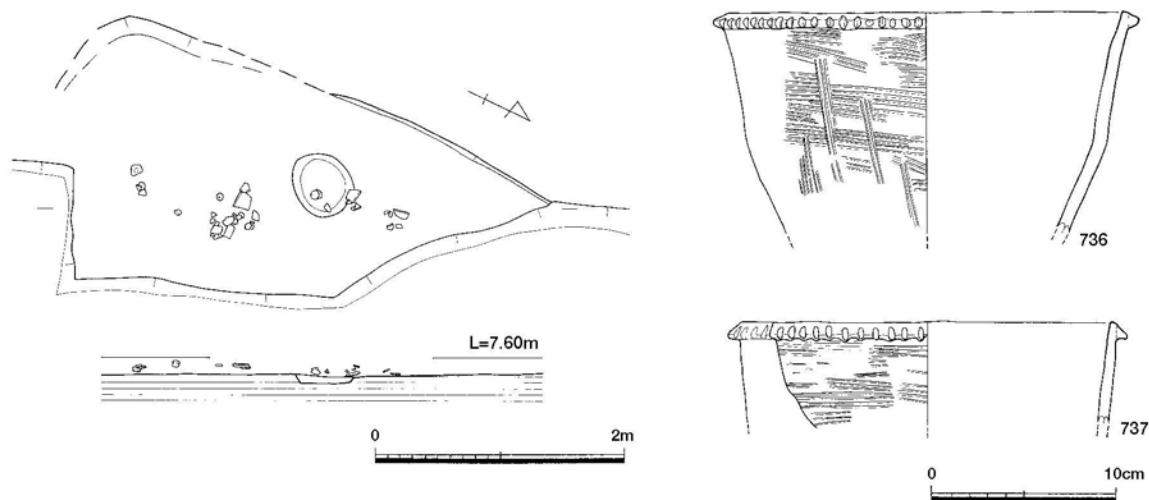


Fig.161 SX528及び出土土器 (1/60・1/4)

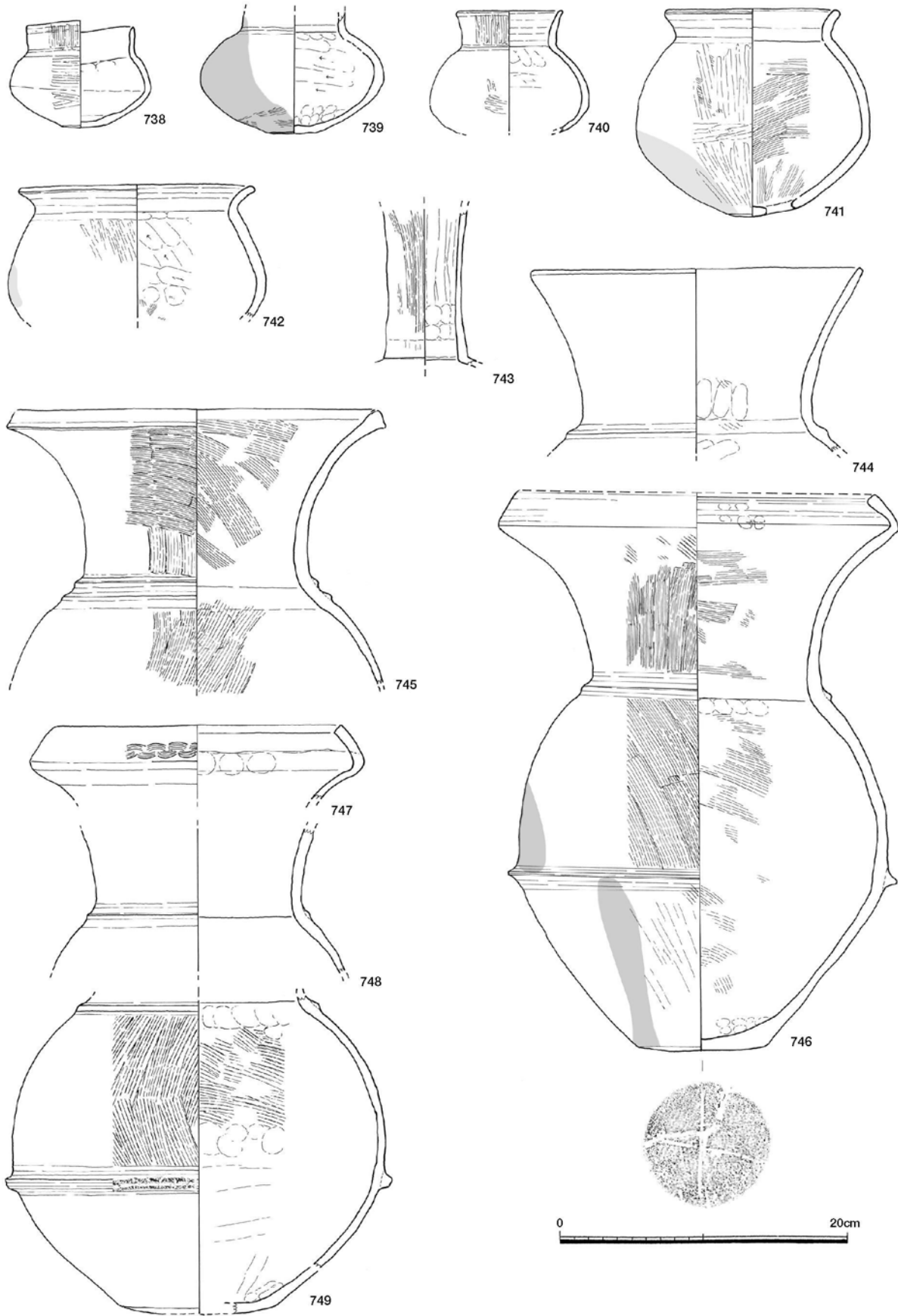


Fig.162 SX523出土土器① (1/4)

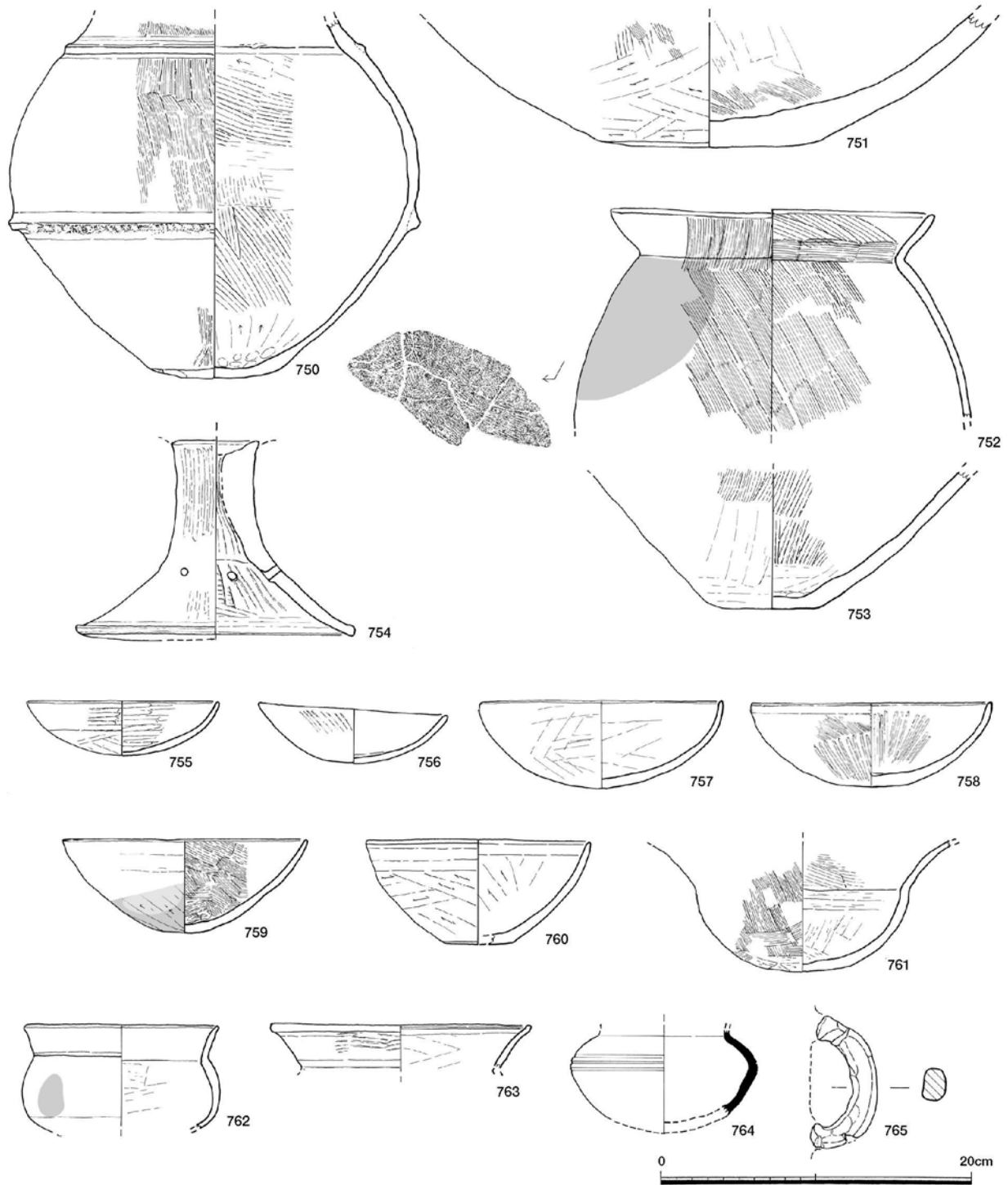


Fig.163 SX523出土土器② (1/4)

内面はハケ目後ナデ。外底はナデ調整。754は高坏脚部。裾部には4ヶ所直径5mmの円形透孔がある。外面へラミガキ、内面ハケ目後ナデ調整。755~761は鉢で弥生時代終末頃のものか。755~757は丸底のもの。755の口縁部外面から内面はへラミガキ、外底部はナデ調整。756はナデ調整で、外面上半は粗いハケ目が残る。757は器表面の摩滅はあるがナデか。758・759はやや平底気味の底部のもの。758の調整は内外面へラミガキであるが、口縁部外面は細かいハケ目。759の外面上半はナデで底部はケズリ後ナデ、内面は細かいハケ目調整。外面には黒斑がある。760は平底の鉢。内

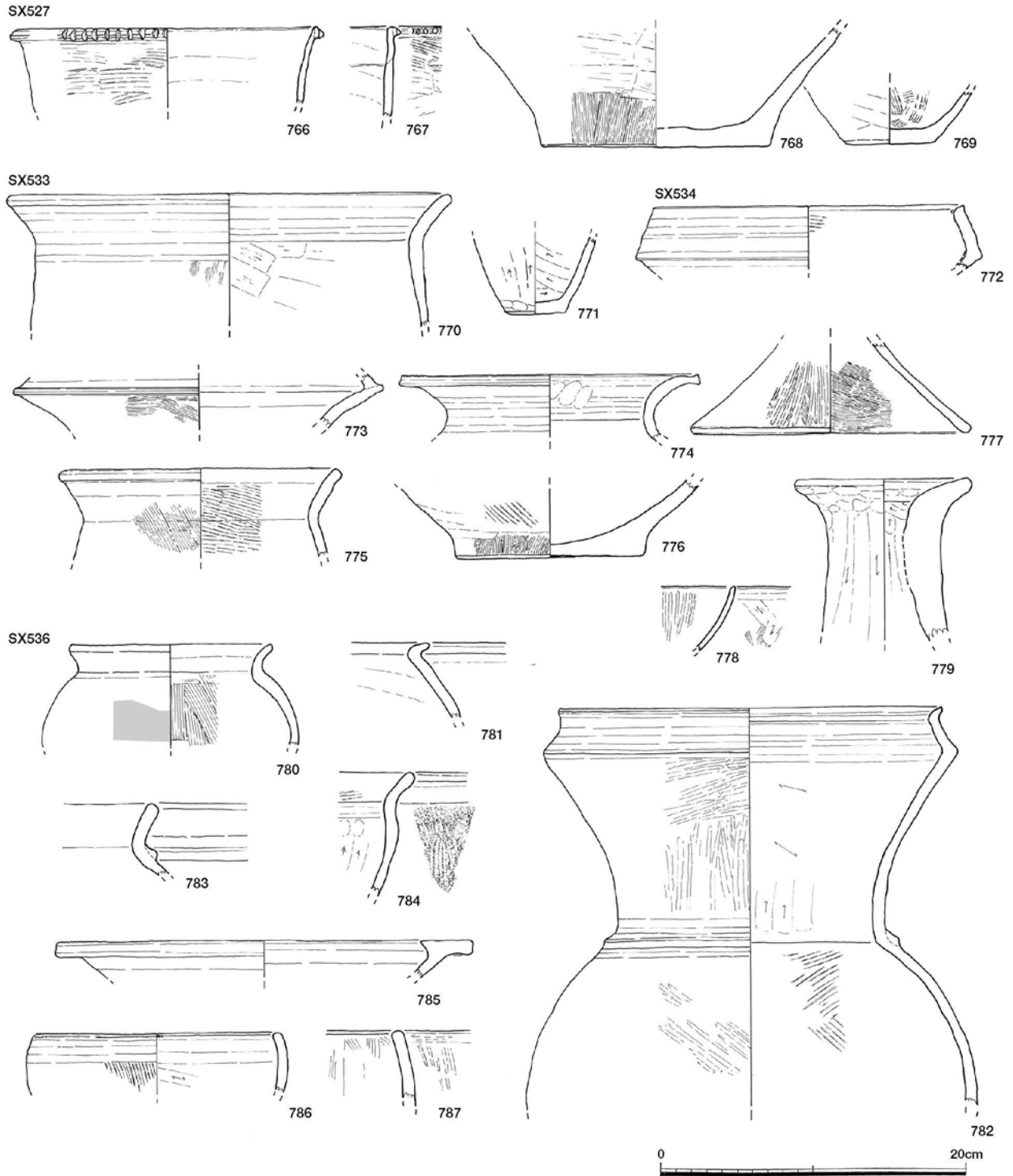


Fig.164 SX527・533・534・536出土土器 (1/4)

外面板ナデ調整。761は口縁部が体部から屈折して外に開く形態。調整は外面細かいハケ目、内面は口縁部がハケ目、底部がナデ。外底部は板ナデ。762は小型丸底壺。内外面調整はナデで、外面黒斑がある。763は口端部を上部に短く屈折させる口縁部の甕口縁部片。調整は口縁部外面はタタキ後ナデ消し。内面はナデ。筑前型の庄内甕か。764は須恵器の埴又は甗の体部片。中央に3条の沈線が巡り、内外面の調整はナデである。混入品か。765は弥生時代終末期の山陰系土器の把手か。断面は楕円形を呈し、指ナデで仕上げである。

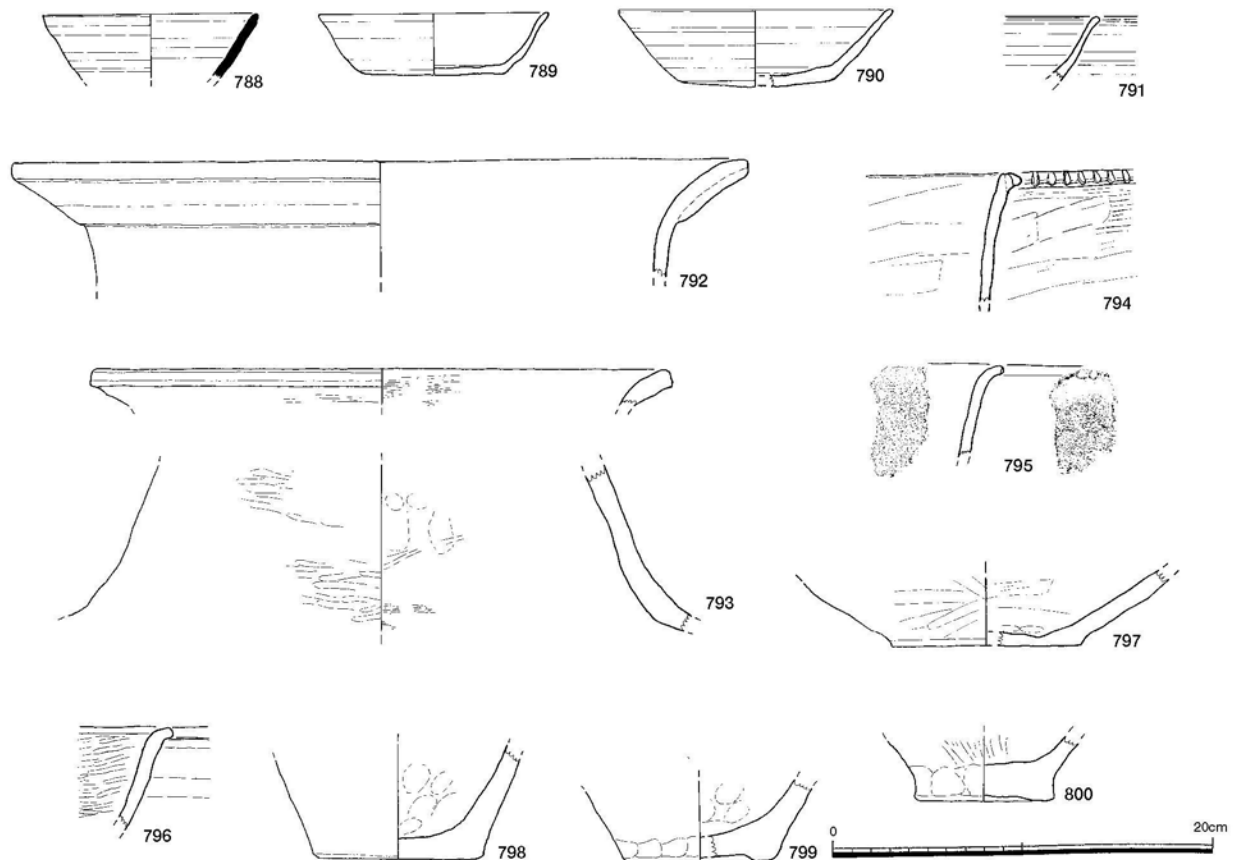


Fig.165 SX559 出土土器 (1/4)

**SX527出土遺物**(Fig.164) 弥生時代前期から古代にかけての遺物が出土した。

766・767は突帯文土器の甕口縁部。いずれも口縁部突帯に棒状工具による刻目が付く。調整は外面貝殻条痕後ナデ、内面はナデで、767には粘土接合痕が残る。768・769は底部。768は前期の大型壺底部。外面はハケ目とナデ、内面は剥落がひどいがナデか。769は後期の甕底部。調整は外面はナデで黒斑がある。内面は粗いハケ目後ナデ。他にも前期土器細片が出土している。

**SX528**(Fig.161、PL.64) R-21区で検出した。別の遺構に切られ全体の形状は不明。遺構の残りは悪く、確認規模は長軸長で約5mを測る。埋土は黒色粘土である。当初弥生時代前期の竪穴住居としていたが、他に当該期の明確な住居がなく、他に細長い土坑がいくつか検出されているだけで、それらとほぼ同じ主軸を取るの、住居跡よりは土坑に近い性格のものとし、この項で報告する。

**出土遺物**(Fig.161、PL.103) 736・737は刻目突帯文土器の甕である。口縁部に1条の刻目突帯を貼付、胴部外面には貝殻条痕を施す。刻目は736が角張った木口状の道具で施文しているのに対し、737は先端が丸い道具で施文している。

**SX533** (PL.53) R-24・25区で検出した大型の溝状の土坑で、SD369と合流する。切り合いも不明で、埋土も変わらないので、その一部かもしれない。規模は長軸長12m、短軸長5.3m、最大深さ1.3mを測る。底面は砂層に達し湧水がひどい。

**出土遺物**(Fig.164・169) 弥生時代前期から古墳時代前期迄の土器片や磨石が1点出土。時期は古墳時代前期頃であろう。

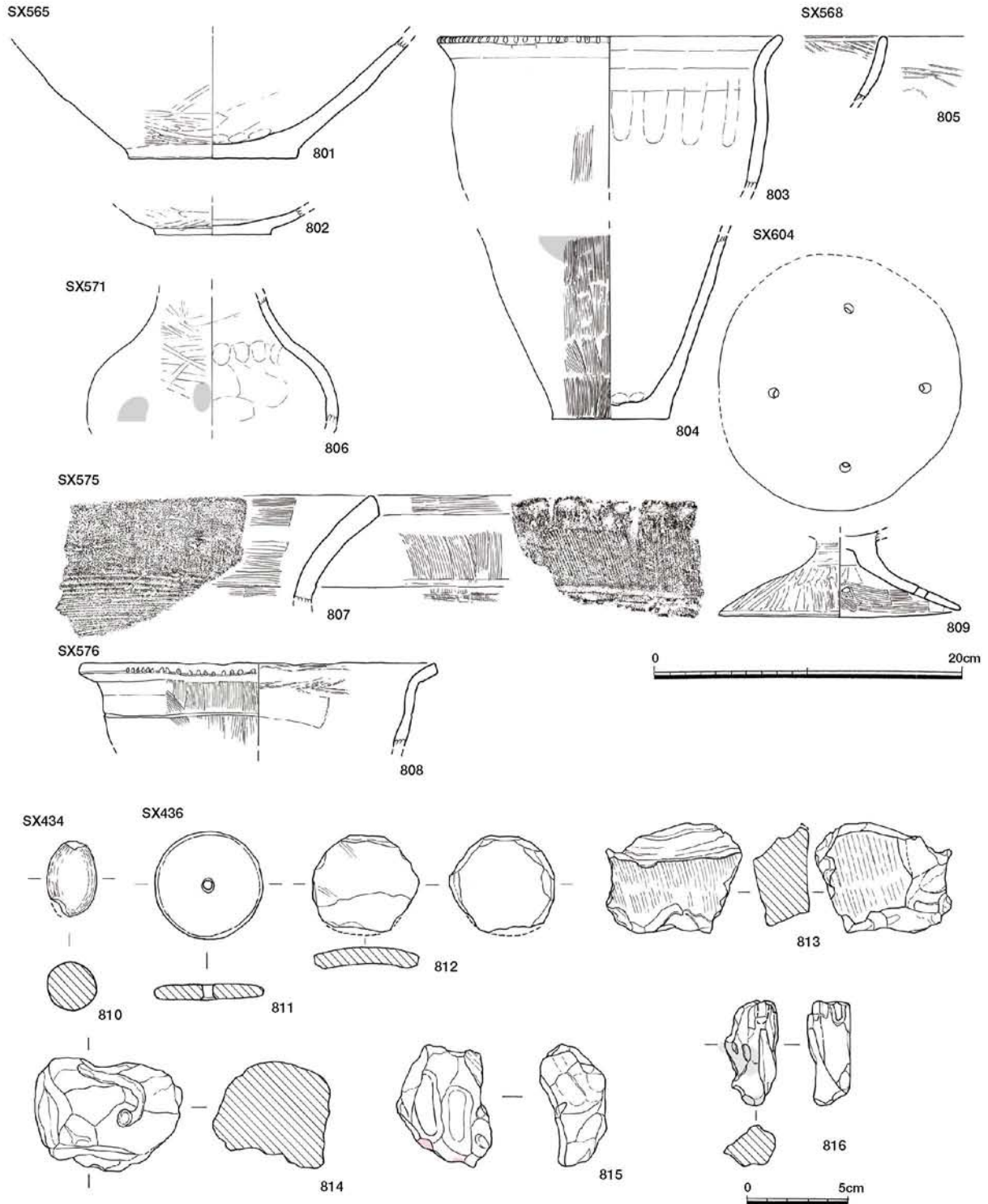


Fig.166 SX565・568・571・575・576・604出土土器 (1/4)、SX434・436出土土製品 (1/3)

770は土師器の甕口縁部。外面は胴部ハケ目、口縁部はヨコナデ、内面はナデ調整である。771は小型の平底の鉢か。外面板ナデ、内面はナデ調整。

S72は方形形状を呈す不明石製品の一部。残存縦長2.6cm、横幅4.35cm、最大厚1.2cmを測る。全面丁寧な磨りで、赤みを帯び二次的被熱を受ける。石材は砂岩か。

**SX534** (Fig.160, PL.64) S-23区で検出した、平面形が不定形状の浅い黒色粘土の落ち込



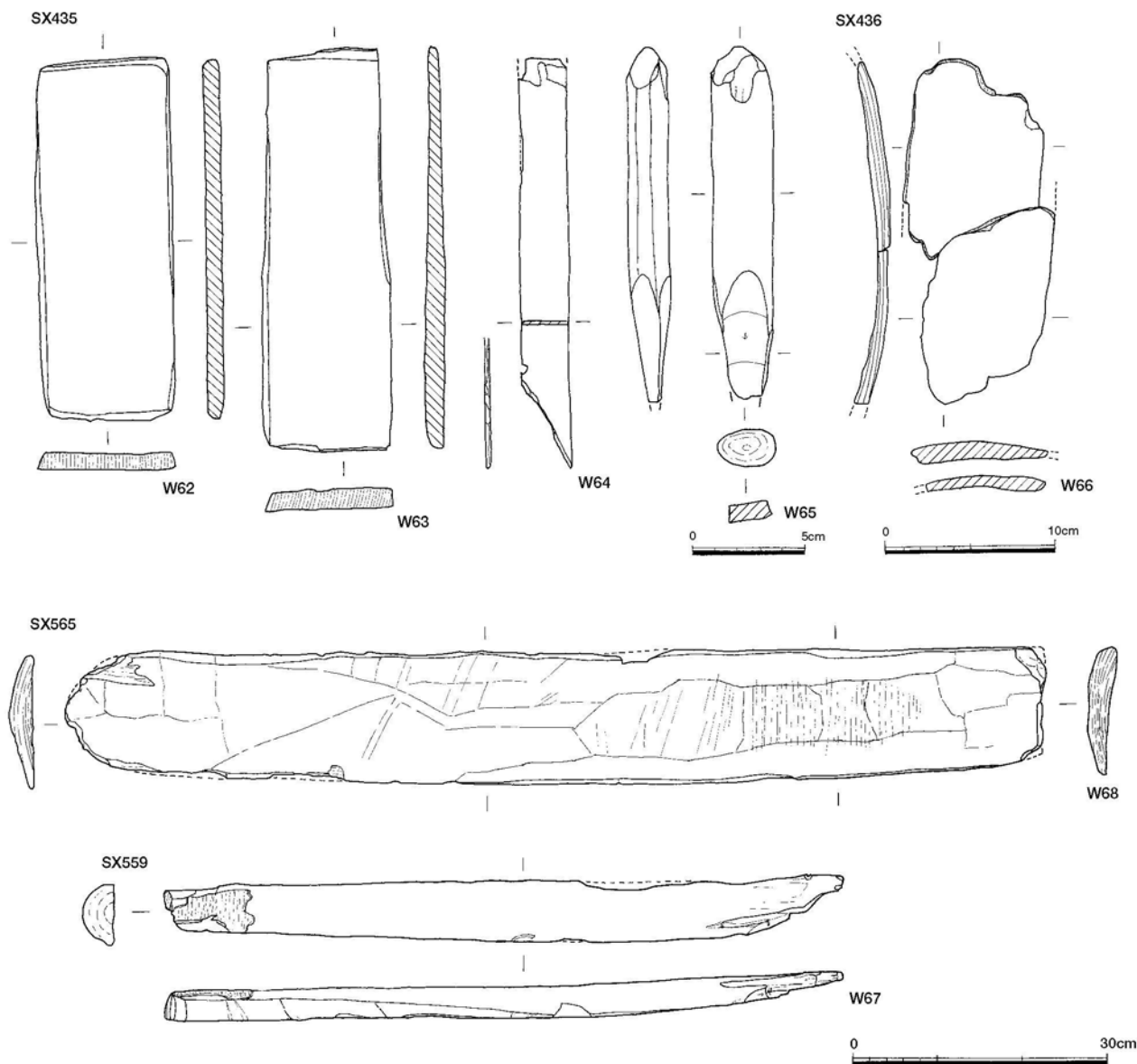


Fig.167 SX435・436・565・599 出土木製品 (1/3・1/4・1/8)

み。その南側で更に一段落ち込む。落ち込み部分で上器細片がまとまって出土した。規模は上面で長軸長6.3m、短軸長3m、深さ0.1~0.15mを測り、下層落ち込みでの規模は長軸長2.05m、短軸長0.95m、最大深さ0.32mを測る。埋土は上層は黒褐色砂質土と黒色土の混合、下層は黄灰色粘質砂、落ち込み部分は青灰色粘土ブロック混じりとなる。図は下層落ち込み部分の土器出土の状況である。

**出土遺物**(Fig.164・168、PL.103・109) 弥生後期~古墳時代初め迄の遺物が多い。他に黒曜石剥片や石斧・敲石片なども出土している。

772・773は後期の複合口縁壺。外面ハケ目後ナデ。772は外面ハケ目後ナデ、内面はヨコナデ調整。774は口端部が跳ね上げ状の壺。ヨコナデ調整で、内面には指押え痕が残る。775は後期の甕口縁部で、外面は口縁部が粗いハケ目後ナデ、胴部はハケ目、内面は粗いハケ目後ナデ調整。外面ススが付着。776は壺か甕の底部片。外面ハケ目後ナデ消し、底部近くはハケ目調整、内面は摩滅で調整不明。777は高坏脚部。外面はハケ目後ヘラミガキ、内面はハケ目調整。778は鉢口縁部。

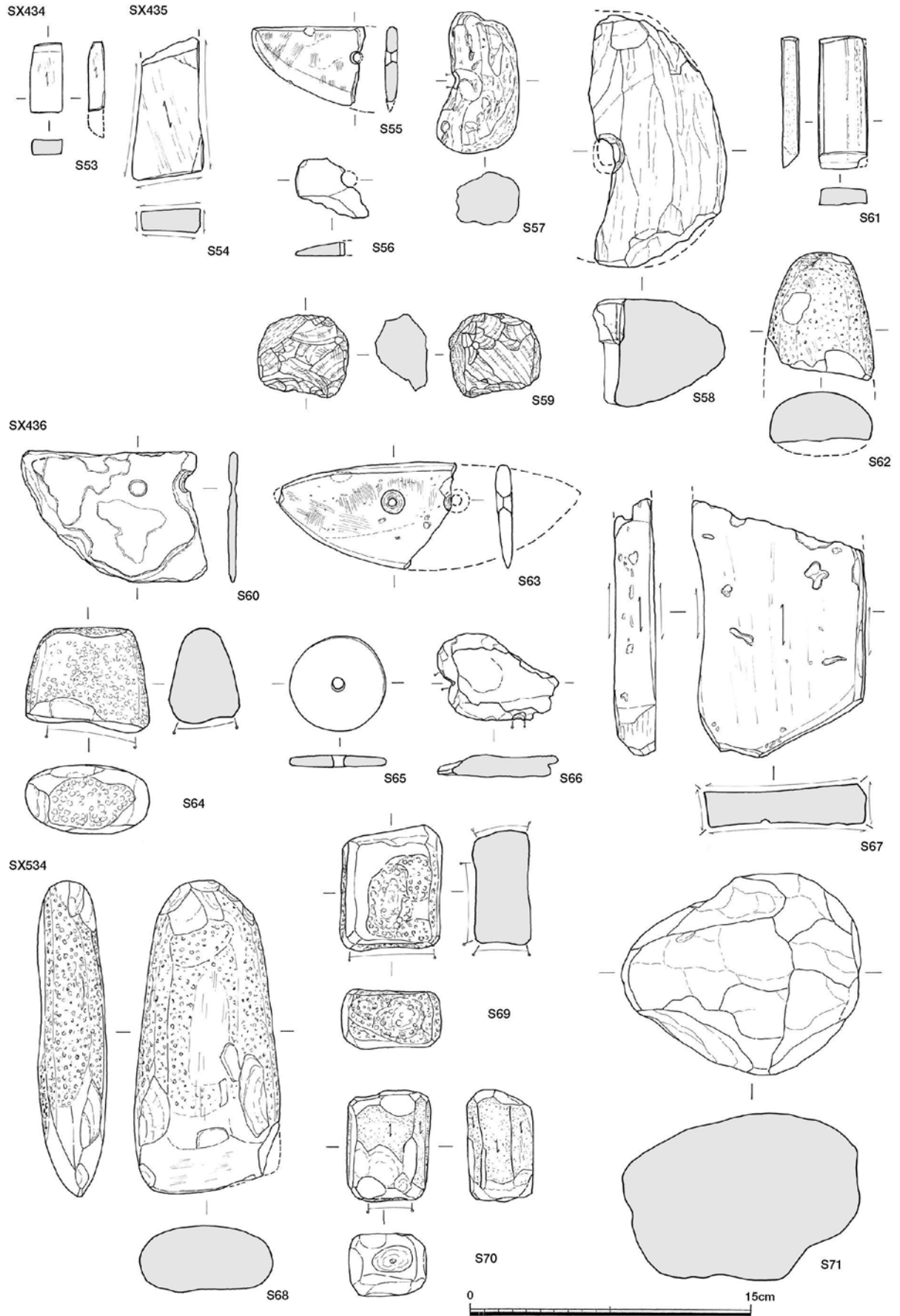


Fig.168 SX434・435・436・534 出土石器・石製品 (1/3)

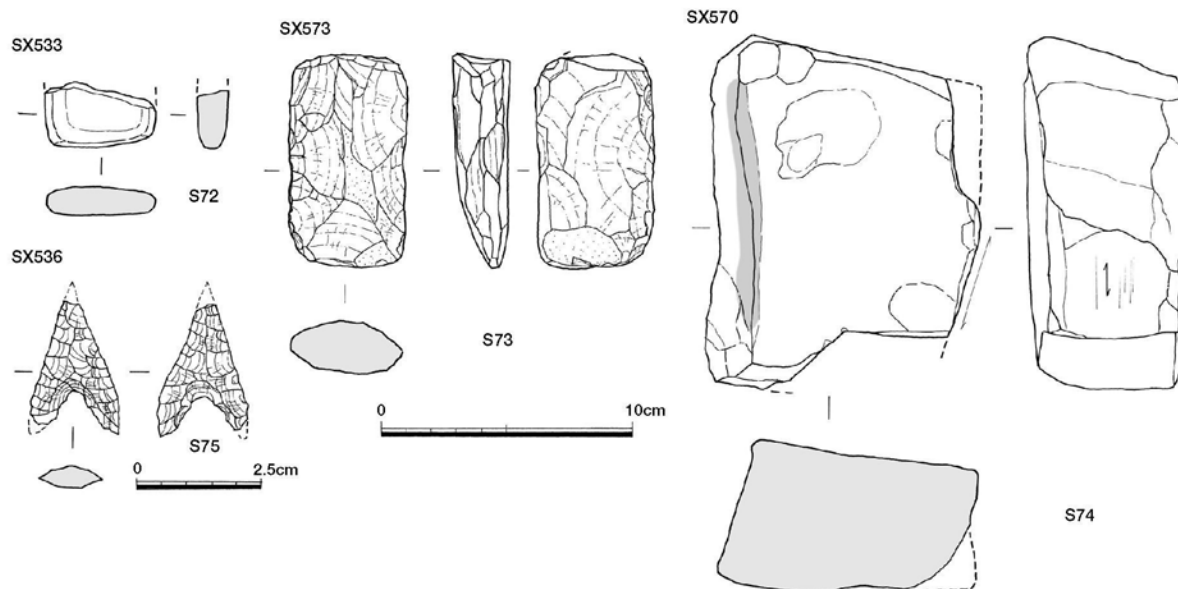


Fig.169 SX533・536・570・573 出土石器 (1/3・2/3)

外面ハケ目後ナデ、内面はヘラミガキ調整。779は筒形の器台で、口縁部は外反する。外面は板ナデ、口縁外面から内面はナデ調整。

S68は磨製石斧。全長16.9cm、最大幅7.8cm、最大厚3.7cmを測る。基部は敲打調整後研磨、刃部は研磨で、使用による摩耗・欠損が目立つ。石材は玄武岩。S69・70は方形の叩き石。S69は上面と上下両小口、左側面には使用痕が残る。S70は両小口が使用面で、各側面は擦られている。石材はS69は花崗岩、S70は砂岩である。S71は大型の円礫を雑に打ち割って成形した石弾か敲石。縦長10.8cm、横長12.85cm、最大厚9.0cmを測る部分的に使用痕が残る。石材は緑泥片岩か。

**SX536出土遺物**(Fig.164・169、PL.110) 弥生時代前期から後期迄の遺物が出土するが、後期のものが多い。他には黒曜石剥片や叩き石なども出土。

780は後期後半の短頸壺口縁部片。外面から口縁部内面はヨコナデ、胴部内面は粗いハケ目調整。781は中期後半の短頸壺口縁部小片。内外面ナデ調整。782は後期後半の複合口縁壺で、頸部に1条の三角突帯が巡る。783は後期前半の甕口縁部細片。頸部に三角突帯が付く。調整はナデ。784は甕か鉢の口縁部片。胴部外面はタタキ、口縁外面はヨコナデ、内面は粗いハケ目後ヨコナデとナデ調整である。785は中期後半の高坏坏部片。調整はナデ。786・787は鉢口縁部片。786は外面ハケ目後ナデ、口縁部はヨコナデ、内面はナデ調整。787は外面タタキ後ハケ後ナデ消し、内面はハケ目後ナデ調整。

816は焼けた粘土塊。

S75は黒曜石の石鏃。凹基で抉りは深い。基部と先端が欠損する。鏃身長2.65cm、幅1.8cm、最大厚0.4cmを測る。全面綿密な剥離調整である。

**SX559**(PL.65) S-23・24～T-24区にかけて検出した大型の不定形土坑である。主軸を北東から南西方向に取り、規模は長軸長8.7m、短軸長3.8mを測る。底面は一定しないが、深さは0.8m前後である。埋土は下層が砂層で、上層が黒色粘土層である。湧水があり、木質遺物なども出土している。下層から788～791のような古代の土器が出土しており、上の面から掘り込まれた遺構と考えられる。

**出土遺物**(Fig.155・165・167、PL.110) 下層からは弥生時代中期から古代前半迄の土器が、上層からは弥生時代前期の甕・壺の破片が出土。他に磨製石斧片・敲石・黒曜石剥片なども少量出土。

788は下層から出土した須恵器の坏破片。789・790土師器の坏。いずれも外底部はヘラ切り、体部外面から内底はナデ。791は最下層から出土した土師器の椀で、体部途中以下に回転ヘラケズリを施す。792・793は弥生時代前期の大型壺口縁部片。口縁部は肥厚する。792はヨコナデ、793はヘラミガキ調整である。794は刻目突帯文土器の甕口縁部片。口縁部の突帯には棒状工具の刻目が付く。内外面ヨコナデ。795は如意形口縁の甕口縁部で、口唇下端部にヘラによる刻目を付ける。796は外反する鉢の口縁部で、外側ナデ調整、内面ヘラミガキ調整である。797は前期壺の底部。円盤貼付か。調整はナデ。798・799は甕底部。800は台形状にやや裾が外側に開く底部で、突帯文土器の甕底部と考えられる。

S43は石斧片。研磨成形であるが、表面の剥落は進む。変成を受けた粘板岩系の堆積岩か。S44～46は敲石。S44は長方形で、縦長6.35cm、横長5.5cm、厚み4.2cmを測る。上面、右側面、下小口面に敲打使用痕が残る。石材は砂岩。S45は扁平な半円形で、縦長5.0cm、横長6.5cm、厚さ3.7cmを測る。上下面は擦りで摩滅し、上小口と周縁部は敲打使用面で使用痕が残る。石材は花崗岩。S46は磨製石斧の刃部片を転用したもの。刃部と破損部に再使用痕が残る。S47は磨石片を再加工した棒状の錘か。欠損面には粗割調整である。縦長9.9cm、横幅2.7cm、厚みは2.4cm程である。

W67は加工材で全長79.4cm、最大幅7.2cm、厚み3.2cmを測る。

**SX565出土遺物**(Fig.166・167、PL.65・103) 弥生時代前期の土器と黒曜石剥片が少量出土した。

801・802は前期の壺底部片。801は大型壺で、外面はヘラミガキ、内面はナデ調整。802は板付I式で底部は円盤貼付。調整は丁寧なナデ。803・804は甕。803は板付II a式のもので、口端部には刻目が粗く入る。外面ススが厚く付着するがハケ目後ナデ、内面もナデで仕上げる。804は底部片。調整は外面タテの細かいハケ目、内面はナデ。

W68は刃材使用の板材。全長111.4cm、最大幅15.7cm、最大厚2.6cmを測る。

**SX566**(PL.66) T-24区で検出した溝状の浅い土坑。長軸長5.1m、短軸長1.15m、最大深さ0.17mを測る。流木や刻目突帯口縁部や黒色磨研土器片や磨石片などが出土した。弥生時代前期の時期か。

**SX568出土遺物**(Fig.166) 弥生時代中期から後期土器片と、黒曜石片が出土した。

805は後期後半から終末の鉢口縁片。内外面ナデでタタキ痕が残る。

**SX570出土遺物**(Fig.169、PL.66) S74は粗砥石。一部欠損するが、縦長14.1cm、横長10.9cm、最大厚6.3cmを測る。上面と底面は粗い擦り、右側面は砥面として使用。左側面上半にはススが付着する。石材は砂岩。他に弥生時代中期から後期の土器片が少量出土。

**SX571出土遺物**(Fig.166、PL.65) 弥生時代後期の遺物が出土した。

806は後期前半の袋状口縁壺胴部片か。外面ヘラミガキ、内面はナデ調整。外面黒斑がある。

**SX573出土遺物**(Fig.169、PL.65・110) S73は小型の石斧未製品か。基部を欠損か。残存長8.5cm、幅4.8cm、最大厚2.3cmを測る。各面剥離面が残る。刃部は部分的に研磨を加える。他には弥生時代前期から中期の土器片が出土している。

**SX575出土遺物**(Fig.166、PL.65) 807は後期の大型甕口縁部で、同一個体の胴部もある。頸部には退化した三角突帯が付く。口縁内外面ハケ目調整。黒斑がある。

**SX576出土遺物**(Fig.166) 弥生時代前期後半から後期の土器が少量出土した。

808は板付II b式期の甕口縁部。口端部下端には刻目が付く。胴部上半には沈線が入る。外面はハケ目、口縁内面はハケ目、内面はナデ調整。

**SX604出土遺物**(Fig.166、PL.103) 弥生土器から古墳時代前期の土器や、石鎌片が出土。

809は土師器の高坏脚部。調整は外面ヘラミガキ、内面はハケ目。直径0.7cmの円孔が4ヶ所入る。

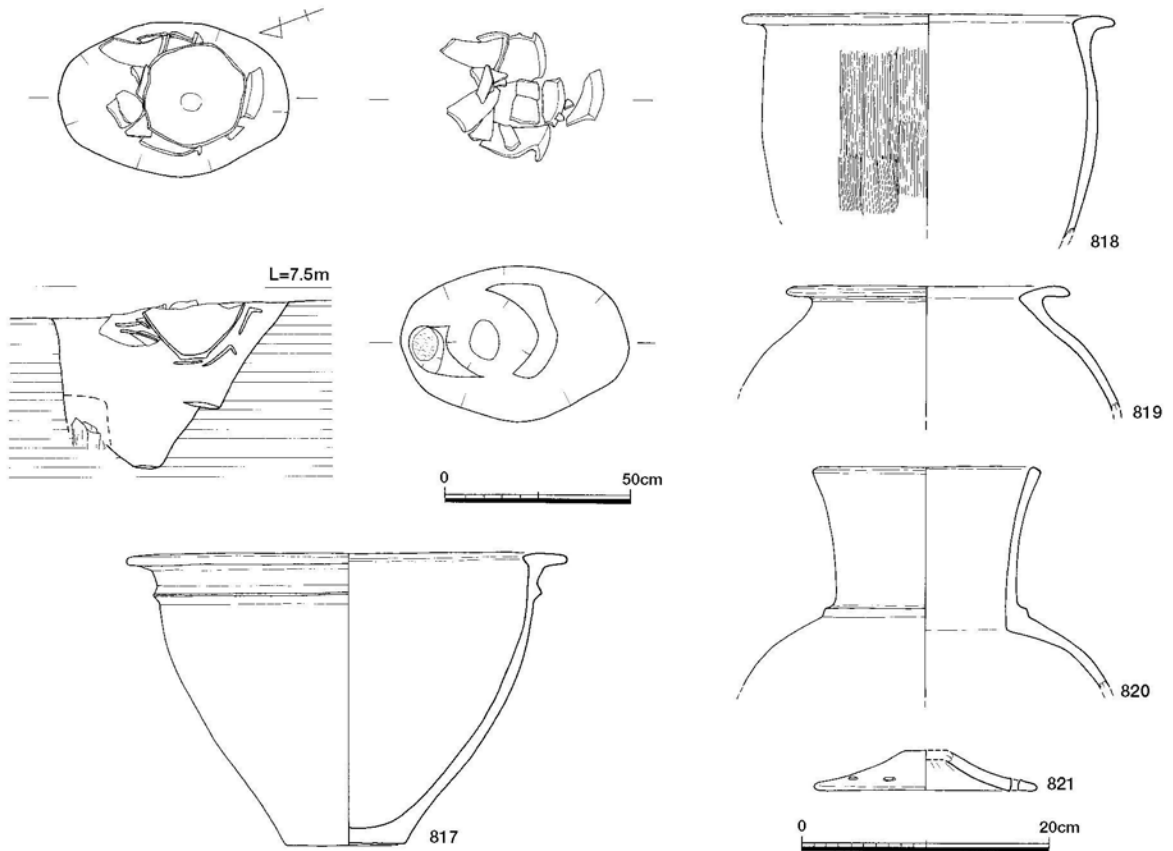


Fig.170 SP467及び出土土器 (1/20・1/6)

穿孔は焼成前で、内面黒斑がある。

⑦ ピット (SP)

SP467 (Fig.170、PL.104) N-23区で検出した。検出面で長さ0.6m、幅0.4mの楕円形プランを呈する。甕 (818) の半身を横位に寝かせた上に浅く広口の甕 (817) を正置していた。土器 819~821はこの遺構近くの直上包含層から出土したもので、確実に本遺構に伴うものかは不明である。土器をはずして掘り下げると深さ45cmで底面に達し、柱根を確認した。817~819は甕である。820は壺、821は蓋である。

ピット出土遺物 (Fig.171・172、PL.104) W69は木鏃である。残存長6.0cm、最大幅1.2cmで断面三角形に加工する。822~824は弥生前期初頭の甕である。822の口縁部は1条の刻目突帯を貼り付ける。823は底面に木の葉痕跡が残る。825は壺底部である。826は丹塗の蓋で2箇所穿孔し、外面を磨く。827は器台。828~831は鉢。832は脚付鉢の脚部か。833・834は弥生後期の壺である。835・836は高坏の坏部。837・838は蓋。839~841は弥生中期の鋤先口縁の甕である。842~845は弥生後期の甕の口縁部。846・847は弥生後期の複合口縁壺の口縁部である。

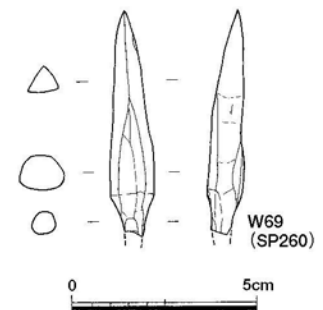


Fig.171 ピット出土木製品 (1/2)

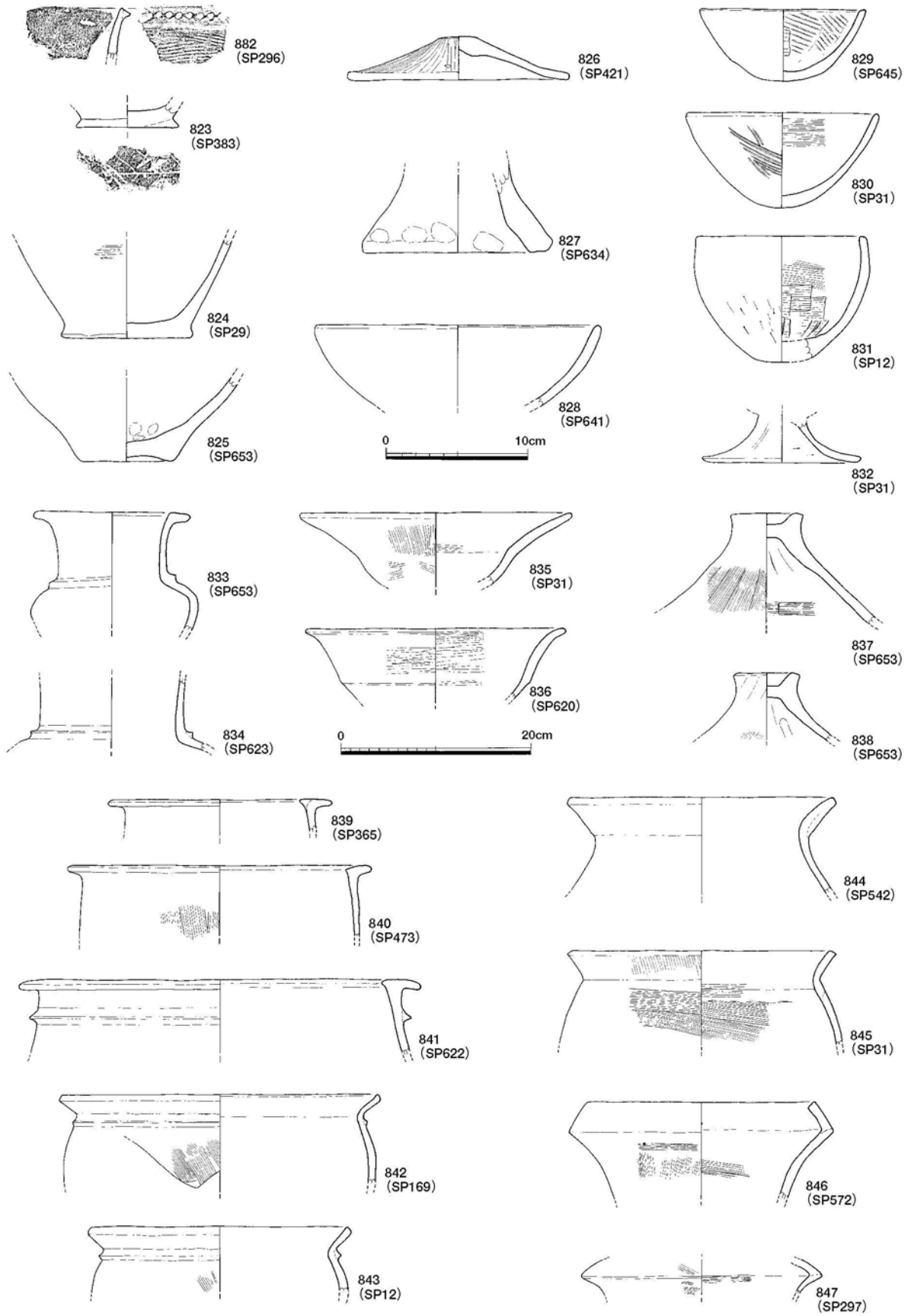


Fig.172 ピット出土土器 (1/4・1/6) ※822～832は1/4、833～847は1/6

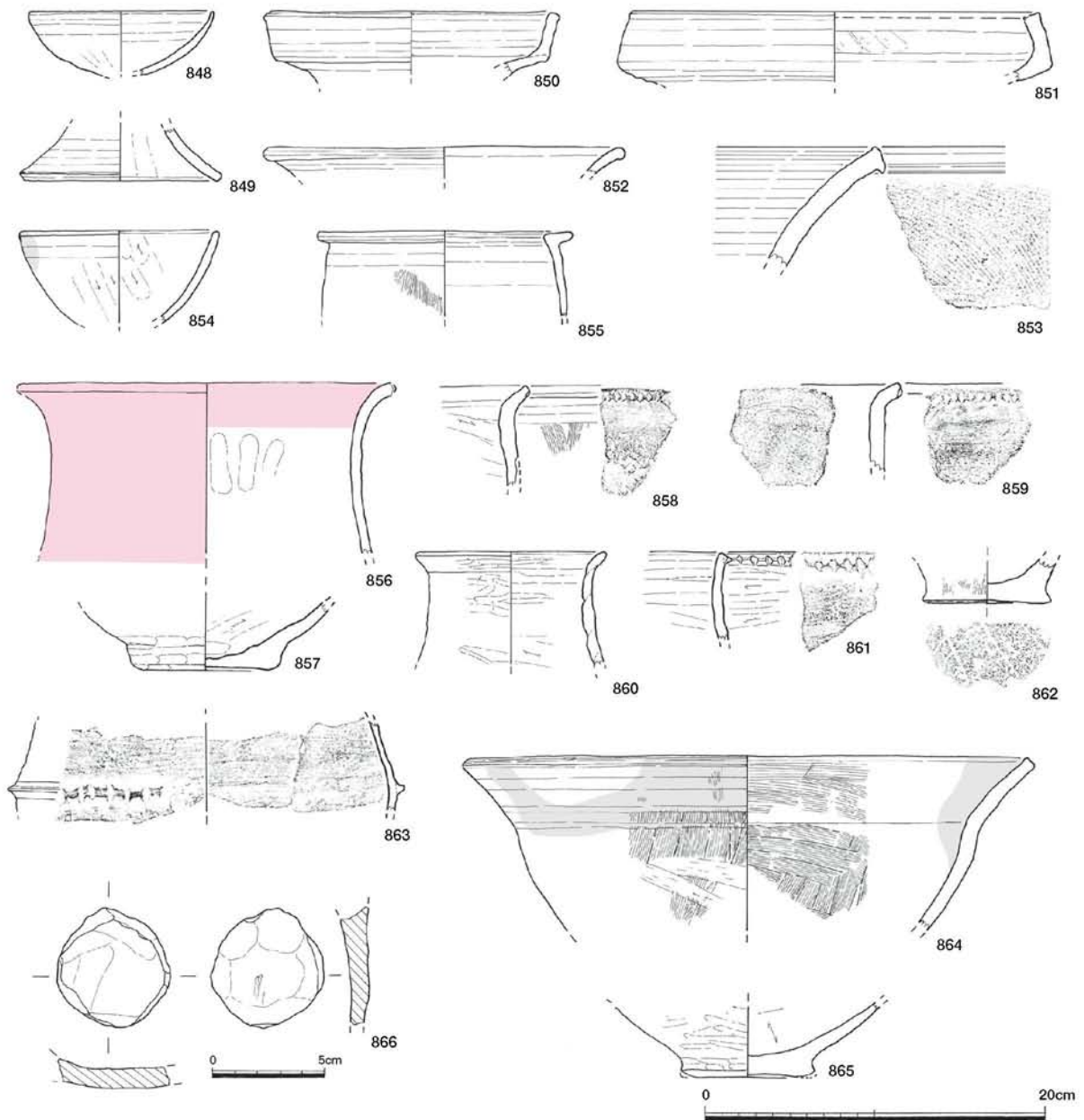


Fig.173 遺構面、攪乱出土土器 (1/4)・土製品 (1/3)

⑧ 遺構面出土遺物 (Fig.173~175)

遺構検出時や調査中に出土した遺物で重要と思われるものについて述べる。

848・849は土師器。848はO-20区出土の鉢で古墳時代前期。調整は丁寧なナデ。849はO-24区出土の高坏脚部。調整はナデである。850~854は弥生時代後期の上器。850・851は複合口縁壺の口縁部片。850はM-20区出土。口縁部はヨコナデ、頸部外面はハケ目調整。851はS-22区出土。外面はヨコナデ、内面はナデ調整でハケ目が残る。852はN-20区出土の口縁部片。調整はヨコナデでススが付着する。853はS-22区出土。大型甕口縁部細片。口縁部外面は粗いハケ目、内面はヨコナデ調整。854はM-20区出土の弥生時代終末期の鉢。外面板ナデ、内面はナデ調整で、外面に黒斑がある。855はO-23区出土の弥生時代中期初頭の甕口縁部。調整は胴部外面は細かいハケ目、口縁部外面から胴内面にかけてはヨコナデ。856・857は壺。856はQ-21区出土の板付I式の丹塗り壺

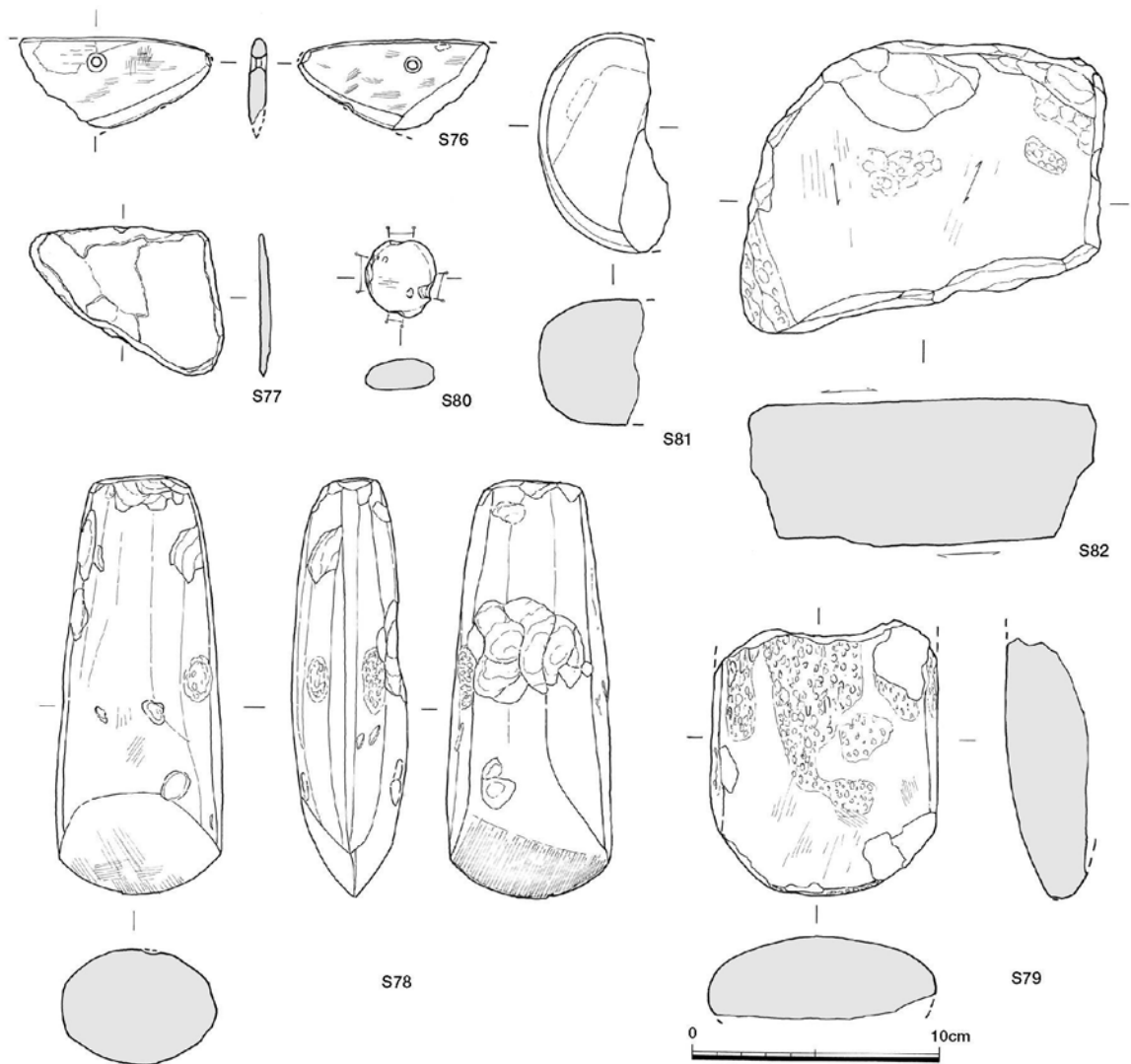


Fig.174 遺構面 出土石器 ① (1/3)

口縁部片。全体に摩滅が著しいが、外面はヘラミガキ、内面はナデ調整か。外面から口縁部内面まで丹塗りである。857はS-24区出土の壺の底部片。ナデ調整である。858・859は板付式Ⅱ式土器の甕口縁部片。858はO-24区出土で、口端部下端に刻目が付く。外面細かいハケ目、内面はナデ。859はP-22区出土。口端部下端に刻目がつく、内外面ナデとハケ目。860はO-22区出土の刻目突帯文期の壺口縁部。復元口径は10.8cmを測る。外面ヘラミガキ、内面はナデ調整。861はO-24区出土。甕の口縁部片。口縁部の突帯の刻目はヘラ状工具による。胴部内外面の調整はナデ。862はN-20区出土。底部に木葉の圧痕が残る甕の底部。胴部外面はハケ目、内面はナデ調整。863はP-21区出土。屈曲部に貼付刻目突帯を持つ甕。胴部の調整は貝殻条痕である。外面ススが付着する。864はP-20区出土。後期後半の大型の鉢。口縁部から胴部内外面はハケ目調整。口縁部内外面黒斑がある。865はQ-21区出土。前期の壺底部。調整は胴部外面はヘラミガキ、内面はナデで、外底部はヘラナデである。866はN-24区出土の底部に近い胴部片を利用した土製円板。径は5.0cm×5.3cm、最大厚1.1cmを測る。表面の調整はナデで、縁辺は打欠いて成形している。

S76・77は石庖丁片。S76はN-20区出土。残存長7.6cm、残存幅3.6cm、厚み0.7cm、孔径は0.7cmを測る。傷みはひどいが研磨仕上げである。S77はQ-23区出土。刃部三角形を呈す未製品である。



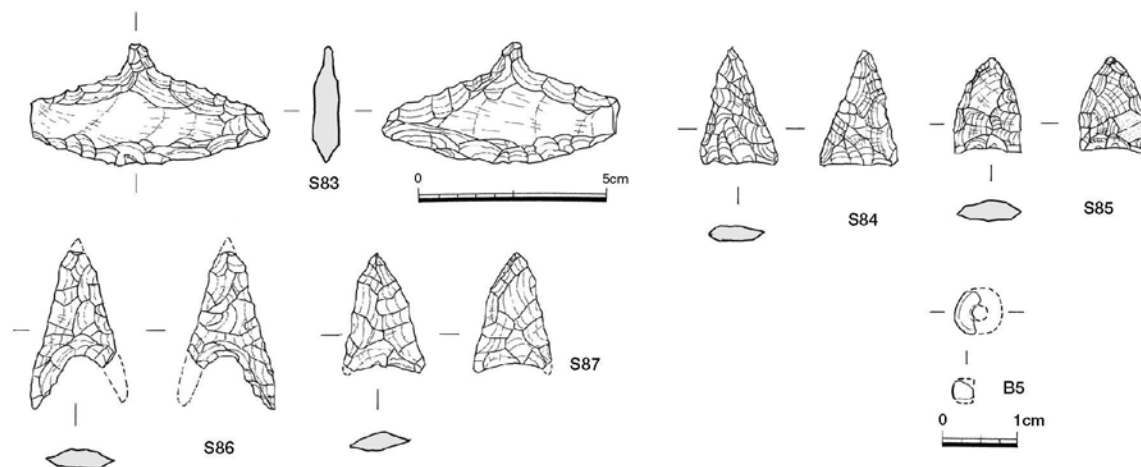


Fig.175 遺構面出土石器②(1/2・2/3)・出土玉(1/1)

全体に風化磨滅が著しい。前期の時期か。石材は粘板岩か。S78・79は磨製石斧。S78はP-22区出土。今山産の玄武岩の太形蛤刃磨製石斧でほぼ完形。全長16.8cm、最大幅6.7cm、厚み4.7cmを測る。表面の欠損は著しいが、研磨仕上げである。S79はQ-21区出土。刃部片で残存長11.1cm、幅9.2cmを測る。研磨成形であるが、叩打調整痕が残る。石材は玄武岩か。S80はR-20区出土の扁平な円礫の四隅を打ち欠いた錘。径2.9cm×3.1cm、厚み1.3cmを測る。表面は磨かれたのかツルツルする。S81は磨石片。風化がひどく使用痕は明瞭でないが、稜線が残る。石材は火成岩か。S82はP-22区出土。側面を粗割り成形した砥石または台石。縦長14.6cm、横長11.8cm、最大厚5.8cmを測る。上面と底面は使用面か磨滅し滑らかで、擦痕が残る。S83はS-25区出土の石匙。横長6.25cm、幅3.2cm、最大厚0.7cmを測る。剥片を利用したもので、二次調整を加えて縁辺を整えている。石材はサヌカイトか。S84～87は石鏃。S84はQ-21区出土で鏃身長2.35cm、幅1.5cm、厚み0.3cmを測る。石材は黒曜石である。S85は基部が平基の五角形を呈すもの。鏃身長1.9cm、幅1.3cm、厚み0.4cmを測る。剥片の周縁に丁寧な二次調整を加えている。S86はP-20区出土。抉りの深い凹基の基部。先端と基部が欠損する。鏃身長3.15cm、幅1.7cm、厚み0.35cmを測る。石材はサヌカイトである。S87は平基でS85に近い形態。鏃身長2.55cm、幅1.6cm、厚み0.3cmを測る。両面丁寧な二次調整を加えるが、風化がひどい。縄文晩期末から古墳時代前期のもの。石材はサヌカイトである。

B5はP-23区出土のガラス小玉1/2片。直径6mm以上、厚み2mm以上、孔径は2mmを測る。色調はコバルトブルーを呈す。

### ⑨ 遺構面下確認調査

第IV面南東側高所部の調査が終了後、遺構面がシルト、又は粘土層であったので、遺構面下に遺構存在の可能性を考えて、重機で部分的に試掘トレンチを入れ、遺構のだめ押し確認を行った。平均としては20～30cm程掘下げた。結果として、小ピットを若干数確認したが、いずれも第IV面で掘り残したものであり、新たに下面で検出した遺構ではなかった。また更に2.3mほど深掘りした部分では、砂礫層となり、湧水もひどくなり、それ以上の掘下げは断念した。以上のことから、第IV面下には遺構面は存在しないと判断し、調査を終了した。

### ⑩ SK491・492追加資料(Fig.176)

SK491と492出土遺物で報告書作成時に新たに追加資料があったので、文末ではあるが、報告す

る。遺構の概要については④土坑での記述を参照にされたい。

867はSK491出土で、弥生時代前期の深鉢。調整は口縁部から内面はヨコナデ後ミガキ、胴部外面はハケ目である。胴外面黒斑がある。板付Ⅱ式古段階のものか。

868～872はSK492出土。弥生時代終末から古墳時代前期前半のものである。868は古墳時代前期初頭の二重口縁壺。調整は口縁部ハケ目後ヨコナデで、外面下部に櫛描波状文が入り、頸部はタテ・ナメハケ目、頸部にハケ目工具による刻目突帯が付く。胴部外面はヘラミガキ、内面はヨコハケ目である。869も古墳時代初頭の小型甕である。調整は口縁部ヨコナデ、外面ハケ目後ナデ、内面はハケ目である。870は前半の布留式甕口縁部。調整は口縁部ヨコナデ、胴部外面はハケ目、内面はヘラケズリである。870・871の胴部外面には炭化物が付着する。871は初頭の高坏脚部。脚筒外面はミガキ、筒部内面はケズリ、裾部外面はハケ目後ミガキ、内面ハケ目後ナデで円孔が開く。872は弥生時代終末期の器台。調整は外面ナデ後タテハケ目、内面はナデである。

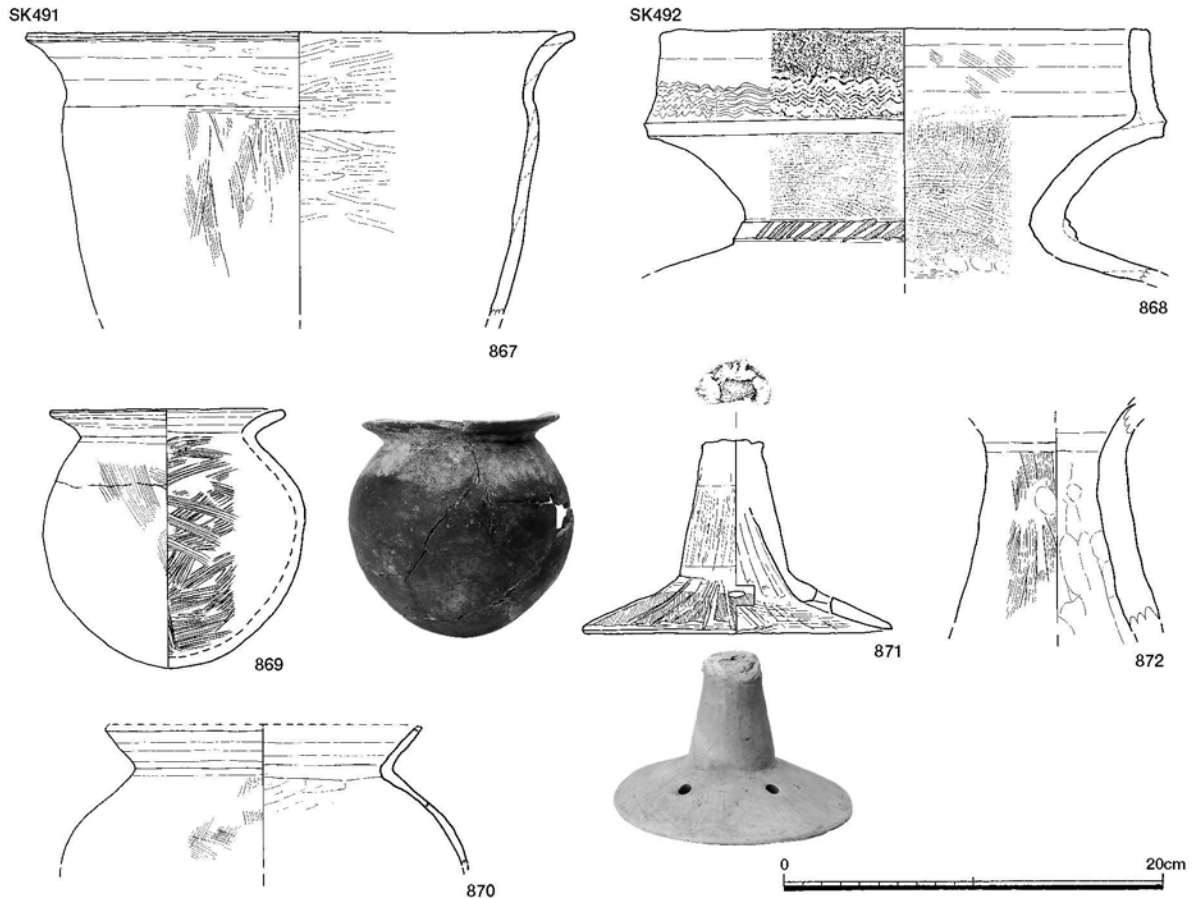


Fig.176 SK491・492追加出土遺物 (1/4)

## 第IV章 自然科学分析

### 1. 第6次調査出土のイネ種子およびその他の植物遺体の分析

佐藤洋一郎 (総合地球環境学研究所)

柴内佐知子 (岐阜大学大学院)

那須 浩郎 (国際日本文化研究センター)

#### 1. はじめに

下月隈C遺跡出土のイネ種子について形態およびDNA分析を行い、あわせて出土したその他の植物遺体について種の同定を行った。

本遺跡は御笠川の東岸、標高9~10mを測る沖積地に位置し、弥生時代から中世にわたり人の活動が認められていることが、これまでの発掘調査により明らかになっている。本報告で用いた試料は第6次調査・第4面で確認された7箇所遺構から出土したものであり、弥生時代前期前半から古墳時代後期に対応する。これらの試料は、現地発掘担当者によって採取された試料であり、洗浄処理後、乾燥した状態で送付されてきた。

本報告では、これらの植物遺体試料のうち、量的に多く出土したイネ種子について、まず長幅比の計測を行うことで形態的な特徴を調べた。さらに、DNA分析を実施することで遺伝的特徴を明らかにした。最後に随伴して出土した植物遺体についての知見を加え、既存の報告と比較することで、本遺跡における稲作の特徴を考察した。

なお、本報告では、炭化したイネの穎果について「イネ種子」という用語を用いた。これは、従来から言われている「炭化米」のことであるが、「炭化」という燃えたものという意味があるため、ここではこの語を用いないことにする。

#### 2. 分析試料および分析方法

試料の一覧を表1に示す。イネ種子は遺構ごとに、光学顕微鏡下で完形のをランダムに50粒(規定数に満たない場合は完形のものすべて)選抜した。ここでいう完形とは、破損がまったく見られないもの、または一部が破損していても長さや幅の計測に支障がないものをいう。選抜したイネ種子は遺構ごとに、スケールとともにデジタルカメラで写真撮影した。撮影した画像はパブリックドメインソフトのNIH Image (<http://rsb.info.nih.gov/nih-image/>)を用い、長さ(L; mm)と幅(W; mm)の計測を行った。また、その計測値から長幅比(L/W)を求めた。加えて、各項目の平均値および標準偏差を求めた。

次に、各遺構から選抜したイネ種子1粒ずつからNaOH法によって全DNAの抽出を行った。ただし、SP-329については完形の種子が1粒のみであったため、今回はDNA抽出を見送った。抽出した全DNAは希釈せずそのままPCR (Polymerase chain reaction) 増幅のテンプレートに使用した。PCR増幅は2回行い、2回目のPCR増幅のテンプレートには、1回目のPCR産物を使用した。プライマーは、葉緑体DNA中のPS-ID (plastid subtype-ID, Nakamura et al. 1997) 領域を増幅するPS-IDプライマーを用いた。1回目のPCRにA4Sプライマー(5'-ATTTCATAGCTGCCAGCAAATG-3'、柴内ら2003)およびBプライマー(5'-ATCTGCAGCATTTAAAAGGGTCTGAGGTTGAATCAT-3'、Nakamura et al. 1997)、A4Lプライマー(5'-ATTTCATAGCTGCCAGCAAATGCCATACGA-3'、柴内ら2003)およびB

プライマーを用いた。PCR産物は電気泳動を行い、エチジウムブロマイドで染色後、UVトランスイルミネーターを通して視覚化し、バンドの有無を確認した。バンドが確認されたPCR産物については、サイクルシーケンス法によるダイレクトシーケンスを行い、その配列を決定した。

イネ以外の植物遺体は、SK517遺構から19個体、SK477遺構から3個体、SP329遺構から7個体、SK559遺構から62個体の合計91個体が含まれていた。これらは実体顕微鏡下で形態の観察を行い、種子図鑑や現生植物標本と参照しながら、種類の同定を行い、計数した。

### 3. 結果

#### (1) イネ種子の形態分析について

本実験で用いたイネ種子には籾殻を伴ったものは確認されず、すべてが玄米であった。6つの調査区から出土したイネ種子の長さ・幅の平均値、標準偏差および変動係数を表2に示す。ただしSP-329については完形のイネ種子が1粒のみであったためその計測値を示した。イネ種子の長さ・幅・長幅比の平均値はそれぞれ4.29mm~4.54mm・2.79mm~2.93mm・1.54~1.65にわたって変異した。同様に、粒長の標準偏差は0.18~0.34、粒幅の標準偏差は0.14~0.28にわたって変異した。なお、イネ種子が出土した遺構の年代は弥生時代前期~古墳時代後期の範囲に渡るが、粒の大きさや形状およびばらつきが時代とともに一定の方向に動く傾向は認められなかった。

#### (2) イネ種子のDNA分析について

イネ種子のDNA分析結果を表3に示す。各遺構（SP-329は除く）から出土したイネ種子のうち、弥生時代前期の遺構であるSK-517および弥生時代後期~古墳時代前期の遺構であるSX-484から出土したイネ種子各1粒ずつについてPS-ID領域の配列を決定することができた。イネのPS-ID領域の最上流部分には特定数のシトシン（C）の繰り返しとアデニン（A）の繰り返し配列が確認できる。これらCとAの繰り返し数の組み合わせにより、イネ品種はjaponicaとindicaに区別することができる（Nakamura et al. 1997, 1998）。またjaponicaの場合、その配列によっては温帯japonicaと熱帯japonicaに区別することもできる。今回、配列を決定できた二つのイネ種子はどちらもjaponica品種に固有の6C7A（CCCCCCAAAAAAA）の配列を示した。

#### (3) その他の植物遺体

イネ以外の植物遺体の同定結果および出土数を表4に示す。合計91個体のうち、栽培植物が2種類4個体、木本が8種類13個体、水田・水湿地雑草が1種類1個体、畦畔・路傍・畑地雑草が8種類51個体、田畑共通雑草が2種類10個体、炭化植物片が1個体出土した。なお、分類不可能な植物遺体が11個体あった。以下に遺構ごとの出土結果を時代順に記す。

弥生時代前期前半の遺構SK517からは、エノコログサ属の外穎が1個体、カナムグラの種子が2個体、オドリコソウ属の果実が5個体、シソ科の1種の果実が7個体の合計4種類15個体が出土した。なお、分類不能な植物遺体が4個体あった。

アワに近いと考えられるエノコログサ属の果実が産出している。正確に同定するには、電子顕微鏡による表面形態の観察を行う必要があるが、現時点では栽培アワに近いと考えられる。路傍・畑地雑草のカナムグラ、オドリコソウ属などが産出している。

弥生時代中期の遺構SK477からは、アカザ科かヒユ科の1種の種子が1個体、シソ科の1種の果実が1個体、ナス属の種子が1個体の合計3種類3個体が出土した。シソ科、ナス属の畑地・路傍雑草が産出した。

弥生時代後期末~古墳時代初期の遺構SP329からは、エノコログサ属の炭化して膨らんだ穎果が

1個体、ブナ科の1種の殻斗が1個体、セリ科の1種の果実が1個体、アカネ科の1種の果実が1個体の合計4種類4個体が出土した。なお、炭化植物片が1個体、分類群の不明な植物遺体が2個体あった。ほかに炭化米と炭化したエノコログサ属の穎果が産出した。このエノコログサ属の穎果も弥生時代前期前半のものと同様にアワの可能性はあるが、炭化して著しく膨らんでおり、サイズだけでの同定は難しい。電子顕微鏡での観察が必要である。ツブラジイに近いと思われるブナ科の殻斗やセリ科、アカネ科の畑地・路傍雑草も産出している。

古代前期の遺構SX559からは、ザッソウメロンの種子が2個体、ヤマグワの核が2個体、カラスザンショウの種子が2個体、イヌザンショウの種子が1個体、エゴノキの核が1個体、チシャノキの核が3個体、キイチゴ属の1種の核が1個体、ブドウ属の1種の核が2個体、ホタルイ属の1種の果実が1個体、カナムグラの種子が30個体、アキノタムラソウの果実が1個体、シソ科の1種の果実が1個体、カヤツリグサ科の1種のうちAタイプと分類したものが4個体、同じくカヤツリグサ科の1種のうちBタイプと分類したものが6個体の合計14種類57個体が出土した。なお、ここでも分類群の不明な植物遺体が5個体あった。またザッソウメロンの種子が2粒産出した。ここでは木本が多く、ヤマグワ、カラスザンショウ、イヌザンショウ、エゴノキ、チシャノキ、キイチゴ属、ブドウ属が産出した。水田雑草はホタルイ属が1個体だけ産出した。畑地・路傍の雑草が多く、とくにカナムグラが30個体と多かった。アキノタムラソウやシソ科、田畑に共通して見られるカヤツリグサ科が産出した。

弥生時代前期前半の遺構SK517、弥生時代中期の遺構SK477および弥生時代後期末～古墳時代初期の遺構SP329の3箇所から出土した植物遺体は、種類、量ともに少なかった。この出土量から遺構や遺構周辺の環境を推定することはできないが、どの遺構でも路傍や畑地などの雑草が多い傾向は認められる。

とくに、SK517とSP329の遺構では、エノコログサ属の果実外穎と炭化穎果が見つかったが、その丸みを帯びた形状からは、栽培種のアワに近いと考えられる。しかしながら、アワと祖先野生種のエノコログサとを果実の形態から識別するのは難しく、電子顕微鏡を利用した外穎の表面形態の詳細な観察が必要である。また、そのためには、より多くの果実が出土することが望まれる。今後の発掘調査では、フローテーション法なども併用した微小種子分析を行う必要があるだろう。周辺遺跡の状況を見ると、佐賀県唐津市の菜畑遺跡では縄文時代晩期からアワの出土例がある(笠原 1982)。本遺跡でも弥生時代前期前半からアワの栽培があった可能性は高い。

古代前期の遺構SX559では、木本の出土数が多かった。構成種をみると、ヤマグワ、カラスザンショウ、チシャノキなどの陽地に生える落葉樹が多い。畑地・路傍雑草のカナムグラも多く出土しており、遺構周辺には、このような開けた藪か荒地のような環境があったことが伺える。栽培か自生かは不明であるが、ザッソウメロンの種子も出土しており、開けた畑地のような環境もあったのかも知れない。

#### 4. 考察

下月隈C遺跡をはじめとする御笠川周辺の遺跡は北部九州の稲作を伴った遺跡として代表的な遺跡が多く、多くの水田跡およびイネ種子の出土が確認されている。特に、土坑からまとまった量のイネ種子が出土していることから、この時期この地域の稲作がすでに近代日本列島の水田稲作社会の原型をなしていたとの推定を裏付けるものと考えられた。しかし佐藤(2002)は、弥生時代から古墳時代にかけての日本列島の稲作が雑駁で休耕を伴ういわば「縄文稲作」を引き継いだものであり、単作的、常畑的な現代の稲作とは大きく異なるスタイルを伴っていたと考えた。実際今回の分

析でも、当時の遺跡周辺が前面の水田であるというよりは木本を含む多様な植物が生息していた可能性を強く示唆しており、佐藤（2002）の主張はある程度当を得ているものと考えたい。ただしこの2つの相矛盾する見解のどちらがより事実に近いかはまだ今後の検討を要する研究課題である。

イネの粒の大きさおよび形の変異に関しては、和佐野（1993）や高橋ら（2002）の研究がある。和佐野は縄文時代晩期から弥生時代後期の九州北部に分布する12遺跡出土イネ種子の粒特性を比較している。遺跡はその分布地域により、九州北西岸域、筑紫平野域、九州北部内陸・北東岸域の3つの群域に分けられており、イネ種子の長さについては、九州北西岸域のものは「短粒群（3.93mm～4.19mm）」、筑紫平野域、九州北部内陸・北東岸域のものは「やや長粒の円粒性長粒群（4.46mm～4.70mm）」の2群に大別できるとしている。これに照らし合わせると、本遺跡は九州北西岸域にあたるが、出土したイネ種子の長さの平均値は4.29～4.54mm（弥生時代のデータのみ抽出）と、「やや長粒の円粒性長粒群」よりにおさまり、和佐野の見解とは合致しなかった。また、本遺跡から北西へ約1kmの地点に雀居遺跡が立地する。雀居遺跡も本遺跡同様、御笠川東岸の低湿地にあり、弥生から中世に渡り集落や水田跡が確認されている。その雀居遺跡から出土したイネ種子の長さの平均値は4.11～4.24mm（表5、弥生時代のデータのみ抽出）であった。弥生時代の御笠川東岸の低湿地におけるイネ種子の長さの平均値は4.11mm～4.54mmとなり、和佐野が述べている「短粒群」と「やや長粒の円粒性長粒群」のほぼ中央におさまる結果となった。この地域の値だけをみてもイネ種子の長さの値が多様であるということがうかがえる。このように出土するイネ種子の大きさに関してはまだまだ多くのデータを収集し、比較する必要があると考えられる。

また、本遺跡出土のイネ種子のばらつきに関しては、同時期の他の遺跡から出土したものと同程度であるが（表2、表6）、現在の品種における値を大きく超えていたことが明らかとなり、栽培されていたイネに遺伝的な多様性が保たれていたことがわかった。また、当時の人びとに「品種」の概念があったかどうかはわからないが、もし品種の概念があったとしても今のそれに比べてはるかに雑駁なものであったように思われる。

イネ種子のDNA分析の結果、下月隈C遺跡から出土したイネは二点とも6C7A型を示したが、これは出土したイネ種子のほとんどが*japonica*に属するというこれまでの見解と一致する。ただし、6C7A型は温帯*japonica*と熱帯*japonica*の両者に確認できる型であり、今回の結果からこれらがどちらの*japonica*に属するかの判定にまではいたらなかった。抽出したDNAは凍結保存が可能であるので、熱帯*japonica*と温帯*japonica*に細分化できるマーカを開発し、詳細に確認することが今後の検討課題といえる。

#### 引用・参考文献

- 笠原安夫（1982）菜畑遺跡の埋蔵種実の分析・同定研究—古代農耕と植生の復元—「菜畑遺跡」唐津市教育委員会 pp.354-379  
 Nakamura, I., N. Kameya, Y. Kato, S. Yamanaka, H. Jomori and Y.I. Sato (1997) A Proposal for Identifying the Short ID Sequence Which Addresses the Plastid Subtype of Higher Plants. *Breeding Science* 47: 385-388  
 佐藤洋一郎（2002）稲の日本史 角川書店: 197pp.  
 柴内佐知子・大角信介・丹野研一・中村郁郎・佐藤洋一郎（2003）DNAレベルでのイネ遺存体における品種群判定の効率化 日本文化財科学会第20回大会研究発表要旨集 日本文化財科学会第20回大会実行委員会・編 pp.18-19  
 高橋光子・岡村渉・佐藤洋一郎（2002）登呂遺跡から出土したイネ籾殻の形態的遺伝的変異 育種学研究4（別1）: 119  
 和佐野喜久生（1993）九州北部古代遺跡の炭化米の粒特性変異に関する考古・遺伝学的研究 育種学雑誌43: 589-60



表4 出土した種子の種の同定

分類群	産出部位	サンプル番号					合計	古代前期
		弥生時代前半 02-012	弥生時代中期 02-101	弥生時代後期末 ~古墳時代初期	02-015	02-014		
栽培植物	炭化穀果 外穎 炭化穀果 種子	イネ エノコログサ属 (アワ近似種) ザツソウメロン	4 1	2	7 2	6 14	6	
木本	殼斗 核果 種子 核果 核果 核果 核果	ブナ科の1種 ヤマグワ カラスザンショウ イヌザンショウ エゴノキ チンヤノキ キイチゴ属の1種 フトウ属の1種	1	1	1	2	2	
食利用木の実	核果	フドウ属の1種	1				1	
水田・水湿地雑草	果実	ホタルイ属の1種					1	
畦畔・路傍・畑地雑草	種子 種子 果実 果実 果実 果実 種子	カナムグラ アカザ科かヒユ科の1種 セリ科の1種-Aタイプ アカネ科の1種 アキノタムラソウ オドリコソウの1種 シソ科の1種 ナス属の1種	2	1	1 1	30	32	
田畑共通雑草	果実	カヤツリグサ科の1種 カヤツリグサ科の1種 Aタイプ Bタイプ				4	4	
不明 炭化植物片	果実	カヤツリグサ科の1種 カヤツリグサ科の1種 Aタイプ Bタイプ	4		2 1	5	11	
合計	果実	カヤツリグサ科の1種 Aタイプ	19	3	9	62	93	



## 2. 第6次調査出土の大型植物化石

新山 雅広 (パレオ・ラボ)

### 1. 試料

大型植物化石の検討は、No.1～No.33の合計33試料について行った。これらは、既に洗い出し後（取り上げ済み）の試料であり、タッパーに水付きないし乾燥状態で保管された試料である。ここでは、これら大型植物化石を検討し、弥生時代から中世にかけての古植生および栽培状況を推定することを試みた。

### 2. 出土した大型植物化石

出土した大型植物化石の一覧を表1に示した。なお、試料中には、大型植物化石以外にも炭化材、礫などが含まれており、これらは、その他・不明の欄に示した（No.18、20、22、25、26などのその他・不明は、全て炭化材である）。以下に、時代ごとに出土した大型植物化石を記載する。

#### 1) 弥生時代（～古墳時代）

前期前半（No.19、21～23）は、No.19で草本のウキヤガラ、No.21で木本のブドウ属、草本のイネ、No.22でイネ、No.23で草本のイネ、ホタルイ属、カナムグラが出土した。

前期（No.18）は、炭化材のみであった。

中期（No.20）は、イネ炭化胚乳が出土し、塊状になったものも含まれていた。

中期～後期（No.26）は、炭化材のみであった。

後期（No.13、15、16）は、No.13で草本のイネ、アサ、No.15で木本のモモ、草本のカナムグラ、シロザ近似種、No.16でモモが出土した。

弥生時代後期～古墳時代初期（No.27、28）は、No.27でバラ科、No.28でモモが出土した。

弥生時代後期末～古墳時代前期（No.28、30）は、炭化材（草本？）の細片であった。

弥生時代後期？（No.31）は、モモが出土した。

弥生時代（No.32）は、木本のイチイガシが出土した。

弥生時代？（No.29）は、モモが出土した。

#### 2) 古墳時代

前期（No.17、25）は、No.17でモモ、No.25でブナが出土した。

前期～中期（No.14）は、木本のオニグルミが出土した。

後期（No.24）は、木本のツブラジイが出土した。

#### 3) 古代

古代（No.6、7）および古代後期（No.8～12）は、いずれもモモのみであった。

#### 4) 中世

前期試料（No.1～5）のみであり、No.1で木本のセンダン、No.2で木本のムクノキ、センダン、ブドウ属、草本のイシミカワ、ハスノハカズラ、ノブドウ、カラスウリ、No.4でモモ、No.5で木本のコナラ属、ブナ科、草本のイネ、オオムギ、キビーヒエ、ウキヤガラ、ホタルイ属、ツユクサ属、サナエタデ近似種、ボントクタデ、タデ属、シロザ近似種、ヒユ属、ナデシコ科、ノブドウが出土した。

#### 5) 不明

時期不明のNo.33でオニグルミが出土した。



表1 大型植物化石一覽表 (その2) 数字は個数、0内は破片の数を示す

分類群名・部位/No.・遺構面・遺構名・遺構種別・時期	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	第II面 SX412西側堰	第IV面 SC532-1区 住居 弥生後期	第IV面 SD369-4区上層 溝 古墳前期~中期	第IV面 SD338埴上層下層 溝 弥生後期	第IV面 SD505-3区 方形周溝 弥生後期	第IV面 SD510-2区 小溝 古墳前期	第IV面 SK460 廃棄土坑 弥生前期	第IV面 SK460-2区 廃棄土坑 弥生前前期前半	第IV面 SK477 貯蔵穴 弥生中期	第IV面 SK488下層 廃棄土坑 弥生前前期前半	第IV面 SK500 廃棄土坑 弥生前前期前半
オニグルミ			1								
モモ	1			4(3)	1	1					
ブドウ属										(1)	
イネ		1							約120	1	(2)
ウキヤガラ								1			
アサ		1									
カナムグラ				1							
シロザ近似種				1							
その他・不明		1		約11			(約27)		(約150)	(3)	(約92)

表1 大型植物化石一覽表 (その3) 数字は個数、0内は破片の数を示す

分類群名・部位/No.・遺構面・遺構名・遺構種別・時期	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
	第IV面 SK500 廃棄土坑 弥生前前期前半	第IV面 SK559 土坑 古墳時代後期	第IV面 SX559 土坑 古代前期	第IV面 SP226 ピット 弥生中期~後期	第IV面 SP329 ピット 弥生後期末~古墳初	第IV面 SX435北上層 土坑 弥生後期~古墳初	第IV面 SX438 土坑 弥生?	第IV面 SX484 土坑 弥生後期本~古墳期	第IV面 SX556 土坑 弥生後期?	第IV面 T-24区 遺構面 弥生	第IV面 不明
オニグルミ											1
イチイガシ										(8)	
ツブラジイ		1									
ブナ科			(30)								
モモ									1		
バラ科				1							
イネ	(1)										
ホタルイ属	1										
カナムグラ	(1)										
虫えい	1										
その他・不明	(1)		(約40)	(約28)	(1)			(1)			

### 3. 考察

#### 1) 弥生時代

出土したもののうち、栽培植物と考えられるものは、モモ、イネ、アサであり、モモは後期 (No.15、16、28)、イネは前期前半 (No.21、22、23)、アサは後期 (No.13) には既に利用されていたと言える。また、No.21 (SK488下層；廃棄土坑) でイネと共に炭化して出土したブドウ属は、果実が生食可能な漿果であるが、何らかの形で利用されていた可能性が考えられる。なお、中期のNo.20 (SK477；貯蔵穴) では、イネが出土したが、一部穎が張り付いた状態で塊状になったものが含まれており、その状態からイネ藁ごと貯蔵されていたのではないと思われる。

付近の植物群については、試料別にみると、前期前半のNo.19 (SK460-2区；廃棄土坑) でウキヤガラ、No.23 (SK500；廃棄土坑) でホタルイ属といった湿地性草本が出土しており、水位の低い湿地的環境の存在が予想される。また、No.23では、蔓性草本のカナムグラが出土しており、付近の開けた場所に生育していたであろう。後期のNo.15 (SD388東壁土層下層；溝) では、カナムグラ、シロザ近似種が出土しており、溝付近の乾き気味の場所に生育していたと予想される。

弥生時代のNo.32 (T-24区；遺構面) では、常緑広葉樹のイチイガシが出土し、付近にイチイガシを含む照葉樹林が成立していた可能性が考えられる。

#### 2) 古墳時代

栽培植物と考えられるものは、初期 (No.17) のモモのみである。また、前期～中期 (No.14) のオニグルミも食用可能な有用植物である。

付近の植物群としては、後期のNo.24で常緑広葉樹のツブラジイが出土しており、ツブラジイを含む照葉樹林が成立していた可能性が考えられる。

#### 3) 古代

出土したのは、モモのみであり、弥生時代後期以降利用され続けられたのであろう。

#### 4) 中世

栽培植物と考えられるものは、No.4のモモ、No.5のイネ、オオムギ、キビ・ヒエである。オオムギ、キビ・ヒエの利用 (栽培) 開始時期については、明らかではないが、古代以前の試料では出土しないので、中世に入って栽培植物が多様化した可能性が考えられる。

付近の植物群については、樹木では、暖地に生育する落葉広葉樹のセンダン (No.1、2) や同じく落葉のムクノキ、蔓性のブドウ属 (No.2)、落葉か常緑か不明のコナラ属、ブナ科 (No.5) がみられたであろう。草本類については、No.2 (SD326；溝) で湿地性草本のイシミカワが出土しており、溝内ないし溝付近の湿った場所に生育していたであろう。また、溝付近の樹木類には、ハスノハカズラ、ノブドウ、カラスウリといった蔓植物が絡み付いていたであろう。No.5 (SK317；土坑) では、ウキヤガラ、ホタルイ属、ツクサ属、サナエタデ近似種、ポントクタデといった湿地性草本とシロザ近似種、ヒユ属といった路傍ないし畑地の雑草が出土しており、土坑周辺には、幾分湿った場所と乾き気味の場所とがみられたであろう。

### 4. 主な大型植物化石の形態記載

#### イチイガシ *Quercus gilva* Blume 果実

花柱・柱頭は、欠損しているが、輪状紋のある首の立ち上がり具合からイチイガシとした。

#### ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* var. *cuspidata* (Thunb.) Schottky 果実

果実は、卵形でやや光沢のある黒褐色。上・下端が潰れているが、果実長は1mm前後と推定され

る。

**コナラ属** *Quercus* 果実

破片であるが、尻(底部)が残っており、その形態からコナラ属とした。常緑か落葉かは不明である。

**ブナ科** *Fagaceae* 果実

細かな破片であり、ブナ科としか判らない。コナラ属やシイノキ属が含まれていると思われるが、クリが含まれている可能性も否定できない。

**モモ** *Prunus persica* Batsch 核

全体としては、長さ約18~29mmで平均約23mm。時代別でのおよその長さは、弥生時代が18~27mm(平均23mm)、古墳時代(1個体のみ)が26mm、古代が22~29mm(平均25mm)、中世(1個体)が24mm。弥生時代と古代を比較すると、古代の方がやや大きい傾向はあるが、出土核をみる限りでは、必ずしも時代が下るにつれて大きくなるとは言えないようである。なお、No.15出土核のうち1個体は、げっ歯類による食害痕が認められた。

**イネ** *Oryza sativa* Linn. 炭化胚乳

No.20で出土したイネは、単粒のものが88個と塊状になったものが3個であった。塊状のものは、1塊が10粒位集合したものであり、一覧表中には全体で約120個とした。穎(籾殻)が残っているものも多くみられ、おそらく元は、穎果(籾)の状態であり、それがばらばらになったと思われる。

**キビーヒエ** *Panicum miliaceum* Linn.-*Echinochloa crus-galli* P.Beauv. var. *fumentacea* Trin. 炭化胚乳

先端は尖り気味で背面には滑らかで光沢のある穎が残っており、胚部分は確認できない。下端は若干欠損しているが、腹面にうちわ型の臍が確認できる。

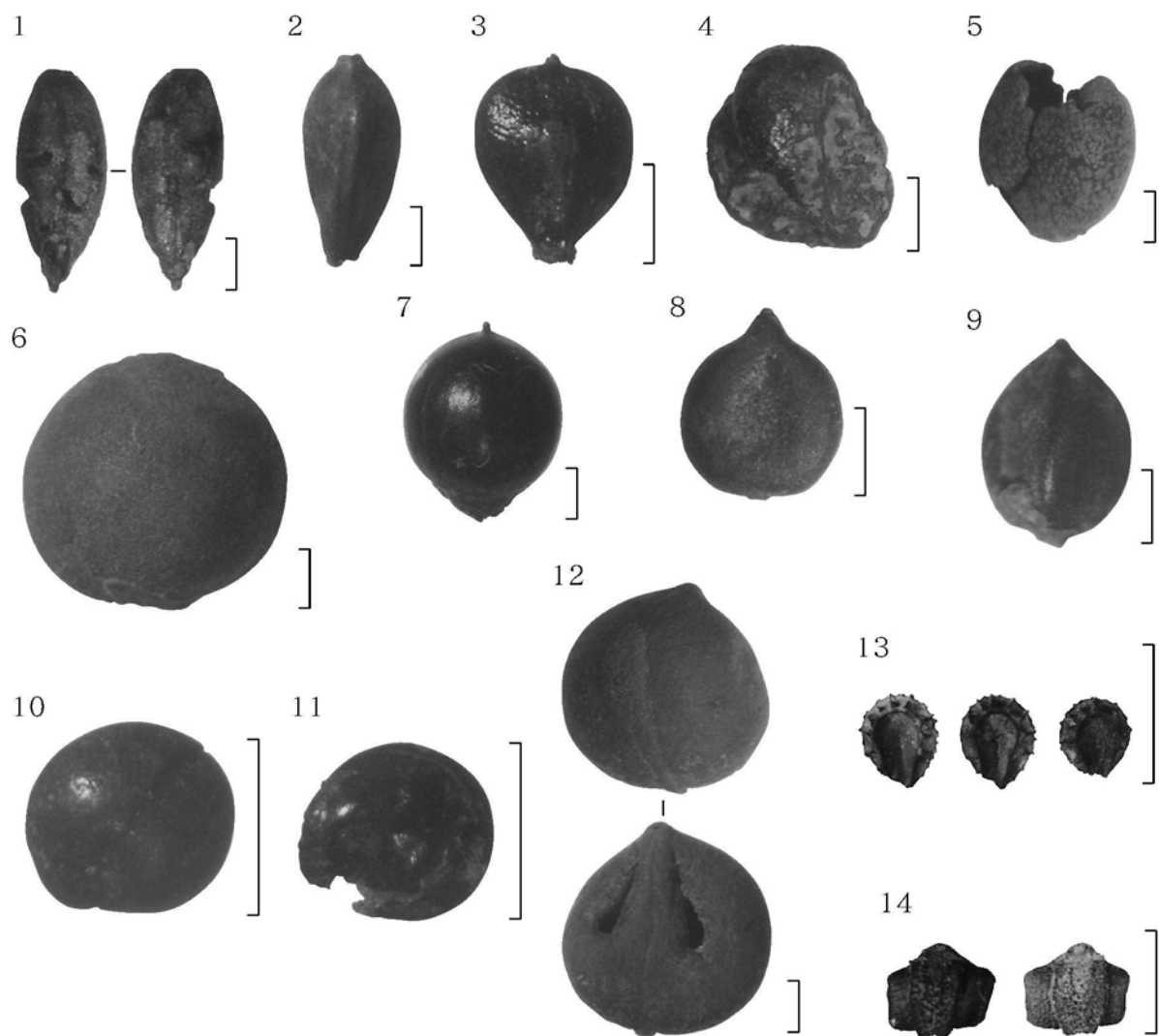
**虫えい(虫こぶ)**

昆虫が産卵寄生した結果、異常発育した部分で葉などにみられる。黒色で大きさ・形は、様々である。



図版1 出土した大型植物化石 (スケールは1~10、15が1cm、11~14、16、17が1mm)

1.オニグルミ、核、No.14 2.イチイガシ、果実、No.32 3.コナラ属、果実、No.5 4.ツ  
ブラジイ、果実、No.24 5.ムクノキ、核、No.2 6.モモ、核、No.7 7.モモ、核、No.9  
8.モモ、核、No.10 9.モモ、核、No.11 10.センダン、核、No.1 11.ブドウ属、種子、  
No.2 12.イネ、炭化胚乳、No.13 13.イネ、炭化胚乳、No.5 14.イネ、炭化胚乳、  
No.21 15.イネ、炭化胚乳(塊)、No.20 16.イネ、炭化胚乳(塊、15.中央の拡大)、  
No.20 17.キビーヒエ、炭化胚乳、No.5



図版2 出上した大型植物化石 (スケールは1~12が<sup>3</sup>1mm、13、14が<sup>3</sup>1cm)

- 1.オオムギ、炭化胚乳、No.5    2.ウキヤガラ、果実、No.5    3.ホタルイ属、果実、No.5  
 4.ツユクサ属、種子、No.5    5.アサ、炭化種子、No.13    6.カナムグラ、種子、No.23    7.  
 イシミカワ、果実、No.2    8.サナエタデ近似種、果実、No.5    9.ポントクタデ、果実、No.5  
 10.シロザ近似種、種子、No.15    11.ヒユ属、種子、No.5    12.ノブドウ、種子、No.5  
 13.ハスノハカズラ、種子、No.2    14.カラスウリ、種子、No.2

### 3. 第6次調査出土骨片について

黒澤 一男 (パレオ・ラボ)

#### 1. はじめに

下月隈C遺跡の発掘調査において動物遺体が出土した。それらの動物遺体について分類・同定を行なった。しかし取り上げられた試料のすべてが破片であること、また焼骨であることから多くのものは同定することが不可能であった。表1に分類・同定をおこなった試料およびその内容を示す。

表1 地点別出土骨片部位観察表

試料名	種名	部位	左右	備考
SK460 (廃棄土坑)	魚類 (魚種不明)	腹椎骨		
	魚類 (魚種不明)	骨片		
SK488 (廃棄土坑)	クロダイ属	前上顎骨	左	
	クロダイ属	歯骨	左	
	クロダイ属	角骨	右	
	ナマズ目ギギ科	担鰭骨		
	小型哺乳類 食肉類	中手骨	不明	テンより大
	魚類 (魚種不明)	担鰭骨		
	魚類 (魚種不明)	歯		タイ科?
	魚類 (魚種不明)	尾椎骨		タイ科?
	魚類 (魚種不明)	鰓条骨		
	魚類 (魚種不明)	椎骨		
	鳥類	骨片		
	鳥類・哺乳類	骨片		
	魚類 (魚種不明)	骨片		
SK517 (土坑)	タイ科	前上顎骨	右	
	魚類 (魚種不明)	腹椎骨		
	魚類 (魚種不明)	椎骨		
	魚類 (魚種不明)	歯		タイ科?
	鳥類・哺乳類	骨片		
	魚類 (魚種不明)	骨片		
SK544 (土坑)	小型哺乳類	椎骨		ドブネズミサイズ
	小型哺乳類	椎骨		
	鳥類・哺乳類	骨片		
	魚類 (魚種不明)	骨片		

#### 2. 魚類

本遺跡からは軟骨魚類 (真骨類) 3分類群が同定された。以下に各分類群について記載する。

##### ナマズ目ギギ科

担鰭骨が検出されている。ギギ科には3種が生息しているが、出土試料から種の同定は困難である。本科は本州から九州の河川や湖沼に生息する。

##### クロダイ属

前上顎骨、歯骨、角骨が各1点の計3点が検出されている。多くが体長33cmの現生標本とほぼ同じ大きさである。本属は全国の遺跡から多く出土しており、遺跡出土の魚類として代表的なものである。本属は北海道以南の沿岸域などに生息する。

##### タイ科

タイ科魚類の前上顎骨が検出されている。これらも上記のクロダイ属を含むヘダイ亜科か、マダ



イ亜科のものと考えられるが、種の同定は困難である。なお他にタイ類に類似した椎骨や歯などが見られるが、類似した分類群が存在するため同定することは困難であり、ここでは魚種不明として扱っている。先にも述べているが、クロダイ属やマダイ亜科などのタイ科の魚類は日本の遺跡出土魚類の代表的なものである。

また分類群は不明であるが椎骨、歯や肋骨などの骨片が検出されている。椎骨はその径が6mmのものから1mm程度の小さなものまでであるが、それらはすべて破片であり、同定に有効である棘や突起が残っていないため魚種不明として扱う。歯は、先に記したクロダイ属やタイ科の前上顎骨に残っていないため、おそらくタイ科のものであると考えられるが、形態的には同定が困難であるためここでは魚種は不明としている。

### 3. 鳥類・小型哺乳類

鳥類・小型哺乳類の骨片はいくつか見られるが、そのほとんどが骨端部を残していない為、同定および部位の特定は困難である。その中で、テンよりひとまわり大きな中手骨と、ドブネズミと同じ大きさの椎骨が検出されている。

### 4. まとめ

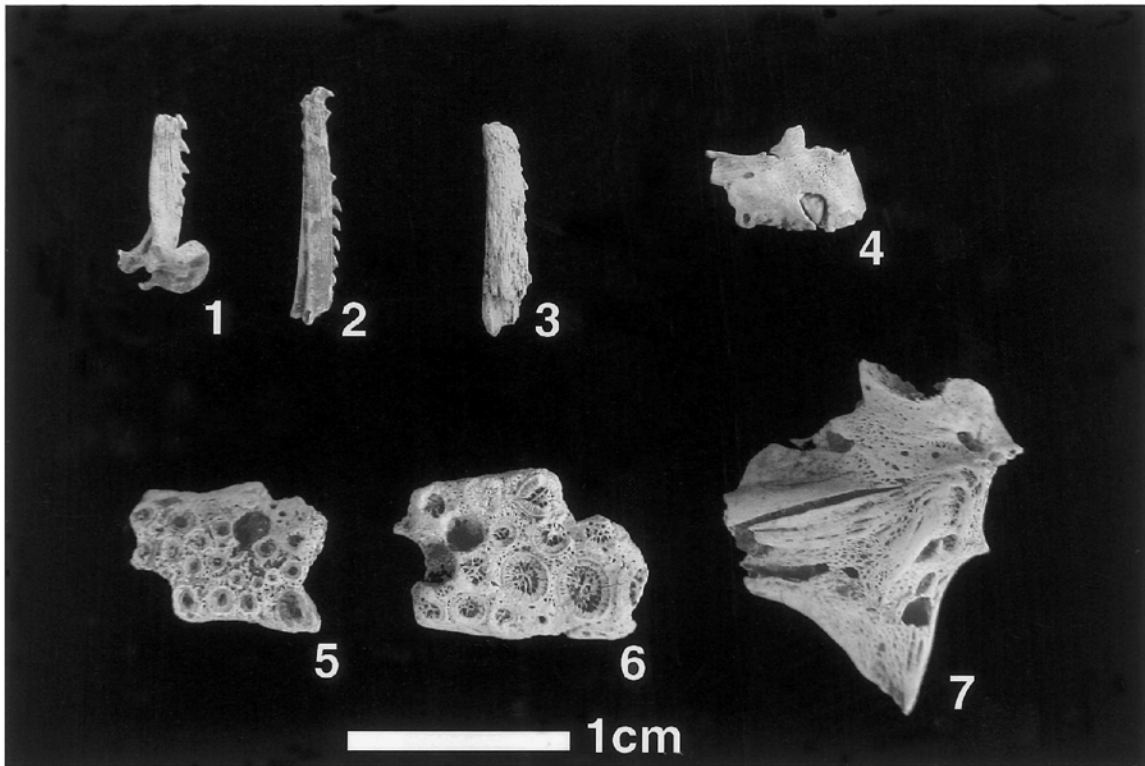
福岡市下月隈C遺跡第6次調査の動物遺体を検討した結果、その多くが骨片であるため多くは同定にいたらなかった。しかしながら、日本全国の遺跡での代表的な魚種であるクロダイ属とタイ科の骨片が検出された。それと淡水のギギ科の骨片も検出されている。これらのことから博多湾や那珂川などの周辺河川で漁をしていたことが推測される。

### 謝辞

同定用の現生骨格標本は、国立歴史民族博物館西本研究室の所蔵標本を観察させていただいた。同定には国立歴史民族博物館の西本豊弘教授、早稲田大学の樋泉岳二博士にご教授いただいた。ここに感謝の意を表す。

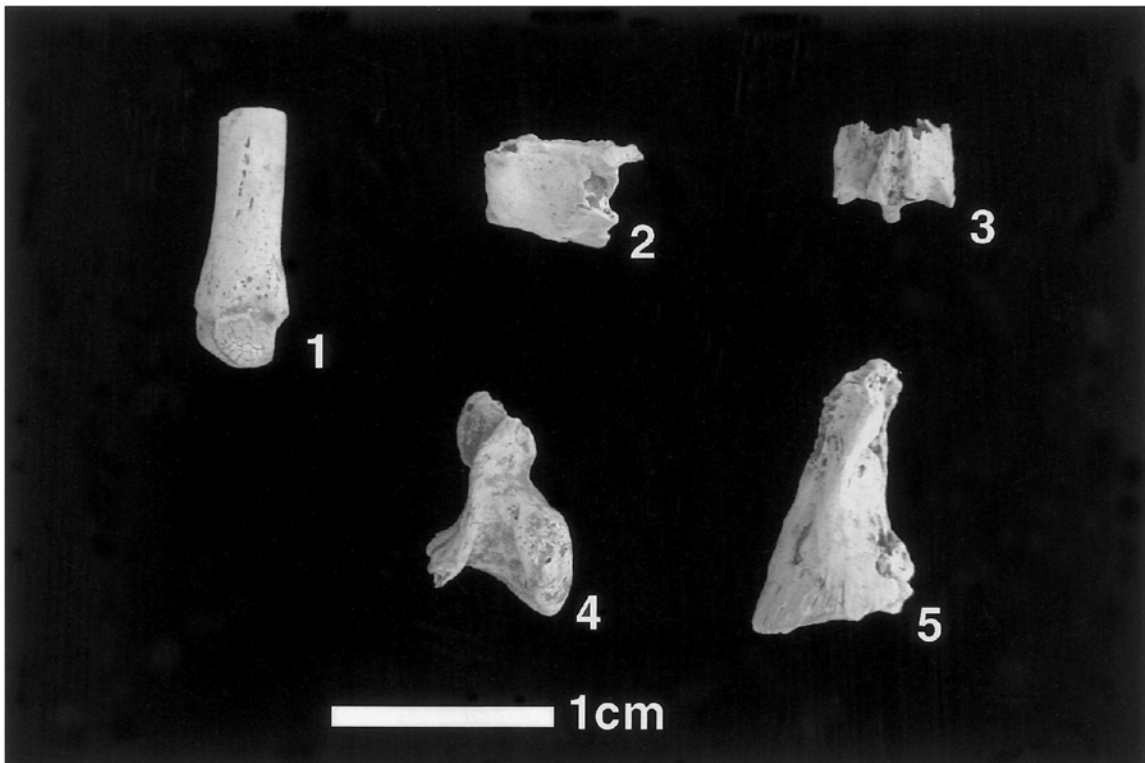
### 参考文献

- 益川一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (1988) 『日本産魚大図鑑 (第2版)』。東海大学出版会、pp.498 + pl.370.  
樋泉岳二 (1994) 遺跡産魚骨同定の手引き (I)。動物考古学、2、p.23-38。  
樋泉岳二 (1995) 遺跡産魚骨同定の手引き (II)。動物考古学、5、p.11-38。



図版1

- 1~3. ナマズ目ギギ科 担鰭骨 (SK488) 4. タイ科 前上顎骨 右 (SK517)  
 5~7. クロダイ属 (SK488) 5. 歯骨 左 6. 前上顎骨 左 7. 角骨 右



図版2

1. 小型哺乳類食肉類 中手骨 (SK488) 2. 小型哺乳類 椎骨 (SK544)  
 3. 小型哺乳類 椎骨 (SK544) 4. 鳥類・哺乳類骨片 (SK488) 5. 鳥類骨片 (SK488)

## 4. 第6次調査出土材の樹種からみた木材利用

三村 昌史 (㈱パレオ・ラボ) ・高橋 敦 (パリノ・サーヴェイ(株))

### 1. はじめに

第6次調査に伴う出土材のうち、建物建築材144点・土木材854点・流木10点・木製品類231点の、合わせて1239点についての樹種同定結果を報告する。このうち、建物建築材は弥生時代中期～後期にあたる堀立柱建物やピット出土の柱材・礎板が中心となり、土木材には護岸杭材・矢板があるがそのほとんどが古墳および古代の護岸杭材である。また、木製品には弥生時代後期から中世に至るまで各面の試料があり、鍬・鋤・編錘などの農具類、槽・曲物・盤・皿などの容器類、斎出・人形・鳥形・剣形などの祭祀具のほか、井戸杵・下駄・篋状・弓・修羅などの様々な製品が含まれる。ここでは、これらの出土材に使用された樹種を同定し、各器種の用材の特徴を明らかにするとともに、用材選択の背景にある材質をはじめとした木材特性と製作・使用法との関連性について調査を行った。

なお、この報告は(株)パレオ・ラボ及びパリノ・サーヴェイ(株)にそれぞれ委託された別個の樹種同定報告をまとめたものである。紙面が限られているため、写真図版については一般に同定困難な部類の散孔材を中心に示し、個別の同定リストや木材組織の記載については割愛した。これらについては保管されたプレパラート試料とともに必要に応じて公開されることになっている。

### 2. 方法

出土木材から剃刀を用いて横断面・放射断面・接線断面の3方向の切片を作成し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作成した。検鏡は生物用の光学顕微鏡を用いて現生標本との対照により同定を行った。

### 3. 結果および考察

樹種同定の結果、全体で見出されたのは針葉樹が7分類群、広葉樹が64分類群の計71分類群であった。このたびの分析対象試料は時代別に見た場合に必ずしも種別の比較試料がすべて揃っていないわけではないので、以下では建物関連の建築材・土木材・流木・木製品というように、性格の異なる種別ごとにまとめ、その用材傾向と選択の背景について検討する。

#### (1) 建物建築材の用材

##### a. 弥生中期～後期

弥生時代中期～後期に該当する第IV面の堀立柱建物群、竪穴住居、およびピット群から出土した建物を構成していたと考えられる出土材を表1に示す。

柱材に用いられていた樹種は、針葉樹材のマキ属・ヒノキ、および広葉樹材のクリ・スタジイ・ツブラジイ・コナラ節・クヌギ節・アカガシ亜属・クワ属・タブノキ属・クロモジ属・ツバキ属・サカキ・ヤマビワ・カキノキ属・チシャノキであり、全体として様々な樹種が見出されていることがわかる。これらの樹種はいずれも小高木あるいは高木にまで生長するので、柱材の法量に見合うだけの径長が得られる。特に用材の中心になっているのが51点中19点と多用されているクリであるが、クリは全国的にもこうした建築材にしばしば見出される材で、材は硬く丈夫であり耐朽性が高いことから、ことさら嗜好されて用いられたようである。そのほかの樹種もやはり硬質な材質なものが多いが、中にはタブノキ属のように硬さ中庸程度の材や、耐朽性のあまりないスタジイ・ツブ

表1. 弥生中期～後期の建物建築材の用材

樹種/器種		柱根	礎板	組合せ礎板	杭	転用杭?	板	木片	木片粗朶?	計
針葉樹	スギ	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	ヒノキ	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	マキ属	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	針葉樹	1	-	-	-	-	-	-	-	1
広葉樹	クリ	19	33	5	-	-	-	1	1	59
	スタジイ	1	5	2	-	-	-	-	-	8
	ツブラジイ	4	6	-	-	-	1	-	-	11
	ツブラジイorコナラ節	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	コナラ節	3	1	-	-	-	-	-	-	4
	クスギ節	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	アカガシ亜属	5	2	1	-	-	-	1	-	9
	ムクノキ	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	クワ属	2	-	-	-	-	-	-	-	6
	タブノキ属	3	7	-	3	1	-	-	-	10
	クロモジ属	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	クスノキ科	1	1	-	-	-	-	-	-	2
	ツバキ属	2	-	-	-	-	-	-	-	2
	サカキ	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	モモ	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	ウメ	-	1	1	-	-	-	-	-	2
	ナシ亜科	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	サクラ属	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	ムクロジ	-	3	-	-	-	2	-	-	5
	ヤマビワ	2	1	-	-	-	-	-	-	3
	アワブキ属	-	-	-	1	2	-	-	-	3
	カキノキ属	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	イボタノキ属	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	チシャノキ	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	広葉樹	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	樹皮	-	-	-	-	-	-	-	1	1
計		51	66	9	4	3	4	3	1	141

\*便宜上?でも一括して示したものがあ

ラジイなども用いられている上、樹種が雑多であることを考慮すると、材質に配慮した樹種選択が窺えるものの、適度な径長が得られれば材質にはそれほど拘らずに選択されることもあったものと考えられる。全体として針葉樹材はほとんど利用されていないが、福岡市内での花粉分析結果(中村・畑中 1976; 鈴木 2000)や第5次調査の花粉分析結果を参照すると、本遺跡周辺の照葉樹林中には針葉樹種が少なかったとみられ、木材資源量を反映した結果と示唆される。

礎板には、最も多用されている樹種がクリであることを含め、基本的に柱材の用材の中心になっている樹種が共通して用いられている。ただし、柱材に見出されていないスギ・ムクノキ・クスノキ科・モモ・ウメ・ナシ亜科・サクラ属・ムクロジ・イボタノキ属といった樹種も用いられている。全体として硬く丈夫な部類の材が多く、柱材と同様に材質への着目が窺える結果である。注目されるのは中国大陸原産で栽培される樹木のモモやウメの材が礎板に利用されていることである。栽培されていたものが枯死や収量の低下などにより活用された可能性が想起されるが、周辺に豊富に見られたであろう他の様々な樹種ではなくモ

表2. 建物別にみた柱・礎板の用材

建物種類・番号	SB														SC	計				
	579	580	581	582	584	588	589	592	593	598	606	607	595							
ピット数	6	6	6	[4]	6	6	6	[4]	6	6	6	4	-							
樹種/器種	柱	礎	礎	柱	礎	礎	柱	礎	礎	柱	礎	礎	柱	礎	礎					
広葉樹	クリ	3	6	-	-	2	4	1	-	5	5	6	-	-	2	3	1	-	2	41
	スタジイ	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2	-	-	1	4
	ツブラジイ	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2
	ツブラジイorコナラ節	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	コナラ節	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	アカガシ節	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	ムクノキ	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	タブノキ属	-	-	-	-	-	-	2	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
	クスノキ属	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	モモ	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	ウメ	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	ムクロジ	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	ヤマビワ	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	チシャノキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
計	2	6	2	1	6	4	4	6	7	5	7	2	2	2	5	2	1	3	67	

\*SB582の組み合わせ礎板3点については1点として換算した。ピット数の [ ] は部分的な検出を示す。なお、礎板については建替時に残存したと推測されるものや複数枚敷かれていたものもあるため、ピット数と点数が一致しない建物もある。

モ・ウメの材がわざわざ選択されていることを考慮すると、何らかの祭祀的な意図により利用されたのかも知れない。

また、建物ごとに柱材の用材の傾向をみても、比較的試料が揃っているものではひとつの建物に同一の樹種を用いる傾向が強いことがわかる(表2)。こうした傾向は他地域においても確認さ

れており（例えば、パリーノ・サーヴェイ株式会社 2000）、建物の構築の際になるべく同じ材質のものでそろえようとした結果であろう。さらに、柱と礎板との関係においても、SB579,584,589などは柱材と共通する樹種が礎板にも用いられている傾向にある。礎板には板目・柃目・追柃などの板材を利用したもの以外にも比較的小径の半裁材を利用したものも含まれていることを考慮すると、礎板には柱材に利用した原木の余材を効率的に活用した可能性も想定される。

b. 古墳前期～中期・古墳後期～奈良時代

表3. 古墳前期～奈良時代の建物建築材の用材

樹種/器種	古墳前～中		古墳後～奈良
	柱	礎板	柱
広葉樹			
イヌシデ節	-	-	1
クリ	-	1	-
スダジイ	1	-	-
計	1	1	1

古墳前期～中期の試料にSD369から出土した柱・礎板各1点、古墳後期～奈良時代の試料に谷底西出上の柱1点がある（表3）。点数が少ないので全体を把握することはできないが、選択された背景と樹種の傾向は弥生中期～後期の試料と同様であると推測される。

(2) 上木材の用材

表4. 遺構別にみた古墳時代頃の杭の用材

樹種/遺構	SD369	SD190	SX389	SX423	谷部	計
広葉樹						
スダジイ	-	2	3	1	-	6
ツブラジイ	-	-	8	2	-	10
コナラ節	1	-	-	-	-	1
クスギ節	3	2	2	-	-	7
アカガシ節	-	-	1	-	-	1
エノキ属	-	-	1	-	-	1
モクレン属	-	1	-	-	-	1
シキミ	-	-	2	-	-	2
クスノキ	1	-	-	-	-	1
カゴノキ	-	-	1	-	-	1
ハマビワ属	-	-	1	-	-	1
ツバキ属	1	-	1	-	-	2
モッコク	-	1	-	-	-	1
サカキ	-	1	1	-	-	2
ユズリハ属	-	-	1	-	-	1
ヤマビワ	-	-	2	-	-	2
アワブキ属	2	-	-	-	-	2
タイミンタチバナ	-	-	-	-	1	1
クマノミズキ類	-	-	1	-	-	1
ハイノキ節	-	1	-	-	-	1
クロバイ類似種	-	-	2	-	-	2
チシャノキ	-	1	-	-	-	1
計	8	9	27	3	1	48

\*SD369が古墳前～中、SX423は古墳後～古代前、それ以外は古墳後～奈良時代に該当する。

a. 流路・溝護岸杭材

旧流路護岸杭材や堰の護岸杭材は主に第Ⅲ・Ⅳ面の古墳時代前期～中期、第Ⅲ面の古墳時代後期～奈良時代頃、および第Ⅱ面の古代後期に該当するものがある。表4,5はおおまかに古墳時代頃と古代とに分け、遺構別に杭の用材をまとめたものである。

これをみると明らかなように、各時代とも実に様々な樹種が用いられていることがわかる。また、点数の揃っているのを見る限り、ある遺構・グリッドで傾向が異なるということはなく、用いられている樹種の多少に大きな変化はない。樹種が雑多であるのは弥生中期～後期の柱材にも確認された傾向であるが、杭材の方ではイヌガヤ・ヒサカキ属・カマツカ・ネジキ・シャ

チャンボ・キブシ・ガマズミ属など、低木程度にしかならない樹種も利用されているのが特徴的な点である。全体としては柱材に確認されたように周辺植生を反映して針葉樹は少なく、広葉樹（常緑広葉樹が主）が用材の中心となっている。

木取りに着目すると、杭材のほとんどは樹皮付あるいは杭の打設時には樹皮が付いていたと推測される最外年輪の残存した丸木であるから、割裂等の加工の手間を省くことのできる丸木がそのまま利用されていたといえる。その丸木杭について径の太さを測定した結果をみると、それぞれの時代において杭材の径は比較的揃っている

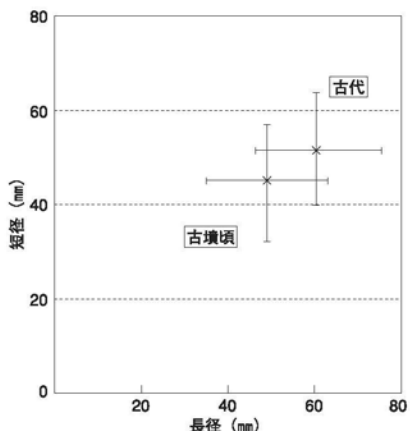


図1. 古墳・古代における丸木杭の径の分布  
×は平均値、上下左右の棒線は平均値±標準偏差を示す  
対象点数は古墳頃が26、古代が740である。

表5. 遺構・グリッド別にみた古代の杭の用材

樹種/遺構・グリッド	SX362	SX360	SX364	SX395							SX360	SX395	計
				R25	R26	R27	R29	S24	T23-24	TU23			
針葉樹													
アカマツ	-	-	4	5	5	2	2	-	-	-	4	-	22
モミ属	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	3
ヒノキ	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
イスガヤ	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
広葉樹													
ヤマモモ	-	-	-	1	2	1	3	-	2	-	-	-	9
ヤナギ属	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
クリ	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	3
スダジイ	-	-	1	9	15	10	16	-	5	-	-	-	57
ツブラジイ	-	-	-	5	15	2	20	12	3	2	1	-	61
コナラ属	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	2	-	3
クヌギ属	-	2	-	3	3	-	1	15	3	1	-	-	31
アカガシ亜属	1	-	2	3	11	8	9	3	1	1	3	-	39
エノキ属	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	1	-	3
ムクノキ	-	-	-	-	2	2	-	1	2	-	-	-	7
シキミ	-	-	4	7	17	15	22	14	9	-	-	-	90
クスノキ	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	2	-	2
ヤブニッケイ	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
タブノキ属	-	-	-	2	1	1	2	2	1	-	-	-	9
シロダモ	-	1	-	1	1	-	1	-	1	1	-	-	6
イスガシ類似種	-	1	-	1	2	1	3	1	-	-	-	-	9
ハマビワ属	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	3
ツバキ属	-	-	2	-	1	2	1	1	-	-	-	-	7
モッコク	-	1	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	3
サカキ	-	2	1	11	25	12	23	26	7	9	4	-	120
ヒサカキ属	-	-	-	1	6	-	9	2	-	-	-	-	18
イスノキ	-	-	-	2	9	5	9	2	3	-	2	-	32
カマツカ	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
スモモ亜属	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	2
アカメガシワ	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	3
ユズリハ属	-	-	-	4	21	7	23	2	2	-	1	-	60
トチノキ	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
ヤマビワ	-	-	-	1	1	2	5	1	2	-	1	-	13
モチノキ属	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	4
ホルトノキ	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	4
キブシ	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	3
クマノミズキ類	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-	-	4
ネジキ	-	-	2	-	2	-	1	-	1	-	-	-	6
シャシャンボ	-	-	-	4	7	5	4	1	-	2	-	-	23
タイミンタチバナ	-	1	-	-	3	1	1	1	-	-	-	1	7
カキノキ属	-	-	-	1	4	2	4	3	2	-	-	-	16
ハイノキ	-	-	-	-	1	1	1	-	5	-	-	-	8
クロキ類似種	-	2	-	-	8	5	9	3	4	-	-	-	31
クロバイ類似種	-	-	-	1	2	-	5	1	1	-	2	-	12
ミミズバイ類似種	-	-	-	5	6	5	8	7	3	-	3	-	37
イボタノキ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ヤブアマリ類似種	-	-	-	-	3	3	2	-	-	-	-	-	8
ガマズミ属	-	-	1	1	1	1	3	-	-	-	1	-	8
計	1	10	19	71	189	98	199	107	61	17	27	1	801

(図1)。したがって、杭材の採取に関しては遺跡周辺の山野にみられるありとあらゆる樹種が利用され、その都度適度な径の材が選択されていたことが推察される。

計803点と点数の揃っている古代における杭材の組成をみると、杭材全体ではサカキが約15%で最も多く、次いでシキミが約12%、スダジイ・ツブラジイ・ユズリハ属が約7%、アカマツ・クヌギ節・アカガシ亜属・イスノキ・シャシャンボ・ハイノキ以外のハイノキ属がそれぞれ約3~5%と続く(図2)。このうち、多用されているサカキ・シキミや、比較的用いられているユズリハ属・イスノキ・シャシャンボ、クロキやミミズバイなどのハイノキ

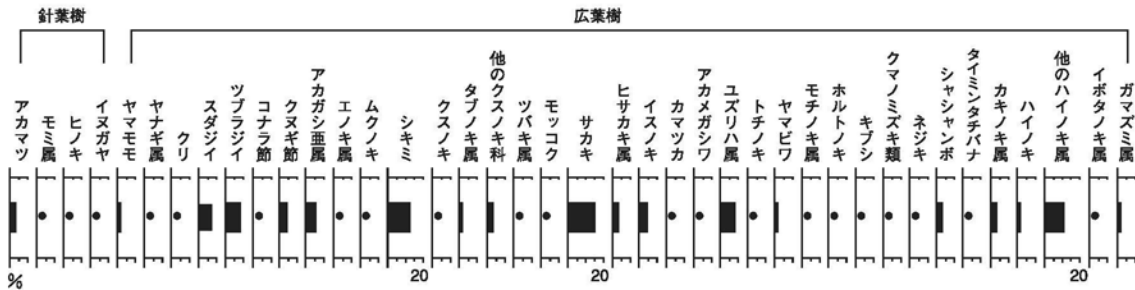


図2. 古代における杭材の組成図  
%は古代の杭材の総点を基数として算出。1%未満については●で示してある。

属といった樹種のなかには高木になるものもあるが、実際には照葉樹林において亜高木層や低木層を占めることも多く、小高木や低木状態でみられるので杭材に適度な径長の材が得やすかったと推察される。第5次調査で実施されている花粉分析結果からは、花粉で検出されにくい樹種の分を差し

引いてもアカガシ亜属やシノキ属（スダジイ・ツブラジイ）の優占する植生が想定されるが、これらの樹種が木材資源量ほど杭材に用いられていないのは、高木層を中心に占めていたために杭材

表6. 杭材の伐採時期

時代・遺構/季節	早春	春	夏	春~夏	秋~冬
古墳後~奈良					
SD190	-	1	-	-	-
SX389	1	3	7	2	2
古代					
SX360	1	1	-	3	-
SX364	-	1	-	1	1
SX395 R25	2	2	11	8	3
SX395 R26	8	9	26	23	4
SX395 R27	2	6	1	19	8
SX395 R29	9	6	7	26	8
SX395 S24	-	6	14	9	6
SX395 T23-24	-	2	6	13	1
SX395 TU23	-	1	1	4	-
SX403	2	5	-	4	1
計	25	43	73	112	34

\*季節の推定が可能であったもののみについて示した

としては利用可能な径長の材が得にくかったのであろう。こうした樹種は、農具や建築材などの用材とされた際に生じた枝などの余材が利用されていたのかも知れない。

また、丸木杭材の最外年輪の状態および形成層帯の活動の有無により判断した伐採季節の結果をみると、古墳後期・古代いずれの杭列も四季を通して伐採された木材から構成されていることが明らかとなった（表6）。杭材の場合、使用する木材を伐採し貯蔵しておく可能性は低いので、これらの杭列が度重なる補強・補修などを受けた事を示していると考えられる。

表7. 矢板の用材

樹種/時代	古墳後~奈良	古代
広葉樹		
スダジイ	-	1
ツブラジイ	1	-
アカガシ亜属	1	-
計	2	1

b. 矢板

矢板の試料は少ないので全体の傾向は把握できないが、3点の試料には硬く丈夫な広葉樹材が用いられている（表7）。

(3) 流木の樹種

表8. 流木の樹種

樹種/時代	弥生後~古墳前	古墳前~中	古代後期	計
広葉樹				
ヤナギ属	1	1	-	2
スダジイ	-	2	-	2
ツブラジイ	-	1	1	2
コナラ節	-	1	-	1
シキミ	-	1	-	1
ヤブニッケイ	-	-	1	1
ミズハイ類似種	-	-	1	1
計	1	6	3	10

流木については時代的に古代後期（SD362）・古墳時代前期～中期（SD369）・弥生時代後期～古墳前期（SD388-1）の試料がある（表8）。点数は少ないので本遺跡を取り巻いていた古植生について深く言及することはできないが、見出された樹種が河川や溝の近辺に生育していたものとみられる。特にこうした立地に生育するヤナギ属の材が弥生後期～前期・古墳前期～中期のものに見出されているのは周囲の環境と整合的な結果であるといえる。

(4) 木製品の用材

木製品は各調査面の流路・溝から様々な器種が出土している。ここでは、第Ⅲ・Ⅳ面の古墳時代前期～中期と第Ⅳ面の弥生時代後期～古墳時代前期の各試料については時代が重なる部分があるので一括し、そのほか第Ⅲ面の古墳時代後期～奈良時代、第Ⅱ面の古代、第Ⅰ面の中世というように時代区分して器種別に用材の傾向と選択の背景について考察を加えていく。

a. 弥生後期～古墳中期の木製品

表9は、弥生後期～古墳前期（SX436,555,559,565、SD388,506、SK492）、古墳前期～中期（SD369）、および古墳後期～奈良時代（SD190,390,398、SX389）に該当する木製品をまとめたものである。

農具としては鋤（先）2点があるが、いずれもアカガシ亜属の材が用いられており、耕起に耐え得るよう硬く強靱な材が用いられている。農具の用材にアカガシ亜属、いわゆるカシの材を用いるのは西日本における一般的な特徴であって、周辺の諸遺跡の結果とも共通するものである（例えば、嶋倉 1976,1981；林・松本 1980；福岡市教育委員会 1983；伊東1989）。容器類には槽1点と容器？とされるものがある。槽に見出されているクリの材は硬く切削は困難な部類であるが、割裂は容易で板材を割り出しやすいことから用いられたとみられる。周辺の遺跡では槽の用材としてクリ

表9. 弥生後期～古墳中期の木製品の用材

樹種/器種	鋤先	槽	容器?	扉	斎串	板	杭	自在駒?	加工材	計
針葉樹	ニヨウマツ類	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	スギ	-	-	-	-	1	5	-	-	6
	マキ属	-	-	-	-	-	-	-	1	1
広葉樹	クリ	-	1	-	1	-	-	-	-	2
	スタジイ	-	-	-	-	-	-	-	2	2
	クスギ節	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	アカガシ亜属	2	-	-	-	-	-	-	2	4
	シキミ	-	-	-	-	-	1	-	1	2
	クスノキ科	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	キハダ	-	-	-	-	1	-	-	-	1
	ムクロジ	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	アワブキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	広葉樹	-	-	-	-	-	-	1	-	3
計		2	1	1	1	1	6	1	7	27

\*木製品については?付きであるが便宜上一括して示したものである

されており、残りの1点も割裂容易な広葉樹材のキハダが用いられており、器形・製作法と選択された樹種の材質との間に関連性が認められる。柱材や杭材では全体として針葉樹はほとんど用いられていなかったが、資源として少なくともこのように割り出されることで板材・割材状の製品に効率的に利用されていたといえる。

### b. 古墳後期～奈良時代の木製品

表10. 古墳後期～奈良時代の木製品の用材

樹種/器種	鋤	農具片	曲物側板	人形?	板材	部材	炭化材	加工材	計	
針葉樹	ニヨウマツ類	-	-	-	1	-	-	-	1	
	スギ	-	-	-	-	1	-	1	2	
	ヒノキ	-	-	1	-	1	-	-	2	
広葉樹	クリ	-	-	-	2	-	-	1	3	
	スタジイ	-	-	-	-	-	2	-	2	
	アカガシ亜属	1	-	-	-	-	-	1	2	
	クスノキ科	-	1	-	-	-	-	-	1	
	チシャノキ	-	-	-	-	-	-	1	1	
	樹皮	-	-	-	1	-	-	-	1	
計		1	1	1	1	4	1	2	4	15

ノキが用いられ、3点の板材のうち1点にスギが用いられるなど、針葉樹材が用材とされている。3点のうちの残りの2点にはクリが見出されており、割裂容易な広葉樹材も用材とされているのは弥生後期～古墳前期のものと同様である。

### c. 古代の木製品

表11-1,11-2は古代 (SD362, SX364,395,403, SS349) に該当する木製品をまとめたものである。

農具未製品にはツブラジイが見出されており、農具の法量に見合う大径の得られる樹種のうち硬い部類の材が選択されたとみられる。弓にはスギが見出されている。一般に弓にはイヌガヤやカヤが用いられることが多いが、スギの材も粘りがあるので理にかなった使用法であるといえる。挽物・削物の類では、漆塗の皿・盤や白木の皿にスギ・ヒノキ科・ケヤキ・サクラ属が見出され、回転成形の際に表面を滑らかに仕上げることができ、また削り易い均質な部類の材が用材とされている。編錘にはシキミの材が見出されている。一般に、編錘にはこれといって決まった樹種が用いられるわけではないが、全体として重い材質のものが選択される傾向にあり、そうした意図のもとにシキミの材が利用されたのではないかと類推される。なお、周辺の遺跡においてもアカガシ亜属・シキミ・ヒサカキなどの重い材質のものが用いられている (福岡市教育委員会 1983,1989)。類例が少なく注目される修羅にはユズリハ属の材が見出されている。大径が得られ、また韌性がある丈夫な材であり、製品の法量や使用法に鑑みて納得のいく選択がなされている。

曲物では井戸枠の曲物と容器としての曲物 (蓋・側・底) があり、全体としてモミ属・スギ・ヒノキがほぼまんべんなく見出されている。このような針葉樹は材・木理が通直なため割裂が容易で、板

が使われている例もあり (福岡市教育委員会 1983)、地域的な特色であるのかも知れない。容器?にはやや軟らかく切削加工がしやすいムクロジの材が用いられている。斎串にはスギが用いられており、割裂・切削加工が容易で板材からその後の細工がし易い針葉樹材が選択されている。そのほか、板材には同様にスギが6点中5点と多用

表10は、および古墳後期～奈良時代 (SD190,390,398, SX389) に該当する木製品をまとめたものである。

農具としては鋤が1点あり、やはり丈夫なアカガシ亜属の材が用いられている。農具 (片) にはクスノキ科が用いられている。曲物側板にはヒ



表11-1. 古代の木製品の用材 (1)

樹種/器種	農具 未製品	弓	井戸枠 曲物	曲物				底板	箸?	籠状	漆塗		挽物皿	編鐘	下駄		荷札 木簡	計
				蓋	側	底	底蓋				皿	盤			齒	連齒		
針葉樹	モミ属	-	-	1	4	4	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
	スギ	-	1	-	5	4	3	-	1	2	1	1	-	-	-	1	-	19
	ヒノキ	-	-	-	4	2	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	15
	ヒノキ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	2
	針葉樹	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
広葉樹	ツブラジイ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	ケヤキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	シキミ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	サクラ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	アカメガシワ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
	広葉樹	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
計	1	1	1	13	11	17	1	1	2	2	1	2	2	1	1	1	1	59

表11-2. 古代の木製品の用材 (2)

樹種/器種	修羅	建築 部材	祭祀具					角材/ 角板	板材	その他	計
			斎串	人形	鳥形/馬形	鉢形?	他				
針葉樹	モミ属	-	1	-	-	-	-	1	-	2	
	スギ	-	-	2	2	1	-	1	2	5	
	ヒノキ	-	1	1	1	-	1	1	-	9	
	針葉樹	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
広葉樹	スダジイ	-	1	-	-	-	-	-	-	1	
	ニレ属	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
	クワ属	-	1	-	-	-	-	-	-	1	
	ツバキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	サカキ	-	1	-	-	-	-	-	-	1	
	ユズリハ属	1	-	-	-	-	-	-	-	1	
	広葉樹	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
計	1	5	3	3	2	1	2	3	15	1	38

材状の製品を製作するのに適している上、曲げやすいことから用材として選択されたとみられる。底板や盖板では曲げる必要がないので広葉樹材が希に見出されることはあるが、そもそも曲物自体が針葉樹材あつての製品であり、曲物の用材

として針葉樹が用いられることはごく一般的な傾向である。そのほか、底板・箸?・籠状木製品・祭祀具・角材・板材など、割り出された材や板材・割材から細部の成形を行って製作される製品には、同様に割裂性に優れ切削容易なモミ属・スギ・ヒノキといった針葉樹材が用材の中心となっている。

d. 中世の木製品

中世の製品はSD322、SE303,304,305,306,309, 315,318,320,321,324,334,409、SK317から出土したものがあつて、大半は井戸に伴うものである(表12)。

井戸枠には板材を組んだ方形のものと同様に曲物を利用した井筒のものがある。井筒にはモミ属・ヒノキといった針葉樹材が用いられ、古代のものと同様の傾向が窺える。方形井戸枠の板材は37点中30点とスギが多用され針葉樹材が用材の中心となつてはいるが、スダジイ・ツブラジイ・アカガシ亜属・アワブキ属といった硬く丈夫な部類の広葉樹材も利用されているのが特徴的である。また、方形井戸

表12. 中世の木製品の用材

樹種/器種	井戸枠			箸?	曲物			剣形	男根状	連齒 下駄	板材	杭	木片	加工材	計	
	板	杭	曲物		蓋	側	底									
針葉樹	ニヨウマツ類	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
	モミ属	2	-	1	-	1	2	-	-	-	7	-	-	-	6	
	スギ	30	-	-	-	1	-	1	-	-	4	-	1	1	43	
	ヒノキ	-	-	4	2	-	4	5	-	-	-	-	-	-	19	
	ヒノキ科	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2	
広葉樹	スダジイ	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
	ツブラジイ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2		
	アカガシ亜属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
	クワ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1		
	シキミ	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3		
	クスノキ科	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1		
	ツバキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2		
	アワブキ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
	ミツバウツギ	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1		
	キブシ	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3		
	カキノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
	計	37	3	4	2	2	8	5	1	1	1	13	6	2	4	90

枠の隅柱と類推される杭にはスダジイ・シキミ・キブシと複数の樹種が見出されており、身近に見られる樹種で適度な径長の丸木が得られるものが選択されたのであろう。

井戸枠以外の曲物には、側板・底板・盖板を問わずやはり

モミ属・スギ・ヒノキといった針葉樹材が用材とされている。剣形やその他の板材（井戸枠の可能性もある）には器形・製作法を反映して同様にスギ・ヒノキが用いられている。男根状木製品にはミツバウツギの材が見出されているが、珍しい樹種でもなく小川の縁や林縁などにみられる低木であるので、目的とした製品の法量にかなう径長の材が採取された結果であるとみられる。

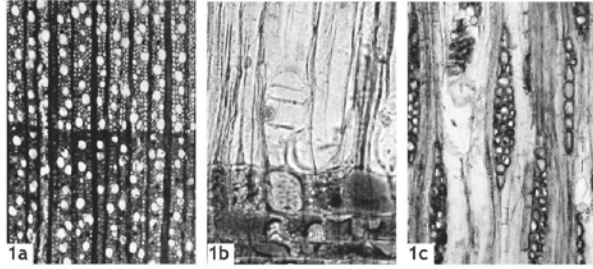
#### 4. まとめ

本稿では第6次調査出土建物建築材・土木材・木製品について、種別に用材傾向や選択の背景について検討した。その結果、弥生中期～後期の柱材・礎板にはクリを中心として硬く丈夫な材質の広葉樹材が用いられ、古墳時代や古代の護岸杭材にはありとあらゆる樹種が網羅的に利用されていたことが明らかになった。さらに、柱材にはいずれも大径が得られる樹種が選択されているのに対し、杭材では低木～小高木程度でみられる樹種の割合が高く、周辺植生としての木材資源量だけでなく各樹種の森林の階層に占める位置も木材採取に影響を与えることが推察された。また、木製品では、板材や割材から製作される製品にモミ属・スギ・ヒノキといった針葉樹材が多用され、使用や製作時に際してより特定の材質が要求される製品には、例えば鋤や鍬のアカガシ亜属、皿や盤のサクラ属・ケヤキ、修羅のユズリハ属のように、それぞれに見合った材質を持つ広葉樹材も選択されていたことが明らかになった。花粉分析結果によれば遺跡周辺におけるモミ属・スギ・ヒノキの木材資源量は多くなかったが、木材資源が少なくても割り出されることで効率的に製品の数量をまかなうことができたと推察される。

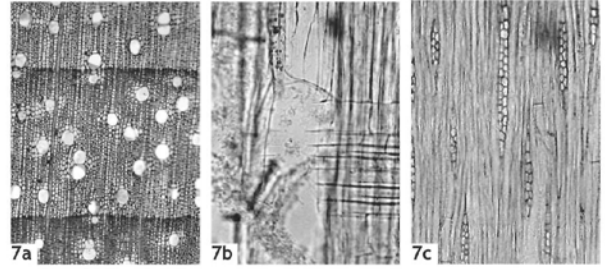
以上のように、木材利用全体としては周辺にみられた様々な樹種が利用されていたといえるが、各器種の器形・法量や製作法・使用法と樹種の材質・径長などの樹木特性との間には対応関係が認められ、周辺植生にみられる木材資源の中からそれぞれにおいて適材が使い分けられていたことが確認された。

#### 〈引用文献〉

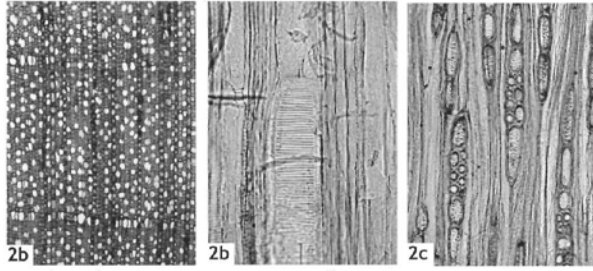
- 福岡市教育委員会（1983）「福岡市城原小学校建設地内遺跡調査報告書 拾六町ツイジ遺跡 福岡市埋蔵文化財調査報告書第92集」93-116
- 福岡市教育委員会（1989）「板付周辺遺跡調査報告書（15）－高畑遺跡第12次調査地点－福岡市埋蔵文化財調査報告書第210集」80-85
- 林弘也・松本昂（1980）端穂遺跡から出土した木質遺物の樹種同定。「端穂 福岡市比恵台地遺跡」209-216、日本住宅公団九州支社
- 伊東隆夫（1989）四箇遺跡群23次調査河川出土木材の樹種。「福岡市四箇遺跡群－第23次調査報告書－福岡市埋蔵文化財調査報告書第196集」35-38、福岡市教育委員会
- 中村純・畑中健一（1976）板付遺跡の花粉分析学的研究。「板付－市営住宅建設にともなう発掘調査報告書1971～1974－福岡市埋蔵文化財調査報告書第35集」29-44、福岡市教育委員会
- パリオ・サーヴェイ株式会社（2000）樹種同定その他の分析。「新川東部遺跡群」－新川東部工業団地造成に伴う発掘調査報告書－〔第3分冊〕1147-1177、新田町教育委員会・群馬県企業局
- 嶋倉巳三朗（1976）木材の材質。「板付－市営住宅建設にともなう発掘調査報告書1971～1974－福岡市埋蔵文化財調査報告書第35集」67-75、福岡市教育委員会
- 嶋倉巳三朗（1981）福岡市板付E-5・6地区出土の木質遺物の樹種。「板付－板付公会館建設に伴う発掘調査報告書－福岡市埋蔵文化財調査報告書第73集」76-77、福岡市教育委員会
- 鈴木茂（2000）博多遺跡群第112次調査土壌の花粉化石。「博多74－博多遺跡群第112次調査の報告－福岡市埋蔵文化財調査報告書632集」17-27、福岡市教育委員会



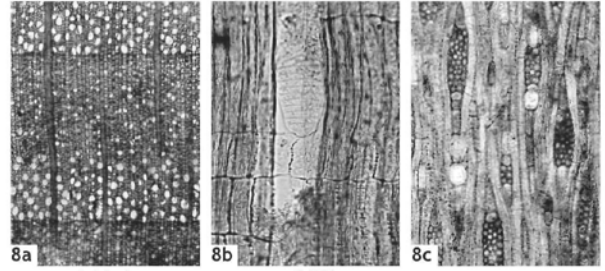
1. ヤマモモ (FKO-135; SX395 R26 杭)



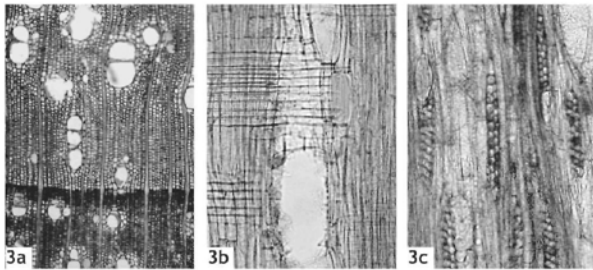
7. ハマビワ属 (FKO-365; SX395 R29 杭)



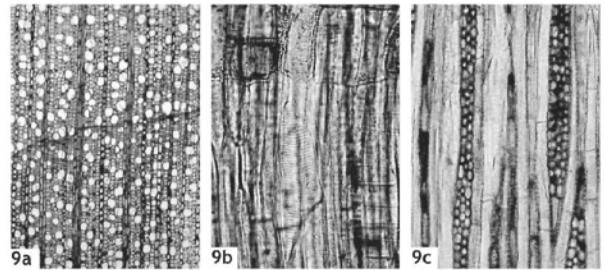
2. シキミ (FKO-328; SX395 R29 杭)



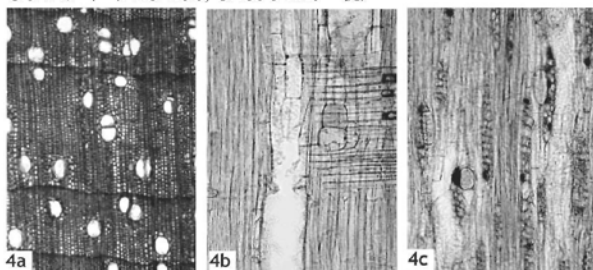
8. ツバキ属 (FKO-672; SX389 榧杭)



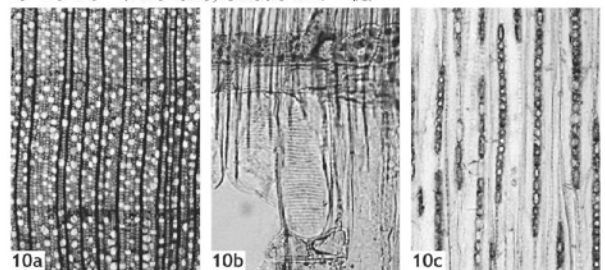
3. クスノキ (FKO-290; SX395 R29 杭)



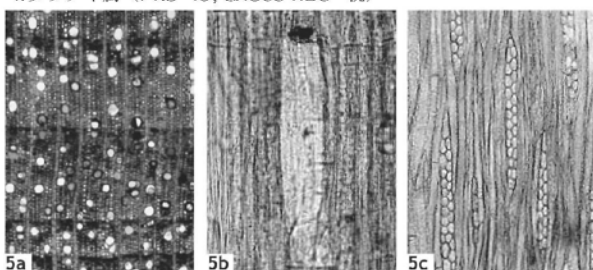
9. モッコク (FKO-648; SX395 R27 杭)



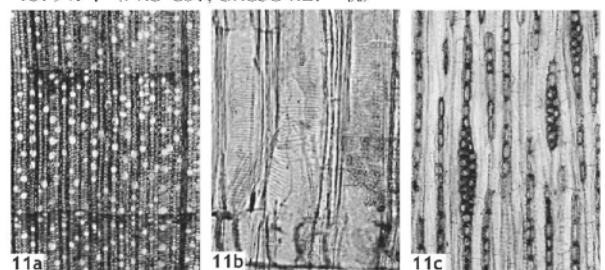
4. タブノキ属 (FKO-40; SX395 R25 杭)



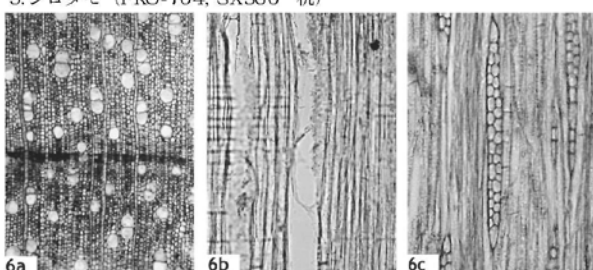
10. サカキ (FKO-607; SX395 R27 杭)



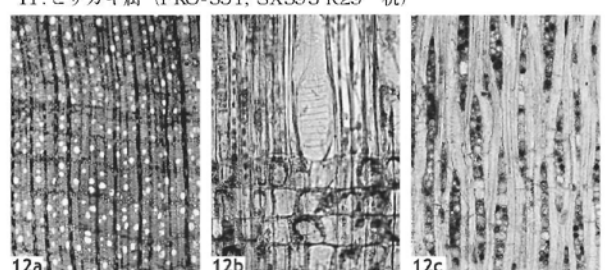
5. シロダモ (FKO-704; SX360 杭)



11. ヒサカキ属 (FKO-351; SX395 R29 杭)



6. イスガシ類似種 (FKO-412; SX395 S24 杭)

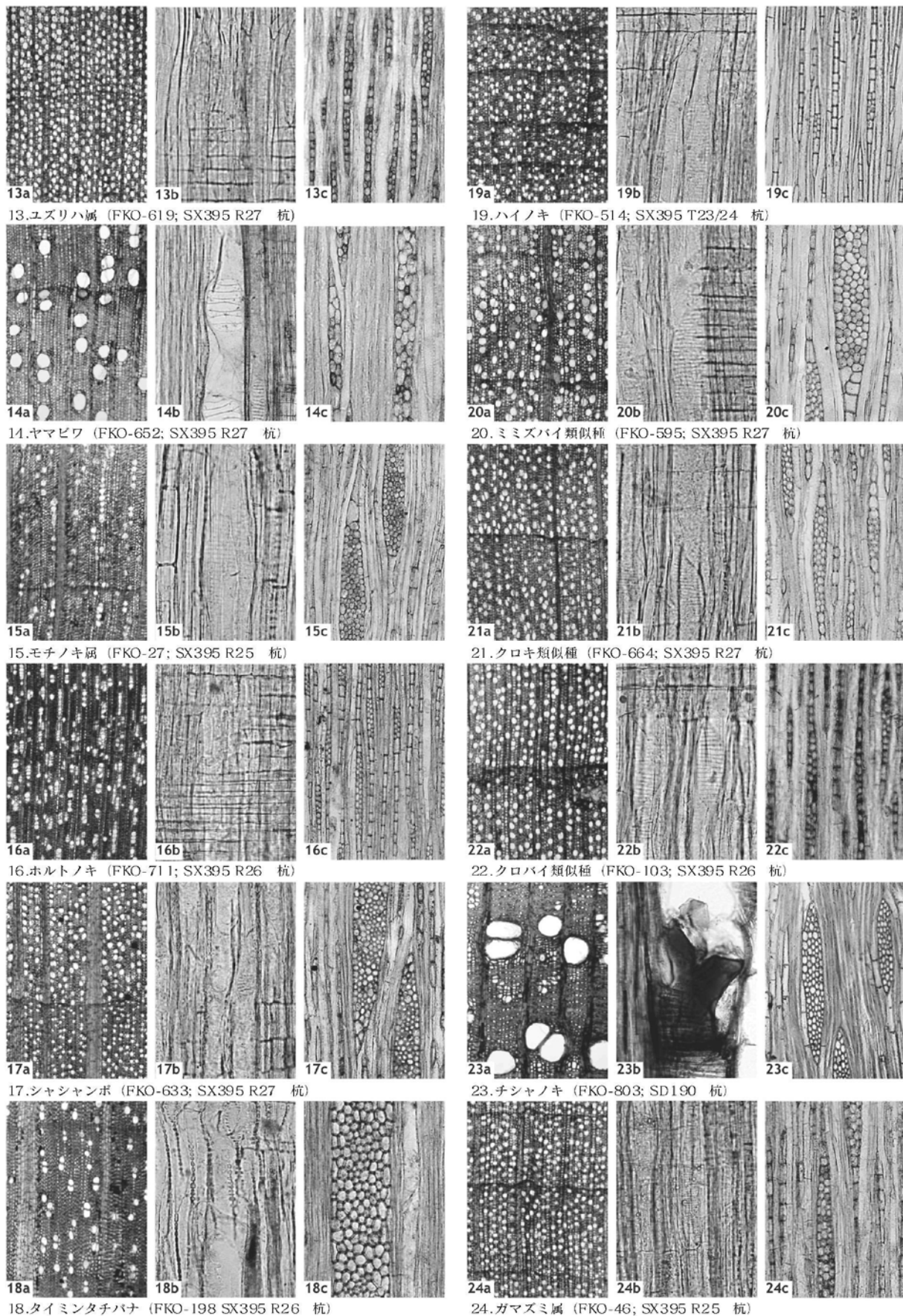


12. イスノキ (FKO-613; SX395 R27 杭)

scale bar 1,2,5,7-12 :a-1.0mm,b-0.2mm,c-0.4mm  
3,4,6:a-1.0mm,b-0.4mm,c-0.4mm

\*FKOはプレパラート保管Noを示す。

a: 横断面 b: 放射断面 c: 接線断面



13.ユズリハ属 (FKO-619; SX395 R27 杭)

19.ハイノキ (FKO-514; SX395 T23/24 杭)

14.ヤマビワ (FKO-652; SX395 R27 杭)

20.ミミズバイ類似種 (FKO-595; SX395 R27 杭)

15.モチノキ属 (FKO-27; SX395 R25 杭)

21.クロキ類似種 (FKO-664; SX395 R27 杭)

16.ホルトノキ (FKO-711; SX395 R26 杭)

22.クロバイ類似種 (FKO-103; SX395 R26 杭)

17.シャシャンボ (FKO-633; SX395 R27 杭)

23.チシャノキ (FKO-803; SD190 杭)

18.タイミンタチバナ (FKO-198 SX395 R26 杭)

24.ガマズミ属 (FKO-46; SX395 R25 杭)

scale bar 13, 15-22, 24: a-1.0mm, b-0.4mm, c-0.4mm  
14, 23: a-1.0mm, b-0.4mm, c-0.4mm

a: 横断面 b: 放射断面 c: 接線断面

## 5. 第6次調査出土炭化物の放射性炭素年代測定

山形 秀樹 (パレオ・ラボ)

### 1. はじめに

下月限C遺跡 (SHC-6) より検出された炭化物の加速器質量分析法 (AMS法) による放射性炭素年代測定を実施した。

### 2. 試料と方法

試料は、SC532-1区、SK460、SK488下層、SK517、SK544、およびSP329の、それぞれ第IV面から採取した炭化物6点である。

これら試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨 (グラファイト) に調整した後、加速器質量分析計 (AMS) にて測定した。測定された<sup>14</sup>C濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した<sup>14</sup>C濃度を用いて<sup>14</sup>C年代を算出した。

### 3. 結果

表1に、各試料の同位体分別効果の補正值 (基準値-25.0%)、同位体分別効果による測定誤差を補正した<sup>14</sup>C年代、<sup>14</sup>C年代を暦年代に較正した年代を示す。

<sup>14</sup>C年代値 (yrBP) の算出は、<sup>14</sup>Cの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した<sup>14</sup>C年代誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、計数値の標準偏差 $\sigma$ に基づいて算出し、標準偏差 (One sigma) に相当する年代である。これは、試料の<sup>14</sup>C年代が<sup>3</sup>、その<sup>14</sup>C年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。

なお、暦年代較正の詳細は、以下の通りである。

#### 暦年代較正

暦年代較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された<sup>14</sup>C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、および半減期の違い (14Cの半減期5,730 $\pm$ 40年) を較正し、より正確な年代を求めるために、<sup>14</sup>C年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Th年代と<sup>14</sup>C年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて<sup>14</sup>C年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて<sup>14</sup>C年代を暦年代に較正した年代を算出する。

<sup>14</sup>C年代を暦年代に較正した年代の算出にCALIB 4.3 (CALIB 3.0のバージョンアップ版) を使用した。なお、暦年代較正值は<sup>14</sup>C年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、1 $\sigma$ 暦年代範囲はプログラム中の確率法を使用して算出された<sup>14</sup>C年代誤差に相当する暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値はその1 $\sigma$ 暦年代範囲の確からしさを示す確率であり、10%未満についてはその表示を省略した。1 $\sigma$ 暦年代範囲のうち、その確からしきの確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示した。

### 4. 考察

各試料は、同位体分別効果の補正および暦年代較正を行なった。暦年代較正した1 $\sigma$ 暦年代範囲のうち、その確からしきの確率が最も高い年代範囲に注目すると、それぞれより確かな年代値の範囲

として示された。

引用文献

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の14C年代, p.3-20.

Stuiver, M. and Reimer, P. J. (1993) Extended 14C Database and Revised CALIB3.0 14C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p.215-230.

Stuiver, M., Reimer, P. J., Bard, E., Beck, J. W., Burr, G. S., Hughen, K. A., Kromer, B., McCormac, F. G., v. d. Plicht, J., and Spurk, M. (1998) INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24,000-0 cal BP, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

表1. 放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果

測定番号 (測定法)	試料データ	$\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ (‰)	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代	
				暦年代較正值	1 $\sigma$ 暦年代範囲
PLD-1756 (AMS)	炭化物 No.2 SC532-1区 第IV面	-26.2	1800 $\pm 35$	cal AD 240	cal AD 135-160 (18.9%) cal AD 170-195 (19.8%) cal AD 210-255 (47.9%) cal AD 300-320 (13.4%)
PLD-1757 (AMS)	炭化物 No.3 SK460 第IV面	-25.3	2530 $\pm 35$	cal BC 765	cal BC 790-760 (28.6%) cal BC 680-665 (14.0%) cal BC 640-590 (36.1%) cal BC 580-550 (21.3%)
PLD-1758 (AMS)	炭化物 No.4 SK488下層 第IV面	-26.6	2520 $\pm 35$	cal BC 765 cal BC 675	cal BC 790-760 (19.7%) cal BC 685-660 (14.7%) cal BC 645-545 (65.6%)
PLD-1759 (AMS)	炭化物 No.5 SK517 第IV面	-26.2	2455 $\pm 35$	cal BC 740 cal BC 725 cal BC 540 cal BC 530 cal BC 520	cal BC 760-685 (37.2%) cal BC 545-480 (30.2%) cal BC 440-415 (13.6%)
PLD-1760 (AMS)	炭化物 No.2 SK544 第IV面	-25.0	2280 $\pm 35$	cal BC 385	cal BC 395-355 (60.1%) cal BC 285-260 (32.2%)
PLD-1761 (AMS)	炭化物 No.7 SP329 第IV面	-24.4	2005 $\pm 35$	cal BC 15 cal AD 0	cal BC 40-cal AD 30 (90.5%)

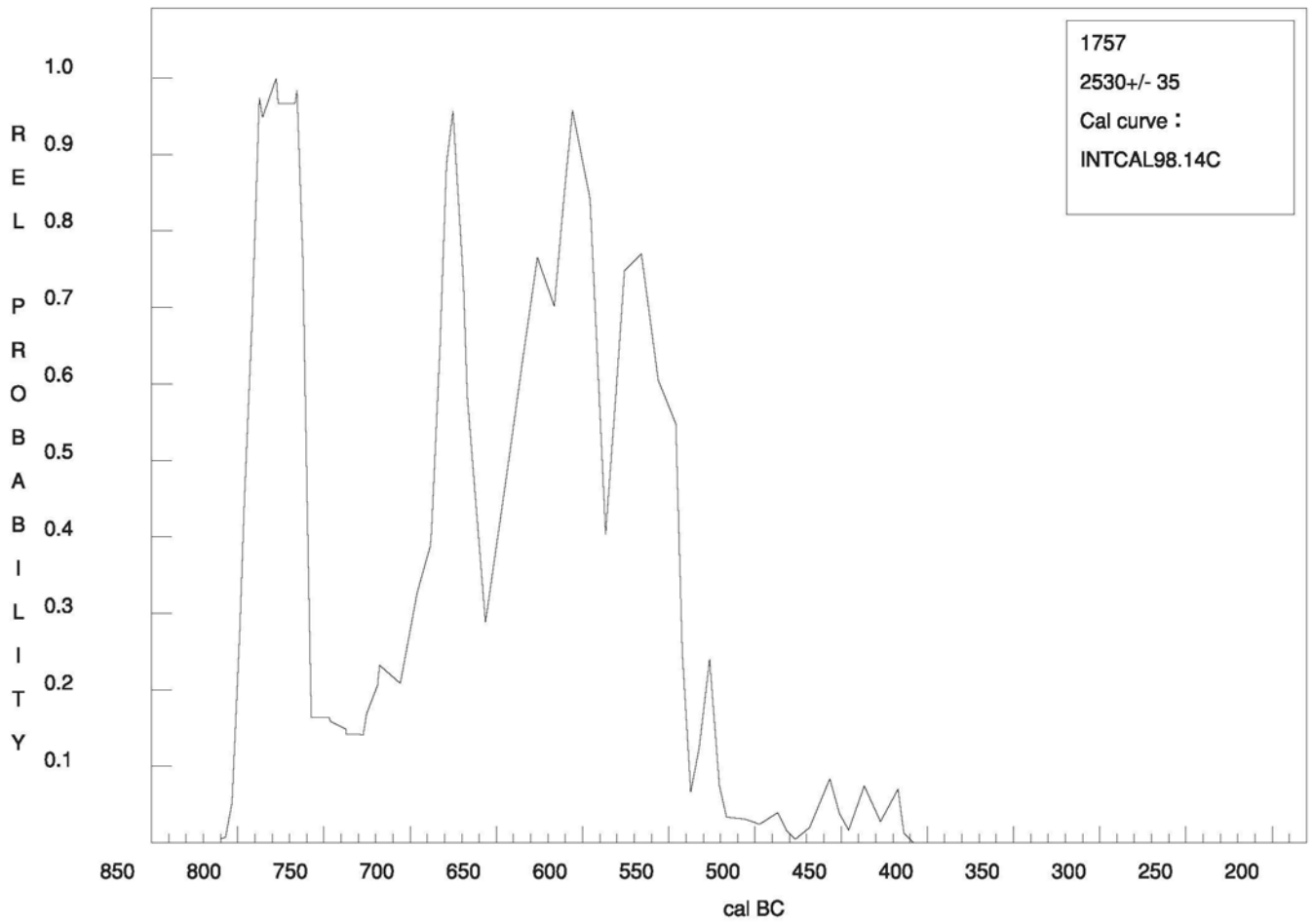
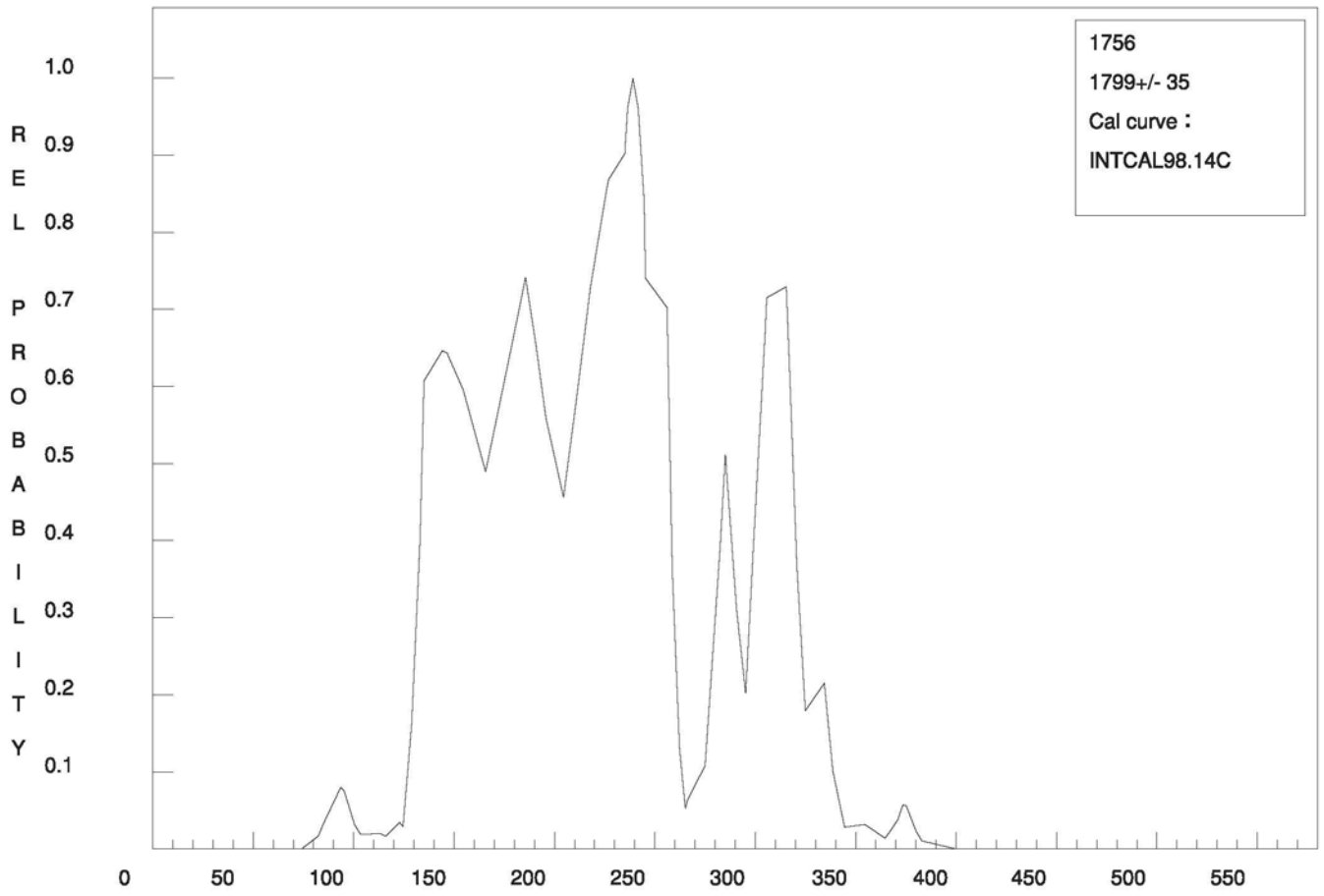


図1 暦年代較正グラフ1

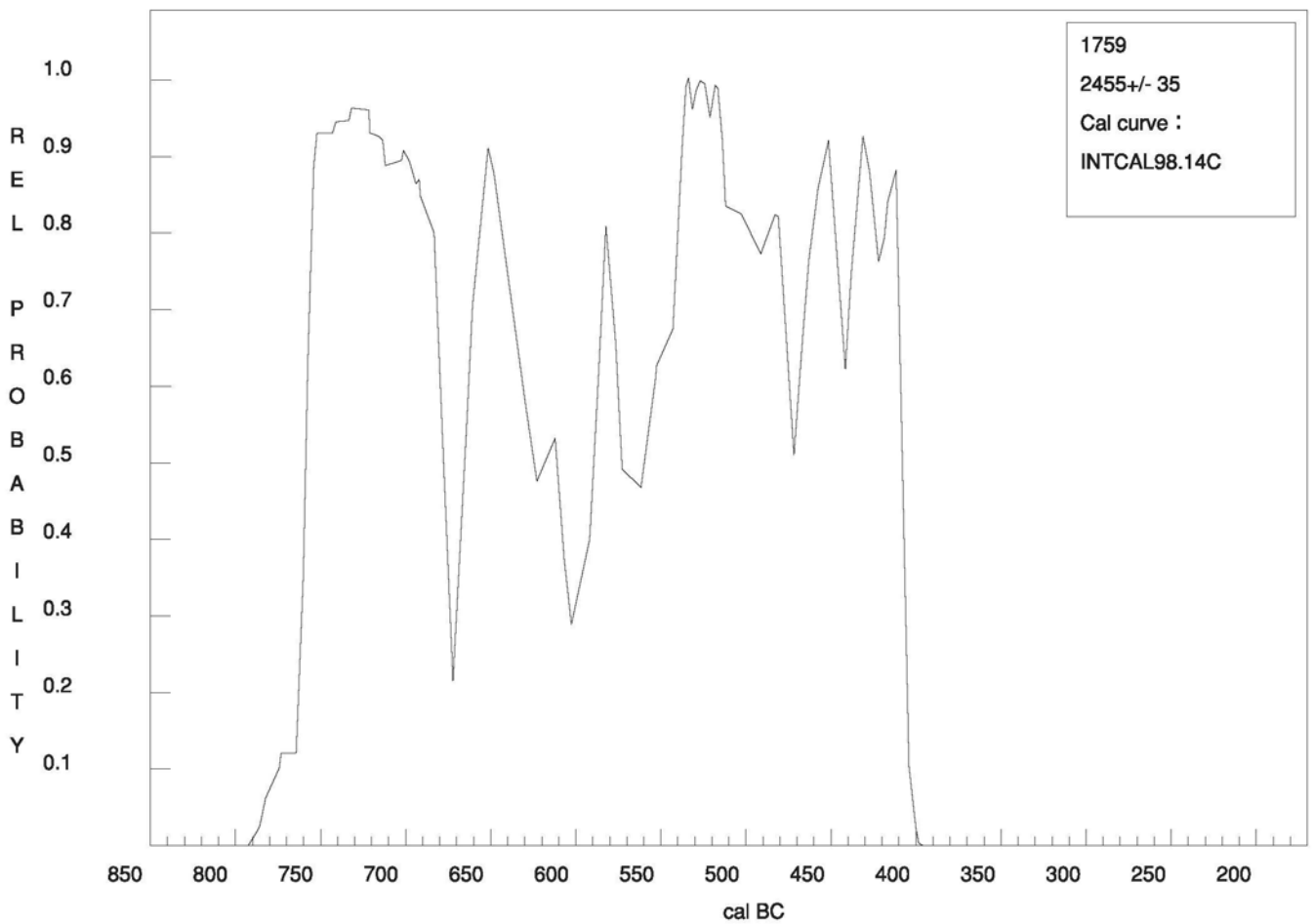
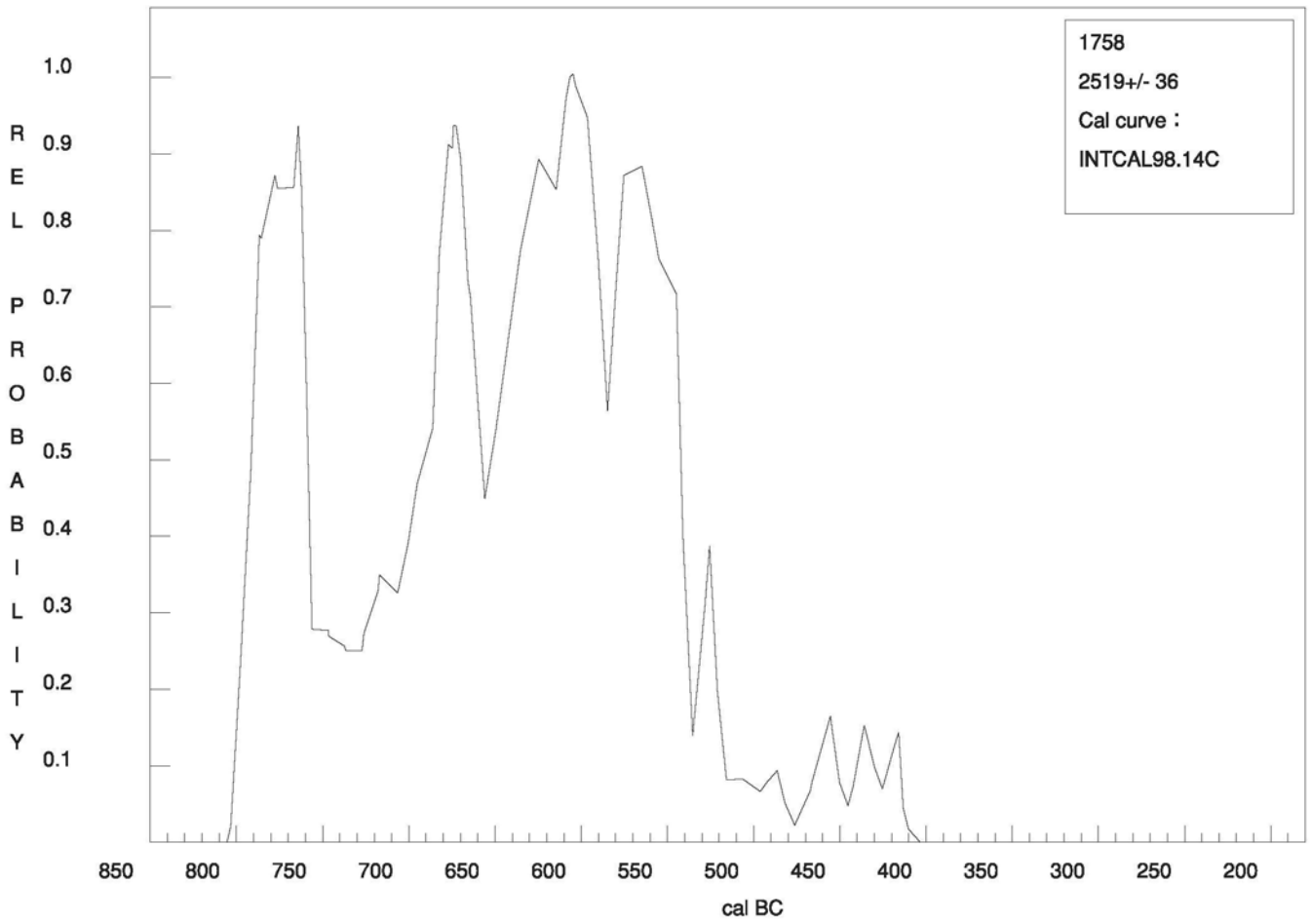


図2 暦年代較正グラフ2



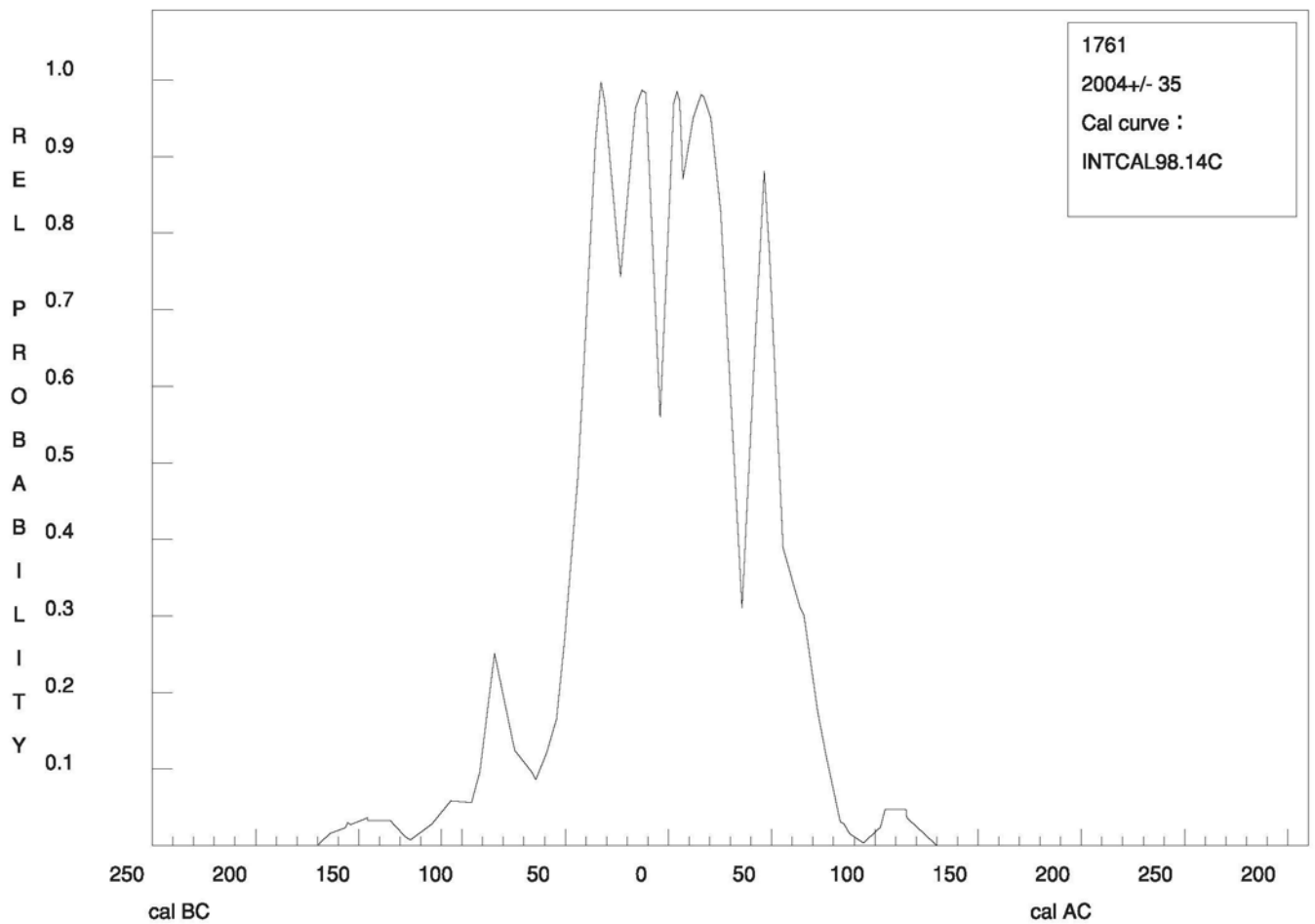
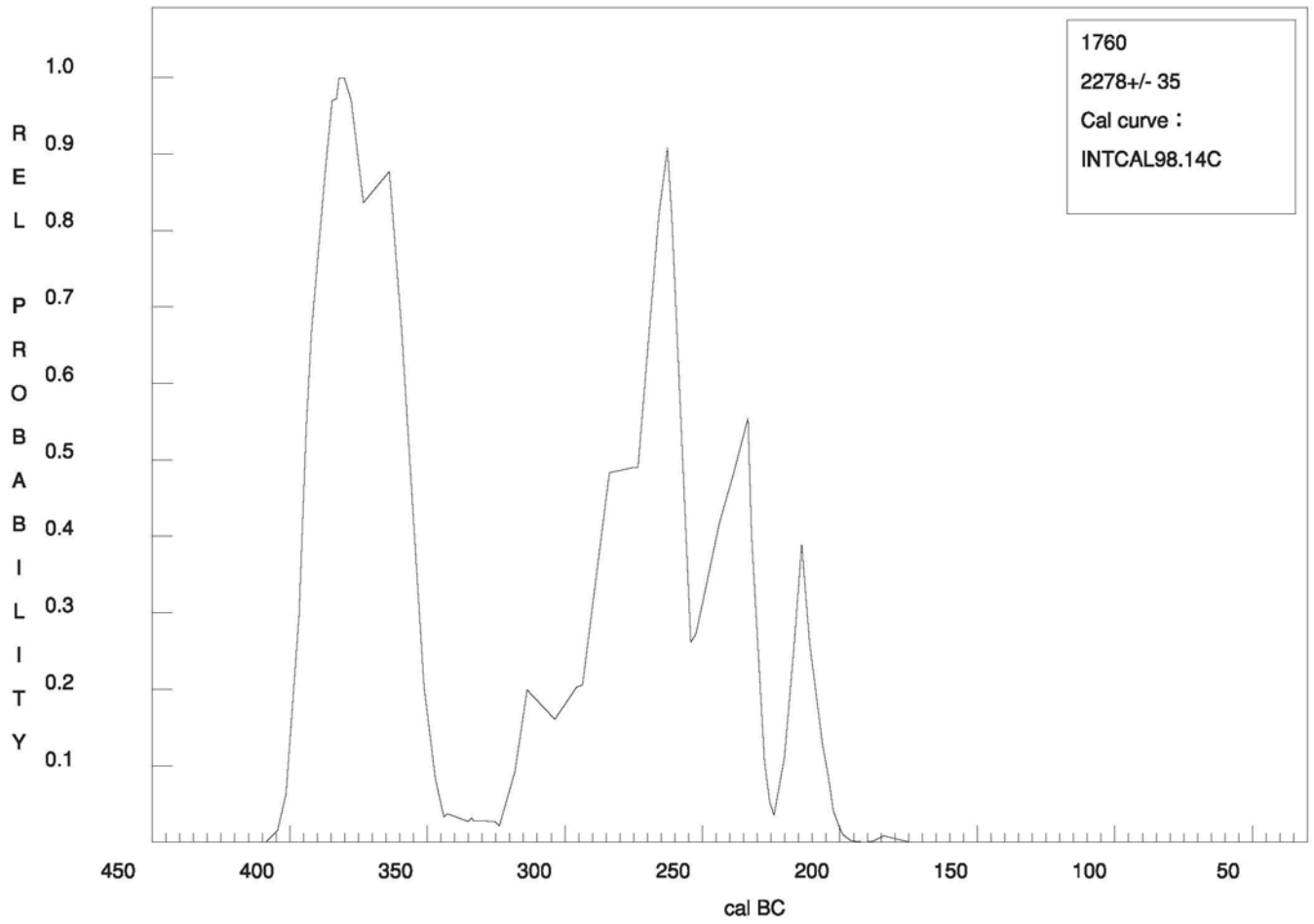


図3 暦年代較正グラフ3

## 6. 第6次調査出土柱根の放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

福岡市博多区に所在する下月隈C遺跡は、御笠川沿いの微高地上に立地する。本遺跡では、発掘調査により、縄文時代末～弥生時代前期の河川跡や土器・石器等の遺物、弥生時代の集落跡・河川跡・水田跡、古墳時代後期の水田跡、奈良時代の河川跡や水田跡、鎌倉時代の村落跡等が確認されている。今回の分析調査は、第6次調査で出土した柱根の加速器による放射性炭素年代測定(AMS法)を実施し、年代に関する情報を得る。

### 1. 試料

試料は、出土した柱根16点である。試料の詳細は結果と共に表1に示した。

### 2. 分析方法

測定は株式会社加速器分析研究所の協力を得て、AMS法により行った。なお、放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、いずれの試料も北半球の大気圏における暦年校正曲線を用いる条件を与えて計算させている。

### 3. 結果

結果を、表1・2に示す。試料の測定年代(補正年代)は、いずれも約1800～2100年前の弥生時代に相当する値を示す。この結果は、発掘調査所見と調和的である。

表1. 放射線炭素年代測定結果

試料番号	遺構名	柱根番号	試料の質	補正年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	測定年代 BP	Code.No.
1	SB579	SP480	木材	1890±40	-26.30±0.75	1910±30	IAAA-31799
2	SB579	SP594	木材	1820±40	-26.99±0.66	1285±30	IAAA-31800
3	SB581	SP413	木材	2000±40	-25.38±1.03	2010±30	IAAA-31801
4	SB584	SP377	木材	1950±40	-30.03±0.97	2030±30	IAAA-31802
5	SB584	SP380	木材	1810±30	-24.75±0.62	1810±30	IAAA-31803
6	SB584	SP582	木材	1870±30	-25.34±0.70	1870±30	IAAA-31804
7	SB589	SP2	木材	1930±30	-26.94±0.87	1960±30	IAAA-31805
8	SB589	SP6	木材	1950±30	-28.08±0.72	2000±30	IAAA-31806
9	SB589	SP10	木材	1890±30	-24.70±0.69	1880±30	IAAA-31807
10	SB593	SP37	木材	2120±40	-27.38±0.97	2130±30	IAAA-31808
11	SB593	SP154	木材	2120±40	-23.26±0.93	2100±30	IAAA-31809
12	SB598	SP127	木材	1770±30	-23.93±0.67	1750±30	IAAA-31810
15	SB598	SP605	木材	1910±30	-25.13±0.68	1910±30	IAAA-31811
14	SB606	SP289	木材	1990±40	-23.59±0.73	1960±30	IAAA-31812
15	SB606	SP339	木材	1950±40	-26.00±0.75	1970±30	IAAA-31813
16	SB607	SP41	木材	2140±40	-24.58±0.79	2140±40	IAAA-31814

1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。

2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であることを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差 $\sigma$ （測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

表2. 暦年較正結果

試料番号	遺構名	柱根番号	補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)			相対比	Code No.
1	SB579	SP480	1890±34	cal AD 70	cal AD 134	cal BP 1,880	0.834	IAAA-31799
				cal AD 159	cal AD 171	cal BP 1,791	0.080	
				cal AD 196	cal AD 208	cal BP 1,754	0.087	
2	SB579	SP594	1820±34	cal AD 134	cal AD 161	cal BP 1,816	0.299	IAAA-31800
				cal AD 169	cal AD 201	cal BP 1,781	0.342	
				cal AD 207	cal AD 239	cal BP 1,743	0.359	
3	SB581	SP413	2002±34	cal BC 41	cal AD 7	cal BP 1,991	0.462	IAAA-31801
				cal BC 3	cal AD 28	cal BP 1,953	0.438	
				cal AD 41	cal AD 50	cal BP 1,909	0.100	
4	SB584	SP377	1945±35	cal AD 23	cal AD 84	cal BP 1,927	0.851	IAAA-31802
				cal AD 104	cal AD 118	cal BP 1,846	0.149	
5	SB584	SP380	1813±34	cal AD 134	cal AD 162	cal BP 1,816	0.285	IAAA-31803
				cal AD 168	cal AD 200	cal BP 1,782	0.328	
				cal AD 207	cal AD 242	cal BP 1,743	0.388	
6	SB584	SP582	1867±32	cal AD 85	cal AD 102	cal BP 1,865	0.183	IAAA-31804
				cal AD 121	cal AD 178	cal BP 1,829	0.583	
				cal AD 190	cal AD 213	cal BP 1,760	0.234	
7	SB589	SP2	1927±33	cal AD 31	cal AD 38	cal BP 1,919	0.092	IAAA-31805
				cal AD 53	cal AD 89	cal BP 1,897	0.550	
				cal AD 99	cal AD 125	cal BP 1,851	0.358	
8	SB589	SP6	1952±32	cal AD 4	cal AD 10	cal BP 1,946	0.057	IAAA-31806
				cal AD 19	cal AD 82	cal BP 1,931	0.943	
9	SB589	SP10	1889±32	cal AD 71	cal AD 134	cal BP 1,879	0.850	IAAA-31807
				cal AD 160	cal AD 170	cal BP 1,790	0.074	
				cal AD 197	cal AD 208	cal BP 1,753	0.075	
10	SB593	SP37	2123±36	cal BC 199	cal AD 92	cal BP 2,149	0.987	IAAA-31808
				cal BC 66	cal AD 65	cal BP 2,016	0.013	
11	SB593	SP154	2129±34	cal AD 200	cal AD 95	cal BP 2,150	1.000	IAAA-31809
12	SB598	SP127	1771±31	cal AD 231	cal AD 262	cal BP 1,719	0.377	IAAA-31810
				cal AD 277	cal AD 336	cal BP 1,673	0.623	
13	SB598	SP605	1911±31	cal AD 65	cal AD 128	cal BP 1,885	1.000	IAAA-31811
14	SB606	SP289	1985±34	cal BC 38	cal AD 30	cal BP 1,988	0.081	IAAA-31812
				cal BC 21	cal AD 11	cal BP 1,971	0.122	
				cal BC 1	cal AD 59	cal BP 1,951	0.797	
15	SB606	SP339	1949±36	cal AD 4	cal AD 8	cal BP 1,946	0.037	IAAA-31813
				cal AD 20	cal AD 83	cal BP 1,930	0.856	
				cal AD 105	cal AD 116	cal BP 1,845	0.107	
16	SB607	SP41	2143±40	cal BC 348	cal AD 320	cal BP 2,298	0.194	IAAA-31814
				cal BC 227	cal AD 222	cal BP 2,177	0.029	
				cal BC 205	cal AD 106	cal BP 2,155	0.777	

1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer) を使用

2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。

3) 付記した誤差は、測定誤差 $\sigma$  (測定値の68%が入る範囲) を年代値に換算した値。

Radiocarbon Age vs. Calibrated Age

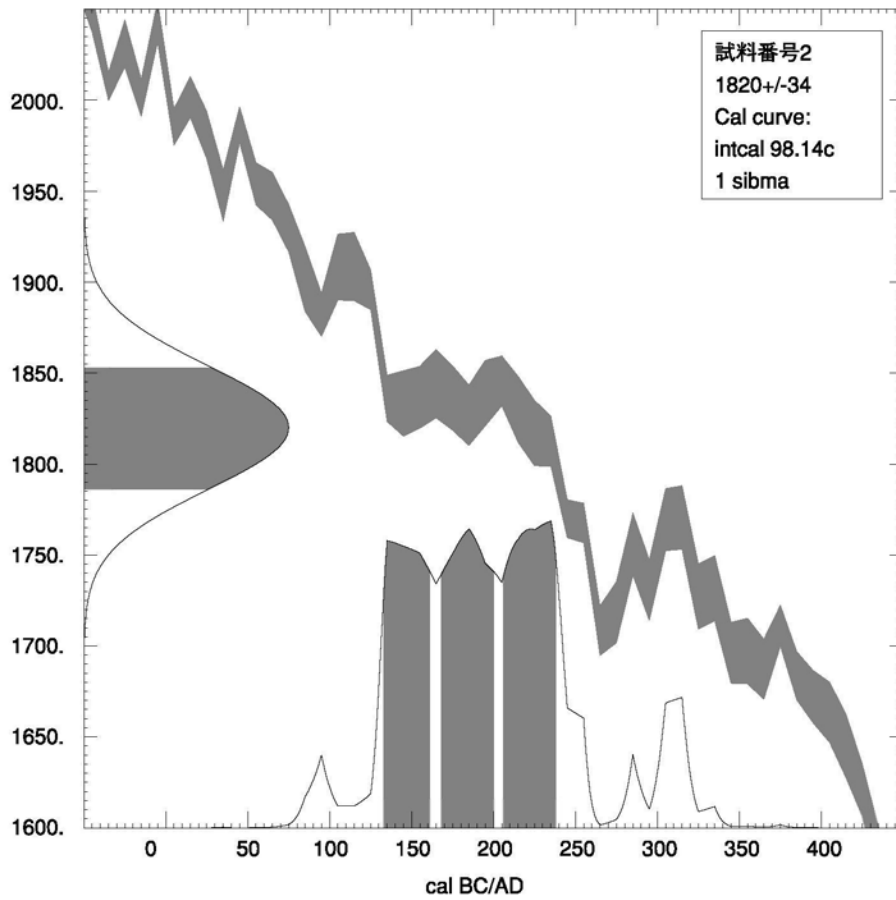
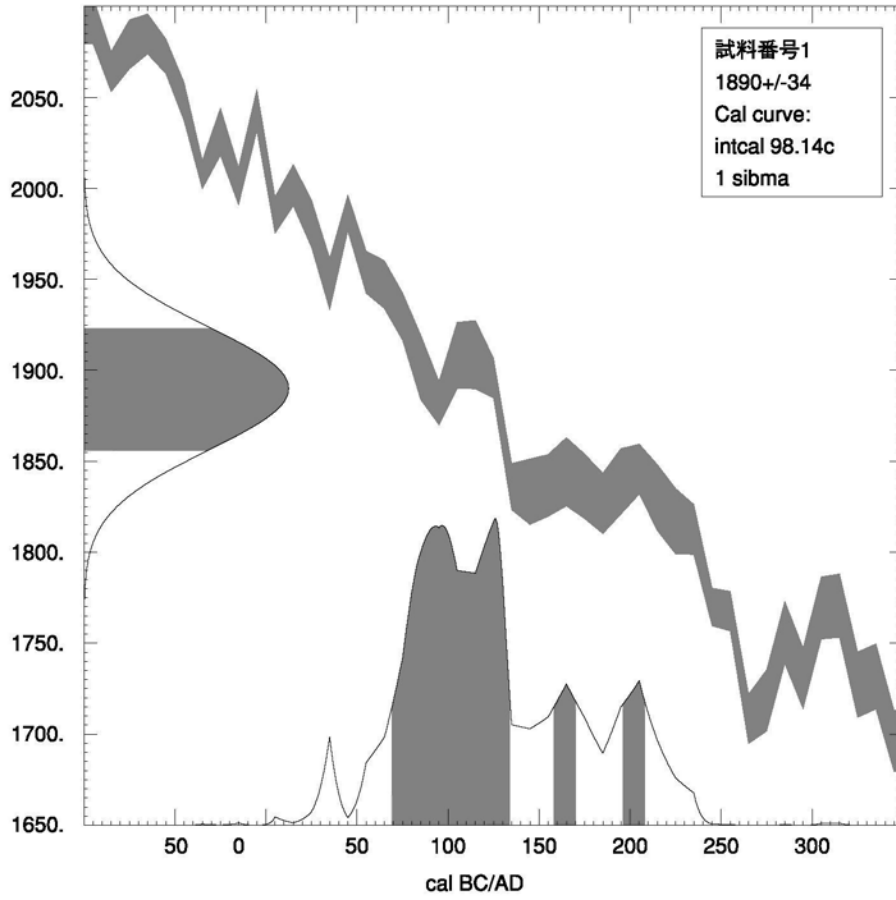


図1 暦年代較正グラフ1

Radiocarbon Age vs. Calibrated Age

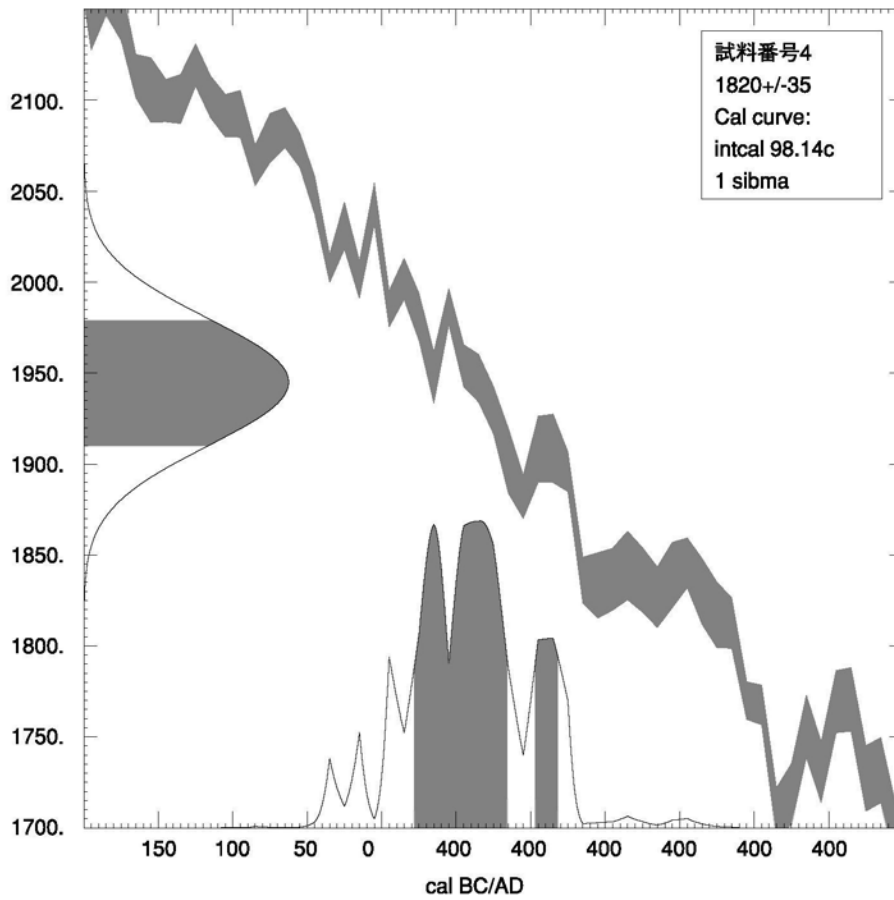
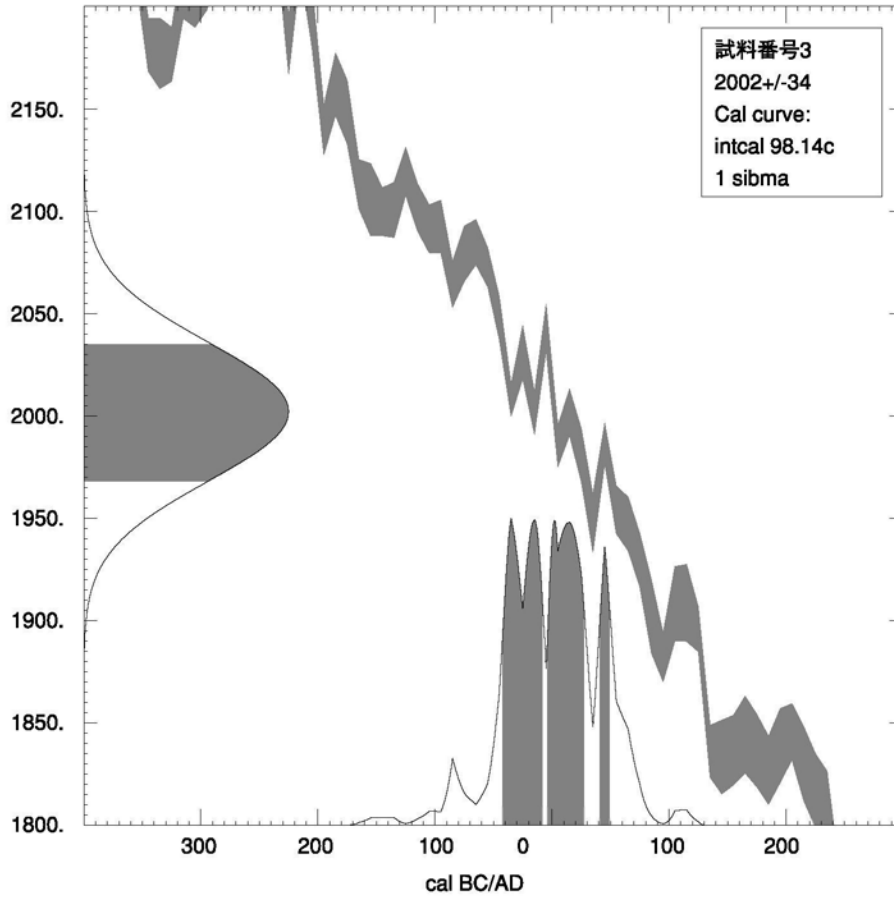


図2 暦年代較正グラフ2

Radiocarbon Age vs. Calibrated Age

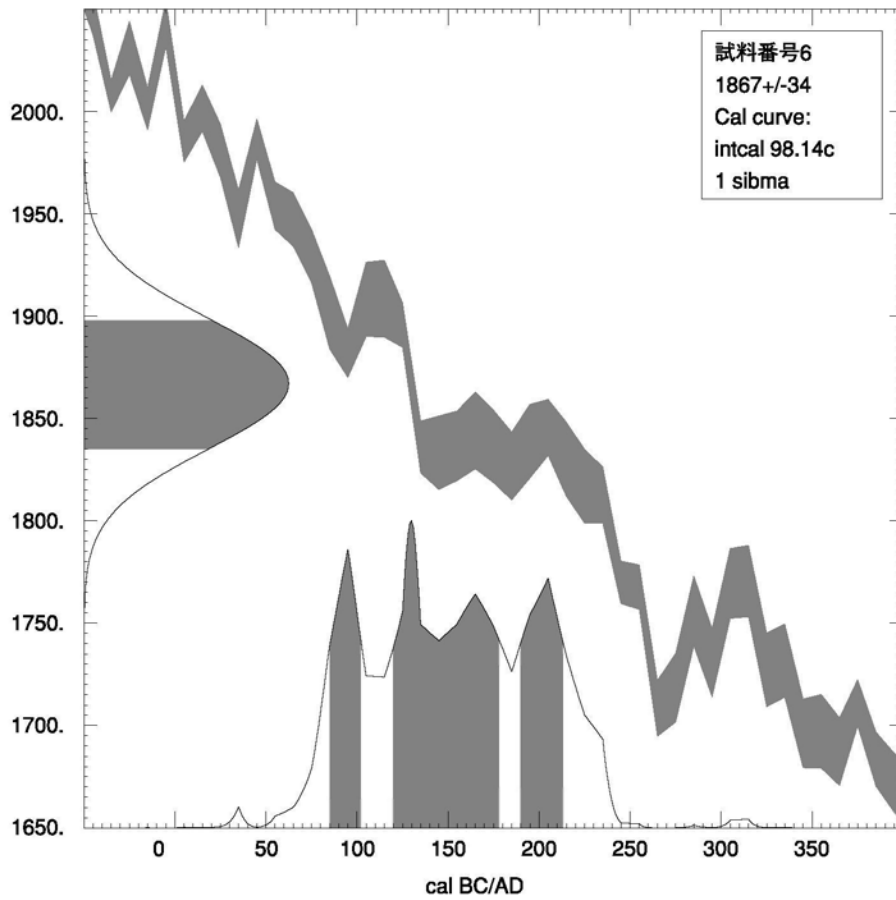
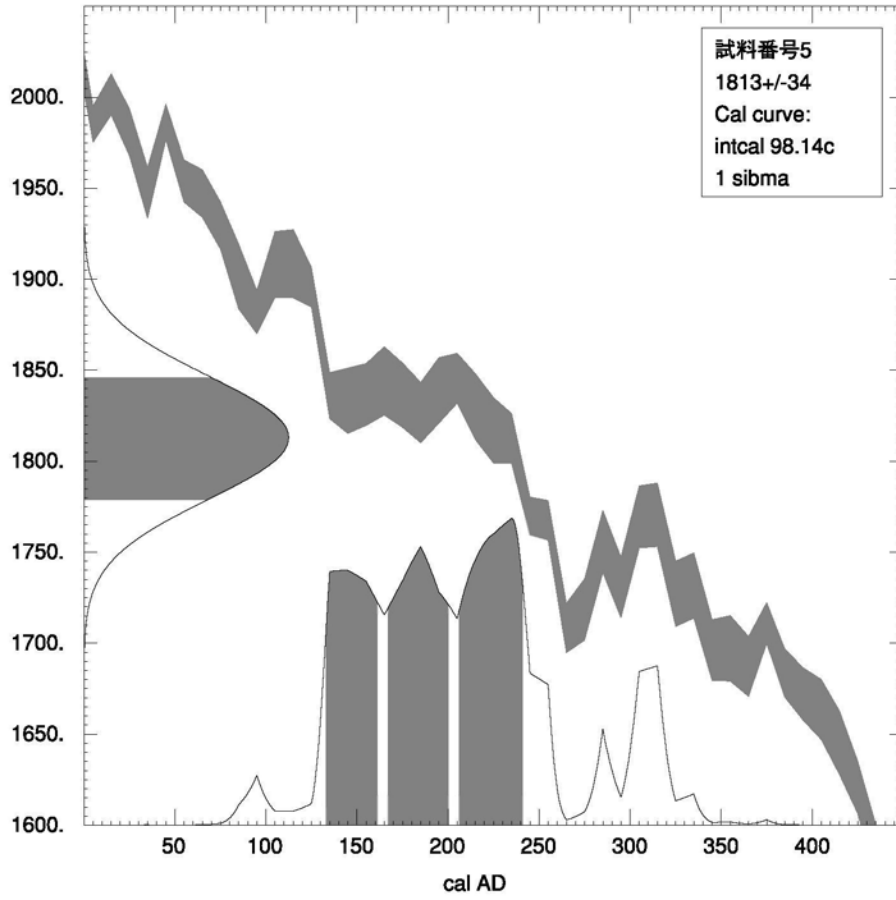


図3 暦年代較正グラフ3

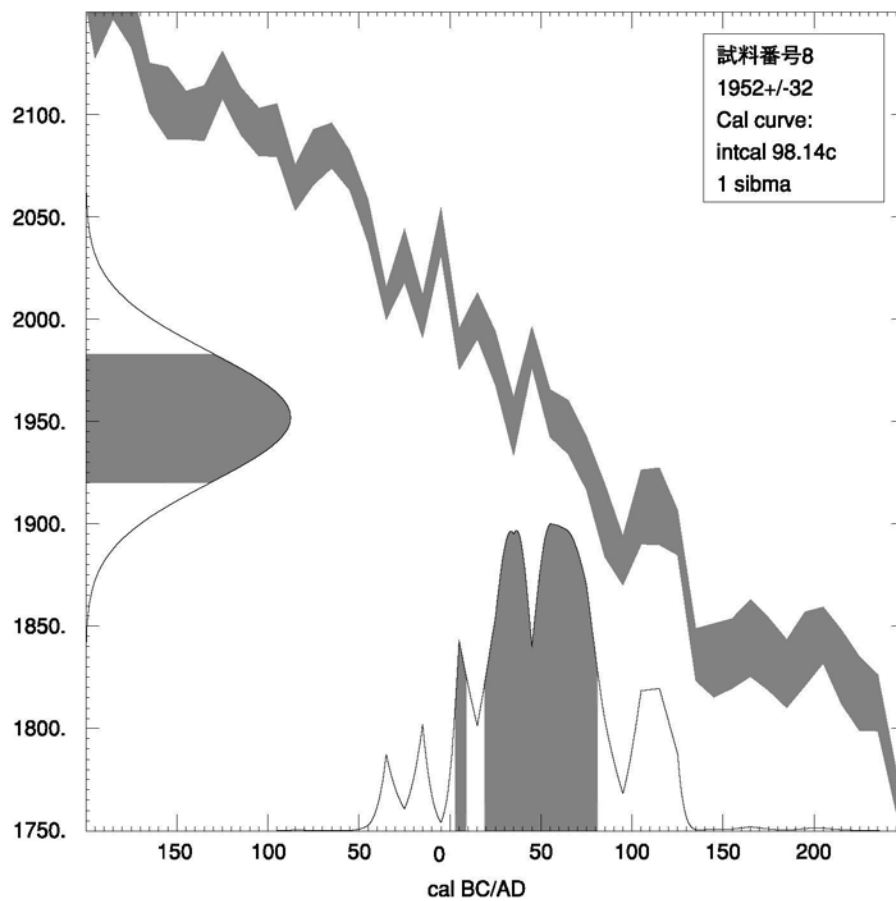
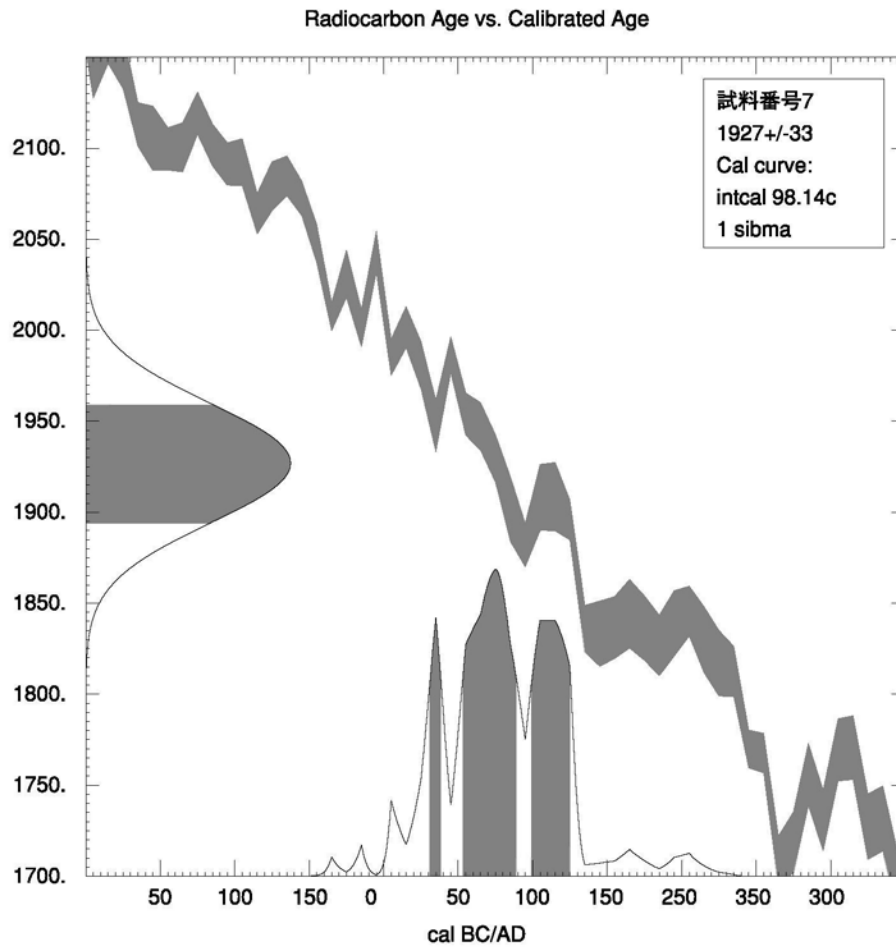


図4 暦年代較正グラフ4



Radiocarbon Age vs. Calibrated Age

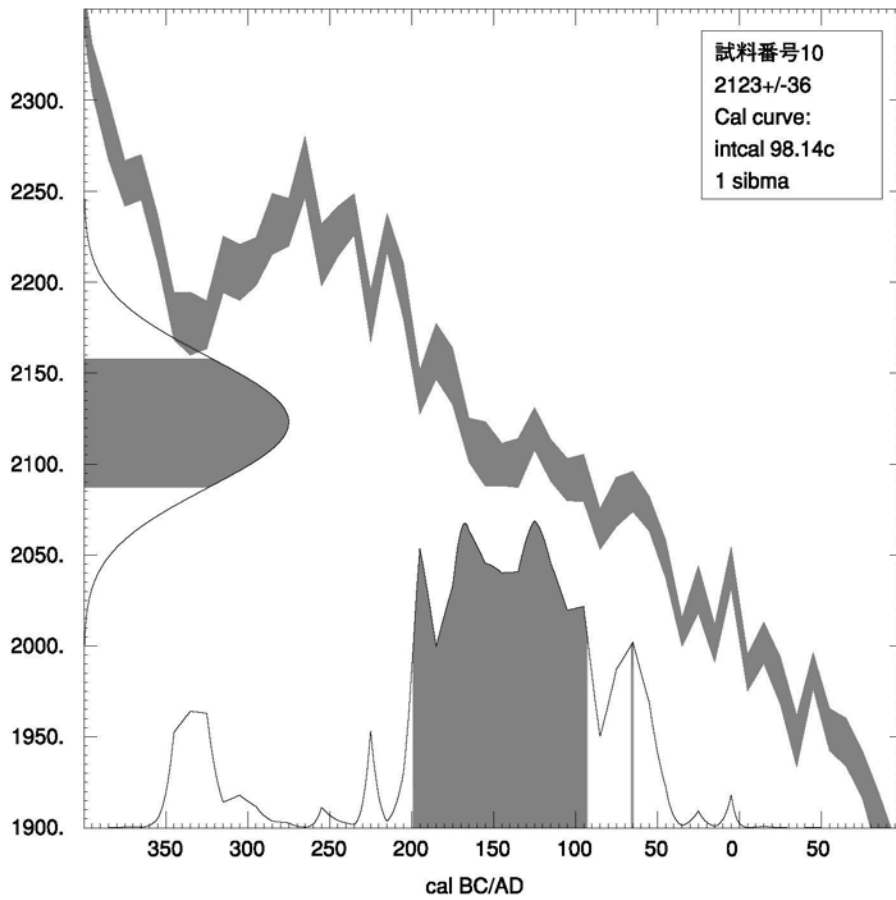
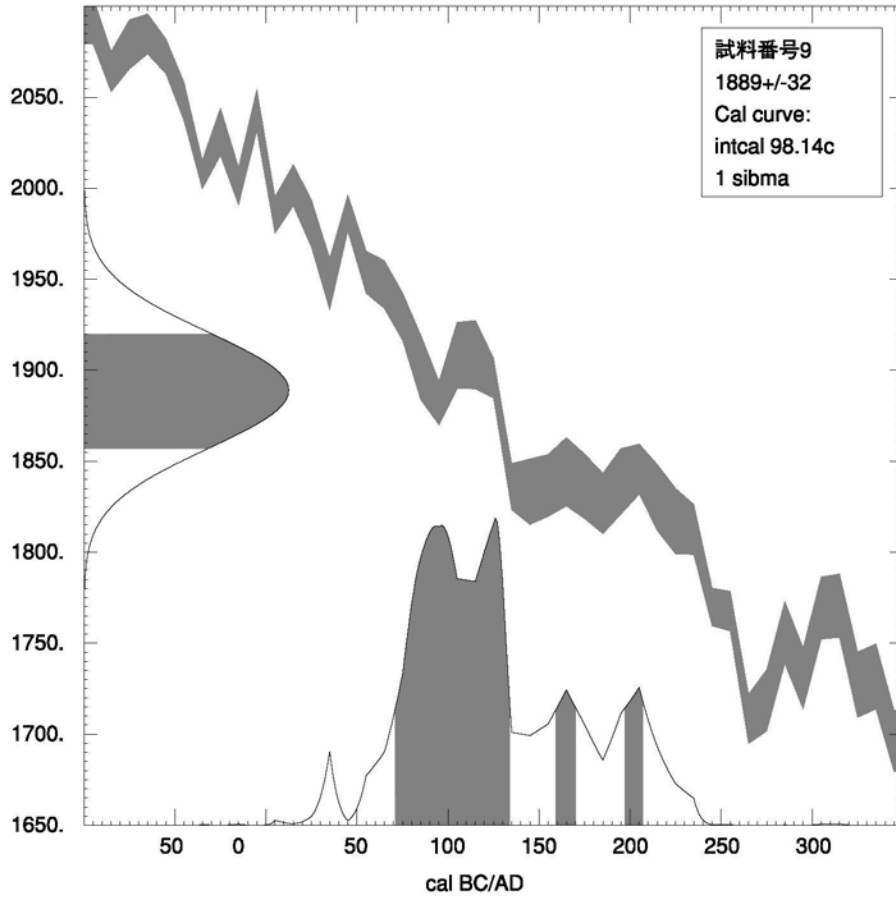


図5 暦年代較正グラフ5

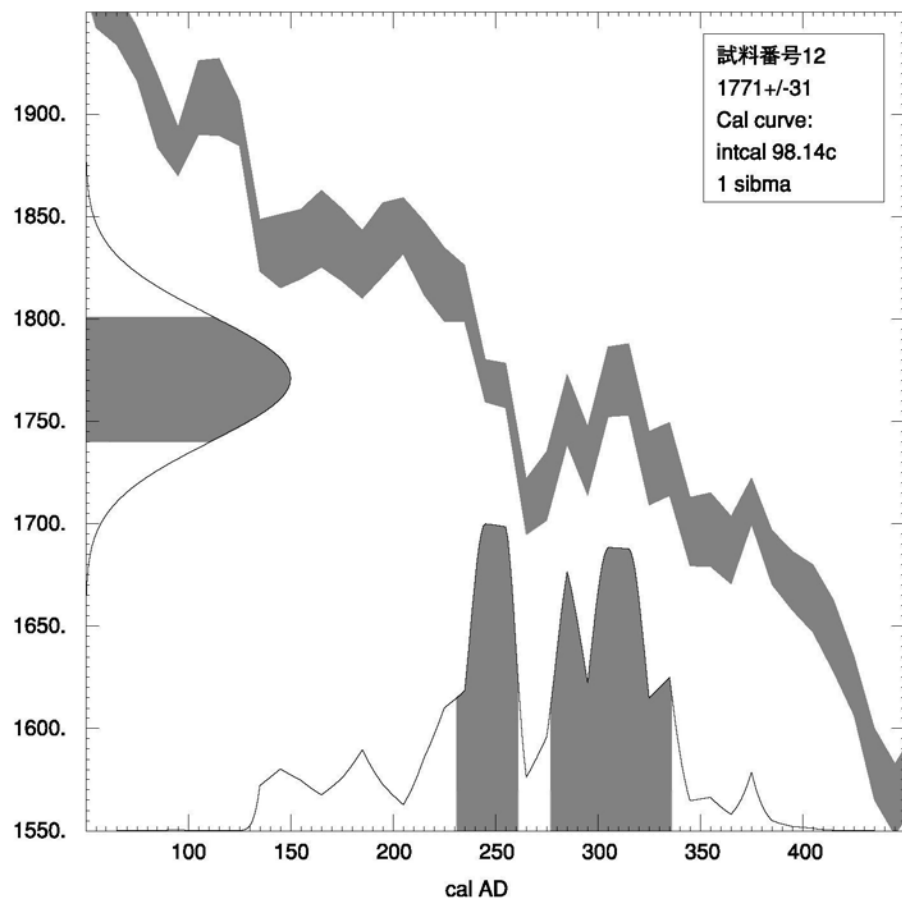
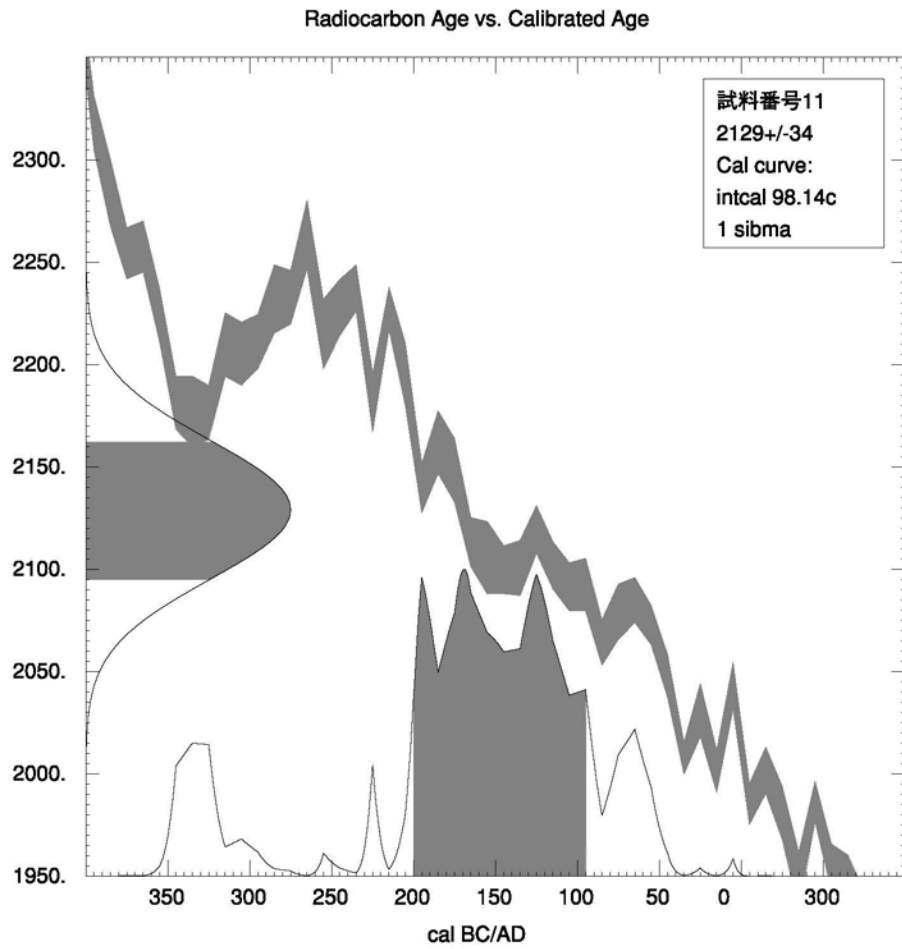


図6 暦年代較正グラフ6

Radiocarbon Age vs. Calibrated Age

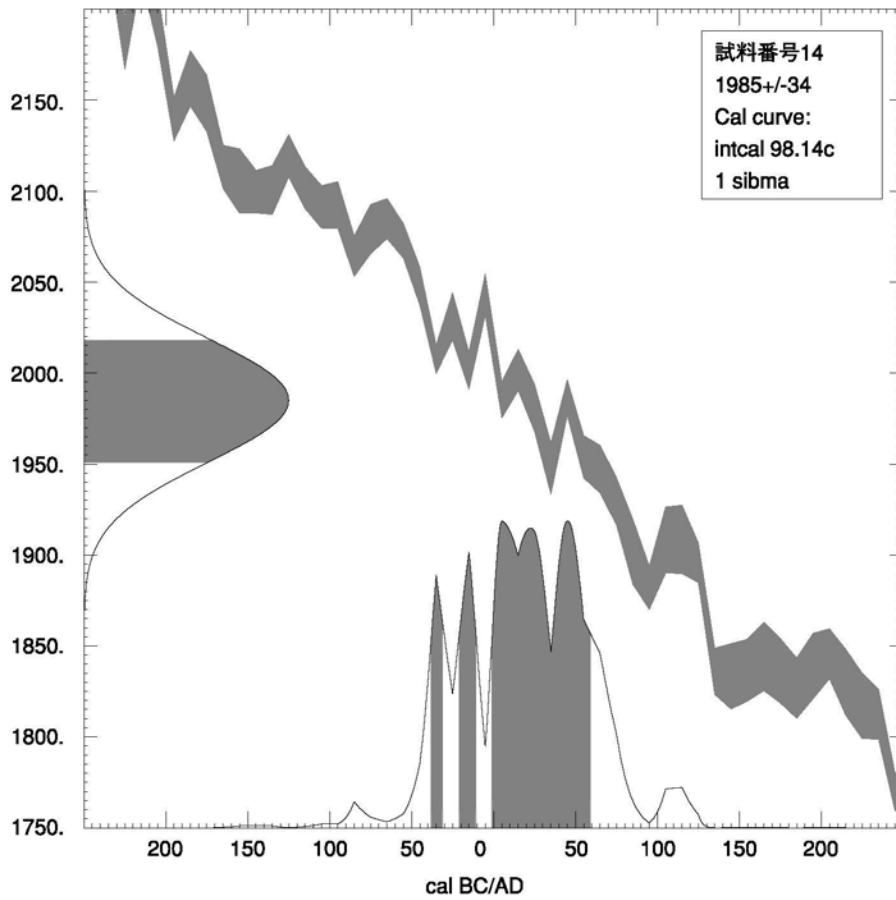
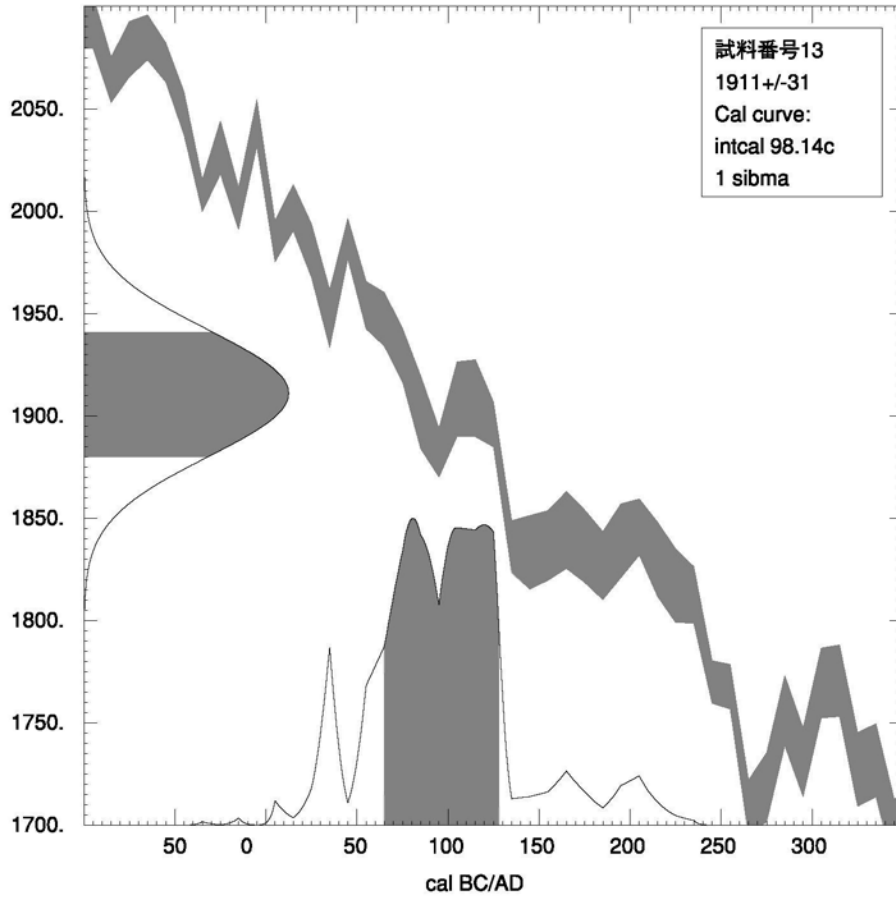


図7 暦年代較正グラフ

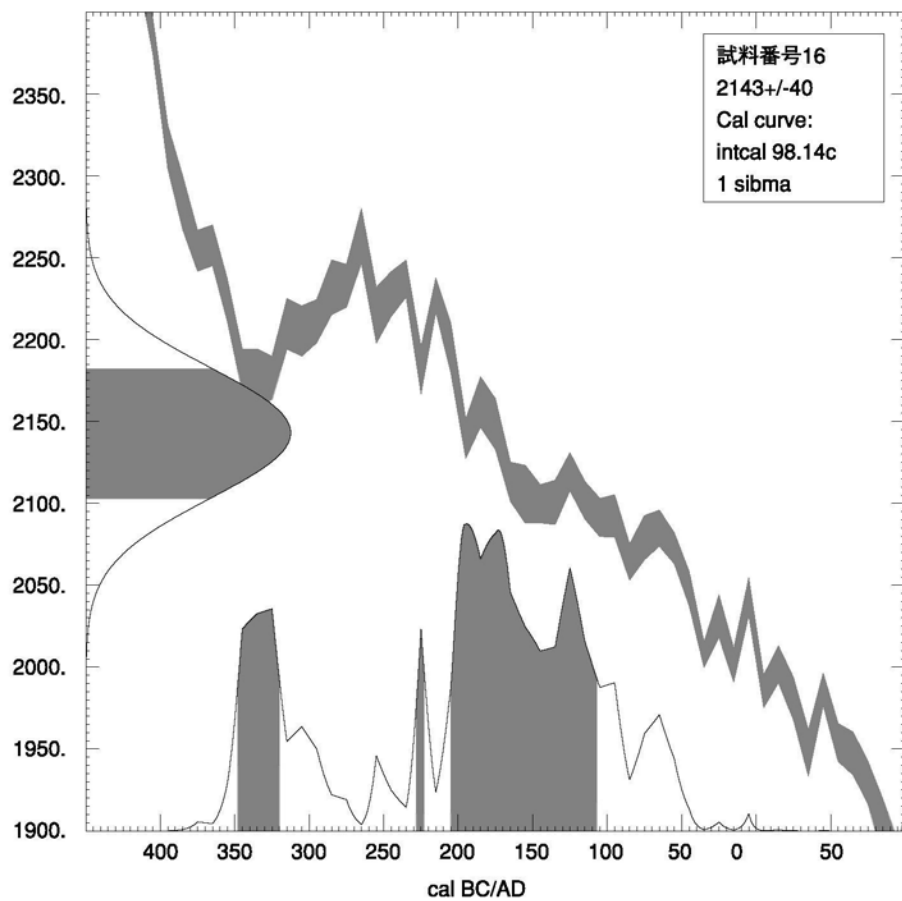
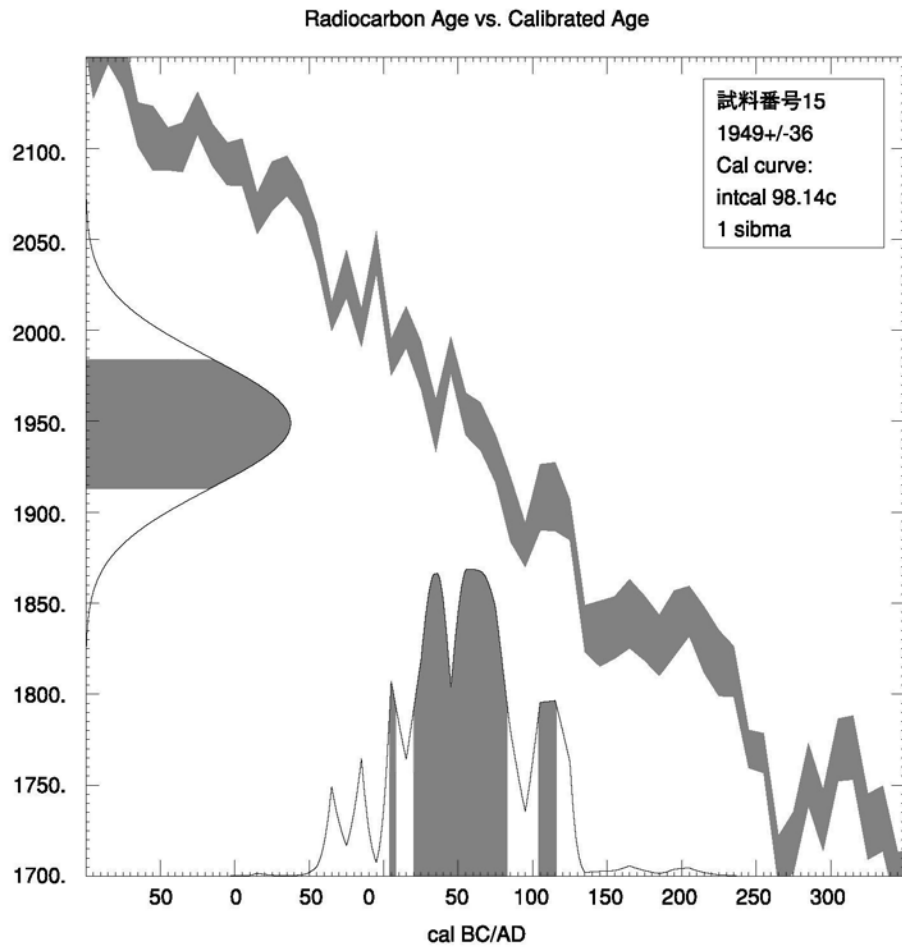


図8 暦年代較正グラフ8

## 第V章 総括

### 1. 下月隈C遺跡第6次調査出土刻目突帯文土器の位置付けについて

所 一男（東京大学大学院人文社会系研究科考古学専門分野修士課程）

#### (1) はじめに

本書で報告した下月隈C遺跡6次調査においては、第IV面で検出された遺構から、多量の刻目突帯文土器が出土した。特にSK460・SK488・SK500・SD507などにおいては、二条刻目突帯文甕を中心に土器がまとまって折り重なったような形で出土しており、その中には完形近くまで復元できるものも多い。このような出土状況から、短期間のうちに廃棄されたものがそのまま埋没した一括性の高い資料と言える。当遺跡は板付遺跡の西方約800mに位置し、弥生文化の成立・展開について研究する上で非常に重要な地域に位置している。また、遺構から出土する土器の中で主体となるのは刻目突帯文土器であり、それに少量の板付I式土器が共伴するという構成を示し、刻目突帯文土器と板付式土器との関係を考える上でも貴重な資料である。本稿では、土器の様相を検討し、これまでの当該期の土器編年を参考にしつつ資料の編年の位置付けを行い、周囲の遺跡出土土器との比較等を通して弥生文化成立期における諸問題や当遺跡の特徴について考察したい。

#### (2) 研究略史

まず、これまでの当地域における刻目突帯文土器期から弥生時代前期にかけての土器編年の研究の流れをごく簡単に概観し、現在までの研究の到達点及びその課題を確認しておきたい。

刻目突帯文土器と板付I式土器の遺構からの共伴が確認されたのは戦後の福岡市板付遺跡環濠の調査においてである（森・岡崎1961）。この成果を契機に1960年代には夜臼式土器の単純遺跡を探す作業が行われ、唐津市宇木汲田遺跡の調査（九州大学考古学研究室1962）や島原半島における日本考古学協会西北九州総合調査特別委員会による調査より、突帯文土器単純期の存在が確認される。

1970年代後半から80年代前半にかけての福岡市板付遺跡・唐津市菜畑遺跡・糸島郡曲り田遺跡等の調査成果に基づき、それぞれの遺跡を調査した山崎純男氏（山崎1980）、中島直幸氏（中島1982）、橋口達也氏（橋口1985）が刻目突帯文土器期～弥生時代前期の編年を発表し、当該期の編年研究の基礎が形作られる。

これらの成果に基づき、その後の遺跡の調査の進展に伴って、編年も細分化されていく（田崎1994、吉留1994、藤尾1999など）。田崎博之氏は突帯文期から弥生時代前期前半を山ノ寺式<sup>1</sup>→夜臼式古段階→夜臼式新段階→板付I式古段階→板付I式新段階と編年し（田崎1994）、近年では同様に突帯文土器単純期を2時期ないしは3時期、板付I式を2時期に分けて議論することが主流となっている。

このような編年研究の深化に伴い、遺跡における突帯文土器と板付式土器との出土状況の違いから集団関係のあり方の復元に迫った研究も進められている（田崎1998、山崎1999、藤尾1999など）。また、家根祥多氏の一連の研究により朝鮮無文土器から板付I式土器が成立する過程も復元され、土器研究から弥生文化の成立過程、当該期の集団関係へと研究も深められてきた（家根1984、1987、1993、1997など）。

その一方では、土器編年や地域性の細分化・その併行関係に対する理解の仕方に研究者間の意見の相違や混乱が生じているのもまた事実である<sup>2</sup>。西日本の地域ごとの当該期の編年、併行関係の構築から弥生文化の成立過程を明らかにすることを目指した土器持寄会の一連の成果からも、研究者

間での見解の相違が大きいことが見て取れる（土器持寄会論文集刊行会2000）。このような意見の相違に対し、地域ごと、遺跡ごとの土器の検討を積み重ね、遺跡間・地域間の関係性をより具体的に明らかにしていくことで、解決していけるものと考えている。

2004年2月に開催された埋蔵文化財研究会福岡大会「板付Ⅰ式期の再検討」においては、北部九州における、より細かい平野・小地域ごとの土器編年・文化様相・地域性がまとめられ、相互の併行関係についての議論も深められた（埋蔵文化財研究会福岡大会実行委員会2004）。今後は、その成果に基づき、地域差の発現する過程、地域間の影響関係などの認識を通して、より精緻な板付Ⅰ式土器の成立過程や実際の人・集団の動きといった点に検討を進める準備が整ってきていると言えよう。

以上見てきたように、現段階において当該期の土器編年は細分化が進み、玄海灘沿岸地域内においても平野単位での小地域差、さらには福岡平野内での遺跡差が指摘されてきている。それを基にしてより具体的な土器の地域間交流、地域間・遺跡間差の表出と解消の過程といった問題にアプローチが可能になってきていると言え、そこからより詳細な弥生文化・弥生土器の成立過程の具体像を描けるのではないかと考えられる。本稿において扱う下月隈C遺跡6次調査の土器はこのような試みを行う上での貴重な一資料を提供してくれる。

### (3) 出土土器の概要とその編年的位置付け (Fig177・178<sup>3)</sup>)

個々の土器に関しては、本報告書の第三章や遺物観察表において説明したので、重複する部分もあるが、出土状況の良い遺構（SK460、SK488、SK500、SK548、SD507）の土器について簡単に概観し、その特徴を指摘した上で、これまでの編年研究の成果に基づいて位置付けを行いたい。

#### ①SK488出土土器

屈曲型の二条突帯文甕がまとまって出土し、完形近く復元できるものも多い。屈曲部からの立ちあがり方によって細分するとバリエーションに富むが、屈曲部から内傾して口縁部に立ち上がるもの（504・512）、屈曲部から垂直方向に近く立ち上がるもの（505・506・507・511・513・514・515）、外に少し開くもの（508・509・510）におおまかに分けられる。外面に横方向の貝殻条痕調整を施す点、口縁部突帯を口縁端部に接するように貼り付ける点、刻目は棒状工具によりやや深めにつける点、屈曲がそれほど強くない点などにおいて共通性が高い。529はハケ目調整が施され、板付式甕の胴下部～底部と考えられる。色調は赤っぽく、突帯文甕とは異なり、搬入品<sup>4</sup>の可能性が高い。このような搬入品の影響を受けて515のような、ハケ目調整の技法が用いられる刻目突帯文甕が作られたことが想定できる。

また、壺については口縁外面を肥厚させるもの（530・531）、胴部の段や沈線文様（537～540）、円盤貼付形の底部（533）など板付式の特徴を持つものが多い。丹塗りの大型壺の胴部片（541）や口縁が外に開く浅鉢・高坏も出土している（542～546）。以上の様相から、板付Ⅰ式古段階に位置付けられる。

1 山ノ寺式の位置付けについては従来からの議論があるが、直接的には本稿に大きく関わらないので、ここでは触れない。

2 出原恵三氏(出原2000など)や豆谷和之氏(豆谷1995など)ら瀬戸内～畿内の研究者と北部九州の研究者との間で編年の併行関係や板付Ⅰ式土器の成立過程に見解の相違がある。その詳しい論点についてはここでは触れない。

3 紙面の都合上、本文中で触れた土器全てをFig177・178に載せることはできなかった、また縮尺も小さく、図面が見にくくなってしまった。報告書第三章の図面及び遺物観察表を適宜参照されたい。番号は報告書の図面の番号と対応している。

4 搬出元は板付Ⅰ式甕が周辺遺跡より多いとされ、赤みがかかった土器も多い板付遺跡が想定できる。ただし、板付遺跡においても刻目突帯文土器と色調・胎土が異なる状態が見られることから、さらに別の搬入元を想定すべきという意見もある(出原2000など)。筆者はこの点に関してまだ明確な結論に至っていないので、ここでは明言しない。

## ②SK500出土土器

屈曲型の二条突帯文甕が主体となり、上記のSK488出土土器と近い特徴を持つが、屈曲部から内傾するものがなく、屈曲部からほぼ垂直に立ちあがるもの（579・580・581・582・584・585・586・587など）や外側に開き気味のもの（583）が多く、より屈曲部が痕跡的になる傾向が強く、SK488よりわずかに時期が下るようである。584のように外面にハケ目調整を施す突帯文甕が1点出土している。また外反の弱いハケ目を施す板付系の甕（593）が1点出土している。胎土は灰黄橙～黄橙色系で、他の突帯文甕と近く、共に当遺跡で製作・焼成されたものと考えられる。壺は板付系（599・602～604）と夜臼系（600・601）が併存する。また、黒色磨研の精製高坏（607）が出土している。

## ③SD507出土土器

屈曲型の二条突帯文甕が主体となり、上記のSK488・SK500出土土器と近い特徴を持つ。ただし、屈曲部における屈曲が痕跡的なものが目立ち（389・391・392・394・395など）、若干時期が下ると考えられる。また、ハケ目調整を用いる突帯文甕も少量存在する（393・397）。刻目突帯文甕の中で1点他と非常に顔つきの異なる土器が出土している（399）。砲弾型の一条突帯文甕であるが、口縁に非常に薄く突帯を貼り付けているため、突帯を貼り付けたのか口縁をつまみ出し突帯風に仕上げたのか見分けが付きにくい。外面調整も貝殻条痕調整後、板状工具で縦方向に丁寧にナデを加えて消している。胎土は白っぽく、他の土器とは大きく異なっている。このような土器は唐津の菜畑遺跡の8下層（夜臼期）～8上層（夜臼・板付I式共伴期）に特徴的に見られるもので、9～12層（山ノ寺式期）において受容した無文土器系の甕の影響を受けて、唐津地域の在地の刻目突帯文土器が形式変化したものであると考えている<sup>5</sup>。唐津地域からの搬入品である可能性が高いと指摘しておく。

また完形の板付式甕（404）が1点出土している。口縁端部全面に刻目をつけ、外面は下から上へと細かいハケ目を施す板付I式の甕である。色調は明るい黄橙色を呈し、灰黄橙～黄橙色系の他の刻目突帯文甕とは胎土において共通する。また、外面胴部中程に大きな楕円形の黒斑が付き、その逆の外面に火色（藁燃料と焼成時に接触したことを示す）の痕跡も見られ、覆い型野焼きによって焼成されたことが想定される<sup>6</sup>（小林他2000、長友他2004）。刻目突帯文甕についてはススの付着が激しく、黒斑のつき方の全体像がつかめないが、部分的に接地面黒斑や火色が確認でき、同じように覆い型野焼きで焼かれた可能性が高い。一方口縁部のみ残る板付式甕（405）は色調が赤っぽく突帯文甕と大きく異なり、搬入品と考えられる。

壺は夜臼系で胴部幅が広がった丹塗りの大型壺（407・413）と板付系の小壺（409・410）、他にも大型の鉢（406）、口縁部が大きく外に開く高坏（411）、高坏の脚部（412）が出土している。以上の様相からSK488・SK500よりはわずかに新しいが、板付I式古段階の範疇で収まる時期に位置付けておく。

## ④SK460出土土器

468～471のような刻目突帯文甕と472～475のような板付式甕が共伴している。二条刻目突帯文甕は、屈曲部からほぼ垂直方向に立ちあがるもの（469、470）と、ほとんど屈曲せずに外側に開

5 菜畑遺跡8下～8上層の突帯文土器は屈曲型二条突帯文甕が主体だが、399に近い砲弾型のものも存在する。いずれにせよ、口縁部内面をナデで円まして仕上げる点や胎土・調整が非常に近い。実見にあたり唐津市教育委員会の岩尾峯希氏、美浦雄二氏のお世話になった。

6 覆い型野焼きと黒斑の関係については、北陸学院短期大学の小林正史先生のご指導いただき、小林先生を中心とした研究チームに参加させていただいたことで多くの知見を得た。

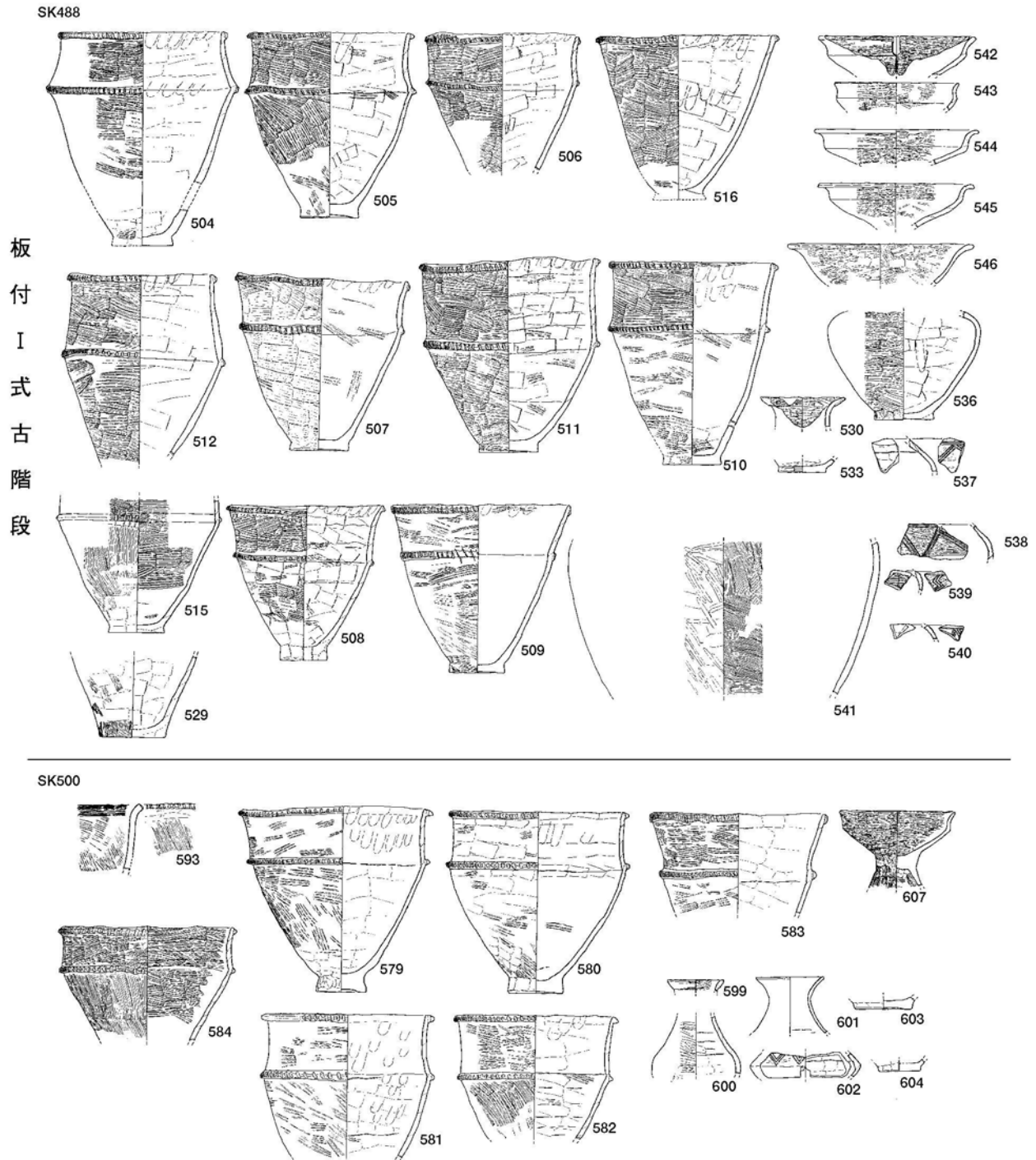
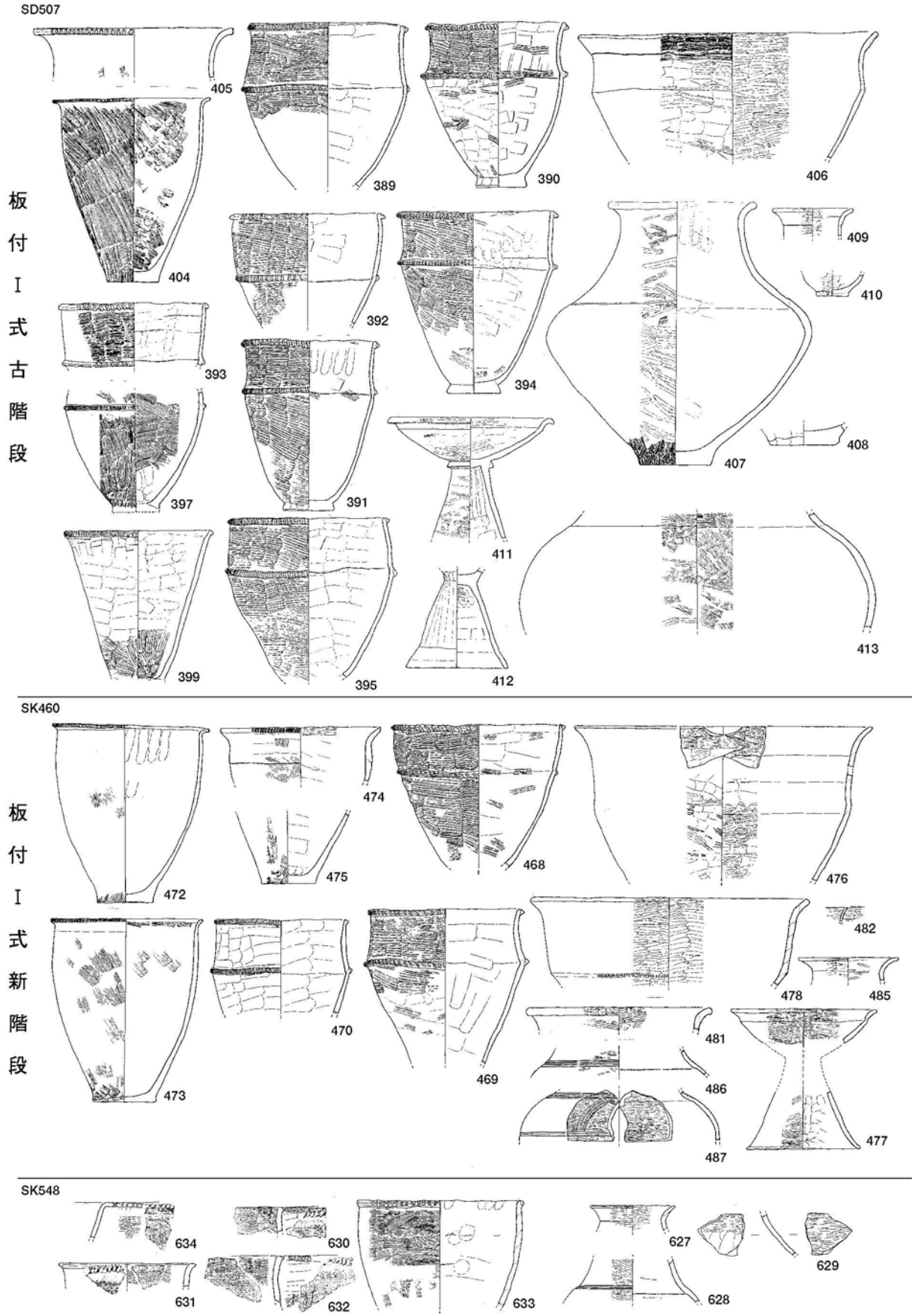


Fig.177 板付Ⅰ式古階段の遺構 (SK488, SK500) 出土土器 (1/8)

くもの (468) があり、上記の遺構出土のものと同程度大きくは変わらない。板付式甕はいずれも口唇全面に刻目を入れ、板付Ⅰ式甕の範疇でとらえられるが、やや胴が張り、SD507の板付Ⅰ式甕よりはわずかに時期が下ろう。また、色調は黄橙～鈍い褐色を呈し、焼成や胎土において突帯文甕と顕著な差は認められない。鉢 (476・478)、板付式の壺 (482・485～487)、高坏 (477) も出土しており、高坏の口縁部の開きが大きい点や壺の外面口縁部肥厚の段や頸胴部間外面の段が沈線に近づいている点からも板付Ⅰ式の中でも新段階に位置付けられる。

⑤SK548出土土器





板付 I 式古階段

板付 I 式新階段

Fig.178 板付 I 式古階段の遺構 (SD507)、新階段の遺構 (SK460, SK548) 出土土器 (1/8)

出土量もそれ程多くなく、破片資料中心であるが、興味深い土器の様相が見られるので、触れておく。4点の刻目突帯文甕が出上し、633は砲弾型の一条突帯文甕の胴中部以上残存で、630～632は口縁部の破片である。4点とも外面もしくは内面にハケ目調整が見られ、貝殻条痕調整が見られないという点、口縁上部外側に突帯を貼り付けた後、突帯上部と口縁端部を非常に丁寧に平らに整形し、貼り付けた痕跡を消すという点で共通点を持つ。このハケ目調整と口縁上部を丁寧に横なでし平らに仕上げる技法は、板付式甕に共通するものであり、板付式甕との強い影響・折衷関係が想定できる。また、1点口縁部の外反の強い板付式甕の口縁部破片(634)も出土している。壺については口縁部破片627は口縁外面をわずかに肥厚させ、沈線状の段をつけ、頸胴部間破片628は外面段はそれほどはっきりしないが、内面には粘土帯接合時の段が残るという板付I式の中でもやや新しい特徴を示す。

これらの特徴から、SK488・SK500・SD507よりは一段階新しい時期、壺・板付式甕の様相から板付I式新段階に位置付けられ、突帯文甕の様相からSK460出土土器よりも若干下ると考える。また、刻目突帯文甕が板付式甕との折衷により形式変化する様相も確認できた。

以上のように見てきたように、土器様相のわずかな違いから板付I式期という短い時間幅の中でSK488→SK500→SD507(以上、板付I式古段階)→SK460→SK548(以上、板付I式新段階)というように非常に漸移的な変化が追え、また、搬入・模倣・折衷といった現象がいくつか想定できた。

上で述べてきた形式変化の流れを編年表にして図177・178において示した。まとめると、SK488→SK500→SD507にかけては、刻目突帯文甕が圧倒的割合を占め、従来言われてきたように屈曲部が痕跡的になり、口縁が外側に広がる方向に形式変化する。それに伴って出土するごく少量の板付式甕は胎土・色調等大きく異なる搬入品と考えられるもの(529・405)と、胎土・焼成等が同じで、下月隈C遺跡で製作されたと考えられるもの(593・404・472・473・634)の両者が存在する。後者も器形・製作技法等において板付I式そのものであり、単なる模倣というよりも板付I式甕の製作技法を体得した者が、下月隈C遺跡で生活する集団に加わり、土器製作を行ったことが想定される。このようにして作られた板付I式甕や搬入された板付I式甕の技法を模倣することで、刻目突帯文甕の中にもわずかにハケ目調整を施すという折衷品が製作されたと考えられる。板付甕のように少量であるが絶えず搬入・製作され、在地の刻目突帯文甕の技法に影響を与えていく場合もあれば、唐津地域からの搬入を想定した刻目突帯文甕399のように単発的で他の土器への明確な技法の影響を見出せない事例もある。続くSK460→SK548にかけては板付式甕の量が増え、刻目突帯文甕と併存しつつ、突帯文甕のハケ目技法・口縁部の丁寧な横ナデ整形など板付式甕の模倣・折衷が顕著になっていく。

以上、変化を追ってきたが、これらは非常に漸移的な変化のあり方を示し、従来の編年をさらに細分しそれぞれを独立して様式(型式)として設定することは難しいが、土器の変化の方向性やその要因を考える上で有効であると考えられる。

#### (4) 小結及び今後の課題

本遺跡の土器を概観し、その位置付けを行なう中で、何点か新たな視点、これまでの議論を補強する事実等が浮かび上がってきた。これらを最後にまとめるとともに今後の課題を指摘しておきたい。

まず、良好な一括資料から、本遺跡における板付I式期という短期間における土器様式の漸移的な変化の過程を追うことができ、その中での搬入・模倣・折衷のプロセスを想定することができた。刻目突帯文甕を主体とし、少量の板付I式甕が伴うというのは、従来からの山崎純男氏の指摘通りである（山崎1980、1999）。その中で、板付I式甕の搬入・模倣を通して、折衷タイプの刻目突帯文甕へと変化していく過程を確認した。

このような搬入、模倣、折衷の過程は、周囲の遺跡の様相と比較してみると必ずしも一様ではないようである。例えば、下月隈C遺跡の北方に位置する雀居遺跡においては板付I式古段階において板付式甕が下月隈遺跡よりも多く認められ、5次調査SK188に示されるように板付I式新段階には刻目突帯文甕がほぼ見られなくなる。また、板付遺跡においては、板付I式甕が周囲の遺跡よりも多く出土することは従来から指摘されてきた（山崎1980、1999、藤尾1987）。これらの成果から板付式系の単純期として設定された板付I式新段階においても、下月隈C遺跡においては突帯文系が非常に多く残存する事実が確認でき、同じ福岡平野内でも遺跡差が大きいことが明らかになった点は重要である。今後、このような遺跡ごとの細かい搬入、模倣、折衷のあり方を分析し、詳細に比較していくことで、弥生文化成立期の地域間・遺跡間・集団間の関係のあり方により具体的に迫れるものと考えている。

当遺跡において出土した完形近く復元できる刻目突帯文甕の中で、屈曲型の二条突帯文甕が圧倒的割合を占めている。この点がかつて、藤尾慎一郎氏が板付I式との共伴期、福岡平野において刻目突帯文甕は屈曲型二条突帯文甕が主体を占めると指摘したことを補強する（藤尾1987、1991）。しかし、藤尾氏の論じるように砲弾型一条突帯文甕の代わりに板付I式甕が広がり、屈曲型二条突帯文甕と板付I式甕が補完関係をなすという事実は当遺跡では確認できない。屈曲型二条突帯文甕の増加と板付I式甕の広がりとは軌を一にするものではないと言えよう。いずれにせよ、福岡平野において夜臼期から板付I式期にかけて刻目突帯文甕の中で屈曲型二条突帯文甕が主体的になっていくという傾向は雀居遺跡や那珂遺跡などの様相と合わせても首肯できる。

壺と甕の出土様相を比較してみると、壺はSK488の段階ですでに板付系のものが出土しているが、板付系の甕は少ない。家根祥多氏は一連の研究の中で、朝鮮無文土器をセットとして受容したという点を強調し、縄文土器の器種のセットの中になく壺型土器のみを選択的に受容したとする下條信行氏（下條1989）や後藤直氏（後藤1991）らをはじめとするそれまで受け入れられてきた考えに批判を加えている（家根1987、1993、1997）。この家根氏の主張は、家根氏が朝鮮無文土器の一定の存在を指摘する糸島の曲り田遺跡や唐津の菜畑遺跡の出土土器についてはあてはまると言えよう。しかし、その周囲の地域を見ると、夜臼期においては在地の系譜を引く刻目突帯文甕と無文土器の系譜を引く壺とがセットになっている遺跡がほとんどで、無文土器系の土器がセットとしては認められない。本稿で見てきた下月隈C遺跡の土器もそのような刻目突帯文甕と壺がセットになる状態を示し、周囲の板付・雀居・那珂遺跡でも無文土器系甕の出土はわずかであり、これに近い状況と言えるであろう。また、早くから壺が受容される佐賀平野の様相を見ても、壺は多く見られるが、無文土器系の甕はほとんど見られない。このような点から見ると、先に上げた選択的受容という側面も一概に否定できないのである。つまり、糸島・唐津地域にまず朝鮮系無文土器のセットが受容されるが、それがそのまま周囲に波及していくのではなく、壺・甕の波及には段階差があることが指摘できる。さらには板付I式の壺と甕の広がる時期も必ずしも同時ではないと言えよう。また、このような段階差は一様ではなく、野多目遺跡のように無文土器系甕を夜臼I式期から一定量受容する遺跡が福岡平野内に存在するなど、かなり複雑な様相を示すようである。このような現象

の背景には甕と壺の使用される場の違いが想定され、必ずしも無文土器文化の総体がそのまま受容され広がっていったわけではないことがうかがえる。ここではその指摘に留め、具体的様相とその解釈については改めて詳細に論じたいと考えている。

まだ検討中の課題も多く、指摘にとどまる部分やまとまりのない部分も多くなってしまったが、今後それらの課題を深め、より具体的、包括的に論を組み立てていきたい。

本稿を書くにあたり、調査担当者の山崎龍雄氏には土器の実測から本稿を書くにあたるまで多くのご指導を受けた。福岡市での調査にあたり、福岡市教育委員会及び埋蔵文化財センターの荒牧宏之氏、池田祐司氏、加藤良彦氏、久住猛雄氏、菅波正人氏、瀧本正志氏、常松幹雄氏、山口譲治氏、山崎純男氏、横山邦継氏、吉留秀敏氏、力武卓治氏、東京大学の後藤直先生にご指導・ご助言をいただき、資料の実見等で大変お世話になった。感謝いたします。本稿においてその成果の一部しかまとめることができなかったのは、筆者の努力・力量不足によるものであり、今後の課題としたい。

また、2004年の埋蔵文化財研究会においては多くの人に実際に土器を見ていただき、有意義なご助言を頂いた。一人一人御名を挙げきれないが、感謝の意を表したい。

#### 引用文献・主要参考文献

- 九州大学考古学研究室 1966 「北部九州（唐津市）先史集落遺跡の合同調査—昭和40年度IⅡ合同調査報告—」『九州考古学』第29・30号 九州考古学会
- 後藤直 1991 「弥生時代開始期の無文土器（二）日本への影響」小田富士雄・韓炳三編『日韓交渉の考古学』六興出版
- 小林正史・北野博司・久世建二・小島俊彰 2000 「北部九州における縄文・弥生土器の野焼き方法の変化」『青丘学術論集 第17集』韓国文化研究振興財団
- 下條信行 1989 「瑞穂の国の成立」『弥生農村の誕生』古代史復元4 講談社
- 田崎博之 1994 「夜白式土器から板付式土器へ」『牟田裕二君追悼論集』牟田裕二君追悼論集刊行会
- 田崎博之 1998 「福岡地方における弥生時代の土地環境の利用と開発」『福岡平野の古環境と遺跡立地』九州大学出版会
- 出原恵三 2000 「四国における遠賀川式土器の成立」『突帯文と遠賀川』土器持寄会論文集刊行会
- 土器持寄会論文集刊行会 2000 『突帯文と遠賀川』
- 長友朋子・庄田慎矢・所一男・久世建二・小林正史・松尾奈緒子・中村大介・鐘ヶ江賢二・渡辺誠 2004 「弥生時代における複い型野焼きの受容と展開」『日本考古学協会2004年度発表要旨集』日本考古学協会
- 橋口達也 1985 「日本における稲作の開始と発展」『石崎曲り田遺跡』Ⅲ 福岡県教育委員会
- 藤尾慎一郎 1987 「板付」式甕形土器の成立とその背景」『史淵』124 九州大学文学部
- 藤尾慎一郎 1991 「水稲農耕と突帯文土器」『日本における初期弥生文化の成立』（横山浩一先生退官記念論文集）
- 藤尾慎一郎 1999 「福岡平野における弥生文化の成立過程—狩猟採集民と農耕民の集団関係」『国立歴史民俗博物館研究報告』第77集 国立歴史民俗博物館
- 埋蔵文化財研究会福岡大会実行委員会 2004 『埋蔵文化財研究会 板付』式期の再検討 発表要旨集
- 豆谷和之 1995 「前期弥生土器出現」『古代』第99号
- 森貞次郎・岡崎敬 1961 「福岡県板付遺跡」『日本農耕文化の生成』日本考古学協会
- 家根祥多 1984 「縄文土器から弥生土器へ」『縄文から弥生へ』帝塚山考古学研究所
- 家根祥多 1987 「弥生土器のはじまり—遠賀川式土器の系譜とその成立—」『季刊考古学』第19号 雄山閣
- 家根祥多 1993 「遠賀川式土器の成立をめぐる—西日本における農耕社会の成立—」『論苑考古学』天山閣
- 家根祥多 1997 「朝鮮無文土器から弥生土器へ」『立命館大学考古学論集Ⅰ』立命館大学考古学論集編集刊行会
- 山崎純男 1980 「弥生文化成立期における土器の編年の研究」『鏡山猛先生古希記念 古文化論取』
- 山崎純男 1999 「福岡平野・早良平野における弥生時代開始期の遺跡」『板付周辺遺跡調査報告書第20集』福岡市教育委員会
- 吉留秀敏 1994 「板付式土器成立期の土器編年」『古文化談叢』32
- ※ なお、紙数の都合により各遺跡の報告書については割愛した。

## 2. 調査のまとめ

月限調節池の調査は平成10年から16年にかけての大規模な調査であったが、その全体の総括は今後に委ねることとし、本報告書では、主に第6次調査で得られた成果を中心としたまとめをしたい。今回の調査で確認した遺構の時期は弥生時代前期から中世前期にかけてであり、調査はそれを四時期に分けて調査した。各時期の調査成果について述べる。

### ①第Ⅰ面のまとめ

第Ⅰ面は中世前期である。溝・建物・井戸・土坑などから構成される集落遺構であるが、調査の経緯から十分な調査は出来なかったため、遺構の全容については十分に把握出来たわけではない。古代の埋没した水田や川跡上に形成された集落である。井戸や溝、土坑など遺構の時期は11～12世紀のものが主体で、集落の継続期間はそれ程長くはない。集落の開始は井戸SE311が10世紀と先行する時期であり、第Ⅱ面の川や水田の埋没時期が9世紀頃と思われるので、その頃一度か数度かは分からないが、地形が変わるほどの洪水を受けて水田や川が埋没した後、当地が微高地化して水田として再利用されることなく、其処に集落が営まれていたことが考えられる。この時期の水田は東側の第7次・8次調査区で確認されているので、第6次調査区が自然堤防状に微高地化した結果、東側が低地化し、水田が営まれたものと思われる。地形が改変するほどの洪水が何時頃起きたのであろうか。残された数少ない古代の風水害記録を見てみる (Tab.5)。中央部の京を主体とした記録なので、地方についての記録は少ない。風水害記録は9世紀34回、10世紀35回、11世紀18回残っているため、9世紀・10世紀にかなりの洪水があったことが考えられる。九州についての記述は少なく9世紀天安2(858)年の『日本文徳天皇実録』の記録、貞観11(869)年の『三代実録』の記録と2回記録されているのみであるが、この2回の記録は中央の記録に残る程なので、かなり大規模な災害であったと思われる。全国的にみても九州は夏場の梅雨や台風で大雨が降る多雨地域であり、実際にはもっと多かったと思われる。度々洪水に見舞われていたのであろう。古代の周辺の歴史的状況を見ると、御笠川上流部では7世紀前半から始まる大宰府の造営や、大野城・水城の築造、大野城市牛頸地区での大規模な窯の操業など、平地部・山地部を問わず大規模な開発工事や生産活動によって自然破壊を行っており、その結果周辺山地部は森林が伐開され、自然破壊が進みかなり荒れていたと思われる。上流部で降った大雨は大洪水を引き起こし、それによって下流低地部に甚大な洪水被害をもたらしたことが推察される。最近の事例では平成11年と15年の梅雨時に起きた福岡大水害がその例であろう。

福岡市周辺の沖積地で検出された主要な中世前期村落遺跡は粕屋町の戸原麦尾遺跡や、早良区の田村遺跡、次郎丸遺跡、東区の多々良遺跡などがある。特に戸原麦尾遺跡や田村遺跡の開始時期が当遺跡と近く、戸原麦尾遺跡は宮崎宮の荘園、田村遺跡は能介荘と関係があり、席田郡にも席田荘があったことから、それに関わる集落と推定する。

### ②第Ⅱ面のまとめ

古代8～9世紀の条里水田とそれを切る河川流路跡と護岸遺構を検出した。河川流路跡については空中写真を見ると何条かの流路跡が認められ、度々洪水によって流路が変更していたことが読み取れる。条里水田は日野氏の席田地区の条里復元図にほぼ一致する (Fig.179)。しかも十字の交差する大畦による坪境が検出されたことが大きな成果である。坪内の地割方法 (半折型か長地型) は内部の水田地割がかなり崩れていたことから不明確であったが、東側の第7次・8次調査区でも水田が確認されていることから、調査区内での地割の検討は今後の課題としたい。川跡内で検出された護



「日野尚志氏作成条里図」を転載

Fig.179 席田郡条里・官道復元図

Tab.5 古代風水害年表

世紀	西暦年	年号	大雨災害
7世紀	601	推古9	5月より大雨河水位氾濫宮廷に濟つ(日本書紀)
	623	推古31	春より秋に到るまで霖雨大水・五穀不登(日本書紀)
	636	舎予明8	5月霖雨大風(日本書紀)
	652	白雉3	4月20日大雨9日洪水損壊宅屋(日本書紀)7月難波周辺大洪水
	666	天智5	秋7月大水(日本書紀)
	679	天武8	8月5日自是日雨三日、大水(日本書紀)
	691	持統5	4~6月大和・諸国霖雨
	692	持統6	諸国大水、稟貨遭災者(日本書紀)
8世紀	707	慶雲4	3月21日以来畿内霖雨(日本史小百科)
	709	和銅2	4月河内、摂津、山城、伊豆、甲斐諸国霖雨、苗を損ず
	717	養老1	8月16日伊勢洪水(続日本紀)
	726	神亀3	12月24日遠江五郡水害
	728	神亀5	5月6日左右京水滂、百姓被損七百餘畑(続日本紀)
	742	天平14	5月3日畿内水滂、是日遣使檢校百姓産業(続日本紀)
	750	天平勝宝2	5月25日大和・河内驟雨洪水(続日本紀)
	754	天平勝宝6	8月9日畿内及諸国一十風水、産業損傷(類聚国史)
	769	神護景雲3	8月9日尾張大雨(続日本紀)
	770	宝亀1	6月14日美濃国霖雨(続日本紀)
	772	宝亀3	8月霖雨洪水、河内堤決(続日本紀)
	775	宝亀6	8月22日岐阜・愛知・三重で暴風雨(続日本紀) 11月7日九州風雨(続日本紀)
	779	宝亀10	4月19日暴風雨 6月29日因幡暴風雨洪水 7月14日静岡県で豪雨(続日本紀・日本紀略)
	784	延暦3	9月5日京師及河内大雨水
	785	延暦4	9月10日河内洪水(続日本紀)
	796	延暦15	5月12日京都大雨洪水 8月6日大和霖雨、筑後水滂(日本後紀)
799	延暦18	4月9日山城河内摂水滂(日本後紀) 11月淡路風水、京師及諸国大飢饉(日本後紀)	
9世紀	804	延暦23	8月10日京都諸国大暴風雨(日本後紀)
	806	大同1	畿内及諸国霖雨洪水、損害多(日本後紀)
	813	弘仁4	6月石見・安芸両国大水(類聚国史) 5~6月霖雨諸国洪水、多被其害(日本後紀)
	828	天長5	5月23日京都大雨、山崩水溢、漂損人畜(日本紀略・大日本史) 6月23日京都大雨、山崩水溢(大日本史)
	832	天長9	8月20日河内摂津大風雨洪水、堤防決壊(日本紀略・大日本史)
	834	承和1	7月12日京都洪水汎溢(続日本後紀)
	841	承和8	9月朔日京都大雨洪水、…(続日本後紀) 出羽飢饉(続日本後紀)
	848	嘉祥1	8月5日京畿大洪水(続日本紀)
	850	嘉祥3	5月11日京中大雨洪水(文徳実録) 7月24日京都大雨洪水(文徳実録)
	851	任寿1	5月8日京畿大雨洪水(三大実録)
	854	斉衡1	7月27日京都大風雨洪水(文徳実録)
	858	天安2	5月1日大暴風雨いたり、九国二島(西海道11カ国)尽く損害を受けた(日本文徳天皇実録) 5月14日京都陰雨洪水(文徳実録) 5月22日京都大雨洪水汎溢…(文徳実録) 秋加賀洪水、武蔵水滂
	859	貞観1	9月8日京都大風雨
	860	貞観2	9月14日京都大風洪水(三大実録) 9月15日風雨未止、都城東西河洪水(三大実録)
	861	貞観3	7月11日京都大風雨(三大実録)
	862	貞観4	4月2日京都大雨、河川流溢、行路難通(三大実録)
	867	貞観9	5月4日京都大雨洪水、往還難通(三大実録)
	869	貞観11	7月14日肥後国大風雨
	870	貞観12	夏河内洪水、堤防決壊(三大実録)
	871	貞観13	閏8月7日京都大雨洪水…(三大実録)
	872	貞観14	秋大和因幡風雨洪水、(三大実録)
	873	貞観15	8月13日伊勢大風洪水(皇繼年序)
	874	貞観16	8月24日京都大風雨、抜樹発屋…(三大実録)
883	天慶7	9月7日東西京被風水害、尤甚者、…(三大実録)	
886	仁和2	3月27日大風雨水、賑給東西飢民(三大実録) 5月10日京都自七日大雨(三大実録)	
887	仁和3	8月7日自去四日霖雨、(三大実録)	
897	寛平9	8月20日大風雨、鴨水葛河汎溢、人馬不通(三大実録) 6月乃至7月京都霖雨洪水、兩京飢死多(扶桑略紀・大日本史・本朝年代記)	
10世紀	907	延喜7	京都洪水、人多死(本朝年代記)
	909	延喜9	5月19日洪水(日本紀略)、(大日本史) 6月5日大雨涉句不止、京師垣墻皆倒(扶桑略紀)
	910	延喜10	6月京都洪水(皇年代略記)
	914	延喜14	6月京都洪水人多く死す(本朝年代記)

世紀	西暦年	年号	大雨災害
	916	延喜16	5月21日京都大風雨、鴨川洪水(本朝年代記)
	918	延喜18	8月17日京都洪水、淀川大溢、…(日本紀略)
	928	延長6	大和長谷川溢、民家多壊(扶桑略記)(大日本史)
	929	延長7	7月26日京都及諸国大風雨洪水(大日本史) 8月15日京都雨水、損穀稼、人多溺死(扶桑略記)
	938	天慶1	5月26日京都大雨、河溢(日本紀略・大日本史) 6月20日鴨河、民屋多壊(日本紀略・大日本史) 秋、京都大雨、河水溢れ民屋多く壊る(大日本史)
	940	天慶3	この秋風水年穀登らず、人庶大飢(扶桑略記)
	944	天慶7	9月11日大雨河溢(日本紀略)
	945	天慶8	7月27日大風雨洪水(大日本史)
	948	天曆2	この夏早、秋風水、諸国異損多し
	961	応和1	5月29日京師洪水、鴨河決堤(日本紀略)
	962	応和2	5月29日鴨河洪水 8月30日大雨によって大和・近江領国の社寺多く破壊する
	963	応和3	8月19日京師洪水、民舎漂没(日本紀略)
	966	康保3	閏8月9日京都洪水
	968	安和1	5月20日洪水、26日河溢(日本紀略)
	969	安和2	7月22日大風雨(日本紀略)
	979	天元2	6月8日大雨河溢る(日本紀略)
	980	天元3	7月15日大雨洪水東西京屋舎漂流す(日本紀略) 8月朔又洪水(日本紀略)
	988	永延2	8月13日京都及諸国大風洪水(日本紀略・扶桑略記・大日本史)
	991	正暦2	8月28日大風洪水(日本紀略)(外記日記)
	992	正暦3	5月26日東西京洪水(日本紀略) 6月1日洪水(日本紀略) 6月2日大雨洪水(日本紀略)
	998	長徳4	是歳京都大水(分類本朝年代記)
	1000	長保2	8月16日大水、鴨河溢、…(權紀)
11世紀	1003	長保1	6~7月洪水飢饉(山塊紀)(大日本史) 京都大水(日本紀略・扶桑略記)
	1010	寛弘7	7月6日大雨洪水(日本紀略)
	1011	寛弘8	10月24日京都大風洪水(本朝年代記)
	1017	寛仁1	7月霖雨京師洪水悲田院病者三百余人漂流す(佐経記)
	1020	寛仁4	7月22日京都大雨宮殿多く倒れる(大日本史)
	1022	治安2	この歳越中国霖雨大風す、人民多餓死(立川寺年代記)
	1027	万寿4	5月24日京都風雨洪水(日本紀略)、
	1028	長元1	9月2日京都及諸国大風雨洪水、屋舎多倒(大日本史・日本紀略)
	1030	長元3	8月京都洪水(分類本朝年代記)
	1033	長元6	正月乃至7月京都数雨水、田畦多損(左経記・大日本史)
	1034	長元7	8月9日京都大風洪水、社寺民屋倒れ人畜流失
	1046	永承1	5月27日京都洪水堀河洞院不通(扶桑略記)
	1059	康平2	7月12日京都大風洪水官舎民屋皆倒る(日本紀略)
	1069	延久1	9月7日京都大風雨
	1078	承暦2	5月5日京都大雨洪水
	1079	承暦3	6月27日洪水伊勢外院を漂す(扶桑略記)
	1080	承暦4	6月19日洪水(扶桑略記)
	1097	承徳1	8月4日京都及諸国洪水、大山崩太多(分類本朝年代記)
12世紀	1110	天永1	6~7月洪水飢饉(山塊紀) 是歳夏秋之交洪水飢饉
	1118	元永1	夏霖雨河水氾溢人多く溺死す(百鍊鈔) 6月霖雨河水泛溢、人多溺死(大日本史)
	1127	大治2	5月4日大雨霖雨河水氾溢(中右記) 7月19日大風雨河溢(中右記)
	1128	大治3	8月大風雨(百鍊鈔)
	1129	大治4	潤7月霖雨河水氾溢(中右記)
	1130	大治5	霖雨洪水、九月十二日京都大風樹を抜き屋を発く(百鍊鈔)
	1133	長承2	この歳春夏早し、秋霖雨洪水す(日本凶荒史考)
	1134	長承3	是歳大水飢饉(分類本朝年代記) 今年、天下大洪水、京中焼亡、疾瘡大飢饉(帝王編年記)
	1139	保延5	7月京都洪水(和漢合符)
	1143	康治2	5月5日大水(百鍊鈔)
	1145	久安1	6月2日洪水(台記)
	1146	久安2	5月12日京都大洪水(興福寺年代記)
	1150	久安5	2月晦日大雨賀茂川泛溢(台記) この歳風水、諸国飢荒す(本朝世紀)
	1151	仁平1	7月京都大水大風(百鍊鈔)
	1153	仁平3	9月23日京師大風雨樹を折り瓦を飛ばす(台記)
	1160	永暦1	6月22日洪水壤日吉二宮十禪師神殿(百鍊鈔)
	1172	承安2	5月20日長雨で洪水、六波羅の人家が焼失する(年表日本歴史)
	1175	安元1	6月7日長雨で諸国に被害甚大(年表日本歴史)
	1185	文治1	秋より冬諸国風雨洪水穀稼不登飢饉(大日本史)(源平盛衰記)
	1188	文治4	6月5日日鎌倉雷雨、洪水(年表日本歴史)



世紀	西暦年	年号	大雨災害
	1190	建久1	7月17日暴風大雨、自曉更殊太、終日不止、賀茂川、桂川、各以洪水、近年少比類云々(玉葉) 諸国稼穀不登(東鑑・大日本史)
	1191	建久2	8月26日京都洪水(如是院年代記)
13世紀	1201	建仁1	8月11日京都及諸国大雨洪水、屋舎流蕩、人民失糧(分類本朝年代記)
	1214	健保2	8月7日京都洪水、鎌倉亦洪水、新御堂倒(分類本朝年代記)
	1216	健保4	8月28日諸国大風洪水、穀稼損傷、人畜溺死(興福寺略年代記)
	1228	安貞2	7月20日京都大風雨洪水(百鍊鈔・大日本史・皇帝紀抄)
	1230	寛喜2	8月6日関東大水、人多死(東鑑・大日本史) 是歲天下飢饉、人民餓死無算(年代記抄節)
	1242	仁治3	6月3日京都大雨洪水(皇年代略記) 6月17日~18日京都大雨洪水(皇年代略記)
	1244	寛元2	11月3日鎌倉洪水(東鑑)
	1256	康元1	8月6日鎌倉大風水、山崩人死(東鑑・大日本史)
	1258	正嘉2	8月2日京都洪水、人多死(分類本朝年代記)
	1260	文応1	6月朔日鎌倉大風雨、山崩人死(東鑑・大日本史)
	1280	弘安3	5月16日長谷水暴溢、居民漂溺(一代要記・東鑑・大日本史)
	1286	弘安9	6月京都大風雨水(一代要記・大日本史)
	1287	弘安10	5月京都霖雨洪水(一代要記・大日本史)

※以上は三浦幸一郎著「日本の災害史第一巻」(1987)と小鹿島栗著「日本災異志」(思文閣 1973復刻版)を基に筆者が作成。

岸状遺構は長さ100mを超える大規模なものである。これを構築するにはかなりの労働力を必要としたであろう。杭内で出土した須恵器などが、9世紀前半頃のものであることからそれ以前に構築されたものと考えられる。場所場所で築造法が異なるところもあるので、洪水に見舞われ破損する度に、改修されたものと思われる。使用杭材を見ると広葉樹が多く、樹種も雑多で周辺で容易に入手出来たものである。川跡内では堰跡も検出されているので、ある時期の流路では周辺水田に水を取り入れていたのであろう。また護岸遺構を中心に人形や斎串などの木製祭祀具が出上しており、北側第7次調査区での遺構の続き部分でも同様の遺物が出土している。律令期での地方での木製祭祀具による水辺での祓い祭祀を考える上で、興味深い事例と考える。

### ③ 第三面のまとめ

第三面は古墳時代後期から古代前半期の時期の水田跡を検出した。この面で検出した高所部の水田SS410・424間の南北方向に延びる畔と溝は第二面で検出された席田郡の条里地割方向に近いものである。条里制は古代の班田制を支える土地管理システムであり、その起源は一般的には大化の改新(645年)頃とされるが明確でなく、福岡地区での始まりも不明である。当地周辺の地割は太宰府の水城大堤を基準とするものであり、水城は天智天皇三年(665)に築造されたことから、古くてもその時期を遡らないといわれている。SD396から8世紀前半の須恵器坏54が出土していることや、水田SS410・424などの埋砂から7世紀後半から8世紀前半の須恵器が出土しており、上限時期が想定できる。席田郡の条里制地割の開始時期を考える上で一つの手がかりとなろう。第三面検出時に中間層で上面に近い畔を取る水田が確認されており、水田面が複数あった可能性がある。しかし南側低地部で検出された水田SS192や200は条里地割に沿わず、むしろ地形に規制された形態であるので、継続時期に時期差が考えられる。この水田面は東側をSD190で切られているので、量はそれ程多くはないがSD190が6世紀末頃までの須恵器、SX389が7世紀までの須恵器を含むので、特に下層水田はそれ以前となろう。第四面は新しくても5世紀初め以前であり、水田の開始はそれ以後となる。

SX389は堰の可能性もあるが、SD190の水流を確定するための築造された護岸堤防と考えられる、同様の遺構は第二面でも検出されたが、洪水が恒常的に、流路の変更が絶えなかった当時においては、水の管理が大切なことだったのであろう。杭中に7世紀後半の須恵器が少量ではあるが出土しており、構築時期に近いものか。

### ④ 第四面のまとめ

この面は東側の微高地上で検出した集落である。西側低地部では薄く粗砂が堆積し、僅かに畔状

に高まりを持ち、粗砂が入った小溝などもあり、水田があった可能性がある。

集落の時期は弥生時代前期初頭から古墳時代前期前半までの期間である。大きくI期、弥生時代前期初頭から前半まで、II期、中期から古墳時代前期までの二期間に分かれる。I期は突帯文土器の夜白IIbから板付I式併行期の時期が主体で、遺構としては土坑と溝がある。主な遺構としてはSD482・493・507、SK460・462・463・468・488・491・495・500・548・555、SX528などである。溝と土坑が主体で、土坑は廃棄土坑や貯蔵穴SK517などがある。明確な住居跡や建物は確認出来ず、後世の削平で消滅した可能性がある。またこの時期の土器については前節で詳しく論考を加えているので、それを参照にされたい。実年代としてはSK460・488・517について埋土内から出土した炭化物でAMS法とGPC法による放射性炭素年代測定を実施している。その結果によれば年代のピークはSK460・488がBC6-7世紀、SK517がBC7-8世紀にある。

II期は後期後半から古墳時代前期前半が中心となる。この期間の遺構としては掘立柱建物、竪穴住居跡、方形周溝状遺構SD505、溝、土坑、多数の柱穴である。

竪穴住居跡は4棟以上検出した、いずれも平面長方形・方形の住居である。これ以外にも各所で炉跡と思われる焼土面が確認されていたので、確認出来なかった住居があったと思われる。時期としては弥生時代後期から終末期である。SC504は弥生時代後期、SC522は弥生時代後期終末であろうか。掘立柱建物は20棟であるが、建物としてはまとまらなかったが、柱根が残る柱穴がまだ複数あったので、実際にはこれより多くの建物が存在した可能性がある。建物規模は1×2間のものが15棟と多い。1×2間建物は高床倉庫と思われ、沖積地の軟弱地盤で荷重による不同沈下を防ぐための工法として、雀居遺跡や佐賀平野での例のように基礎に礎板を置いていたと思われる。柱穴と礎板の樹種は同一の場合が多く、恐らく同じ原木から作られたものと思われる。資源の有効的利用の結果であろう。台地部では腐蝕して残らないが、柱穴底面に礎板を置いて沈下を防ぐ技法は一般的であるのであろう。建物の時期は弥生時代中期から終末期にかけてであろう。

方形周溝状遺構は当初墳墓の可能性を考えましたが、明確な主体部は確認出来なかった。周溝内から完形のまとまった土器類や2点の鉄斧、ガラス玉が出土している。同種遺構は市内では比恵遺跡第2次調査、蒲田水ヶ元遺跡第Ⅲ地点、有田遺跡群第116調査などでも検出されている。この種の周溝状遺構については片岡宏二氏によって注目され集成されている。氏はこの遺構の性格について1.墓地・墳墓、2.住居施設、3.祭祀遺構説に集約して検討している。本遺構は集落の中心にあり、格別な祭祀遺物はないが、完形が多く場所的にまとまって出土しているので、祭祀遺構的な性格である可能性がある。時期としては弥生時代後期後半頃である。SC522・532はこの遺構に主軸を揃える。溝はSD369と388があるが、SD369はこの面では下限の時期で古墳時代中期初め頃である。SD388は弥生時代後期後半から古墳時代前期前半までの時期で、多量の土器が廃棄されていた。集落に伴うものであろう。

限られた期間内で、また低湿地での調査に余り経験なかったので、十分な調査が行えなかったのが残念であるが、調査で得られた成果は多い。沖積地は一般に遺構・遺物の保存状況が良いので、市内での沖積地調査については今後も充分注意が必要であると考えます。調査・整理にあたっては多くの方々に協力と指導・助言を賜った、末尾ではあるが感謝の意を表します。

#### 参考文献

- 註1 「比恵遺跡-第6次調査・遺構編」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第94集』 1983年  
 註2 「蒲田・水ヶ元遺跡」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第491集』 1996年  
 註3 片岡宏二「周溝状遺構」の検討(その1~4)」『福岡考古』第14~17号 1989・91・94・96年

## 付表 遺物観察表

本表は第Ⅰ面からⅣ面の土器・石器・木器についての観察表である。本表の作成は担当者の他、上方高弘、木藤直子、澤玲子、所一男が主にあたった。

### 凡 例

1. 本表の遺物番号は、遺構面毎の土器・石器・木器についてのそれぞれ通し番号であり、実測図番号・写真番号と共通である。
2. 器種の突帯文土器は夜白式土器を指す。
3. 法量の口径については口縁部の頂部で計測している。
4. 色調については外面部分のみとし、内面などに特色があるものはそれについても記した。色調は客観性を保つため標準土色帖によっている。

Tab.1-1 I 面出土土器・土製品観察表

報告書 番号	Fig.	PL	出土層	出土位置	器種・器形	流量 cm (I)は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他	
						口径	胴径	底形	器高						
1	9		SD305		土師器・坏	(12.8)		7.8	(3.9)	子、巻上げ痕、墨書あり	精良	7.5YR7/4鈍い橙色	普通	底部2/3残存	
2	9		SD316		土師器・小皿	(7.2)		4.8	1.1	子、外底部やや磨減か	精良	2.5Y8/1灰白色	普通	1/6破片	
3	9		SD316		土師器・小皿	9.5		6.8	1.7	回転子、外底部回転へ切り	精良	2.5Y8/2灰白色	良好	完形、	
4	9		SD316		土師器・小皿			8.5		体部ココ子、外底部スリ後子	粗砂粒多く含む	10YR7/3鈍い黄褐色	普通	底部1/2残存	
5	9		SD316		土師器・坏	(15.0)			2.9	やや磨減・子か、外底部板圧痕	精良	10YR7/3鈍い黄褐色	普通	1/8残存	
6	9		SD316		土師器・坏	(14.5)			約4.6	内外面やや磨減・子	精良	2.5Y8/3淡黄色	普通	1/6残存	
7	9	67	SD316		土師器・坏	(14.5)			(2.9)	回転子、外底部回転へ切り後子	精良	10YR8/1灰白色	普通	口縁部1/3弱残存	
8	9		SD316		土師器・坏	15.0			3.4	回転子、内底部ココ子、外底部回転へ切り	精良	2.5Y8/2灰白色 内面やや黒ずむ	普通		
9	9		SD316		土師器・坏	(15.4)			(11.6)	(2.4)	ココ子、外底部スリ後子か	精良	2.5Y8/2灰黄色	普通	口縁部1/8残存
10	9		SD316		土師器・坏	(17.0)			(3.6)	内外面子、外底部回転へ切り後子	精良	2.5Y8/2灰白色	普通	口縁～底部1/5残存	
11	9		SD316		土師器・椀?					外面磨減・子か 外底部回転へ切り・板圧痕	精良	2.5Y8/2灰白色	普通	口縁部1/3残存	
12	9		SD316		土師器・椀	(15.0)			(5.6)	(5.6)	内外面丁寧な回転子、墨付き磨減	精良	2.5Y8/2灰白色	普通	1/3残存
13	9		SD316		土師器・椀	(15.7)			6.2	(4.5)	内外面子	精良	2.5Y8/2灰白色	普通	底部1/3残存
14	9	67	SD322	R-3	土師器・小皿						内外面回転子、外底部回転へ切り後子・板圧痕	精良	10YR8/2灰白色	普通	完形
15	9	67	SD322	上層	土師器・小皿	(9.7)			7.4	1.8	内外面回転子、外底部スリ・板目痕	精良	外・7.5Y8/2灰白色	普通	3/4残存
16	9		SD322	上層	土師器・小皿	(9.8)			7.8	1.4	内外面回転子、外底部回転へ切り・板目痕	精良	10YR7/3鈍い黄褐色	普通	2/5残存
17	9		SD322		土師器・小皿	(9.7)			1.3		内外面子、外底部スリ後子	精良	2.5Y8/2灰白色	良好	1/4残存
18	9	67	SD322	上層	土師器・小皿	(9.9)			7.3	1.65	内外面回転子、外底部回転スリ・板圧痕	精良	2.5YR6/3にぶい橙色	良好	1/2残存
19	9	67	SD322	上層	土師器・小皿	10.0			7	2.2	内外面回転子、外底部回転へ切り	精良	10YR7/3鈍い黄褐色	普通	2/3残存
20	9		SD322	上層	土師器・小皿	(10.6)			(6.4~8.4)	1.6	内外面回転子、外底部回転へ切り後子	精良	10YR8/3淡黄褐色	普通	1/4残存
21	9		SD322	上層	土師器・小皿	(9.6)				(1.65)	内外面子、外底部回転へ切り・板目痕	精良	7.5Y8/2灰白色	普通	完形
22	9	67	SD322	上層	土師器・小皿	(9.6)			6.1~7.7	1.85	内外面回転子、外底部回転へ切り・スリ後子	精良	10YR8/3淡黄褐色	普通	2/3残存
23	9		SD322	上層	土師器・坏	(15.3)					内外面回転子、外底部回転へ切り・板目痕	粗砂粒少量含む	2.5Y8/3淡黄色	普通	1/3残存
24	9	67	SD322	上層	土師器・坏	15.0				3.7	内面丁寧な子、外面回転子、外底部回転へ切り後子	精良、金雲母少量含む	2.5Y8/3鈍い橙色	普通	ほぼ完形
25	9		SD322		土師器・坏	(15.7)				(4.0)	内外面回転子、外底部回転へ切り後子	精良	10YR7/2鈍い黄褐色	普通	口縁部1/3残存
26	9	67	SD322	上層	土師器・坏	(15.4)				(4.1)	内面丁寧な子、外面回転子、外底部回転へ切り後子	精良	7.5Y8/2灰白色	普通	1/3残存
27	9		SD322	上層	土師器・坏	(13.6)				(3.8)	内面丁寧な子、口縁部回転子	精良	10YR7/1灰白色	普通	1/6残存
28	9		SD322	上層	土師器・坏	(14.1)					内外面回転子、外底部回転へ切り後子・巻上げ痕	粗砂を含む	10YR8/2灰白色	普通	1/3残存
29	9	67	SD322	上層	土師器・坏				高台(7.6)		内外面子、細かい貫入、高台スリ、墨付き	精良	5Y8/3淡黄色	やや不良	底部1/3残存
30	9		SD322	上層	土師器・坏	(15.6)				(3.5)	内外面磨減し子か、外底部回転へ切り後子	粗砂を少量含む	5YR8/3淡褐色	普通	1/2弱残存
31	9		SD322	上層	土師器・坏	(15.6)				(3.7)	内外面やや磨減・子か	精良	2.5Y8/2灰白色	普通	口縁部1/6残存
32	9		SD322	上層	土師器・坏	(15.5)					内外面回転子、体部スリ後子か	精良	10YR7/3鈍い黄褐色	普通	口縁部1/6残存
33	9		SD322	上層	土師器・坏	(15.8)					内外面回転子	精良	7.5YR7/2明褐色	良好	1/6残存
34	9		SD322		土師器・椀	(14.8)					内面子、外面子	粗砂わずかに含む	10YR7/2鈍い黄褐色	普通	口縁部1/6残存
35	9		SD322	上層	黒色土器A・椀	(15.1)			(6.6)	(6.3)	内面子で指押さえ痕、口縁から外面子	精良	内2/3黒色	普通	1/2残存
36	10		SD322	上層	黒色土器A・椀	(14.5)					口縁部子、内面子、外面下半子後子	精良	7.5Y8/2灰白色	普通	口縁1/4残存
37	10	67	SD322	上層	黒色土器B・椀	(15.2)			(7.2)	5.8	内外面子、高台指子	精良	10Y3/1オリーブ黒色	普通	1/3残存
38	10	67	SD322	上層	黒色土器B・椀	(15.5)			7.8	5.8	内外面子、高台指子、内底指押さえ痕	精良	10Y3/1オリーブ黒色	普通	1/2残存
39	10		SD322	上層	黒色土器B・椀	(14.2)			7.0	6.2	口縁部子、体部から内底子、高台指子	精良	10Y3/1オリーブ黒色	普通	1/3残存
40	10		SD322	上層	黒色土器B・椀	(14.8)			(6.8)	6.1	内外面子、高台指子	精良	10Y4/1暗灰色	普通	口縁1/4残存
41	10	67	SD322	上層	黒色土器B・椀	(15.4)			6.8	5.6	内外面子、高台指子	精良	N2/黒色	普通	ほぼ完形
42	10		SD322	上層	黒色土器B・椀	(14.3)					内面子、外面丁寧な子	精良	5G2/1緑黒色	普通	口縁部1/4
43	10		SD322	上層	黒色土器B・椀				(6.2)		内面子、外面から高台指子	精良	7.5YR2/2オリーブ黒色	普通	底部1/3残存
44	10		SD322	3区	黒色土器B・椀				(6.5)		内外面子、高台指子	精良	N2/黒色	普通	底部
45	10	67	SD322	上層	瓦器・椀	(14.9)			(6.6)	7.35	内面子、外面上半回転子、高台子	精良	5Y6/2灰判子色	普通	1/3残存
46	10		SD322	上層	瓦器・椀	(14.9)					やや磨減するが子	精良	10YR4/1褐色	普通	口縁1/6残存
47	10		SD322	上層	瓦器・椀	(15.3)					内面子、外面回転子	精良	2.5Y8/3淡黄色	普通	口縁1/3残存
48	10		SD322	上層	白磁・椀				(7.6)		体部から内面施釉、高台露台スリ、墨付き	精良灰白色	5Y6/1淡黄色	普通	底部1/3残存
49	10		SD335		須恵器・坏				(7.8)		内面から高台子、高台内子	粗砂やや含む	N5/灰色	普通	1/3残存
50	10		SD344		土師器・椀				(7.4)		磨減し調整不明	精良	7.5YR7/3にぶい橙色	良好	底部1/3残存
51	14		SE304	上層	土師器・椀				(6.6)		内底やや磨減子か、巻上げ痕、高台底部磨減するが子か	赤褐色粒子を少量含む	5Y8/2灰白色	やや不良	底部2/3残存
52	14		SE304	上層	黒色土器A・椀				(8.0)		内面やや磨減・子か、外面子、高台内回転子後子	精良	内子7 黒色210Y3/1淡黄色	やや不良	底部破片
53	14		SE309		土師器・椀				(7.8)		内底部子、巻上げ痕、外底部子後子	精良	10YR4/2灰黄褐色	普通	高台部破片
54	14	67	SE309		土師器・椀						内外面子、表面荒れ剥落、内底部回転子	精良	5YR6/3鈍い橙色 灰付	普通	ほぼ完形
55	14		SE309	掘り方	土師器・甕						内面子、外面指子、粗い木目直交の平行叩き	粗砂粒多く含む	2.5Y4/1黄灰色	良好	口縁部少破片
56	14		SE311		黒色土器B・椀	(15.8)			5.5		内外面子、工具痕残る	精良	7.5Y4/1灰色	良好	口縁部1/5残存

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	流量 cm (0は復元・残)				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
57	14		SE311		黒色土器B・瓦玉			6.7		底部分・縁辺意圖的に打ち割ったものか	精良	10Y3/1オリーブ黒色	普通	底部破片、瓦玉?
58	14		SE315		土器器・小皿	(9.0)			(0.8)	内外面回転行、外底部へ切り後行、やや磨滅	精良	2.5Y8/2灰白色	普通	1/8残存
59	14		SE315		土器器・小皿	(9.4)			(1.4)	口縁部回転行、内底行、外底調整不明	精良	10YR8/2灰白色	普通	1/4残存
60	14		SE315		土器器・小皿	(8.4)		(7.8)	1.4	内面、底部調整不明、口縁部回転行	良	2.5Y8/2灰白色	良好	1/5残存
61	14	68	SE315		土器器・坏	(5.0)			3.5	内面丁字行、外面ヨコ行、外底部へ切り後行、板圧痕	粗砂粒少量含む	2.5Y8/2灰白色	普通	完形
62	14		SE315		土器器・椀	(14.9)				内外面回転行	精良	10YR7/3鈍い黄褐色	普通	口縁部1/8残存
63	14		SE315		土器器・椀			(6.8)		高合底部やや磨滅行	粗砂粒少量含む	2.5Y8/2灰白色	普通	底部1/3破片
64	14		SE315		土器器・椀			6.3		内外面行	粗砂粒わずかに含む	2.5Y7/3浅黄褐色	普通	底部破片
65	14	67	SE318	井筒底	土器器・椀			(8.2)		内面行、高合部ヨコ行	精良	2.5Y8/2灰白色	普通	底部破片
66	14		SE318	上層	黒色土器A・椀			(6.8)		内外面行、高合内ヨコ行後行	精良	2.5Y7/3浅黄褐色、上面黒化	普通	底部1/3残存
67	14		SE318	井筒上層	無釉陶器・甕					内面回転行、同心円状当具痕残る、外面斜め格子目叩き後行	粗砂粒少量含む	5Y4/1灰色	良好	他に胴部小片高麗時代
68	14	68	SE318	井筒上層	無釉陶器・甕			(26.6)		内面強い回転行、外面斜め格子目叩き後行	粗砂粒少量含む	5Y4/1灰色	良好	底部1/3残存高麗時代
69	14		SE320		土器器・小皿	9.3			1.7	口縁部回転行、外底部へ切り後行、板圧痕	精良	2.5Y8/2灰白色	普通	完形
70	14		SE320		黒色土器B・椀	(14.8)				内面やや磨滅、ヨコ、外面行	粗砂粒少量含む	7.5YR7/1明褐色	普通	口縁部1/10残存
71	14		SE320		黒色土器B・椀			高台(7.0)		やや磨滅、行、か	粗砂粒少量含む	2.5Y3/1黒褐色	普通	底部1/3残存
72	14		SE320		瓦器・小皿	(10.1)				内面ヨコ、口縁外面ヨコ行、体部雑な行	精良、灰白色	10Y4/1暗灰色、内面銀化する燻がひどい	良好	1/4残存
73	14		SE320		白磁・皿					両面施釉、ヨコ行後行、内面沈線あり	精良、灰白色	5Y7/2灰白色	良好	1/4残存
74	14		SE320		白磁・碗	(16.9)				両面施釉、内面軸たれあり、外面に氷入る	精良、灰白色	7.5Y8/2灰白色	良好	口縁部1/8残存
75	14	67	SE320		白磁・碗					両面施釉、内面軸たれあり、外面に氷入る	精良、灰白色	7.5Y8/1灰白色	良好	体部1/6残存
76	14	67	SE409	掘り方	黒色土器A・椀	(14.8)			(5.6)	内面磨滅、ヨコ、外面回転行、回転へ切り	粗砂粒少量含む	7.5Y4/2褐色、赤変あり	普通	1/2弱残存・高合部欠損
77	17		SE334		土器器・小皿	8.6			1.1	行調整だが口縁部歪みひどい、外底部回転へ切り後行	精良	2.5Y8/3浅黄褐色	普通	3/4残存
78	17		SE334		土器器・坏	(14.5)				磨滅が著しいが行、か	粗砂粒を含む	2.5Y8/2灰白色	やや不良	口縁部1/3残存
79	17	68	SE334	井筒内	土器器・坏	(15.5)			3.4	内面丁字行、口縁部ヨコ行、外面へヨコ行後行	精良	10YR8/3浅黄褐色	普通	1/4残存
80	17		SE334		黒色土器B・椀			高台(6.1)		内外面磨滅がひどい、内面ヨコ、外面行、高台貼り付けで雑な仕上げ	粗砂粒少量含む	10Y4.5/1暗灰色	やや不良	底部1/2残存
81	17	68	SE334		黒色土器A・椀	15.7		6.8	5.3	内外面行、口縁部ヨコ、体部下半指圧痕	精良	内10Y3/1オリーブ黒	普通	ほぼ完形
82	17		SE334		黒色土器A・椀			(6.6)		内面、高台行、高合内回転行	粗砂粒少量含む	内10Y3.5/1暗灰色	普通	底部1/2残存
83	17	68	SE334		瓦器・椀	16.7		7.0	4.8~6.4	内面丁字行、外面回転行、でヨコ行する	精良	7.5Y7/1灰白色	良好	完形
84	17	68	SE334		瓦器・椀	16.7		6.9	5.3	内外面行、後ヨコ、外底行、板圧痕	粗砂粒少量含む	10Y3/1オリーブ黒	良好	歪むが完形
85	17		SE334		瓦器椀	(14.0)				やや磨滅、丁寧な行、か	粗砂粒少量含む	10Y5/1灰色	やや不良	口縁部1/3残存
86	17	68	SE334	井筒内	瓦器・椀	15.8		6.4	5.3	内面不整方向のヨコ、外面行、指おさえ痕	精良	N3/暗灰色	良好	口縁一部欠損
87	17	68	SE334		白磁・皿	(10.2)		(3.8)	(2.6)	両面施釉、外底部腫脹、外面やや汚れる	精良、灰白色	2.5GY8/1灰白色釉	良好	1/4残存
88	17	68	SE334		白磁・碗			(5.7~5.8)		両面施釉、外底部ヨコ行、腫脹、内底砂粒付着	精良、灰白色	2.5GY8/1灰白色釉	良好	底部破片
89	21		SK302		黒色土器A・椀			(6.0)		内面やや磨滅、ヨコ、外面回転行、高合部行、墨付き磨滅	精良	5Y8/2灰白色	普通	底部1/2弱残存
90	21		SK314		土器器・小皿	(9.1)		(7.8)	1.3	内外面回転行、外底部回転へ切り、板圧痕	精良	10YR8/2灰白色	普通	1/2弱残存
91	21		SK314		土器器・皿	(16.2)		(13.0)	1.4	内外面回転行、外底部回転へ切り	精良	7.5YR6/4鈍い褐色	普通	1/6残存
92	21		SK314		土器器・坏	(14.9)			(2.4)	内外面回転行、外底部回転へ切り後行	粗砂粒少量含む	2.5Y5/1黄灰色	普通	1/6残存
93	21	69	SK314		土器器・坏	(14.9)		(11.8)	3.1	内外面回転行、内底行、外底部回転へ切り	粗砂粒少量含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	1/2弱残存、内面入り付着
94	21	69	SK314		土器器・坏	(14.4)			(3.6)	内面丁寧な行、口縁部回転行、外底部回転へ切り後行	精良	10YR8/2灰白色	良好	口縁部1/3残存
95	21	69	SK314		土器器・坏	(15.8)			3.7	内面丁寧な行、体部上半回転行、下半行、工具痕残る	精良	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	1/2弱残存
96	21		SK314		土器器・坏					内面丁寧な行、外面回転行、外底部回転へ切り後行	精良	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	1/4残存
97	21		SK314		土器器・坏	(17.8)		(3.8位)		内外面回転行、内底丁寧な行、外底部回転へ切り後行	精良	2.5Y7/2灰黄色	良好	口縁部1/4破片
98	21	69	SK314		土器器・椀	(15.4)		7.6	5.6	内外面回転行、高合底部行	精良	10YR8/2灰白色	普通	底部と口縁部
99	21		SK314		土器器・椀			(6.8)		内面丁寧な行、高合底部行	精良	2.5Y8/2灰白色	普通	高台1/2残存
100	21		SK-319		無文土器?・甕					磨滅し調整不明	粗砂粒を多く含む	2.5Y5/2暗灰黄色	やや不良	口縁部細片
101	21		SK329		土器器・小皿	(9.6)		(7.6)	1.1	磨滅し調整不明	精良	2.5YR8/2灰白色	普通	1/3残存
102	21	69	SK331		土器器・小皿	(9.8)		(7.7)	(1.4)	内面不整行、口縁部回転行、外底部へ切り後行、板圧痕	精良	2.5Y8/3浅黄褐色	普通	1/2残存
103	21		SK331		土器器・小皿	(10.9)		(6.2)	1.3	内面行、口縁部回転行、外底部回転へ切り後行	精良・赤褐色粒子を少量含む	10YR8/2灰白色	良好	1/3残存
104	21	69	SK332		土器器・小皿	9.8~10.0			1.4	内面行、口縁部回転行、外底部回転へ切り後行、板圧痕	粗砂粒を少量含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	完形
105	21		SK331		黒色土器B・椀			7.6		体部ヨコ、高台行、高合内回転行後行、高合内にヨコ記号	精良・10Y4/1灰色	10Y3/1オリーブ黒色	良好	底部片
106	21		SK336		瓦玉(土製円盤)	径5.7~5.5			厚0.9	やや磨滅、行、欠損面を擦って調整	精良、淡黄色	10Y3/1オリーブ黒色	普通	黒色土器A椀底部片

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	流量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
107	21		SK336		瓦玉(土製円盤)	径7.2~ 7.0				意図的な打欠き	精良	10Y2/1黒色	良好	完形
108	21		SK336		黒色土器A・椀			(8.8)		高台付で内面は「スリ」後行か	細砂を少量含む	7.5YR8/3浅黄褐色	普通	底部1/2弱残存
109	23		SK317	上層	土器器・小皿	(9.2)		3.4	0.9	内面付、口縁部3コテ、外底部回転後行	精良	10YR7/3鈍い黄褐色	普通	1/6残存
110	23		SK317		土器器・小皿	(9.8)		(8.0)	1.1	体部は付、外底へ切り	精良	10YR8/2灰白色	普通	1/6残存
111	23		SK329		土器器・小皿	(9.2)		(7.0)	1.1	体部回転付、内底付、外底へ切り	精良	10YR8/1灰白色	普通	1/5残存
112	23		SK317		土器器・小皿	8.9		7.0	0.7	内面付、口縁部回転付、外底部へ切り後行、板圧痕	精良	7.5Y8/2灰白色	良好	1/3残存
113	23	69	SK317		土器器・小皿	9.5		7.9	1.0	内面付、口縁部回転付、外底部へ切り、板圧痕	精良	2.5Y8/2灰白色	良好	3/4残存
114	23		SK317	下層	土器器・小皿	(9.5)			1.0	内面付、口縁部回転付、外底部へ切り、板圧痕	細砂少量含む	2.5Y8/2灰白色	良好	2/3残存
115	23		SK317		土器器・小皿	(8.8)		(6.0)	1.4	口縁・体部回転付、内底付、外底回転後行	精良	7.5YR1/8灰白色	良好	1/2弱残存
116	23	69	SK317		土器器・小皿	9.9		7.9	1.25	付で底部へ切り、板圧痕残る	精良	2.5YR7・6褐色	普通	底部1/2残存
117	23	69	SK317		土器器・小皿	9.5		8.0	1.25	体部回転付、外底へ切り、板圧痕	砂粒少量含む	10YR8/2灰白色	普通	1/2残存
118	23		SK317		土器器・小皿	(8.9)		(7.6)	1.4	体部回転付、内底付、外底へ切り	精良	2.5YR8/2灰白色	普通	4/5残存
119	23		SK317		土器器・小皿	(9.1)		(6.6)	1.3	内外面やや磨減・付、内面粘土巻上げ痕、底部へ切り後行か	細砂粒少量含む	2.5Y8/2灰白色	普通	1/2残存
120	23	69	SK317		土器器・小皿	9.6		7.1	1.3	内面付、口縁部回転付、外底部へ切り後行、板圧痕	精良	2.5Y8/2灰白色	良好	1/3弱残存
121	23		SK317		土器器・小皿	(9.5)		(7.4)	1.3	体部回転付、内底付、外底へ切り	精良	10YR8/2灰白色	普通	4/5残存、ス付着
122	23		SK317		土器器・小皿	(8.9)		(7.6)	1.4	内面付、口縁部回転付、外底部へ切り	精良	2.5Y8/2灰白色	普通	1/5残存
123	23	69	SK317	上層	土器器・小皿	9.4		7.7	1.8	内面付、外面回転付、外底部やや磨減、スリ後付、板圧痕	精良	10Y4/1暗灰色	良好	1/2残存
124	23		SK317		土器器・小皿	10.0		7.4	1.6	内面付、口縁部回転付、外底部へ切り後行、巻上げ痕、板圧痕	精良	2.5Y8/2灰白色	良好	口縁部一部欠
125	23	69	SK317	上層	土器器・小皿	9.8			1.6	内面付、口縁部回転付、外底部へ切り、板圧痕	精良	10YR7/3鈍い黄褐色	普通	3/4残存
126	23		SK317		土器器・小皿	9.8		7.1	1.55	内面付、口縁部回転付、外底部へ切り、巻上げ痕	精良	2.5Y8/2灰白色	良好	2/3残存
127	23	69	SK317	上層	土器器・小皿	(9.8)			1.7	口縁部回転付、外底部回転後行、板痕	精良	外・2.5Y7/1灰白色	良好	1/3残存
128	23		SK317		土器器・小皿	(9.9)		(5.6)	1.7	口縁・体部回転付、内底付、外底へ切り	精良	10YR8/1灰白色	普通	1/3残存
129	23		SK317		土器器・小皿	9.6		7.0	1.6	内面から体外面回転付、外底部へ切り後行、板圧痕	砂粒少量含む	2.5Y8/2灰白色	普通	1/5残存
130	23		SK317	上層	土器器・小皿	9.6		7.4	1.5	内面不整形、口縁部回転付、外底部へ切り後行	精良	5Y8/2灰白色	良好	1/2残存
131	23		SK317		土器器・小皿	8.9		6.5	1.4	内面付、口縁部回転付、外底部へ切り後行、巻上げ痕、わずかに板圧痕	精良	2.5Y8/2灰白色	良好	口縁1/4残存
132	23	69	SK317	上層	土器器・小皿	9.0		6.6	1.4	内面付、口縁部回転付、外底部へ切り後行、粘土巻上げ痕	精良	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	1/2残存
133	23	69	SK317		土器器・杯	(14.0)			3.0	内面丁寧なシキ、口縁部回転付、外底部へ切り後行、板圧痕	精良	2.5Y7/2灰黄色	良好	1/2強残存
134	23	69	SK317		土器器・杯	(14.8)		(3.3)		内面付で、口縁部回転付、外底部へ切り後行、板目痕	精良	7.5YR7/2明褐色	普通	1/3残存
135	23		SK317	下層	土器器・杯	(14.2)			2.4	内外面回転付、外底部へ切り後行	粗砂粒少量含む	2.5Y6/2灰黄色	普通	1/2弱残存
136	23		SK317		土器器・杯	(14.4)			2.7	内面丁寧なシキ、口縁部回転付、外底部へ切り後行	精良	2.5Y7/2灰黄色	良好	口縁部1/6残存
137	23		SK317		土器器・杯	(14.9)			2.9	内面丁寧なシキ、口縁部回転付、外底部へ切り後行	砂粒を多く含む	2.5Y6/2灰黄色	良好	1/6残存
138	23		SK317		土器器・杯	(16.1)			2.8	内面丁寧なシキ、回転付、外底部へ切り後行	精良	10YR6/2灰黄褐色	良好	1/4残存
139	23		SK-317	上層	土器器・杯	(15.0)		(10.2)	(2.5)	内外面付、口縁部3コテ	砂粒少量含む	2.5Y7/2灰黄色	普通	1/3残存
140	23		SK317	上層	土器器・杯	(16.3)				内面丁寧なシキかシキ、体部上半回転付、体部下半付、外底部へ切り後行	砂粒少量含む	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	1/6残存
141	23		SK317	上層	土器器・杯	16.7				内面丁寧なシキ、外面磨減するがスリ後行、表面丹塗りか化粧仕上げか	細砂粒少量含む	7.5YR8/3浅黄色	やや不良	1/5残存
142	23		SK317	上層	土器器・杯	(16.2)		(9.6)	(3.7)	内面丁寧なシキか付、体部上半コテ、下半付、外底部回転後行	砂粒少量含む	7.5YR7/3鈍い褐色	普通	1/4残存
143	23	69	SK317		土器器・杯	14.8			3.8	内面丁寧なシキ、口縁部回転付、外底部へ切り後行、板圧痕	粗砂粒少量含む	2.5Y7/2灰黄色	良好	1/6残存
144	23		SK317		土器器・杯	(15.8)			3.3	口縁部回転付、体部指おさえか、内底部粘土丁寧な付、外底部回転後行	精良・灰白色	2.5Y7/2灰黄色	良好	完形
145	23		SK317		土器器・杯	(15.1)			(3.3)	内面付と丁寧なシキ、外面回転付、外底部へ切り後行、板圧痕・工具痕あり	精良・浅黄色	2.5Y7/2灰黄色	良好	1/3残存
146	23		SK317		土器器・杯	(15.1)			(3.7)	内面丁寧な付、口縁部回転付、外底部へ切り後行、板圧痕	粗砂粒少量含む	2.5Y5/1黄灰色	良好	1/3残存
147	23		SK317		土器器・杯	(15.2)			3.6	内面丁寧な付、体部上半回転付、外底部へ切り後行	砂粒を少量含む	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	1/3残存
148	23	69	SK317		土器器・杯	(15.3)			3.8	内面丁寧なシキ、口縁部回転付、外底部へ切り後行、板圧痕かすかに残る	精良	2.5Y8/3淡黄色	普通	1/3残存
149	23		SK317		土器器・杯	(15.2)			3.7	内面丁寧なシキか付、口縁部回転付、外底部へ切り後行、板圧痕	砂粒を少量含む	2.5Y8/2灰白色	良好	1/2弱残存

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	流量 cm (0は復元・残)				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他	
						口径	胴径	底形	器高						
150	23	69	SK317		土師器・坏	(15.9)			(3.4)	内面丁寧なナリ、口縁部コナ デ、外底部へ切り後丁寧な ナリ、板圧痕	精良、淡黄色	2.5Y8/3淡黄色	良好	1/3残存	
151	23	69	SK317		土師器・坏	15.1			3.9	内面丁寧なナリ、口縁部回転コ ナリ、外底部回転へ切り後ナリ	精良	2.5Y8/2灰白色	良好	1/2残存	
152	23		SK317		土師器・坏	(16.0)				内面丁寧なナリ、口縁部回 転ナリ、外底部へ切り後ナリ	細砂粒少量含む	2.5Y8/2灰白色	良好	底部一部欠損	
153	23		SK317		土師器・坏	(16.1)			(4.3)	内面丁寧なナリ、口縁部回 転ナリ、外底部へ切り後ナリ	細砂粒少量含む	10YR6/2灰黄褐	良好	1/4残存	
154	23		SK317		土師器・坏	(15.2)			3.7	内面丁寧なナリ、口縁部回 転ナリ、体部から外底へ切り後ナリ、 板圧痕あり	精良	10YR7/2鈍い黄褐色	普通	1/4残存	
155	23	69	SK317		土師器・坏	(14.6)			(4.3)	内面ナリ、口縁部回転ナリ、外 底部へ切り後ナリ	精良	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	1/3残存	
156	23		SK317		土師器・坏	(15.2)			(3.9)	内面ナリ、口縁部で指押さ え痕残る	細砂少量含む	7.5YR7-3にぶい褐色	良好	1/6残存	
157	23		SK317		土師器・坏	(15.2)			3.9	内面ナリ、口縁部で指押さ え痕残る	精良	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	1/6残存	
158	23		SK317		土師器・坏	(15.0)			(3.9)	内面丁寧なナリ、口縁部コナ デ、外底部へ切り後ナリ、板圧 痕	精良	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	1/6残存	
159	23	69	SK317		土師器・坏	(14.8)			(3.5)	内面丁寧なナリ、口縁部回 転ナリ、外底部へ切り後ナリ、 板圧痕・指おさえ痕残る	精良	7.5YR7/2明褐色・所々黒化する	良好	1/3強残存	
160	23	69	SK317		土師器・坏	15.1			3.9	口縁外面回転ナリ、内面、体部 やや磨滅、内底丁寧なナリ、外 底部回転切り後ナリ	粗砂粒やや多く含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	1/2弱残存	
161	23		SK-317	上層	土師器・坏	(15.4)			(3.8)	内面丁寧なナリ、体部上半回転 ナリ、下半へ切り後コナリ	精良	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	1/2強残存	
162	23	69	SK317		土師器・坏	(15.1)			3.9	内面丁寧なナリ、口縁部回 転ナリ、外底部へ切り後ナリ	精良	10YR8/3淡黄褐色	良好	口縁部1/6残存	
163	24		SK317	上層	土師器・椀	(14.8)			6.2	内面ナリ、体部上半回転ナリ、 体部下半へ切り後ナリ	精良	10YR8/2灰白色	普通	1/2強残存	
164	24	70	SK317	土層	土師器・椀				6.4	内面丁寧なナリ、外面ナリ コナリ、量付き磨滅が激し い、高台底部ナリ	精良	7.5Y8/2灰白色	良好	1/6残存	
165	24	70	SK317		土師器・椀	(15.8)			5.6	内外面ナリ、内面暗文風ミナ リ	砂粒多く含む	2.5Y8/3淡黄色	普通	体・底部1/2残存	
166	24		SK317		土師器・椀	(16.0)				内面丁寧なナリ、外面指おさ え工具痕か	砂粒多く含む	2.5Y8/2灰白色	普通	1/6残存	
167	24		SK317	上面	土師器・椀	(16.0)				内面ナリ、口縁部と外面回 転ナリ、指圧痕	砂粒少量含む	10YR6/3鈍い黄褐色	普通	口縁部1/4残存	
168	24	70	SK317	上層	土師器・椀	(15.1)		(7.8)	(5.7)	内面コナリ、口縁部回 転ナリ、体部上半ナリ、 下半回転ナリ	精良	10YR6/3鈍い黄褐色	良好	口縁部1/6残存	
169	24	70	SK317		土師器・椀	15.2				やや磨滅、内面ナリ、体部 丁寧なナリ、高台へ切り後ナリ	細砂粒少量含む	10YR8/3淡黄褐色	良好	高台部1/2残存	
170	24	70	SK317		土師器・椀	(15.9)			6.5	内面から体部上半丁寧なナリ、 下半へ切り、高台はナリ、高台 内同心円状にナリ	砂粒含む	7.5Y8/2灰白色	良好	1/2弱残存	
171	24		SK-317	上層	土師器・椀	(16.5)			(6.0)	約5.0	内面やや磨滅、口縁部、 体部上半コナリ、体部下半 コナリ	精良	2.5Y7/2灰黄色	良好	1/2残存
172	24	70	SK317		黒色土器A?・椀	(15.6)			6.4	6.3	外面上半丁寧なナリ、下半へ 切り、内面ナリ、体部上半 ナリ、高台回転ナリ	精良	内5YR2/1黒褐色	普通	口縁部1/6残存
173	24	70	SK317	上層	黒色土器A・椀	(15.8)			(6.4)	6.0	内外面ナリ、高台ナリ、 高台内ナリ	精良	内10Y2/1黒色	良好	1/4残存
174	24		SK317	上層	黒色土器A・椀	(15.8)			(6.2)	(5.2)	内面磨滅するがナリ、口縁 部コナリ、外面ナリ、指お さえ痕	精良	2.5Y8/3淡黄色	普通	1/3残存
175	24		SK317		黒色土器A・椀	(15.2)					内面磨滅するがナリ、外面 上半コナリ、下半丁寧な ナリ	粗砂粒少量含む	内10Y3/1判-7 黒色	普通	1/6残存
176	24		SK317		黒色土器A・椀	(15.2)					内面やや磨滅、口縁部、 体部上半コナリ、体部下半 へ切り後ナリ	粗砂粒少量含む	内10Y3/1判-7 黒色	普通	1/4残存
177	24		SK317		黒色土器A・椀	(14.7)					内面やや磨滅、口縁部、 体部上半回転ナリ、下半へ 切り後ナリ	精良	内10Y3/1判-7 黒色	普通	口縁部1/6残存
178	24		SK317		黒色土器A・椀				6.8		内面ナリ、高台ナリ	精良	内10Y2/1黒色	良好	口縁部1/5残存
179	24		SK317	上層	黒色土器A・椀				高台 (6.4)		内面やや磨滅、口縁部、 外面ナリ、高台内ナリ	粗砂粒少量含む	内10Y3/1判-7 黒色	普通	底部1/3残存
180	24		SK317		黒色土器B・坏か 椀	(17.8)					磨滅し磨滅不明、外面上半 ナリ、下半はナリ	精良	10Y2/1黒色	良好	底部2/3残存
181	24	70	SK317		黒色土器B・椀	(14.3)			6.6	5.8	内面ナリ、外面やや磨滅、 へ切り後ナリ、高台ナリ	精良、灰色	内10Y3/1判-7 黒色	普通	1/4残存
182	24	70	SK317		黒色土器B・椀	(15.7)			6.3~6.5	5.9	内外面やや磨滅、口縁部、 高台底部ナリ	砂粒をやや含む	10Y3/1黒色	普通	1/3残存
183	24		SK317		黒色土器B・椀	(16.2)					内外面ナリ、外面上半丁寧な ナリ、下半指押さえ痕	砂粒わずかに含む	内10Y3/1判-7 黒色	普通	1/3残存
184	24		SK317		黒色土器B・椀				6.4		内面丁寧なナリ、外面もナリ 高台部コナリ	精良	10Y2/1黒色	良好	1/3残存・高台部 欠損
185	24		SK317		黒色土器B・椀	(15.7)					内面と外面下半やや磨滅で ナリ、外面上半回転ナリ	精良	内10Y3/1判-7 黒色、炭素付着	普通	底部破片
186	24		SK317		黒色土器B・椀				6.0		内外面ナリ、炭素が付着、高台 部ナリ	粗砂わずかに混	10YR2/1黒色	普通	底部1/3残存
187	24	70	SK317		黒色土器B・椀				6.8~7.0		内面ナリ、外面へ切り後ナリ、 高台部ナリ	精良	10Y3/1オリーブ黒色、銀化	普通	高台部1/2残存
188	24		SK317		黒色土器A椀				7.5		磨滅するが内面ナリ、高台は ナリ	粗砂粒少量含む	7.5YR7/3鈍い褐色	普通	底部破片
189	24		SK317	上層	土師器?・椀						内面ナリ、高台ナリ、縁打 ち割りか	精良	2.5Y7/2灰黄色	普通	底部片
190	24		SK317	下層	黒色土器B椀				6.9		内面磨滅、口縁部、高台外ナリ、 高台内回転ナリ、周縁は 打ち割りか	粗砂少量含む	10Y4/1黒灰色	普通	底部(瓦玉?)
191	24		SK317		瓦玉?				6.7		内面丁寧なナリ、高台ナリ	精良	10Y3/1判-7 黒色	普通	底部
192	24		SK-317	上層	白磁・皿	(9.4)					ナリ後両施釉	精良、灰白色	5GY8/1灰白色	良好	黒色土器B底部
193	24		SK-317	上層	白磁・碗						両面ナリ後施釉	精良、灰白色	7.5Y7/1灰白色	良好	口縁1/3片
194	24		SK-317	上層	白磁・碗						細片で全体復元不明、両面施 釉	精良、灰白色	2.5Y7/2灰黄色	やや不良	口縁部片
195	24		SK317	上層	白磁・碗						両面施釉、玉縁部ナリ	精良、灰白色	7.5Y7/1灰白色	普通	口縁部小片

報告書番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
196	24		SK317	上層	白磁・碗					両面施釉、	精良、灰白色	5Y7/2灰白色	良好	口縁部小片
197	24		SK317	上層	白磁・碗					両面がスリで施釉、外面にホム少量入る	精良、灰白色	7.5Y8/2灰白色釉	良好	口縁部細片
198	24	70	SK317	上層	白磁・碗			(7.2)		内外面細かい貫入、外面にホム入る、高台がスリ後刈	精良、灰白色	2.5Y8/1灰白色	やや不良	口縁部細片
199	24		SK317	上層	白磁・碗			(6.0)		内面施釉、外面がスリ・工具痕、高台がスリ後刈	精良、灰白色	5Y7/1灰白色	やや不良	底部1/4残存
200	25		SE315		須恵器・甕					内面行で当て具痕、外面平行タタキ	粗砂粒含む	10YR6/1灰色、抄-7' 灰色釉	やや不良	頸部1/3強残存
201	25	70	SK317		須恵器・甕			17.2~17.7	(16.8)	内面行、当て具痕・指圧痕で凹凸が激しく粘土接合痕残る、斜めの平行叩き・工具行、外底丁寧なスリ・粘土痕付着	粗砂粒を含む	10YR6/1灰色・外面自然釉の抄-7' 灰色釉	良好	重ね焼き又は焼き台の破片あり 頸部200と同一か
202	28		SP01		土師器・椀			(7.1)		内面がスリ、高台行	砂粒少量含む	2.5Y8/2灰白色	普通	底部残存
203	28		SP02		土師器・小皿	(9.8)		(6.8)	1.2	内外面ヨコガタ行、外底回転ハチ切行	砂粒を含む	10YR8/2灰白色	普通	底部破片
204	28		SP02		黒色土器B・椀	(15.4)				口縁部内面細かい貫入、外面ミがキ	精良	10Y3/1抄-7' 黒色	普通	1/8残存
205	28	70	SP03		土師器・小皿	(10.1)		(8.0)	(1.3)	口縁部回転行、外底部磨滅し調整不明	細砂粒を含む	7.5YR7/3鈍い橙黄色	普通	口縁部1/6残存
206	28	70	遺構面		土師器・小皿	9.6		7.3	1.4	口縁部回転行、内底部行、外底部ハチ切行	砂粒少量含む	2.5Y8/2灰白色	良好	1/7残存
207	28		包含層		土師器・小皿	(7.9)			(1.1)	内外面磨滅し調整不明	精良	10YR8/2灰白色	やや不良	完形
208	28		包含層		土師器・小皿	(9.8)		(6.7)	1.35	口縁部回転行、内面行、外底部ハチ切行	精良	10YR8/2灰白色	良好	1/6残存
209	28		包含層		土師器・小皿	(9.9)		(5.1)	1.3	口縁部回転行、体部と内底部行、指おさえ痕、外底ハチ切行	精良	2.5Y8/2灰白色	普通	1/3残存
210	28		包含層		土師器・小皿	(9.2)		(7.2)	1.0	磨滅するが、口縁部行、外底部ハチ切行	精良	5YR8/4淡橙黄色、二次的被熱か	普通	口縁から底部1/4残存
211	28		包含層		土師器・小皿	(9.9)			1.3	口縁部回転行、内底に工具痕か、外底回転ハチ切行	砂粒少量含む	2.5Y8/2灰白色	普通	1/4残存
212	28		遺構面		土師器・杯	(13.9)		(5.0)	(3.7)	内面行、口縁部ヨコガタ行、外底部がスリ後刈	精良	10YR7/2鈍い黄褐色	普通	1/2残存
213	28	70	遺構面		土師器・杯	(14.5)			3.85	内外面行、内面赤色顔料がハチ状に残る、外底部ハチ切行後刈	精良	10YR8/2灰白色	良好	1/3残存
214	28		包含層		土師器・杯	(14.9)			4.8	磨滅する、内面ミがキ、口縁部から外面行	砂粒少量含む	2.5Y8/2灰白色	やや不良	口縁部一部欠損
215	28		遺構面		土師器・椀	15.8		6.3	5.8	内面行後刈、口縁部回転行、外面行	精良	2.5Y7/1~7/2灰白色	普通	1/6残存
216	28		包含層		土師器・椀	(17.2)				内面行か工具痕残る、口縁部ヨコガタ、外面がスリ後刈	粗砂粒を含む	2.5Y8/2灰白色	普通	1/8残存
217	28		包含層		黒色土器A・椀			(6.3)		全体行	精良	10Y3.5/1抄-7' 黒色	普通	口縁部1/5残存
218	28		包含層		黒色土器A・椀			(9.6)		内外面調整不明、高台部面取り	粗砂粒少量含む	内2.5GY3.5/1暗抄-7' 灰色	やや不良	高台1/2残存
219	28		包含層		黒色土器A・杯			(5.8)		内外面調整不明、高台部ヨコガタ・接合痕残る	細砂多く含む	内10Y3.5/1抄-7' 黒	やや不良	底部1/4残存
220	28		包含層		黒色土器B・椀			(6.2)		内面ハチ切、高台行、高台内がスリ後刈	精良	10Y3/1抄-7' 黒色	普通	底部1/2残存
221	28		遺構面		越州窯系青磁・碗			(8.0)		スリ後回転行、体部から内面施釉	精良	2.5YR5/4鈍い赤褐色、5YR6/3オリブ黄釉	良好	底部1/2残存
222	28		包含層		越州窯系青磁・碗			(4.9)		スリで施釉、量付き軸掻き取り、内底目痕	精良、灰白色	7.5Y5/2灰オリブ	良好	底部1/8残存
223	28		包含層		白磁・碗					両面施釉	精良、灰白色	2.5GY8/1灰白色	良好	底部1/2残存
224	28		包含層		白磁・碗					両面施釉	精良、灰白色	7.5GY8/1明緑灰色釉	良好	口縁部小片
225	28		包含層		白磁・碗					両面施釉	精良、灰白色	2.5GY8/1灰白色釉	良好	口縁部小片
226	28		包含層		白磁・碗					両面施釉、内側に細かいホムが特に入る	精良、灰白色	5Y8/2灰白色釉	良好	口縁部小片
227	28		包含層		白磁~青白磁・碗	(12.9)				両面施釉	精良、白色	N8/1少し青味がかかった灰白色	良好	口縁部小片
228	28		包含層		青白磁碗か			(6.1)		両面施釉、高台外~量付き輪ハチとり、高台内磨胎	精良	7.5GY8/1明緑灰色~7.5Y8/1灰白色	良好	口縁部細片
229	28		遺構面		土師器・高杯	(15.3)				外面磨滅ひどい、行	細砂・赤褐色粒子多く含む	7.5YR7/4鈍い橙黄色	普通	底部1/2残存
230	28		遺構面		ミナト土器・鉢	7.0位か			(6.6)	外面やや磨滅、指おさえ痕仕上げか	粗砂粒多く含む	2.5Y5/2暗灰黄色	普通	坏部1/4残存
231	28		遺構面		土師器・甕	(14.2)				口縁部行、外面行で目目、接合帯の痕跡あり、部分的に赤味を帯びる	赤褐色粒子少量含む	7.5YR7/2明褐灰色	普通	1/2強残存

Tab.1-2 I面出土石製品観察表

報告書番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量cm ( )は残			石材	色調	調整・備考
						長	幅	厚			
S1	25	71	SK317	上層	棒状の鎌か?	8.6	3.8	2.4	滑石	N5/銀灰色	工具によるスリとケマ
S2	25	71	SK317		石錘転用の小型鎌	直径6.7~7.0		高2.6	滑石	10YR8/1灰白色	外面ケスリ仕上げで、ス厚く付着
S3	25		SK317		石錘転用品				滑石	10G3/1暗緑灰色	体部片を再加工する
S4	25		SK317		石錘片	(16)	(6)	(1.9~2.4)	滑石	7.5GY2/1緑黒色	外面は工具によるスリ、内面はスリ後ケマ、ス付着
S5	25	71	SD322	上層	磁石	14.4	10.4	2.2~3.3	砂岩	7.5Y6/1灰色	上・底面砥面、使用痕あり

Tab.1-3 I面出土木製品観察表

報告書番号	Fig.	PL	出土遺構	器種	法量cm ( )は残・復元			樹種	木取り	調整・備考		
					長	幅	厚					
W1	13	71	SE315	井筒(曲物側板)			高26.2	0.4	(38.8)	(針葉樹)	椀皮綴、内面には刃物によるケマが全体に入る	
W2	13	71	SE320	井筒(曲物側板)					(21.5)	(43.3)	(針葉樹)	内面0.5~3cm間隔の切り込み
W3	13	71	SE339-R-1	井筒(曲物側板)				高25	内径 約46	モミ属	内面、縦~やや斜め方向のハチ線が入る	
W4	15		SE304	井戸杵材(杭)		80.2			3.2~4.5	シキミ	芯持材	先端部のみ加工
W5	15		SE304	井戸杵材(杭)		(56.3)			4.6~5.6	シキミ	芯持材	先端部のみ加工
W6	15		SE304	井戸杵材(杭)		(65.5)			4.0~4.3	キブシ	芯持材	先端部加工
W7	15		SE304	井戸杵材(杭)		54.2			3.4~3.8	キブシ	芯持材	先端部加工



報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	器種	法量cm()は残・復元				樹種	木取り	調整・備考
					長	幅	厚	径			
W8	15	72	SE306	井戸枠材	(26.3)	(19.4)	2~2.2		モミ属		方形のホゾ孔1箇所残る、表面に工具による削り痕
W9	15		SE306	井戸枠材	(46.0)			4.6~5.2	(広葉樹)	芯持材	端部を両面から平坦に削る
W10	15		SE306	井戸枠材	(36.5)			5.4~5.8	(広葉樹)	芯持材	建築材転用で接合の為の欠き込みあり
W11	15		SE306	井戸枠支柱?	(40.0)	4.0	1.8		スギ	横木取・榫目 辺材	削材
W12	15		SE306	井戸枠支柱?	(39.3)			2.75~3.0	アワブキ属		小枝を利用先端部を削る、曲がり激しい
W13	15		SE306	井戸枠支柱?	(37.9)	4.9	3.7		スギ	横木取・榫目 辺材	
W14	15		SE306	井戸枠支柱?	(31.4)	3.1	1.7		(針葉樹)	横木取・榫目 辺材	削材
W15	15		SE306	井戸枠支柱?	(37.95)	4.5	3.2		スギ	横木取・榫目 辺材	
W16	15		SE306	桶底板	61.6	15.4	1.5		(針葉樹?)	横木取り?	表面は平滑な仕上げ
W17	16		SE306	井戸枠材(側板)	(31.4)	11.7	0.8		(針葉樹)		うすい板材、下端部は削り仕上げ
W18	16		SE306	井戸枠材(側板)	(33.5)	14.2	0.8		(針葉樹)		うすい板材、下端部は削り仕上げ
W19	16	72	SE315	曲物底板			0.7~0.8	(32.4)	(針葉樹)	榫目	半分欠損、縁辺は削りで表面は平滑な仕上げ、上面には刃物傷
W20	16		SE318	曲物底板?	(24.4)	(13.1)	0.4~0.7		ヒノキ		縁辺は削りで面取りし、上下両面は平滑な仕上げ
W21	16		SE318	板材	(19.3)	(4.0)	0.9		スギ	板目	
W22	16		SE318	曲物底板	(17.4)	(4.1)	0.6		スギ	榫目	
W23	16		SE318	曲物底板	(13.8)	(6.4)	0.7		モミ属	榫目	
W24	16		SE321	井戸枠材	(65.1)	7.4	3.0		コナラ属アカガシ 亜属	板目	両端部にホゾ孔、断面長方形の板材
W25	16		SE321	井戸枠材	(60.8)	5.9	3.2		スダジイ	板目?	両端部にホゾ孔、断面長方形の板材
W26	16		SE321	井戸枠材	(56.2)	4.8	2.0		ツブラジイ	榫目	両端におろしを持つ
W27	16		SE321	井戸枠材	(57.4)	3.6	2.9		スダジイ	榫目	両端におろしを持つ
W28	18		SE334	井戸枠材	(33)	27.6	2.5		スギ	榫目	井戸枠20と接合
W28	18		SE334	井戸枠材					スギ	榫目	井戸枠18と接合
W29	18	72	SE334	井戸枠材	(31.5)	14.8	0.7		スギ	榫目	釘孔4箇所あり、木釘が残る
W30	18		SE334	不明板材	(25.9)	2.3	0.5		(針葉樹)	榫目	一端に径4mmの孔、表面は丁寧な削り、平滑に仕上げる
W31	18	72	SE334	井戸枠材	64.9	5	3		スギ	榫目?	両端部幅約2cmの切り込み
W32	18	72	SE334	井戸枠材	66.1	5.5~6	3.5		スギ	榫目?	両端部幅約1.5~2cmの切り込み
W33	18	72	SE334	井戸枠材	61	5.4~6.7	3前後		スギ	榫目	両端をおろしに削り出すおろしは幅1cm、長さ3cm前後を削り出す
W34	18	72	SE334	井戸枠材	64.5	5.6~6.2	3前後		スギ	榫目	両端をおろしに削り出すおろしは幅1cm、長さ4cm前後
W35	18	72	SE334	井戸枠材(側板)	(51.8)	23.7	4.0		スギ		辺材を使用・外面を削り方で下端部を平坦に削る
W36	18	72	SE334	井戸枠材(側板)	(53.9)	21	3.8		スギ		辺材使用
W37	19	72	SE334	井戸枠材(側板)	(75.3)	22.7	2.3~3.8		スギ	辺材を利用・縦木取り	先端部欠損
W38	26		SD305	剣型木製品	(17.0)	刃部幅2.4	0.75		スギ	板目	右端は欠損、左端は剣先状に削り出す、表面は一部焦げる
W39	26		SD322・2区	板材	(35.2)	(14.6)	1.4		スギ	榫目	全体に磨耗、左端欠損
W40	26		SD322・3区	板材	50.8	14.5	1.7		スギ	榫目	両上端は欠き込みあり、表面は刃物傷多く、焦げた部分もあり、まな板の可能性あり
W41	26	72	SK317	男模状木製品	17.5	3.0~4.6	2.25~3.3		ミツバウツギ	芯持材	ほぼ完形、丁寧な削り加工仕上げ
W42	26		SK317・上層	透歯下駄	(10.0)	(5.1)	3.1		クスノキ科A		歯の一部残存
W43	26		SK317	箸?	(24)	0.6	0.3		ヒノキ		断面長方形の薄く長い板材
W44	26		SK317	箸?	(18.5)	0.9	0.3		ヒノキ		断面長方形の薄く長い板材
W45	26		SK317	曲物蓋?底板?	12.9	(3.6)	0.5		(針葉樹)		桜皮継ぎ跡、表面は丁寧に平滑な仕上げ、中央に径1cmの孔あり
W46	26	72	SK317	曲物底板か			0.7	16.2	ヒノキ科	板目	反っている
W47	26		SK317・上層	曲物側板	(17.3)	(4.0)	0.9		ヒノキ		刃物による切り込みやヒビ割れが多数入る
W48	26		SK317・上層	曲物側板	(25.8)	(4.2)	0.3		ヒノキ		切り込みやヒビ割れが多数入る、黒漆塗り、上面に紐孔が3箇所あり
W49	26		SK317	曲物側板	(103.5)	(10.5)	0.3~0.4		ヒノキ科	榫目	内面に縦・斜め方向の切り込みを入れる・桜皮で継ぎる
W50	27		SK324	井戸枠材	(72.4)	11.5	3.3		スギ	榫目	両端が一部欠損、右端は削り
W51	27		SK324	井戸枠材	(61.3)	12.6	3.0		スギ	榫目?	右上端は欠損
W52	27		SK324	井戸枠材	(68.2)	16	2.4		スギ	榫目?	両面は削り仕上げと思われるが、かなり腐食
W53	27		SK324	井戸枠材	(79.6)	13.0	3.7		スギ	榫目	
W54	27	72	SK317	板材	124.3	4.3	0.1~0.3		ヒノキ	榫目	曲物の側板などの板材料

Tab.2-1 II面出土土器・土製品観察表

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ()は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
001	30		SS349	⑦	須恵器・高合付坏	(12.6)		8.2	3.4	内外面ナデ	砂粒少し含む	10Y7/1灰白色	良好	1/4片
002	30		SS349	⑦	須恵器・高合付坏	(13.8)		(9.6)	3.8	内外面ナデ	砂粒少し含む	N6/0灰色	良好	1/4片
003	30		SS349	⑦	須恵器・高合付坏			9.3		内底ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	5Y8/1灰白色	やや軟質	底部1/3片
004	30		SS349		須恵器・高合付坏	(15.6)		(9.2)	5.0	内外面ナデ	砂粒少し含む	N5/0灰色	良好	1/3片
005	30		SS349	⑧	須恵器・高合付坏			(12.8)		外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	N6/0灰色	良好	1/2片
006	30		SS349		須恵器・皿	(18.2)				内面ナデ、外底回転ヘラ切り	精良	N7/0灰白色	やや軟質	1/6片
007	30		SS349	⑨	須恵器・高坏	(23.0)			2.1	内外面ナデ	砂粒少し含む	N6/0灰色	良好	1/8片
008	30		SS351	②	須恵器・皿	(14.4)		12.0	2.0	内面ナデ、外底回転ヘラ切り後ナデ	砂粒少し含む	N6/0灰色	良好	1/2片
009	37		SX395		須恵器・蓋	(14.6)			(1.3)	内面ナデ、天井部回転ヘラ切り	砂粒少し含む	N7/0灰白色	良好	1/6片
010	37		SX395		須恵器・蓋						砂粒少し含む	N5/0灰色	良好	つまみ部
011	37		SX395		須恵器・蓋					内外面ナデ	砂粒少し含む	N7/0灰白色	良好	1/6片
012	37	73	SX395	R-1	須恵器・坏	18.3		9.4	8.4	内外面ナデ、外面カキ目	砂粒少し含む	N4/0灰色	良好	ほぼ完形

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	流量 cm (Jは復元・残)				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
013	37	73	SX395		須恵器・高台付杯	(13.7)		8.6	4.3	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	5PB6/1青灰色	良好	2/5片
014	37	73	SX395		須恵器・高台付杯	(14.0)		(7.8)	5.3	内外面ナデ	砂粒少し含む	10Y7/1灰白色	良好	1/6片
015	37		SX395		須恵器・高台付杯			(9.6)		外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	N6/0灰色	良好	1/3片
016	37		SX395		須恵器・高台付杯			(9.8)		内底ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	5PB6/1青灰色	良好	底部片
017	37		SX395		須恵器・高台付杯					内外面ナデ	砂粒少し含む	5PB6/1青灰色	良好	1/8片
018	37		SX395		須恵器・杯	(11.8)		7.0	3.1	内外面ナデ	砂粒少し含む	N6/0灰色	良好	1/6片
019	37		SX395		須恵器・杯	(13.0)		(8.4)	4.0	内外面ナデ	砂粒少し含む	10Y7/1灰白色	良好	1/2片
020	37	73	SX395		緑釉陶器・皿	(13.4)				内外面ミガキ、緑釉	精良	10Y6/2オリーブ灰色	軟質	口縁部1/8片、長門産
021	37		SX395		黒色土器A類・椀			(9.8)		内面ミガキ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	2.5Y7/2灰黄色	良好	1/3片
022	37		SX395		黒色土器A類・椀			(6.8)		内面ミガキ	砂粒少し含む	2.5Y7/2灰黄色	良好	1/4片
023	37		SX395		須恵器・把手付土器						砂粒多く含む	N5/0灰色	良好	把手
024	37	73	SX395		須恵器・高台付杯	18.3		9.4	8.4	内底ナデ、外底回転ヘラ切り、墨書	砂粒少し含む	10YR6/2灰黄褐色	良好	底部完存
025	37		SX395	R-4	土師器・高台付椀	(8.8)				内面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	10YR7/3にぶい黄褐色	良好	底部
026	37		SX395		土師器・高台付杯			9.0		内底ナデ、外底回転ヘラ切り後ナデ	砂粒少し含む	7.5YR7/4にぶい黄褐色	良好	底部
027	37		SX395		土師器・高台付椀			8.4		内外面丁寧なナデ、外底回転ヘラ切り後ナデ	精良	10YR7/3にぶい黄褐色	良好	底部
028	37		SX395		土師器・高台付椀			(9.2)		内面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	2.5Y7/2灰黄色	良好	底部
029	37		SX395		土師器・高台付椀			9.2		内面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	7.5YR6/2灰褐色	良好	底部
030	37		SX395		土師器・高台付椀			8.4		内面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	底部
031	37		SX395		土師器・杯	(14.5)		7.4	3.8	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	2.5Y7/2灰黄色	良好	3/5片
032	37		SX395		土師器・杯	13.0		8.1	3.5	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り後ナデ	砂粒少し含む	10YR7/3にぶい黄褐色	良好	ほぼ完形
033	37		SX395		土師器・杯	(15.0)		9.8	3.9	内外面ナデ、磨滅	砂粒少し含む	10YR7/3にぶい黄褐色	良好	1/4片
034	37		SX395		土師器・杯	(15.0)		(6.4)	3.3	内外面ナデ、内底ミガキ、外底回転ヘラ切り	精良	10YR5/2灰黄褐色	良好	2/3片
035	37	73	SX395		土師器・杯	12.3		7.2	3.6	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	10YR8/2灰白色	良好	ほぼ完存
036	37		SX395		土師器・杯	(11.2)		7.4	3.9	外底回転ヘラ切り、磨滅	砂粒少し含む	7.5Y7/6褐色	やや不良	1/2片
037	37		SX395		土師器・杯	(12.2)		(7.8)	3.2	内外面ナデ、外底磨滅	砂粒少し含む	2.5Y8/2灰白色	やや不良	1/2片
038	37	73	SX395		土師器・杯	12.7		7.8	3.7	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	2.5Y8/1灰白色	良好	完形
039	37		SX395		土師器・杯	12.8		8.0	3.4	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り後ナデ	砂粒少し含む	2.5Y7/2灰黄色	良好	1/3片
040	37		SX395		土師器・杯	(13.0)		(7.2)	3.2	外底回転ヘラ切り、外面磨滅	砂粒少し含む	7.5YR8/4浅黄褐色	良好	1/3片
041	37		SX395		土師器・杯	12.9		7.6	3.5	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り後押し出し	精良	10YR8/2灰白色	良好	3/4片
042	37	73	SX395		土師器・杯	13.0		7.1	3.5	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	10YR8/3浅黄褐色	やや不良	完形
043	37		SX395		土師器・杯	(13.0)		(7.3)	3.3	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	10YR8/4浅黄褐色	良好	1/6片
044	37		SX395		土師器・杯	(12.6)		(7.0)	3.2	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	10YR7/4にぶい黄褐色	良好	1/3片
045	37		SX395		土師器・杯	(12.2)		(8.2)	3.8	内外面丁寧なナデ、外底回転ヘラ切り後ナデ	砂粒少し含む	2.5Y8/2灰白色	良好	1/2片
046	37		SX395		土師器・杯	(12.8)		(7.0)	3.7	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	10YR8/3浅黄褐色	やや不良	1/2片
047	37		SX395		土師器・杯	(13.0)		7.0	3.1	内外面ナデ	砂粒少し含む	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	1/3片
048	37		SX395		土師器・杯	(15.2)		(8.6)	3.5	内外面ナデ	砂粒少し含む	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	1/4片
049	37		SX395		土師器・杯	12.6		7.4	4.0	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り後ナデ	砂粒少し含む	2.5Y7/2灰黄色	良好	3/4片
050	37	73	SX395		土師器・高台付皿	13.7		7.8	3.8	内外面ナデ	精良	10YR8/4浅黄褐色	やや不良	4/5残
051	37		SX395		土師器・皿	(14.6)		(10.7)	1.8	内面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	7.5YR7/4にぶい黄褐色	良好	1/4片
052	37		SX395		土師器・皿	(15.4)		(12.2)	1.4	内面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	1/4片
053	38	73	SX395		須恵器・長頸壺					外面に自然釉付着	砂粒少し含む	N7/0灰白色	良好	頸部
054	38		SX395		須恵器・長頸壺		(18.2)			内外面ナデ	砂粒少し含む	5PB6/1青灰色	良好	1/4片
055	38		SX395		須恵器・長頸壺		(20.8)			外面ケズリ・ナデ、内面ナデ	粗砂粒少し含む	5PB6/1青灰色	良好	胴部小片
056	38		SX395		須恵器・壺	(16.8)				ナデ	砂粒少し含む	N4/0灰色	良好	口縁部 1/8片
057	38		SX395		丸瓦					凸面無文、凹面布目	砂粒少し含む	2.5Y8/1灰白色	瓦質	
058	43		SX403		土師器・杯	14.0		8.8	3.2	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	N7/0灰白色	良好	3/4残
059	43		SX421		土師器・皿	(16.0)		12.4	1.9	内底ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	10YR8/3浅黄褐色	良好	底部
060	43		SX421		土師器・杯	(13.4)		(9.4)	4.9	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	2.5Y8/1灰白色	良好	1/4片
061	43		SX421		土師器・杯	(13.4)		7.2	3.4	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	1/2器片
062	43		SX421		土師器・杯	(13.6)		(8.0)	3.7	内外面ナデ、磨滅	砂粒少し含む	N8/0灰白色	良好	1/2片
063	43		SX421		土師器・高台付杯			8.4		内底ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	7.5YR7/6褐色	良好	底部のみ
064	43		SX421		土師器・鉢	(22.4)				ナデ	粗砂粒少し含む	7.5YR5/4にぶい褐色	良好	1/4片
065	46	73	SD362		土師器・杯	15.2		8.4	3.3	内外面回転ナデ、外底回転ヘラ切り後ナデ、内底ミガキ	精良	10YR7/3にぶい黄褐色	良好	1/2強残
066	46		SD362		土師器・杯	(14.0)		(9.0)	3.6	内外面丁寧なナデ、外底回転ヘラ切り	精良	10YR5/1褐灰色	良好	1/4片
067	46		SD362		土師器・杯	(13.8)		(8.7)	3.4	外面ナデ、磨滅	砂粒少し含む	10YR7/3にぶい黄褐色	良好	1/6片
068	46		SD362		土師器・杯	(13.6)		(8.8)	4.0	内外面ナデ	精良	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	1/4片
069	46		SD362		土師器・杯	(13.6)				内外面ナデ	砂粒少し含む	2.5Y7/2灰黄色	良好	1/6片
070	46		SD362		土師器・杯	(13.2)		7.0	3.7	内底回転ナデ、外底回転ヘラ切り後ナデ	精良	10YR8/3浅黄褐色	やや不良	1/2片
071	46		SD362		土師器・杯	(13.2)		7.6	3.1	内外面ナデ	砂粒少し含む	10YR7/3にぶい黄褐色	良好	1/6片
072	46	73	SD362		土師器・杯	13.1		8.0	3.8	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り	精良	2.5Y7/2灰黄色	良好	2/3残
073	46	73	SD362		土師器・杯	13.0		7.9	3.6	内底回転ナデ、外底回転ヘラ切り後ナデ	砂粒少し含む	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	底部完存
074	46		SD362		土師器・杯	(13.0)		(7.8)	3.2	内外面ナデ	砂粒少し含む	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	1/6片
075	46		SD362		土師器・杯	(12.8)		7.0	3.1	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	10YR7/3にぶい黄褐色	良好	1/6片
076	46		SD362		土師器・杯	(12.4)			3.4	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り後押し出し	精良	10YR7/3にぶい黄褐色	良好	1/3片

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	流量 cm (0は復元・残)				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
077	46		SD362		土師器・坏					外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	底部完存
078	46		SD362		土師器・坏			8.0		外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	7.5YR7/4にぶい橙	良好	底部完存
079	46		SD362		土師器・坏			8.0		内底回転ナデ、外底回転ヘラ切り後ナデ	砂粒少し含む	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	口縁完存
080	46		SD362		土師器・高台付坏	(12.4)		(7.8)	4.1	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	10YR8/3浅黄褐色	良好	1/2片
081	46		SD362		土師器・皿	(14.6)			2.5	内底ナデ、外底回転ヘラ切り後ナデ・押し出し	砂粒少し含む	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	1/2片
082	46		SD362		黒色土器A類・椀			(6.8)		内底ミガキ	精良	N7/0灰白色	良好	底部1/2片
083	46	73	SD362		須恵器・高台付坏	15.6		8.0	5.5	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	5PB6/1青灰色	良好	1/2片 底完存
084	46		SD362		須恵器・高台付坏			(9.4)		外底回転ヘラ切り後ナデ	砂粒少し含む	N5/0灰色	良好	1/4片
085	46		SD362		土師器・壺					横ナデ	砂粒少し含む	2.5Y7/2灰黄色	良好	口縁部
086	46		SD362		丸瓦					凸面細かい格子叩き、凹面布目	砂粒少し含む	N5/0灰色	須恵質	
087	46		SD362		平瓦					凸面細目叩き、凹面粗い布目	砂粒少し含む	2.5Y8/1灰白色	土師質	
088	47	74	SD402		土師器・坏	(15.4)			9.0	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り後ナデ	砂粒少し含む	10YR7/4にぶい黄褐色	良好	2/3片
089	47		SD402		土師器・坏	(15.1)			3.5	内外面ナデ、外底ナデ	砂粒少し含む	10YR7/3にぶい黄褐色	良好	3/5片
090	47		SD402		土師器・坏	(14.4)		(8.6)	3.3	内外面ナデ	砂粒少し含む	N7/0灰白色	やや軟質	1/4片
091	47		SD402		土師器・坏	(13.8)		(9.2)	3.7	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り後ナデ	精良	2.5Y7/2灰黄色	良好	1/4片
092	47		SD402		土師器・坏	(13.0)		(7.4)	3.9	内外面ナデ	砂粒少し含む	10YR8/4浅黄褐色	やや軟質	1/4片
093	47		SD402		土師器・坏	13.0			3.9	内外面ナデ	砂粒少し含む	7.5YR7/4にぶい橙	良好	3/4片
094	47		SD402		土師器・坏	12.7		7.6	3.5	磨減で不明	粗砂粒少し含む	5Y7/1灰白色	良好	3/5片
095	47		SD402		土師器・坏	(12.6)		(8.2)	3.5	内外面ナデ	精良	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	1/4片
096	47		SD402		土師器・坏	(12.4)			3.9	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り後押し出し	精良	2.5Y8/2灰白色	やや軟質	2/5片
097	47		SD402		土師器・坏	12.2			3.3	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り	精良	10YR8/4浅黄褐色	良好	1/2片
098	47		SD402		土師器・坏			8.6		内底ナデ、外底回転ヘラ切り後ナデ	砂粒少し含む	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	底部
099	47		SD402		土師器・皿	(17.4)			2.5	内面ナデ、外底回転ヘラ切り後ナデ	精良	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	1/4片
100	47		SD402		土師器・皿	(16.3)		(13.0)	2.1	内面丁寧なナデ、外底回転ヘラ切り後ナデ	精良	7.5YR6/6橙褐色	良好	1/2片
101	47		SD402		土師器・皿	(16.0)			2.0	内面ナデ、外底回転ヘラ切り後ナデ	精良	2.5Y7/2灰黄色	良好	1/6片
102	47		SD402		土師器・皿	14.8		1.9		内面ナデ・ミガキ、外底回転ヘラ切り後ナデ	砂粒少し含む	10YR7/3にぶい黄褐色	良好	ほぼ完存
103	47		SD402		土師器・皿	(13.2)		(8.8)	2.3	内外面ナデ	砂粒少し含む	2.5Y8/2灰白色	やや軟質	1/4片
104	47	74	SD402		土師器・蓋	(17.2)			4.1	外面回転ヘラ削り後ナデ、内面ナデ	砂粒少し含む	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	1/4片
105	47		SD402		黒色土器A類・椀	(14.4)				内面ミガキ	砂粒少し含む	2.5Y7/2灰黄色	良好	1/6片
106	47	74	SD402		須恵器・坏	(12.8)		7.6	3.5	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り、磨減	砂粒少し含む	7.5Y7/1灰白色	良好	1/4片
107	47		SD402		須恵器・坏	(13.6)		(9.0)	3.3	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	10Y7/1灰白色	良好	1/2片
108	47		SD402		須恵器・高台付坏	(13.4)		(10.0)	4.0	内外面ナデ	砂粒少し含む	10Y6/1灰白色	良好	1/4片
109	47	74	SD402		須恵器・皿	17.8		14.4	2.5	内面ナデ、外面回転ヘラ削り後調整	砂粒少し含む	N6/0灰色	良好	ほぼ完形
110	47		SD402		須恵器・皿	(18.8)			1.8	内面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	5PB5/1青灰色	良好	1/4片
111	47		SD402		須恵器・蓋	(19.0)				内外面回転ナデ	精良	2.5Y8/1灰白色	瓦質	1/4片
112	47		SD402		須恵器・蓋	(17.0)		(1.7)		内外面ナデ	砂粒少し含む	2.5Y7/1灰白色	良好	1/4片
113	47		SD402		丸瓦					凸面細目叩き、凹面布目	砂粒少し含む	2.5Y7/2灰黄色	土師質	
114	48	74	SD404		土師器・坏	13.8		8.4	3.2	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り	精良	10YR7/4にぶい黄褐色	良好	完形
115	48		SD404		須恵器・皿	(16.4)		(12.2)	3.3	内外面ナデ	砂粒少し含む	N7/0灰白色	やや軟質	1/8片
116	48		SD404		須恵器・皿	(17.2)		(12.0)	2.5	内面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	N6/0灰色	良好	1/3片
117	48		SD404		土師器・皿	(13.8)		(10.2)	1.8	内底ナデ、外底回転ヘラ切り後ナデ	砂粒少し含む	10YR7/3にぶい黄褐色	やや軟質	1/4片
118	48	74	SD411		土師器・坏	15.2		8.3	3.6	内外面丁寧なナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	10YR7/4にぶい黄褐色	良好	1/2強
119	48		SD411		土師器・皿	(14.7)		12.0	2.2	内面ナデ、外底回転ヘラ切り	砂粒少し含む	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	1/2片
120	48		SD411		土師器・移動式甕						砂粒少し含む	2.5Y7/2灰黄色	良好	鏝
121	48	74	SD411		須恵器・高台付坏	12.6		8.6	4.3	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り、ヘラ記号	砂粒少し含む	N6/0灰色	良好	1/2片
122	48		SX414		土師器・坏	11.6		8.5	2.5	内外面ナデ、外底回転ヘラ切り後押し出し	砂粒少し含む	2.5Y8/2灰白色	良好	ほぼ完形
123	49	75	SX395		土師器・小型壺	(7.6)	(9.2)		8.8		砂粒多く含む	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	1/2片
124	49	75	SX395		土師器・小型丸底壺	11.5			5.9	ナデ	砂粒少し含む	2.5Y7/2灰黄色	やや軟質	ほぼ完形
125	49	75	SD398		土師器・大型壺	18.4				ナデ	砂粒少し含む	2.5Y8/2灰白色	良好	口縁部
126	49		SX395		須恵器・壺	(15.2)				頸部に波状文	砂粒少し含む	N5/0灰色	良好	口縁～頸部
127	49		SX412		弥生土器・壺	(41.8)					砂粒多く含む	2.5Y7/1灰白色	良好	口縁部 1/8片
128	49		SX395		弥生土器・壺	(35.0)					砂粒多く含む	10YR7/3にぶい黄褐色	良好	口縁部 1/6片
129	49		SX393-1		弥生土器・壺	(34.4)					砂粒多く含む	10YR7/3にぶい黄褐色	良好	口縁部 1/6片
130	49		SD402		弥生土器・壺	(29.8)				磨減で不明	砂粒多く含む	2.5Y7/2灰黄色	良好	口縁部 1/8片
131	49		SD402		弥生土器・壺	(29.0)				頸部に縦方向の突帯	砂粒多く含む	7.5YR5/4にぶい橙褐色	良好	口縁部
132	49	75	SD411		弥生土器・壺	(23.0)				口唇部に刻目、内面横刷毛	砂粒少し含む	7.5YR4/2灰褐色	良好	口縁部
133	49	75	SD402		弥生土器・壺			(7.4)		刷毛目	砂粒多く含む	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	底部
134	49	75	SD362		弥生土器・壺			8.2		刷毛目	砂粒多く含む	10YR6/6明黄褐色	良好	底部
135	49		SD402		弥生土器・壺			6.2		磨減で不明	砂粒多く含む	2.5Y7/2灰黄色	良好	底部
136	49	75	SX415		弥生土器・壺			6.1		指押さえ	砂粒多く含む	2.5Y7/1灰白色	良好	底部
137	49		SX393-1		弥生土器・壺			7.7		刷毛目、磨減	砂粒多く含む	10YR6/6明黄褐色	良好	底部
138	49		SX415		弥生土器・壺			7.6			砂粒多く含む	2.5Y7/1灰白色	良好	底部
139	49	75	SD362		弥生土器・支脚			10.4	9.4		砂粒多く含む	10YR7/3にぶい黄褐色	良好	完形

Tab.2-2 II面出土石製品観察表

報告番号	Fig.	PL.	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量cm ( )は残			石材	色調	調整・備考
						長	幅	厚			
S1	49	75	SD407		石包丁	13.4	5.6	0.5	堆積岩系	10Y6/1灰色	
S2	49	75	SX425		石包丁	(6.7)	(4.9)	0.9	堆積岩系	5Y8/2灰オリーブ色	
S3	49		SD362		砥石	9.2	6.4	1.1	堆積岩系	5Y6/1灰色	
S4	49		SX403		砥石	(4.0)	2.9	0.9	堆積岩系	5Y8/1灰白色	
S5	49	75	SD402		紡錘車	4.0	4.0	1.1	硬質の滑石	N6/0灰色	

Tab.2-3 II面出土木製品観察表

報告番号	Fig.	PL.	出土遺構	器種	法量cm ( )は残・復元			樹種	木取り	調整・備考	
					長	幅	厚				
W1	39		SX395	人形	(43.5)	7.7	05~0.7		ヒノキ	板目	
W2	39		SX395	人形?	(41.8)	(7.2)	0.9		スギ	板目	辺材を利用
W3	39		SX395	人形?	(43.2)	(2.9)	0.5		スギ	板目?	
W4	39	76	SX395	箸串	(64.8)	4.4	0.7		スギ		辺材使用
W5	39	76	SX395	月	75.6	1.4	0.8		スギ		
W6	39	76	SX395	鉢形木製品?	(33.3)			1.5~2.5			芯持材
W7	39	76	SX395	馬形木製品?	64.6	8.1	0.5		スギ	板目?	ほぼ中央に円形の孔2ヶ
W8	39	76	SX395	箸串?	(61.3)	3.9	0.5		ヒノキ	板目	
W9	40		SX395	箸串	(32.7)	4.0	0.7		スギ		推定全長35cm
W10	40	76	SX395	荷札木筒	19.1	3.1	0.7		ヒノキ	板目	
W11	40	76	SX395	串状木製品	(14.9)	1.1			スギ		
W12	40	76	SX395	串状木製品	(10.9)			0.7	スギ		
W13	40	76	SX395	串状木製品	12.8	3.4	0.5		スギ	板目?	
W14	40		SX395	下駄	(15.8)	7.3	1.5		スギ	板目	
W15	40	77	SX395	挽物 皿	(17.2)	(13.9)	1.5	(1.9)	サクラ属	板目	
W16	40	77	SX395	曲物			高5.0	17	モミ属		
W17	40		SX395	曲物 蓋?			高(3.8)	18.2~18.3	ヒノキ	板目	辺材使用か?側板は4箇所で椀皮綴
W18	40		SX395	曲物 蓋?			高6.0	16.5~16.6	針葉樹	板目	天板と側板は8箇所の椀皮綴で接合
W19	40	77	SX395	曲物 蓋			高(2.8)	16.2	ヒノキ		
W20	40	77	SX395	曲物 蓋?			1.8	17.8	モミ属	板目	
W21	40		SX395	曲物			0.3~0.5	18	ヒノキ	板目	椀皮綴痕4箇所
W22	40	77	SX395	曲物			0.55	18	ヒノキ	板目	
W23	40		SX395	曲物			0.5	18.4	(針葉樹)	板目	椀皮綴4箇所
W24	40	77	SX395	漆塗り 曲物容器			0.7	11.0	スギ		黒漆の上に赤漆を塗る
W25	40	77	SX395	曲物			0.5	(18)	スギ	板目	丁寧な作り
W26	40		SX395	曲物			0.5~0.7	(17.1)	ヒノキ	板目	椀皮綴3箇所残存(本来は4箇所)
W27	40	77	SX395	曲物			0.4	(18.6)	モミ属	板目?	
W28	40		SX395	曲物 蓋			1.0	30.4~30.9	ヒノキ	板目	椀皮綴4箇所
W29	41	76	SX395	修羅	(225.8)			8~13.5	ユズリハ属		自然木を利用・又部に方形孔
W30	41		SX395	建築材	(91.3)	(8.2)	(6.2)		スダジイ		板に転用か?
W31	44	78	SX403	人形	(62.9)	11.0	0.7		モミ属	板目	両足距部欠損
W32	44		SX403	箸串?	(13.7)	1.8	0.2		ヒノキ		
W33	44		SX403	木製品祭祀具	26.0	1.6~3.0	0.4		針葉樹	板目	
W34	44		SX403	漆塗り 盤			高(4.1)	22.8	ヒノキ科		
W35	44	78	SX403	曲物			0.5~0.7	18.0	スギ		椀皮綴痕
W36	44	78	SX403	曲物			0.6	18.8	モミ属		椀皮綴痕
W37	44	78	SX403	曲物	55.4	36.0	0.3~0.7		ヒノキ	板目	底或いは天板は2枚からなる・椀皮綴
W38	46	78	SD362	銅鉢	16.0	中央部4.3		6.8X7.0	シキミ		右側は欠損が激しい
W39	46	78	SD362	挽物容器 皿?			高(1.3)	(20)	ヒノキ科	板目	
W40	46		SD362	曲物 蓋?			高(5.9)	17.8	モミ属	板目	側板は4箇所の椀皮綴(3箇所残存)
W41	46		SD362	曲物 蓋			0.8	15	ヒノキ	板目	側面釘孔4箇所残存
W42	47		SD402	加工部材	(50.4)	8.3	0.5		ヒノキ		両端に釘引き痕
W43	48	78	SD398	加工部材	116.8	9.3	2.1~2.3		ヒノキ		

Tab.3-1 III面出土土器・土製品観察表

報告番号	Fig.	PL.	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は復元・残			調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底径					
1	52	79	SD190		須恵器・坏身	11.4	受部13.3	4.2	外底部回転ナリ、他は回転ナリ	粗砂粒多く含む	7.5YR3/1黒褐色	良好	ほぼ完形
2	52		SD190	上層	須恵器・坏身	(9.9)	受部(12.4)	(3.2)	内外面回転ナリ	精良	N5/灰色	良好	体部1/4残存
3	52	79	SD190	下層	須恵器・坏身	(12.9)	受部(14.8)	4.6	外底部回転ナリ、他は回転ナリ	粗砂粒含む	N5/灰色	良好	約1/6残存
4	52		SD190	下層	須恵器・坏身		受部(12.8)	(3.4)	外底回転ナリ、他は回転ナリ、ハ記号あり	精良	7.5Y7/1灰白色	やや不良	1/6残存
5	52		SD190	下層	須恵器・碗	(12.6)		(3.5)	全面ナリ、二重の柳指波状文あり	精良	10YR5/1灰色、外面自然釉	良好	体部破片
6	52		SD190	下層	須恵器・壺	(12.2)		(5.3)	頸部ナリで柳指波状文、肩部の平行斜め、内面ナリで当て具痕	精良	5Y6/1灰色で7.5Y4/3暗オリーブ色の自然釉	良好	頸部破片
7	52		SD190		土師器・壺	(14.5)		(4.7)	内外面丁寧なナリ、外面指おさえ痕	粗砂及び金雲母多く含む	7.5YR5/2灰褐色	普通	口縁部1/6残存
8	52		SD190		土師器・壺	(15.0)		(7.6)	胴外面やや磨滅、好み目、内面ハカスリ・指おさえ痕	粗砂多く含む	10YR5/6赤褐~10YR6/1褐灰色	普通	口縁部1/4残存
9	52		SD190	下層	土師器・坏か高杯	(13.1)		(3.75)	内外面やや磨滅・ナリ	粗砂やや多く含む	10YR6/2鈍い黄褐色	普通	口縁部1/6残存
10	52	79	SD190	上層	土師器・高杯		(12.1以上)	(16.1)	外面ナリ後ナリ、指内面コシ、直徑1cmの円形孔4ヶ所	精良	7.5YR7/3鈍い橙褐色	普通	脚部破片
11	52		SD190	上層	土師器・高杯	(2.6)		(3.4)	ナリ、内面ナリ痕	精良	10YR7/3鈍い黄褐色	普通	脚台部(軸)破片
12	52	79	SD190	下層	土師器・高杯		(13.4)	(9.6)	内外面ナリ、脚部内面ナリ仕上げ	精良	10YR7/3鈍い黄褐色	普通	脚部破片
13	52		SD190		土師器・合付鉢	(10.0)	(6.8)	8.7	手捏ね、内外面ナリ、内面工具痕、外面指おさえ痕	粗砂含む	10YR8/3淡黄褐色	普通	約1/2残存
14	52		SD190		土師器・合付鉢	(10.9)		(4.4)	全体にナリ、内底部工具痕、体部下指おさえ痕	粗砂粒少量含む	10YR6/3鈍い黄褐色、口縁一部黒斑あり	普通	鉢部1/5残存
15	52		SD190	上層	土師器・壺か皿	(17.8)		(2.35)	やや磨滅・ナリか	粗砂少量含む	7.5YR5/3鈍い褐色	普通	口縁部1/10残存
16	52		SD190		土師器・合付鉢		(7.4)	(3.4)	内外面ナリ、指おさえ痕多数あり、外面粘土帯痕残	粗砂若干含む	2.5Y4/5オリーブ褐色	普通	脚台部分1/2残存
17	52		SD190	下層	土師器・合付鉢		5.0	(2.8)	ナリ、脚台内黒味帯びた砂付着	細~微砂多く含む	5YR5/3鈍い赤褐色	良好	脚台部のみ残存
18	52		SD190	上層	土師器・壺	(2.5)	(2.4)		外面平行斜め、内面やや磨滅・ナリ	粗砂粒多く含む	7.5YR6/4鈍い橙褐色	普通	底部破片
19	52		SD190		ミニチュア土器・鉢	3.2~3.3	2.4		全面指おさえ	粗砂多く含む	10YR5/2灰黄褐色	良好	完存
20	52	79	SD190		ミニチュア土器・鉢	3.7~4.3	2.9		指おさえ仕上げ	精良	7.5YR5/1褐灰色、表面は鉄分付着	普通	完存

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	流量 cm (0は復元・残)				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
21	52	79	SD190	上層	ミニチュア土器・鉢	3.6			3.2	内外面指おさえ仕上げ	粗砂粒含む	10YR5/1褐色	良好	完存
22	52	79	SD190		ミニチュア土器・鉢	(5.0)			3.7	内外面指おさえ仕上げ、底部 楕円形状を呈す	粗砂粒多く含む	2.5Y6/3鈍い黄色	普通	約1/2残存
23	52		SD190	下層	弥生土器・壺	(19.6)			(5.0)	磨減がひどい、行調整	粗砂粒多く含む	5YR6/6褐色	普通	口縁部1/6残存
24	52		SD190		弥生土器・壺				(8.75)	胴部内外面均目、口端部で やや磨減	粗砂と金雲母多く含む	10YR5/4鈍い黄褐色	普通	口縁部小破片
25	52		SD190	下層	弥生土器・壺				(9.8)	外面細かい均目、表面植物の 組織痕が残る	粗砂粒含む	10YR7/4鈍い黄褐色	普通	口縁部細片
26	52		SD190		弥生土器・壺	頸部 (26.0)			(8.4)	内面粗い均目、外面で爪 形の工具痕	粗砂粒多く含む	2.5Y5/2暗灰黄色	普通	頸部～肩部1/8存
27	52		SD190		弥生土器・壺				(7.5)	胴内外面粗い均目、外底部 で後不整方向の均目	粗砂粒含む	10YR3/1黒褐色、鉄分付着	普通	底部1/2残存
28	52		SD190	下層	弥生土器・壺				(7.5)	内面行・工具痕、外面細かい 均目・指おさえ痕、外底部行	粗砂粒多く含む	10YR4/2灰黄褐色、外面ス付着	普通	底部破片
29	52		SD190		弥生土器・高坏	(22.7)			(5.7)	全体に磨減し調整不明、口縁 部内外面は均目残る	砂粒・赤色粒子を多く含 む	7.5YR7/3鈍い褐色	やや不良	坏部1/6残存
30	54		SD198		須恵器・坏蓋	(13.8)			(1.3)	回転行	砂粒多く含む	5Y4/1灰色	良好	口縁部1/8残存
31	54		SD198		弥生土器・鉢?				(2.5)	内面ハシカ、外面行・工具行	粗砂粒多く含む	10Y2/1黒～7.5YR4/1褐色	普通	底部破片
32	54		SD198	ベルト北	土器器・壺	(23.2)			(9.7)	磨減がひどい行か、内面指 おさえ痕残る	砂粒多く含む	2.5Y6/1黄灰色	普通	口縁部1/6残存
33	54		SD373		須恵器・高坏				(1.95)	全面回転行、外面少し灰かり	精良	N7/灰白色	良好	口縁部小破片
34	54		SD375		土器器・坏	(17.0)			(8.8)	内外面丁寧な回転行、外底部 回転行後行	精良	5YR6/4鈍い褐色、口縁外面 ス付着	普通	約1/3残存
35	54		SD376	ベルト東	土器器・把手	長(5.9)	幅3.7		2.1	全面指おさえ仕上げ	砂粒多く含む	上:5YR4/6赤褐色 下:5YR3/1黒褐色	普通	把手部のみ残存
36	54		SD378		須恵器・坏				(11.4)	内面磨減、行、高台外行、高 台内ハスリ	精良	N7/灰白色	不良	高台部1/4残存
37	54		SD383		土器器・壺	頸部 (11.8)				やや磨減、胴部内面ハスリ、外 面下半均目	細砂を含む	10YR7/3鈍い黄褐色、黒斑2カ 所あり	普通	頸～底部断片
38	54		SD387		弥生土器・壺	(15.6)			(25位)	胴部内外面均目、胴部下半黒 斑、底部内外面行	細砂多く含む	10YR5/2灰黄褐色、口縁一部 ス付着	普通	口縁～底部断片
39	54	79	SD387		弥生土器・壺	(13.8)			(10.0)	胴部内外面均目後行、口端 部平坦で浅い凹線	粗砂粒含む	2.5Y7/3淡黄色	普通	口縁部破片
40	54	79	SD390	1区	弥生土器・壺				(4.35)	口縁部外面均目後行、内面行	細砂粒少量含む	2.5YR5/4鈍い赤褐色	普通	口縁部1/8残存
41	54		SD390	1区	弥生土器・壺				(4.3)	内面行・粗いコウキ、外面楕 円文	粗砂を多く含む	10YR5/2灰黄褐色	普通	肩部小破片
42	54		SD390	1区	土器器・壺	(12.0)			(3.85)	口縁外面均目後行消し、胴内面 ハスリか、胴外面均目	砂粒多く含む	2.5Y7/2灰黄色	普通	口縁～胴部破片
43	54		SD390	1区	弥生土器・壺	(15.0)				内面から口縁外面行、胴外面 上半細かい均目、下半工具行	粗砂粒多く含む	2.5Y6/1黄灰色	普通	口縁～底部1/4残 存
44	54		SD390	1区	弥生土器・壺	(16.0)			(6.3)	口端部均目、内面均目後行、 胴部下半丁寧な行、口縁内面 工具行	粗砂を少量含む	5Y3/2オリーブ黒色、ス厚く付 着	良好	口縁1/5・底部1/2 残存
45	54		SD390	1区底面	弥生土器・壺	(24.0)			(13.2)	内面工具行で工具痕残る、口 縁部内面から胴外面粗い均目	砂粒多く含む	2.5GY3/1暗オリーブ灰色、ス 付着	やや良好	口縁～胴部1/3残 存
46	54		SD390	1区底面	弥生土器・壺	(28.6)			(8.0)	内面行、胴部外面均目、	粗砂粒多く含む	10YR6/3鈍い黄褐色	普通	口縁部1/4残存
47	54		SD390	1区底面	弥生土器・壺	(27.0)			(6.65)	口内面粗いコウキ、胴外面粗 い均目均目、胴内面行で均 目残る	粗砂多く含む	7.5YR7/4鈍い褐色	普通	口縁部1/8残存
48	55		SD390	1区	弥生土器・壺	(41.0)			(8.5)	口縁部～胴部均目行、頸部 指おさえ痕、口端部欠損激しい	粗砂粒多く含む	10YR5/2灰黄褐色	普通	口縁部1/8残存
49	55		SD390	1区底面	弥生土器・高坏	(29.0)			(4.85)	内外面ハシカ	砂粒多く含む	10YR5/2灰黄褐色	普通	口縁部1/8残存
50	55		SD390	1区	弥生土器・高坏	(30)				口縁外面細かい均目、内面横粗 い均目後暗文風均目、胴 外面ハシカ、胴内面ハスリ痕 と均	精良	10YR6/3鈍い黄褐色	普通	口縁と脚部図上復 元
51	55		SD390	1区	土器器・支脚	頸部長 (7.3)	頸部幅 (5.65)		(9.8)	頂部粗い均目、側面棒状工具 による刻目、内面ハスリ、外面 行	粗砂を少量含む	7.5YR5/2灰褐色	普通	頂部1/2残存
52	55		SD390	1区	土器器・台付鉢				(9.5)	行・工具痕	精良	7.5YR7/3鈍い褐色	良好	脚部破片
53	55		SD390	1区底面	ミニチュア土器・鉢	(4.8)			(3.2)	全面指おさえ仕上げ	精良	10YR6/3鈍い黄褐色	普通	1/3残存
54	55	79	SD396		須恵器・坏	14.2		10.85	3.8～3.8	体部回転行、外底部回転ハ スリ後行	粗砂粒含む	5GY2/1オリーブ黒色	普通	1/8欠損
55	55		SD396		土器器・鉢	(14.6)			(3.6)	磨減がひどいコウキ	精良	2.5YR6/4鈍い褐色	普通	口縁部1/5残存
56	55		SD396		土器器・鉢				(2.7)	口縁部内面均目後行消し	精良	2.5YR6/4鈍い褐色	普通	口縁部小破片
57	55		SD396		土器器・壺	(18.4)			(6.3)	内外面磨減がひどい行か、外 面黒斑あり	精良・細砂含む	10YR6/2灰黄褐色	普通	口縁部1/8残存
58	55		SD433		須恵器・坏	(11.0)	受部 (12.8)		(3.7)	口縁部～体部回転行、外底部 回転ハスリ	ほぼ精良	5PB6/1青灰色～5PB3/1暗青 灰色	普通	1/4残存
59	56		SK381		須恵器・壺	(14.0)			(6.8)	内外面回転行	精良	10Y5/1灰色	良好	口縁部1/8残存
60	56		SK-418	SK345 下層	土器器・椀	(15.4)			4.5	体部内外面丁寧な均目・指お さえ痕、外底部回転ハスリ・板 圧痕	精良・黒色雲母片を含む	2.5Y7/2灰黄色	良好	1/2 弱残存
61	57		SX389		須恵器・坏				(1.85)	回転行	黒色粒子多く含む	10GB4/1暗青灰色	普通	口縁部小破片
62	57		SX389		須恵器・坏				(2.2)	回転行	精良	N7/灰白色	普通	口縁部小破片
63	57		SX389	粗砂	須恵器・坏蓋				(0.85)	回転コウキ	粗砂を少量含む	5PB5/1青灰色	普通	口縁部小破片
64	57		SX389		土器器・壺	(13.9)			(5.5)	内面ハスリ	細砂若干含む	10YR8/3淡黄褐色～N4/暗灰色	良好	口縁部1/4残存
65	57		SX389		土器器・壺	頸部 (15.2)			(5.75)	口縁部で内面粗い均目後行、 胴内面ハスリ、外面均目後行	粗砂粒多く含む	2.5Y5/2暗灰黄色	普通	胴部破片
66	57		SX389		土器器・壺				(4.75)	磨減がひどく調整不明	粗砂粒多く含む	7.5YR5/2灰褐色	普通	口縁部小破片
67	57	79	SX389		土器器・高坏				11.0	内面ハスリ、外面行	粗砂粒多く含む	5YR5/8明赤褐色	普通	脚部破片
68	58		SX368		須恵器・坏				(3.1)	回転コウキ	精良	2.5Y6/1黄灰色	良好	口縁部小破片
69	58		SX368		須恵器・坏				(4.75)	回転コウキ	精良	N3/暗灰色	良好	口縁部小破片
70	58	79	SX368		土器器・坏	(12.8)			(7.2)	内外面回転行、内底部行、 外底部回転ハスリ	精良	7.5YR6/4鈍い褐色	良好	1/3残存

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	流量 cm (Jは復元・残)				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
71	58		SX368		土師器・坏	(15.0)		(7.8)	3.7	内外面回転ナ、内底部ナ、外底部回転ナナリ	精良	10YR6/2灰黄褐色	良好	1/3残存
72	58		SX368		土師器・坏	(14.0)		(7.0)	3.5	内外面回転ナ、外底部回転ナナリ	砂粒多く含む	7.5YR6/3鈍い褐色	良好	1/5残存
73	58		SX368		黒色土器A・碗	(14.4)		(8.6)	6.0	体部回転コナナ、底部回転ナナリ	精良	7.5YR5/2灰褐色、内面双付蓋	良好	1/3残存
74	58		SX399		土師器・壺	15.2	(18.6)		(10.3)	細かい目、部分的にナ	砂粒多く含む	7.5YR5/2灰褐色	普通	上半部2/3残存
75	58		SX399		土師器・壺	(15.6)			(7.7)	胴内面ナナリ、外面摩滅するがナ	粗砂粒含む	2.5Y6/2灰黄色	普通	口縁部1/4・胴部一部残存
76	58		SX399		土師器・小型丸底壺				(4.9)	口縁から体部外面コナナ、内面ナ	砂粒を少量含む	7.5YR7/3鈍い褐色で双付蓋	普通	口縁部1/8残存
77	65		SS192	①埋土	土師器・壺	(11.6)			(4.4)	胴外面ナナの平行ナナリ、口縁部～内面ナ	精良	7.5YR6/4鈍い褐色	良好	口縁部1/5残存
78	65	79	SS192	②埋土	土師器・台付鉢			脚基部(3.7)	(5.5)	体部内外面丁寧なナナリ、脚部の目後ナ	粗砂多く含む	5YR6/6褐色	普通	体部破片
79	65	79	SS200	④埋土	須恵器・坏身	(10.5)		受部(12.6)	(2.95)	体部回転コナナ	精良	5YR5/4鈍い赤褐色	普通	口縁部1/2弱残存
80	65		SS200	⑦埋土	須恵器・坏蓋				(1.4)	磨滅がひどく調整不明	精良	10YR7/3鈍い黄褐色	不良	口縁部小破片
81	65		SS200	⑦埋土	須恵器・壺	頸部(4.7)	(11.2)		(4.6)	内外面コナナ、頸部内面しぼり痕	精良	N6/灰色、外面灰ナリ斑	良好	頸～胴部1/4残存
82	65		SS200	⑦埋土	須恵器・碗	頸部(3.8)			(2.5)	ナ、内面指おさえ痕	精良	N4/灰色、外面自然釉か灰ナリ	良好	頸～肩部1/6残存
83	65		SS200	⑦埋土	土師器・壺	(10.6)			(6.4)	コナナ	精良・赤色粒子含む	2.5YR7/4淡赤褐色	普通	口縁部破片
84	65		SS200	⑦埋土	土師器・壺	(9.2)			(3.4)	磨滅がひどいがナ	細砂・赤色粒子少量含む	7.5YR8/4浅黄褐色	やや不良	口縁部1/4残存
85	65	80	SS200	⑦埋土	土師器・壺	(11.7)			(8.9)	内外面ナで一部目、頸部内面指おさえ	細砂と金雲母多く含む	7.5YR6/4鈍い褐色	普通	口縁部1/6残存
86	65		SS200	⑦埋土	土師器・壺	(13.4)			(4.9)	胴部内面ナナリ、外面磨滅がひどく調整不明	砂粒多く含む	2.5Y7/2灰黄～2.5Y3/1黒灰色	普通	口縁部1/4残存
87	65		SS200	⑦埋土	土師器・壺	(12.7)			(6.0)	内面ナナリ、外面ナ、ナの目	粗砂粒多く含む	7.5YR7/3鈍い褐色	普通	口縁部1/4残存
88	65		SS200	⑦埋土	土師器・壺	頸部(12.4)			(7.7)	胴部外面磨滅で平行ナナリ、内面粘土接合痕残る	粗砂粒多く含む	5YR7/6褐色	普通	頸～胴部1/6残存
89	65		SS200	⑦埋土	土師器・壺	(7.6)			(3.3)	ナ、口縁部表面剥落激しい	粗砂を少量含む	10YR3.5/1暗褐色	普通	口縁部1/4残存
90	65		SS200	⑦埋土	土師器・鉢	(13.4)			(3.4)	ナ	精良	2.5YR6/3鈍い褐色	普通	口縁部1/6残存
91	65		SS200	⑦埋土	土師器・高坏	(20.6)			(5.25)	ナ、内底線刻あり	精良	7.5YR6/4鈍い褐色	普通	坏部1/8残存
92	65		SS200	⑦埋土	土師器・高坏			(14.0)	(4.15)	内面コナナナリ、外面コナナ	粗砂粒少量含む	5YR6/3鈍い褐色	普通	脚部1/3残存
93	65		SS200	⑦埋土	土師器・高坏			(12.0)		磨滅がひどく調整不明	精良・赤褐色粒子多く含む	5YR7/4鈍い褐色	やや不良	坏部小破片・脚部1/4残存
94	65		SS200	⑦埋土	土師器・高坏				(6.7)	内面ナ・しぼり痕、外面ナナリナリ、直径1cmの円孔	砂粒多く含む	10YR6/3鈍い黄褐色	普通	脚部破片
95	65	80	SS200	⑦埋土	土師器・高坏			(15.0)	(6.9)	外面丁寧なナナリ、又はナナリ、頸部細かい目・直径1cmの円孔	精良	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	脚部1/2残存
96	65		SS200	⑦埋土	弥生土器・壺	(16.0)			(3.55)	内外面コナナ、内面工具による擦痕、黒斑あり	砂粒多く含む	7.5YR6/2灰褐色	良好	口縁部1/3残存
97	65		SS200	⑦埋土	弥生土器・壺	(17.6)			(3.65)	ナ、細かい目	粗砂粒を少量含む	10YR6/3鈍い黄褐色	普通	口縁部1/4残存
98	65		SS200	⑦埋土	弥生土器・壺	(19.8)			(3.5)	口縁部内外面撻波状線	粗砂粒多く含む	10YR5/2灰黄褐色	普通	口縁部1/6残存・山陰系か
99	65		SS200	⑦埋土	弥生土器・壺				(6.0)	内面ナ、撻波状線、3条の沈線	粗砂を多く含む	10YR5/2灰黄褐色	普通	胴部小破片
100	65		SS200	⑦埋土	弥生土器・壺				(4.9)	内面ナ、撻波状線、三条の沈線	粗砂を多く混入	10YR6/3鈍い黄褐色	普通	胴部小破片
101	65	80	SS200	⑦埋土	弥生土器・壺		(26.7)		(8.5)	外面やや磨滅、上半コナナ、下半ナ、内面粗い目	精良・金雲母微粒多く含む	2.5Y4/2灰黄色～2.5Y3/1黒褐色	普通	頸部破片
102	65		SS200	⑦埋土	弥生土器・壺				(8.5)	内外面粗い目、外面胴部3条の平行な刻線あり	精良	2.5Y7/2灰黄色	普通	頸～胴部小破片
103	66		SS200	⑦埋土	弥生土器・壺		(28.0)		(12.2)	内面粗い目、外面ナで細かい目、胴部ナ状工具での刻目突帯	粗砂多く含む	2.5Y5/1黄灰色、外面黒斑あり	普通	胴部破片
104	66	80	SS200	⑦埋土	弥生土器・高坏	(21.8)			(6.2)	内外面ナ	細砂を含むが精良	7.5YR5/3鈍い褐色	良好	坏部1/3残存・丸蓋式土器か
105	66	80	SS200	⑦埋土	弥生土器・器台			(13.7)	(15.3)	外面から内面下半目、内面上半強い指ナ	砂粒・赤褐色粒子を多く含む	10YR5/2灰黄褐色、外面黒斑	良好	1/3残存
106	66		SS200	⑦埋土	弥生土器・器台?	幅7.4	長(4.6)	厚0.8	高1.6	ナ	精良	5YR6/6暗赤褐色、外面赤色顔料	普通	細片
107	66		SS200	⑦埋土	把手?	長(6.3)	幅(2.5)	厚0.8		ナ	粗砂を少量含む	10YR6/3鈍い黄褐色	普通	把手部のみ残存
108	66		SS200	⑦埋土	ミニチュア土器・鉢	(4.6)			(3.0)	手握ね仕上げ、指調整痕あり	粗砂粒多く含む	10YR6/3鈍い黄褐色	普通	1/3残存
109	66		SS200	⑦埋土	ミニチュア土器・高坏	(5.8)			(3.9)	手握ね仕上げ、指調整痕あり	精良	10YR4/6褐色～10YR6/3鈍い黄褐色	普通	1/3残存
110	66	80	SS410	①埋土	須恵器・坏	(13.4)		(9.1)	3.95	内外面回転ナ、高台部ナナリ	精良	N5/灰色	良好	1/3残存
111	66		SS410	②埋土	土師器・坏	(15.4)			(3.45)	回転ナ	赤色粒子少量含む	7.5YR7/2明褐色	普通	口縁部1/6残存
112	66		SS410	②埋土	土師器・壺	(12.2)			(5.8)	口縁内外面目、胴内面ナナリ	粗砂粒多く含む	外・5YR6/6褐色	普通	口縁部2/3残存
113	66	80	SS410	②埋土	土師器・瓶	(24.4)			(25位)	内外面コナナ、内面目、外面下半ナ、内面下半と外底ナナリ	粗砂粒多く含む	10YR4/2灰黄褐色	良好	1/2残存
114	66		SS410	②埋土	土師器・支脚			(16.8)	(14.75)	内外面粗い目・ナ、内面指おさえと工具ナ痕、	粗砂・赤褐色粒子少量含む	10YR6/3鈍い黄褐色	良好	1/2弱残存
115	66		SS410	②埋土	ミニチュア土器			(4.6)	(2.0)	内外面ナ・指おさえ痕	精良	5YR6/2灰褐色、二次被熱	良好	脚部1/3残存
116	66		SS424	③埋土	須恵器・坏身	(10.8)		受部(13.0)	(3.35)	体部～口縁部回転ナ、外底部回転ナナリ	粗砂少量含む	2.5YR5/3鈍い赤褐色	良好	口縁部1/6残存
117	66		SS424	①埋土	須恵器・坏身	(9.8)			(2.9)	回転ナ	精良	7.5Y5.5/1灰色	普通	口縁部1/4残存
118	66		SS424	①埋土	須恵器・坏	(13.6)			(3.0)	回転ナ	粗砂少量含む	10Y5/1灰色	良好	口縁部1/4残存
119	66		SS425	⑤埋土	土師器・鉢	(11.5)			(4.0)	器壁磨滅し、調整不明	精良	7.5YR7/4鈍い褐色	やや不良	口縁部1/4残存
120	67		遺構面		須恵器・坏蓋	(13.7)		鈕部(2.6)	(1.4)	内外面回転ナ、蓋外面回転ナナリ	精良	N5/灰色	良好	口縁1/6残存
121	67		遺構面		須恵器・皿			(11.2)	(1.4)	内外面回転ナ、外底部ナナリ	精良	10Y5/1灰色	良好	底部1/8残存
122	67		遺構面		須恵器・坏身	(12.8)			(3.1)	内外面回転ナ	粗砂を少量含むが精良	2.5Y5/1黄灰色	良好	口縁部1/4残存
123	67		遺構面		須恵器・坏蓋	(15.1)			(3.2)	回転コナナ	精良	2.5Y7/2灰黄色	不良	口縁部1/8残存
124	67		遺構面		須恵器・坏蓋				(2.85)	内面ナ、外面回転ナナリ	精良	5Y6/1灰色	良好	口縁部1/8残存
125	67		遺構面		須恵器・坏身	(11.4)		受部(13.2)	(1.95)	回転ナ、口縁部回転ナ	砂粒少量含む	10Y5/1灰色	良好	口縁部1/6残存

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	流量 cm (0は復元・残)				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
126	67		遺構面		須恵器・坏身				(2.6)	コナテ、4号記号あり	精良	5Y5/1灰色	良好	小破片
127	67		遺構面		土師器・坏			(8.0)	(1.8)	全体に磨滅、口縁部回転行か、外底部がスリ後	粗砂粒多く含む	7.5YR7/4鈍い橙褐色	やや不良	底部1/2残存
128	67		遺構面		土師器・坏	(13.1)		(7.4)	3.4	体部コナテ、外底部がスリ後	精良	7.5YR6/4鈍い橙褐色	普通	約1/4残存
129	67		遺構面		土師器・坏	(13.5)		(8.4)	3.4	やや磨滅、行か	5YR6/6橙褐色・精良	7.5YR8/3淡黄褐色	やや不良	口縁部1/4残存・白化粧?
130	67		遺構面		土師器・壺				(4.7)	口内面から外面コナテ・ナメの跡目	粗砂含む	7.5YR7/4鈍い橙褐色	普通	口縁部小破片
131	67		遺構面		土師器・壺	(25.8)			(5.1)	口縁部行、頸部内面がスリ	粗砂粒多く含む	10YR6/3鈍い黄褐色、黒斑あり	良好	口縁部1/8残存
132	67		遺構面		土師器・壺	頸部(10.0)	(13.7)		(7.85)	胴部外面行で雑な仕上げ、内面がスリ	粗砂粗砂粒多く混入	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	口縁～胴部1/2弱残存
133	67		遺構面		土師器・壺	推定4.8	(8.4)		(4.3)	内外面行、口縁内面コナテ・工具痕、内面指おさえ痕	1～2mmの粗砂粒多く混入	7.5YR6/4鈍い橙褐色	普通	胴部約1/4残存
134	67	80	遺構面		土師器・高坏	(17.5)		(10.2)	12.2	全体に磨滅がひどく調整不明	砂粒・金雲母粒含む	5YR5/4鈍い赤褐色	普通	坏部～胴部1/3残存
135	67		遺構面		土師器・高坏			(11.4)	(9.1)	内面がスリ、外面磨滅・行か	粗砂・金雲母少量含む	10YR6/3鈍い黄褐色	普通	脚部1/3残存
136	67		遺構面		土師器・高坏			(12.3)	(4.7)	脚部外面細かい行跡目、裾部行、4か所に円孔あり	砂粒少量含む	10YR6/3鈍い黄褐色	普通	脚部破片
137	67		遺構面		土師器・高坏	軸部(3.7)			(5.4)	脚部内面行・行跡目、外面がスリか、裾部3か所の円孔あり	粗砂多く含む	7.5YR5/4鈍い褐色	良好	脚部破片
138	67	80	遺構面		土師器・台付鉢			(10.2)	(3.4)	内外面細かい行跡目	赤色粒子・砂粒少量含む	5YR7/4鈍い橙褐色	普通	脚部1/2残存
139	67		遺構面		土師器・鉢	(12.5)			(4.0)	磨滅がひどく調整不明	金雲母少量含む	7.5YR6/6橙褐色	やや不良	口縁～胴部1/5残存
140	67		遺構面		土師器・鉢	(15.7)			(6.75)	器壁荒れるが内面行、外面ハ	粗砂粒多く混入	10YR7/3鈍い黄褐色	普通	口縁部1/6残存
141	67		遺構面		弥生土器?壺	(11.9)	(17.8)		(9.8)	胴部内面粗いコナテ目	細砂を少量含む	2.5Y6/2灰黄色	普通	口縁～胴部1/3残存
142	67		遺構面		土師器・壺				(5.7)	行、外面沈線状の文様	粗砂粒多く混入	2.5Y6/3鈍い黄色、黒斑あり	普通	口縁部破片
143	67		遺構面		土師器・壺	(15.0)			(5.7)	口縁部磨滅するが行、頸部がスリ・シカキ	粗砂若干含む	7.5YR5/3鈍い褐色	良好	口縁部1/5残存
144	67		遺構面		土師器・壺	(17.8)			(2.3)	行	砂粒多く含む	5YR5/4鈍い赤褐色	良好	口縁部1/6残存
145	67		遺構面		土師器?・壺	(33.9)			(5.65)	口縁外面工具コナテ、内面コナテ、頸部外面粗い行跡目	粗砂粒多く含む	2.5Y6/3鈍い黄色	良好	口縁部1/4残存
146	67		遺構面		弥生土器・壺				(5.3)	内面粗い行、外面櫛目波状文・行	粗砂多く混入	2.5Y6/3鈍い黄色	普通	肩部小破片
147	68		遺構面		須恵器・坏	(12.4)		(7.0)	3.8	外底がスリ後行、内面行	砂粒少量含む	10YR6/1灰色	良好	1/3残存
148	68		遺構面		土師器・皿	(15.9)		(11.5)	1.6	体部回転行、外底部回転がスリ後	精良	7.5YR6/4鈍い橙褐色	良好	口縁部1/6残存
149	68	80	遺構面		須恵器・壺	(20.0)			(9.9)	口縁部回転行、胴外面平行行跡後行、内面行で当て具痕	精良、黒色粒子少量含む	7.5Y5/1灰色	良好	口縁部1/8残存
150	68		遺構面		土師器・壺	(27.2)			(6.3)	胴外面～口縁部内面粗い行跡目、内面がスリ	砂粒若干含む	10YR6/4鈍い黄褐色	良好	口縁部1/6残存
151	68		遺構面		弥生土器・台付鉢?	(22.4)			(5.7)	磨滅がひどく調整不明	粗砂粒多く含む	7.5YR6/4鈍い橙褐色	普通	口縁部1/6残存
152	68		遺構面		弥生土器・器台	(13.3)			(11.0)	内外面指行・仕上げ、外面行	粗砂粒多く含む、赤褐色粒子・雲母片も含む	2.5Y7/3淡黄色	良好	口縁部1/3残存
153	69	80	SX429		弥生土器・鉢	7.2			4.9	指おさえ仕上げ	精良	鈍い黄褐色	普通	ほぼ完形
154	69		SX429		弥生土器・鉢?	(9.4)			(5.9)	磨滅がひどく調整不明	砂・赤褐色粒子多量混	7.5YR6/4鈍い橙褐色	普通	1/5残存
155	69		SX429		弥生土器・壺	(21.4)			(9.0)	全体に磨滅がひどい、内面指おさえ痕	粗砂粒多く含む	10YR6/4鈍い黄褐色	普通	口縁部1/4残存
156	69		SX429		弥生土器・壺			5.6	(8.5)	胴部外面粗い行跡目、内面と底部がスリ	粗砂粒多く含む	10YR5/4鈍い黄褐色	やや良好	底部破片
157	69		SX430		土師器・壺	頸部(7.6)	(18.0)		(14.7)	内面行かシカキ、外面丁寧なミカキ	粗砂粒多く含む	7.5YR6/4鈍い橙褐色、黒斑あり	良好	胴部1/3残存
158	69		SX430		土師器・壺		(16.0)		(6.75)	外面かなり磨滅行で頸部跡目、内面行、粗いコナテ目	粗砂・赤褐色粒子多く含む	7.5YR6/4鈍い橙褐色	普通	胴部破片
159	69	80	SX430		土師器・壺	(10.2)			(8.4)	外面工具による行、口縁内面跡目後行、胴部内面行	精良	5YR6/4鈍い橙褐色	良好	口縁～胴部1/4残存
160	69		SX430		土師器・壺	(13.4)			(6.35)	器壁かなり磨滅、行	粗砂を少量含む	10YR7/3鈍い黄褐色	普通	口縁部1/4残存
161	69		SX430		土師器・壺	(16.0)			(3.7)	磨滅がひどく調整不明	精良	2.5Y7/2灰黄色	やや不良	口縁部1/2残存
162	69	81	SX430		土師器・壺	(17.4)	(19.2)		(19.1)	胴部外面粗い行跡目、内面粗いコナテ	粗砂粒多く混入	5YR6/4鈍い橙褐色、黒斑	普通	約1/2残存
163	69	81	SX430		土師器・壺	(19.6)	(25.8)		(約30)	胴部外面上半円目、下半板ナテ、内面行で頸部跡目、全体に歪み大	粗砂多く混入	5YR6/4鈍い橙褐色	普通	約2/3残存、底部欠損
164	69		SX430		弥生土器・壺	(25.8)			(7.3)	口縁外面強い工具行、頸部から胴外面粗い行跡目、内面行か	粗砂多く含む	10YR5/2灰黄褐色	普通	口縁部1/3残存
165	69		SX430		弥生土器・器台	(9.9)		(10.8)	(6.5)底部(5.35)	全面に指おさえ痕、行	粗砂粒多く混入	10YR7/4鈍い黄褐色	普通	口縁1/4・底部1/3残存、接合せず
166	69		SX430		土師器・鉢?	(16.6)	(17.1)		(7.45)	全体に磨滅、胴内面工具コナテ	粗砂やや含む	10YR6/3鈍い黄褐色	普通	口縁部1/3残存
167	69	81	SX430		土師器・台付鉢	(16.6)	(13.7)	(12.6)	14.5	胴部内外面がシカキ、脚部外面行・ナメの跡目、内面がスリ後行	精良、粗砂含む	5YR7/6橙褐色	普通	2/3残存
168	69	81	SX430		土師器・台付鉢	11.2～12.0	10.5		(7.1)	胴部スリ行か	粗砂粒多く含む	7.5YR7/4鈍い橙褐色	普通	鉢部ほぼ完存、歪み大きい
169	70	81	SX431		土師器・壺	(13.4)	(16.2)		(12.0)	口縁部行、胴部外面跡目後行、内面行・跡目	粗砂少量含む	10YR8/4淡黄褐色	良好	口縁～胴部1/3残存・底部欠損
170	70	81	SX431		土師器・壺	(14.8)	(17.7)		(11.7)	胴部外面跡目、内面行・跡目、口縁部行	粗砂粒多く含む	2.5Y6/3鈍い黄色、外面以付蓋	良好	口縁～胴部1/3残存
171	70		SX431		土師器・壺	(13.4)			(4.4)	胴内面がスリ、外面行	粗砂を少量含む	7.5YR6/4鈍い橙褐色	普通	口縁1/3～頸部1/2弱残存
172	70		SX431		土師器・壺	(13.2)			(3.15)	行、口縁内面跡目	粗砂粒多く含む	10YR6/1褐色	良好	口縁部1/4残存
173	70		SX431		土師器・壺	(17.8)			(8.6)	胴部外面やや磨滅で平行行跡、内面上半行、細かいコナテ目	粗砂粒多く含む	10YR7/4鈍い黄褐色	やや不良	口縁部1/4残存
174	70		SX431		土師器・壺		(20.6)		(11.9)	内面がスリ、外面跡目	粗砂粒多く含む	10YR5/2灰黄褐色	良好	胴部1/4残存
175	70		SX431		土師器・壺か壺	頸部(10.8)	(18.7)		(8.3)	胴部外面平行行跡、内面丁寧なスリ・当て具痕	精良、砂粒含む	2.5Y6/1黄灰色	良好	頸部1/6残存
176	70		SX431		土師器・鉢	(11.9)			5.9	内面丁寧な行、外面やや磨滅・シカキ・跡目	細砂多く含む	10YR6/2灰黄褐色	普通	口縁部1/3残存

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	流量 cm (Jは復元・残)				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
177	70		SX431		土師器・鉢	(13.9)			(3.4)	磨減がひどい、フ	粗砂多く含む	7.5YR8/4浅黄褐色	普通	約1/3残存
178	70		SX431		土師器・高坏	(22.6)			(7.0)	口縁外面の目後行、底部シカ	砂粒多く含む	7.5YR7/3鈍い褐色	普通	坏部1/6残存
179	70		SX431		土師器・高坏	(20.2)			(7.0)	口縁外面の目後行、底部丁寧なフ	粗砂粒含む	7.5YR8/3浅黄褐色	普通	口縁部1/4残存
180	70	81	SX431		土師器・高坏			(16.6)	(11)	内面フ、シカ、外面フ、後細かい目	精良、粗砂粒少量含む	10YR8/3浅黄褐色	普通	脚部破片
181	70	81	SX431		土師器・高坏			(10.7)	(7.6)	全体に磨減し調整不明、脚部内面シカ	粗砂粒多く含む	7.5YR7/6褐色	やや不良	脚部破片
182	70		SX431		土師器・高坏				(6.65)	内面ハカスリ、外面フ	粗砂粒多く含む	7.5YR7/3鈍い褐色	普通	脚部残存
183	70	81	SX432		弥生土器・高坏	(34.2)		(18.4)	(24以上)	坏部磨減シカ、脚部外面の目後行、内面フ、シカ	砂粒・赤褐色粒子多く含む	5YR7/6褐色	普通	1/2残存・円形1cm四方遺かし
184	70		SX431		土師器・器台	(8.0)			(1.9)	磨減し調整不明	粗砂粒多く含む	5YR7/4鈍い褐色	やや不良	坏部1/2弱残存
185	70		SX431		土師器・鼓形器台	残存部(16.8)			(3.5)	内面ヨコ後行で工具痕、外面フでフ	精良	7.5YR7/3鈍い褐色	良好	体部1/6残存、山陰系か?
186	70		SX431		土師器・台付鉢			(14.0)	(4.4)	外面ハカスリ、内面脚部ハカ	精良	2.5Y4/1黄灰色	普通	脚部1/4残存
187	70	81	SX431		弥生土器・器台			(13.6)	(11.35)	内面指方調整・シカ、外面フ、後好フ	粗砂粒多く含む	7.5YR5/3鈍い褐色	良好	脚部1/4残存
188	70		SX431		弥生土器・器台			(15.2)	(16.85)	フ、裾部外面平行叩き、内面指おさえ痕	粗砂粒・赤褐色粒子多く含む	10YR6/3鈍い黄褐色	良好	脚部1/3残存
189	70		SX431		ミニチュア土器・壺	(5.4)			(3.6)	フ、内面指おさえ痕	精良	2.5Y5/2暗黄褐色	普通	胴部1/4残存
190	70		趾3下	包含層	土師器・内子	長(6.05)	幅(3.3)	厚(1.4)	(2.2)	指おさえ上げ	精良	2.5Y7/2灰黄色	普通	把手部のみ残存
191	71		趾3下	包含層	須恵器・瓿		(10.6)		(4.3)	回転行、肩部凹孔あり	精良	N5/灰色	良好	胴部1/6残存
192	71		趾3下	包含層	土師器・壺	(10.0)			(5.25)	口縁内面ハカスリ、胴部内面粘土接合痕	粗砂粒少量含む	5YR5/6明赤褐色	良好	口縁部1/4残存
193	71	81	趾3下	包含層	土師器・甕	(11.6)			(6.2)	口縁部フ、胴部外面フで一部ハカスリ、内面ハカスリ	微砂・金雲母等を多く含む	7.5YR6/2灰褐色、外面ハカスリ	良好	口縁部1/2弱残存
194	71		趾3下	包含層	土師器・甕	(14.8)			(4.6)	口縁部ハカスリ、胴部外面ヨコフ、胴部内面ハカスリ	砂粒・雲母粒多く含む	7.5YR7/3鈍い褐色、口縁部ハカスリ	良好	口縁部1/3残存
195	71		趾3下	包含層	土師器・甕	(15.2)			(8.2)	全体に磨減、口縁ハカスリ、胴部外面上半フ、下半ハカスリ、胴部内面ハカスリ	粗砂粒少量含む	10YR7/2鈍い黄褐色	普通	口縁部1/3強残存
196	71		趾3下	包含層	土師器・甕	(15.0)	(18.6)		(9.9)	口縁部ヨコフ、胴部内面ハカスリ、外面ハカスリ	細砂を多く含む	10YR5/2灰黄褐色	良好	口縁部1/3残存
197	71		趾3下	包含層	土師器・甕	(16.0)			(6.9)	口縁部フ、胴部外面ハカスリ、内面ハカスリ	粗砂粗砂多く含む	10YR6/2灰黄褐色	普通	口縁部1/4残存
198	71	81	趾3下	包含層	土師器・甕	(15.2)			(8.9)	胴外面ハカスリ平行ハカスリ後行、内面ハカスリ後行	微砂多く含む	7.5Y4/1灰色〜2.5Y8/3淡黄褐色	良好	口縁部1/2残存
199	71		趾3下	包含層	土師器・甕	(20.4)			(7.85)	胴部内面ハカスリ、外面下半好又はハカスリ	微砂を少量含む	10YR7/4鈍い黄褐色	普通	口縁部1/3残存
200	71		趾3下	包含層	土師器・甕	頸部(13.4)			(5.8)	胴外面ハカスリ平行ハカスリ後行、内面ハカスリ後行、頸部内面粘土帯残	粗砂粒多く含む	10YR2/3鈍い黄褐色	普通	胴部1/4残存
201	71		趾3下	包含層	土師器・甕	(16.0)	(24.2)		(27.0)	口縁部ヨコフ、胴部外面ハカスリ、内面ハカスリ	細砂多く含む	10YR6/3鈍い黄褐色	良好	約1/3残存・底部直接接合せず
202	71		趾3下	包含層	土師器・壺	頸部(11.4)			(9.8)	磨減著しく調整不明、内面ハカスリ	粗砂粒多く含む	10YR7/4鈍い黄褐色	普通	胴部1/4残存
203	71		趾3下	包含層	土師器・壺	(6.0)			(5.55)	磨減がひどく調整不明	精良	5YR6/6褐色	不良	口縁部1/3残存
204	71		趾3下	包含層	土師器・壺	(13.6)	(15.3)		(18.7)	外面丁寧なフ、ハカスリ、内面ハカスリで指おさえ痕残	精良	7.5YR6/3鈍い褐色	普通	約1/3残存・底部欠損
205	71	82	趾3下	包含層	土師器・鉢か小型丸底壺	(11.4)			6.4	丁寧なフ	精良、金雲母細片含む	7.5YR6/3鈍い褐色	良好	1/2弱残存
206	71		趾3下	包含層	土師器・鉢か小型丸底壺		頸部(8.4)		(5.3)	磨減がひどく調整不明	砂粒・赤褐色粒多く含む	5YR7/6褐色	良好	1/4残存
207	71		趾3下	包含層	土師器・鉢	(15.4)			(4.05)	全体に磨減がひどい、フ	砂粒・赤褐色粒多く含む	7.5YR8/4浅黄褐色	普通	口縁部1/4残存
208	71	82	趾3下	包含層	土師器・高坏	(24.0)			(8.15)	口縁内面ヨコフハカスリ、外面・内底部暗文ハカスリ	赤褐色粒子・粗砂粒少量含む	10YR6/6明黄褐色	普通	坏部2/3残存
209	71	82	趾3下	包含層	土師器・高坏		軸部3.7		(8.6)	内面ハカスリ後行、外面磨減シカ、円形孔2ヶ所	精良	2.5Y6/2灰黄色	良好	脚部
210	71	82	趾3下	包含層	土師器・高坏			13.7	(8.3)	脚内面指方、外面フ、裾部内面ハカスリ、外面ハカスリ、円形孔あり	精良	10YR6/4鈍い黄褐色	良好	脚部
211	71		趾3下	包含層	土師器・高坏			(12.8)	(5.6)	磨減がひどく調整不明	精良	5YR8/8褐色	普通	脚部1/6残存
212	71		趾3下	包含層	土師器・高坏			(16.2)	(2.5)	磨減がひどい、ハカスリ、円孔あり	精良	10YR7/2鈍い黄褐色	不良	脚部1/6残存
213	72	82	趾3下	包含層	土師器・器台	(9.8)		(12.0)	8.5	外面丁寧なフ、脚部2ヶ所の円孔	精良	7.5YR6/4鈍い褐色	良好	1/2残存
214	72		趾3下	包含層	土師器・鉢	(14)			(5.2)	丁寧なフ、内面ハカスリ	精良	10YR6/2灰黄褐色	良好	1/2弱残存
215	72		趾3下	包含層	弥生土器・鉢	(22.6)			(8.55)	外面ハカスリ後行、内面ハカスリに近いフ、ハカスリ	粗砂粒多く含む	10YR6/4鈍い黄褐色	良好	約1/2残存
216	72		趾3下	包含層	土師器・台付鉢	脚台基部(4.8)			(5.45)	内外面丁寧なフ	粗砂粒多く含む	10YR7/4鈍い黄褐色	普通	坏部1/2残存
217	72	82	趾3下	包含層	弥生土器・器台			(14.8)	(16.8)	外面ハカスリ、内面指方調整	粗砂粒多く含む	7.5YR6/4鈍い褐色	普通	約1/3残存
218	72		趾3下	包含層	弥生土器・器台			(14.7)	(13.0)	外面ハカスリ、内面フ	砂粒多く含む	7.5YR5/3鈍い褐色	良好	約1/3残存・頂部欠損
219	72		趾3下	包含層	弥生土器・器台	(10.5)			(11.7)	外面ハカスリ、内面ハカスリ	粗砂・赤褐色粒子多く含む	5YR7/4褐色	普通	口縁部1/3残存・脚部欠損
220	72		趾3下	包含層	ミニチュア土器・鉢?	(2.8)			(2.8)	指おさえ上げ	精良	7.5YR8/4浅黄褐色	普通	1/3残存
221	72		趾3下	包含層	ミニチュア土器・鉢	(5.8)		(2.1)	4.3	指方仕上げ、指おさえ痕	粗砂若干含む	10YR7/3鈍い黄褐色	普通	約1/2残存
222	72		趾3下	包含層	ミニチュア土器・鉢	6.6			3.7	内外面指おさえ上げ	粗砂少量含む	2.5Y6/2灰黄色	良好	1/3残存
223	72		趾3下	包含層	弥生土器・壺				(3.4)	外面竹管文あり	粗砂多く含む	10YR7/3鈍い黄褐色	普通	口縁部小破片
224	72		趾3下	包含層	土師器・甕				(11.2)	内外面ハカスリ、頸部三角の刻目突帯	精良、微砂少量含む	10YR7/4鈍い黄褐色	普通	口縁部小破片
225 226	72		趾3下	包含層	弥生土器・甕				(8.2)	細かい目	粗砂多く含む	7.5YR4/2灰褐色	普通	225・226は同一胴部片
227	72		趾3下	包含層	弥生土器・壺	頸部(12.2)	(32)		(14.4)	内外面やや磨減、内面板行、工具痕、外面フ	粗砂・細砂多く含む	7.5YR7/4鈍い褐色	普通	頸〜胴部1/3残存
228	72		趾3下	包含層	弥生土器・壺	頸部(19.4)			(7.4)	磨減がひどく調整不明	砂多く含む	5YR7/8褐色	やや不良	頸部1/4残存
229	72	82	趾3下	包含層	弥生土器・高坏	(22.2)			(8.1)	磨減がひどい、フ、ハカスリ	粗砂粒多く含む	5YR6/3鈍い褐色	普通	坏部破片
230	72	82	趾9中		土師器・小型丸底壺	(9.6)	(10.2)		(5.6)	口縁内面ヨコフハカスリ、胴部内面ハカスリ、指おさえ痕、外面調整不明	精良	7.5YR7/4鈍い褐色	やや不良	口縁部1/2弱残存
231	72		趾9中		土師器・鉢	(12.4)			(3.8)	磨減がひどく調整不明	精良	7.5YR7/4鈍い褐色	普通	口縁部1/6残存



報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
232	72	82	畦9中		弥生土器・壺	(20.2)			(10.0)	磨滅するが口縁部が、胴部が	砂粒多く含む	7.5YR7/3鈍い橙黄色	やや良	口縁部1/5残存
233	72	82	畦9中		弥生土器・壺	(19.4)			(7.2)	内外面々目、外面線刻あり	砂粒少量含む	7.5YR7/3鈍い橙黄色	普通	口縁部1/3残存
234	73	82	畦9		弥生土器・壺	(21.4)	(25.9)		(37)	口縁部不明、胴内外面々目	粗砂粒多く含む	2.5Y5/2暗灰黄色	普通	口縁部1/3、胴部1/6残存
235	73	82	畦9		弥生土器・壺		(53.8)		(24.05)	内外面々、断面台形の刻目突帯	粗砂粒多く含む	2.5Y5/2暗灰黄色	普通	胴部1/8残存
236	73	82	遺構面下	包含層	須恵器・坏	14.1~14.3		9.9	3.7	体外面調整不明、内面コナリ、外底部がナリ	精良	2.5Y7/3浅黄色	普通	完形
237	73	83	灰土		土器器・坏	(14.3)		8.0	3.6	体外面調整不明、外底回転ナリ後ナリ	砂粒若干含む	10YR6/3鈍い黄褐色	良好	1/3残存
238	73	83	灰土		土器器・壺	頸部(5.1)	7.2		(6.0)	磨滅するが、手捏ねで指おさえ痕	粗砂粒多く含む	5YR6/6橙黄色	普通	口縁部欠損
239	73	83	遺構面下	包含層	土器器・壺?	(16.0)			(9.9)	内面強いナリ、外面細かいナリ	精良、金雲母等含む	10YR6/2灰黄褐色	良好	胴部1/3残存
240	73	83	遺構面下	包含層	土器器・壺	(11.3)	(17.0)		(10.2)	胴部々々、口縁外面ナリ、内面コナリ	砂粒少量含む	2.5Y6/3鈍い黄色	普通	口縁~胴部破片
241	73	83	遺構面下	包含層	土器器・壺	(12.2)			(5.6)	やや磨滅、胴外面ナリ、内面コナリ	粗砂粒多く含む	5YR7/4鈍い橙黄色	普通	口縁~胴部1/4残存
242	73	83	遺構面下	包含層	土器器・鉢	(16.5)			(5.1)	やや磨滅、外面ナリ又はコナリ、内面丁寧ナリ	細砂・赤色粒子やや含む	7.5YR6/3鈍い褐色	普通	1/5残存
243	73	82	遺構面下	包含層	土器器・器台	(8.4)			(2.9)	内面磨滅し調整不明、外面コナリ	砂粒多く混入	5YR6/6橙黄色	普通	口縁部1/2残存
244	73	83	遺構面下	包含層	土器器・高坏	(23.8)			(14.3)	外部外面ナリ、内面・胴部丁寧ナリ、コナリ	精良	10YR6/2灰黄褐色	普通	口縁部1/2、他は小片
245	73	83	遺構面下	包含層	土器器・器台	(13.8)			(15.6)	胴部外面ナリ、他はナリ	砂粒多く含む	10YR6/3鈍い黄褐色	良好	口縁~胴部1/4残存
246	73	83	遺構面下	包含層	弥生土器・壺	頸部(12.4)	(24.6)		(12.5)	外面上半部の平行叩き、内面板ナリ後々、工具痕	粗砂多く、金雲母等含む	10YR5/2灰黄褐色	良好	頸~胴部1/4残存
247	73	83	遺構面下	包含層	弥生土器・壺			(6.6)	(1.8)	やや磨滅、ナリか、底部二重の同心円状の溝あり	精良	10YR4/2灰黄褐色	普通	底部1/4残存
248	73	83	遺構面下	包含層	弥生土器・器台	(11.2)			(11.4)	外面ナリ、内面指ナリ、口縁コナリ	粗砂粒多く含む	7.5YR4/1褐色	普通	口縁部1/3残存
249	73	83	遺構面下	包含層	弥生土器・壺	(23.8)			(12.0)	内外面ナリコナリ	砂粒多く混入	7.5YR5/4鈍い褐色	普通	口縁部1/2残存
250	73	83	遺構面下	包含層	弥生土器・壺	(43.6)			(10.7)	口縁部内外面細かいナリ	粗砂粒多く含む	10YR7/4鈍い黄褐色~5YR6/6橙黄色	良好	口縁部1/8残存
251	73	83	遺構面下	包含層	弥生土器・壺			7.2	(4.4)	外面ナリ、内面指ナリ、底部穿孔あり	砂粒多く混入	5YR5/4鈍い赤褐色	良好	底部のみ残存
252	74	83	SS200	②埋土	土製品・投弾	長3.4	径1.8~1.9			丁寧ナリ仕上げ	精良	2.5Y6/1黄灰色	良好	完形
253	74	83	SS200	④埋土	土製品・鐘	幅(3.7)	長(6.0)			磨滅がひどい、ナリ仕上げ	粗砂粒多く含む	2.5Y8/3淡い黄色	不良	約1/2残存
254	74	83	SS200	⑦埋土	焼粘土塊	幅4.3	長3.9	厚2.4		未調整	砂粒多く含む	5YR6/2鈍い橙黄色	普通	ほぼ完形
255	74	83	遺構面下	包含層	土製品・杓子	長(6.45)	幅(3.35)		(1.85)	丁寧ナリ	精良	2.5YR7/3灰黄色	普通	一部欠損
256	74	83	遺構面下	包含層	不明土製品	幅3.5	長3.9	厚1.4		丁寧ナリ、粘土を二つ折りして成形	精良 N4/灰色	2.5Y6/2灰黄色~7.5YR6/3鈍い褐色	良好	欠損品
257	74	83	遺構面下	包含層	粘土塊	幅8.6	長7.7	厚4.8		全体手捏ね仕上げ	砂粒やや多く含む	10YR6/3鈍い黄褐色	普通	ほぼ完形
258	74	83	遺構面下	包含層	移動式竈	幅(17.1)			(23.2)	ナリ調整、粗いナリ	砂粒少量含む	10YR6/3鈍い黄褐色、内側は付着	良好	底部分か?
259	74	83	遺構面下	包含層	土製品・円板	径4.8			1.9	全体に磨滅、内面指おさえ、縁辺打ち欠き	粗砂多く含む	7.5YR6/2灰褐色	普通	高坏片再利用か

Tab.3-2 Ⅲ面出土石製品観察表

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は残			石材	色調	調整・備考
						長	幅	厚			
S1	75	83	SD190	M-20区	凹石	12.5	12.7	7.9	安山岩?	5Y5/1灰色	上面・下面に使用痕、各側面は粗割、表面気泡多し
S2	75	83	SD198	Q-21区	石磨丁	3.9	12.1	0.3	輝緑凝灰岩	2.5YR3/2暗赤褐色	立岩産か?全体に使用による磨滅・風化著しい
S3	75	83	SD390	Q-21区	砥石	(30)	12.7	(5.2)	砂岩・長方形の自然礫	5Y6/5オリーブ黄色・灰色味が強い	上面は使用等による磨滅・欠損著しい、下面欠損
S4	75	83	SD390	I区底	砥石或いは石皿	(8.9)	(7.3)	(4.1)	砂岩(目細かい)	10Y5/1灰色	破片、左側面丁寧な磨り、上下両面砥石としての使用面
S5	75	83	SD390	I区々々	石磨丁転用品か	2.35	(2.0)	0.6		2.5GY6/1オリーブ灰色	石磨丁の粒孔部分
S6	75	84	SX399	R-22区、礫周辺	凹石	16.6	10.7		砂岩	5Y6/1灰色	使用による敲打痕残る
S7	75	84	SX432		砥石				砂岩	2.5Y6/1黄灰色	上・底・左右側面使用、上面敲打痕あり
S8	75	84	SS192	①埋土	石持勾玉	10.2	(5.9)	(2.6)	滑石	7.5Y4/1灰色	片面の欠損著しい・復元径2.8cm
S9	75	84	SS200	⑨埋土	石斧	12.4	6.9		玄武岩か	N5/灰色	敲打痕・使用擦痕残る
S10	75	84	SS200	⑦埋土	凹石或いは砥石	9.7	6.5	3.75	凝灰岩	5GY8/1灰白色	上・底・左右側面敲打使用痕、磨り面
S11	75	84	SS424	①埋土	砥石	9.8	7.25		石英凝灰岩	2.5Y7/3浅黄色	上下両面、左側面は磨り、敲打使用痕・窪みが残る
S12	76	84	遺構面下	O-22区	石磨丁	(7.55)	4.25	0.66	輝緑凝灰岩	5YR4/1褐色赤味を帯びる	丁寧な研磨仕上げ、使用痕が多く残り刃部や表面の欠損が著しい、立岩産
S13	76	84	遺構面下	P-21区	石磨丁	(5.0)	4.45	0.5	輝緑凝灰岩	2.5YR3/2暗赤褐色	粒子細密、刃部と背部が精円形、立岩産か
S14	76	84	遺構面下	P-24区	有溝石鏃	(3.55)			砂岩	7.5Y6/2灰褐色	表面に十字の溝が通る
S15	76	84	畦3中	O-21区	石斧刃部再利用の砥石	11.5	8.0		玄武岩	5Y7/1灰白色	研磨痕・敲打痕残る、やや多孔質
S16	76	84	畦3下	O-21区包含層	石磨丁未製品	(9.1)	6.4	1.1	粘板岩	N7/1灰白色	粗割り成形途中で欠損
S17	76	84	遺構面下	N-22区包含層	挟片刃石斧	13.6	4.5		頁岩	7.5Y8/1灰白色	丁寧な研磨仕上げ、挟り部は敲打仕上げ
S18	76	85	遺構面下	P-24区、包含層	砥石	(14.4)	9.4		砂岩	5Y7/1~7/2灰白色	右側面は砥石の使用面、他は粗い敲打調整
S19	76	85	遺構面下	Q-21区包含層	磨石	8.95	(6.25)		砂岩か礫岩	7.5Y5/1灰色	右側面と上面は敲打使用痕
S20	76	85	遺構面下	P-24区包含層	石磨丁	(5.5)	(3.1)	0.45	結晶片岩?	2.5GY6/1~5/1オリーブ灰色	研磨仕上げ、全面的に欠損著しい
S21	76	85	遺構面下	P-24区包含層	石磨丁	(4.75)	(3.8)	0.45	結晶片岩?	2.5GY6/1オリーブ灰色	研磨仕上げ、全面的に欠損著しい
S22	76	85	SS410	P-23区	石鏃	鏃長1.9	1.25	0.33	黒曜石	N1.5/黒色	基部は平基、剥片利用で側面に二次調整を加える
S23	76	85	遺構面下	O-24区	石鏃	鏃長(1.95)	1.7	0.33	黒曜石	N1.5/黒色	先端と基部が欠損、剥片の両面に二次調整を加える
S24	76	85	遺構面下	P-24区	石鏃	鏃長2.0	1.8	0.4	砂岩?	5Y4/1暗灰色	基部は凸基、両面に丁寧な二次調整
S25	76	85	畦3下	O-21区包含層	剥片・石鏃	鏃長(1.95)	(1.45)	0.3	黒曜石	N2/黒色~透明(シラ)	先端と基部が一部欠損、表面は準二次調整、短島産か

Tab. 3-3 III面出土木製品観察表

報告書番号	Fig.	PL	出土遺構	器種	法量cm ( )は残・復元				樹種	木取り	調整・備考
					長	幅	厚	径			
W1	53		SD190、N-20区	二又鍬	(37.5)	(14.2)	1.2		コナラ属アカガシ亜属	板目・辺材?	頭部は丸く作り、長方形の柄つばあり、表面は丁寧な削り仕上げ
W2	53		SD390、O-21区	矢板?	(40.8)	14.6	3.2		コナラ属アカガシ亜属	板目	
W3	59	85	SD190・上層	杭	(148.6)			6.7~7.3	スダジイ	芯持材	
W4	59	85	SD190・上層N-20区	杭	(141.1)			4.7	コナラ属コナラ亜属クヌギ筋	自然木	樹皮が残る
W5	59		SD190	板材	144.3	13.2	1.3~1.5		樹皮		
W6	59	85	谷部、N-19・20区	杭	146.9			6.3~6.5	タイミンタチバナ		杭先は鋭く削り出し、頂部は丸く削って加工
W7	59	85	SX389	矢板	(129)	13.1	4~6.3		ツブラジイ	辺材か	先端杭状に尖り、頂部は半円状に広がる
W8	60		SX389	杭	(111.3)			7~8	コナラ属コナラ亜属クヌギ筋	自然木	頂部を欠損
W9	60	85	SX389	杭	(106.3)	7~8	4~4.8		スダジイ	割材	断面三角ミカ状に割る
W10	60	85	SX389、M-21区	矢板	(96.8)	14.4	2.9~3.2		ツブラジイ	外周部を縦方向に割る	頂部を欠損、先端は両側面から削り出す
W11	60	85	SX423、S-21区	杭	(137.2)	7.0	6.8		スダジイ	断面三角の割材	先端は四方向から削って尖らす
W12	60	85	SX423、S-21区	杭	(137.6)	9.2	3.8		ツブラジイ	半割材	先端は多方向から削りを加えて尖らす

Tab.4-1 IV面出土土器・土製品観察表

報告書番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	種類・器形	法量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底径	器高					
1	85	86	SB579	SP480	高坏			(19.6)		外面縦刷毛・丹塗	砂粒少し含む	10YR7/3にぶい黄褐色	良好	1/4片
2	85		SB580	SP463	土製 投擲						砂粒少し含む	10YR8/2灰白色	良好	完形
3	85		SB590	SP202	壺	(11.6)				体部外面縦刷毛	砂粒少し含む	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	口縁部小片
4	85		SB590	SP205	壺					体部外面縦刷毛	砂粒少し含む	10YR5/3にぶい黄褐色	良好	口縁部小片
5	85		SB590	SP202	器台			(7.6)		外面縦刷毛・肉厚	砂粒少し含む	7.5YR6/6褐色	良好	1/2片
6	85		SB588	SP0363	壺					口縁部に刻目突帯	砂粒少し含む	10YR5/2灰黄褐色	良好	口縁部小片
7	85		SB592	SP0608	壺	(33.6)					砂粒少し含む	10YR6/3にぶい黄褐色	良好	口縁部小片
8	85		SB592	SP0608	壺	(25.4)				外面縦刷毛・内面ナデ	砂粒少し含む	10YR5/2灰黄褐色	良好	口縁部小片
9	91		SC504		小型壺	(13.8)	(13.4)	(12.7)		外面刷毛目・内面上半横刷毛、下半ケズリ	砂粒少し含む	10YR5/1褐色	良好	1/3片
10	91	86	SC504	R-1	小型壺	7.1	9.5	10.0		ナデ・指押さえ	砂粒少し含む	10YR8/2灰白色	良好	完形
11	91		SC504		高坏					横ナデ	砂粒少し含む	5YR6/6褐色	良好	小片
12	91		SC504		蓋					外面縦刷毛後ナデ	精良	10YR8/2灰白色	良好	小片
13	91		SC504		袋状口縁壺					外面に突帯、内外面刷毛目	砂粒少し含む	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	小片
14	欠番													
15	欠番													
16	91		SC522		壺		(23.0)			外面刷毛目・煤付着、内面ケズリ	砂粒少し含む	5Y2/1黒色	良好	1/4片
17	95	87	SD369	1区下層・最下層	陶質土器・把手付鉢		(7.4)	(4.9)	(5.2)	ナデ	精良	N4/やや青味の灰色、灰かぶり	非常に良好	底部1/2弱〜体部下半1/6残存
18	95	87	SD369	1区	土器器・小型丸底壺	7.9	8.85	8.2		外面ナメ一部分、内面指押さえナデ	粗砂粒・金雲母・赤褐色粒子少量含む	10YR8/3浅黄褐色	良好	完形
19	95	87	SD369	1区	土器器・小型丸底壺	9.0	7.65	8.1		胴部外面ナメ目、タタキ復、内面指ナデ	粗砂粒・金雲母・赤褐色粒子少量含む	7.5YR6/2灰褐色	良好	口縁部一部欠損
20	95	87	SD369	1区上層	土器器・小型丸底壺		(8.45)	6.0	(7.35)	胴部内外面指押さえナデ調整	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	10YR7/1灰白色、黒斑あり	良好	体部1/2弱残存
21	95		SD369	1区	土器器・壺	(13.4)		(4.65)		内面ナデ、外面ナデで一部ハケ目	粗砂粒・金雲母微粒やや多く含む	7.5YR6/2灰褐色、黒斑あり	良好	口縁〜胴部1/4残存
22	95		SD369	1区上層	土器器・壺	10.7		(7.0)		口縁部から外面ナデ、胴内面はケズリ	粗砂粒・赤褐色粒子少量含む	10YR7/2鈍い黄褐色、黒斑あり	良好	口縁〜胴部ほぼ全周
23	95	87	SD369	1区	土器器・壺	(17.6)	25.95	28.6		外面胴部ナメ目ナデ、内面ナデナリ後ナデ	粗砂粒・金雲母微粒わずかに含む	10YR8/3浅黄褐色、黒斑あり	良好	口縁部2/3欠損、布留式
24	95		SD369	1区	土器器・壺			3.8	(5.1)	外面板ナデ、内面ナデナリ	粗砂粒・赤褐色粒子多く含む	7.5YR8/2灰白色・上部スズ付着	良好	底部残存
25	95	87	SD369	1区下層	ミチア土器・鉢	(4.4)	(4.9)	3.4		指押エ・ナデ	粗砂粒少量含む	7.5YR7/2明褐色、黒斑あり	良好	口縁1/8〜体部1/6残存
26	95	87	SD369	1区	ミチア土器・鉢	5.9	6.75	3.95	5.4	指押エ・ナデ	粗砂粒・金雲母微粒・赤褐色粒子やや多く含む	5YR5/6明赤褐色、一部10YR6/1灰褐色		完形
27	95		SD369	2区	土器器・壺	(11.4)		(3.7)		ナデ	粗砂粒多く含む	10YR6/1褐色	良好	口縁部1/10残存
28	95		SD369	2区	土器器・小型器台		(10.8)	(4.75)		ナデ、内面指押さえ痕 円形孔(焼成前穿孔)2箇所残る、四方渡し	精良、粗砂少量・金雲母微粒わずかに含む	10YR8/3浅黄褐色	良好	脚部1/4残存
29	95		SD369	2区	土器器・鉢			(4.3)		ナデ仕上げ、内面ナメ	粗砂粒わずかに含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁部小破片
30	95		SD369	4区下層	土器器・壺	(17.0)		(9.8)		口縁部ナデ、胴外面ミチアのハケ目、内面ナデナリ	粗砂粒わずかに含む	10YR7/1灰白色、黒斑あり	良好	口縁部1/7残存、32と同一個体か? 布留式
31	95	87	SD369	4区下層	土器器・壺	(16.6)	(22.6)	(14.2)		胴部外面ナメ目後ナデ、内面ナデ	粗砂粒及び金雲母微粒少量含む	10YR8/1灰白色	良好	口縁部1/8〜胴部1/4残存、布留式
32	95	87	SD369	4区下層	土器器・壺	(24.3)		(18.65)		外面ナメ目後ナデ、内面ナデナリ	砂粒わずかに含む	10YR8/1灰白〜10YR7/2鈍い黄褐色、黒斑あり	良好	体部1/3残存、30と同一個体か? 布留式
33	95		SD369	4区底面	土器器・小型器台	(10)		(2.05)		ナデ	粗砂粒多く含む	7.5YR6/4鈍い褐色	良好	坏部1/5残存
34	95		SD369	4区中層	ミチア土器・器台	(5.3)	(6.1)	3.3		内外面指押さえ痕	砂粒・金雲母微粒わずかに含む	10YR7/4鈍い黄褐色	良好	1/4残存
35	95		SD369	4区上層	弥生土器・壺		(2.7)			ヨコナデ、外面竹管文	砂粒・金雲母微粒わずかに含む	7.5YR6/3鈍い褐色	良好	口縁部小破片
36	95		SD369	4区底面	土器器・壺	(23.3)		(6.35)		ハケ目後板ナデで外面帯描状文あり	粗砂粒やや多く含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁部1/16残存
37	95		SD369	4区下層	弥生土器・高坏	(31.2)		(4.3)		内外面ナメナリ	砂粒・金雲母微粒少量含む	10YR8/2灰白〜5YR6/6褐色	良好	口縁部1/4残存
38	96		SD369	5区下層	土器器・壺	(15.6)		(3.1)		ヨコナデ	粗砂粒わずかに含む	5YR7/4鈍い褐色	良好	口縁部1/8残存
39	96		SD369	5区下層	土器器・壺	(18.4)		(3.45)		口縁ヨコナデ、胴外面ナメ目後ナデ	砂粒・金雲母微粒少量含む	10YR8/2灰白色	良好	口縁部1/8残存、布留式
40	96	87	SD369	5区底面	土器器・鉢	(12.8)		(3.4)		ヨコナデ	粗砂粒・金雲母微粒わずかに含む	7.5YR6/3鈍い褐色	良好	口縁部1/7残存
41	96		SD369	3区上層	ミチア土器・鉢	8.0	7.85	3.0	6.9	手捏ね指押さえ痕	精良、粗砂ごくわずかに含む	10YR7/1灰白色	良好	口縁部1/3欠損
42	96		SD369	5区下層	土器器・鉢	(8.4)		(5.4)		内面ナメ	砂粒・金属片の鉱物を少量含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	脚部1/7残存
43	96		SD369	5区底面	土器器・小型器台		(12.8)	(6.15)		外面ナメナリ、内面ナメ後ナデ	精良、金雲母微粒わずかに含む	7.5YR7/4鈍い褐色	良好	脚部1/7残存
44	96		SD369	5区底面	土器器・高坏か器台	(9.2)		(9.85)		脚外面ナメナリ、内面ナメ・ヨコナデ	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	10YR8/1〜8/2灰白色	良好	胴部小破片
45	96		SD369	5区	土器器・台付鉢?		脚部 3.8	(5.0)		鉢部ナデ 脚部指押さえ痕	粗砂粒多く含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	体部下半残存

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
46	96		SD369	5区下層	土師器・台付鉢			8.1	(3.25)	内面のみ外面指押さえ痕	精良、砂粒・金雲母微粒わずかに含む	10YR6/3鈍い黄褐色～10YR8/3浅黄褐色	良好	胴部残存・端部1/4欠損
47	96		SD369	6区上層	土師器・小型丸底壺	(11.4)	(10.0)		(4.6)	片・コナテ	精良、金雲母・赤褐色粒子わずかに含む	7.5YR6/4鈍い褐色	良好	口縁部1/5残存
48	96		SD369	6区上層	土師器・小型丸底壺	(11.4)	(10.0)		(4.85)	片・コナテ	精良、金雲母微粒・赤褐色粒子含む	5.YR6/6褐色	良好	口縁部1/4残存
49	96		SD369	6区下層	土師器・小型丸底壺	(11.6)	(12.3)		(6.35)	片・部分的にのみ目	精良、微砂粒・赤褐色粒子ごくわずかに含む	7.5YR7/6褐色	良好	口縁～胴上半1/4残存
50	96		SD369	6区	土師器・壺		(12.5)		(3.85)	片・内面指押さえ痕	粗砂粒をやや多く含む	10YR8/1灰白色	良好	頸～胴上部破片
51	96	87	SD369		土師器・壺	(12.1)	(14.2)		13.3	外面片・内面のみ目	精良、粗砂粒・赤褐色粒子わずかに含む	7.5YR7/3鈍い黄褐色～7.5YR7/6褐色	良好	1/2弱残存
52	96	87	SD369	6区上層	土師器・壺	12	(16.5)		14.8	胴部外面のみ、内面へろスリ、底部指押さえ痕	精良、細砂粒わずかに含む	10YR8/2灰白～10YR6/2灰黄褐色、黒斑あり	良好	約1/2残存
53	96		SD369	6区	土師器・壺		(15.4)		(9.35)	胴部外面へろスリ、内面粗いのみ目	精良、金雲母わずかに含む	7.5YR7/2明褐色、黒斑あり	良好	頸～胴部1/3残存
54	96	87	SD369	6区下層	土師器・壺	(17.2)			(8.9)	口縁部コナテ・内面へろスリ	砂粒少量含む	7.5YR5/3鈍い褐色	良好	口縁～胴部1/5残存・山陰系の可能性
55	96		SD369	6区下層	土師器・壺	(13.5)			(3.8)	口縁内面と胴外面へろ目、胴部内面へろスリ	粗砂粒・金雲母微粒ごくわずかに含む	10YR4/1褐灰色、スス付着	良好	口縁部1/5残存・布留式
56	96		SD369	6区上・下層	土師器・壺	(14.8)			(8.65)	胴部外面のみ目、内面へろスリ	粗砂粒わずかに含む	7.5YR8/3浅黄褐色	不良	口縁～胴部上半1/3～1/6残存・布留式
57	96		SD369	6区下層	土師器・壺	(17.4)			(8.0)	胴部外面のみ目、内面へろスリ	粗砂粒少量含む	10YR8/3浅黄褐色、スス付着	良好	口縁～胴部1/8残存・布留式
58	96		SD369	6区	土師器・壺	(16.6)			(5.5)	口縁部コナテ・胴部内面へろスリ	砂粒・金雲母微粒わずかに含む	10YR8/2灰白～7.5YR6/6褐色	良好	口縁部1/4残存・布留式
59	96	88	SD369	6区	土師器・壺	(14.9)	(16.6)		(14.9)	口縁部コナテ・胴部内面へろスリ、外面のみ目	粗砂粒わずかに含む	10YR8/2灰白色	良好	口縁～胴部1/2弱残存・布留式
60	96	88	SD369	6区	土師器・壺	15.8	20.55		22.0	胴部外面のみ目・内面へろスリ	砂粒・金雲母粒わずかに含む	7.5YR4/1褐灰色、スス付着	良好	ほぼ完形・布留式
61	96		SD369	6区上層	土師器・壺		(19.5)		(18.45)	胴部外面のみに内面へろスリ・のみ目	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	10YR6/1褐灰色、スス付着	良好	胴部破片、下に焼成後の穿孔1箇所
62	97	88	SD369	6区下層	土師器・壺	(18.2)	(27.0)		(15.65)	胴部外面上半のみ目後行・下半板片・内面へろスリ	粗砂粒・金雲母微粒・赤褐色粒子やや多く含む	7.5YR6/3鈍い褐色	良好	胴部のみ残存
63	97		SD369	6区下層	土師器・壺	(28.9)	(29.2)		(13.4)	口縁部コナテ・胴部外面の板片後行・頸部指押さえ痕・のみ目、内面片	粗砂粒多く含む	10YR8/2灰白色	良好	口縁部1/6残存
64	97		SD369	6区下層・底	土師器・壺		残存部最大(24.6)		(13.1)	外面のみ目、内面へろスリ	粗砂・金雲母微粒多く含む	7.5YR8/1灰白色、下半部7.5YR4/1褐灰色	良好	底部～胴下半部1/4残存
65	97	88	SD369	6区	土師器・壺	28.2	(26.6)		(15.5)	胴部外面のみにのみ目、内面へろスリ	粗砂粒・金雲母微粒・赤褐色粒子やや多く含む	10YR7/2鈍い黄褐色・黒斑あり	良好	口縁～胴部残存・口縁部1/12欠損
66	97		SD369	6区	土師器・壺	(18.4)			(7.6)	胴部外面横方向の板片、内面へろスリ	粗砂粒を少量含む	10YR8/2灰白色	やや不良	口縁部1/11残存・布留式
67	97		SD369	6区	弥生土器・壺	(12)	(19.4)		(13.9)	内外面のみ目	粗砂粒・白雲母微粒を少量含む	10YR8/3浅黄褐色・黒斑あり	良好	口縁1/10～胴上半1/3残存
68	97		SD369	6区	弥生土器・壺	(17)			(8.9)	外面のみ目後行・胴部内面のみ目	砂粒・金雲母微粒少量含む	5YR6/4鈍い褐色	良好	口縁～胴部1/10残存
69	97		SD369	6区	弥生土器・壺	(30.2)			(17.3)	口縁・胴部内外面のみ目	細かな粗砂及び金雲母微粒をわずかに含む	10YR7/4鈍い黄褐色	良好	口縁～胴上半1/8残存
70	97	88	SD369	6区	土師器・高坏	19.6	(11.8)		12.7	へろスリとのみ目	精良、金雲母微粒わずかに含む	坏部7.5YR8/3浅黄褐色・黒斑あり・胴部7.5YR6/6褐色	良好	口縁1/3・胴部3/4欠損
71	97		SD369	6区上層	土師器・高坏	(18.4)			(6.05)	片・のみ目	粗砂粒・金雲母微粒やや多く含む	7.5YR7/3鈍い褐色・黒斑あり	良好	坏部残存
72	97		SD369	6区上層	土師器・高坏	(17.6)			(7.85)	片・のみ目	粗砂粒やや多く含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁部1/4残存
73	97	88	SD369	6区	土師器・高坏		(15.1)	(11.1)		胴部外面の板片後行・内面へろスリ	粗砂粒わずかに含む、赤褐色粒子やや多く含む	7.5YR8/6浅黄褐色・胴の一部7.5YR5/3鈍い褐色	良好	胴～坏部下残存・胴端部1/8残存
74	97		SD369	6区	土師器・高坏				(7.0)	外面へろスリ、内面片・のり痕	精良、赤褐色粒子わずかに含む	10YR7/1灰白～7.5YR7/6褐色	良好	胴部残存
75	97		SD369	6区	土師器・小型器台				(5.7)	外面へろスリ、内面のみ目	精良、白色砂粒わずかに含む	7.5YR8/4浅黄褐色・黒斑あり	良好	胴部残存・内系系
76	98	88	SD369	6区下層・底面	弥生土器・高坏	(21.2)			(5.75)	外面へろスリ、内面へろスリ	精良、金雲母微粒わずかに含む	7.5YR8/3浅黄褐色・黒斑あり	良好	坏部1/4残存
77	98		SD369	6区ベルト下層	弥生土器・高坏		軸部径4.1		(9.3)	外面のみ目後行	砂粒・金雲母微粒わずかに含む	10YR8/2灰白～10YR8/3浅黄褐色、破損後の被熱	良好	軸部のみ残存
78	98		SD369	6区	弥生土器・高坏			(18.4)	(3.05)	内外面のみ目後行	粗砂粒・赤褐色粒子少量含む	7.5YR8/4浅黄褐色	良好	胴部1/7残存
79	98		SD369	6区上層	弥生土器・高坏	(32.9)			(7.55)	外面板片後行・のみ目、内面のみ目後行	砂粒・金雲母微粒わずかに含む	7.5YR7/4鈍い褐色	良好	坏部1/12残存
80	98		SD369	6区	土師器・鉢	(15.8)			(4.5)	外面へろスリ、口縁～内面片	精良、細砂粒及び金雲母微粒わずかに含む	10YR7/3鈍い黄褐色・黒斑部N2/黒色	良好	約1/3残存
81	98		SD369	6区上層	ミチア土器・鉢	(15.1)			(4.2)	指押さえ後行・外底部板片	粗砂粒・金雲母微粒わずかに含む	10YR7/1灰白色	良好	口縁部1/5残存
82	98		SD369	6区上層	土師器・小型鉢	(11.6)			8.95	胴部外面のみ内面片後行	精良、砂粒・金雲母微粒をわずかに含む	10YR8/2灰白色	良好	胴部～口縁部5/6欠損
83	98		SD369	6区	土師器・台付鉢?		(11)	(4.4)		外面へろスリ内面片・のり痕	粗砂粒・金雲母微粒わずかに含む	10YR8/2灰白～5YR6/6褐色・黒斑あり	良好	胴部1/3残存
84	98		SD369	6区上層	ミチア土器・鉢	(6.7)	(2.8)		5.5	片・指押さえ痕	砂粒をわずかに含む	10YR7/1灰白～5YR6/4鈍い褐色	良好	約1/4残存
85	98		SD369	6区下層	弥生土器・支脚	(5.8)			(9.5)	外面指押さえ痕・内面のみ目	粗砂粒・金雲母微粒わずかに含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	上半部1/3残存
86	98	88	SD369	6区下層	弥生土器・器台	(7.6)		9.1	12.6	指押さえ後行・内面のみ目	粗砂粒やや多く含む	7.5YR7/6褐色・一部被熱するか	良好	口縁7/8・胴部1/2欠損
87	98		SD369	6区上層	弥生土器・器台	(9.2)			(8.4)	のみ目後行・指押さえ痕	砂粒少量含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁部1/2弱残存
88	98		SD369	6区	弥生土器・器台			10.6	(10.3)	指押さえ・片	粗砂粒多く含む	10YR8/3浅黄褐色を主体とし一部5YR6/6褐色	やや不良	胴部のみ残存
89	98		SD369	6区	土師器・瓶		(13.3)	(3.95)		外面片・コナテ・内面のみ目	粗砂粒・金雲母微粒を少量含む	5YR6/3鈍い褐色	良好	底部1/10残存・山陰系?
90	104		SD388	1区上層	土師器・小型丸底壺		(9.8)		(4.45)	外面のみ目後行・内面へろスリ・のみ目	精良、砂粒わずかに含む	10YR8/2灰白色	良好	頸～胴部1/3残存
91	104		SD388	1区上層	土師器・壺	(14.2)			(6.25)	口縁部外面へろスリ、内面コナテ・胴部内面へろスリ	粗砂粒・赤褐色粒子やや多く含む	10YR8/2灰白～N1.5/黒色	良好	胴部～頸部1/3残存
92	104		SD388	1区上層	弥生土器・壺		(22.2)	(10.2)		外面へろスリ、内面のみ目	粗砂粒・赤褐色粒子少量含む	10YR8/2灰白～10YR7/3鈍い黄褐色	良好	胴部1/2弱残存
93	104		SD388	1区上層	弥生土器・壺	(23.4)			(3.65)	口縁内外面波状文・胴部外面片・平行文・波状文	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	10YR6/2灰黄褐～10YR6/3鈍い黄褐色	良好	口縁部1/8残存・山陰系

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
94	104		SD388	1区上層	弥生土器・壺				(5.2)	口縁内外面波状文肩部外面 行*平行文・波状文	砂粒・金雲母微粒少量 含む	10YR8/2灰白～10YR6/3鈍い 黄褐色	良好	肩部1/6残存
95	104		SD388	1区上層 東壁	弥生土器・壺	(22)			(5.7)	口縁部コナテ、頸部内外面 のみ	粗砂粒・金雲母微粒少 量含む	7.5YR5/2灰褐色、黒斑あり	良好	口縁部1/4残存
96	104		SD388	1区上層 東壁	弥生土器・壺	(21.2)			(15.5)	口縁部コナテ、頸部内外面 のみ	粗砂粒・金雲母微粒少 量含む	7.5YR7/4鈍い橙～10YR6/2灰 黄褐色	良好	口縁～頸部1/4残 存
97	104	88	SD388	1区上層	弥生土器・壺	(20.2)			(20.1)	口縁部コナテ、頸部内外面 のみ	粗砂粒ごく少量、金雲 母微粒をやや多く含む	7.5YR8/2灰白～7.5YR8/4浅 黄褐色・黒斑あり	良好	口縁～頸部1/4残 存
98	104		SD388	1区上層	土師器・甕	(16.2)			(3.8)	口縁部行*、胴部内面ハナ リ	粗砂粒・金雲母微粒・赤 褐色粒子わずかに含む	2.5YR8/2灰白～2.5YR6/1黄 灰色	良好	口縁～頸部1/4残 存、布留式
99	104		SD388	1区上層	土師器・甕	(16.9)			(6.5)	胴部外面ハナリ、口内面波 状文	粗砂粒・金雲母微粒少 量含む	10YR7/1灰白色、スス付着	良好	口縁～頸部1/5残 存、布留式
100	104		SD388	1区上層 東壁	弥生土器・甕	(16.3)			(6.6)	口縁部コナテ、胴部外面 外縁のみ、内面のみ後行*	粗砂粒少量含む	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	口縁部1/5残存
101	104		SD388	1区上層	弥生土器・甕	(29.8)			(15.25)	内外面のみ	粗砂粒やや多・金・白雲 母微粒少量含む	10YR5/2灰黄褐～10YR2/1黒 色(煤)	良好	口縁部1/5残存
102	104		SD388	1区上層・ 下層東壁 ベルト	弥生土器・甕	(44.5)	(64)	10.2～ 10.7	(76.5)	口縁外面行*、胴部内面ハ ナリ、口縁内面ハナリ、胴部 内面ハナリ	粗砂粒・金雲母微粒・赤 褐色粒子少量含む	5YR6/6橙～7.5YR6/3鈍い 褐色	良好	口縁～体部上半 1/5残存、他に口縁 部破片あり
103	105		SD388	1区上層	土師器・台付 鉢		脚基部 4.3		(3.8)	内外面行*	粗砂粒・赤褐色粒子少 量含む	7.5YR8/1灰白～7.5YR8/4浅 黄褐色	良好	脚基部残存
104	105		SD388	1区上層 東壁	土師器・小型 器台		脚基部 3.2		(5.75)	脚部外面外縁のみ、内面行* のみ	粗砂粒少量含む	7.5YR8/2灰白色～7.5YR8/4浅 黄褐色	良好	脚部残存、円形孔 1箇所残存
105	105		SD388	1区上層	弥生土器・高 坏	(32)			(5.0)	内外面ハナリ	粗砂粒少量含む	10YR6/3鈍い黄褐色	良好	坏部1/10残存、他 に4点口縁部破片
106	105		SD388	1区上層	弥生土器・高 坏		脚基部 5.5		(12.55)	脚外面ハナリ、内面行*、 口内面ハナリ	粗砂粒少量含む	10YR8/3浅黄褐色	良好	脚部残存
107	105		SD388	1区上層	土師器・鉢			2.9		外面行*後ハナリ、内面密な ハナリ	精良、粗砂・金雲母微 粒わずかに含む	10YR7/1灰白色	良好	口縁部全欠損
108	105		SD388	1区上層	土師器・鉢	(12.1)			(8.2)	外面粗いハナリ、内面行*	粗砂・赤褐色粒子・金雲 母微粒少量含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁部1/10残存
109	105		SD388	1区上層	弥生土器・鉢	(11.7)			(6.05)	外面ハナリ、内面行*、指押 さえ痕	精良、粗砂粒・赤褐色 粒子わずかに含む	10YR8/1灰白～7.5YR6/3鈍い 褐色、黒斑あり	良好	口縁～体部1/10 残存
110	105	88	SD388	1区上層	弥生土器・鉢	(25)			(9.1)	口縁部外面コナテ、内面コ ナテ、底部のみ、内面行*	粗砂粒少量含む	7.5YR5/1褐色灰色、黒斑あり	良好	約1/4残存
111	105		SD388	1区上層	弥生土器・鉢	(18.3)			(7.6)	行*	粗砂粒・金雲母微粒多 く含む	7.5YR6/1褐灰色	やや不良	口縁～体部上半 1/4残存
112	105		SD388	1区上層	土師器・台付 鉢		脚基部 3.7		(8.2)	鉢部内外面のみ、脚部行*	粗砂粒やや多く含む	7.5YR7/2明褐色	良好	脚部～鉢部下半 残存
113	105		SD388	1区上層	土師器・台付 鉢				6.8 (4.25)	行*	粗砂粒・赤褐色粒子わ ずかに含む	7.5YR8/2灰白色	良好	脚部残存
114	105		SD388	1区上層	弥生土器・ 支脚	(7.4)			(8.7)	外面行*、内面ハナリ	粗砂粒多く含む	7.5YR8/3浅黄褐色	良好	口縁2/3、脚部90% 欠損
115	105		SD388	1区上層	弥生土器・支 脚				(9.2) (10.4)	外面行*内面ハナリ	粗砂粒・金雲母微粒多 く含む	10YR7/3鈍い黄褐色	やや不良	脚部約1/2残存
116	105	88	SD388	1区上層	弥生土器・器 台				12.6 (17.75)	外面のみ後行*、内面行*	粗砂粒やや多く含む	10YR7/1灰白～10YR6/2灰 黄褐色	良好	脚部3/4残存
117	105	89	SD388	1区上層	弥生土器・器 台				(16.2) (18.15)	脚外面外縁後のみ後行*、内面行*	粗砂粒多く含む	10YR8/3浅黄褐色	良好	脚～体部1/2～2/3 残存
118	105	89	SD388	1区上層 東壁	弥生土器・器 台	(11.9)			(14.6)	外面のみ口縁、内面のみ のみ	粗砂粒・金雲母微粒少 量含む	7.5YR8/1灰白～5YR7/6褐色	良好	口縁～脚部1/3残 存
119	105		SD388	1区中層 北	弥生土器・壺	(23.1)			(15.7)	頸部内外面のみ、口縁外面 のみ後行*	粗砂粒少量含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁～頸部1/4残 存
120	105		SD388	1区中層 北	弥生土器・甕	(22.9)			(9.5)	胴部外面のみ、内面指押さ え後行*、口縁部コナテ	粗砂粒やや多く含む	10YR6/1褐灰色、スス付着	良好	口縁～胴上半1/4 残存
121	106		SD388	1区中層 北	土師器・高杯 ?	11.6			(3.75)	コナテ、行*	粗砂粒ごくわずかに含む	10YR8/2灰白色、黒斑あり	良好	脚部残存(脚端 部1/6欠損)
122	106		SD388	1区中層 北	土師器・鉢	(11.4)			(2.6)	行*、内面ハナリ	粗砂粒・赤褐色粒子・金 雲母微粒わずかに含む	10YR8/1灰白色	やや不良	口縁部1/8残存
123	106		SD388	1区中層 北	弥生土器?高 坏?	30.6			(7.2)	行*、外面上半細かいコナ テのみ	粗砂・金雲母微粒わず かに含む	10YR7/2鈍い黄褐色、一部酸 化鉄付着、黒斑あり	良好	口縁の一部及び 底部欠損
124	106		SD388	1区中層 北	弥生土器・鉢	(23.5)			(9.7)	外面ハナリとナデ、内面行*	粗砂粒やや多く含む	10YR6/2灰黄褐色	良好	口縁～体部1/7残 存、体部穿孔あり
125	106		SD388	1区中層 北	弥生土器・支 脚				(10.0) (11.0)	行*、指押さえ痕	粗砂粒少量含む	10YR8/1灰白～10YR6/3鈍い 黄褐色	良好	約1/4残存
126	106	89	SD388	1区下層	土師器・壺	15.9			(11.75)	口縁部コナテ、胴部外面のみ のみ、内面ハナリ	粗砂粒・金雲母微粒やや 多く含む	10YR6/2灰黄褐色	良好	口縁～肩部残存
127	106		SD388	1区下層 東壁ベル ト	弥生土器・壺	(12)	(13.5)		(8.6)	口縁部外面外縁、内面全体のみ	粗砂粒わずかに含む	10YR6/3鈍い黄褐色	良好	口縁1/2～胴部 1/4残存
128	106		SD388	1区下層 南	弥生土器・壺	(11.5)	(15.6)		(8.1)	口縁部コナテ、胴部のみ後行*	粗砂粒少量含む	7.5YR7/3鈍い橙～7.5YR6/2灰 褐色 黒斑部N2/黒色	良好	口縁～体部上半 1/7残存
129	106	89	SD388	1区下層 南	弥生土器・壺	(14.2)			(13.8)	磨滅ひどく調整不明	粗砂粒・黒・白・金雲母 粒多く含む	7.5YR8/2灰白色 、黒斑あり	良好	頸部1/3残存
130	106	89	SD388	1区上層 東壁ベル ト	弥生土器・甕	(13)	15.35	5.6	15.8	胴部内外面粗いのみ、底部ハ ナリ	粗砂粒わずかに含む	10YR8/2灰白～10YR7/3鈍い 黄褐色、黒斑あり	良好	口縁部5/6欠損
131	106		SD388	1区下層 東壁ベル ト	弥生土器・甕			(6.3)	(12.9)	外面外縁後細かいのみ、内面行* 、当て具痕あり	粗砂粒多く含む	10YR5/3鈍い黄褐色	良好	底部破片
132	106	89	SD388	1区下層 南	弥生土器・甕?			7.6	(5.35)	内面行*、外面行*、指押さ え痕あり	粗砂粒多く含む	7.5YR6/2灰褐色、黒斑あり	良好	底部残存
133	106		SD388	1区下層 南	弥生土器・甕			8.1	(6.0)	胴部～底部外面のみ、内面のみ のみ後行*	粗砂粒・金雲母微粒少 量含む	7.5YR5/3鈍い褐色	良好	底部残存
134	106		SD388	1区下層 東壁ベル ト	弥生土器・甕		突帯部 (42.8)		(17.1)	内外面のみ	粗砂粒やや多く含む	7.5YR5/2灰褐色、黒斑あり	良好	胴部破片
135	106		SD388	1区下層	弥生土器・甕		残存部 最大 (55.9)		(25.15)	内外面のみ	粗砂粒多く含む	10YR7/2鈍い黄褐色、黒斑あり	良好	胴部下半破片
136	106	89	SD388	1区下層 東壁ベル ト	ミナミ土器・ 鉢	8.85			4.6	指押さえ後行*	粗砂粒やや多く含む	10YR7/3鈍い黄褐色、黒斑あり	良好	口縁部一部欠損
137	106		SD388	1区下層 南	弥生土器・鉢	(13)			(4.65)	口縁部外面のみ、内面行*	精良、白色粗砂粒ごくわ ずかに含む	7.5YR7/4鈍い橙、黒斑あり	良好	口縁部1/4残存
138	107		SD388	1区下層 南	弥生土器・高 坏	(33.2)	(34.8)		(6.1)	内外面ハナリ	粗砂粒及び金雲母多 く含む	5YR7/8褐色 黒斑あり	良好	口縁部1/10残存 壺前系
139	107		SD388	1区下層 南	弥生土器・鉢	(19.4)			(4.4)	内外面ハナリ	粗砂粒わずかに含む	10YR6/1褐灰色	良好	口縁部1/12残存

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
140	107	89	SD388	1区下層	弥生土器・器台	(12.5)		13.5	18.9	外面の目後行、内面行、口縁部へによる刻目	粗砂粒少量含む	10YR7/3鈍い黄褐色、黒斑あり	良好	口縁2/3～胴部1/3欠損
141	107		SD388	1区下層南	弥生土器・器台	(11.8)			(7.1)	口縁部外面～内面行・行目、外面の内面行・行	粗砂粒・金雲母微粒多く含む	10YR6/2灰黄褐色	良好	口縁部1/4残存
142	107		SD388	1区下層南	弥生土器・器台			(14.8)	(9.05)	外面の目内面行、肩部指押さえ痕	砂粒・赤褐色粒子・金雲母微粒やや多く含む	7.5YR8/3浅黄褐色	良好	胴部1/3残存
143	107		SD388	1区底面東壁ベルト	弥生土器・壺	(19.9)			(5.3)	口縁部内外面行、頸部外面の目後行	粗砂粒・金雲母微粒わずかに含む	10YR8/3浅黄褐色	良好	口縁部1/4残存
144	107		SD388	1区底面東壁ベルト	弥生土器・壺	(14.8)			(8.2)	外面・口縁部内面行と行・肩部内面指押さえ痕	粗砂粒少量含む	7.5YR8/3浅黄褐色	良好	口縁～胴部1/5残存
145	107		SD388	1区底面東壁ベルト	弥生土器・壺		(24.0)		(11.2)	内外面粗い目	粗砂粒多く・角閃石結晶わずかに含む	5YR5/1灰色	良好	頸～胴部上半1/6残存
146	107		SD388	1区底面東壁ベルト	弥生土器・壺		(20.2)		(15.2)	内外面粗い目	粗砂粒・角閃石やや多く含む	10YR6/2灰黄褐色、黒斑あり	良好	頸～胴部1/9残存
147	107		SD388	1区底面東壁ベルト	弥生土器・壺			8.1	(6.75)	胴部外面の目後行、内面行目、外底面の行	粗砂粒わずかに含む	7.5YR6/3鈍い黄褐色、黒斑あり	良好	底部2/3残存
148	107		SD388	1区底面東壁ベルト	弥生土器・壺	(21)	(23.4)		(19.0)	口縁部行、内面行、胴部内外面行	粗砂粒・金雲母微粒わずかに含む	10YR8/1灰白～10YR8/3浅黄褐色、スス付着	良好	口縁～胴部1/7残存
149	107		SD388	1区底面東壁ベルト	弥生土器・壺	(31.8)			(8.15)	胴部外面の内面行	精良、砂粒わずかに含む	5YR8/4淡橙～5YR6/8橙色(丹塗り?)	良好	口縁部1/8残存
150	107		SD388	1区底面東壁ベルト	弥生土器・壺		(40.5)		(18.7)	内外面粗い目	細白色砂粒・金雲母わずかに含む	10YR8/2灰白色	良好	胴部1/12残存
151	108		SD388	1区底面東壁ベルト	弥生土器・壺	(34)			(9.2)	外面の目後行、内面粗い目	粗砂粒少量含む	2.5Y7/2灰黄色、黒斑あり	良好	口縁～胴部1/5残存
152	108		SD388	1区底面東壁ベルト	弥生土器・壺	(30.4)			(8.2)	口縁部外面行、内面行後行、胴部内外面行	粗砂粒ごくわずかに含む	7.5YR8/3浅黄褐色	良好	口縁～胴部1/4残存
153	108		SD388	1区底面東壁ベルト	弥生土器・壺	(42.4)			(9.45)	口縁部外面行、胴部外面行、口縁～胴部内面行後行	粗砂粒・赤褐色粒子少量含む	7.5YR8/4浅黄褐色	良好	口縁～胴部1/20残存 小破片からの復元
154	108		SD388	1区底面東壁ベルト	弥生土器・鉢	(16.6)		(4.8)	5.7	外面～底面行、内面行	粗砂粒・金雲母わずかに含む	5YR6/6橙色	良好	口縁部1/12～底部1/4残存
155	108		SD388	1区底面東壁ベルト	弥生土器・鉢	(16.6)			(7.3)	内外面粗い目	粗砂粒少量含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁～胴部1/5残存
156	108		SD388	1区底面東壁ベルト	弥生土器・器台	(10.2)			(8.2)	外面粗い目、口縁部内面粗い目内面行	粗砂粒・白雲母微粒少量含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁部1/3残存
157	108		SD388	1区底面東壁ベルト	弥生土器・支脚	頭部径8.0			(8.6)	行、内面行	粗砂粒多く含む	10YR8/3浅黄褐色	良好	上半部残存
158	108	89	SD388	1区土器群上層	土器器・壺	20			(10.2)	口縁部内外面行、胴部外面の目後行、内面行	精良、細砂粒・金雲母わずかに含む	7.5YR7/3鈍い黄褐色、黒斑あり	良好	口縁部3/4残存
159	108	89	SD388	1区土器群上層	土器器・壺	(23.4)			(6.5)	外面の目、内面行、胴部行	精良、粗砂粒少量含む	10YR8/6黄褐色	良好	口縁部1/4残存
160	108	89	SD388	1区土器群上層	土器器・壺	(26)			(8.25)	胴部外面の目、内面行	砂粒わずかに含む	2.5Y8/1灰白～7.5YR5/2灰褐色	良好	口縁部1/9残存
161	108	89	SD388	1区土器群上層	土器器・高杯	(32.6)			(5.7)	外面の行、内面行後行	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	10YR8/2灰白～10YR6/3鈍い黄褐色、黒斑あり	良好	口縁部1/4弱残存
162	108		SD388	1区土器群上層	土器器・高杯	(29)			(4.9)	外面の行、内面行後行	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	10YR7/3鈍い黄褐色、黒斑あり	良好	口縁部1/10残存
163	108		SD388	1区土器群上層	土器器・高杯	脚基部4.8			(16.6)	外面の行、内面行後行、肩部の目後行	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	10YR7/1灰白～10YR4/1褐色	良好	脚軸部残存
164	108	89	SD388	1区土器群上層	土器器・鉢	(26.6)			8.8	外面の目後行、外底の行内面行	粗砂粒をわずかに含む	10YR8/3浅黄褐色、黒斑あり	良好	口縁部2/3欠損
165	109	89	SD388	1区土器群上層	弥生土器・器台	(16)		15.9	21.85	胴部外面の目、口縁部外面行、内面行、胴内面行	粗砂粒・金雲母微粒やや多く含む	10YR8/2灰白色、口縁の一部5YR7/6褐色	良好	口縁部2/3・胴部1/4欠損
166	109		SD388	1区土器群上層	弥生土器・器台	(19.7)			(9.25)	胴部外面の目、口縁部外面行、内面行、胴内面行下部の目	粗砂粒・金雲母微粒やや多く含む	7.5YR5/3鈍い褐色	良好	口縁部1/4残存
167	109		SD388	1区土器群下層	土器器・壺	(9.4)			(3.85)	内外面行	精良、細かな白色砂粒わずかに含む	5YR8/2灰白～5YR4/4鈍い赤褐色	良好	口縁部1/3残存
168	109		SD388	1区土器群下層	土器器・壺	(13.9)			(5.45)	口縁部内外面行後行	精良、砂粒・金雲母微粒少量含む	5YR6/6褐色	良好	口縁～胴部1/4残存
169	109		SD388	1区土器群下層	土器器・壺	(15.7)			(6.8)	口縁部行、胴部外面の目後行、内面行	粗砂粒・茶褐色粒子・金雲母微粒少量含む	10YR8/3浅黄褐色～5YR4/6赤褐色	良好	口縁～胴部破片
170	109	89	SD388	1区土器群下層	土器器・壺	16			(6.9)	口縁部行、胴部内面行	砂粒・金雲母微粒少量含む	10YR8/4浅黄褐色	良好	口縁～胴部1/6残存
171	109		SD388	1区土器群下層	土器器・壺	頸部(10.0)			(5.45)	外面細い行、口縁部内面行、頸部の目、胴部へ入り	砂粒・金雲母微粒・赤褐色粒子少量含む	7.5YR8/2灰白～7.5YR7/6褐色	良好	頸～胴部1/3残存
172	109		SD388	1区土器群下層	土器器・壺	(13.4)			(3.85)	口縁部行	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	7.5YR6/6褐色	良好	口縁部1/5残存
173	109		SD388	1区土器群下層	土器器・壺	(26.4)			(4.9)	口縁部行	砂粒・黒色粒子・金雲母微粒・赤褐色粒子少量含む	10YR8/3浅黄褐色	良好	口縁部1/12残存
174	109		SD388	1区土器群下層	土器器・壺	(31.2)			(7.3)	口縁部行	精良、砂粒・赤褐色粒子わずかに含む	2.5Y8/1灰白色	良好	口縁～胴部1/12残存
175	109		SD388	1区土器群下層	土器器・壺	口縁部最大径(12.0)			(3.6)	口縁部行、胴部内外面行	精良、砂粒をわけてわずかに含む	7.5YR6/3鈍い褐色	良好	口縁付近1/8残存、瀬戸内系土器(模倣品?)
176	109		SD388	1区土器群下層	土器器・壺	(21.2)			(3.75)	口縁部行、胴部外面の目波状文、内面粗い目後行	粗砂粒少量含む	10YR8/2灰白色	良好	口縁部1/9残存、畿内系?
177	109		SD388	1区土器群下層	ミチュア土器・壺		(9.0)	(2.1)	(5.4)	内外面行、内底部指押さえ痕、頸部内面行	精良、微砂・雲母粒わずかに含む	10YR6/2灰黄褐色～7.5YR6/6褐色、黒斑あり	良好	約1/3残存

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
178	109		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(15.4)	(19.4)	5.6	15.6	口縁部コナテ、胴部外面へび返し、 下半へび返し後行、内面上半へび 返し、下半行	粗砂粒・赤褐色粒子少 量含む	10YR7/2鈍い黄褐色・黒斑あり	良好	口縁部の大半と胴 部1/2を欠損する
179	109	90	SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺		(16.6)	5.8	(11.8)	外面へび後行、内面へび後行	粗砂粒わずかに含む	10YR8/3浅黄褐色・黒斑あり	良好	底部～胴部残存
180	109		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺		(18.4)		(9.05)	外面へび返し、内面へび	砂粒・金雲母わずかに 含む	7.5YR7/3鈍い褐色	良好	胴部1/4残存、外 面に油煙状の黒色 物質付着
181	110	90	SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(23.6)			(21.4)	へび目・行	粗砂粒・赤褐色粒子・黒 色砂粒・白・金雲母多く 含む	7.5YR8/3浅黄褐色・黒斑あり	良好	口縁～肩部1/4残 存
182	110		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(16.4)			(10.1)	へび目・行、外面へび目工具痕	砂粒多く含む	10YR4/2灰黄褐色	良好	口縁～胴部残存
183	110		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(18.9)			(7.8)	口縁部コナテ、頸部外面へび目、 内面へび目・行	砂粒少量含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁部1/9残存
184	110		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(21.4)			(12.3)	口縁部コナテ、頸部外面へび目内 面へび目・行	粗砂粒・赤褐色微粒子 を少量含む	10YR6/2灰黄褐色・一部 10YR2/1黒色	良好	口縁部1/5残存
185	110		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(21)			(11.85)	口縁部コナテ、頸部外面へび目、 内面へび目・行	砂粒少量含む	10YR8/1灰白～10YR8/2浅黄 褐色	良好	口縁～胴部1/9残 存
186	110		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(20.0)			(11.3)	外面へび目・コナテ、内面へび目・コナテ、 指押さえ痕	粗砂粒わずかに含む、金雲母 微粒やや多く含む	7.5YR7/3鈍い褐色	良好	口縁～胴部1/4残 存
187	110		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(22.2)			(10.45)	頸部外面コナテ、後へび目	粗砂粒やや多く含む粗 い	10YR6/1褐灰色	良好	口縁部1/5残存
188	110		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	頸部 13.3			(9.2)	頸部内外面へび目、刺目突帯 頸部突帯ヘラによる刻み	粗砂粒少量含む	10YR8/1灰白～10YR8/3浅黄 褐色	良好	頸部1/2残存
189	110		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	頸部 (16.6)			(10.0)	頸部～胴部外面へび目後行、内 面へび目・行	粗砂粒わずかに含む	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	頸部1/4残存
190	110		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	頸部 (18.8)			(8.5)	頸部へび、胴部内面へび後行	砂粒・金雲母微粒ごくわ ずかに含む	10YR8/3浅黄褐色・一部5YR7/6 褐色(化粧土?)	良好	頸部1/5残存
191	110		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺		(29.8)		(13.45)	胴部内外面へび目	粗砂粒・赤褐色粒子を 少量・金雲母微粒わず かに含む	7.5YR8/3浅黄褐色	良好	胴部1/4残存
192	110		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺		(28.5)		(11.4)	内面へび目後行	砂粒・金雲母微粒少量 含む	7.5YR6/2灰褐色	良好	頸部1/4残存
193	110		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺		6.7		(3.8)	外面胴部～底部へび目内面へび	精良、砂粒・赤褐色粒 子わずかに含む	7.5YR8/2灰白～7.5YR7/6橙 色・黒斑あり	良好	底部1/2残存
194	110		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺 か壺	(8.6)			(8.1)	胴部外面細かいへび目後行、内 面粗いへび目、外底部板行	粗砂粒多く含む	10YR6/3鈍い黄褐色・上面煤付 着	良好	底部破片
195	111		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(12)			(7.65)	胴部外面へび目、内面へび目後行	粗砂粒・金雲母微粒少 量含む	7.5YR7/6橙～7.5YR4/6褐色	良好	口縁～胴上部1/5 残存
196	111		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(12.6)			(5.2)	胴部外面へび目、内面へび目後行	粗砂粒わずかに含む	10YR8/3鈍い浅黄褐色・黒斑あ り	良好	口縁～胴上部1/6 残存
197	111		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(22.4)			((7.2)	口縁部外面コナテ、へび後行、 内面へび目、胴部外面へび目	粗砂粒多く含む	7.5YR5/3鈍い褐色、スス付着	良好	口縁～胴上半部 1/5残存
198	111		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(20.9)			(8.6)	口縁部外面コナテ、へび後行、 内面へび目、胴部外面へび目	精良、砂粒・金雲母微 粒わずかに含む	10YR6/1褐灰色、スス付着 内外面共に酸化鉄付着	良好	口縁部1/4残存
199	111		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(22.1)			(9.5)	口縁部外面コナテ、へび後行、内 面へび目、胴部外面へび目	鈍い褐色の粗砂粒わず かに含む	10YR8/2灰白～N1.5/黒色(煤)	良好	口縁～胴上半1/8 残存
200	111	90	SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(22.2)			((12.9)	口縁部外面コナテ、へび後行、 内面へび目、胴部外面へび目	粗砂粒を若干含む	5GY2/1オリーブ黒色	良好	口縁～胴部1/3残 存
201	111		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(27.2)	頸部 (22.2)		(15.05)	口縁部外面コナテ、へび後行、 内面へび目、胴部外面へび目	砂粒・金雲母微粒少量 含む	10YR7/1灰白～10YR8/3浅黄 褐色・黒斑あり	良好	口縁～胴上半 1/6残存
202	111		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(29.2)			(10.0)	口縁外面コナテ、へび後行、内 面へび目、胴部外面へび目	粗砂粒・金・黒雲母含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁部1/9残存
203	111		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(32.4)			(9.9)	口縁内面へび目、外面へび目後 行、胴部へび目後行	粗砂粒少量含む	2.5Y8/2灰白色・黒斑あり	良好	口縁部1/4残存
204	111		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(32.7)			(6.9)	口縁部へび目後行、胴部へび 目	砂粒・金雲母微粒わず かに含む	10YR6/3鈍い黄褐色	良好	口縁部1/8残存
205	111		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(32.3)			(8.4)	口縁内面へび目、外面へび目後 行、胴部へび目後行	粗砂粒・金雲母微粒わ ずかに含む	7.5YR8/3浅黄褐色	良好	口縁～胴部1/3残 存
206	111		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(36.8)	(34.5)		(13.7)	口縁部コナテ、胴部内面へ び目、外面へび目	粗砂粒やや多く含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁～胴上部 1/12残存
207	111		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(32.2)			(15.1)	口縁部へび目後コナテ、胴部 へび目	粗砂粒・角閃石微結晶 少量含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁部1/4残存
208	112		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(37.4)			(6.3)	内外面へび目後行	砂粒わずかに含む	10YR7/2鈍い黄褐色～10YR3/1黒 褐色	良好	口縁部1/16残存
209	112		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(42.6)			(15.45)	内外面へび目	粗砂粒多く含む	10YR8/2灰白～10YR8/3浅黄 褐色	やや不良	口縁部1/9残存
210	112		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(39.5)			(7.1)	口縁下部刺目、外面粗いへび	粗砂粒・金雲母微粒わ ずかに含む	7.5YR7/3鈍い褐色	良好	口縁部1/8残存
211	112		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(42)			(10.05)	口縁部コナテ、胴部へび目後 行	粗砂粒・金雲母微粒多 く含む	7.5YR5/2灰褐色	良好	口縁～胴部1/6残 存
212	112		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	頸部 (22.9)			(16.5)	外面へび目、内面へび後行	粗砂粒わずかに含む	7.5YR8/2灰白色	良好	頸部1/7残存
213	112		SD388	1区土器群 下層	土師器・壺	頸部 (23.9)	(35.5)		(12.7)	外面へび目後コナテ、内面へび目 後行、へび目	精良、砂粒わずかに含 む	10YR8/1灰白色・黒斑あり	良好	頸部～胴上半部 1/4残存
214	112		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	突帯部 (48.1)			(11.25)	突帯部コナテ、他へび目	粗砂粒少量・角閃石わ ずかに含む	5YR7/6褐色	良好	突帯部1/11残存

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
215	113		SD388	1区土器群 下層	弥生土器?・ 壺		(19.9)		(11.9)	頸部内外面竹目後行	粗砂粒・金雲母微粒や や多く含む	7.5YR6/4鈍い橙色	良好	胴部破片
216	113		SD388	1区土器群 下層	土器?・ 壺		(20.6)		(9.1)	底部竹目	粗砂粒ごくわずかに含む	5YR7/4鈍い橙色、黒斑あり	良好	胴下半~底部残 存
217	113		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺		14.4	6.0	(9.5)	粗い竹目全体に入る	砂粒多く含む	2.5Y5/2暗灰黄色	良好	底部破片
218	113		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺			5.6	(4.3)	外面ハケ目、内面行	精良、砂粒・金雲母微 粒少量含む	7.5YR7/3鈍い橙色、黒斑あり	良好	底部残存
219	113		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺			7.7	(11.35)	外面ハケ目、内面行	砂粒やや多く含む	10YR7/2鈍い黄褐色・一部10YR 4/1褐色	良好	底~胴下部残存
220	113	90	SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺			5.4	(9.1)	外面タタキ後ハケ目、内面ハケ 目後行	粗砂粒多く含む	7.5YR6/4鈍い橙色、黒斑あり	良好	底部のみ残存
221	113		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺			7.0	(4.7)	内外面ハケ目	粗砂粒多く含む	2.5Y7/2灰黄色	良好	底部破片
222	113		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺			8.3×7.8 以上の 楕円形	(10.85)	内外面底部迄粗い竹目	粗砂粒多く含む	10YR8/2灰白色、黒斑あり	良好	底部1/2弱残存
223	113		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺			10.0	(14.4)	内外面底部迄粗い竹目	粗砂粒やや多く、黄鉄鉱 か黄銅鉱微粒少量含む	7.5YR5/1褐色	良好	底部1/2残存
224	113		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・台 付壺		脚基部 7.0		(10.4)	胴部竹目、台部行、内面指押 さえ痕	粗砂粒少量・金雲母微 粒・角閃石わずかに含む	10YR8/1灰白~10YR6/2灰黄 褐色	良好	壺下部残存
225	113	90	SD388	1区土器群 下層	土器器・高环	(15.6)			(13.75)	口縁部内面~脚部外面へび き、脚内面行・"ホ"り痕	精良、細砂・金雲母微 粒ごくわずかに含む	10YR6/3鈍い黄褐色(化粧土塗 布か?)	良好	脚・坏底部1/8残 存・口縁部一部残存
226	113		SD388	1区土器群 下層	土器器・高环			(15.7)	(2.45)	外面竹目後コナリ、内面へび き後行・竹目	粗砂粒・赤褐色粒子わ ずかに含む	10YR8/6浅黄褐色	良好	脚部1/6残存
227	113		SD388	1区土器群 下層	土器器・高环		坏部底 径(10.0)		(3.4)	内面竹目後コナリ・"ナ"	粗砂粒・赤褐色粒子・金 雲母微粒をわずかに含む	7.5YR8/3浅黄褐色	良好	坏部下半1/6残存
228	113		SD388	1区土器群 下層	土器器・高环	(21.2)			(4.95)	へびき・コナリ	粗砂粒・赤褐色粒子・金 雲母微粒をわずかに含む	7.5YR8/2灰白~7.5YR6/3浅黄 褐色	やや不良	坏部1/12残存
228	113		SD388	1区土器群 下層	土器器・高环		脚輪部 3.7		(8.65)	へびき・コナリ	粗砂粒・赤褐色粒子・金 雲母微粒をわずかに含む	7.5YR8/1灰白色、黒斑あり	やや不良	脚輪部残存、円形 三方透かし
229	113		SD388	1区土器群 下層	土器器・高环	脚基部 (4.0)			(6.7)	竹目	粗砂粒・赤褐色粒子・金 雲母微粒やや多く含む	7.5YR8/4浅黄褐色	良好	坏下半部残存
230	113		SD388	1区土器群 下層	土器器・高环	(17.8)			(3.45)	外面へびき、内面へび き	精良、砂粒・金雲母微 粒をわずかに含む	7.5YR7/3鈍い橙~7.5YR6/4鈍 い橙色	良好	口縁部1/8残存
231	114		SD388	1区土器群 下層	土器器・高环	脚接合 部径(3.5)			(5.45)	坏外面行、内面へび き	粗砂粒やや多く含む	7.5YR7/2明褐色	良好	坏部下半1/5残存
232	114		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・高 环	脚基部 2.1			(8.05)	内外面へびき	精良、砂粒・赤褐色粒子・ 金雲母微粒をわずかに含む	10YR8/3浅黄橙~10YR4/1褐 灰色	良好	坏下半部残存
233	114	90	SD388	1区土器群 下層	弥生土器・高 环	脚輪部 径(4.5)		(15.4)	(10.6)	外面へびき、内面行"工具痕	粗砂粒多く混入	2.5Y6/4鈍い黄色	良好	脚部1/2残存
234	114		SD388	1区土器群 下層	土器器・高环	(28.6)			(5.8)	外面竹目内面竹目後へび き	粗砂粒・白雲母微粒わ ずかに含む	10YR8/2灰白色、黒斑あり	良好	坏口縁部1/9残存
235	114		SD388	1区土器群 下層	土器器・高环	(31.2)			(4.5)	外面竹目、内面竹目後へび き	粗砂粒・赤褐色粒子・金 雲母微粒少量含む	10YR6/2灰黄褐、黒斑あり	良好	口縁部1/4残存
236	114		SD388	1区土器群 下層	土器器・高环	(29.7)			(5.6)	外面竹目、内面竹目後へび き	粗砂粒・金雲母微粒少 量含む	10YR7/2鈍い黄褐色、黒斑あり	良好	坏部口縁1/4残存
237	114		SD388	1区土器群 下層	土器器・高环	(31.5)			(5.9)	外面竹目内面竹目後へび き	粗砂粒・赤褐色粒子・金 雲母微粒少量含む	10YR8/2灰白~10YR5/2灰黄 褐色、黒斑あり	良好	口縁部1/16残存
238	114		SD388	1区土器群 下層	土器器・高环	(31.8)			(6.0)	外面竹目、内面竹目後へび き	砂粒・金雲母微粒・角閃 石結晶少量含む	10YR6/3鈍い黄褐色、黒斑あり	良好	口縁部1/8残存
239	114		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・高 环	残存部 (28.7)			(4.9)	内外面竹目後へび き	粗砂粒少量含む	7.5YR8/3浅黄褐色、黒斑あり	良好	坏部下半1/6残存
240	114		SD388	1区土器群 下層	ミチア土器・ 鉢	(7.6)			3.3	全面指押さえ痕	粗砂粒やや多く含む	2.5YR8/1灰白色、底部黒斑あり	良好	約1/4残存
241	114		SD388	1区土器群 下層	土器器・鉢	(10.6)			(2.85)	行	精良、細かな砂粒・金雲 母微粒をわずかに含む	7.5YR7/3鈍い橙色	良好	口縁部1/16残存
242	114		SD388	1区土器群 下層	土器器・鉢	(19.2)			(5.6)	外面竹目後行、内面行	精良、砂粒をわずかに含む	10YR8/2灰白色、黒斑あり	良好	口縁~体部1/8残 存
243	114		SD388	1区土器群 下層	土器器・鉢	(16.4)			(4.9)	口縁部コナリ、体部内外面竹目	粗砂粒・金雲母微粒やや 多く含む	7.5YR7/3鈍い橙色	良好	口縁部1/9残存
244	114		SD388	1区土器群 下層	土器器・台付 鉢			(6.2)	(2.9)	行、脚部指押さえ痕	粗砂粒・金雲母微粒わ ずかに含む	7.5YR8/3浅黄褐色	良好	脚台部1/4残存
245	114		SD388	1区土器群 下層	弥生土器?・ 鉢		(4.3)	(4.15)		外面外後行、内面竹目	砂粒少量含む	10YR7/4鈍い黄褐色	良好	底部1/4残存、 縦内底V様式系
246	114		SD388	1区土器群 下層	土器器?・鉢	(17.4)			(8.8)	行、口縁部外面・内底板行	粗砂粒・赤褐色粒子少量 含む	5YR7/6褐色	良好	口縁部1/12残存
247	114		SD388	1区土器群 下層	弥生土器?鉢	(16.4)			(4.9)	行、口縁部外面・内底板行	粗砂粒・金雲母微粒・赤 褐色粒子少量含む	7.5YR7/4鈍い橙色	良好	口縁~体部1/8残 存
248	114		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・鉢	(13.0)			(8.85)	外面行、内面竹目	粗砂粒・金雲母微粒少量 含む	10YR2/1黒~5YR5/4鈍い赤褐 色(底部)	良好	口縁~体部破片
249	114		SD388	1区土器群 下層	弥生土器?・ 鉢	(14.9)			(5.0)	行、外面竹目を"消す	精良、砂粒をわずかに含む	10YR8/1灰白色	良好	口縁部1/8残存
250	114		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・鉢	(15.2)	(3.8)	6.9		外面竹目後行	砂粒少量含む	10YR7/2鈍い黄褐色、黒斑あり	良好	口縁部1/8~体・ 底部1/4残存
251	114		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・鉢	(14)		(5.4)	8.75	行"で内面一部竹目	粗砂粒・赤褐色粒子少量 含む	10YR8/3浅黄褐色、黒斑あり	良好	約1/5残存
252	114		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・鉢	(20.4)			(6.05)	外面へびき、内面行へび き	精良、砂粒・金雲母微 粒をわずかに含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁部1/6残存

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底径	器高					
253	114		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・鉢	(22.5)			(6.8)	内外面行'	砂粒・雲母微粒・赤褐色 粒子少量含む	7.5YR7/4鈍い橙色	良好	口縁部1/8残存
254	114	90	SD388	1区土器群 下層	弥生土器・鉢	(25.4)			(9.2)	内面行'	粗砂粒多く含む	10YR4/1褐色、スス付着	良好	口縁～胴部1/4残 存
255	114	90	SD388	1区土器群 下層	弥生土器・鉢	(26.2)			8.4	内面行'、外面僅かに分残	粗砂粒多く含む	10YR6/3鈍い黄褐色	良好	1/4残存
256	115	90	SD388	1区土器群 下層	弥生土器・鉢	(27.4)		3.0	9.25	内外面行'後へ分残、内面内 目	粗砂粒多く含む	10YR8/3浅黄橙～10YR6/3鈍 い黄褐色、黒斑あり	良好	体部1/2・口縁部 大半欠損
257	115	90	SD388	1区土器群 下層	弥生土器・鉢	32.8		7.65	14.9	外面行'、内面行'・ハミカキ	粗砂粒やや多く含む	N2/黒～10YR5/2灰黄褐色	良好	口縁部1/4欠損
258	115		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・鉢	(31.2)			(6.35)	外面行'、内面行'・ハミカキ	粗砂粒やや多く含む	10YR8/4浅黄橙～10YR8/2灰 白色、黒斑あり	良好	口縁～体部上半 1/12残存
259	115	90	SD388	1区土器群 下層	弥生土器・鉢	(23.2)			(6.9)	外面行'、内面行'・ハミカキ	粗砂粒少量含む	10YR8/2灰白色、黒斑あり	良好	約1/3残存
260	115		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・鉢	(30.2)			(10.15)	外面内目後行'、口縁内面細かい 内目、胴内面板行'	粗砂粒・赤褐色微粒 子や多く含む	7.5YR8/3浅黄橙～5YR7/6褐色	良好	口縁部1/12残存
261	115	90	SD388	1区土器群 下層	弥生土器・器 台	(7.5)		(11.2)	12.7	外面内目、内面内目・行'・漆 り	粗砂粒・雲母微粒少量 含む	7.5YR8/2灰白～7.5YR7/4鈍 い橙色	良好	口縁1/3～脚部 1/4残存
262	115	90	SD388	1区土器群 下層	弥生土器・器 台	14.4		(17.3)	18.8	内外面内目、胴端部に一部内 目	砂粒・金雲母微粒少量 含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁部1/5・脚部 2/3欠損
263	115		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・器 台	(13.7)			(7.9)	外面内目後行'、一部タタキ痕、 内面行'・漆り	粗砂粒やや多く含む	7.5YR7/3鈍い橙色	良好	口縁部1/4残存
264	115		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・器 台	(12.3)		(12.65)		外面内目、内面内目・漆りによる 粗い漆	砂粒・金雲母微粒少量 含む	7.5YR5/1褐色～5YR6/6褐色	良好	口縁部1/7残存
265	115	90	SD388	1区土器群 下層	弥生土器・器 台			(20.1)	(18.7)	外面内目後行'	粗砂粒多く又金雲母微 粒・角閃石少量含む	10YR6/2灰黄褐色	良好	口縁部全損・脚部 3/4欠損
266	115	90	SD388	1区土器群 下層	弥生土器・器 台			(15.0)	(8.4)	外面内目、内面内目後行'	粗砂粒・金雲母微粒やや 多く含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	脚部1/3残存
267	115	91	SD388	1区土器群 下層	弥生土器・器 台		くびれ 部径(7.3)		(11.0)	内外面内目後行'	粗砂粒・金雲母微粒やや 多く含む	10YR7/3鈍い黄橙～10YR5/2灰 黄褐色、スス付着	良好	脚・口縁全欠損
268	115		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・器 台			(13.0)	(9.9)	外面内目内面漆り痕、裾部内 目	粗砂粒・金雲母微粒やや 多く含む	10YR8/2灰白～10YR7/2鈍い 黄褐色	良好	脚部1/34残存
269	115		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・器 台?			(18.8)	(8.2)	内外面内目	粗砂粒やや多く含む	10YR7/1灰白色	良好	脚部残存、胴端部 は1/5残存
270	115		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・支 脚			(10.9)	(8.95)	内外面指押さえ後行'	砂粒・赤褐色粒子を少量 含む	7.5YR7/2明褐色～5YR6/6橙 色、黒斑あり	良好	脚部1/4残存
271	115		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・器 台			12.0	(7.2)	外面内目後行'、内面指押さえ 後行'	砂粒・金雲母微粒わずかに 含む	7.5YR8/2灰白～7.5YR6/4鈍 い橙色、黒斑あり	良好	脚台部残存
272	115		SD388	1区土器群 下層	土器器・小型 丸底壺			(10.7)	(4.95)	内外面行'	精良、金雲母微粒少量 含む	7.5YR8/2灰白色	良好	頸～体部1/10残 存
273	115		SD388	1区土器群 下層	土器器・小型 丸底壺				(3.7)	内面内目後行'、外底部内目後 行'	精良、微細な砂粒わずかに 含む	7.5YR8/2灰白色	良好	小破片
274	115		SD388	1区土器群 下層	土器器・壺	頸部 (11.7)			(4.4)	行'、口縁部内面内目後行'	砂粒わずかに含む	10YR6/2灰黄褐色	良好	頸部1/5残存
275	115		SD388	1区土器群 下層	土器器・壺	(15.6)			(4.55)	外面内目後行'、内面は口縁部 ヨコテ、胴部ハミカキ	粗砂粒・赤褐色粒子少 量含む	7.5YR8/4浅黄橙～5YR7/6褐色	非常に良 好	口縁～頸部1/5残 存
276	116	91	SD388	1区土器群 下層	土器器・壺	16.1			(8.9)	外面は口縁部外後行'、胴部 外、内面は口縁部内目後ヨコ テ、胴部ハミカキ	粗砂粒少量含む	10YR7/1灰白～10YR7/6明黄 褐色(酸化鉄沈着)	良好	口縁～胴上半部 残存
277	116		SD388	1区土器群 下層	土器器・壺	頸部 (12.2)			(6.7)	外面内目・行'・外側、内面内 目ハミカキ	粗砂粒・黒雲母粒子やや 多く含む	7.5YR8/1灰白色	良好	頸部1/4残存
278	116		SD388	1区土器群 下層	土器器・高坏			(10.0)	(3.4)	外面行'、内面内目後行'・漆 り	精良、微細な金雲母粒 わずかに含む	5YR7/6橙～7.5YR7/2明褐色	良好	坏下半部1/4残存
279	116		SD388	1区土器群 下層	土器器・高坏	(15.3)			(3.75)	磨減がひどく調整不明	粗砂粒・赤褐色粒子・金 雲母微粒わずかに含む	7.5YR8/4浅黄褐色	わずかに 不良	口縁部1/12残存
280	116		SD388	1区土器群 下層	土器器・高坏	脚接合 部径(4.0)			(2.45)	外面ハミカキ?内面行' 脚内面 漆り	精良、細白色砂粒・金雲 母わずかに含む	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	坏下半部1/5残存
281	116		SD388	1区土器群 下層	土器器・高坏			(13.7)	(6.3)	外面内目部分行'、内面内目後 行'・漆り	粗砂粒・赤褐色粒子・金 雲母微粒わずかに含む	7.5YR7/3鈍い橙～7.5YR8/6浅 黄褐色	非常に良 好	脚部1/3残存
282	116		SD388	1区土器群 下層	土器器?・台 付鉢?				(3.65)	内外面行'	砂粒やや多く含む	5YR6/6褐色	良好	脚台部残存
283	116		SD388	1区土器群 下層	土器器?・鉢	(10.1)			(3.4)	内外面行'	粗砂粒わずかに含む	10YR8/2灰白色	良好	口縁部1/8残存
284	116	91	SD388	1区土器群 下層	土器器・鉢	(14.6)			5.6	内外面指押さえ後行'	砂粒少量含む	10YR7/1灰白色、スス付着	良好	約1/2弱残存
285	116		SD388	1区土器群 下層	土器器・鉢	(17.8)			(6.6)	外面内目・行'、内面粗いハミ カキ	粗砂粒・金雲母微粒わず かに含む	7.5YR8/3浅黄橙(口縁)～ 10YR8/2灰白色	良好	約1/8残存
286	116		SD388	1区土器群 下層	土器器・鉢	(10)		2.6	5.9	外面行'、口縁部内目後行'、底 部ハミカキ内面内目	粗砂粒わずかに含む	7.5YR8/2灰白～7.5YR6/3鈍 い褐色	良好	口縁～体部1/11 残存
287	116	91	SD388	1区土器群 下層	土器器?・鉢			7.6	(6.8)	外面口縁部ヨコテ、底部ハミ カキ、内面行'後粗いハミカ キ	粗砂粒少量含む	10YR8/2灰白～2.5YR7/8褐色	良好	底部～体部破片
288	116		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(7)			(15.4)	外面ハミカキ、内面行'、内外 面漆り	粗砂粒やや多く含む	7.5YR7/3鈍い橙色	良好	口縁1/3～頸部残 存、蓋入系か
289	116		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	頸部 (18.8)			(14.5)	頸部外面～内面内目後行'、胴 部行'	砂粒・角閃石結晶少量 含む	10YR8/2灰白～10YR8/4浅 黄褐色	良好	頸部1/5残存
290	116		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(37.8)			(15.0)	胴部内外面内目、貼付突帯	精良、白色砂粒・金雲母 微粒わずかに含む	10YR8/1灰白～10YR8/3浅 黄褐色、黒斑あり	良好	体部1/3残存
290	116		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	頸部 (14.3)			(5.7)	胴部内外面内目、貼付突帯 け	精良、白色砂粒・金雲母 微粒わずかに含む	10YR8/1灰白～10YR8/3浅 黄褐色	良好	頸～肩部1/9残 存
291	116	91	SD388	1区土器群 下層	弥生土器?・ 壺	(14.3)		(20.4)	(17.85)	口縁部ヨコテ、胴部外面上半 ハミカキ下半板行'、内面行'	粗砂粒多く含む	10YR8/2灰白色、黒斑あり	やや不良	口縁～体部1/3残 存
292	116		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(21.4)			(12.8)	口縁部外面内目後ヨコテ、内 面ヨコテ、胴部外面外後行'内 面内目	砂粒わずかに含む	10YR8/2灰白～10YR6/2灰 黄褐色、スス付着	良好	口縁～胴上部1/4 ～1/6残存
293	116		SD388	1区土器群 下層	弥生土器・壺	(38.8)			(8.2)	口縁部外面ヨコテ、口縁部内 面・胴部外面内目後行'、内 面内目	粗砂粒少量含む	5YR8/2灰白～5YR5/8明赤 褐色	良好	口縁部1/12残存
294	116	91	SD388	1区土器群 下層	弥生土器・ 壺?	(25.0)			(8.95)	外面ハミカキ・内面行'	粗砂粒・金雲母微粒ごく 少量含む	10YR8/2灰白色、黒斑あり	良好	胴部1/5残存、 SX436と接合



報告書番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
295	117		SD388	1区土器群下層	弥生土器・高坏	(30,6)			(5.9)	内外面へろみ	精良、細砂粒・金雲母微粒少量含む	7.5YR8/4浅黄褐色	良好	坏部1/4残存
296	117	91	SD388	1区土器群下層	弥生土器・高坏		輪部4.0		(14.35)	外面へろみ、内面へろみ・内面へろみ	砂粒・赤褐色粒子や多く含む	7.5YR5/2灰褐～7.5YR8/3浅黄褐色	良好	脚輪部残存、円形三方透かし
297	117		SD388	1区土器群下層	弥生土器・鉢	(12.8)			(4.15)	内外面へろみ	粗砂粒少量含む	10YR8/2灰白～10YR8/1褐色	良好	口縁部1/6残存
298	117		SD388	1区土器群下層	弥生土器・鉢	(12.4)			(5.8)	外面へろみ、内面へろみ	粗砂粒やや多く、黒雲母微粒をわずかに含む	5YR4/2灰褐～5YR2/1黒褐色(煤)	良好	約1/3残存、観内筋V様式系
299	117		SD388	1区土器群下層	弥生土器・鉢			1.9	(3.3)	手捏ね、外面指押さえ痕	粗砂粒多く含む	10YR5/1褐色	良好	底部のみ残存
300	117		SD388	1区土器群下層	弥生土器・器台	(10.2)			(9.55)	外面へろみ、内面へろみ、内面へろみ	砂粒・金雲母微粒やや多く含む	10YR6/2灰黄褐色	良好	口縁～上半部1/3残存
301	117		SD388	1区土器群下層	弥生土器・器台	(9.4)			(10.9)	外面へろみ、内面へろみ、内面へろみ	粗砂粒やや多く含む	7.5YR7/3鈍い橙～7.5YR6/2灰褐色	良好	口縁部1/3残存
302	117		SD388	1区	土器器・小型丸底壺	(13.9)			(3.95)	内外面へろみ	粗砂粒・金雲母微粒・黒色粒子わずかに含む	7.5YR7/4鈍い橙～7.5YR8/6浅黄褐色	良好	口縁部1/8残存
303	117		SD388	1区	土器器・壺	(19.5)			(3.95)	外面へろみ、内面へろみ	粗砂粒・金雲母微粒やや多く含む	7.5YR6/6褐色	良好	口縁部1/9残存
304	117		SD388	1区	土器器・壺	(16)			(5.3)	内面へろみ、内面へろみ	粗砂粒わずかに含む	7.5YR7/3鈍い褐色、スス付着	良好	口縁～頸部1/3残存
305	117		SD388	1区	土器器・鉢				(5.6)	外面へろみ、内面へろみ	砂粒・金雲母微粒わずかに含む	7.5YR8/2灰白色	良好	小破片
306	117		SD388	1区下層東壁	弥生土器・壺				(7.3)	外面へろみ、内面へろみ	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	7.5YR8/2灰白～7.5YR7/4鈍い褐色	良好	頸部小破片、外面線刻文?
307	117	91	SD388	1区	弥生土器・器台	10.5			(13.35)	外面へろみ、内面へろみ、口縁部へろみ	粗砂粒・金雲母微粒多く含む	5YR6/8橙(口縁)～10YR8/2灰白色	良好	口縁部1/2、脚部欠損
308	117	91	SD388	1区	弥生土器・器台	(8.4)		(10.3)	11.0	外面へろみ、内面へろみ	粗砂粒多く含む	7.5YR6/3鈍い褐色	良好	口縁1/4～脚部1/3残存
309	117		SD388	1区上層東壁ヘルト	突帯文土器・深鉢	(16.4)			(6.0)	外面へろみ、内面へろみ、貝殻条痕	粗砂粒・黒雲母微粒少量含む	7.5YR8/3浅黄褐色～5YR7/6褐色	良好	口縁～体部1/4残存
310	117		SD388	1区中層北	突帯文土器・深鉢				(5.2)	外面へろみ、内面へろみ	砂粒・金雲母微粒わずかに含む	7.5YR7/3鈍い橙～5YR6/6褐色	良好	体部小破片
311	117	91	SD388	1区土器群	ミナア土器・鉢	2.9～3.4不整な円形			(2.2)	指押さえ	砂粒少量含む	10YR8/1灰白～10YR6/1褐色	良好	約3/4残存
312	117		SD388	1区	ミナア土器・鉢	3.2		1.6	2.3	全体指押さえ	粗砂粒・金雲母微粒ごくわずかに含む	7.5YR8/1灰白～7.5YR8/4浅黄褐色	良好	口縁部3/4欠損
313	117		SD388	1区上層東壁	弥生土器・壺			11.0	(2.35)	口縁部へろみ、内面へろみ、指押さえ痕	粗砂粒少量含む	10YR5/2灰黄褐～10YR8/2灰白色	良好	底部3/4残存
314	118	91	SD388	2区	土器器・小型丸底壺	(8.2)	8.5		8.3	口縁部外面へろみ、脚部外面へろみ、内面へろみ	粗砂粒ごくわずかに含む	7.5YR6/3鈍い褐色～10YR2/1黒色(煤)	良好	脚部上半1/4～口縁部4/5欠損
315	118		SD388	2区	土器器・壺	(12.9)			(4.6)	外面へろみ、内面へろみ	粗砂粒・赤褐色粒子・金雲母微粒を少量含む	10YR8/2灰白色	良好	頸～体部上半1/5残存
316	118		SD388	1区	土器器・壺	頸部(8.2)			(4.8)	外面へろみ、内面へろみ	粗砂粒をやや多く含む	7.5YR6/3鈍い褐色	良好	頸部1/7残存
317	118	91	SD388	2区	土器器・壺	15.6	25.9		28.3	脚部外面へろみ、脚部内面へろみ	粗砂粒を含む	10YR8/3浅黄褐色～7.5YR4/2灰褐色、スス付着	良好	口縁3/4、脚部1/2欠損
318	118		SD388	2区	土器器・鉢	(14)			(3.7)	内面へろみ	粗砂粒やや多く、赤褐色粒子わずかに含む	10YR8/1灰白色	良好	口縁～体部1/10残存
319	118	91	SD388	2区	土器器・鉢	(13.2)		5.95	6.1	外面へろみ、内面へろみ	精良、砂粒わずかに含む	7.5YR6/3鈍い褐色、スス付着	良好	約1/2残存・口縁部は一部のみ残存
320	118	91	SD388	2区	土器器・鉢?			10.4	(5.6)	外面へろみ、内面へろみ	砂粒多く含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	底部の一部～口縁部を欠損
321	118	92	SD388	2区	土器器・鉢	13.5		7.05	4.9	外面へろみ、内面へろみ	微細砂粒・赤褐色粒子・金雲母を含む	5YR7/6橙～5YR8/4淡褐色、黒斑あり	良好	口縁部1/3欠損
322	118		SD388	2区	土器器・支脚	(6.2)			(6.8)	指押さえ痕、外面へろみ、脚部内面へろみ	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	10YR8/1灰白～10YR8/3浅黄褐色	不良	上半部1/4残存
323	118		SD388	2区	弥生土器・器台	(10)			(6.9)	口縁部内面へろみ、内面へろみ	粗砂粒やや多く含む	10YR7/4鈍い褐色	良好	口縁部1/4残存
324	118		SD388	2区	弥生土器・器台	残存部最大径(11.2)			(6.95)	内面へろみ、透かし部へろみ	精良、微細な白色砂粒・金雲母わずかに含む	7.5YR8/1灰白～7.5YR7/4鈍い褐色、一部5YR6/8褐色(赤色顔料?)	良好	脚部円周の1/5～1/4残存
325	118	92	SD388	3区	弥生土器・脚台付壺	12.0			(12.2)	外面へろみ、内面へろみ、脚部へろみ	精良、砂粒わずかに含む	10YR8/1灰白～7.5YR7/3鈍い褐色、黒斑部N3/暗灰色	良好	口縁及び脚部欠損
326	118		SD388	4区	土器器・小型丸底壺	(9.5)	(8.6)		(5.7)	内外面へろみ	精良、砂粒をほとんど含まず	7.5YR6/3鈍い褐色	良好	口縁～脚部1/10残存
327	118		SD388	1号ベルト上層	土器器・壺	(20.6)			(2.0)	口縁内外面へろみ、脚部波状文	粗砂粒・角閃石結晶を少量含む	10YR8/1灰白～7.5YR4/2灰褐色	良好	口縁部1/11残存、脚部内残?
328	118	90	SD388	4区	土器器・高坏	(17)			(5.4)	内面へろみ、外底板へろみ	精良、砂粒わずかに含む	5YR7/6橙～2.5YR7/6褐色	良好	坏部残存(口縁部2/3欠損)
329	118	92	SD388	1号ベルト上層	土器器・高坏			(10.1)	(5.75)	内外面へろみ	砂粒・金雲母微粒・赤褐色粒子を少量含む	5YR7/6橙～5YR8/4淡褐色	良好	脚部残存(脚部部2/3欠損)
330	118		SD388	4区(SD524との交差)	土器器・鉢	(12.6)			(2.7)	外面へろみ、内面へろみ	精良、砂粒・赤褐色粒子をわずかに含む	7.5YR8/4浅黄褐色～5YR7/6褐色	良好	口縁部1/10残存
331	118		SD388	1号ベルト上層	土器器・鉢	(13.6)			(6.2)	外面へろみ、内面へろみ	粗砂粒・金雲母微粒を少量含む	7.5YR2/1黒(上部・被験による変色?)～7.5YR4/2灰褐色	良好	口縁～体部1/12残存
332	118	92	SD388	1号ベルト上層	弥生土器・壺	(19.8)			(5.6)	口縁部へろみ、脚部へろみ	粗砂粒少量含む	10YR8/1灰白色	良好	口縁部1/3残存
333	118		SD388	1号ベルト上層	弥生土器・支脚	残存部最大径(7.7)			(9.1)	頂部へろみ、外面へろみ	粗砂粒・金雲母微粒を多く含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	上半部約1/2残存
334	118	92	SD388	1号ベルト下層	土器器・小形丸底壺	7.05			(5.3)	内面へろみ、指押さえ痕	粗砂粒・赤褐色粒子や多く含む	10YR7/2鈍い黄褐色、黒斑あり	良好	口縁部欠損
335	120		SD444		弥生土器・壺				(4.05)	内面へろみ	粗砂粒少量含む	7.5YR6/3鈍い褐色	良好	口縁部小破片
336	120		SD444		弥生土器・壺				(2.5)	内面へろみ	精良、砂粒・金雲母微粒わずかに含む	7.5YR7/4鈍い褐色	良好	口縁部小破片
337	120		SD444		弥生土器・壺				(2.25)	内面へろみ	粗砂粒・金雲母微粒やや多く含む	7.5YR5/3鈍い褐色	良好	口縁部小破片
338	120		SD444		弥生土器・壺	(10.2)			(1.8)	内面へろみ	細白色砂粒少量含む	10YR7/4鈍い黄褐色	良好	口縁部1/8残存
339	120		SD444		弥生土器・壺	(32.6)			(12.4)	磨滅し、調整不明	粗砂粒・金雲母微粒・赤褐色粒子や多く含む	7.5YR8/4浅黄褐色、丹塗り	不良	口縁部1/5～頸部1/10残存
340	120		SD444		弥生土器・壺	(29.6)			(7.75)	口縁部外面へろみ、脚部内面へろみ	粗砂粒・金雲母微粒を少量含む	10YR7/1灰白～2.5YR6/6褐色(赤色顔料)	良好	口縁部1/10残存・他口縁部破片2点
341	120		SD444		突帯文土器・深鉢				(2.2)	外面へろみ、内面へろみ、脚部へろみ	粗砂粒やや多く含む	2.5YR6/6褐色	不良	脚部突帯小破片

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他	
						口径	胴径	底径	器高						
341	120		SD444		突帯文土器・深鉢				(11.8)	外面具敷条痕、内面竹目工具の跡、底部分、内面指押さえ痕	粗砂粒やや多く含む	2.5YR5/6明赤褐色~2.5YR6/4鈍い褐色	良好	胴部破片	
341	120		SD444		突帯文土器・深鉢			(9.2)	(3.4)	外面具敷条痕、内面竹目工具の跡、底部分、内面指押さえ痕	砂粒・金雲母粒やや多く、角閃石を少量含む	5YR7/6橙~7.5YR6/3鈍い褐色	良好	底部1/4残存	
342	120		SD451		土器器・壺	(14.8)			(2.2)	外面斜後行、内面竹目	砂粒・金雲母微粒やや多く含む	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	口縁部1/8残存、瀬戸内系	
343	120		SD451		弥生土器・高坏		坏部底径(13.0)		(3.15)	坏外面~口縁部内面へろがき内底竹目・ナ	精良、砂粒・金雲母微粒少量含む	7.5YR5/1褐色~7.5YR8/2灰白色(下部)	良好	坏部1/7残存	
344	120		SD451		土器器・高坏		軸部4.0		(7.4)	外面へろがき、内面ナ・ホリ痕	精良、金雲母微粒わずかに含む	5YR7/6褐色、一部黒色(光沢有り、黒色顔料?)	良好	脚軸部残存	
345	120		SD451		土器器・台付鉢?		軸部(3.8)		(5.0)	外面へろがき内面ナ・ホリ痕	粗砂粒少量含む	5YR6/4鈍い褐色	良好	脚台部残存・脚端部は全て欠損	
346	120		SD451		弥生土器・壺	(12.8)			(3.25)	コナテ、工具痕	精良、砂粒・赤褐色粒子わずかに含む	7.5YR8/3浅黄褐色	良好	口縁部1/8残存	
347	120		SD451		弥生土器・壺	(15.8)			(5.0)	外面斜後行、口縁部~内面竹目	粗砂粒・金雲母微粒やや多く含む	5YR5/6明赤褐色~5YR5/1褐色	良好	口縁~体部状半1/6残存	
348	120		SD451		弥生土器・壺	(22.4)			(3.1)	ナ	粗砂粒少量含む	7.5YR6/3鈍い褐色	良好	口縁部1/12残存	
349	120		SD471		突帯文土器・深鉢	(10.2)			(6.1)	外面具敷条痕、内面工具跡・ナ	砂粒・金雲母微粒やや多く含む	7.5YR3/2黒褐色	良好	口縁部1/14残存	
350	120		SD471		弥生土器・壺			7.0	(5.65)	ナ、外面指押さえ痕	粗砂粒多く含む	2.5YR6/6橙~7.5YR4/2灰褐色(底部)	不良	底部のみ残存	
351	Fig.		SD481		土器器・鉢	(12.6)			(4.9)	外面竹目後行、内面ナ	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	7.5YR7/3鈍い褐色	良好	口縁~体部1/16残存	
352	121		SD482		弥生土器・壺	(13.5)			(3.65)	内外面へろがき	精良、砂粒わずかに含む	5YR6/4鈍い褐色	良好	口縁部1/4残存、板付式	
353	121		SD482		弥生土器・壺	(10.8)			(6.7)	外面へろがき、内面ナ・板行	精良	7.5YR5/3鈍い褐色~7.5YR4/2灰褐色	良好	口縁1/12~頸部1/3残存、板付1式	
354	121		SD482		弥生土器・壺		(24.9以上)		(7.45)	外面へろがき、内面ナ・板行	精良、砂粒わずかに含む	7.5YR5/3鈍い褐色~5YR5/4鈍い赤褐色	良好	胴部1/5残存、板付式	
355	121		SD482		弥生土器・壺か壺			7.0	(1.2)	外底木の葉正痕	精良、砂粒・金雲母微粒わずかに含む	10YR8/2灰白~10YR5/1褐色	良好	底部残存	
356	121		SD482		弥生土器・壺	(19.8)			(11.6)	内外面ナ、口縁部への刻目	砂粒・金雲母微粒多く含む	5YR5/4鈍い赤褐色	不良	口縁~体部1/8残存	
357	121		SD482		弥生土器・壺	(23.2)			(5.8)	下端に刻目	粗砂粒・金雲母微粒やや多く含む	7.5YR4/2灰褐色、スス付着	良好	口縁部1/14残存、板付2式	
358	121		SD482		突帯文土器・壺	(23.3)			(4.15)	外面具敷条痕、内面ナ	砂粒・金雲母微粒少量含む	5YR8/3淡褐色、スス付着	良好	口縁部1/12残存	
359	121	92	SD482		突帯文土器・壺	(16.8)			(11.5)	胴部外面竹目内面ナ	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	7.5YR7/4鈍い褐色、スス付着	良好	胴部上半約1/2部残存、夜白IIb式	
360	121		SD482		突帯文土器・壺				(2.3)	外面具敷条痕、内面ナ	砂粒少量含む	5YR6/4鈍い褐色	良好	口縁部小破片	
361	121		SD482		突帯文土器・壺		(19.5)		(4.55)	外面具敷条痕内面ナ	砂粒やや多く含む	7.5YR6/3鈍い褐色	良好	胴部1/12残存	
362	121		SD482		突帯文土器・浅鉢	(14.4)			(5.05)	外面へろがき、板行、内面ナ・ミ	精良、粗砂粒・金雲母微粒わずかに含む	7.5YR8/1灰白~7.5YR5/2灰褐色	良好	口縁~胴部上半1/8残存	
363	121		SD482		弥生土器・高坏	(23.2)			(6.05)	内外面へろがき	精良、砂粒ほとんど含まず	7.5YR5/3鈍い褐色	良好	口縁部1/9残存	
364	121		SD482		弥生土器・脚				(12.7)	(5.2)	外面竹目内面ナ	粗砂粒・赤褐色粒子多く含む	5YR6/6褐色	不良	脚部1/5残存
365	121		SD493		土器器・高坏?				(13.7)	(2.95)	内外面へろがき	精良、砂粒をほとんど含まず	10YR8/3浅黄褐色	良好	脚部1/8残存
366	121		SD493		突帯文土器・深鉢				(3.4)		内外面竹目	砂粒わずかに含む	7.5YR7/3鈍い褐色~10YR3/1黒褐色	良好	口縁部小破片、夜白II式
367	121		SD493		弥生土器・壺			(8.6)	(6.7)	底部外面竹目内面ナ	砂粒・黒雲母粒少量含む	7.5YR6/3鈍い褐色(上部)~5YR6/4鈍い褐色(下部)	良好	底部1/7残存	
368	121		SD493		弥生土器・壺				(5.6)	外面竹目、内面後行	砂粒・金雲母微粒を少量含む	5YR5/3鈍い赤褐色、スス付着	良好	体部小破片	
369	121	92	SD497		弥生土器・壺		8.7		(5.1)	外面竹目、内面ナ	粗砂粒多く含む	7.5YR7/2明褐色	良好	底部1/2残存	
370	121		SD497		弥生土器・壺		6.7~7.0		(5.4)	外面へろがき	粗砂粒やや多く含む	10YR7/3鈍い黄褐色	不良	底部3/4残存	
371	121		SD510		土器器・小型壺	(8.6)	(9.4)		(3.55)	外面~口縁部内面コナテ、内面へろがき	粗砂粒・黒雲母微粒わずかに含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁~体部上半1/8残存	
372	121		SD510		弥生土器・鉢?	(6)			(3.7)	2.1	口縁部外面へろがき、内面ナ	粗砂粒・金雲母微粒わずかに含む	7.5YR5/2灰褐色	良好	口縁~体部6/7欠損、外底部は剥離
373	121		SD521		弥生土器・壺	(13.8)			(3.7)	外面竹目後行、内面コナテ	粗砂粒・赤褐色粒子少量含む	7.5YR6/4鈍い褐色(口縁)~7.5YR3/2黒褐色	良好	口縁部1/4残存	
374	121		SD540		弥生土器・壺	(16.4)			(6.25)	コナテ	粗砂粒・金雲母微粒やや多く含む	7.5YR7/2明褐色	良好	頸部1/4残存	
375	121		SD543		土器器・壺	(12.4)			(3.25)	コナテ	粗砂粒・金雲母・黒雲母微粒わずかに含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁部1/7残存	
376	122		SD506		突帯文土器・壺	(21.8)			(6.75)	口縁部刻目突帯	粗砂粒少量含む	7.5YR7/3鈍い褐色、スス付着	良好	口縁部1/4残存	
377	122		SD506		突帯文土器・壺		(19.4)		(3.5)	外面具敷条痕、内面ナ	粗砂粒・赤褐色粒子・金雲母微粒少量含む	7.5YR8/4浅黄褐色~7.5YR4/2灰褐色	不良	胴部1/10残存、夜白深鉢IV類	
378	122		SD506		突帯文土器・壺				(6.0)	外面竹目	砂粒・金雲母微粒わずかに含む	7.5YR7/2明褐色	良好	口縁部小破片、夜白II式	
379	122		SD506		突帯文土器・壺				(6.75)	外面具敷条痕、内面ナ	粗砂粒・金雲母微粒を少量含む	5YR7/6褐色、スス付着	不良	口縁部小破片、夜白深鉢IV類	
380	122	92	SD506		弥生土器・壺	(17.3)			(6.0)	内外面竹目後行、外面下半磨滅	粗砂粒・金雲母微粒やや多く含む	7.5YR5/3鈍い褐色~7.5YR4/2灰褐色、スス付着	良好	口縁部1/8残存	
381	122		SD506		弥生土器・壺	(17.2)			(6.9)	内外面竹目後行、外面下半磨滅	粗砂粒やや多く含む	7.5YR5/3鈍い褐色~7.5YR4/2灰褐色	良好	口縁~体部状上半1/9残存	
382	122		SD506		弥生土器・高坏	(20.6)			(3.3)	口縁部外面竹目体外面・口縁内面へろがき体内面ナ	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	7.5YR7/3鈍い褐色~7.5YR5/6明褐色	良好	坏口縁部1/9残存	
383	122		SD506		弥生土器・高坏			(21.9)	(9.4)	外面へろがき、内面竹目後行・ナ	砂粒・金雲母微粒少量含む	7.5YR3/2黒褐色、黒斑あり	良好	脚部1/5残存	
384	122		SD506		弥生土器・高坏		軸部5.0		(4.75)	へろがき・ナ	粗砂粒・赤褐色粒子やや多く含む	7.5YR6/2灰褐色、黒斑あり	良好	脚軸部のみ残存	
385	122		SD505		弥生土器・高坏			(24.0)	(8.5)	外面へろがき、内面ナ・板行	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	10YR8/3浅黄褐色~7.5YR5/2灰褐色、黒斑あり	不良	脚部1/9残存	
386	122		SD506		土器器・壺	(20.3)			(4.4)	口縁部内外面へろがき	砂粒わずかに含む	5YR6/6褐色	良好	口縁部1/8残存	
387	122		SD505		弥生土器・壺	(19.8)			(8.2)	口縁部コナテ、頸部外面粗い竹目、内面竹目後行	砂粒・金雲母微粒を少量含む	7.5YR8/2灰白色	良好	口縁部1/10残存	
388	122		SD506		土器器・鉢	(11.2)			(4.4)	内外面へろがき	粗砂粒・金雲母微粒を少量含む	7.5YR8/6浅黄褐色	良好	口縁~体部1/8残存	
389	124	92	SD507		突帯文土器・壺	21	23.7		23.3	外面コナテ具敷条痕、内面板行	粗砂粒非常に多く含む	5YR7/6橙~7.5YR7/4鈍い褐色、全面にスス付着	良好	胴下部~底部以外	

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
390	124	92	SD507		突帯文土器・甕	18.6	20.7	6.8	23.4	外面貝殻条痕、下半は条痕後ヨコナデ、内面は貝殻条痕後ヨコナデ	粗砂粒・赤褐色粒子・黒色粒子やや多めに含む	7.5YR7/4鈍い橙～7.5YR7/8黄褐色、外面上半全面スス付着	良好	ほぼ完形
391	124	92	SD507		突帯文土器・甕	17.8	19	7.2	24.2	外面ヨコ貝殻条痕、内面貝殻条痕あと行・板行	粗砂粒・黒色粒子多く含む、他に金雲母・赤褐色粒子を含む	7.5YR8/4浅黄橙～7.5YR7/4鈍い橙～7.5YR7/6橙、スス付着し黒ずむ部分多い	良好	ほぼ完形
392	124	92	SD507		突帯文土器・甕	(19.8)	(20.2)		(15.9)	外面貝殻条痕、内面ヨコ板行	粗砂粒・黒色粒子やや少なめに含む	7.5YR7/4・6/4鈍い橙色、全面にスス付着	良好	口縁部1/3残存
393	124		SD507		突帯文土器・甕	(20)	(20)		(9.2)	外面ヨコハケ目、内面ヨコナデ	粗砂粒・黒色粒子少量含む	5YR2/1・3/1黒褐～5YR4/1褐灰、スス付着	良好	口縁部1/7残存
394	124	92	SD507		突帯文土器・甕	21	22.5	7.3	25.7	外面貝殻条痕後行、内面ヨコ板行	粗砂粒やや少なめに含む	10YR7/4・6/4鈍い黄褐色、胴上部はスス付着・黒斑あり	良好	ほぼ完形
395	124	93	SD507		突帯文土器・甕	20.9	24.2		(23.1)	外面ヨコ貝殻条痕、下半後行、内面ヨコ板行	粗砂粒・黒色粒子やや少なめに含む	5YR6/3鈍い橙～5YR5/3鈍い赤褐色、胴上部にスス付着	良好	胴下部～底部以外
396	124		SD507		突帯文土器・甕	(21.8)			(4.6)	外面ヨコ貝殻条痕、内面ヨコナデ	粗砂粒わずかに含む	7.5YR6/3灰褐色、スス付着	良好	口縁部1/4残存
397	124	93	SD507		突帯文土器・甕	(18)			(5.5)	外面貝殻条痕後行、内面ヨコナデ	粗砂粒多く含む、赤褐色粒子・黒色粒子も含む	5YR6/3鈍い橙色、スス付着跡あり	良好	口縁部1/11残存
398	124		SD507		突帯文土器・甕		21.8		(16.6)	内外面ハケ目、内面下半指ナデ	粗砂粒少量含む	7.5YR7/8黄褐色、胴部黒斑あり	良好	屈曲部・底部以外残存
399	124	93	SD507		突帯文土器・甕	19.6			(21)	内外面上半ヨコ板行、下半内面は貝殻条痕	粗砂粒・黒色粒子・赤褐色粒子少量含む	7.5YR8/4浅黄褐色、外面黒斑あり	良好	底部以外残存
400	124		SD507		突帯文土器・甕	(18)			(9.4)	外面ヨコ貝殻条痕、内面ヨコナデ	粗砂粒やや多めに含む	7.5YR6/4鈍い橙色、スス付着	良好	口縁部1/6残存、一条突帯
401	124	93	SD507		突帯文土器・甕	14.4			(11)	外面貝殻条痕、内面ヨコ板行	粗砂粒・黒色粒子・赤褐色粒子やや多く含む	7.5YR6/4鈍い橙色、スス付着部分あり	良好	口縁部4/5、底部以外残存
402	124		SD507		突帯文土器・甕				(11.2)	外面貝殻条痕、内面ヨコナデ	粗砂粒・黒色粒子を少量含む	7.5YR7/3鈍い橙色、ススにより黒ずむ	良好	口縁部破片 胴部突帯破片
403	124		SD507		突帯文土器・甕			(7)	(6.6)	内外面条痕後行、	粗砂粒やや多めに含む	7.5YR6/3鈍い褐色、スス付着	良好	底部～胴下部1/2残存
404	125	93	SD507		弥生土器・甕	21.8	19.8	7.2	26	外面ハケ目、内面ハケ目後行	粗砂粒・黒色粒子多く含む	7.5YR8/4浅黄橙～7.5YR4/3褐色、胴部上半に黒斑	良好	ほぼ完形
405	125	93	SD507		弥生土器・甕	(27)			(6.9)	外面ハケ目後行消し、内面ナデ、口縁部刻目あり	粗砂粒非常に多く含む、他に黒色粒子も含む	5YR8/3淡橙～5YR7/3鈍い橙色、一部黒ずむ	良好	口縁部1/6残存、板付式
406	125	93	SD507		突帯文土器・深鉢	(40.4)	(39.4)		(17.9)	口縁外面ヨコハケ目、胴部ヘラ行、カミガキ、内面ヘラミガキ	粗砂粒・黒色粒子わずかに含む	7.5YR7/6橙～7.5YR6/4鈍い橙褐色	良好	口縁～胴部約1/3残存、精製深鉢
407	125	93	SD507		弥生土器・壺	19.8	37.3	10	37.1	口縁外面行、後ミガキ、胴部ハケ目後ミガキ、底部近くハケ目、内面行	粗砂粒・黒色粒子・赤褐色粒子やや多めに含む	外～内面口縁より3cmは10R5/8～4/6赤で丹塗、胴上部に2箇所黒斑あり	良好	ほぼ完形
408	125		SD507		弥生土器・壺			(9.2)	(3)	内外面行、底部木葉圧痕か	粗砂粒多く含む	5YR7/3鈍い橙褐色	良好	底部、大型、板付式
409	125	93	SD507		弥生土器・壺	(11)			(4)	内外面ヘラミガキ	精良、砂粒・赤褐色粒子・黒色粒子わずかに含む	7.5YR7/2明褐色、丹塗磨研か	良好	口縁部1/5残存
410	125	93	SD507		弥生土器・壺			(4.4)	(3.2)	内外面ヘラミガキ	精良、砂粒・黒色粒子わずかに含む	10YR7/3鈍い黄橙、底部付近に黒斑あり	良好	底部破片、板付式
411	125	93	SD507		弥生土器・高坏	(22)	(6.6)		(17.1)	外面ハケ目行、後ヘラミガキ、内面坏部行、後ミガキ、脚部行	粗砂粒やや多量混、赤褐色粒子・黒色粒子も含む	7.5YR8/2灰白～7.5YR6/2灰褐色	良好	口縁部半分以下、脚部下部以外残存
412	125	93	SD507		弥生土器・高坏			(14.4)		脚内外面行	粗砂粒を非常に多く含む、他に黒色粒子・金雲母も含む	7.5YR6/2灰褐～7.5YR6/3鈍い褐、全面にスス付着	良好	脚部2/3残存
413	125		SD507		弥生土器・壺	(50)			(21.4)	外面ハケ目後ヘラミガキ、内面ハケ目	粗砂・赤褐色粒子多く含む	2.5YR6/4鈍い橙～2.5YR6/6・6/8橙～2.5YR5/6・5/8明赤褐、丹塗り	良好	肩部～胴部1/3強残存
414	127	94	SD505		弥生土器・壺	6.4	12.85	4.9	12.6	口縁部外面ヘラミガキ、胴部上半ハケ目後行、下半～底部行、口縁部内面ハケ目後行	粗砂粒・赤褐色粒子少量含む	7.5YR7/4鈍い橙～5YR6/6橙褐色	良好	口縁一部を欠くがほぼ完形
415	127		SD505		弥生土器・壺		(13.0)		(6.95)	外面ヘラミガキ、内面行	砂粒少量含む	5YR7/6橙(頸部)～7.5YR8/3浅黄褐色(体部)	良好	体部1/8残存
416	127		SD505		弥生土器・壺		(12.1)		(6.5)	外面ヘラミガキ、内面行	砂粒少量含む	7.5YR6/4鈍い橙褐色	良好	体部1/4残存
417	127	94	SD505	2区下層	弥生土器・壺	11.4	16.0	(3.6)	14.7	外面口縁部～胴部上半ヘラミガキ、下半～底部行、内面口縁部ハケ目後行、胴部行	粗砂粒・金雲母微粒・黒色砂粒・赤褐色粒子少量含む	7.5YR8/4浅黄橙～5YR7/6橙褐色、黒斑あり	良好	口縁1/3・底部3/4欠損
418	127	94	SD505		弥生土器・壺	13.7	17.2	3.8	17.7	外面口縁部ヨコ行、頸～胴部上半ハケ目、下半行、内面口縁部～胴部ヨコ行、下半行	粗砂粒・黒色粒子含む	10YR8/6黄褐色、黒斑あり	良好	口縁～底部1/2残存
419	127	94	SD505	3区上層	弥生土器・壺	(13.5)			(10.0)	内外面丁寧ヘラミガキ、胴部内面行	砂粒・金雲母微粒をわずかに含む	7.5YR8/4浅黄褐色、丹塗りか	良好	口縁～頸部1/3残存
420	127	94	SD505	突出部	弥生土器・小型甕	13.7	18		16.45	外面口縁部ヨコ行、胴部上半ハケ目後行、下半行、内面口縁部ヨコ行後行、頸部ハケ目後行、胴部行で当て具痕	粗砂粒含む	10YR6/3にぶい黄褐色、黒斑あり	良好	口縁から胴部1/3残存
421	127	94	SD505		弥生土器・甕	(15)	(19.1)		(14.2)	口縁部内外面ヨコ行、胴部外面行、ナカハケ目、胴部内面ハケ目後行	砂粒少量含む	10YR8/3浅黄褐色、黒斑あり	良好	口縁～体部1/2弱残存
422	127	94	SD505		弥生土器・甕	19.4	25.3	(7.4)	26.1	口縁内外面ハケ目後行、胴部上半ハケ目、下半ハケ目後行、底部行、胴部内面ハケ目、内底行	粗砂粒少量含む	5YR8/4淡褐色、黒斑あり	良好	口縁1/3・底部1/2欠損、底部付近は焼成時に破裂
423	127	94	SD505		弥生土器・甕		25.5	7.0	(26.0)	外面上半ハケ目、下半板行、内面ハケ目、ハケ目後行	砂粒わずかに含む	7.5YR8/3浅黄橙～7.5YR4/2灰褐色、黒斑あり	良好	頸～口縁部欠損
424	127		SD505	3区上層	弥生土器・甕	(20)			(8.2)	口縁部外面ヨコ行、胴部ハケ目、口縁部内面ハケ目後行、内面行	粗砂粒・金雲母微粒やや多く含む	7.5YR5/4鈍い褐～7.5YR3/2黒褐色	良好	口縁～胴部上半1/2残存
425	127		SD505	突出分べルト	弥生土器・甕		(27.8)		(11.7)	内外面ハケ目、外面鉤状平行沈線・3本並行線刻	砂粒・黒色鉱物やや含む	2.5YR5/6明赤褐色	良好	胴部破片
426	127	94	SD505		弥生土器・甕	14.6	15.9	4.55	20.2	外面口縁部ハケ目後行、胴部ハケ目後行、下半板行、内面口縁部ハケ目後行、胴部ハケ目、下半板行	粗砂粒少量含む	7.5YR7/3鈍い橙褐色、スス付着	良好	胴部一部欠損
427	128	95	SD505		弥生土器・甕	17.3	18.9	4.75	24.35	外面口縁部ハケ目後行、胴部ハケ目後行、下半板行、内面口縁部ハケ目後行、胴部ハケ目で軽いナデ	粗砂粒少量含む	7.5YR8/3鈍い橙(口縁)～7.5YR5/2灰褐色、スス付着	良好	口縁～胴部1/7欠損
428	128		SD505	2区	弥生土器・甕	(18.2)			(4.5)	口縁部外面ハケ目後行、内面行	粗砂粒やや多く含む	7.5YR4/2灰褐色、スス付着	良好	口縁部1/8残存
429	128	94	SD505		弥生土器・甕	20.4	23.0	8.55	32.7	口縁部内外面ヨコ行、頸部～胴部ハケ目後行	砂粒少量含む	7.5YR8/3浅黄褐(上)～10YR7/2鈍い黄褐色(下)・7.5YR2/1黒色(株)	良好	胴部一部欠損
430	128	94	SD505		弥生土器・甕	20.8	23.1	7.6	(30)	口縁部内外面ヨコ行、胴部～底部内外面ハケ目後行	粗砂粒少量含む	7.5YR6/3鈍い褐～10YR6/4鈍い黄褐色、スス付着	良好	口縁1/2 胴部上半1/4・底部1/2欠損

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底径	器高					
431	128	95	SD505		弥生土器・壺		(20.0)	6.1	(23.2)	外面胴部上半の目後行、下半の目後板行、外底行、内面頸部粗い竹目、胴部行で下半の目後行	粗砂粒少量含む	7.5YR6/6橙～7.5YR6/4鈍い橙 色、黒斑あり	良好	胴部1/3残存
432	128	95	SD505		弥生土器・壺	14.2	23.5		(28.0)	口縁部コシ行、胴外内竹目、下半の目後板行、外底行、胴内面竹目、下半の目後板行	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	7.5YR8/3浅黄橙～5YR7/6橙 色、黒斑あり	良好	底部は焼成時に破裂し欠損する・使用の痕跡無し
433	128		SD505	3区下層	弥生土器・壺	(23.4)			(10.4)	口縁部内外面コシ行、胴部外面竹目後行、胴部内面上半竹目後行	粗砂粒・赤褐色粒子少量含む	5YR7.6橙～5YR7/3鈍い橙 色、黒斑あり	良好	口縁～胴部上半1/12残存
434	128	95	SD505		弥生土器・鉢	27.1		7.9	7.3	外面口縁～底部分、内面竹目、口縁部コシ行後へミカキ	粗砂粒含む	7.5YR6/6橙	良好	
435	128		SD505		弥生土器・器台		(16.5)	(14.1)		外面竹目、内面竹目、脚部竹目	砂粒・金雲母微粒やや多く含む	5YR6/6橙(脚部)～7.5YR6/3鈍 い褐色	良好	脚部1/8残存
436	128		SD505	2区下層	弥生土器・器台	(9.8)			(7.5)	口縁部内外面コシ行、外面竹目、内面竹目・漆り痕	粗砂粒わずかに含む	10YR8/1灰白色	良好	口縁部1/14残存
437	129	95	SD505	4区下層	弥生土器・鉢	12			4.9	口縁部内外面コシ行	粗砂粒含む	7.5YR8/4浅黄褐色	良好	
438	129		SD505	4区上層	弥生土器・鉢	13.6		4.2	4.5	内外面竹目	粗砂粒含む	10YR6/4鈍い黄褐色	良好	
439	129		SD505	底面	弥生土器・鉢	13.4			3.1	内外面竹目	粗砂粒含む	5YR7/8橙～5YR4/2灰褐色	良好	
440	129		SD505	底面	弥生土器・壺				(3.2)	行・無軸の羽状文	粗砂粒多く含む、黒色粒子・赤褐色粒子少量含む	7.5YR8/4浅黄褐色	良好	胴部破片。
441	129		SD497		弥生土器・壺				(3.2)	外面へミカキ、内面竹目	精良、砂粒・金雲母微粒をわずかに含む	5YR6/4鈍い橙	良好	胴部小破片
442	129		SD505	3区上層	弥生土器・壺	(27.1)			(6.3)	外面丁寧な竹目、内面へミカキ	粗砂粒・金雲母微粒をわずかに含む	5YR7/4鈍い橙～5YR6/6橙 色、丹塗り残	良好	口縁部1/7残存
443	129		SD505	3区上層	弥生土器・壺	(19.1)			(12.0)	口縁部内外面竹目、胴部外面竹目後行、内面竹目	粗砂及び金雲母微粒少量含む	7.5YR6/3鈍い橙～7.5YR8/3浅 黄褐色	良好	口縁～胴上部1/12残存
444	129		SD505	3区下層	突帯文土器・深鉢	(23.4)			(8.6)	外面貝殻条痕内面竹目	粗砂粒少量含む	7.5YR4/3褐～7.5YR2/2黒褐色 (煤)	良好	口縁～胴部上半1/8残存、夜白深鉢N類
445	129		SD505	3区上層	突帯文土器・深鉢	(23.4)			(4.35)	内外面貝殻条痕、外面条痕後行	精良、金雲母微粒少量含む	7.5YR8/3浅黄褐色	良好	口縁部1/10残存、夜白深鉢N類
446	131	95	SD388	1区土器群上層	土製品・杓子	長(13.7)	杓部径7.4		深さ(3.6)	手握ね、指押さえ痕	粗砂粒多く含む	2.5Y5/2暗灰色	良好	口が欠けるがほぼ完形
447	131	95	SD388	1区土器群上層	土製品・杓子	長(9.2)	杓部径(5.3)		深さ(2.7)	指押さえ痕	粗砂粒少量含む	10YR6/2灰黄褐色	良好	杓部が半欠け、短い柄が付く
448	131		SD388	1区土器群下層	土製品・杓子の柄か?	長(5.3)				指押さえ仕上	砂粒を含む	10YR6/2灰黄褐色	良好	
449	131		SD388	1区下層	不明粘土塊	長8.15	幅6.25		厚さ2.55	指押さえ紺・竹目	粗砂粒含む	5Y6/1灰色	良好	
450	131		SD388	1区土器群下層	不明粘土塊	長7.45	幅5.6		厚さ4.3	全面指押さえ、痕跡な仕上げ	粗砂粒含む	2.56/1黄灰色	普通	黒化する
451	131		SD471		土製品・鏝	長(2.6)	径1.9	孔径0.6		竹目	精良	10YR6/3鈍い黄褐色	普通	2/3現存
452	131	95	SD507		土製品・紡錘車	径5.5	孔径0.45	最大厚1.5		丁寧な竹目	粗砂粒含む	2.5Y5/2暗灰色	良好	ほぼ完形
453	136		SK384		弥生土器・高坏					摩滅、脚内面漆り痕	粗砂粒多く含む	10YR8/3浅黄褐色	普通	脚部2/3
454	136		SK384		土器器・器台		(14.2)			外面細い竹目内面竹目漆り痕	精良	7.5YR7/3鈍い橙	普通	脚部2/3片
455	136		SK384		土器器・器台		(11.4)			外面竹目竹目・漆り	精良	7.5YR6/5鈍い褐色	普通	脚部1/3片
456	136		SK384		弥生土器・高坏					外面竹目	粗砂粒わずかに含む	5YR5/4鈍い赤褐色	良好	脚部
457	136		SK384	最下層	土器器・高坏		(13.1)			内外面ハケ目・ケズリ	砂粒多く含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	脚部3/4
458	136		SK384		土器器・鉢	(10.2)			(4.3)	外面竹目	粗砂粒多く含む	7.5YR8/3浅黄褐色	良好	口縁部1/3
459	136		SK384		土器器・壺	(25)				内外面コシ行	粗砂粒多めに含む	7.5YR5/6明褐色	普通	口縁部1/4片
460	136		SK384	最下層	土器器・鉢	(13.2)			(4.2)	外面丁寧な竹目、内面細い竹目	精良	7.5YR7/2鈍い橙	良好	口縁部1/4片
461	136		SK384	最下層	土器器・鉢	(12.2)			(3.4)	外面竹目、内面丁寧な竹目	精良	7.5YR7/2鈍い橙	良好	口縁部1/6片
462	136	97	SK384		弥生土器・鉢	(11.5～11.8)			(6.7～7.3)	外面指押さえ後工具による竹目	砂粒少量含む	7.5YR5/1褐灰色	良好	完形
463	136		SK384	最下層	土器器・鉢	(19.2)			(10.8)	外面胴部上半竹目、胴部下半へミカキ	粗砂粒含む	2.5Y6/3鈍い黄	良好	1/6片
464	136	97	SK384	最下層	土器器・壺	(17)	(21.4)			外面胴部上半竹目、胴部下半竹目、内面胴部竹目後行	粗砂粒含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁～胴部1/2片
465	136		SK384	最下層	土器器・壺	(17.4)				内外面コシ行	粗砂粒含む	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	口縁部1/4片
466	136		SK448		弥生土器・壺?					内外面竹目	精良	10YR6/3鈍い黄褐色	普通	底部1/2
467	136		SK459		弥生土器・壺					外面磨滅するが丹塗り	粗砂粒多く含む	5YR6/6橙	普通	胴部
468	138	97	SK460		突帯文土器・深鉢	23.2	22.8		20.3	外面横方向貝殻条痕、内面条痕後行消し	粗砂粒・黒色粒子やや多めに含む	7.5YR7/6橙、スス付着	良好	口縁部～胴下部残存
469	138	97	SK460		突帯文土器・深鉢	21	23.2		22	外面貝殻条痕内面竹目	砂粒含む	10YR8/3浅黄橙～10YR7/3鈍い 黄褐色	良好	口縁部～胴下部残存
470	138	97	SK460		突帯文土器・深鉢	(18)	(20)		(13.5)	内外面竹目、二条突帯	粗砂粒やや多めに含む	7.5YR6/4鈍い橙～7.5YR6/6 橙、ススにより黒ずむ部分多	良好	口縁部～胴上部1/2残存
471	138		SK460		突帯文土器・深鉢				(4)	外面ヨコ貝殻条痕後行、内面竹目、突帯文	砂粒少量含む	10YR7/2-7/3鈍い黄褐色、スス 付着	良好	口縁部破片
472	138	97	SK460		弥生土器・壺	22	20.6		7.8	外面タテ目竹目後行、内面竹目、口縁部刻目	粗砂粒やや多め、黒色粒子・金雲母少量含む	10YR6/3鈍い黄褐色～10YR6/6明 黄褐色、胴部黒斑あり	良好	ほぼ完形、板付I式
473	138	97	SK460		弥生土器・壺	21	20.4		8.8	外面竹目竹目後行、内面竹目後行、口縁部刻目	粗砂粒・赤褐色粒子多めに含む	7.5YR7/3鈍い橙～7.5YR6/2灰 褐色、胴部に黒斑、スス付着	良好	ほぼ完形、板付I式
474	138	97	SK460		弥生土器・壺	(22.6)	(20.2)		(7.8)	外面竹目竹目後行、内面竹目	粗砂粒・金雲母やや多めに含む	10YR7/3-7/4鈍い黄褐色～ 10YR5/1褐灰色	良好	口縁部～胴上部1/10残存、板付IIa式
475	138	97	SK460		弥生土器・壺			(7.5)	(9.8)	外面竹目竹目後行、内面竹目	粗砂粒・黒色粒子多く含む	7.5YR6/4鈍い橙	良好	底部～胴下部、板付式
476	139		SK460		突帯文土器・鉢	(41.6)	(36.3)		(21.8)	内外面口縁部ヨコ竹目、以下竹目・漆り、内面以下竹目	粗砂粒多く含む	7.5YR6/6橙～10YR6/4鈍い黄 褐色、口縁部黒斑	良好	口縁部・胴部破片より復元。
477	139		SK460		弥生土器・高坏	(20.4)		(15.6)	(17)	外面ヨコ竹目、内面環部ヨコ竹目、脚部竹目	粗砂粒・赤褐色粒子・黒色粒子少量含む	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	口縁部1/5、脚部1/4残存、板付I式
478	139	97	SK460		突帯文土器・鉢	(38.4)	(33.4)		(12.4)	内外横竹目、段部に刻目、精製品	砂粒・黒雲母・金雲母少量含む	2.5YR7/3浅黄～2.5YR6/3鈍い 黄色、内外面丹塗	良好	口縁部～胴上部1/5残存

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
479	139		SK460		突帯文土器・高坏か浅鉢	(28)		(2.6)	内外面黒色磨研	黒色粒子を少量含む	10YR3/1黒褐～10YR6/1褐灰色	良好	口縁部2/5残存	
480	139		SK460		突帯文土器・鉢		(23.8)	(6.8)	内外面横溝かき、段あり	粗砂粒やや多めに含む	10YR8/3浅黄橙～10YR5/3鈍い黄褐色	良好	屈曲部1/10残存	
481	139		SK460		弥生土器・鉢	(25.6)		(3.3)	内外面黒色磨研	粗砂粒多く含む、黒雲母・金雲母を少量含む	口縁部7.5YR3/1黒褐、他7.5YR6/3鈍い褐色	良好	口縁部1/7残存	
482	139		SK460		弥生土器・壺			(2.1)	内外面横溝かき	精良	10YR3/1黒褐～10YR4/1褐灰色(黒色磨研)	良好	口縁部破片、小型壺、板付1式	
483	139		SK460		弥生土器・鉢			(5.2)	内外面行後溝かき	砂粒わずかに含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁部破片	
484	139		SK460		弥生土器・ミナブ鉢	(7.2)	(2.6)	(5.3)	内外面ヨコ溝かき	精良	10YR3/1黒褐～10YR7/3鈍い黄褐色 内外黒色磨研	良好	底部～胴上部1/2器残存	
485	139		SK460		弥生土器・壺	(14)		(3.4)	内外面横溝かき	精良	10YR5/2灰黄褐色、内外黒色磨研	良好	口縁部1/4残存、板付1式	
486	139		SK460		弥生土器・壺		肩部(22)	(3.7)	外面ヨコ溝	精良	10YR4/1褐灰～10YR5/2・4/2灰黄褐色、黒色磨研	良好	肩部2破片、板付1式	
487	139		SK460		弥生土器・壺		肩部(21)	(7.1)	外面ヨコ溝かき、内面ヨコ溝かき、頸部ヨコ溝かき	精良	2.5YR6/4鈍い褐色、右半分黒斑あり	良好	肩部～胴上部破片、板付1式	
488	139	97	SK460		弥生土器・壺			10.6 (7.4)	外面横溝かき、内面ヨコ溝目後溝	粗砂粒・黒色粒子やや多く含む	10YR7/3鈍い黄褐色 内外とも丹塗、外底部黒斑あり	良好	底部のみ	
489	139	97	SK460		弥生土器・壺			(11.4) (6.2)	内外面粗い溝かき	粗砂粒・黒色粒子・金雲母やや多めに含む	5YR7/6橙～10YR7/4鈍い黄褐色、丹塗	良好	底部1/3残存	
490	140		SK462		弥生土器・鉢	(21)		(5.5)	内外面行後溝かき	砂粒多く含む	10YR8/2灰白色、一部スス付着	良好	口縁部1/7残存	
491	140		SK463		突帯文土器・壺			(3.7)	内外面ヨコ溝	粗砂粒やや多めに含む	10YR3/2黒褐～10YR4/2灰黄褐色、スス付着	良好	口縁部破片	
492	140	97	SK463		突帯文土器・鉢	(10.4)		5.4 8.8	内外行	粗砂粒含む	7.5YR6/4にぶい褐色	良好	口縁部3/4、胴部1/2欠ける	
493	140	97	SK463		弥生土器・壺	(23)	(21)	(10.5)	外面行後溝かき、内面ヨコ溝	粗砂粒・黒色粒子多く含む	5YR7/6橙～10YR7/3鈍い黄褐色	良好	口縁部～胴中部1/3残存、板付1式	
494	140	97	SK463		弥生土器・壺			8.4 (7.5)	外面ヨコ溝方向強めの溝	粗砂粒多く含む	10YR7/4鈍い黄褐色～10YR6/2灰黄褐色	良好	底部～胴下部、板付式	
495	140		SK463		突帯文土器・深鉢			(2.1)	外面ヨコ溝	粗砂粒やや多めに含む	7.5YR6/4鈍い褐色	良好	口縁部破片	
496	140		SK463		弥生土器・高坏		脚径(13.6)	(4.6)	外面ヨコ溝後溝	粗砂粒含む	2.5YR8/3淡黄色	良好	脚部破片1/8強	
497	140		SK468		弥生土器・壺	(24)		(2.5)	内外面ヨコ細かい目	砂粒少量含む	10YR7/1灰白～10YR3/1黒褐色	良好	口縁部破片、板付1式	
498	140		SK468		突帯文土器・浅鉢	(32)		(4.6)	内外面丁寧なヨコ溝方向の溝	精良	10YR7/3・6/3鈍い黄褐色	良好	口縁部1/6強残存	
499	140		SK468		弥生土器・壺	(36)		(7)	内外面横溝かき	粗砂粒多めに含む	7.5YR6/4鈍い橙～7.5YR6/2灰褐色	良好	口縁部1/10残存、板付2式	
500・503	140		SK468		弥生土器・壺		肩部(35.6)	(9.2)	外面横溝かき、内面脚部粗い目後溝	粗砂粒やや多め、黒雲母・金雲母・赤褐色粒子も含む	2.5YR6/6橙～2.5YR5/6明赤褐色、黒斑あり	良好	口縁部破片、胴上部1/10残存、板付2式	
501	140		SK468		弥生土器・壺			11.6 (6.9)	外面横溝かき、内面行	粗砂粒を非常に多く含む	5YR7/6橙～5YR5/4鈍い黄褐色、内外丹塗	普通	底部、大型壺、板付式	
502	140		SK468		弥生土器・壺			(10) (2.2)	外面横溝かき、内面行	精良、砂粒わずかに含む	5YR6/6褐色	良好	底部1/4器残存、板付式	
504	142	98	SK488		突帯文土器・壺	20	22.4	7.8 (19)	外面ヨコ溝線痕	粗砂粒多く含む、黒色粒子・赤褐色粒子・金雲母も含む	5YR6/8褐色、スス付着	良好	ほぼ完形	
505	142	98	SK488		突帯文土器・壺	19.6	20	7.5 23.9	外面貝殻線痕	粗砂粒多く含む、黒色粒子も含む	10YR8/3浅黄橙～10YR7/2鈍い黄褐色、胴上半スス付着	良好	完形	
506	142	98	SK488		突帯文土器・壺	19	18	(17.8)	外面ヨコ溝線痕	粗砂粒多めに含む、黒色・赤褐色粒子も含む	5YR7/6褐色、スス付着	良好	口縁部～胴中部残存	
507	142	98	SK488		突帯文土器・壺	21	19.8	7.5 22.8	外面ヨコ溝線痕後板付、内面丁寧なヨコ溝	粗砂粒多めに含む、黒色・黄色粒子も含む	5YR7/4鈍い橙～7.5YR7/6褐色、胴中下部スス(み)付着	良好	完形	
508	142	98	SK488		突帯文土器・壺	19	16.3	(5.9) 20	外面貝殻線痕後ヨコ溝、内面ヨコ溝線痕後板付	粗砂粒少量、黒色・赤褐色粒子も含む	7.5YR7/8黄橙～7.5YR6/4鈍い褐色、上部にスス付着	良好	ほぼ完形	
509	142	98	SK488		突帯文土器・壺	22	18.2	7.2 21.6	外面ヨコ溝線痕後粗いヨコ溝	粗砂粒少量含む	5YR7/6褐色、上半にスス付着	良好	完形	
510	142	98	SK488		突帯文土器・壺	20	18.8	7.4 (26)	外面貝殻線痕後ヨコ溝	粗砂粒多めに含む、黒色・赤褐色粒子も含む	5YR8/3淡橙～5YR7/6褐色、口縁下スス付着	良好	ほぼ完形	
511	142	98	SK488		突帯文土器・壺	22	20.5	7.2 25.2	外面貝殻線痕後ヨコ溝、内面ヨコ溝線痕後板付	粗砂粒・赤褐色・黒色粒子やや少なめに含む	5YR7/6橙～5YR6/4鈍い褐色、胴部突帯以上スス付着	良好	完形	
512	142	98	SK488		突帯文土器・壺	18	19	(24.5)	外面ヨコ溝方向貝殻線痕内面板付	粗砂粒を多めに含む、赤褐色・黒色・灰色粒子も含む	2.5YR7/4淡赤橙～2.5YR6/4鈍い橙～2.5YR7/4・6/4橙、胴上部スス付着	良好	底部除き完形	
513	143	98	SK488		突帯文土器・壺	(19.2)	18.4	(16.1)	外面ヨコ溝方向貝殻線痕後ヨコ溝	粗砂粒・黒色・赤褐色粒子含む	7.5YR6/4鈍い褐色、全面にスス付着	良好	口縁部～胴上部残存	
514	143	98	SK488		突帯文土器・壺	19.8	20.5	(13.8)	外面ヨコ溝線痕後板付	粗砂粒・黒色粒子・赤褐色粒子多く含む	2.5YR7/6褐色～2.5YR7/4淡赤褐色、上部スス付着	良好	口縁部～胴上部1/4残存	
515	143	98	SK488		突帯文土器・壺		18.4	(17.2)	外面行後溝目、内面ヨコ溝目	粗砂粒・金雲母・赤褐色粒子・黒色粒子やや少量含む	5YR7/4・6/4鈍い褐色、スス付着	良好	胴上部～底部1/5残存	
516	143	99	SK488		突帯文土器・壺	22		(20.5)	外面横溝かき、内面指押さえ、板付	粗砂粒を多く含む、黒色・赤褐色粒子も含む	7.5YR6/3鈍い褐～7.5YR6/4鈍い褐色、スス付着	良好	ほぼ完形	
517	143	99	SK488		突帯文土器・壺	(20)		(22.3)	外面ヨコ溝方向貝殻線痕、内面ヨコ溝線痕後板付	粗砂粒多く含む、黒色・赤褐色粒子も含む	5YR7/4鈍い橙～5YR7/6褐色、スス付着	良好	口縁部～胴中部1/4	
518	143	99	SK488		突帯文土器・壺	15.8		(10.4)	外面ヨコ溝線痕、内面ヨコ溝	粗砂粒・赤褐色・黒色粒子を多く含む	7.5YR7/1明褐灰～7.5YR7/3鈍い褐色	良好	口縁部～胴上部1/3残存	
519	143		SK488		突帯文土器・壺	(20)		(4.7)	外面ヨコ溝線痕後板付、内面ヨコ溝	粗砂粒・赤褐色粒子・黒色粒子多く含む	7.5YR7/4鈍い橙～7.5YR5/2灰褐色	良好	口縁部破片	
520	143		SK488		突帯文土器・壺	(20)		(3.8)	外面ヨコ溝線痕後板付、内面指押さえ、ヨコ溝	砂粒・黒色粒子・褐色粒子多く含む	7.5YR7/4鈍い褐色	良好	口縁部破片	
521	143		SK488		突帯文土器・壺	(18)		(5.1)	外面ヨコ溝線痕後板付、内面指押さえ、ヨコ溝	粗砂粒・黒色粒子・赤褐色粒子多く含む	7.5YR6/4鈍い橙～7.5YR6/3鈍い褐色	良好	口縁部破片	
522	143		SK488		突帯文土器・壺	(20.2)		(5.2)	外面ヨコ溝線痕、内面ヨコ溝	粗砂粒・黒色粒子多めに含む	5YR8/3・6/4鈍い褐色、ほぼ全面スス付着	良好	口縁部破片	
523	143		SK488		突帯文土器・壺	(18.8)		(5.2)	外面ヨコ溝線痕、内面ヨコ溝線痕後板付、指押さえ	粗砂粒・黒色粒子やや少なめに含む	5YR2/1黒褐色	良好	口縁部破片	
524	143		SK488		突帯文土器・壺	(20)		(5.9)	外面ヨコ溝線痕後板付、内面ヨコ溝	砂粒・黒色粒子・赤褐色粒子・黄色粒子少量含む	5YR6/4鈍い橙～5YR4/1褐灰色	良好	口縁部破片	
525	143		SK488		突帯文土器・壺	(17)		(5.6)	外面ヨコ溝線痕、内面ヨコ溝	粗砂粒多く含む	7.5YR6/3鈍い褐～7.5YR7/4鈍い褐色	良好	口縁部破片	
526	143		SK488		突帯文土器・壺			(5.2)	外面ヨコ溝線痕後板付、内面ヨコ溝	砂粒・黒色粒子やや少なめに含む	7.5YR6/4鈍い橙～7.5YR5/4鈍い褐色	良好	口縁部破片	
527	143		SK488		突帯文土器・壺		9.1	(2.3)	外面ヨコ溝、内面行	粗砂粒・黒色粒子・赤褐色粒子・金雲母多く含む	7.5YR6/1褐灰～7.5YR6/8褐色	良好	底部	

報告書番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
528	143		SK488		突帯文土器・甕			(7)	(2.1)	外面ヨコガテ 内面ヨコ板ガテ	粗砂粒多く含む	5YR6/3鈍い褐色	良好	底部破片
529	143		SK488		弥生土器・甕			(8.4)	(10.4)	外面ヨコガテ目後ヨコ板ガテ、内面ヨコ板ガテ	赤褐色粒子・粗砂粒多く含む、黒色粒子も含む	2.5YR7/2明赤灰～2.5YR7/3淡赤褐色、黒斑あり	良好	胴下部～底部1/2残存、板付式
530	144	99	SK488		弥生土器・壺	(10.8)			(3.9)	外面ヘリガキ、内面ヨコハケ目・ヘリガキ	精良、細砂粒わずかに含む	7.5YR2/1黒色、内外黒色磨研	良好	口縁部破片
531	144	99	SK488		弥生土器・壺				(4.9)	外面ヨコ板ガテ 後ミガキ・板ガテ	精良、細砂粒わずかに含む	7.5YR6/1褐色、黒色磨研	良好	口縁部破片、板付式
532	144		SK488		弥生土器・壺				(3.7)	内外面ヨコ方向ヘリガキ	砂粒・赤褐色粒子・金雲母多めに含む	2.5YR5/6明赤褐、内外面丹塗り	良好	口縁部破片
533	144		SK488		弥生土器・壺			6	(1.8)	内外面板ガテ	精良、粗砂粒わずかに含む	5YR8/1灰白色	良好	底部、板付式
534	144		SK488		弥生土器・壺		肩部 (14.6)		(8.1)	外面ヘリガキ、内面ヨコヘリガキ・板ガテ	精良、砂粒わずかに含む	7.5YR6/2灰褐色、黒斑あり	良好	頸部破片1/4弱残存
535	144		SK488		弥生土器・壺			(12.1)		内外面ヨコガテ	砂粒やや多めに含む	7.5YR6/4鈍い褐色～7.5YR6/6褐色	良好	口縁部・肩部・底部等破片、板付IIc式
536	144	99	SK488		弥生土器・壺		19.5	7.4	(13.8)	外面ヘリガキ、内面板状工具のガテ	粗砂粒やや少なめに含む	10YR6/1褐色、胴部に黒斑あり	良好	胴部～底部1/2残存
537	144		SK488		弥生土器・壺				(4.4)	外面ヘリガキ、内面ヨコ板ガテ	精良、砂粒・黒色粒子わずかに含む	5YR8/2灰白～5YR8/3淡褐色	良好	肩部破片、板付式
538	144	99	SK488		突帯文土器・壺				(4.5)	内外面ミガキ	粗砂粒・黒色粒子をわずかに含む	7.5YR2/1黒色、黒色磨研	良好	肩部破片
539	144	99	SK488		弥生土器・壺				(2.5)	外面ヨコヘリガキ内面ヨコ貝殻条痕	精良、砂粒わずかに含む	7.5YR6/2灰褐～7.5YR5/1褐色	良好	肩部破片
540	144		SK488		弥生土器・壺				(1.9)	外面ヘリガキ、内面ヨコ板ガテ	精良、砂粒わずかに含む	7.5YR7/2明褐色～7.5YR6/2灰褐色	良好	肩部破片
541	144		SK488		弥生土器・壺		(40)		(29.7)	外面ヘリガキ、内面下半ヨコガテ目、上半ガテ目	粗砂粒・赤褐色粒子を少量含む	10YR5/6赤、丹塗、黒斑あり	良好	胴部1/4残存、
542	144	99	SK488		突帯文土器・浅鉢	(19.6)	(17.8)		(5)	内外面ヨコヘリガキ	精良、砂粒・黒色粒子・赤褐色粒子わずかに含む	7.5YR2/1黒色、内外黒色磨研	良好	口縁部破片
543	144		SK488		突帯文土器・浅鉢	(15.8)	(15.4)		(3.5)	内外面ヨコヘリガキ	粗砂粒・赤褐色粒子・黒色粒子少量含む	5YR6/1褐色	良好	口縁部～胴上部1/3残存
544	144	99	SK488		突帯文土器・浅鉢	(21)	(18.4)		(4.5)	内外面ヨコヘリガキ	粗砂粒やや多く、赤褐色粒子・黒雲母も含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁部1/5残存、高坏の可能性も
545	144	99	SK488		弥生土器・高坏	(19.4)	(19)		(5.6)	内外面ヨコヘリガキ	粗砂粒多く含む、黒色・赤褐色・黄色粒子も含む	10YR6/2灰黄褐～7.5YR6/2灰褐色、丹塗り	良好	口縁部1/5残存、板付I式
546	144	99	SK488		弥生土器・高坏	(22.8)	(18.4)		(5.1)	内外面ヘリガキ	精良、粗砂粒わずかに含む	10YR6/1褐色、外面黒斑あり	良好	口縁部1/7残存、付IIa式
547	146		SK492		弥生土器・甕	(13.4)			(3.6)	外面ヨコ目、内面ヨコ後ガテ	粗砂粒・黒色粒子・赤褐色粒子やや多めに含む	5YR8/4淡褐～5YR7/6褐色	良好	口縁部1/5残存
548	146		SK492		弥生土器・鉢	(13.6)			(4.3)	内外面ヨコガテ 後粗いガキ	粗砂粒やや多めに含む	5YR7/6褐～5YR8/4淡褐色、スス付着	良好	口縁部1/10残存
549	146		SK494		弥生土器・壺				(3.2)	外面ヨコガテ、内面丁寧なヘリガキ	粗砂粒少量含む	10YR8/3淡黄褐色	良好	口縁部破片、板付式
550	146		SK494		弥生土器・壺			11.2	(2.7)	外面ヨコ貝殻条痕後粗い指ガテ	粗砂粒多く含む	7.5YR6/3鈍い褐色	良好	底部・大型壺、板付式
551	146		SK494		突帯文土器・深鉢				(5)	外面ヨコ貝殻条痕	粗砂粒やや多めに含む	10YR3/1黒褐色	良好	口縁部破片
552	146		SK494		突帯文土器・深鉢				(2.3)	内外面指ガテ	粗砂粒多く含む	7.5YR7/3鈍い褐色～7.5YR6/3鈍い褐色、一部スス付着	普通	口縁部破片
553	146		SK494	上層	突帯文土器・深鉢			(9.4)	(2.9)	内外面指ガテ	粗砂粒多く含む	10R6/6赤褐～2.5YR6/6褐色	良好	底部
554	146		SK494	上面	弥生土器・甕			(8.9)	(2.2)	外面ヨコガテ	粗砂粒やや多めに含む	10YR8/2灰白～10YR7/2鈍い黄褐色	良好	底部1/6残存
555	146		SK494	上面	弥生土器・甕			(6.4)	(3.8)	外面粗いヨコガテ	粗砂粒やや多めに含む	7.5YR7/3鈍い褐色～7.5YR8/4淡黄褐色	良好	底部、板付式か?
556	146		SK495		突帯文土器・甕	(23)			(5.8)	内外面ヨコガテ	砂粒少量含む	10YR2/1黒色	良好	口縁部1/10残存
557	146		SK495		突帯文土器・甕				(3.8)	内外面ガテ	粗砂粒多く含む	5YR8/1灰白～5YR5/4赤褐色	良好	口縁部破片
558	146		SK495		突帯文土器・甕				(3.7)	外面ヨコ貝殻条痕後ガテ、内面ヘリガテ	粗砂粒多く含む	10YR8/1灰白～10YR6/1灰褐色	良好	口縁部破片
559	146		SK495		突帯文土器・甕				(4.5)	外面ヨコ貝殻条痕後ヨコガテ	粗砂粒やや多めに含む	10YR7/2鈍い黄褐色、左半分に黒斑	良好	口縁部破片
560	146		SK495		突帯文土器・甕				(2)	内外面ヨコガテ	粗砂・赤褐色粒子やや多めに含む	10YR8/1灰白～10YR8/3淡黄褐色	良好	口縁部破片
561	146		SK495		突帯文土器・甕				(3.3)	内外面ヨコ貝殻条痕	粗砂粒やや多めに含む	10YR3/1黒褐色	良好	口縁部破片
562	146		SK495		突帯文土器・甕				(3.6)	内面ヨコ板ガテ、外面ヨコ板ガテ・貝殻条痕	砂粒多く含む	5YR7/6褐色	良好	口縁部破片
563	146		SK495		突帯文土器・甕				(6.2)	外面ヨコ貝殻条痕、内面ガテ	粗砂粒多く含む	7.5YR3/1黒褐～7.5YR7/3鈍い褐色	良好	胴部突帯破片
564	146		SK495		突帯文土器・甕				(4)	外面ヨコ貝殻条痕後ヨコガテ、内面ヨコガテ	粗砂粒・黒色粒子やや多めに含む	7.5YR7/2明褐色～7.5YR6/2灰褐色	良好	口縁部破片
565	146		SK495		突帯文土器・甕				(2.9)	内外面ヨコ貝殻条痕後ヨコガテ	粗砂粒・赤褐色粒子をやや多めに含む	10YR2/1黒色	良好	胴部突帯破片
566	146		SK495		弥生土器・甕				(3.1)	外面ヨコ目、内面ヨコ目、口縁部ヨコガテ	砂粒やや多めに含む	5YR4/1褐色～5YR3/1黒褐色	良好	口縁部破片板付I式
567	146		SK495		弥生土器・甕				(3.4)	内外面ヨコガテ	粗砂粒多く含む・金雲母も含む	10YR8/3淡黄褐色、口縁付近黒ずむ	良好	口縁部破片、板付IIa式
568	146		SK495		弥生土器・甕				(2.1)	外面ヨコガテ	粗砂粒多めに含む	7.5YR7/3鈍い褐色～7.5YR4/1褐色	良好	口縁部破片、板付IIa式
569	146	99	SK495		弥生土器・壺		肩部 (13)		(5.2)	外面ガテ 後ヘリガキ	砂粒・赤褐色粒子少量含む	7.5YR4/1褐色～7.5YR6/4鈍い褐色、黒色磨研	良好	胴部～胴上部2/3弱残存、板付I式
570	146		SK495		弥生土器・壺				(8.5)	外面ヨコヘリガキ、内面ヨコ目	砂粒少量含む	10R5/8赤～2.5YR6/6褐色、丹塗、黒斑あり	良好	頸部1/6残存、板付式
571	146		SK495		弥生土器・甕	(24)	(21.5)		(6)	外面ヨコガテ・ガテ目	粗砂粒多く含む	2.5YR6/8褐～7.5YR8/4淡黄褐色、スス付着	良好	口縁部～胴上部1/6残存、須玖I式
572	146		SK495		弥生土器・甕	(29)			(4.5)	内外面ヨコガテ	粗砂粒多く含む	5YR8/3淡褐色	良好	口縁部1/9残存、須玖I式
573	146		SK495		弥生土器・甕			7.4	(2.5)	外面ヨコガテ	粗砂粒少量含む	7.5YR6/4鈍い褐色	良好	底部破片、埴の埴式
574	146	99	SK495		弥生土器・甕				(1.6)	外面貝殻条痕内面ガテ	精良	5YR7/6～7.5YR7/6褐色	良好	口縁部破片、須玖II式
575	146		SK495		弥生土器・高坏		7		(3.2)	外面ヨコガテ 後ヘリガキ	精良	10YR7/2・7/3・6/3鈍い黄褐～10YR6/2灰黄褐	良好	坏・胴部の連結部破片
576	146		SK495	1区	弥生土器・甕			(6.4)	(4.4)	外面ガテ目後ヨコガテ	粗砂粒多く含む	2.5YR6/6褐～5YR6/4鈍い褐色	良好	底部1/2弱残存

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底径	器高					
577	146		SK496		弥生土器・壺				(1.6)	内外面コテ	粗砂粒多く含む	5YR6/3鈍い 黄褐色	良好	口縁部破片、須玖 I式
578	146		SK496		弥生土器・壺			(6)	(5.3)	外面のり後コテ	粗砂粒・黒色粒子多く含む	10YR8/3浅黄橙 ~10YR7/3鈍い 黄褐色	良好	底部1/4残存、城 の礎式
579	147	99	SK500		突帯文土器・ 壺	23.7	23.6	6.5	24	外面コ貝殻条痕後コテ	粗砂粒・黒色粒子多く含む	10YR8/4浅黄橙~5YR6/4鈍い 橙色、胴部上半スス付着	良好	ほぼ完形
580	147	99	SK500		突帯文土器・ 壺	(21.4)	(23.4)	6.8	23.4	外面コ貝殻条痕後コテ	粗砂粒少量含む	5YR6/4鈍い橙 ~5YR6/6橙色、 全体スス付着	良好	口縁~底部
581	147	100	SK500		突帯文土器・ 壺	(19.8)	(22.4)		(18.4)	外面コ貝殻条痕後コテ	粗砂粒・黒色粒子多く含む	10YR7/3鈍い黄褐色、黒斑、ス ス付着	良好	口縁部1/10~胴 部1/4強残存
582	147	100	SK500		突帯文土器・ 壺	(19.6)	(20)		(15.8)	外面コ貝殻条痕後コテ	砂粒・黒色粒子多く含む	7.5YR8/3浅黄橙~7.5YR7/6橙 色、スス付着、黒斑あり	良好	口縁~胴部1/3残 存
583	147	100	SK500		突帯文土器・ 壺	(21.8)	(20.2)		(12.9)	内外面コ貝殻条痕後コテ	粗砂粒・黒色粒子多く含む	7.5YR7/4鈍い橙色、スス付着	良好	口縁部~胴中部 1/3残存
584	147	100	SK500		突帯文土器・ 壺	21.4	22.6		(14.7)	外面コ貝殻条痕	粗砂粒少量含む	10YR8/2灰白~10YR8/3-8/4浅 黄橙、スス、黒斑により大部分 黒ずむ	良好	口縁~胴部2/3残 存
585	147		SK500		突帯文土器・ 壺	(21.6)	(23.4)		(9.5)	外面コ貝殻条痕後コテ	粗砂粒多めに含む	7.5YR8/4浅黄褐色、黒斑あり	良好	口縁部~胴上部 1/8残存
586	147		SK500		突帯文土器・ 壺	(23)	(25.2)		(8)	外面コ貝殻条痕後コテ	粗砂粒・黒色粒子やや 多めに含む	7.5YR7/4鈍い橙色、大部分にス ス付着	良好	口縁部~胴上部 1/4強残存
587	147		SK500		突帯文土器・ 壺		(29.6)		(8.4)	外面コ貝殻条痕後コテ	粗砂粒・黒色粒子・赤褐色 粒子やや多めに含む	7.5YR7/4鈍い橙~7.5YR6/3鈍い 褐色、スス、コゲ付着	良好	胴部突帯~胴中 部破片
588	147		SK500		突帯文土器・ 壺				(6.8)	外面コ貝殻条痕後コテ	粗砂粒少量含む	10YR5/1・4/1褐灰~10YR3/1黒 褐	良好	口縁部破片
589	147		SK500		突帯文土器・ 壺				(9.3)	外面コ貝殻条痕後コテ	粗砂粒・黒色粒子やや 多めに含む	10YR8/3浅黄褐色、スス付着	良好	口縁部破片と胴部 突帯破片
590	147		SK500		突帯文土器・ 壺				(9.8)	外面コ貝殻条痕後コテ	粗砂粒・黒色粒子やや 多めに含む	7.5YR7/6褐色、スス付着	良好	胴部突帯破片
591	147		SK500		突帯文土器・ 壺				(6.9)	外面コ貝殻条痕後コテ	粗砂粒・黒色粒子多く含む	7.5YR8/3浅黄橙~7.5YR6/3鈍い 褐色、スス付着	良好	胴部突帯破片、他 に同一個体の破 片1片あり
592	147		SK500		突帯文土器・ 壺				(5.5)	外面コ貝殻条痕後コテ	粗砂粒やや多めに含む	7.5YR7/3鈍い橙色、スス付着	良好	胴部突帯破片
593	147		SK500		弥生土器・壺				(8.3)	内外面コテ	粗砂粒多く含む	7.5YR7/4-6/4鈍い褐色、全面に スス付着	良好	口縁部破片、 板付IIa式
594	147		SK500		突帯文土器・ 壺			(7.4)	(2.3)	内外面コテ	粗砂粒・黒色粒子・赤褐色 粒子多く含む	7.5YR8/4浅黄橙~7.5YR7/4鈍い 褐色、スス付着	良好	底部
595	147		SK500		突帯文土器・ 壺			(4.5)	(2.7)	外面コ~コ貝殻条痕後コテ	粗砂粒・赤褐色粒子多く 含む	7.5YR3/1褐灰~7.5YR5/2灰褐 色	良好	底部1/2残存
596	147		SK500		突帯文土器・ 壺			7	(3)	外面コ貝殻条痕後コテ	粗砂粒多く含む	7.5YR5/2灰褐色	良好	底部
597	147		SK500		突帯文土器・ 壺			7.2	(2)	内外面コテ	粗砂粒多く含む	7.5YR5/1褐灰	良好	底部2/3残存
598	147		SK500		突帯文土器・ 壺			5.8	(2.5)	外面コテ	粗砂粒やや多めに含む	7.5YR8/4浅黄橙~7.5YR7/4鈍い 褐色	良好	底部、板付式か
599	148		SK500		弥生土器・壺	(7)			(1.7)	外面コテ	粗砂粒やや多めに含む	7.5YR8/3浅黄褐色	良好	口縁部1/4残存、 板付式
600	148		SK500		弥生土器・壺		(11.4)		(7.6)	外面コテ	砂粒わずかに含む	10YR8/2灰白色、元々は丹塗、 黒斑あり	良好	頸部~胴上部1/3 残存、夜臼式
601	148		SK500		弥生土器・壺	(8.5)			(7.3)	外面コテ	精良、砂粒少ない	10YR8/3浅黄褐色	良好	口縁部破片、頸部 1/4残存、 夜臼式
602	148		SK500		弥生土器・壺		(14.2)		(3.3)	外面コテ	精良	2.5YR7/8-6/8橙、丹塗、黒斑あ り	良好	胴部破片、板付式
603	148		SK500		弥生土器・壺		7.2	(1.6)		外面コテ	粗砂粒・赤褐色粒子多 めに含む	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	底部、板付式壺
604	148		SK500		弥生土器・壺		5.2	(1.5)		外面コテ	砂粒少量含む	7.5YR7/4鈍い褐色	良好	底部、小型、 板付式壺
605	148		SK500		突帯文土器・ 深鉢				(5.7)	外面コテ	粗砂粒少量含む	10YR8/2灰白~10YR7/2鈍い黄 褐色	良好	口縁部破片
606	148		SK500		突帯文土器・ 浅鉢				(3.3)	外面コテ	砂粒少量含む	10YR3/1黒褐色、黒色磨研	良好	口縁部破片
607	148	100	SK500		突帯文土器・ 高坏	14.8	5.3		(9.9)	内外面丁寧なコテ	清凉、砂粒・黒色粒子・ 赤褐色粒子わずかに含む	10YR3/1・3/2黒褐~7.5YR6/4 鈍い褐色	良好	坏部2/3・胴部上 中部残存、夜臼式
608	148		SK501		弥生土器・壺			(6.6)	6.6	外面コテ	粗砂粒多く含む	5YR5/3鈍い赤褐色	良好	底部、須玖式
609	148		SK502		弥生土器・高 坏				(8.4)	外面のり目後丁寧コテ	粗砂粒多く含む、赤褐 色粒子・黒色粒子も含む	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	脚部2/3~1/2残存
610	148		SK508		弥生土器・壺			(9)	(3.6)	外面コ板テ	粗砂粒やや多めに含む	10YR3/1黒褐~10YR2/1黒色、 黒色磨研	良好	底部1/4残存、 板付式
611	148		SK508		突帯文土器・ 浅鉢			(13.8)	(3.5)	外面コテ	砂粒少量含む	10R6/6赤橙~5YR7/4鈍い褐色	良好	口縁部~胴部1/5 残存、高坏坏部の 可能性あり
612	148		SK508		弥生土器・高 坏			(22)	(4.8)	内外面のり目後コテ	砂粒・赤褐色粒子少量 含む	5YR6/6橙~5YR5/6明赤褐色	良好	脚部下部1/8残存
613	148		SK508		弥生土器・壺			(7.6)	(4.7)	外面のり目後、内面コテ	粗砂粒・黒色粒子多く含む	10YR6/3鈍い黄橙~10YR5/2灰 黄褐色	良好	底部1/6残存
614	148		SK508		弥生土器・高 坏				(3.4)	内外面コテ	砂粒・黒色粒子少量含む	7.5YR5/3鈍い褐~7.5YR7/3鈍い 褐色	良好	口縁部破片
615	148	100	SK511		弥生土器・壺	(19.7)	18	8.5	21.3	外面のり目、内面コテ	粗砂粒・黒色粒子非常 に多く含む	10YR7/6明黄橙~5YR7/6橙 色、黒斑、スス付着	良好	口縁~底部、 板付IIa式
616	149		SK517		弥生土器・壺				(2.2)	外面コテ	精良	2.5YR2/1赤黒色、7.5R4/8赤色 (彩文)	良好	胴部小破片、板付 式(彩文土器)
617	149		SK517		弥生土器・壺			11.3	(3.0)	外面のり目	粗砂粒・金雲母微粒や 多く含む	10YR8/2灰白色	良好	底部1/2残存
618	149		SK519		弥生土器・壺			(7.9)	(3.75)	外面のり目、内面コテ	砂粒やや多く含む	7.5YR8/1灰白色	良好	底部1/4残存

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
619	149		SK530		弥生土器・壺	(19.0)			(3.2)	外面のみ、内面ヨコリ	砂粒少量含む	7.5YR5/4鈍い褐色	良好	口縁1/10残存
620	149		SK530		土師器・壺	頸部 (10.6)	(14.4)		(7.0)	外面のみ、内面ハカキ	砂粒わずかに含む	7.5YR8/2灰白～7.5YR3/1黒褐色、外面炭化物付着	良好	頸部～胴上半1/8残存
621	149		SK530		弥生土器・高坏		輪部 (6.4)		(2.95)	内面のみ・指押さえ	粗砂粒わずかに含む	2.5YR5/6明赤褐色	良好	輪部接合部1/3残存
622	149		SK530		弥生土器・鉢	(8.4)			(2.45)	外面ヨコリ・ハカキ、内面ヨコリ・板子	粗砂粒やや多く含む	7.5YR8/3浅黄褐色～5YR7/8褐色	良好	口縁1/9残存
623	149		SK539		土師器・小型丸底壺	(10.5)	(8.5)		(4.0)	内面ヨコリ、外面のみヨコリ	精良	7.5YR6/4鈍い橙～7.5YR4/2灰褐色	良好	口縁～胴上半1/12残存
624	149		SK544	上面	弥生土器・壺	(15.5)			(4.0)	外面のみ後行	砂粒少量含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁1/8残存
625	149		SK544		弥生土器・壺				(3.25)	口縁付近内外ヨコリ	砂粒・金雲母・赤褐色粒少量含む	7.5YR6/4鈍い橙褐色	良好	口縁部小破片、板付IIb
626	149		SK544	上面	弥生土器・壺			(8.4)	(3.3)	外面のみ目	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	7.5YR7/2明褐色	良好	底部1/2弱残存
627	149		SK548		弥生土器・壺	(12.0)			(3.6)	内外面ハカキ	粗砂粒わずかに含む	7.5YR5/4鈍い褐色	良好	口縁1/7残存、板付I式
628	149		SK548		弥生土器・壺		残存部 最大 (18.9)			外面ハカキ、内面行	粗砂粒やや多く含む	7.5YR6/3鈍い褐～7.5YR4/3褐色	良好	肩部1/4残存、板付式
629	149		SK548		弥生土器・壺				(4.9)	外面ハカキ、内面下部行上部ハカキ	砂粒・黒雲母やや多く含む	5YR5/4鈍い赤褐色	良好	肩部小片、板付式
630	149		SK548		突帯文土器・壺				(3.8)	外面ヨコリ、内面横方向のみ	粗砂粒やや多く含む	7.5YR3/2黒褐色	良好	口縁部小破片
631	149		SK548		突帯文土器・壺	(19.2)			(3.4)	外面ヨコリ、内面ヨコリ目	粗砂粒わずかに含む	2.5YR8/2灰白・炭化物付着により汚れる	良好	口縁1/12残存、夜臼式
632	149		SK548		突帯文土器・壺				(7.3)	外面口縁部ヨコリ、胴上部ヨコリ目、内面ヨコリ目	粗砂粒少量含む	7.5YR3/2黒褐色	良好	口縁部小破片、夜臼式
633	149		SK548		突帯文土器・壺	(23.7)			(15.0)	外面胴上部ヨコリ目、胴下部ヨコリ目、内面行	粗砂粒少量、金雲母微粒・角閃石わずかに含む	7.5YR3/1黒褐～7.5YR5/2灰褐色	良好	口縁～胴部1/7残存、夜臼式
634	149		SK548		弥生土器・壺				(5.1)	内面行、外面ヨコリ・横行	粗砂粒わずかに含む	2.5Y5/1黄灰～5YR7/6褐色	良好	口縁部小破片、板付I式
635	149		SK551		弥生土器・壺				(4.85)	内外面ヨコリ	粗砂粒少量含む	7.5YR7/4鈍い橙～5YR6/6褐色	良好	口縁部小破片
636	149		SK551		弥生土器・壺	(22.8)			(2.1)	内外面ヨコリ	精良、細砂・金雲母を含む	7.5YR8/3浅黄褐色	良好	口縁1/12残存
637	149		SK551		弥生土器・壺		(6.5)		(3.85)	外面粗いヨコリ、内面行	粗砂粒少量含む	5YR7/6褐色	良好	底部1/2残存
638	149		SK552		弥生土器・壺	(28.1)			(2.7)	内外面ヨコリ	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	10YR7/1灰白～7.5YR7/3鈍い褐色	良好	口縁部1/13残存
639	149		SK553		弥生土器・壺	(17.9)			(2.65)	口縁部付近ヨコリ、内面行、外面ヨコリ目	粗砂粒・金雲母微粒やや多く含む	10YR8/2灰白色	良好	口縁部1/10残存
640	149		SK553		弥生土器・壺	(19.3)			(4.8)	口縁部付近ヨコリ	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	7.5YR3/1黒褐～7.5YR5/1褐灰色	良好	口縁部1/12残存、板付IIb式
641	149		SK553		弥生土器・壺	頸部 (23.8)			(9.05)	内外面ヨコリ	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	10YR8/1灰白色	良好	頸部1/4残存
642	151		SK555		突帯文土器・壺	(16.1)			(3.8)	内面ヨコリ、外面ハカキ	粗砂粒・金雲母微粒・赤褐色粒子少量含む	7.5YR5/1褐灰色	良好	口縁部1/8残存、夜臼式
643	151		SK555		弥生土器・壺	(13.4)			(2.4)	内外面ハカキ、口縁部ヨコリ	粗砂粒わずかに含む	10YR8/3灰黄褐～10YR3/2黒褐色	良好	口縁1/4残存、板付IIa式
644	151		SK555		弥生土器・壺		(7.3)		(3.8)	内外面行	粗砂粒少量含む	10YR8/3浅黄褐色	良好	底部1/3残存
645	151		SK555		弥生土器・壺		7.5		(6.2)	内面板行、外面ハカキ	粗砂粒・金雲母微粒やや多く含む	7.5YR6/4鈍い橙褐色、黒斑あり	良好	底部残存
646	151		SK555		弥生土器・壺		(11.8)		(6.1)	内面行、外面ハカキ	粗砂粒を多く含む	5YR7/6橙～5YR5/6明赤褐色	良好	底部1/6残存
647	151		SK555		弥生土器・壺			12.2	(4.6)	内面板行、外面行?	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	底部のみ残存
648	151	100	SK555		突帯文土器・壺	21.3	(22.2)		(19.9)	外面ヨコリ数条痕、内面貝殻痕後行	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	5YR6/4鈍い橙褐色、外面炭化物付着	良好	約1/2残存、夜臼式
649	151		SK555		突帯文土器・壺	(23.0)			(5.95)	外面ヨコリ数条痕、内面貝殻痕後行	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	7.5YR4/1褐灰～7.5YR4/2灰褐色	良好	口縁部1/8残存、夜臼式
650	151		SK555		突帯文土器・壺				(8.9)	外面ヨコリ数条痕、内面行	粗砂粒・金雲母微粒やや多く含む	5YR3/1黒褐色	良好	口縁部小破片、夜臼式
651	151		SK555		弥生土器・壺		(8.3)		(9.65)	内外面行、後板行	粗砂粒少量含む	7.5YR8/3浅黄褐～10YR5/1褐灰色	良好	底部1/4残存
652	151		SK555		弥生土器・壺		(8.2)		(4.1)	内外面行	粗砂粒・金雲母微粒やや多く含む	7.5YR8/3浅黄褐色	良好	底部1/2弱残存
653	151		SK555		弥生土器・壺		(7.2)		(2.35)	内面行、外面指押さえ後行	粗砂粒多く含む	2.5YR7/6褐色	良好	底部1/4残存
654	151		SK555		弥生土器・壺		(6.8)		(5.2)	外面のみ、内面行	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	10YR8/1灰白色	良好	底部1/3
655	151		SK555		弥生土器・鉢		7.2		(4.2)	内外面行、ヨコリハカキ	精良、砂粒金雲母微粒をわずかに含む	7.5YR4/1褐灰色	良好	底部のみ残存
656	151	100	SK555		突帯文土器・浅鉢	(21.4)			(6.7)	内外面横ハカキ	精良	10YR3/1黒褐～10YR2/1黒色、黒色磨研	良好	口縁～胴中部1/4残存、高坏坏部の可能性あり
657	151		SK555		弥生土器・浅鉢	(19.8)			(3.0)	内面ハカキ、外面ヨコリ・行	砂粒・金雲母微粒わずかに含む	2.5YR7/1灰白色	良好	口縁部1/16残存
658	151	100	SK555		弥生土器・高坏	28.7			(6.3)	内外面ハカキ、口縁部ヨコリ後ハカキ	砂粒・金雲母微粒少量含む	7.5YR5/2灰褐色一部7.5YR3/1黒褐色	良好	坏部のみ残存、口縁1/6欠損
659	151		SK555		弥生土器・鉢	(28.0)			(9.3)	内外面ハカキ、口縁部ヨコリ後ハカキ	精良、細白色砂粒・金雲母微粒わずかに含む	7.5YR5/1褐灰色、口縁外面丹塗りか	良好	口縁1/3残存
660	151		SK555		弥生土器・高坏		輪接合部 (5.8)		(6.15)	内面行、ハカキ	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	2.5YR7/4淡赤褐色	良好	輪接合部1/4残存
661	151		SK555		突帯文土器・壺				(4.6)	外面行、内面貝殻痕後行	粗砂粒含む	10YR8/2灰白色	良好	口縁部破片
662	151		SK555		弥生土器・鉢	(17.2)			(9.0)	内外面ハカキ	粗砂粒・金雲母微粒わずかに含む	10YR5/1褐灰色～7.5YR8/2灰白色	良好	口縁～胴部1/5残存
663	153	100	SK557		弥生土器・壺		(18.2)		(18.8)	内外面のみ	粗砂粒・金雲母微粒わずかに含む	7.5YR6/1褐灰色、炭化物付着	良好	約1/2残存、口縁部全欠損
664	153		SK562		弥生土器・器台		(12.5)		(5.2)	内面行、外面のみヨコリ	粗砂粒わずかに含む	10YR8/2灰白色	良好	底部1/12残存
665	153		SK564		弥生土器・壺	(29.8)			(2.1)	口縁部ヨコリ	粗砂粒やや多く含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁部1/17残存
666	153		SK564		弥生土器・壺		7.0		(6.1)	外面縦方向のみ内面行	砂粒を少量含む	2.5YR8/1灰白色・黒斑あり	良好	底部のみ残存
667	153		SK594	上層	弥生土器・壺	(14.1)			(4.3)	口縁部ヨコリ、外面行、内面のみ後行	粗砂粒をやや多く含む	2.5YR5/6明赤褐色	良好	口縁部1/8残存
668	153		SK594	上層	ミヅナ土器・鉢	(6.0)			(3.9)	内外面指押さえ	砂粒ごくわずかに含む	5YR7/4鈍い橙～10YR8/2灰白色	良好	口縁部1/6残存
669	153		SK596		弥生土器・壺		(9.5)		(3.85)	外面のみ後行	粗砂粒わずかに含む	7.5YR6/3鈍い橙褐色	良好	底部
670	154		SK460		土製品・紡錘車		(4)		(1.1)	行	粗砂粒・黒色粒子を少量含む	5YR4/1灰褐～5YR3/1黒褐色	良好	1/2弱残存
671	154		SK463		ジョッキ型土器の把手か	断面 0.9X0.85	長(3.0)			行	精良	10YR6/2灰黄褐色	やや不良	把手の一部



報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
672	154	100	SK500	2区	土器片加工品					外面へみかき内面行	精良	10YR6/2灰黄褐色	普通	胴部片
673	154		SK495	1区	焼粘土塊	縦幅4.5	横長9.3		厚さ8.5	指押さえ	精良	10YR7/1灰白色	良好	
674	154		SK555	2区	土製品・投擲	2.3x2.4				行	粗砂粒を少量含む	10YR6/2灰黄褐色	やや不良	
675	157		SX434		土器器・壺	(13.8)	頸部径(11.9)		(6.3)	胴部外面外後コナテ、口縁部コナテ、胴内面コナテ	粗砂粒やや多く、金雲母・黒色粒子を少量含む	7.5YR7/4鈍い橙～7.5YR6/6橙、胴下半ス付着	良好	口縁～胴上部1/5残存
676	157		SX434		土器器・壺		頸部径(14)		(5.3)	外面細かいつ目後コナテ、内面へみかき	粗砂粒やや多く、赤褐色粒子・黒色粒子・金雲母を少量含む	7.5YR7/2鈍い黄褐色。ス付着	良好	頸～胴上部1/4弱
677	157		SX434		土器器・壺	(15.4)	頸部径(12.1)		(7.6)	胴外面外後コナテ、口縁部コナテ、内面へみかき	粗砂粒多く、赤褐色粒子・黒色粒子を少量含む	7.5YR8/1灰白色、スにより一部黒ずむ	良好	口縁～胴上部1/4残存
678	157		SX434		弥生土器・壺	(16.8)	頸部径(14.8)		(10.2)	外面粗いつ目口縁部行・つ目、内面コナテ	粗砂粒やや多く、赤褐色粒子・金雲母・黒色粒子を少量含む	5YR7/6褐色、ス付着	良好	口縁～胴上部1/4残存
679	157	100	SX434		弥生土器・壺	9.4	頸部径(9.5)	6.8	15.3	内外面つ目、外底部つ目・行	粗砂粒やや多めに含む	2.5Y7/2灰黄色	良好	胴中部～口縁部1/2欠失
680	157		SX435	上層	土器器・鉢				(2.9)	内外面行	粗砂粒やや多めに含む	2.5YR6/8褐色	良好	口縁～胴上部破片
681	157		SX435	上層	弥生土器・壺	(8.4)			(4.4)	内外面コナテ	砂粒やや少なめに含む	10YR7/3・7/4鈍い黄褐色	良好	口縁～胴部1/4残存
682	157	100	SX435	上層	弥生土器・壺	(16.3)	頸部径(15.6)		(9.9)	外面つ目、口縁部内面上半コナテ	粗砂粒やや多めに含む	10YR8/2灰白～10YR7/3鈍い黄褐色	良好	口縁～頸部1/4強残存
683	157		SX435-436	上層	弥生土器・壺	(30.6)	(19.6)		(15.6)	口縁部外面行・後へみかき、胴部コナテ	砂粒・金雲母・黒色粒子を少量含む	10R6/6赤橙～10R5/6赤色、丹塗り	良好	口縁～胴上部1/3残存
684	157		SX435	下層・上層	弥生土器・壺			7.4	(11.7)	胴外面へみかき、内面行	粗砂粒多く、金雲母・黒色粒子・赤褐色粒子を少なめに含む	10R6/6赤橙～10R5/6赤色、丹塗り	良好	底部～胴下部
685	157		SX435	上層北	弥生土器・壺	(12.6)	頸部径(11.2)		(4.8)	胴部外面つ目後行・消しコナテ、胴内面コナテ	砂粒・金雲母・黒色粒子・赤褐色粒子を少量含む	2.5Y7/1灰白～2.5Y6/1黄灰色	良好	口縁～胴上部1/5弱残存
686	157		SX435		弥生土器・鉢	(18.2)			(11.0)	体部外面外後つ目、口縁部コナテ、内面行	粗砂粒やや少なめに含む、金雲母・黒色粒子を少量含む	全面ス付着し10YR4/1～6/1褐灰	良好	口縁～胴上部1/6残存
687	157		SX435	上層北	弥生土器・高坏	(34.4)	肩部径(32.7)		(4.2)	内外面へみかき、内面工具痕	粗砂粒多く、赤褐色粒子・黒色粒子を少量含む	7.5YR6/3鈍い黄褐色	良好	口縁部～肩部1/10残存
688	157		SX435	上層	突帯文土器・壺			(9.2)	(2.0)	外面コナテ、内面行	粗砂粒多く含む	7.5YR7/2明褐色	良好	底部、木葉痕あり
689	157	100	SX435	上層	突帯文土器・壺			7.0	(1.6)	外面コナテ	粗砂粒多く、黒色粒子・赤褐色粒子を少量含む	10YR7/2鈍い黄褐色～10YR6/2灰黄褐色	良好	底部、木葉痕あり
690	157		SX435		弥生土器・壺		頸部間径(19.0)		(7.2)	内外面行	砂粒・黒色粒子・金雲母やや多めに含む	2.5Y7/1灰白～2.5Y7/2灰黄色	良好	頸部～頸部間1/4強残存
691	157		SX435		弥生土器・壺			6.6	(5.4)	外面へみかき、内面行	砂粒・金雲母・黒色粒子を少量含む	10YR7/2鈍い黄褐色～2.5Y7/2灰黄色	良好	底部
692	157	101	SX435		弥生土器・鉢	(17.2)		(7.6)	11.9	外面行・つ目内面行	砂粒をほとんど含まない	内外面丹塗の痕跡部分的に残り、10R6/6・6/8赤橙～10YR7/4鈍い黄褐色	良好	1/2弱残存
693	158		SX435	下層	弥生土器・壺	(32.5)			(5.6)	内外面コナテ	粗砂粒含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁部
694	158		SX435	下層	弥生土器・壺	(20.2)			(4.45)	内外面コナテ	粗砂粒・角閃石含む	10YR6/8赤橙(口唇部丹塗り痕)～10YR6/3鈍い黄褐色	良好	口縁部
695	158		SX435	下層	弥生土器・壺	(23.8)			(4.1)	外面外後つ目、内面・口縁部コナテ	粗砂粒含む	10YR6/8赤橙(口縁)～10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁部
696	158		SX435	下層	弥生土器・壺	(29.7)			(2.9)	内外面コナテ	粗砂粒含む	7.5YR3/1黒褐(口唇部)～10YR7/4鈍い黄褐色	普通	口縁部
697	158		SX435	上層	弥生土器・壺	(27.8)			(4.6)	胴部外面つ目・行	粗砂粒多く、黒色粒子を少量含む	10YR7/2鈍い黄褐色～2.5Y7/2灰黄色	良好	口縁部1/4残存
698	158		SX435	下層	弥生土器・壺			8.8	(9.05)	外面外後つ目、内面行・指押さえ痕、外底部行	粗砂粒含む	5YR7/8褐色	普通	底部残存
699	158		SX435	下層	弥生土器・壺			7.6	(5.9)	外面外後つ目、内面行・指押さえ痕、外底部行	粗砂粒含む	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	底部残存
700	158		SX435	下層・上層	弥生土器・鉢	(14.8)			(8.0)	外面外後つ目、口縁部外面～内面行	粗砂粒多く含む、金雲母・黒色粒子を少量含む	10YR7/1灰白～10YR7/2鈍い黄褐色、大部分ス付着	良好	口縁～胴上部1/3残存
701	158		SX435	下層	弥生土器・壺				(6.4)	内面行	砂粒含む	10YR8/3淡黄褐色～一部5YR7/8褐色	良好	口縁部小破片・補修孔あり
702	158	101	SX436	上層・下層	須恵器・壺	(16.5)			(7.7)	口縁部回転行、体外面平行行、内面行	精良、やや気泡含む	5P6/1紫灰～5P2/1紫黒色	良好	口縁～頸部1/5残存
703	158		SX436	上層	須恵器・壺	頸部(3.8)			(3.15)	内外面回転行	精良、一部に粗砂粒含む	5PB5/1青灰(灰被り)～2.5YR5/2灰赤色	良好	頸～体部上半1/6残存
704	158		SX436	上層	土器器・小型器台	(8.4)			(1.85)	内外面へみかき	粗砂粒・赤褐色粒子・金雲母微粒やや多く含む	10YR7/2鈍い黄褐色～10YR5/1褐灰色	良好	口縁部1/4残存
705	158		SX436	上層	土器器・台付鉢?	脚輪部2.9			(4.0)	行、外面つ目	粗砂粒多く含む	10YR8/2灰白色	良好	脚輪部のみ残存
706	158		SX436	上層・下層	土器器・壺	(15.0)	(16.0)		(9.25)	胴部内外面つ目、口縁部コナテ	粗砂粒・金雲母微粒やや多く含む	7.5YR7/3鈍い橙～7.5YR5/1褐灰色	良好	胴部上半1/6残存
707	158		SX436	上層	弥生土器・壺	(25.6)			(9.2)	胴部外面つ目、口縁部つ目後行、内面行	粗砂粒・金雲母微粒やや多く含む	10YR8/2灰白色	良好	口縁部1/7残存
708	158		SX436	上層	弥生土器・壺	(30.7)			(8.05)	胴部外面つ目、口縁部コナテ、胴部内面行	粗砂粒・金雲母微粒やや多く含む	7.5YR8/4淡黄褐色	良好	口縁～胴部上半1/7残存
709	158		SX436	上層	弥生土器・壺	(41.8)			(6.4)	胴部外面コナテ、口縁部外面～胴部内面コナテ	粗砂粒・金雲母微粒わずかに含む	5YR8/3鈍い褐色、ス付着	良好	口縁部1/9残存
710	158		SX436	上層	弥生土器・高坏	(33.9)			(3.95)	内外面コナテ・後へみかき	粗砂粒・赤褐色粒子・金雲母微粒をやや多く含む	7.5YR7/4鈍い褐色	良好	口縁部1/6残存
711	158		SX436	下層	弥生土器・鉢	(13.8)	(4.6)		(8.4)	口縁部コナテ、体部内外面つ目	粗砂粒多く含む	10YR6/4鈍い黄褐色	良好	底部～胴部1/4残存
712	158		SX436	上層	弥生土器・鉢	(22.8)			(4.8)	外面コナテ・内面行・板行	粗砂粒・金雲母微粒多く含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁部1/8残存
713	158	101	SX436	上層	弥生土器・壺	15.3			3.3	外面へみかき、口縁部行、奥指押さえ痕	砂粒・金雲母微粒少量含む	7.5YR7/2明褐色～5YR7/8褐色(赤色顔料)	良好	口縁部一部欠損
714	159	101	SX436	下層	弥生土器・壺	9.6	頸部径8.5		(8.4)	頸部外面外後つ目、口縁部外面～内面行	粗砂粒やや多く含む、黒色粒子を少量含む	2.5Y7/3淡黄～2.5Y5/2暗灰黄色	良好	口縁～頸部間
715	159		SX436	下層	弥生土器・壺	(13.8)			(10.25)	内外面粗いつ目	粗砂粒多く含む	2.5YR7/2灰黄褐色～7.5YR7/3鈍い黄褐色	普通	胴部1/3残存
716	159	101	SX436	下層	弥生土器・壺	(9.8)	(20.0)		(15.2)	外面つ目後行、内面強いつ目	粗砂粒多く含む	10YR7/3鈍い黄褐色～10YR8/3淡黄褐色、黒斑あり	良好	口縁～胴部下半1/4残存
717	159	101	SX436	下層	弥生土器・壺	(27.4)	(28.6)		(20.5)	内外面つ目	砂粒わずかに含む	10YR7/3鈍い黄褐色、ス付着	良好	口縁～胴部1/5残存
718	159	101	SX436	下層	弥生土器・壺	(23.5)	(24.7)		(20)	胴部外面つ目、口縁部外面つ目後行、内面行	粗砂粒多く含む	10YR3/1黒褐色～10Y2/1緑黒色、外面ス付着する	良好	口縁～胴部上半
719	159		SX436	下層	弥生土器・壺	(13.8)	(4.6)		(8.4)	内外面粗いつ目、底部行	粗砂粒多く含む	10YR6/4鈍い黄褐色	良好	底部～胴部1/4残存
720	159		SX436	下層	弥生土器・壺		6.5		(9.3)	胴部外面外後つ目、内面行、外底部行	粗砂粒多く含む	10YR7/2鈍い黄褐色～5YR8/4・6/3鈍い褐色、黒斑あり	良好	底～胴下部
721	159	101	SX436	下層	土器器・鉢	12.0		4.8	7.3	外面行・上げ、内面粗いつ目	粗砂粒含む	10YR8/6黄褐色、黒斑あり	普通	
722	159	101	SX436	下層	土器器・鉢	6.5		2.0	4.1	行・指押さえ痕	粗砂粒含む	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他		
						口径	胴径	底径	器高							
723	159	101	SX436	下層	ミチアテ土器・鉢	6.9			3.7	内外面指押さえ後行'	粗砂粒・黒色粒子多く含む	10YR8/1灰白～10YR7/2鈍い黄褐色、黒斑あり	良好	口縁部残存僅か		
724	159	101	SX436	下層	弥生土器・甕	(24.0)			(11.8)	内外面叩目	砂粒多く含む	2.5Y5/1黄灰色	良好	口縁部1/4弱残存		
725	159	101	SX436	下層	弥生土器・支脚			(9.4)	(13.0)	内外面指行'	粗砂粒やや多く含む	10YR6/2灰黄褐色	良好	1/2残存		
726	159		SX443		弥生土器・甕				(8.2)	外面叩目後行'・内面行'	粗砂粒・黒雲母を多く含む	10YR6/2灰黄褐色、口縁直下等ス付着	良好	口縁部破片		
727	159		SX445		弥生土器・甕				(4.4)	内外面行'	粗砂粒多く含む、黒色磁物少量含む	10YR7/2鈍い黄褐色。ス付着	良好	口縁部破片		
728	159		SX458		弥生土器・甕				(3.7)	内外面叩目後行'	粗砂粒・赤褐色粒子・黒色粒子やや多めに含む	10YR7/4鈍い黄褐色。ス付着	良好	口縁部破片		
729	159		SX458		突帯文土器・甕				(5.4)	内外面貝殻条痕後行'消し	粗砂粒・黒色粒子やや少なめに含む	10YR7/2・7/3鈍い黄褐色。ス付着	良好	口縁部破片		
730	159		SX458		弥生土器・壺			10.0	(3.8)	胴部外面外行'目、内面・底部行'	粗砂粒・赤褐色粒子多く含む	10R6/8赤褐色、丹塗部分的に残る	良好	大型壺底部		
731	159		SX458		弥生土器・壺			(8.0)	(3.4)	外面行'・内面行'	ほとんど石粒を含まない。精良。	10YR8/4浅黄褐色～10YR7/4鈍い黄褐色	良好	小型壺底部破片		
732	159		SX472		弥生土器・鉢				(2.3)	外面行'・内面行'	精良	7.5YR7/4鈍い褐色	良好			
733	159		SX484		土師器・壺か鉢	(13.4)	(12.2)		(4.2)	内外面行'・口縁内面叩目	精良、赤褐色粒子少量含む	7.5YR8/4浅黄褐色	良好	口縁破片		
734	159		SX484		弥生土器・壺			頸部径(13.8)	(4.5)	内外面叩目行'	粗砂粒多く含む、赤褐色粒子・黒色粒子少量含む	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	胴部間1/4残存		
735	159		SX484		弥生土器・鉢	(15.0)			(5.0)	外面叩目後行'消し、内面行'	粗砂粒多めに含む	5YR6/6橙～5YR5/6明赤褐色	良好	口縁部1/7残存		
736	161	103	SX528		突帯文土器・甕	(22.6)			(11.8)	外面貝殻条痕	粗砂粒多く含む	5YR6/6赤褐色		口縁1/2残存		
737	161	103	SX528		突帯文土器・甕	(21.2)			(5.4)	外面貝殻条痕	粗砂粒まばらに含む	10YR6/2灰黄褐色		口縁1/6残存		
738	162	102	SX523		弥生土器・壺	7.6	9.9	3.0	7.5	外面行'・内面・外底部行'	精良	10YR7/3鈍い褐色	良好	完形		
739	162	102	SX523		弥生土器・壺		12.9	3.7	8.5	内外面行'・底部叩目後行'	粗砂粒多く含む	7.5YR8/4鈍い褐色	良好	口縁部欠損		
740	162	102	SX523		弥生土器・壺	(7.4)	(11.2)		(8.5)	外面行'・内面行'	粗砂粒少量含む	7.5YR5/4鈍い褐色～7.5YR8/4浅黄褐色	やや不良	口縁～胴部1/4残存		
741	162	102	SX523		弥生土器・壺	11.4	16.4	3.9	14.6	胴外面行'・口縁部叩目・内面叩目底部行'	粗砂粒少量含む	7.5YR7/4鈍い褐色、黒斑あり	やや不良	完形		
742	162		SX523		弥生土器・壺	(16.5)	(18)		(9.3)	外面行'・口縁部叩目・内面行'	砂粒わずかに含む	7.5YR8/2灰白～7.5YR8/3浅黄褐色、黒斑あり	良好			
743	162		SX523		弥生土器・壺			肩部径6.0	(10.9)	外面叩目後行'・内面行'・外行'痕	砂粒、黒色粒子ごく少量含む	10YR8/2灰白～10YR7/3鈍い黄褐色	良好	頸部約2/3残存		
744	162	102	SX523		弥生土器・壺	(23)			(12.8)	外面行'・内面指押さえ痕・叩目	粗砂粒多く含む	10YR7/3鈍い黄褐色	普通	口縁～頸部		
745	162	102	SX523		弥生土器・壺	(22.7)			(19.2)	外面口縁・突帯行'	粗砂粒含む	10YR7/3鈍い黄褐色	普通	口縁～肩部		
746	162	102	SX523		弥生土器・壺	(24)	(27.25)	(8.8)	(38.95)	外面頸部～胴部上半叩目、胴部下半叩目・内面・外底部叩目後行'	粗砂粒少量含む	7.5YR8/6浅黄褐色	やや不良	胴部の一部及び口縁部5/6欠損		
747	162		SX523周辺		弥生土器・壺	(12.0)			(5.2)	口縁部行'	粗砂粒多く含む	2.5Y8/2灰白色、黒斑あり	良好	口縁部1/4残存		
748	162		SX523		弥生土器・壺			頸部(14.3)	(10.55)	叩目後行'・全体に磨減する	粗砂粒少量含む	7.5YR8/4浅黄褐色～5YR7/6褐色	良好	頸部1/7残存		
749	162		SX523		弥生土器・壺			頸部(14.9)	(27.0)	(11)	(22.2)	外面上半叩目、下半叩目・内面叩目叩目後行'・底部行'	粗砂粒やや多く含む	7.5YR8/3浅黄褐色～7.5YR6/6褐色、赤色顔料残る	良好	頸～胴部1/3・底部1/3残存、図上復元
750	163	102	SX523		弥生土器・壺			(26.4)	(8.4)	(23.2)	胴部突帯下半叩目後行'・内面粗い叩目後行'・底部行'	粗砂粒やや多く含む	7.5YR7/4鈍い褐色	良好	底部2/3～胴部1/6残存	
751	163		SX523		弥生土器・甕か壺			(14.0)	(8.6)	外面外行'叩目後行'・外底行'・板行'・内面板行'・内底粗い叩目	粗砂粒・金雲母微粒やや多く含む	7.5YR8/2灰白～7.5YR6/4鈍い褐色	良好	底部1/2弱残存		
752	163	102	SX523		弥生土器・甕	(21.0)			(13.25)	口縁部外行'目、外面外行'目、内面粗い叩目	粗砂粒少量含む	10YR7/3鈍い黄褐色	普通	口縁～胴部上半		
753	163		SX523		弥生土器・鉢			5.6	(9.1)	外面叩目・行'・内面叩目後行'・外底行'	粗砂粒やや多めに含む	10YR7/4鈍い黄褐色～7.5YR7/4鈍い褐色、黒斑あり	良好	底部・胴下部1/2以下残存		
754	163	103	SX523		弥生土器・高坏			(18.0)	(13.0)	外面行'・内面叩目後行'	砂粒・金雲母微粒多く含む	7.5YR8/3浅黄褐色～5YR3/1黒褐色(黒色顔料?)	良好	坏部全欠損・胴部3/4欠損		
755	163	103	SX523		弥生土器・皿か鉢	(12)			3.55	口縁部外面～内面行'・外底行'	精良、金雲母含む	10YR7/2鈍い黄褐色	普通			
756	163		SX523		弥生土器・皿或いは鉢	(12)			3.2～3.85	行'・外面上半粗い叩目	精良、粗砂粒少量含む	10YR6/2灰黄褐色	普通			
757	163		SX523周辺		弥生土器・鉢	(15.4)			5.7	行'	粗砂粒・赤褐色粒子多く、黒雲母少量含む	10YR8/3浅黄褐色	良好	口縁～底部1/4弱残存		
758	163		SX523		弥生土器・鉢	(15.6)		4.2	5.45	内外面行'・口縁部外面叩目	砂粒・金雲母・黒雲母・黒色粒子少量含む	7.5YR5/1褐灰～7.5YR8/3浅黄褐色	良好	口縁～胴部4/5欠損		
759	163		SX523		弥生土器・鉢	15.7		3.2	6.1	外面上半行'・底部外行'後行'・内面叩目	粗砂粒やや多く含む、赤褐色粒子・黒色粒子少量含む	10YR8/3浅黄褐色、黒斑あり	良好	口縁部～胴上部1/2強欠損。胴内第V様式系。		
760	163		SX523		弥生土器・鉢	(14.4)		(4.7)	(6.7)	内外面板行'	粗砂やや多く含む	10YR7/4鈍い黄褐色	良好	1/3残存		
761	163		SX523		弥生土器・鉢			頸部(13.9)	(8.55)	外面細い叩目、内面口縁部叩目・底部行'・外底部板行'	粗砂粒多く含む	5YR5/6明赤褐色	良好	体部1/6残存		
762	163		SX523周辺		弥生土器・壺	(12.2)			(7.7)	内外面行'	粗砂粒やや多め、金雲母・赤褐色粒子ごく少量含む	7.5YR7/3鈍い褐色～10YR7/2鈍い黄褐色、黒斑あり。	良好	口縁～胴下部最大1/5残存。		
763	163		SX523周辺		土師器・甕	(16.8)			(2.8)	口縁部外面外行'後行'消し、内面行'	砂粒・赤褐色粒子・金雲母やや少なめに含む	10YR8/1～2.5Y8/1灰白色	良好	口縁部1/8残存、筑前型庄内壺。		
764	163		SX523周辺		須恵器・埴又は罎		(12.0)		(5.5)	内外面行'	精良	N5/灰色	良好	胴部1/4残存		
765	163		SX523周辺		土師器・把手	長(8.6)	幅(4.4)		断面径2.1X1.4	指行'	精良	10YR7/2鈍い黄褐色	普通	把手部残存、山嵐系土師器瓦か?		
766	164		SX527		突帯文土器・甕	(9.4)			(5.1)	外面貝殻条痕後行'・内面行'	粗砂粒多く、赤褐色粒子少量含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁部1/8残存		
767	164		SX527		突帯文土器・甕				(6.0)	外面貝殻条痕後行'・内面行'	粗砂粒・赤褐色粒子やや少なめに含む	7.5YR8/4浅黄褐色。ス付着	良好	口縁部破片		
768	164		SX527		弥生土器・壺			15.0	(7.8)	外面叩目・行'・内面行'	粗砂粒多く、赤褐色粒子少量含む	2.5YR5/6明赤褐色～2.5YR5/4鈍い赤褐色、丹塗り	良好	底部		
769	164		SX527		弥生土器・甕			6.0	(3.5)	外面行'・内面粗い叩目後行'	粗砂粒やや多く、赤褐色粒子・黒色粒子少量含む	10YR8/2灰白～10YR8/3浅黄褐色	良好	底部		
770	164		SX533	下層	土師器・甕	(24.6)			(8.85)	外面胴部叩目、口縁部叩目・内面行'	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	10YR8/3浅黄褐色、黒斑あり	良好	口縁部1/8残存		
771	164		SX533	下層	ミチアテ土器・甕か壺			4.0	(5.05)	外面板行'・内面行'	砂粒・白雲母粒わずかに含む	7.5YR7/3鈍い褐色	良好	底部～体部下半残存		

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
772	164		SX534		弥生土器・壺	(20.4)			(4.2)	内外面均目後行'	砂粒やや多く含む	10YR7/2鈍い黄橙(口縁)~10YR2/1黒色	良好	口縁部1/16残存
773	164		SX534		弥生土器・壺	(24.2)			(3.45)	外面均目後行'・内面コナ'	砂粒やや多く含む	7.5YR7/4鈍い橙色	良好	口縁部1/11残存
774	164		SX534		弥生土器・壺	(19.8)			(4.4)	コナ'・内面指押さえ痕	粗砂粒少量含む	10YR8/3浅黄褐色	良好	口縁部1/8残存
775	164		SX534		弥生土器・壺	(18.6)			(5.85)	外面口縁部粗い均目後行'・胴部均目内面均目後行'	粗砂粒わずかに含む	7.5YR4/2灰褐~10YR2/1黒色(煤)	良好	口縁部1/6残存
776	164		SX534		弥生土器・壺か壺			12.6	(5.0)	外面均目後行'・消し・底部均目	粗砂粒やや多く含む	7.5YR8/2灰白色	良好	底部1/2残存
777	164		SX534		弥生土器・高坏			(14.4)	(6.05)	外面均目後行'・内面均目	金雲母微粒わずかに含む、他に砂粒わずかに含む	7.5YR8/4鈍い橙色	良好	胴部1/6残存
778	164		SX534		弥生土器・鉢				(4.15)	外面均目後行'・内面均目	せいりよう、砂粒ほとんど含まず	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁~体部小破片
779	164	103	SX534		弥生土器・支脚	(11.8)			(10.7)	外面板行'・口縁部指押さえ後行'	粗砂粒多く含む	5YR7/6橙(上)~7.5YR8/2灰白色	良好	上半部残存
780	164		SX536		弥生土器・壺	(13.4)	(16.8)		(6.8)	外面~口縁部内面コナ'・胴部内面均目	粗砂粒・黒雲母少量含む	2.5YR6/6・6/8橙~5YR7/6橙 色、黒斑あり	良好	口縁~胴部1/4残存
781	164		SX536		弥生土器・壺				(4.9)	内外面均目	粗砂粒・赤褐色粒子少量含む	10YR8/3浅黄橙~10YR7/3鈍い黄褐色	良好	口縁部少破片
782	164	103	SX536		弥生土器・壺	(25.3)			(26.3)	口縁部コナ'・外面均目	粗砂粒少量含む	7.5YR8/3浅黄褐色	やや不良	口縁部1/6~肩部1/4残存
783	164		SX536		弥生土器・壺				(4.8)	行'	粗砂粒多く含む	10YR6/2灰黄~10YR6/3鈍い黄褐色	良好	口縁部少破片
784	164		SX536		弥生土器・壺か鉢				(7.9)	胴部外面均目・口縁外面コナ'・内面均目後行'・行'	砂粒やや多く含む	5YR7/4鈍い橙~5YR4/6赤褐色	良好	口縁~体部小破片
785	164		SX536		弥生土器・高坏	(27.4)			(2.5)	コナ'	粗砂粒多く含む	10YR8/3浅黄褐色	良好	口縁部1/9残存
786	164		SX536		弥生土器・鉢	(15.8)			(3.95)	外面均目後行'・口縁部コナ'・内面均目	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	7.5YR8/2灰白~7.5YR7/6橙色	良好	口縁部1/91残存
787	164		SX536		弥生土器・鉢				(4.9)	外面均目後行'・消し・内面均目後行'	粗砂粒やや多く含む	2.5YR6/8橙~10YR7/3鈍い黄褐色	良好	口縁部少破片
788	165		SX559	下層・砂	須恵器・坏	(11.3)			(3.4)	内外面回転行'	黒色粒子・金雲母微粒・砂粒少量含む	7.5YR8/1灰白色	やや不良	口縁部1/12残存
789	165		SX559	北側粗砂	土器器・坏	(11.9)		(7.3)	3.3	外底部均目・体部外面~内底コナ'	粗砂粒多く、赤褐色粒子少量含む	10YR8/2灰白~10YR7/2鈍い黄褐色	良好	
790	165		SX559	北側粗砂	土器器・坏	(14.2)		(8.0)	4.1	外底部均目切り・体部外面~内底コナ'	赤褐色粒子・粗砂粒少量含む	10YR8/1灰白色	良好	1/2弱残存
791	165		SX559	下層・砂	土器器・椀				(3.4)	内外面回転行'・外面胴部以下回転行'	精良、粗砂粒・金雲母微粒わずかに含む	2.5Y7/1灰白色	良好	口縁部小破片
792	165		SX539	北側粗砂	弥生土器・壺	(38.6)			(6.2)	コナ'	粗砂粒やや多く含む	10YR8/2灰白~10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁部1/10残存
793	165		SX559	黒色粘土	弥生土器・壺	(30.7)			(30.7)	外面均目後行'・内面均目後行'・後粗いコナ'	粗砂粒・金雲母微粒・白雲母やや多く含む	7.5YR7/3鈍い橙~10YR5/1褐灰色	良好	口縁部1/16残存
794	165		SX559	南・黒色粘土	弥生土器・壺				(6.9)	コナ'	砂粒少量含む	10YR7/2鈍い黄橙~10YR6/2灰黄褐色、スス付着	良好	口縁部小破片
795	165		SX559	黒色粘土	弥生土器・壺				(4.85)	内外面均目・口縁部コナ'	粗砂粒・金雲母微粒やや多く含む	7.5YR4/2灰褐色	良好	口縁部小破片、板付II式
796	165		SX559	黒色粘土	弥生土器・鉢				(5.45)	外面コナ'・内面均目	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	口縁部小破片
797	165		SX559	北側粗砂	弥生土器・壺			(8.0)	(4.0)	行'	粗砂粒・黒雲母少量含む	10YR8/1~2.5Y8/1灰白色		底部1/2残存
798	165		SX559	黒色粘土	弥生土器・壺			9.0	(6.1)	外面均目?内面指押さえ後行'	粗砂粒・金雲母微粒やや多く含む	7.5YR8/4浅黄褐色	普通	底部のみ残存
799	165		SX559	黒色粘土	弥生土器・壺			(8.1)	(4.25)	外面均目?内面指押さえ後行'	粗砂粒やや多く含む	10YR8/3浅黄褐色	良好	底部1/3残存
800	165		SX559	黒色粘土	弥生土器・壺			7.4	(3.5)	外面コナ'・内面板行'	粗砂粒・白雲母微粒多く含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	底部のみ残存
801	166		SX565		弥生土器・壺			11.0	(18.0)	外面均目後行'・内面均目	粗砂粒多く含む	7.5YR8/1灰白~10YR7/2鈍い黄褐色	良好	底部のみ
802	166		SX565		弥生土器・壺			7.5	(1.8)	内面均目?外面均目	砂粒ほとんど含まず精良	10YR7/2鈍い黄橙~10YR6/2灰黄褐色	良好	底部、板付I式
803	166		SX565		弥生土器・壺	(21.8)			(10.0)	外面均目後行'・内面均目上げ	粗砂粒やや多く、金雲母少量含む	煤により10YR2/1黒~10YR3/1・3/2黒褐色・地は	良好	口縁~胴部1/4残存
804	166	103	SX565		弥生土器・壺			7.6	(12.0)	外面均目・内面均目	粗砂粒やや多く含む	10YR8/1灰白~10YR7/2鈍い黄褐色、黒斑あり	良好	底部~胴部下半残存
805	166		SX568		弥生土器・鉢				(4.2)	内外面均目・均目	砂粒・黒色粒子・金雲母少量含む	7.5YR7/3鈍い橙~7.5YR6/3鈍い褐色	良好	口縁部少破片
806	166		SX571		弥生土器・壺			(16.4)	(8.4)	外面均目後行'・内面均目	粗砂粒やや多く、赤褐色粒子少量含む	10YR7/3鈍い黄橙~10YR6/2灰黄褐色	良好	胴部~胴部1/4残存
807	166		SX575		弥生土器・壺				(7.0)	口縁内外面均目	粗砂粒多く含む	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	口縁部小破片
808	166		SX576		弥生土器・壺	(22.8)			(5.5)	外面均目・口縁内面均目内面均目	粗砂粒・赤褐色粒子少量含む	10YR8/4浅黄褐色、スス付着	良好	口縁部1/8残存
809	166	103	SX604		土器器・高坏			17.5	(4.95)	外面均目後行'・内面均目	精良	5YR6/3鈍い橙色	良好	胴部
810	166	101	SX434		土製品・投擲	最大径(2.4)	全長(3.7)			行'	精良	10YR6/2灰黄褐色	良好	一部欠損
811	166	101	SX436	下層	土製品・紡錘車	径5.2X5.3	厚み0.7	円孔0.6		行'	粗砂粒多く含む	2.5YR5/2暗灰黄色	良好	完形
812	166	101	SX436	上層	土製品・円板	幅4.2X5.2	厚み0.8			行'	粗砂粒を多く含む	10YR4/1褐灰色	普通	一部欠損
813	166		SX436	下層	焼成粘土塊	幅5.4X6.6	厚み2.8			均目	精良	2.5YR6/2灰黄色	良好	
814	166		SX436	下層	不明粘土塊	幅7.2X5.55	厚み5.7			行'	粗砂粒多く含む	10YR6/1褐灰色	普通	
815	166		SX463	下層	焼粘土塊	幅5.95X4.6	厚み3.2			行'	粗砂粒多く含む	7.5YR5/2灰褐色	良好	
816	166		SX536		焼粘土塊	幅4.1X2.7		2.1		行'か	精良	10YR6/1褐灰色、一部黒化	良好	
817	170	104	SX467		壺	(34.8)			22.8	内外面ナデ	精良	10YR7/6橙色	良好	口縁部1/2欠損
818	170	104	SX467		壺	29.0				外面磨削毛・内面ナデ	砂粒少し含む	10YR6/2灰黄褐色	良好	上半部完存
819	170		SX467		壺	22.0				磨減著しい	砂粒少し含む	10YR7/3にぶい黄褐色	良好	口縁部
820	170	104	SX467		壺	17.8				外面磨減・内面ナデ	粗砂粒多く含む	7.5YR7/4にぶい橙色	良好	胴部より上完存
821	170	104	SX467		壺	17.6			3.1	内外面ナデ	砂粒少し含む	2.5Y8/2灰白色	良好	3/4片
822	172	105	SP0296		壺					口縁部に刻目突帯、外面具殻染痕	砂粒少し含む	10YR4/1褐灰色	良好	口縁部小片
823	172	105	SP0383		壺			(7.2)		底面に木の葉状痕	砂粒少し含む	7.5YR5/2灰褐色	良好	底部片
824	172		SP0029		壺			9.2		外面具殻染痕・内面ナデ	砂粒少し含む	7.5YR6/3にぶい褐色	良好	底部片
825	172		SP0653		壺			6.2		外面ナデ・内面指押さえ	砂粒少し含む	10YR7/3にぶい黄褐色	良好	底部片
826	172	105	SP0421		釜	15.4				外面ミガキ・丹塗、内面ナデ	精良	5YR6/6橙色	良好	1/2片
827	172		SP0634		器台			13.3		磨減著しい	粗砂粒多く含む	10YR6/2灰黄褐色	良好	底部
828	172		SP0641		鉢	(20.0)				横ナデ	砂粒少し含む	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	1/4片
829	172	105	SP0645		鉢	11.5			5.0	外面磨減・内面刷毛目	砂粒少し含む	2.5Y8/1灰白色	良好	2/3片
830	172	105	SP0031	R-3	鉢	13.4			6.6	外面刷毛目・内面ナデ	砂粒少し含む	7.5YR7/4にぶい橙色	良好	ほぼ完形

報告書 番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量 cm ( )は復元・残				調整	胎土	外面色調	焼成	残存状況他
						口径	胴径	底形	器高					
831	172		SP0012		鉢	(11.8)			8.4	外面ケズリ後ミガキ、内面横刷毛	砂粒少し含む	7.5YR6/3にぶい褐色	良好	1/3片
832	172		SP0031	R-1	脚付鉢?				11.0	内外面ケズリ後ミガキ	砂粒少し含む	7.5YR6/6褐色	良好	脚部
833	172	105	SP0653		壺	26.0	17.0			外面ナデ・丹塗、内面刷毛目後ナデ	砂粒少し含む	10YR7/3にぶい黄褐色	良好	胴部下半欠損
834	172		SP0623		壺					ナデ	砂粒少し含む	7.5YR6/6褐色	良好	1/2片
835	172		SP0031		高坏	(28.0)				内外面刷毛目	砂粒少し含む	7.5YR7/4にぶい褐色	良好	坏部 1/8片
836	172	105	SP0620		高坏	(26.8)				内外面ミガキ	砂粒少し含む	10YR6/3にぶい褐色	良好	1/8片
837	172	105	SP0653		蓋					外面縦刷毛、内面横刷毛・ナデ	砂粒少し含む	7.5YR6/4にぶい褐色	良好	下端部欠損
838	172	105	SP0653		蓋					外面刷毛目、内面ナデ	砂粒少し含む	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	上部片
839	172		SO0365		壺	(23.0)					砂粒少し含む	7.5YR6/4にぶい褐色	良好	口縁部小片
840	172		SP0473		壺	(31.2)				外面縦刷毛、内面ナデ	砂粒少し含む	10YR5/3にぶい黄褐色	良好	口縁部片
841	172		SP0622		壺					口縁部直下に1条の突帯	砂粒少し含む	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	口縁部片
842	172		SP0169		壺	(33.0)				頸部に1条の突帯、外面刷毛目、内面ナデ	砂粒少し含む	5YR6/6褐色	良好	口縁部
843	172		SP0012		壺	(27.0)				頸部に1条の突帯	砂粒少し含む	7.5YR4/2灰褐色	良好	口縁部
844	172		SP0542		壺	(27.5)				外面磨減、内面ナデ	砂粒少し含む	7.5YR7/3にぶい褐色	良好	口縁部片
845	172		SP0031		壺	(27.6)				内外面刷毛目	砂粒少し含む	7.5YR7/4にぶい褐色	良好	口縁部
846	172		SP0572		二重口縁壺	(27.2)				内外面刷毛目	砂粒少し含む	10YR7/2にぶい黄褐色	良好	口縁部片
847	172		SP0297		二重口縁壺	(24.8)				内外面刷毛目	砂粒少し含む	10YR7/3にぶい黄褐色	良好	口縁部小片
848	173		遺構面	西側	土師器?・鉢	(10.6)			(3.8)	フ	精良、わずかに赤褐色粒子を含む	7.5YR8/3浅黄橙～5YR8/4淡褐色	良好	口縁部1/6残存
849	173		遺構面	O-24区	土師器・高坏	脚部径(11.9)			(3.15)	フ	金雲母微粒わずかに含む	明褐色	良好	脚部
850	173		遺構面	M-20区	弥生土器・壺	(16.6)			(3.8)	内面～口縁部外面ヨコテ、頸部外目後ヨコテ	粗砂粒・金雲母微粒少量含む	10YR4/1灰白色	良好	口縁部1/4残存
851	173		遺構面	S-22区	弥生土器・壺	(24.0)			(4.2)	外面ヨコテ、内面フ・杣目	粗砂粒・角閃石結晶少量含む	10YR8/2灰白色、一部2.5YR6/6褐色(赤色顔料?)	良好	口縁部1/14残存
852	173		遺構面	N-20区	弥生土器・壺	(20.8)			(1.7)	ヨコテ	粗砂粒わずかに含む	7.5YR4/2灰褐～7.5YR3/1黒褐色	良好	口縁部1/14残存
853	173		遺構面	S-22区	弥生土器・壺				(7.2)	口縁部外面粗い杣目、内面ヨコテ	粗砂粒少量含む	7.5YR8/4浅黄褐色	良好	口縁部小破片
854	173		遺構面	M-20区	弥生土器・鉢	(11.8)			(5.5)	外面板フ、内面フ	粗砂粒やや多く含む	5YR7/4鈍い橙～5YR6/6褐色、黒斑あり	良好	約1/8残存・底部全欠損
855	173		遺構面	O-23区	弥生土器・壺	(13.2)			(5)	胴部外面細い杣目、口縁部外面～胴内面ヨコテ	砂粒・金雲母微粒やや多く含む	5YR6/4鈍い褐色	良好	口縁部1/9残存
856	173		遺構面	Q-21区	弥生土器・壺	(21.6)			(10)	外面フミガキ、内面フ	粗砂粒多く含む	2.5YR6/6褐色、丹塗リ	普通	口縁部1/6残存
857	173		遺構面	S-24区	弥生土器・壺				(4.0)	フ	粗砂粒・赤褐色粒子多く含む	7.5YR8/2灰白色	やや不良	底部3/4残存
858	173		遺構面	O-24区	弥生土器・壺				(6)	外面細かな杣目、内面フ	粗砂粒・金雲母微粒わずかに含む	5YR3/1黒褐～5YR5/3鈍い赤褐色	良好	口縁部小破片
859	173		遺構面	P-22区	弥生土器・壺				(5.15)	内外面フ・杣目	砂粒・金雲母微粒わずかに含む	7.5YR6/2灰褐色	良好	口縁部小破片
860	173		遺構面	O-22区	突帯文土器・壺	(10.8)				外面フミガキ、内面フ	砂粒・金雲母微粒少量含む	7.5YR6/3鈍い褐色	良好	口縁～頸部1/12残存
861	173		遺構面	O-24区	突帯文土器・壺				(5.3)	胴部内外面フ	粗砂粒・雲母微粒少量含む	5YR3/1黒褐色(口縁)鈍い赤褐～5YR4/1褐灰色	良好	口縁部小破片
862	173		遺構面	N-20区	弥生土器・壺				(7.5)	胴部外面杣目、内面フ	粗砂粒・角閃石結晶わずかに含む	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	底部1/2残存
863	173		遺構面	P-21区	突帯文土器・壺	(21.3)			(5.3)	貝殻条痕	砂粒・金雲母微粒少量含む	7.5YR7/3鈍い橙～7.5YR2/1黒色(煤)	良好	胴部突帯付近1/5残存
864	173		攪乱	P-20区	弥生土器・鉢	(33.8)			(10.3)	口縁部～胴部内外面杣目	砂粒・金雲母微粒少量含む	7.5YR8/2灰白色、黒斑あり	良好	口縁部1/8残存
865	173		攪乱	Q-21区	弥生土器・壺				(4.45)	胴部外面フミガキ、内面フ、外底面フ	粗砂粒・赤褐色粒子・金雲母微粒少量含む	7.5YR4/1褐灰～2.5YR3/1黒褐色	良好	底部3/4残存
866	173		遺構面	N-24区	土製品・円板	径5X5.3			最大厚1.1	フ	粗砂粒を少量含む	7.5YR5/3鈍い褐色	良好	土器片利用
867	176		SK491		弥生土器・壺	(28.6)			(15.0)	外面ハケ目後粗いフミガキ、内面フ後フミガキ	粗砂粒・金雲母微粒わずかに含む	10YR7/2～10YR7/4鈍い黄褐色	良好	肩部1/4残存
868	176		SK492	R-6	弥生土器・壺	(24.0)			(13.35)	口縁部横ナデ、頸部ハケ目・胴部ヘラミガキ、内面ハケ目	粗砂粒やや多く含む	10YR8/3浅黄橙～5YR7/6褐色	良好	口縁部1/3残存
869	176		SK492	R-2	弥生土器・壺	12.3	13.85		13.65	口縁ヨコナデ、胴部外面ハケ目後ナデ、内面ハケ目	粗砂粒少量含む	7.5YR7/3鈍い橙～7.5YR3/1黒褐色(炭化物)	良好	口縁～胴部上半1/4欠損
870	176		SK492	R-4	土師器・壺	(16.2)			(7.35)	口縁部ヨコナデ・外面ハケ目	粗砂・金雲母・角閃石を含む	10YR8/2灰白～10YR2/1黒色(炭化物)	良好	頸部1/6残存
871	176		SK492	R-5	土師器・高坏		軸部3.2	16.4	(10.2)	外面ヘラミガキ・胴部ハケ目残るケズリ・胴部ハケ目後ナデ	精良・金雲母微粒わずかに含む	10YR7/2鈍い黄橙～10YR8/3浅黄褐色	良好	坏部全損
872	176		SK492	R-1	弥生土器・器台	残存部最大(10.8)			(12.0)	外面ナデ後ハケ目、内面ナデ	粗砂粒やや多く含む	10YR7/2～10YR7/3鈍い黄褐色	良好	体部1/4残存

Tab.4-2 M面出土石製品観察表

報告番号	Fig.	PL	出土遺構	出土位置	器種・器形	法量cm ( )は残			石材	色調	調整・備考
						長	幅	厚			
S1	85	86	SB579	SP0454	石庖丁	(4.6)	4.7	0.7	堆積岩系	暗褐色	
S2	132		SD369	最下層	磨石・敲石	8.9	6.4	5.3	花崗岩	5Y7/3淡黄色	上面と底面は丁寧な磨り
S3	132		SD369	底面	磨石・敲石	5.9	7.2	4.7	花崗岩?	5Y7/1灰白色	1/4片
S4	132		SD369	最下層	磨石	4.9	5.8		珪岩	10YR5/3鈍い黄褐色	粗削りが残る
S5	132	106	SD369	下層	敲石	長軸長12	短軸長7	2.8	石英表岩?	5Y7/1灰白色	上・底面磨り、敲打痕、両小口面打撃痕残る
S6	132		SD369	石庖丁	長軸長(6.2)	短軸長5.7	0.8	粘板岩	7.5Y5/1灰色	7.5Y5/1灰色	研磨面残る
S7	132		SD369	最下層	浮子	4.7	4	3.1	軽石	5Y7/1灰白色	紐かけノッチ有
S8	132	106	SD388	N21区	石斧未製品	14.6	7.2	4.4	安山岩	5GY4/1暗オリーブ灰色	敲打調整後全面残る
S9	132	106	SD388	上層	磨石・敲石	7.5	9.5	6.15	花崗閃緑岩	N5/灰色	上・底面磨られ磨減
S10	132	106	SD388	東壁^ 朴	磨石・敲石	8.25	9.35	3.9	玄武岩	5Y7/1灰白色	上面磨られ敲打痕残る
S11	132	106	SD388	下層	凹石	10.3	6.1	3.8	砂岩	2.5Y5/2暗灰色	側面敲打痕、上・底面使用による窪み有
S12	132		SD388	N21区	敲石	(7.55)	4.25	0.66	緑泥片石?	10GY5/1	部分的に使用敲打痕が残る
S13	132	106	SD388		敲石	20.5	9	1.8	砂岩	10Y5/1灰色	上・底面、左右側面は砥面
S14	133	106	SD388		砥石	19.2	(11.7)	5.4	砂岩	5Y5/1灰色	上・底面、左側面、下小口面は砥面
S15	133		SD388	N21区	石庖丁	(7)	4.15	0.4	輝緑凝灰岩	2.5Y3.5/1暗赤灰色	研磨で、刃部使用痕残る
S16	133		SD471	^ 朴	石庖丁未製品	8.1	7.2	0.7	泥岩か粘板岩系か	5GY5/1オリーブ灰	直径1cmの未開通孔有
S17	133		SD505		磨製石斧	(9.75)	6.5		玄武岩	10Y5/1灰色	使用による欠損片か
S18	133	106	SD505	上層	石庖丁	8.7	5.9	0.4	泥岩か	5Y5/1灰色	研磨仕上げだが欠損風化が著しい
S19	133	106	SD505	上層	敲石・石弾	5	5	4.4	緑泥片岩	10Y5/1灰色	使用の敲打痕残る
S20	133	107	SD505	上層	石弾か	5.9	6.2	4.7	頁岩	5Y7/2灰白色	敲打痕有
S21	133	107	SD505	上層	有溝石錘		(6)	(2.1)	不明	5Y7/2灰白色	表面は丁寧な削り
S22	133	107	SD505	上層	砥石	5.7	6.7	5.2	石英粗面岩	10YR5/3鈍い黄褐色	上・底面、左右両面と小口面が砥面
S23	133	107	SD505	北溝^ 朴	紡錘車	孔径0.9	直径4.3		滑石	10Y5/1灰色	1/3欠損
S24	133	107	SD506		磨石	12.7	8.2	4.5	砂岩	5Y6/3緑-7' 黄色	底面と下小口部に敲打痕
S25	133		SD506		石鏃	(8.2)	4.4	0.4	砂岩	5B6/1青灰色	表面の剥落がひどい
S26	133	107	SD602		敲石	8.6	13.8	4	砂岩	2.5Y6/1黄灰色	上底面と上下小口面に敲打痕
S27	134	106	SD388	1区土器群中	石鏃	2.2	1.3	0.4	黒曜石	5Y2/1光沢を持った黒色	基部が凸部で先端は欠損
S28	134		SD388		石鏃	2.1	2.85	0.9	黒曜石	5Y2/1光沢を持った黒色	鋭な調整
S29	134		SD388		石鏃	1.7	3.5	1.8	黒曜石	5Y2/1光沢を持った黒色	剥片に簡易な調整
S30	134	106	SD481	^ 朴	石鏃	2.9	1.9	0.2	サヌカイト	7.5Y4/1灰色	両側丁寧な二次調整
S31	134		SD505	上層	石鏃	2.5	1.4	0.6	黒曜石	5Y2/1黒色	二次調整のある剥片
S32	134		SD506		不明石器	1.2	2	0.3	黒曜石	5Y2/1光沢を持つ黒色	全面丁寧な調整
S33	134		SD507		剥片	3.9	2.9	1.1	黒曜石	N2/黒色	剥離面がかなり風化する
S34	155	107	SK384		砥石	23.25	14.4	1.9~3	砂岩	5Y5/1灰色	仕上げ砥石か
S35	155		SK460		敲石・石核		径6.5X7.9		火成岩系(安山岩)	10Y3/2オリーブ黒色	打撃による剥離面あり
S36	155	107	SK468		挿入柱状片刃石斧	3.7	7.3		頁岩	5GY7/1明オリーブ灰色	研磨仕上げ
S37	155	108	SK475		叩石	11.5	7.5	5.1	花崗岩	5GY5/1オリーブ灰色	上下小口部・底面に敲打痕有
S38	155		SK495		石庖丁	9.5	5.1	0.4	粘板岩	2.5Y7/1灰白色	径0.7cmの孔が1ヶ所残る
S39	155		SK495		剥片	13.6	6.05		サヌカイト	N4/灰色	大型剥片
S40	155		SK495		スクレーパーか	7.95	3.6		珪岩	7.5GY3/1暗緑灰色	剥片の側面に二次調整で刃部とする
S41	155		SK496		敲石	高さ4.3	径6.6X4.9		緑泥片岩	7.5GY6/1緑灰色	叩き使用痕あり
S42	155		SK500		敲石	7.45	4.9	1~	泥岩か	10GY6/1灰色	左側面に敲打使用痕
S43	155		SX559	黒色粘土	石斧片	11.2	6.2	4.25	粘板岩	7.5Y4/1灰色	研磨形成
S44	155		SX559	黒色粘土	敲石	5.5	6.35	4.2	砂岩	2.5Y5/1黄灰色	上・右側、下小口面に敲打使用痕
S45	155		SX559	黒色粘土	敲石	6.5	5	3.7	花崗岩	5Y8/1灰白色	上下面磨りて磨減
S46	155	110	SX559	黒色粘土	敲石	8	5.7	3.3	頁岩	5Y7/1灰白色	磨製石斧の刃部片を転用したもの
S47	155		SX559	黒色粘土	棒状の鏝?	2.7	9.9	2.4	砂岩	5Y5/1灰色	磨石片を再加工したものか
S48	156	108	SK460		石鏃	2.2	2.7	0.5	黒曜石	2.5GY2/1光沢を持った黒色	鋭な調整
S49	156	108	SK460		石鏃	2	3.45	0.4	黒曜石	2.5GY2/1淡黒色	上下両面丁寧な調整、鋸島産か
S50	156	108	SK488		石鏃	2.7	1.85	0.4	黒曜石	N2/光沢を持つ黒色	両面に丁寧な二次調整
S51	156	108	SK488		石鏃	2.6	1.6	0.4	黒曜石	N2/光沢を持つ黒色	基部が欠ける、鋸島産か
S52	156	108	SK488		石鏃	2.8	1.45	0.35	黒曜石	N2/光沢を持つ黒色	両面に丁寧な二次調整
S53	168	108	SX434		扁平片刃石斧	1.65	3.7	0.9	砂岩	10YR5/1褐色	表面は研磨仕上げ
S54	168	108	SX435	上層	砥石	(7.55)	3.8	1.4	頁岩	10YR5/4に鈍い黄褐色	全面砥面として使用
S55	168	108	SX435	上層	石庖丁	(6.1)	4.2	0.6	輝緑凝灰岩	7.5GY4/1褐色	円孔径0.7cm
S56	168		SX435	上層北	紡錘車	孔径0.7	直径(5.8)	0.8	滑石	2.5GY6/1オリーブ灰色	1/4片
S57	168		SX435	上層	浮子	7.7	4.4		軽石	2.5GY7/2黄褐色	左側面中央に紐掛けノッチ有
S58	168	108	SX435	上層	石錘	長軸径13.5		5.9	滑石	2.5GY7/1明オリーブ灰色	表面は粗削り仕上げ、月蝕産か
S59	168		SX435	上層	石核	4.5	4.9	2.85	珪岩	7.5YR/6褐色	下小口面に二次調整痕
S60	168	109	SX436	上層	石庖丁未製品	(9.9)	7.2	0.4	粘板岩系	7.5Y6/1灰色	両側に穿孔痕あり
S61	168	109	SX436	下層	扁平片刃石斧	7.1	2.6	0.9	頁岩	7.5Y7/1灰白色	刃部使用で一部欠損する
S62	168	109	SX436	下層	磨製石斧	(6.85)	5.7		安山岩か	5Y4/1灰色	敲打調整後部分的に研磨仕上げ
S63	168	109	SX436	下層	石庖丁	(9.4)	5.8	0.8	輝緑凝灰岩	7.5YR4/1褐色	2ヶ所の円孔径は1.3cm
S64	168	109	SX436	下層北	敲石	5.6	6.85	3.7	砂岩	7.5YR4/1褐色	敲打調整痕あり、焼けている
S65	168	109	SX436		紡錘車	孔径0.7	直径5.1	0.65	蛇文岩	2.5GY6/1オリーブ灰色	丁寧な研磨仕上げ
S66	168		SX436	下層	石鏃	4.7	6.4		滑石	7.5YR6/3に鈍い褐色	左と下側面に挟りあり
S67	168	109	SX436	下層北	砥石	13.9	9.3	2.2	粘板岩	2.5GY6/1オリーブ灰色	上端を欠損する
S68	168	109	SX534		磨製石斧	16.9	7.8	3.7	玄武岩	5Y7/1灰白色	基部は敲打調整後研磨
S69	168		SX534		敲石	6.7	5.5	3.25	花崗岩	2.5Y8/2灰白色	方形
S70	168		SX534		敲石	5.9	4.4	3.6	砂岩	2.5Y6/1黄灰色	磨石を再利用したもの
S71	168		SX534		石弾か敲石	10.8	12.85	9	緑泥片岩	5GY6/1緑-7' 灰色	部分的に使用痕あり
S72	169		SX533		不明石製品	(2.6)	4.35	1.2	砂岩か	5YR5/3に鈍い赤褐色	全面丁寧な磨り、焼けている
S73	169	110	SX573		石斧未製品?	(8.5)	4.8	2.3	頁岩	10Y4/1暗灰色	刃部は部分的に研磨する
S74	169		SX570		砥石?	14.1	10.9	6.3	砂岩	7.5Y4/1灰色	左側面上半に双付着
S75	169		SX536		石鏃	2.65	1.8	0.4	黒曜石	N2/黒色	基部と先端が欠損
S76	174	109	遺構面		石庖丁	(7.6)	(3.6)	0.7	安成岩	5YR4/1褐色	孔径は0.7cm
S77	174		遺構面	南西	石庖丁	6	7.8	0.4	粘板岩	2.5GY6/1オリーブ灰色	表面は酸化鉄分付着
S78	174	110	遺構面		磨製石斧	16.8	6.7	4.7	玄武岩	灰白色	太形給刃でほぼ完形
S79	174	110	遺構面		磨製石斧	(11.1)	9.2	3.4	玄武岩か	10Yr4/1暗灰色	敲打調整後研磨仕上げ
S80	174	110	遺構面		石鏃		径2.9X3.1	1.3	安山岩か	10YR4/1褐色	4側面に欠き込みあり
S81	174		遺構面	南西側	磨石	5.3	8.9	5	火成岩か	5Y6/1灰色	側面に使用による線痕が残る
S82	174		遺構面		砥石・合石	14.6	11.8	5.8	花崗閃緑岩	7.5YR6/1灰色	側面を粗削り成形する
S83	175	110	遺構面		石鏃	3.2	6.25	0.7	サヌカイト	7.5Y6/1灰色	剥片利用による
S84	175	110	遺構面		石鏃	1.5	2.35	0.3	黒曜石	N2/ 光沢を持つ黒色	少し夾雑物を含む
S85	175	110	遺構面		石鏃	1.3	1.9	0.4	黒曜石	N2/ 光沢を持つ黒色	
S86	175	110	遺構面		石鏃	3.15	1.7	0.35	サヌカイト	7.5Y3/2オリーブ黒色	先端と基部を欠損する
S87	175	110	遺構面		石鏃	2.55	1.6	0.35	サヌカイト	7.5Y5/1灰色	両面に丁寧な二次調整

Tab.4-3 IV面出土木製品観察表

報告書番号	Fig.	PL	出土遺構	器種	法量cm( )は残・復元				樹種	木取り	備考
					長	幅	厚	径			
W1	86		SB579	柱根	(19.2)			(14.7)	クリ		
W2	86		SB579	礎板	28.2	17.5	3.8		クリ		板状
W3	86		SB579	柱根	(15.7)		10.7	(14.7)	クリ	芯持材	
W4	86		SB579	礎板	32.3	14.1	5.3				板状
W5	86		SB579	礎板	29.8	10.0	3.8				板状
W6	86		SB579	礎板	31.2	(18.3)	4.6		クリ		板状
W7	86		SB579	礎板	31.5	19.2	2.8				板状
W8	86		SB579	礎板	30.9	17.4	4.3		クリ		板状
W9	86		SB579	礎板	30.4	(15.9)	3.8		クリ		板状
W10	86		SB584	柱根	(16.5)			18.8	クスノキ科A	芯持材	
W11	86		SB584	礎板	36.3	17.2	7.3				板状
W12	86		SB584	礎板	29.4	14.5	4.5		タブノキ属		板状
W13	86		SB584	礎板	32.9	20.8	4.3		タブノキ属		板状
W14	86		SB584	柱根	(28.2)			18.7		芯持材	
W15	86		SB584	礎板	30.6	17.5	2.7		タブノキ属		板状
W16	86		SB584	柱根	(31.9)			16.4	クリ	芯持材	
W17	87		SB588	礎板	34.8	16.3	3.5		クリ		板状
W18	87		SB588	礎板	29.1	18.9	4.3		クリ		板状
W19	87		SB588	礎板	31.8	16.5	4.1		クリ		板状
W20	87		SB588	礎板	32.5	15.6	2.7		クリ		板状
W21	87		SB588	礎板	32.9	16.4	3.8		クリ		板状
W22	87		SB588	礎板	26.7	23.8	4.2		クリ		板状
W23	87		SB581	礎板	35.7	12.2	6.3		ウメ		半截
W24	87		SB581	礎板	33.75	13.1	7.8		モモ		半截
W25	87		SB581	礎板	(42.3)	7.7	2.7			柱目?	板状
W26	87		SB581	礎板	(30.1)	12.0	4.7		クリ		半截
W27	87	86	SB582	礎板	36.5	10.3	5.5				組合せ式
W28	87	86	SB582	礎板	43.8	11.2	6.0		(広葉樹)		組合せ式
W29	87	86	SB582	礎板	59.2	13.0					組合せ式
W30	87	86	SB582	礎板	56.0	8.8	6.1				割材
W31	87	86	SB582	礎板	44.7	13.9	7.7				組合せ式
W32	88		SB582	柱根	(39.9)			12.0	クリ	芯持材	組合せ式
W33	88		SB589	礎板	42.75	11.2	6.6		クリ		組合せ式
W34	88		SB589	礎板	36.0	12.5	6.8		(クリ)		組合せ式
W35	88		SB589	柱根	(36.2)			15.3		芯持材	組合せ式
W36	88		SB589	礎板	38.3	10.7	7.1		(クリ)		組合せ式
W37	88		SB589	柱根	(18.3)			12.3	(クリ)	芯持材	組合せ式
W38	88		SB589	礎板	(35.8)	(7.9)	3.1		(クリ)		組合せ式
W39	88		SB589	柱根	(38.8)			13.4	(クリ)	芯持材	組合せ式
W40	88		SB589	礎板	39.3	11.4	5.6		コナラ属コナラ亜属 コナラ節		組合せ式
W41	88		SB589	柱根	(23.1)			10.4	(クリ)	芯持材	組合せ式
W42	88		SB589	礎板	(36.0)	9.0	4.5				組合せ式
W43	88		SB598	柱根	(31.7)			18.7	クリ	芯持材	
W44	88		SB607	柱根	(42.7)			19.0	(アカガシ亜属)		
W45	99	96	SD369	平鋸	(87.9)	刃幅17.9	刃部長30.4				柄部分が欠損
W46	99	96	SD369	礎板	58.7	13.5~14.9					
W47	99		SD369	板材	80	14.2	1.9				板目
W48	100	96	SD369	窓用扉?	(138.1)	18.5	2.7				
W49	100	96	SD369	槽	(78.9)	(21.6)	9.3		クリ		一部焼けている
W50	101	96	SD369	建築材	(99.7)			8.2X4.9cm	広葉樹	芯持材	一端の側面削り、欠き込み
W51	101		SD369	建築材	(98.2)			6~8cm	広葉樹		一端の側面削り、欠き込み
W52	101	96	SD369	建築材	163.7			6.2~7.8	広葉樹	芯持材	下端は杭状に削られ、上端は丸く加工
W53	101		SD369	建築材	161.4			6.2~7.3		樹皮が残る芯持材	両端に削り加工をした棒状のものか?
W54	101		SD369・4区	杭	(175.6)			6.2~9	ツバキ属	自然木	
W55	102	96	SD369	建築材	(116.8)			12.6~13.1		芯持材	貫穴5.9X13.5
W56	102	96	SD369	建築材	(166.9)			直径10cm~		芯持材	
W57	102	96	SD369	建築材	245.7			5.8~9.5			梁材か
W58	102		SD369	建築材	264.9			7.5~9			柱材か
W59	119		SD388	又鋸	(33.0)	(3.8)	0.6		コナラ属アカガシ 亜属	柱目	刃部破片
W60	119		SD388	農具	(13.8)	(13.0)	1.2		コナラ属アカガシ 亜属	柱目	鉄或いは鋸
W61	152		SK555	礎板?	40.1		7.6~8.3		マキ属	芯持材	樹皮を剥いだ丸材の端部を削る
W62	167		SX435	板材	16.0	6.0	0.8		スギ	柱目	刷毛目原体?
W63	167		SX435	板材	17.7	5.7	0.9~1.0		スギ	柱目	刷毛目原体?
W64	167		SX435	筒状木製品?	(17.9)	2.2	0.2		針葉樹?		
W65	167		SX435	杭?	(15.4)	2.7	1.8		広葉樹	芯持材	先端部欠損
W66	167		SX436	容器?	(20.1)	(7.9)	1.1		ムクロジ	板目	
W67	167	96	SX559	加工材	79.4	7.2	3.2		シキミ	芯持材	
W68	167		SX565	板材	111.4	15.7	2.6		スダジイ		辺材
W69	170	104	SP260	木鎌	6.0	1.2	0.9				

報告書抄録

書名ふりがな	しもつきぐましいいせきV		
書名	下月隈C遺跡V		
副書名	福岡空港周辺整備工事に伴う下月隈C遺跡6次発掘調査報告 本文編		
巻次	V		
シリーズ書	福岡市埋蔵文化財調査報告書		
シリーズ番号	839		
編者名	山崎龍雄・上角智希		
著者名	黒澤一男・佐藤洋一郎・高橋敦・所一男・新山雅広・三村昌史・山形秀樹・上角智希・山崎龍雄		
編集機関	福岡市教育委員会（埋蔵文化財課）		
発行機関	福岡市教育委員会		
機関所在地	〒810-8621 福岡県福岡市中央区天神1丁目8番1号		
発行年月日	20050331		
遺跡名ふりがな	しもつきぐましいいせき		
遺跡名	下月隈C遺跡V	北緯(日本測地系)	33°34'02"
所在地ふりがな	ふくおかけんふくおかしはかたかつきぐま	東経(日本測地系)	130°27'47"
遺跡所在地	福岡県福岡市博多区月隈4丁目	北緯(世界測地系)	33°34'13"
市町村コード	40135	東経(世界測地系)	130°27'38"
遺跡番号	022625	調査期間	20000401~20010330
調査原因	調節池工事	調査面積	10,710㎡
種別	集落 条里 水田 河川		
主な時代	弥生時代 古墳時代 奈良時代~中世		
主な遺構	竪穴住居・掘立柱建物・井戸・土坑・柵列・杭列・河川・溝・堰・護岸遺構・水田		
主な遺物	弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・鉄斧・土製品・石製品・木製品・建築部材		
特記事項	弥生時代集落・条里水田・古代祭祀遺物・中世集落		

下月隈C遺跡

V

—本文編—

福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書  
〈第839集〉

編集・発行 福岡市教育委員会  
福岡市中央区天神・丁目8-1  
平成17年3月31日  
☎092 (711) 4667

印刷 株式会社マリックス  
福岡市南区治水2-11-1マリックスビル